

危険物に係る事故事例（令和2年）流出編

危険物に係る事故事例

（令和2年）

流出編

消
防
庁

消 防 庁

これは、令和2年1月1日から令和2年12月31日までの間に全国で発生した危険物に係る事故について、各都道府県から報告された「危険物に係る事故報告」を基に取りまとめたものである。

目 次

I 令和2年中の危険物に係る事故の概要	1
1 概 況	3
2 火災事故	6
(1) 火災事故の発生及び被害の状況	6
(2) 出火の原因に関係した物質	6
(3) 火災事故の発生原因及び着火原因	7
3 流出事故	18
(1) 流出事故の発生及び被害の状況	18
(2) 流出した危険物	19
(3) 流出事故の発生原因	19
4 令和2年中に発生した事故事例	29
(1) 死者が発生した事故事例	29
(2) 負傷者が2名以上発生した事故事例	30
附属資料	31
II 令和2年中の危険物に係る事故	33
流出事故	37
1 製造所	39
2 屋内貯蔵所	113
3 屋外タンク貯蔵所	125
4 屋内タンク貯蔵所	269
5 地下タンク貯蔵所	285
6 移動タンク貯蔵所	357
7 給油取扱所	473
8 移送取扱所	599
9 一般取扱所	623
10 無許可施設	807
11 危険物運搬中	813

I 令和2年中の危険物に係る事故の概要

1 概況

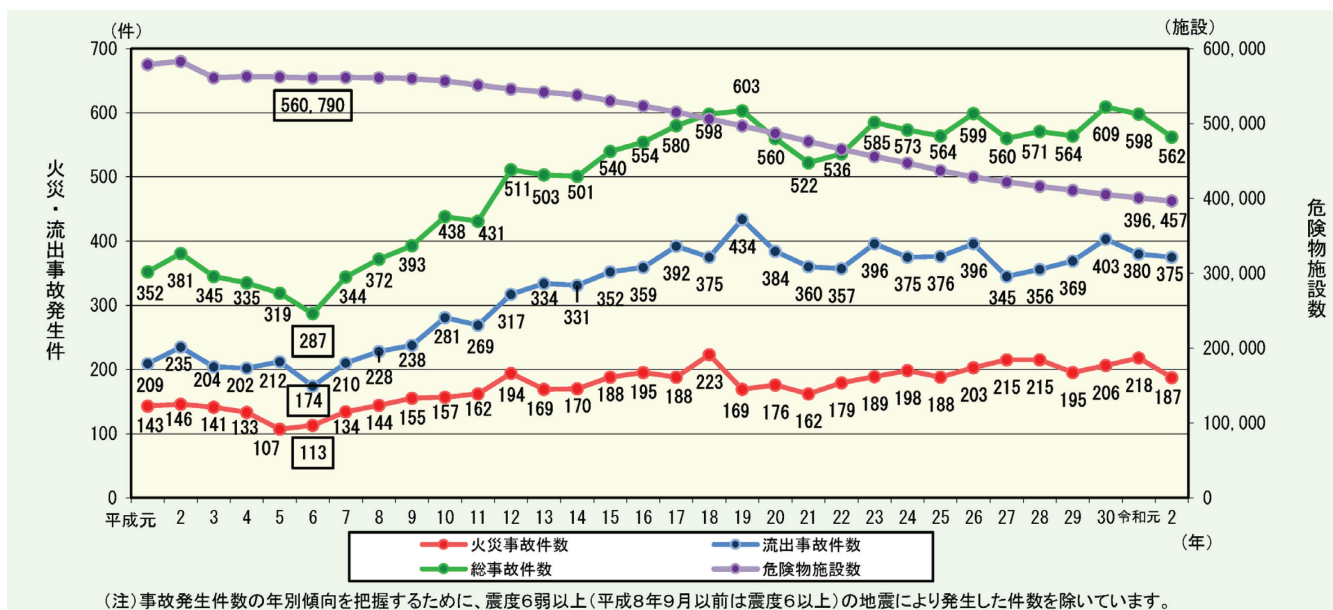
危険物施設における火災及び流出事故件数は平成6年の287件（火災113件、流出174件）から増加に転じ、平成19年以降は、高い水準で横ばいの状況が続いている。令和2年中（令和2年1月1日～令和2年12月31日）の事故件数については、火災事故が187件（前年218件）、流出事故が375件（前年380件）、合計が562件（前年598件）となっている。

一方、無許可施設、危険物運搬中等の危険物施設以外での事故は14件（前年21件）であり、その内訳は、火災事故3件（前年4件）、流出事故11件（前年17件）となっている。

これらの事故による被害は、火災事故によるものが死者2人（前年4人）、負傷者35人（前年40人）、損害額11億3,090万円（前年56億1,299万円）、流出事故によるものが死者0人（前年0人）、負傷者23人（前年27人）、損害額2億3,036万円（前年10億5,756万円）となっている。（第1表、第2表、第1図、第2図参照）

なお、本概要においては、最大震度6弱以上の地震による被害（事故件数、死傷者数、損害額等全て）を除外している。

○危険物施設における火災・流出事故発生件数及び危険物施設数の推移



- ・ 損害額等については、調査中のものがあり、変動することがある。
- ・ 合計欄の値が四捨五入により各値の合計と一致しない場合がある。

第1表 令和2年中に発生した危険物に係る事故の概要

区分	事故の態様 発生件数等	危険物に 係る事故 発生件数	火災事故			流出事故				
			発生件数	被害			発生件数	被害		
				死者数	負傷者数	損害額 (万円)		死者数	負傷者数	損害額 (万円)
危険物施設		562	187 (8)	2	33	109,035.0	375 (63)	0	23	22,886.0
危険物施設 以外	無許可施設	5	3	0	2	4,055.0	2	0	0	119.0
	危険物運搬中	9	0	0	0	0.0	9	0	0	31.0
	仮貯蔵・仮取扱	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
	小計	14	3	0	2	4,055.0	11	0	0	150.0
合計		576	190	2	35	113,090.0	386	0	23	23,036.0

(注) 1 () 内の数値は重大事故件数を示す。

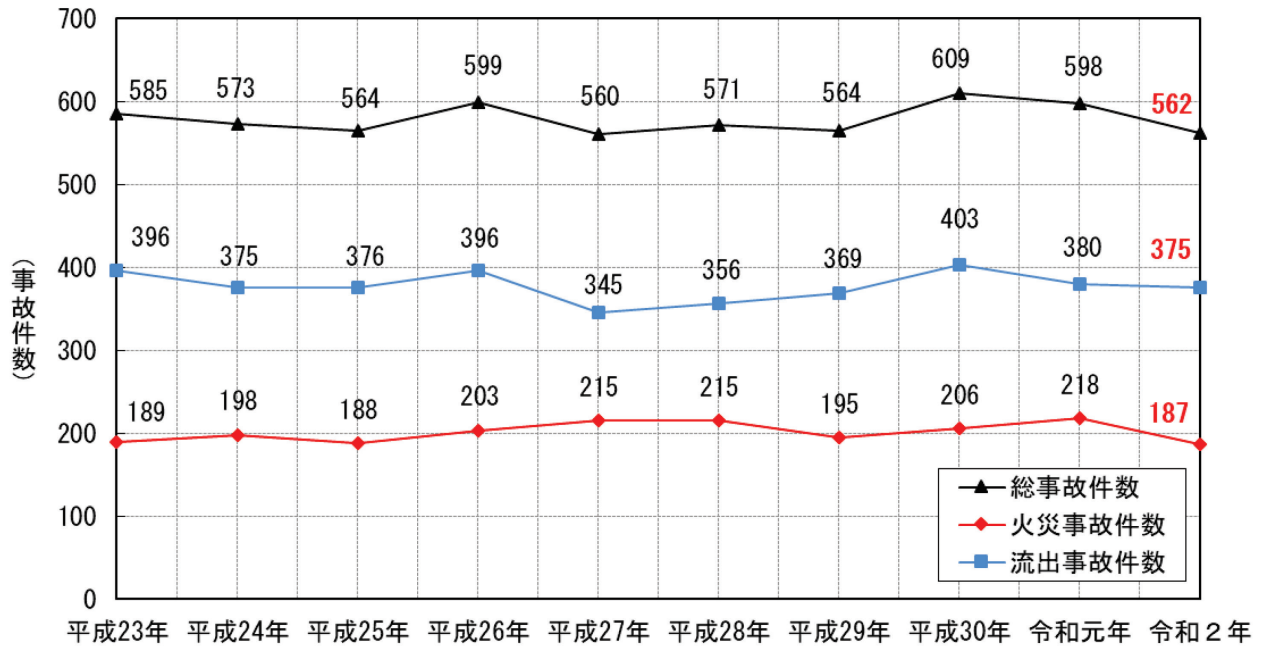
2 火災事故における重大事故は、危険物施設で発生した火災事故のうち、①死者が発生した事故（人的被害指標）、②事業所外に物的被害が発生した事故（影響範囲指標）、③収束時間（事故発生から鎮圧までの時間）が4時間以上要した事故（収束時間指標）のいずれかに該当する事故をいう。また、流出事故における重大事故は、危険物施設で発生した流出事故のうち、①死者が発生した事故（人的被害指標）、②河川や海域など事業所外へ広範囲に流出した事故（流出範囲指標）、③流出した危険物量が指定数量の10倍以上の事故（流出量指標）のいずれかに該当する事故をいう（「危険物施設における火災・流出事故に係る深刻度評価指標について」（平成28年11月2日付け消防危第203号））。

第2表 危険物に係る事故の発生件数等の推移

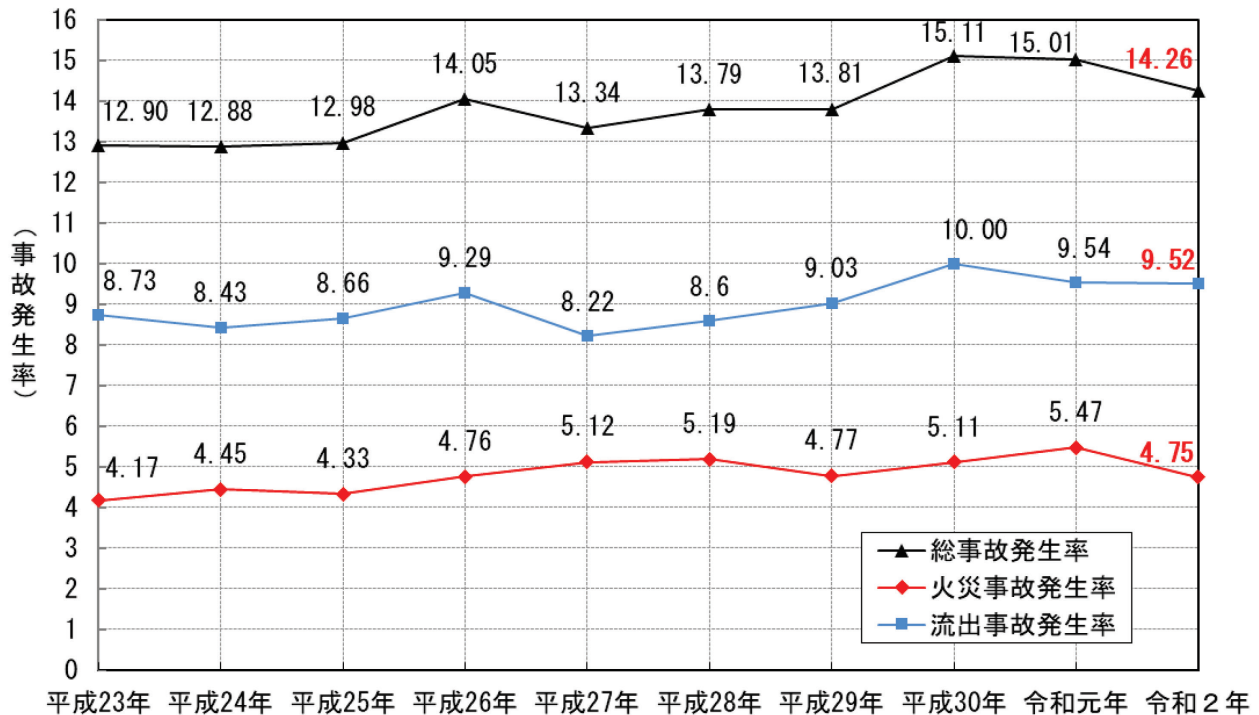
年	事故の態様 発生件数等	危険物に 係る事故 発生件数	火災事故			流出事故				
			発生件数	被害			発生件数	被害		
				死者数	負傷者数	損害額 (万円)		死者数	負傷者数	損害額 (万円)
平成23年		610	201	1	67	105,634.0	409	0	19	27,619.0
平成24年		597	203	6	108	287,363.0	394	0	27	38,630.0
平成25年		594	198	10	60	441,150.0	396	0	18	44,132.0
平成26年		621	209	2	69	218,622.0	412	0	30	42,421.0
平成27年		589	226	2	45	813,688.0	363	2	11	38,624.0
平成28年		598	225	2	57	130,682.0	373	0	30	28,308.0
平成29年		582	197	2	51	267,320.0	385	0	34	44,247.0
平成30年		633	211	2	122	247,860.0	422	0	28	49,482.0
令和元年		619	222	4	40	561,299.0	397	0	27	105,756.0
令和2年		576	190	2	35	113,090.0	386	0	23	23,036.0

(注) 危険物施設、無許可施設、危険物運搬中及び仮貯蔵・仮取扱中の火災及び流出事故について掲載した。

第1図 危険物施設における火災及び流出事故件数の推移（最近の10年間）



第2図 危険物施設1万施設当たりの火災及び流出事故発生率の推移（最近の10年間）



(注) 1万施設当たりの発生件数における施設数は各年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。ただし、東日本大震災の影響により、平成23年中及び平成24年中にあっては、岩手県陸前高田市消防本部及び福島県双葉地方広域市町村圏組合消防本部の管内の分のみ平成22年3月31日現在のデータを用いた。

2 火災事故

(1) 火災事故の発生及び被害の状況

令和2年中に発生した危険物に係る火災事故190件の内訳は、危険物施設におけるものが187件、無許可施設におけるものが3件、危険物運搬中のものが0件、仮貯蔵・仮取扱いのものが0件となっており、それぞれの状況は次のとおりである。（第1表参照）

ア 令和2年中に危険物施設において発生した火災事故件数は、187件（前年218件）であり、被害は、死者2人（前年1人）、負傷者33人（前年37人）、損害額10億9,035万円（前年55億8,763万円）となっている。前年に比べ、火災事故の発生件数は31件減少し、死者は1人増加し、負傷者は4人減少、損害額は44億9,728万円減少している。

また、火災事故1件当たりの損害額は583万円であった。（第3表参照）

これを製造所等の別にみると、火災事故の発生件数は、一般取扱所が122件で最も多く、次いで、給油取扱所が30件、製造所が27件の順となっており、1件当たりの損害額では、一般取扱所が790万円が最も高く、次いで、給油取扱所が224万円の順となっている。

危険物施設1万施設当たりの火災事故の発生件数は、危険物施設全体では4.75件となっている。（第4-1表参照）

危険物施設における火災事故のうち、重大事故は8件（前年15件）発生しており、被害は、死者2人（前年1人）、負傷者2人（前年4人）、損害額は3,694万円（前年6億5,998万円）となっている。前年に比べ、重大事故の発生件数は7件減少し、死者は1人増加、負傷者は2人減少、損害額は6億2,304万円減少している。

また、重大事故1件当たりの損害額は462万円であった。

これを製造所等の別にみると、重大事故の発生件数は、一般取扱所が最も多く4件、次いで製造所が2件、屋外タンク貯蔵所が1件、給油取扱所が1件の順となっており、1件当たりの損害額では、一般取扱所が881万円が最も高く、次いで、製造所が76万円となっている。（第4-2表参照）

危険物施設における火災事故の発生件数の推移を製造所等の別にみると、最近の5年間では、一般取扱所、給油取扱所、製造所の3施設が上位を占めている。（第5表、第3図参照）

イ 令和2年中の無許可施設に係る火災事故は3件（前年4件）発生しており、被害は死者0人（前年3人）、負傷者2人（前年3人）、損害額は4,055万円（前年2,536万円）となっている。前年に比べ、火災事故の発生件数は1件減少、死者は3人減少、負傷者は1人減少、損害額は1,519万円増加となった。（第6表参照）

ウ 令和2年中の危険物運搬中の火災事故は0件（前年0件）となっている。（第7表参照）

エ 令和2年中の仮貯蔵・仮取扱い中の火災事故は0件（前年0件）となっている。（第9表参照）

(2) 出火の原因に関係した物質

ア 令和2年中に発生した危険物施設における火災事故の出火原因に関係した物質（以下「出火原因物質」という。）についてみると、187件の火災事故のうち、危険物が出火原因物質となる火災事故が88件（47.1%）発生している。また、このうち82件（93.2%）が第4類の危険物で占められている。さらに、第4類の危険物について品名別にみると、第1石油類が34件（41.5%）で最も多く、次いで、第4石油類が15件（18.3%）、第2石油類が14件（17.1%）、第3石油類が14件（17.1%）の順となっている。（第8表、第4図参照）

イ 令和2年中に発生した危険物施設以外の場所における火災事故は3件発生しており、危険物が出火原因物質となる事故については、第4類第1石油類の危険物が3件（100.0%）となっている。（第9表参照）

(3) 火災事故の発生原因及び着火原因

ア 令和2年中に発生した危険物施設における火災事故の発生原因の比率を、人的要因、物的要因及びその他の要因に区分してみると、人的要因が56.7%（106件）で最も高く、次いで、物的要因が27.8%（52件）、その他の要因（不明及び調査中を含む。）が15.5%（29件）の順となっている。個別にみると、操作確認不十分、維持管理不十分、腐食疲労等劣化、操作未実施等が高い数値となっている。（第10表参照）

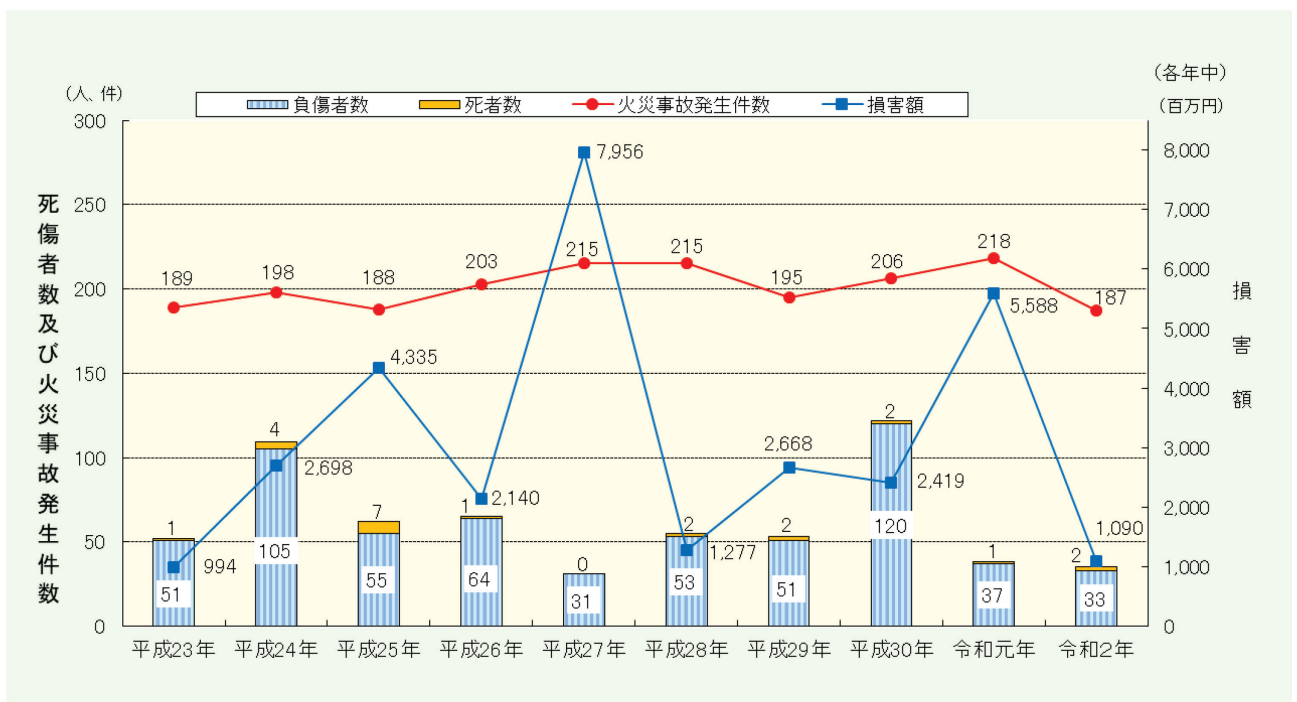
また、主な着火原因は、静電気火花が16.6%（31件）で最も高く、次いで、過熱着火が15.5%（29件）、高温表面熱が14.4%（27件）、裸火が9.1%（17件）の順となっている。（第11表参照）

イ 令和2年中に発生した危険物施設以外の場所における火災事故の発生原因は第12表、火災事故の着火原因は第13表のとおりとなっている。

第3表 危険物施設における火災事故の発生件数と被害状況の推移（最近の10年間）

年	発生件数等 発生件数 (ア)	被害			
		死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たりの損害額 (イ)/(ア) (万円)
平成23年	189	1	51	99,365.0	526
平成24年	198	4	105	269,841.0	1,363
平成25年	188	7	55	433,482.0	2,306
平成26年	203	1	64	214,007.0	1,054
平成27年	215	0	31	795,606.0	3,700
平成28年	215	2	53	127,662.0	594
平成29年	195	2	51	266,780.0	1,368
平成30年	206	2	120	241,852.0	1,174
令和元年	218	1	37	558,763.0	2,563
令和2年	187	2	33	109,035.0	583

○危険物施設における火災事故発生件数と被害状況



第4-1表 危険物施設における火災事故の概要（令和2年中）

製造所等の別	発生件数等		被害				被害の状況				
	発生件数 (ア)	1万施設 当たりの 発生件数	死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たり の損害額 (イ)/(ア) (万円)	A	B	C	D	
製造所	27	53.70	1	8	5,538.0	205	27	0	0	0	
貯蔵所	屋内貯蔵所	1	0.20	0	0	78.0	78	0	0	1	0
	屋外タンク貯蔵所	4	0.68	0	1	0.0	0	4	0	0	0
	屋内タンク貯蔵所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	地下タンク貯蔵所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	簡易タンク貯蔵所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	移動タンク貯蔵所	3	0.46	0	0	307.0	102	3	0	0	0
	屋外貯蔵所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
小計	8	0.30	0	1	385.0	48	7	0	1	0	
取扱所	給油取扱所	30	5.18	1	4	6,721.0	224	29	1	0	0
	第一種販売取扱所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	第二種販売取扱所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	移送取扱所	0	0.00	0	0	0.0	0	0	0	0	0
	一般取扱所	122	20.56	0	20	96,391.0	790	118	1	3	0
	小計	152	12.68	1	24	103,112.0	678	147	2	3	0
合計/平均	187	4.75	2	33	109,035.0	583	181	2	4	0	

(注) 1 被害の状況は、危険物施設から出火し、当該危険物施設の火災でとどまったものは「A」、他の施設からの類焼により危険物施設が火災となったものは「B」、当該危険物施設の火災により他の施設にまで延焼したものは「C」、危険物の流出に起因して施設外から火災となったものは「D」とした。

なお、「B」には、危険物施設又は無許可施設の火災からの類焼は含まない。

2 1万施設当たりの発生件数における施設数は、令和2年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。

第4-2表 危険物施設における火災事故に係る重大事故の概要（令和2年中）

製造所等の別	発生件数等		重大事故の内訳			被害			
	重大事故 発生件数 (ア)	1万施設 当たりの 重大事故 発生件数	人的被害 指標	影響範囲 指標	収束時間 指標	死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たり の損害額 (イ)/(ア) (万円)
製造所	2	3.98	1	0	1	1	2	152.0	76
貯蔵所	屋内貯蔵所	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	屋外タンク貯蔵所	1	0	0	1	0	0	0.0	0
	屋内タンク貯蔵所	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	地下タンク貯蔵所	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	簡易タンク貯蔵所	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	移動タンク貯蔵所	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	屋外貯蔵所	0	0	0	0	0	0	0.0	0
小計	1	0.04	0	0	1	0	0	0.0	0
取扱所	給油取扱所	1	1	0	0	1	0	18.0	18
	第一種販売取扱所	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	第二種販売取扱所	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	移送取扱所	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	一般取扱所	4	0.67	1	3	0	0	3,524.0	881
	小計	5	0.42	1	3	1	0	3,542.0	708
合計/平均	8	0.20	2	1	5	2	2	3,694.0	462

(注) 1 1万施設当たりの発生件数における施設数は、令和2年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。

2 「重大事故の内訳」欄の各指標の数値は要件に該当した件数を計上しているため、合計値が「重大事故発生件数」欄の数値と一致しない場合がある。人的被害指標、影響範囲指標及び収束時間指標は、第1表の(注)2による。

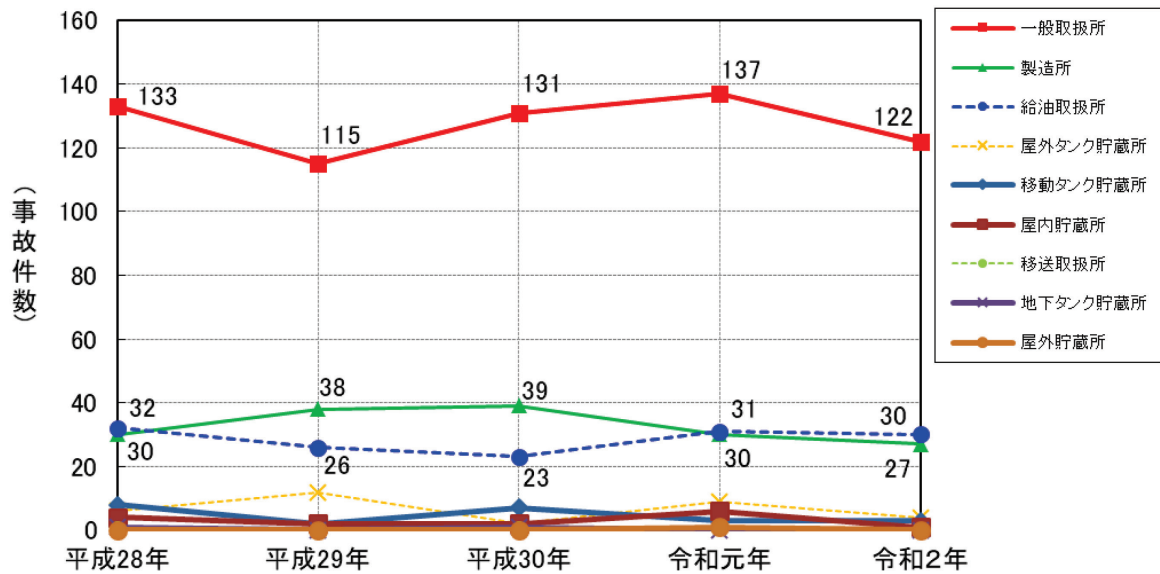
第5表 危険物施設における火災事故の危険性の推移（最近の5年間）

発生件数等 製造所等の別		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
		件数	危険性	件数	危険性	件数	危険性	件数	危険性	件数	危険性
製造所		30 (1)	59.48 (1.98)	38 (3)	75.25 (5.94)	39 (3)	77.33 (5.94)	30 (1)	59.48 (1.98)	27 (2)	53.70 (3.98)
貯蔵所	屋内貯蔵所	4	0.80	2 (1)	0.40 (0.20)	2	0.40	6 (1)	1.22 (0.20)	1	0.20
	屋外タンク貯蔵所	6	0.97	12 (1)	1.97 (0.16)	2	0.33	9 (2)	1.52 (0.34)	4 (1)	0.68 (0.17)
	屋内タンク貯蔵所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	地下タンク貯蔵所	1	0.12	0	0.00	1	0.13	0	0.00	0	0.00
	簡易タンク貯蔵所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	移動タンク貯蔵所	8 (2)	1.19 (0.30)	2	0.30	7 (1)	1.07 (0.15)	3	0.46	3	0.46
	屋外貯蔵所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1 (1)	1.04 (1.04)	0	0.00
	小計	19 (2)	0.67 (0.07)	16 (2)	0.57 (0.07)	12 (1)	0.44 (0.04)	19 (4)	0.70 (0.15)	8 (1)	0.30 (0.04)
取扱所	給油取扱所	32	5.23	26	4.31	23	3.86	31 (1)	5.29 (0.17)	30 (1)	5.18 (0.17)
	第一種販売取扱所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	第二種販売取扱所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	移送取扱所	1	9.02	0	0.00	1	9.25	1	9.30	0	0.00
	一般取扱所	133 (5)	21.59 (0.81)	115 (4)	18.90 (0.66)	131 (8)	21.72 (1.31)	137 (9)	22.90 (1.50)	122 (4)	20.56 (0.67)
	小計	166 (5)	13.22 (0.40)	141 (4)	11.38 (0.32)	155 (8)	12.65 (0.65)	169 (10)	13.96 (0.83)	152 (5)	12.68 (0.42)
合計／平均		215 (8)	5.19 (0.19)	195 (9)	4.77 (0.22)	206 (12)	5.11 (0.29)	218 (15)	5.47 (0.38)	187 (8)	4.75 (0.20)

(注) 1 危険性：危険物施設1万施設当たりの火災事故の発生件数（1万施設当たりの発生件数における施設数は各年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。）

2 ()内の数値は重大事故に係る数値を示す。

第3図 危険物施設における火災事故件数の推移（最近の5年間）



(注) 1 件数20件未満は第5表を参照のこと。

2 屋内タンク貯蔵所、簡易タンク貯蔵所、第一種販売取扱所及び第二種販売取扱所の火災事故は過去5年間発生していない。

第6表 無許可施設における火災事故の概要（最近の5年間）

年	発生件数等 発生件数 (ア)	被 害				被害の状況			
		死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たりの 損害額 (イ)/(ア) (万円)	A	B	C	D
平成28年	8	0	4	2,881.0	360	7	0	1	0
平成29年	1	0	0	0.0	0	1	0	0	0
平成30年	2	0	1	5,936.0	2,968	2	0	0	0
令和元年	4	3	3	2,536.0	634	3	0	1	0
令和2年	3	0	2	4,055.0	1,352	3	0	0	0

(注) 被害の状況は第4-1表の(注)1による。

第7表 危険物運搬中における火災事故の概要（最近の5年間）

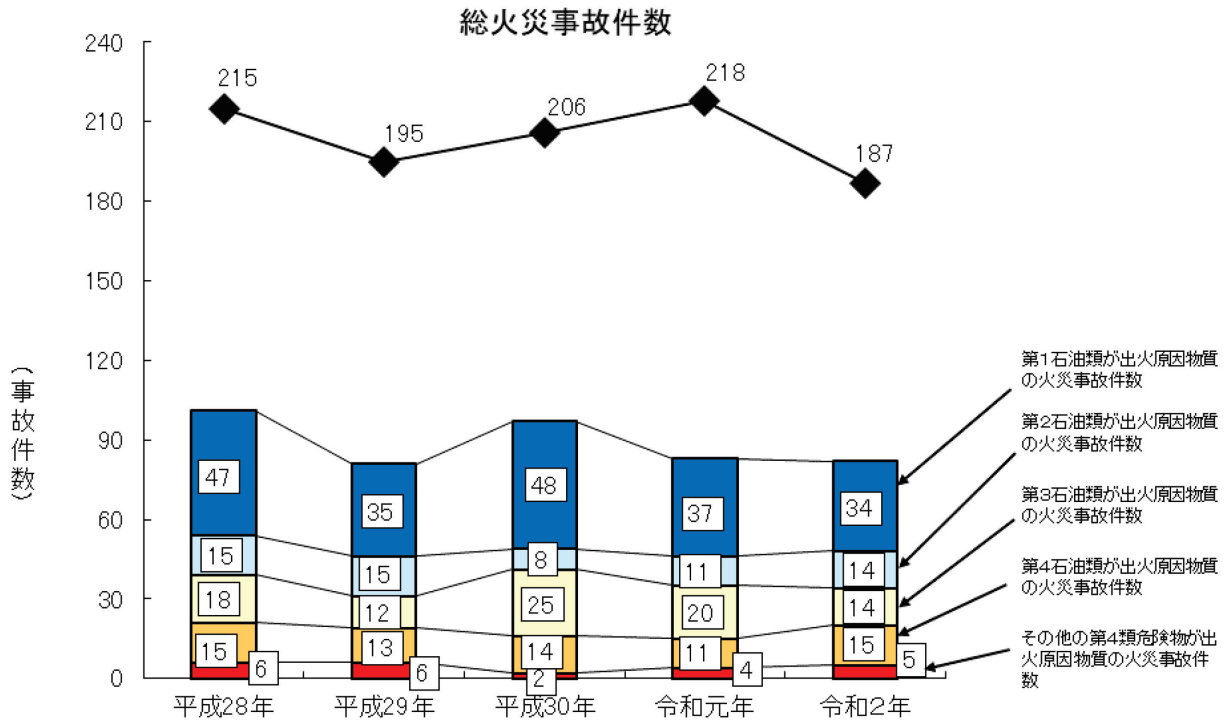
年	発生件数等 発生件数 (ア)	被 害			
		死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たりの 損害額 (イ)/(ア) (万円)
平成28年	2	0	0	139.0	70
平成29年	1	0	0	540.0	540
平成30年	2	0	0	72.0	36
令和元年	0	0	0	0.0	0
令和2年	0	0	0	0.0	0

第8表 危険物施設における火災事故の出火原因物質及び推移（最近の5年間）

出火原因物質等	年・施設区分		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年											
			製造所	貯蔵所				取扱所						小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所	小計	計	
				屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所									移送取扱所
危険物																						
第1類	酸化性固体	亜塩素酸塩類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第1類	酸化性固体	硝酸塩類	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第1類	酸化性固体	その他のもので政令で定めるもの	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2類	可燃性固体	赤りん	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2類	可燃性固体	硫黄	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2類	可燃性固体	金属粉	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
第2類	可燃性固体	引火性固体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2類	可燃性固体	鉄粉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2類	可燃性固体	マグネシウム	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	ナトリウム	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	アルキルアルミニウム	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	アルキルリチウム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	黄りん	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	7A別金属（カリウム及びナトリウムを除く。）及び7A別土類金属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	有機金属化合物（7A別7B及び7Cを除く。）	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	金属の水素化物	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	カルシウム又はアルミニウムの炭化物	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	その他のもので政令で定めるもの（塩素化けい素化合物）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	前各号に掲げるもののいずれかを含有するもの	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第4類	引火性液体	特殊引火物	3	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3
第4類	引火性液体	第1石油類	47	35	48	37	7	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	16	27	34	(1)
第4類	引火性液体	アルコール類	3	5	0	4	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
第4類	引火性液体	第2石油類	15	15	8	11	2	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	9	11	14	(1)
第4類	引火性液体	第3石油類	18	12	25	20	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	12	12	14	(3)
第4類	引火性液体	第4石油類	15	13	14	11	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	14	15	(1)
第5類	自己反応性物質	有機過酸化物	2	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
第5類	自己反応性物質	硝酸エステル類	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第5類	自己反応性物質	ニトロ化合物	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第5類	自己反応性物質	その他のもので政令で定めるもの	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第6類	酸化性液体	過酸化水素	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
危険物類別小計																						
第1類			1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2類			3	2	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	(1)
第3類			0	4	3	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	4	(1)
第4類			101	81	97	83	13	1	1	0	0	1	0	3	13	0	0	0	53	66	82	(3)
第5類			4	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
第6類			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計			109	89	102	97	15	1	1	0	0	1	0	3	13	0	0	0	57	70	88	(3)
その他																						
危険物以外の物品			26	22	17	16	4	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	11	13	18	(1)
種類によるもの			2	6	4	11	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	1	7	7	(2)
その他			78	78	83	94	8	0	2	0	0	2	0	4	9	0	0	0	53	62	74	(4)
小計			106	106	104	121	12	0	3	0	0	2	0	5	17	0	0	0	65	82	99	(5)
合計			215	195	206	218	27	1	4	0	0	3	0	8	30	0	0	0	122	152	187	(8)

(注) () 内の数値は重大事故件数を示す。

第4図 危険物施設における火災事故の出火原因物質の推移（最近の5年間）



第9表 危険物施設以外の場所における火災事故の出火原因物質（令和2年中）

区分			区分			
			無許可施設	危険物運搬中	仮貯蔵・仮取扱	計
出火原因物質等						
第4類	引火性液体	第1石油類	3	0	0	3
合計			3	0	0	3

(注) 出火原因物質等が複数ある事例については、より危険性の高い物質にて計上した。

第10表 危険物施設における火災事故の発生原因（令和2年中）

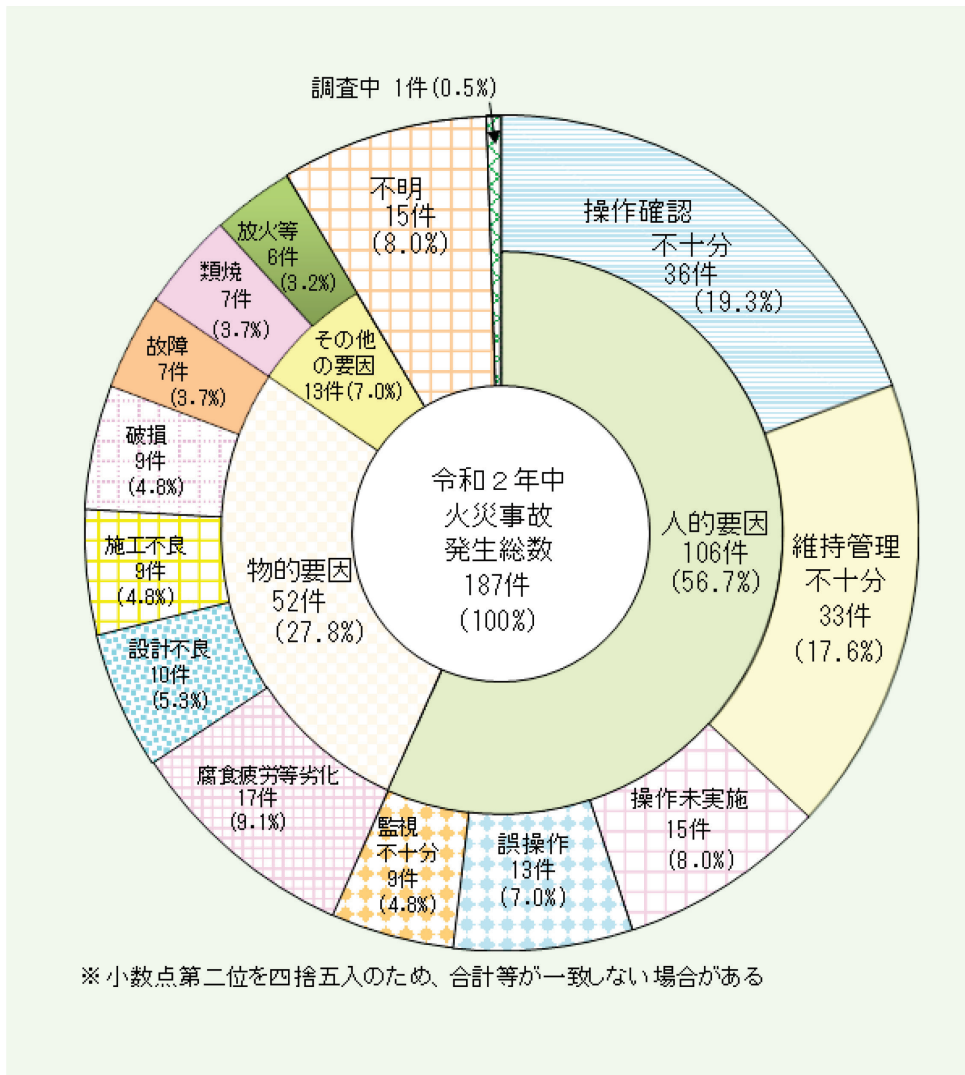
発生原因	製造所等の別	貯蔵所								取扱所						計	比率 (%)	令和元年		
		製造所	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所			小計	件数	比率 (%)
人的要因	維持管理不十分	5	1	2 (1)	0	0	0	0	0	3 (1)	2	0	0	0	23 (2)	25 (2)	33 (3)	17.6 (37.5)	49 (4)	22.5 (26.7)
	誤操作	2 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	9	11	13 (1)	7.0 (12.5)	21 (4)	9.6 (26.7)
	操作確認不十分	7	0	2	0	0	0	1	0	3	5	0	0	0	21 (1)	26 (1)	36 (1)	19.3 (12.5)	25 (1)	11.5 (6.7)
	操作未実施	5 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	8	10	15 (1)	8.0 (12.5)	21	9.6
	監視不十分	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	6	9	9	4.8	8	3.7
	小計	19 (2)	1	4 (1)	0	0	0	1	0	6 (1)	14	0	0	0	67 (3)	81 (3)	106 (6)	56.7 (75.0)	124 (9)	56.9 (60.0)
物的要因	腐食疲労等劣化	3	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	12	14	17	9.1	21 (1)	9.6 (6.7)	
	設計不良	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	10	5.3	8	3.7	
	故障	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	6 (1)	6 (1)	7 (1)	3.7 (12.5)	13	6.0	
	施工不良	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7	9	4.8	16	7.3	
	破損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	8	9	9	4.8	6 (1)	2.8 (6.7)
	小計	7	0	0	0	0	0	1	0	1	3	0	0	0	41 (1)	44 (1)	52 (1)	27.8 (12.5)	64 (2)	29.4 (13.3)
その他の要因	放火等	0	0	0	0	0	0	0	0	6 (1)	0	0	0	0	6 (1)	6 (1)	6 (1)	3.2 (12.5)	0	0.0
	交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
	類焼	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	1	7	7	3.7	11 (1)	5.0 (6.7)	
	風水害等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	2	0.9
	悪戯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12 (1)	0	0	0	1 (1)	13 (1)	13 (1)	7.0 (12.5)	13 (1)	6.0 (6.7)
不明	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	12	13	15	8.0	15 (2)	6.9 (13.3)	
調査中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0.5	2 (1)	0.9 (6.7)	
合計	27 (2)	1	4 (1)	0	0	0	3	0	8 (1)	30 (1)	0	0	0	122 (4)	152 (5)	187 (8)	100.0 (100.0)	218 (15)	100.0 (100.0)	

(注) 1 調査中とは、令和3年4月1日現在において、未だ調査中のものをいう。

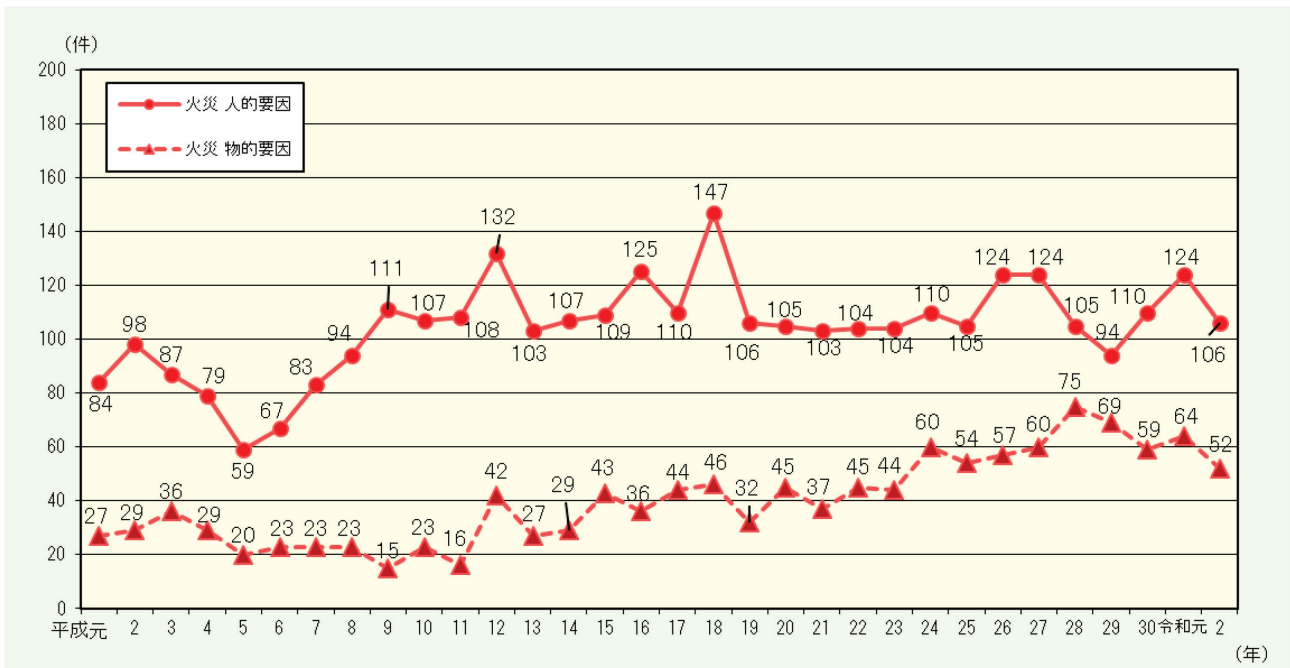
2 参考のため、右欄に前年の件数と比率を掲載した。

3 ()内の数値は重大事故に係る数値を示す。

○令和2年中の危険物施設における火災事故の発生要因



○危険物施設における火災事故の要因別発生件数の推移



第11表 危険物施設における火災事故の着火原因（令和2年中）

製造所等の別 着火原因	製造所	貯蔵所								取扱所						計	比率 (%)	令和元年	
		屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所	小計			件数	比率 (%)
裸火	0	0	1	0	0	0	0	0	1	6 (1)	0	0	0	10 (1)	16 (2)	17 (2)	9.1 (25.0)	15 (1)	6.9 (6.7)
高温表面熱	2	0	1	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	22 (1)	23 (1)	27 (1)	14.4 (12.5)	26 (3)	11.9 (20.0)
溶接・溶断等火花	2	0	1 (1)	0	0	0	0	0	1 (1)	0	0	0	0	12	12	15 (1)	8.0 (12.5)	20	9.2
静電気火花	8 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	16	23	31 (1)	16.6 (12.5)	40 (3)	18.3 (20.0)
電気火花	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	5	8	9	4.8	25 (1)	11.5 (6.7)
衝撃火花	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	4	4	2.1	9 (1)	4.1 (6.7)
自然発熱	3	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	7 (1)	7 (1)	12 (1)	6.4 (12.5)	6 (1)	2.8 (6.7)
化学反応熱	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	8	4.3	6 (1)	2.8 (6.7)
摩擦熱	2 (1)	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	6 (1)	6 (1)	9 (2)	4.8 (25.0)	5	2.3
過熱着火	3	0	0	0	0	0	1	0	1	4	0	0	0	21	25	29	15.5	25	11.5
放射熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	1.6	6	2.8
その他	2	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	1	7	9	4.8	17 (1)	7.8 (6.7)
不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	10	12	13	7.0	16 (2)	7.3 (13.3)
調査中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0.5	2 (1)	0.9 (6.7)
合計	27 (2)	1	4 (1)	0	0	0	3	0	8 (1)	30 (1)	0	0	0	122 (4)	152 (5)	187 (8)	100.0 (100.0)	218 (15)	100.0 (100.0)

- (注) 1 着火原因の分類は、推定によるものを含む。
 2 調査中とは、令和3年4月1日現在において、未だ調査中のものをいう。
 3 参考のため、右欄に前年の件数と比率を掲載した。
 4 ()内の数値は重大事故に係る数値を示す。

第12表 危険物施設以外の場所における火災事故の発生原因（令和2年中）

発生原因		製造所等の別			計
		無許可施設	危険物運搬中	仮貯蔵・仮取扱	
人的要因	誤操作	1	0	0	1
	操作確認不十分	1	0	0	1
	監視不十分	1	0	0	1
合計		3	0	0	3

第13表 危険物施設以外の場所における火災事故の着火原因（令和2年中）

着火原因		区分			計
		無許可施設	危険物運搬中	仮貯蔵・仮取扱	
溶接・溶断等火花		1	0	0	1
静電気火花		1	0	0	1
化学反応熱		1	0	0	1
合計		3	0	0	3

(注) 1 着火原因の分類は、推定によるものを含む。

3 流出事故

(1) 流出事故の発生及び被害の状況

令和2年中に発生した危険物に係る流出事故386件の内訳は、危険物施設におけるものが375件、無許可施設におけるものが2件、危険物運搬中のものが9件、仮貯蔵・仮取扱いのものが0件となっており、それぞれの状況は次のとおりである。（第1表参照）

ア 令和2年中に危険物施設において発生した流出事故は375件（前年380件）で、被害は、死者0人（前年0人）、負傷者23人（前年27人）、損害額2億2,886万円（前年9億6,039万円）となっている。前年に比べ、流出事故の発生件数は5件減少、死者は引き続きなし、負傷者は4人減少、損害額は7億3,153万円の減少となった。

また、流出事故1件当たりの損害額は61万円であった。（第14表参照）

これを製造所等の別にみると、流出事故の発生件数は、一般取扱所が91件で最も多く、次いで、屋外タンク貯蔵所が71件、給油取扱所が62件、移動タンク貯蔵所が57件の順となっており、1件当たりの損害額では、地下タンク貯蔵所が143万円が最も高く、次いで、給油取扱所が87万円、屋外タンク貯蔵所が75万円の順となっている。

危険物施設1万施設当たりの流出事故の発生件数は、危険物施設全体では9.52件となっている。（第15-1表参照）

危険物施設における流出事故のうち重大事故は63件（前年59件）発生しており、被害は、死者0人（前年0人）、負傷者1人（前年3人）、損害額は7,958万円（前年5億5,988万円）となっている。前年に比べ、重大事故の発生件数は4件増加、死者は引き続きなし、負傷者は2人減少、損害額は4億8,030万円の減少となった。

また、重大事故1件当たりの損害額は126万円であった。

これを製造所等の別にみると、重大事故の発生件数は、移動タンク貯蔵所が最も多く16件、次いで、一般取扱所が14件、屋外タンク貯蔵所が12件の順となっており、1件当たりの損害額では、地下タンク貯蔵所が423万円が最も高く、次いで、屋外タンク貯蔵所が209万円、給油取扱所が120万円の順となっている。（第15-2表参照）

危険物施設における流出事故の発生件数の推移を製造所等の別にみると、最近の5年間では、一般取扱所、屋外タンク貯蔵所、給油取扱所、移動タンク貯蔵所が上位を占めている。（第16表、第5図参照）

イ 令和2年中の、無許可施設に係る流出事故は2件（前年5件）発生し、死傷者は0人（前年0人）、損害額119万円（前年74万円）となっている。前年に比べ、流出事故の発生件数は3件減少、死傷者は引き続きなし、被害額は45万円の増加となっている。（第17表参照）

ウ 令和2年中の、危険物運搬中の流出事故は9件（前年11件）発生し、死傷者は0人（前年0人）、損害額31万円（前年8,173万円）となっている。前年に比べ、流出事故の発生件数は2件減少し、死傷者は引き続きなし、損害額は8,142万円減少した。（第17表参照）

エ 令和2年中の、仮貯蔵・仮取扱い中の流出事故は0件（前年1件）となっている。（第17表参照）

(2) 流出した危険物

- ア 令和2年中に発生した危険物施設における流出事故で流出した危険物をみると、多くが第4類の危険物であり、その事故件数は370件（98.7%）となっている。これを危険物の品名別にみると、第3石油類が122件（33.0%）で最も多く、次いで、第2石油類が120件（32.4%）、第1石油類が94件（25.4%）の順となっている。（第18表、第6図参照）
- イ 令和2年中に発生した危険物施設以外の場所における流出事故は11件で、流出した危険物は第19表のとおりとなっている。

(3) 流出事故の発生原因

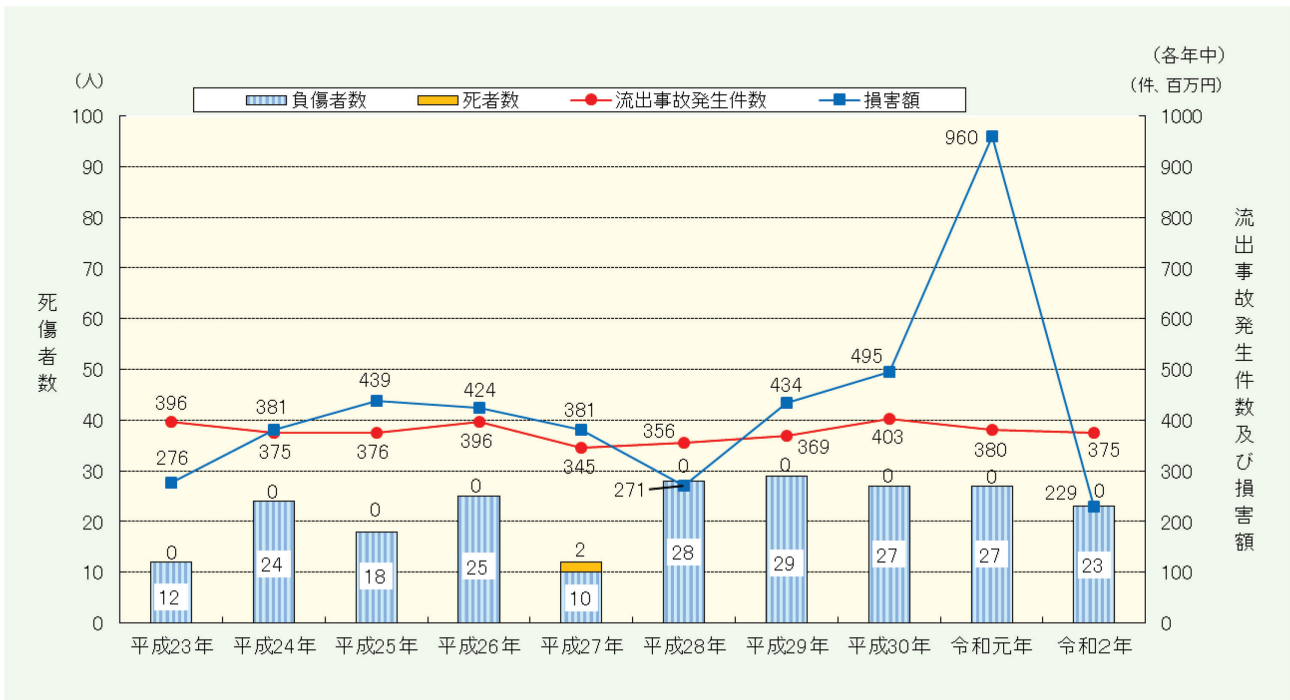
- ア 危険物施設における流出事故の発生原因の比率を、人的要因、物的要因及びその他の要因に区別してみると、物的要因が53.1%（199件）で最も高く、次いで、人的要因が38.9%（146件）、その他の要因（不明及び調査中を含む。）が8.0%（30件）の順となっている。個別にみると、腐食疲労等劣化によるものが34.4%（129件）で最も高く、次いで、操作確認不十分が14.9%（56件）、誤操作が8.5%（32件）の順となっている。（第20表参照）
- イ 危険物施設以外の場所における流出事故の発生原因は、第21表のとおりである。

第14表 危険物施設における流出事故の発生件数と被害状況の推移(最近の10年間)

年	発生件数等 発生件数 (ア)	被害			
		死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たりの損害額 (イ)/(ア) (万円)
平成23年	396	0	12	27,617.0	70
平成24年	375	0	24	38,125.5	102
平成25年	376	0	18	43,949.5	117
平成26年	396	0	25	42,391.0	107
平成27年	345	2	10	38,127.0	111
平成28年	356	0	28	27,140.0	76
平成29年	369	0	29	43,403.0	118
平成30年	403	0	27	49,462.0	123
令和元年	380	0	27	96,039.0	253
令和2年	375	0	23	22,886.0	61

(注) 発生件数には、製造所等に配管で接続された少量危険物施設等において、指定数量以上の危険物が流出したものの件数を含む。

○危険物施設における流出事故発生件数と被害状況



第15-1表 危険物施設における流出事故の概要(令和2年中)

発生件数等 製造所等の別		発生件数 (ア)	1万施設 当たりの 発生件数	被 害			
				死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たり の損害額 (イ)/(ア) (万円)
製 造 所		36	71.60	0	6	938.0	26
貯 蔵 所	屋内貯蔵所	5	1.02	0	0	314.0	63
	屋外タンク貯蔵所	71	12.10	0	0	5,335.0	75
	屋内タンク貯蔵所	7	7.06	0	0	98.0	14
	地下タンク貯蔵所	35	4.61	0	0	4,998.0	143
	簡易タンク貯蔵所	0	0.00	0	0	0.0	0
	移動タンク貯蔵所	57	8.79	0	8	3,051.0	54
	屋外貯蔵所	0	0.00	0	0	0.0	0
小 計		175	6.50	0	8	13,796.0	79
取 扱 所	給油取扱所	62	10.70	0	6	5,413.0	87
	第一種販売取扱所	0	0.00	0	0	0.0	0
	第二種販売取扱所	0	0.00	0	0	0.0	0
	移送取扱所	11	104.07	0	0	246.0	22
	一般取扱所	91	15.34	0	3	2,493.0	27
	小 計		164	13.68	0	9	8,152.0
合 計/平 均		375	9.52	0	23	22,886.0	61

- (注) 1 発生件数には、製造所等に配管で接続された少量危険物施設等において、指定数量以上の危険物が流出したものの件数を含む。
- 2 1万施設当たりの発生件数における施設数は令和2年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。

第15-2表 危険物施設における流出事故に係る重大事故の概要(令和2年中)

発生件数等 製造所等の別		重大事故 発生件数 (ア)	重大事故の内訳			1万施設 当たりの 重大事故 発生件数	被 害			
			人的被害 指標	流出範囲 指標	流出量 指標		死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たり の損害額 (イ)/(ア) (万円)
製 造 所		1	0	1	0	1.99	0	0	0.0	0
貯 蔵 所	屋内貯蔵所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	屋外タンク貯蔵所	12	0	8	4	2.04	0	0	2,507.0	209
	屋内タンク貯蔵所	1	0	1	0	1.01	0	0	0.0	0
	地下タンク貯蔵所	8	0	8	0	1.05	0	0	3,384.0	423
	簡易タンク貯蔵所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	移動タンク貯蔵所	16	0	16	0	2.47	0	1	821.0	51
	屋外貯蔵所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
小 計		37	0	33	4	1.37	0	1	6,712.0	181
取 扱 所	給油取扱所	8	0	8	0	1.38	0	0	962.0	120
	第一種販売取扱所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	第二種販売取扱所	0	0	0	0	0.00	0	0	0.0	0
	移送取扱所	3	0	1	2	28.38	0	0	181.0	60
	一般取扱所	14	0	12	2	2.36	0	0	103.0	7
	小 計		25	0	21	4	2.09	0	0	1,246.0
合 計/平 均		63	0	55	8	1.60	0	1	7,958.0	126

- (注) 1 1万施設当たりの発生件数における施設数は令和2年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。
- 2 「重大事故の内訳」欄の各指標の数値は要件に該当した件数を計上しているため、合計値が「重大事故発生件数」欄の数値と一致しない場合がある。人的被害指標、流出範囲指標及び流出量指標は、第1表の(注)2による。

第16表 危険物施設における流出事故の危険性の推移（最近の5年間）

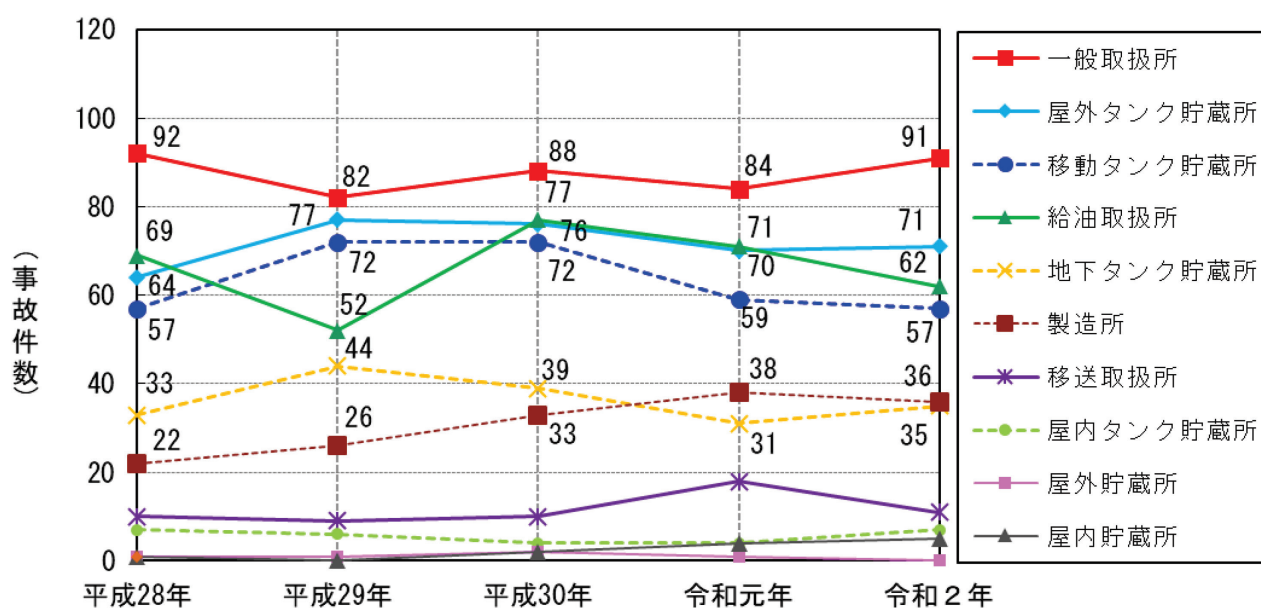
発生件数等 製造所等の別		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
		件数	危険性	件数	危険性	件数	危険性	件数	危険性	件数	危険性
製造所		22	43.62	26 (2)	51.49 (3.96)	33 (1)	65.44 (1.98)	38 (1)	75.34 (1.98)	36 (1)	71.60 (1.99)
貯蔵所	屋内貯蔵所	1	0.20	0	0.00	2	0.40	4	0.81	5	1.02
	屋外タンク貯蔵所	64 (17)	10.35 (2.75)	77 (27)	12.66 (4.44)	76 (18)	12.65 (3.00)	70 (13)	11.79 (2.19)	71 (12)	12.10 (2.04)
	屋内タンク貯蔵所	7 (2)	6.52 (1.86)	6 (2)	5.70 (1.90)	4 (1)	3.87 (0.97)	4 (1)	3.95 (0.99)	7 (1)	7.06 (1.01)
	地下タンク貯蔵所	33 (8)	3.98 (0.96)	44 (13)	5.43 (1.61)	39 (5)	4.92 (0.63)	31 (4)	4.00 (0.52)	35 (8)	4.61 (1.05)
	簡易タンク貯蔵所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	移動タンク貯蔵所	57 (10)	8.51 (1.49)	72 (21)	10.82 (3.16)	72 (27)	10.98 (4.12)	59 (24)	9.05 (3.68)	57 (16)	8.79 (2.47)
	屋外貯蔵所	1	0.99	1	1.00	2	2.05	1	1.04	0	0.00
	小計	163 (37)	5.75 (1.30)	200 (63)	7.16 (2.25)	195 (51)	7.08 (1.85)	169 (42)	6.21 (1.54)	175 (37)	6.50 (1.37)
取扱所	給油取扱所	69 (3)	11.28 (0.49)	52 (2)	8.62 (0.33)	77 (8)	12.94 (1.34)	71 (8)	12.11 (1.36)	62 (8)	10.70 (1.38)
	第一種販売取扱所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	第二種販売取扱所	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	移送取扱所	10 (1)	90.17 (9.02)	9 (1)	82.80 (9.20)	10 (1)	92.51 (9.25)	18 (3)	167.44 (27.91)	11 (3)	104.07 (28.38)
	一般取扱所	92 (13)	14.93 (2.11)	82 (12)	13.47 (1.97)	88 (9)	14.59 (1.49)	84 (5)	14.04 (0.84)	91 (14)	15.34 (2.36)
	小計	171 (17)	13.62 (1.35)	143 (15)	11.54 (1.21)	175 (18)	14.29 (1.47)	173 (16)	14.29 (1.32)	164 (25)	13.68 (2.09)
合計／平均		356 (54)	8.60 (1.30)	369 (80)	9.03 (1.96)	403 (70)	10.00 (1.74)	380 (59)	9.54 (1.48)	375 (63)	9.52 (1.60)

(注) 1 発生件数には、製造所等に配管で接続された少量危険物施設等において、指定数量以上の危険物が流出したものの件数を含む。

2 危険性：危険物施設1万施設当たりの流出事故の発生件数（危険物施設数は各年3月31日現在の完成検査済証交付施設数を用いた。）

3 () 内の数値は重大事故に係る数値を示す。

第5図 危険物施設における流出事故件数の推移（最近の5年間）



- (注) 1 件数20件未満にあっては、第16表を参照のこと。
 2 簡易タンク貯蔵所、第一種販売取扱所及び第二種販売取扱所の流出事故は過去5年間発生していない。

第17表 危険物施設以外の場所における流出事故の概要（令和2年中）

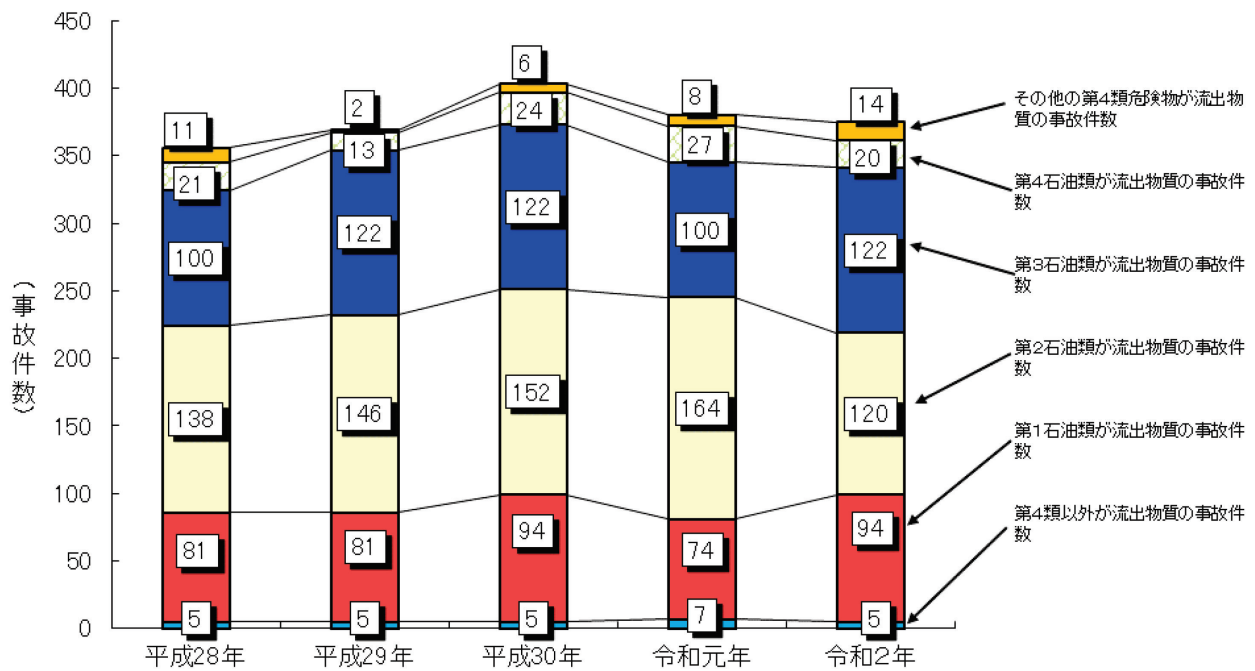
発生件数等 区分	発生件数 (ア)	被 害			
		死者数	負傷者数	損害額 (イ) (万円)	1件当たりの 損害額 (イ)/(ア) (万円)
無許可施設	2	0	0	119	59.5
危険物運搬中	9	0	0	31	3.4
仮貯蔵・仮取扱	0	0	0	0	0.0

第18表 危険物施設における流出した危険物別件数及び推移（最近の5年間）

流出物質等	年・施設区分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年														計	
						製造所	貯蔵所						取扱所								
							屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所		小計
危険物																					
第1類	酸性固体	塩素酸塩類	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2類	可燃性固体	硫黄	3	4 (2)	4 (1)	3	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
第2類	可燃性固体	金属粉	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2類	可燃性固体	引火性固体	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3類	自然発火性物質及び禁水性物質	アルキルアルミニウム	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第4類	引火性液体	特殊引火物	2 (2)	0	2 (1)	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
第4類	引火性液体	第1石油類	81 (10)	81 (17)	94 (8)	74 (6)	9	1	25 (3)	0	4 (1)	0	4 (1)	34 (5)	33	0	0	5 (3)	13 (1)	51 (4)	94 (9)
第4類	引火性液体	アルコール類	9	2 (1)	4	8 (1)	0	1	2 (1)	0	1	0	0	4 (1)	0	0	0	0	7 (1)	7 (1)	11 (2)
第4類	引火性液体	第2石油類	138 (16)	146 (28)	152 (25)	164 (33)	9	0	11 (2)	3	7 (2)	0	36 (11)	57 (15)	27 (8)	0	0	3	24 (3)	54 (11)	120 (26)
第4類	引火性液体	第3石油類	100 (26)	122 (31)	122 (32)	100 (17)	8 (1)	1	31 (6)	4 (1)	21 (4)	0	17 (4)	74 (15)	1	0	0	3	36 (8)	40 (8)	122 (24)
第4類	引火性液体	第4石油類	21	13 (1)	24 (3)	27 (1)	5	1	1	0	2 (1)	0	0	4 (1)	1	0	0	0	10 (1)	11 (1)	20 (2)
第4類	引火性液体	動植物油類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第5類	自己反応性物質	有機過酸化物	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
第5類	自己反応性物質	ニトロ化合物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第5類	自己反応性物質	アゾ化合物	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
第6類	酸化性液体	過酸化水素	0	1	0	1 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第6類	酸化性液体	硝酸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
危険物類別小計																					
第1類			0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2類			3	4 (2)	4 (1)	5	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
第3類			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第4類			351 (54)	364 (78)	398 (69)	373 (58)	33 (1)	4	70 (12)	7 (1)	35 (8)	0	57 (16)	173 (37)	62 (8)	0	0	11 (3)	91 (14)	164 (25)	370 (63)
第5類			1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
第6類			0	1	0	1 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計			356 (54)	369 (80)	403 (70)	380 (59)	36 (1)	5	71 (12)	7 (1)	35 (8)	0	57 (16)	175 (37)	62 (8)	0	0	11 (3)	91 (14)	164 (25)	375 (63)

(注) () 内の数値は重大事故件数を示す。

第6図 危険物施設における流出した危険物別件数の推移（最近の5年間）



第19表 危険物施設以外の場所における流出した危険物別件数（令和2年中）

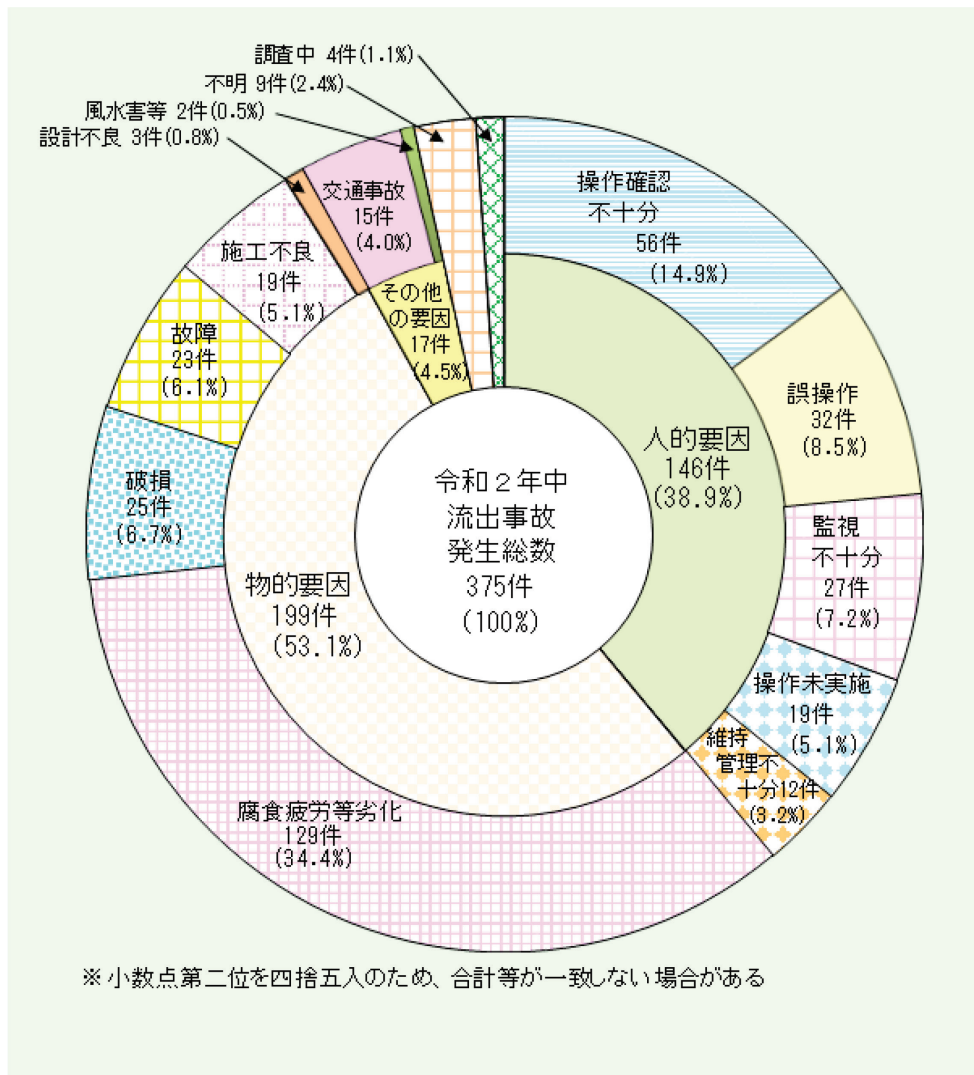
区分			流出危険物			
			無許可施設	危険物運搬中	仮貯蔵・仮取扱	計
第4類	引火性液体	第1石油類	0	1	0	1
第4類	引火性液体	第2石油類	2	6	0	8
第4類	引火性液体	第3石油類	0	1	0	1
第4類	引火性液体	第4石油類	0	1	0	1
合計			2	9	0	11

第20表 危険物施設における流出事故の発生原因（令和2年中）

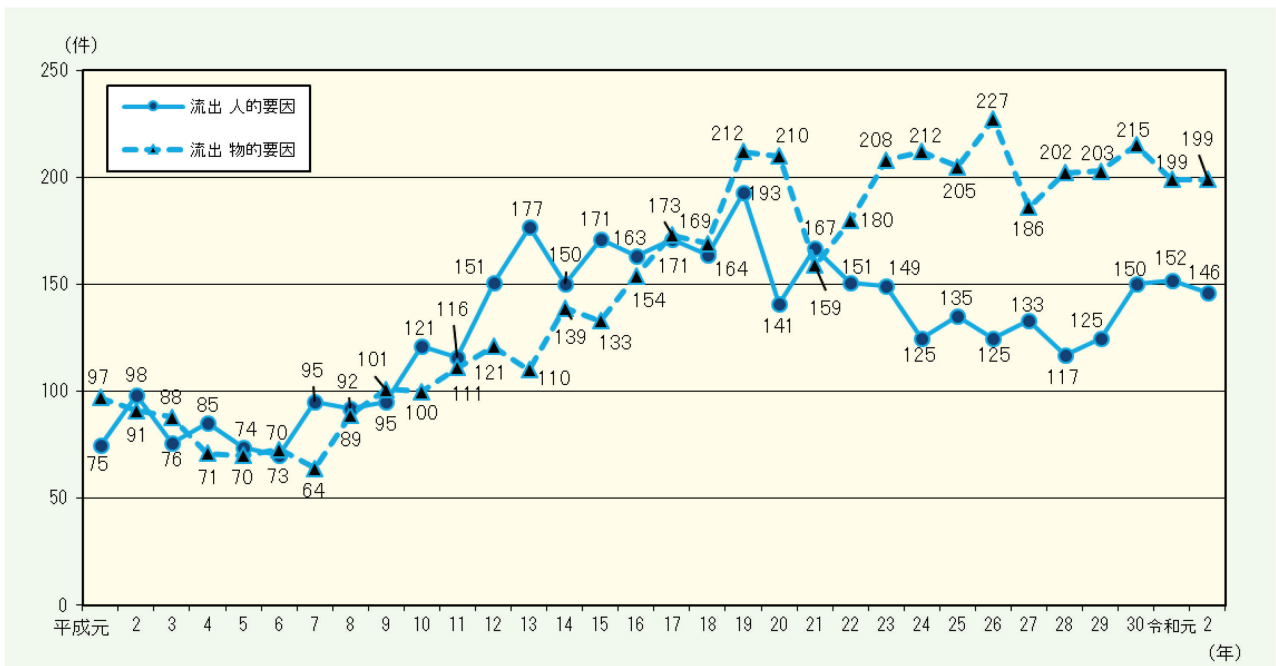
発生原因	製造所等の別 製造所	貯蔵所								取扱所						計	比率 (%)	令和元年		
		屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所	小計			件数	比率 (%)	
人的要因	維持管理不十分	2	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	0	0	7	8	12	3.2	21	5.5
	誤操作	5	1	1	2	0	2	0	7	10	0	0	1	9	20	32	8.5	34	8.9	
	操作確認不十分	2	0	10	0	3	0	20	0	33	9	0	0	2	10	21	56	14.9	51	13.4
	操作未実施	4	1	1	1	0	0	3	0	6	1	0	0	0	8	9	19	5.1	17	4.5
	監視不十分	1	0	1	0	3	0	5	0	9	10	0	0	1	6	17	27	7.2	29	7.6
	小計	14	2	13	2	8	0	32	0	57	31	0	0	4	40	75	146	38.9	152	40.0
物的要因	腐食疲労等劣化	12	1	39	3	16	0	5	0	64	14	0	0	4	35	53	129	34.4	128	33.7
	設計不良	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	3	0.8	7	1.8
	故障	2	0	4	1	4	0	1	0	10	4	0	0	0	7	11	23	6.1	16	4.2
	施工不良	5	0	3	1	4	0	1	0	9	2	0	0	1	2	5	19	5.1	20	5.3
	破損	2	2	7	0	2	0	3	0	14	7	0	0	0	2	9	25	6.7	28	7.4
	小計	22	3	53	5	27	0	10	0	98	27	0	0	6	46	79	199	53.1	199	52.4
その他の要因	放火等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
	交通事故	0	0	0	0	0	0	15	0	15	0	0	0	0	0	0	15	4.0	16	4.2
	類焼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
	風水害等	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2	0.5	6	1.6
	悪戯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
	小計	0	0	1	0	0	0	15	0	16	0	0	0	0	1	1	17	4.5	22	5.8
不明	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	4	8	9	2.4	4	1.1	
調査中	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	1	4	1.1	3	0.8	
合計	36	5	71	7	35	0	57	0	175	62	0	0	11	91	164	375	100.0	380	100.0	

- (注) 1 調査中とは、令和3年4月1日現在において、いまだ調査中のものをいう。
 2 参考のため、右欄に前年の件数と比率を掲載した。
 3 ()内の数値は重大事故件数を示す。

○令和2年中の危険物施設における流出事故の発生要因



○危険物施設における流出事故の要因別発生件数の推移



第21表 危険物施設以外の場所における流出事故の発生原因（令和2年中）

発生原因		製造所等の別			計
		無許可施設	危険物運搬中	仮貯蔵・仮取扱	
人的要因	維持管理不十分	0	1	0	1
	操作確認不十分	0	4	0	4
	操作未実施	0	3	0	3
	小計	0	8	0	8
物的要因	腐食疲労等劣化	1	0	0	1
	破損	0	1	0	1
	小計	1	1	0	2
不明		1	0	0	1
合計		2	9	0	11

4 令和2年中に発生した事故事例

(1) 死者が発生した事故事例

令和2年中に死者が発生した事故事例は次のとおりである。

令和2年中に死者が発生した事故事例（火災事故・2事例）

覚知月	都道府県	製造所等の別	死傷者数及び 損害見積額	概要・原因・被害状況等
10月	兵庫県	製造所	死者 1名 負傷者 1名 53万円	製造所において、施設解体に伴う配管切断作業中、硫化機1基が爆発し、収容物、建物東面の窓ガラス及び硫化機等が破損したもの。また、爆発により従業員が1名死亡し、1名が負傷した。原因は、従業員が硫化機のステンレス製の二硫化炭素配管を、電気式セーバーソーを使用して切断する際、配管が二硫化炭素の発火点である90℃以上に上昇し、硫化機内部に残留していた二硫化炭素ガスが発火し、爆発したものの。
12月	静岡県	給油取扱所	死者 1名 負傷者 0名 18万円	給油取扱所において、公道から進入してきた普通自動車が発油空地内に停車後、出火し、固定給油設備1基及び建築物の一部を焼損したもの。普通自動車の運転者1名が死亡した。

令和2年中に死者が発生した事故事例（その他の事故・1事例）

覚知月	都道府県	製造所等の別	死傷者数及び 損害見積額	概要・原因・被害状況
7月	宮城県	一般取扱所	死者 2名 負傷者 0名 1万円未満	<p>一般取扱所内に設置されている焼結炉を、作業員3名にて補修作業中、1名が炉内に落下したボルトを取りに炉上部から進入したところ意識を消失し、その状況を見ていたもう1名の作業員が、救助のため炉内に進入したところ、同様に意識を消失したもの。緊急措置は特に実施していなかった。なお、この事故により作業員2名が死亡した。</p> <p>当該炉は、作業時は製品の酸化を防ぐため、炉内にアルゴンガスを充満させ無酸素状態にしているが、事故当時、作業員は炉内の酸素濃度等を確認することなく進入し、酸素欠乏により意識を消失したと推定される。</p>

(2) 負傷者が2名以上発生した事故事例

令和2年中に負傷者（死者を除く。）が2名以上発生した事故事例は次のとおりである。

令和2年中に負傷者が2名以上発生した事故事例（火災事故・5事例）

覚知月	都道府県	製造所等の別	死傷者数及び 損害見積額	概要・原因・被害状況
1月	大阪府	一般取扱所	死者 0名 負傷者 3名 450万円	一般取扱所において、設備のメンテナンス中に、設備内に滞留した水素が溶融した高温の亜鉛の輻射熱により引火し、爆発した。設備の点検口を覗いていた従業員1名が爆発の衝撃により負傷するとともに、他の作業をしていた従業員2名も負傷した。
3月	神奈川県	一般取扱所	死者 0名 負傷者 2名 1万円未満	一般取扱所において、作業員2名が焼却炉内で清掃作業を実施していたところ、燃え殻の温度が下がりがきつていなかったため、作業員2名が高温の熱風を浴び負傷したものの。
4月	福島県	一般取扱所	死者 0名 負傷者 2名 1万円未満	一般取扱所において、洗い槽にアセトン溜める作業中、作業員1名がアースクリップを接続せず、更にバルブを絞りアセトンを溜めていたところ、噴出帯電により静電気が発生し、洗い槽内のアセトンの可燃性蒸気に引火し、火災となったもの。初期消火にあたった作業員2名が負傷した。
5月	千葉県	一般取扱所	死者 0名 負傷者 3名 1万円未満	一般取扱所において、定期点検作業中にオフガス圧縮機の上部チャンネルカバーの復旧作業時、下部配管で残存していたトリエチルアルミニウムに起因する火災が発生し、作業員3名が負傷したものの。
7月	茨城県	製造所	死者 0名 負傷者 2名 1万円未満	製造所において、配管の溶接作業中にパイプカッターで配管に切り込みを入れたところ、配管内部より抽出溶剤が流出し、溶接作業による火花若しくは溶接屑により出火したものの。この火災により作業員2名が負傷した。

令和2年中に負傷者が2名以上発生した事故事例（流出事故・2事例）

覚知月	都道府県	製造所等の別	死傷者数及び 損害見積額	概要・原因・被害状況
5月	岡山県	一般取扱所	死者 0名 負傷者 3名 1万円未満	一般取扱所において、トルエンを含有するインクを移送時に、タンクに移送すべきところを誤って廃液用ドラム缶に移送し、トルエンを含有するインク約100リットルが建物内の地下ピット等に漏れ出したもの。ピットの清掃作業のため作業員1名が進出し作業を行ったところ倒れ、救出活動のため進入した2名も倒れた。
10月	和歌山県	製造所	死者 0名 負傷者 4名 1万円未満	製造所において、反応釜でアンモニアを吹き込み攪拌作業中に作業員が誤ってバルブを開放したため、アンモニアを含む混合液約3,000リットルが漏れ出したもの。この漏れ事故により、作業員4名が負傷した。

附 属 資 料

危険物施設について

危険物施設は次表の区分に分けられ、それぞれの施設数（各年における3月31日現在の完成検査済交付施設数）は次のとおりとなっている。

製造所等の別		年				
		平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
製 造 所		5,044	5,050	5,043	5,044	5,028
貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所	49,893	49,700	49,455	49,372	49,255
	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	61,807	60,800	60,063	59,368	58,689
	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	10,739	10,524	10,331	10,116	9,918
	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	82,961	80,976	79,305	77,522	75,940
	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	993	977	955	931	926
	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	67,004	66,525	65,591	65,196	64,880
	屋 外 貯 蔵 所	10,143	9,953	9,776	9,650	9,563
	小 計	283,540	279,455	275,476	272,155	269,171
取 扱 所	給 油 取 扱 所	61,175	60,343	59,513	58,646	57,934
	販 売 取 扱 所	1,681	1,632	1,594	1,556	1,518
	移 送 取 扱 所	1,109	1,087	1,081	1,075	1,057
	一 般 取 扱 所	61,601	60,861	60,312	59,813	59,335
	小 計	125,566	123,923	122,500	121,090	119,844
合 計		414,150	408,428	403,019	398,289	394,043

Ⅱ 令和2年中の危険物に係る事故 (流出事故)

凡 例

- 1 危険物に係る事故は、火災、流出事故及びその他の事故に区分し掲載した。
- 2 火災及び流出事故は、原則として、すべての調査項目を掲載したが、軽度のものは、調査項目のうちの一部のみを掲載した。
- 3 その他の事故は、火災又は流出を伴わない危険物施設の破損等の事故について、その内容を分類し、簡単に紹介した。
- 4 調査表の記載は次によった。
 - (1) 事業所の種別
特別防災区域内－石油コンビナート等災害防止法第2条第2号に規定する区分
 - 1 種－同法第2条第4号に規定する第一種事業所
 - 2 種－同法同条第5号に規定する第二種事業所
 - (2) 貯蔵・取扱・運搬の別
危険物施設にあっては、その区分及び設置の完成検査年月日、危険物の仮貯蔵又は仮取扱にあっては、仮貯蔵・仮取扱の別及びその承認に依る貯蔵又は取扱の開始日、危険物の運搬又は無許可施設にあってはその別
 - (3) 取扱者の概要
人的要因に基づく事故の場合、災害の原因となる危険物を実際取り扱った者の年齢・当該取扱行為の経験年月
 - (4) 人的被害

当事者	発災事業所の従業員をいい、協力事業所、下請け等の従業員を含むものとする
防災活動従事者	当事者を除く
第三者	上記を除く者
死亡者数	当該事故による死亡者及び当該事故により負傷し、48時間以内に死亡した者

流 出 事 故

1 製造所

1 事故名	製造所における、フィルター入口弁の不良による作動溶液漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 21日 16時 45分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 21日 17時 30分	
5 覚 知	3月 21日 17時 53分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 21日 21時 50分	
7 鎮火・処理完了	3月 21日 21時 50分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：3.4m/s 気温：7℃ 湿度：45%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： ①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)				
業 態：製造業 化学工業 無機化学工 番 号 (1729) 業製品製造業 その他の無機化 学工業製品製造業	特別防災地区名： 苫小牧地区				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等				
名 称：その他【無機化学工業】 番 号 (7199)	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他				
能 力：99t/d	貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所				
13 機 器 等	類・品名・名称・数量・倍数：				
名 称：フィルター 番 号 (908)	第4類アルコール類 <i>メタノール</i> 18,000L 45倍				
規 模：直径0.65m、高さ1.3m、容量400L	第4類第2石油類(非水溶性液体) 作動溶液 570,000L 570倍 (ソルベントナフサとエステル系溶剤の混合溶剤)				
14 発 生 箇 所	第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,000L 5倍				
名 称：その他【無機化学工業】 番 号 (7199)	第6類過酸化水素 過酸化水素 225,000kg 750倍				
材 質：ステンレス	倍数の合計： 1,370倍				
15 発 生 時	設置の完成：昭和 62年 3月 14日				
運 転 状 況：シャットダウン中 番 号 (3)	直近の完成：平成 30年 9月 18日				
作 業 状 況： 番 号 ()	17 物 質 の 区 分				
	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
	(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)				
	(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)				
	分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 作動溶液 (ソルベントナフサとエステル系溶剤の混合溶剤) (179L)				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 製造所のシャットダウン作業に伴い、水素添加反応塔フィルター内の作動溶液を窒素で移送し、加圧状態であった圧力を逃すため、落圧弁を開放した。また、その際、フィルター手前のサイトグラスには作動溶液の残留がないことを確認した。その後別の作業者がプラント内を巡回中に落圧弁からの漏えいを発見。ただちに弁を閉止し、計器室へ連絡、事業所関係者及び消防への通報を行った。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()														
	関連原因																		
	発生原因の状況： 反応塔からフィルターに流入する入口弁は閉止していたが、シャットダウン作業中は反応塔内に多くの触媒が沈降する。その状況下で弁の閉止作業を行ったため、噛み込みが発生し、弁が完全に閉鎖されていなかったと推測される。また、シャットダウン作業中ではあったが、反応塔内は多量の作動溶液と内圧がかかっており、完全に閉止されていない弁から作動溶液がフィルター内に流入、開放されていた落圧弁から漏えいに至ったものである。																		
	主要原因の詳細																		
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層												
	設計不良		機能		必要とされる機能が備わっていない														
	関連原因の詳細																		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																			
27 人的被害						28 物的被害													
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:1000 第2石油類 作動溶液（ソルベントナフサとエステル系溶剤の混合溶剤）179Lが施設内に流出。					
区分														施設等の被害状況： なし					
当 事 者		0		0		0		0											
防災活動従事者		0		0		0		0											
第 三 者		0		0		0		0											
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																			
消 防 機 関		9 台 0 隻 0 機 31 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:1,000 第2石油類 作動溶液（ソルベントナフサとエステル系溶剤の混合溶剤）179Lが施設内に流出。											
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人													
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人													
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text" value=""/> 万円)											
30 実施した防災活動の状況																			
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)													
出火警戒																			
31 防災活動上の問題点																			
32 施設名																			
使用停止		年 月 日		年 月 日		33 定期点検等		消 防 法		そ の 他									
改善命令等		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日									
停止解除		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日									
関係条項						保安検査		年 月 日		年 月 日									
その他		年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>											
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭				内容：											
35 今後の対策																			
1 定期修理中の施設管理改善 反応塔内部の作動溶液量はフィルターの配管と底板の約1/2の高さ（1,000mm、約8㎡）とし、反応塔の内圧（通常0.07MPa）は必要時以外加圧状態としない。 2 手順書、フィルター交換要領の改善 不明瞭であったフィルター保管時のバルブ状態を明確化する。また、フィルター交換作業は途中で中断せず、可能な限り即日終了させ、不可能な場合は1日に限り開放を許可する。 3 通常時からのフィルターの気密性の確認 作動溶液払出作業時は、払出後に内部の気密試験を行い、フィルター入口弁の触媒噛み込みの有無を確認する。																			
36 所 見																			
当該施設フィルターは定期的な交換作業を実施しており、従来から作業手順等の変更はされていない。本事案は、装置自体は停止中だが、反応塔内に多量の危険物と圧力を保有し、安全化レベルが低い状態にあったため、完全に閉止されなかった弁を逆流し、フィルターの落圧弁から危険物が漏えいしたものである。装置が停止していても、危険物が内在していることへの認識が甘く、通常運転中とは安全対策も異なることから、作業手順の見直し、作業員や職員へ施設停止中の安全対策等を再度教育していただくことが重要だと考える。																			

1 事故名	製造所の屋内貯蔵タンクの液面計故障による溶剤の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	9月 8日 11時 20分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	9月 8日 12時 08分		6 鎮 圧
7 鎮火・処理完了	9月 8日 13時 55分		応急処置完了
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南東 風速：2.9m/s 気温：24.1℃ 湿度：95%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 <u>その他</u>)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1735) 業製品製造業 プラスチック製 造業	特別防災地区名： 苫小牧地区		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他		
	貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所		
	類・品名・名称・数量・倍数：		
	第4類第1石油類(非水溶性液体) メチルイソブチルケトン他 23,600L 118倍		
	第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン他 320L 0.8倍		
	第4類アルコール類 メチルアルコール他 30,000L 75倍		
	第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレン他 11,000L 11倍		
	第4類第2石油類(水溶性液体) 酢酸他 260L 0.13倍		
	第4類第3石油類(非水溶性液体) ボリエステルポリオール他 15,000L 7.5倍		
	第4類第3石油類(水溶性液体) メタクリル酸メチル他 1,400L 0.35倍		
	第4類第4石油類 油圧油他 475L 0.08倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 212.86倍		
名 称：その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959)	設置の完成：平成 9年 5月 28日		
能 力：2,750L/d	直近の完成：令和 2年 5月 18日		
13 機 器 等	17 物 質 の 区 分		
名 称：貯槽 (タンク) 番 号 (107)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
規 模：内径2,300mm、胴長2,048mm、容量10KL	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	(固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧)		
名 称：安全弁 番 号 (301)	(低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温)		
材 質：ステンレス	分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：メチルイソブチルケトン(100L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況：試運転中 番 号 (14)	経験年数24年		
作 業 状 況： 番 号 ()	19 危険物保安統括管理者		
	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い
		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル有		
23 事 故 の 概 要：	製造所の溶剤回収タンクに当該タンクの内容積を超えた量の危険物をポンプで圧送したため、当該タンクの通気系統に設置するブリザーバルブから危険物が漏えいした事故。 事故当時は、新製品 (エポキシ樹脂硬化剤) の試作中であった。 建屋2階に設置している遠心ろ過機付近で製造状況を監視していた保安監督者は、床面を叩くような異音を聞き、周囲を確認すると溶剤回収タンクから溶剤が漏れ出していることを現認した。すぐさまコントロールルームに駆け付け、課員に送液ポンプ停止と社内通報を指示した。 溶剤約100Lが2階床面上に漏えいしたが、当該階以外に拡散することはなく、清拭により全量回収した。 なお、この事故による死傷者は発生していない。		
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1, 9) 無	装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送		

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 溶剤回収タンクに送液するポンプは当該タンクの液面計のハイレベル信号により停止するよう制御されているところ、液面計の故障により制御不能となっていた。 作業責任者はこのことを把握しながら、試作中の当該タンクへの送液量を9,000L程度と見込み、そのまま運転したが、当該タンクに系内洗浄で使用した溶剤1,700Lが收容されていることを失念したため、送液総量がタンク内容積を超えオーバーフローしたものである。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の機能の停止					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 屋内貯蔵タンクの溶剤が、建屋床面上、幅5m、長さ13mにわたり漏えいした。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：			
第 三 者	0	0	0	0			なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）メチルイソブチルケトン 100L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	10 人	
								損害額 1万円未満、 <input checked="" type="checkbox"/> 1万円以上	(2 万円)	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)		調査活動		
31 防災活動上の問題点										
発生から通報まで48分経過しており、通報の遅れが認められる。										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年10月18日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容： 消防法第12条第1項（維持義務違反）					
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> 液面管理の二重化 計装機器、制御機器の点検強化 消防機関に対する通報の見直し 									
36 所見	液面計故障により制御が不能となっていることを知りつつ起こした事故であり、大変遺憾である。事業者に対し法令遵守の徹底を指導したところであるが、同種同様の事故防止のため、他の事業者に対しても本事例を踏まえ指導を行っていきたい。									

1 事故名	製造所において、送油ポンプのメカニカルシールのペローズが破損したことにより軽油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	3月 6日 21時 36分		
5 覚 知	3月 6日 21時 43分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 7日 3時 28分	
7 鎮火・処理完了	3月 7日 3時 28分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：1.2m/s 気温：4℃ 湿度：58.7%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (<u>製</u>)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 仙台地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 438,000L 2,190倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 3,181,000L 3,181倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 添加剤 1,200L 0.6倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,599,000L 2,799.5倍 第4類第4石油類 潤滑油 30,000L 5倍 第2類硫黄 硫黄 450,000kg 4,500倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 12,676.1倍				
名 称：重油直接脱硫装置 番 号 (2106)	設置の完成：平成 7年 4月 25日 直近の完成：令和 元年 7月 19日				
能 力：9,249.2KL、450t					
13 機 器 等	温度圧力：301℃、0.98MPa				
名 称：ポンプ 番 号 (501)					
規 模：定格流量 396m ³ /h					
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分				
名 称：その他 番 号 (999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
材 質：ステンレス	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
15 発 生 時	(固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：軽油(6L)				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況： 番 号 ()					
	18 取扱者の概要				
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 製造所構内C-5地区、重油直接脱硫装置のフィルタードフィードポンプ (RDS-PU-02B) のメカニカルシールから、フラッシングオイル (軽油) 6Lが流出したもの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 当該ポンプは、令和2年2月28日にメカニカルシールの不具合のため、ベローズを含むメカニカルシール一式を取替えている。3月6日の日中に稼働させた際は問題なく定常運転に入ったが、その後メカニカルシールのベローズが割れたことによりフラッシングオイル（軽油）が流出した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		その他					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： フィルタードフィードポンプのメカニカルシール部分から軽油6Lが流出し、敷地外への流出はなし。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： メカニカルシールのベローズが割れた。			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	19 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油6L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	4 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
警戒及び調査活動										
31 防災活動上の問題点										
32 施設名 製造所（重油直接脱硫装置群）										
行政措置	使用停止	令和2年 3月 6日	年 月 日	33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	平成 31年 4月 26日		年 月 日			
	停止解除	令和2年 3月 12日	年 月 日	気密試験等	年 月 日		年 月 日			
	関係条項	法第12条の3第1項		保安検査	年 月 日		年 月 日			
指 導 書			34 当該施設に係る			有・無				
そ の 他	令和2年 3月 12日	年 月 日	法令違反の有無			内容：				
①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策										
ベローズの破損原因については、ポンプを分解点検し、原因究明する。										
36 所 見										
危険物が流出した原因究明と、今後の再発防止を図ることが必要である。										

1 事故名	製造所内の危険物配管のバルブ閉め忘れにより、アセトンが27.4L漏えいしたもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	4月 22日 6時 20分 推定・ 確定	4 発 見	4月 22日 6時 20分
5 覚 知	6月 22日 9時 55分	6 鎮 圧 応急処置完了	4月 22日 8時 30分
7 鎮火・処理完了	4月 22日 8時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：4.7m/s 気温：9℃ 湿度：54%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 業 態：	区 分：①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン、n-ヘキサン、 36, 142L 180.71倍 n-ヘプタン、シクロヘキサン、酢酸エチル、 イソプロピルエーテル、EB8800-60L、KRMS200AE 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン、テトラヒドロフラン 51, 962L 129.91倍 メタノール、イソプロピルアルコール 8, 400L 21倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) SH1455、MBL4P、 15, 147L 15.15倍 SH1173A、FM3X 第4類第2石油類(水溶性液体) EDM 950L 0.48倍 倍数の合計： 347.25倍 設置の完成：平成14年 4月 16日 直近の完成：平成30年 6月 1日		
名 称： 番 号 ()	12 施 設 装 置		
能 力：	13 機 器 等 温度 圧力：		
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	14 発 生 箇 所		
規 模：直径48.6mm	名 称：その他 番 号 (999)		
材 質：ステンレス	15 発 生 時		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	17 物 質 の 区 分		
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(水溶性液体) 名称：アセトン(27.4L)		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	18 取扱者の概要 経験年数6年
21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事故の概要： 製造所内にて、タンク洗浄用のアセトンを配管で移送したところ、閉め忘れたバルブから当該施設の1階床面に漏えいしたもの。漏えい量は調査の結果、27.4Lとしているが、水溶性のため、信ぴょう性は低い。			
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他			

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 発生箇所のバルブが開いているにも関わらず、締まっているものと思い込み、アセトンを送液してしまったことにより、当該バルブから漏えいしたものの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内の床及び油分分離槽		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： アセトン27.4L流出した。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 発生から、2カ月後の覚知であったため、情報収集のみとなった。						自衛防災・消防組織等 番号 () 閉め忘れたバルブの閉止及び希釈				
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報が2カ月後であったことから、再度連絡体制について見直すよう指導した。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年2月14日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策 消防機関への通報体制の見直し、操作手順の再確認及び従業員への教育										
36 所 見 再発防止及び通報体制について指導した。										

1 事故名	バルブ操作ミスにより廃水タンクからのトルエン溶液がオーバーフローした流出事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	10月 30日 23時 00分 推定・ 確定	4 発 見	10月 30日 23時 05分
5 覚 知	10月 30日 23時 15分	6 鎮 圧 応急処置完了	10月 31日 2時 30分
7 鎮火・処理完了	10月 31日 10時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：風向不明 風速： 気温：7℃ 湿度：		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化 学工業製品製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 溶剤等 15,000L 75倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン等 1,830L 4.58倍 第4類アルコール類 エタノール等 3,680L 9.2倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) PMA等 640L 0.64倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 酢酸等 250L 0.13倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ASモノマー 200L 0.1倍 第4類第4石油類 作動油等 8,000L 1.33倍 第5類アガ化合物(第1種自己反応性物質) ABSN 81kg 8.1倍 第5類アガ化合物(第2種自己反応性物質) SD61 99kg 0.99倍 倍数の合計： 100.07倍		
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所		
名 称： その他のタンク 番 号 (1299)	名 称： 通気管 番 号 (304)		
能 力： 1,920L	材 質： 鋼鉄		
13 機 器 等 温度 圧 力：	15 発 生 時		
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		
規 模： 内径1,810mm 高さ2,095mm	作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称： 通気管 番 号 (304)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： トルエン(1,270L) 第4類第4石油類 POE(470L)		
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要 経験年数10年		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危 険 物 保 安 監 督 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無		
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要： 反応タンクから濃縮タンクへのトルエン溶液送液作業の際、本来閉鎖するべき反応タンクから廃水タンクへの送液バルブが開放状態であったため、廃水タンクからトルエン溶液がオーバーフローしてしまったもの			
24 緊 急 処 置 の 状 況 有 番 号 (1, 8) 無 装置の緊急停止、防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等			

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 操作確認不十分										
	発生原因の状況： バルブを閉鎖するのを忘れていた。当該作業のベテランであった。バルブの状態の確認を怠った。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
	人		本人の意識		思慮		過信				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設排水経路内のみ			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類トルエン 1,270L流出 第4類第4石油類POE 470L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) 排水路からポンプによるくみ上げ、吸着マットによる回収					
31 防災活動上の問題点 自宅にいた保安監督者が事故の連絡を受け一般加入で消防に連絡をしたが、現場の状況がよく把握できていなかった。											
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検			年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等			年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査			年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/>			
そ の 他	年 月 日	年 月 日					内容：				
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 作業教育の徹底、満液センサーの設置、作業工程の見直し等											
36 所 見 ソフト面、ハード面の対策が必要。特にバルブ操作一つで漏えいにつながらないような、作業工程の見直しや、機器の選定が必要。											

1 事故名	製造所で溶剤等抜出ホース抜けによる漏えい事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	4月 2日 19時 25分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	4月 2日 20時 29分		4月 2日 19時 45分
7 鎮火・処理完了	4月 2日 22時 03分		6 鎮 圧 応急処置完了
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：4m/s 気温：9℃ 湿度：28%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 その他の製造業 他に 番 号 (3299) 分類されない製造業 他に分類 されないその他の製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類金属粉(第1種可燃性固体) アルミペースト 2,000kg 20倍 第2類引火性固体 アルミペースト 2,000kg 2倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 350L 1.75倍 第4類アルコール類 イソプロピルアルコール 170L 0.43倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) ミネラルスピリット 39,320L 39.32倍 第4類第2石油類(水溶性液体) ソルベントナフサ・キシレン アクリル酸・アルキル酸 402L 0.2倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) モルホリン塩 レイン酸・カブリン酸 90L 0.05倍 第4類第4石油類 シレンカップ リンク 剤 作動油 215L 0.04倍 倍数の合計： 63.79倍		
12 施 設 装 置	設置の完成： 平成 12年 12月 20日 直近の完成： 令和 2年 3月 6日		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	17 物 質 の 区 分		
能 力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： ミネラルスピリット(190L)		
13 機 器 等	18 取扱者の概要		
温度圧力： 40℃	経験年数13年		
名 称： 粉碎機 (ミル、ペルペライザー、アトマイザー) 番 号 (509)	19 危険物保安 統括管理者		
規 模： 6,380mm×2,970mm×2,260mm	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
14 発 生 箇 所	20 危険物 保安監督者		
名 称： ホース (給油、注油及び注入ホースを除く) 番 号 (211)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
材 質： ゴム	21 危険物取扱者 の取扱・立会い		
15 発 生 時	①. 有 2. 無		
運 転 状 況： 払出中 番 号 (10)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
作 業 状 況： その他 番 号 (99)	23 事 故 の 概 要： アルミ粉を粉碎機でミネラルスピリットと共に湿式粉碎する過程において、溶剤抜出ホースが外れ、ミネラルスピリットが約190L流出したもの		
24 緊急処置の状況	有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		

原因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： ホース接続アダプターのタケノコ部に、アルミスラリが長年にわたる使用で固着堆積したことでタケノコ部の掛かりによる抜け防止機能が低下し、かつホースバンドの締め付けが緩かったために拔出運転の揺動動作中にホースがタケノコ部より抜け落ちてスラリが流出したもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ミネラルスピリットが粉砕機周囲に3.5m×1.8mの範囲及び分離槽に至る排水溝14mの範囲に流出。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）ミネラルスピリット190L流出。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (3 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
事後報告のため、消防覚知時流出したミネラルスピリットはすべて回収済み。状況及び原因調査の実施。											
31 防災活動上の問題点 作業員の認識不足で通報が遅れた。											
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和元年6月23日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年	月	日	年	月	日					
35 今後の対策 従業員への負担を下げるための対策（設備改修・人員の確保）が出来るまで稼働率を下げる。 ホース及び接続アダプター等の改善、取扱基準、点検基準の見直し。 通報迅速化の重要性について全従業員への再教育。 巡回頻度を高めるとともに、トランシーバーを携帯させることでの夜間巡視体制強化。											
36 所 見 事故発生時の迅速な通報を徹底させ、管内の他事業所においても再発防止に向けて指導が必要。											

1 事故名	製造所の製造工程中にある弁の閉鎖操作未実施によりポリマーポリオールが流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	4月 4日 13時 42分 推定・ 確定	4 発 見	4月 4日 14時 21分
5 覚 知	4月 4日 14時 50分	6 鎮 圧 応急処置完了	4月 4日 23時 16分
7 鎮火・処理完了	4月 4日 23時 16分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇	風向：南南西	風速：7.9m/s 気温：20℃ 湿度：52%
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 無機化学工 番 号 (1721) 業製品製造業 ソーダ工業		
11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) アクリロニトリル 11,300L 56.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ノルマルヘキサン 3,000L 15倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) メチルセーブチルエーテル 23,000L 115倍 第4類アルコール類 メチルアルコール 20,700L 51.75倍 第5類アガ化合物(第2種自己反応性物質) アブビスチルブチロニトリル 22.5kg 0.23倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレン 10,200L 10.2倍 第4類第3石油類(水溶性液体) モノエタノールアミン 3,700L 0.93倍 第4類特殊引火物 酸化プロピレン 474,000L 9,480倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) オクチル酸 100L 0.05倍 第4類第3石油類(水溶性液体) グリセリン 24,830L 6.21倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) クーベン油 230L 0.12倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) トリレンジイソシアネート 330L 0.17倍 第4類第4石油類 ポリアロピレングリコール 41,090L 6.85倍 第4類第4石油類 熱媒油 2,300L 0.38倍 倍数の合計： 9,743.39倍		
13 機 器 等	温度 圧力：	設置の完成： 昭和 50年 3月 7日 直近の完成： 年 月 日	
14 発 生 箇 所	名 称：その他【有機化学工業】 番 号 (5999) 能 力：32t/d	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： ポリマーポリオール(1,330L)	
15 発 生 時	名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：規格：50A	18 取扱者の概要 経験年数15年	
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事故の概要： PPG製造所内、ポリマーポリオール製造工程のVE-2530(脱気槽)の弁からポリマーポリオールが流出したもの。原因については、脱気槽工程を洗浄後、気密試験実施者と受入れ担当作業者の認識の違いから気密試験後に弁を閉めず、また受入れ時も弁閉止の確認をしていなかったことから、弁が開放状態となり、循環開始後、漏えいに至ったもの。漏えい量はポリマーポリオール1,330L。			
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他			

25	主 原 因 操作未実施	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 原因については、脱気槽工程を洗浄後、気密試験実施者と受入れ担当作業者の認識の違いから気密試験後に弁を閉めず、また受入れ時も弁閉止の確認をしていなかったことから、弁が開放状態となり、循環開始後、漏えいに至ったもの。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	人	本人の意識	違反（故意）	怠慢			
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	28 物的被害
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： ポリマーポリオール1, 330Lが製造所内フロアに漏えい
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	6 台 0 隻 0 機 21 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 45 人	物質の被害状況： 第4類 第4石油類 ポリマーポリオール1, 330L			
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人				
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人				
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (32 万円)			
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、警戒態勢及び環境測定実施			自衛防災・消防組織等 番号 (99, 5) 現場の警戒及び漏えい物回収を実施。				
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策 ・責任範囲を明確にする。 ・設備の洗浄や整備後のラインチェックの手順や具体的な確認箇所を明記したチェックシートを作成する。 ・整備等で停止した設備の起用作業時に弁等の設備確認や漏れ等の異常がないことを確認する。							
36 所 見 管理面等十分に注意し再発防止に努めるように指導する。							

1 事故名	製造所内精留塔から重質軽油が純水タンク、ガードベースン等を通して海上へ流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 7日 10時 45分	推定・確定	4 発 見	5月 17日 17時 05分	
5 覚 知	5月 17日 17時 11分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 17日 19時 15分	
7 鎮火・処理完了	5月 18日 14時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：4.1m/s 気温：22℃ 湿度：61%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 分解剤 3,625,200L 18,126倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 汚れ防止剤 900L 0.9倍 (添加剤) 第4類第2石油類(非水溶性液体) クロップ (添加剤) 460L 0.46倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 174,080L 87.04倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 添加剤クロップ 900L 0.45倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 添加剤スライダー 24,300L 12.15倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 分解軽油 2,091,000L 1,045.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 分解重油 604,200L 302.1倍 第4類第4石油類 潤滑油 17,680L 2.95倍 (タービン32・56, ハイドラックスVG46) 第4類第3石油類(非水溶性液体) 直留重質軽油 0L 0倍 倍数の合計： 19,577.55倍				
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所				
名 称：分解装置 番号 (2104)	設置の完成： 昭和 44年 11月 18日				
能 力：第1流動接触分解装置危険物取扱数量：6,538.72KL/d、 高圧ガス取扱数量：3,482,286.5Nm ³ /d	直近の完成： 年 月 日				
13 機 器 等 温度 圧力：	17 物 質 の 区 分				
名 称：蒸留、精留塔 (スクリンナー、ストリッパー) 番号 (101)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
規 模：精留塔 (TW-103) 内径：1,070mm、胴：5,795mm、板厚：8mm	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
14 発 生 箇 所	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)				
名 称：逆止弁 番号 (206)	(低温、常温 [0-40℃]、高温)				
材 質：鋳鉄	分 類：第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：重質軽油 (74L)				
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要				
運 転 状 況：シャットダウン中 番号 (3)	①. 選任有 2. 選任無				
作 業 状 況： 番号 ()	3. 不要				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 製造所内 (第1流動接触分解装置) 精留塔 (TW-103) から、重質軽油がストリッピングスチーム配管へ流入し、ドレントラップを通りボイラー給水タンク (TK-503) へ流入、ボイラー給水タンクをオーバーフロー (通常の停止操作) させた結果、一次排水系に払い出された後、ガードベースンを通過し海上に流出した。漏えい量は重質軽油約74L、うち海上流出は約14L。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： 原因は、精留塔（TW-101）底部ノズルが閉塞したことにより、通常の計画運転停止操作を実施するも、次工程であるLCOストリッパ（TW-103）のストリップングスチーム吹込み口の高さまで重質軽油が供給され、少量のスチームが流れていたことにより、逆止弁が僅かに開いていた状態であったことから流出に至る。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の機能の停止					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 海上放水口より海上へ幅700m、沖合200mの範囲で約14L流出			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	24 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	67 人	物質の被害状況： 第4類 第3石油類 非水溶性液体 重質軽油約74L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額	1万円未満、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、環境測定、現場の警戒を実施。					自衛防災・消防組織等 番号 (99、6、7) 現場の警戒、オイルフェンスの展張、漏えい物回収及び海上拡散を実施。					
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無				
その他	年 月 日	年 月 日		内容：						
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> ・精留塔底部ノズルの定期確認、必要時清掃を実施することについてマニュアルへ追記する。 ・スチームバルブ閉止のタイミングを前倒しする。 ・ドレントラップの回収水が純水タンクへ送られないようにする。 ・水平展開を実施する。 ・事故の教育を実施する。 								
36 所 見		管理面等十分に注意し再発防止に努めるように指導する。								

1 事故名	エチレンベンゼンプラントC5水添設備内の反応器気液分離槽ベントガス冷却器出口配管からC5留分が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 8日 5時 15分	推定・確定	4 発 見	11月 8日 5時 25分	
5 覚 知	11月 8日 9時 50分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 8日 11時 55分	
7 鎮火・処理完了	11月 13日 5時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東 風速：2.8m/s 気温：20℃ 湿度：68%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業 (一貫して生産さ れる誘導品を含む)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分： 1 危険物 2 高压ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 C5留分 363,000L 7,260倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) C5重質分 12,000L 60倍 第4類第4石油類 冷凍機油 5,100L 0.85倍 (パ-ルーフリーズ PAG-100W) 第4類第4石油類 潤滑油 (VG32) 325L 0.05倍 第4類第4石油類 潤滑油 (VG46) 436L 0.07倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 7,320.97倍				
名 称：その他のエチレン系製品製造装置 番 号 (5199)	設置の完成： 昭和 44年 10月 24日 直近の完成： 年 月 日				
能 力：第1エチレンベンゼンプラント 355t/d	17 物質の区分				
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類特殊引火物 名称： C5留分(9.2L)				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	18 取扱者の概要				
規 模：規格：3インチ	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
14 発 生 箇 所	20 危険物 保安監督者				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	21 危険物取扱者 の取扱・立会い				
材 質：その他	①. 有 2. 無				
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	23 事故の概要： 第1エチレンベンゼンプラントC5水添設備内の反応器気液分離槽ベントガス冷却器出口配管からC5留分が流出したもの。原因は、工程 中の原料であるC5留分に含まれる微量の有機酸(主に酢酸)により、配管の内面腐食が進行し流出に至ったものである。流出量は9.2L である。				
作 業 状 況： 番 号 ()	24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止				

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 原因は、工程中の原料であるC5留分に含まれる微量の有機酸（主に酢酸）により、配管の内面腐食が進行し流出に至ったものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： C5留分9.2Lが当該施設付近にガスとなり流出。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 3インチ配管エルボ部開孔		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	25 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	85 人	物質の被害状況： 第4類 特殊引火物 C5留分 9.2L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、環境測定、現場確認実施					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 現場確認実施					
31 防災活動上の問題点 安全処置のため、当該系の降圧・降温操作を最優先に考え、運転対応に集中してしまい、通報遅延に至った。										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・通報遅延に対する教育を実施する。 ・腐食による減肉箇所については、同材質にて配管更新、肉盛りを実施、令和4年定期修理まで安全に運転できる肉厚を確保する。 ・肉厚傾向を監視する。 ・恒久対策として令和4年定期修理にて実施検討する。 									
36 所 見	管理面等十分に注意し再発防止に努めるよう指導する。									

1 事故名	直接重油脱硫装置の熱交換器から、維持管理不十分により重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 27日 11時 13分	推定・確定	4 発 見	3月 27日 11時 13分	
5 覚 知	3月 27日 11時 19分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 27日 13時 38分	
7 鎮火・処理完了	3月 27日 14時 33分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南西 風速：4m/s 気温：19℃ 湿度：54%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 揮発油 172,000L 860倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯軽油 1,030,000L 1,030倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,724,000L 2,862倍 第4類第4石油類 潤滑油 2,250L 0.38倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 4,752.38倍				
名 称：重油直接脱硫装置 番 号 (2106)	設置の完成：昭和 51年 3月 29日				
能 力：36,000BBL/d	直近の完成：令和 元年 6月 8日				
13 機 器 等	温度圧力：310℃、2.5MPa				
名 称：熱交換器 番 号 (301)	17 物 質 の 区 分				
規 模：シェル内径1,100mm 板厚:28mm チャンセル内径：1,100mm 板厚22mm	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：重油(10L)				
14 発 生 箇 所	18 取扱者の概要				
名 称：その他の機器等本体 番 号 (199)	①. 選任有 2. 選任無				
材 質：鋼鉄	20 危険物 保安監督者				
15 発 生 時	21 危険物取扱者 の取扱・立会い				
運 転 状 況：シャットダウン中 番 号 (3)	①. 有				
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)	2. 無				
19 危険物保安 統括管理者	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	23 事 故 の 概 要： 令和2年3月27日11時13分頃、従業員がパトロール中に第10直接重油脱硫装置の熱交換器から重油が漏れいしていることを目視にて確認後、直ちに緊急停止し、当該部分(熱交換器)のブロック及び脱圧を実施し、漏れい停止を確認した。				
20 危険物 保安監督者	24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止				
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					
21 危険物取扱者 の取扱・立会い					
①. 有 2. 無					

25	主 原 因 維持管理不十分	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 熱交換器のつまりにより、ポンプの流量が下がっていた。このことからバイパス弁を開放し、流量を回復させる操作を実施した。この際バイパス弁の開操作を通常より大きく行ったことで、バイパス側へ熱油が多く流れ、同時に熱交換器に急激な温度変化を与えたことにより熱交換器のフランジ部から重油が漏えいした。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	設備	監視・保守	点検・整備	整備内容が不適切						
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害										
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	28 物的被害			
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 他施設への影響はない。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	8 台	0 隻	0 機	22 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	5 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:2,000 第3石油類 10L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	5 台	0 隻	0 機	7 人	その他	0 台	0 隻	0 機	35 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
警戒活動及び情報収集										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無				
その他	年	月	日	年	月	日	内容： 			
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策										
マニュアルの改訂を行い、周知を行う。										
36 所 見										
マニュアルの周知徹底が必要。										

1 事故名	製造所において廃ガスクラードレンフランジ部のガスケット破損による危険物流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 14日 16時 40分	推定・ 確定	4 発 見	10月 14日 17時 10分	
5 覚 知	10月 14日 17時 26分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 14日 20時 05分	
7 鎮火・処理完了	10月 14日 20時 15分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南東 風速：1.6m/s 気温：19℃ 湿度：59%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業 (一貫して生産さ れる誘導品を含む)	区 分：①. 事業所内 (製)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：千葉県臨海中部地区				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等				
名 称：フェノール製造装置 番 号 (5402)	施設区分：1 危険物 2 高圧ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ベンゼン 3,735,455L 18,677.28倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 2,769,000L 6,922.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) クロソール 2,282,428L 2,282.43倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ジ・エチル・グリコール 623,942L 311.97倍 第4類第3石油類(水溶性液体) ジ・イソ・プロピル・ベンゼン 679,083L 169.77倍 第4類第4石油類 潤滑油 7,178L 1.2倍 倍数の合計： 28,365.15倍				
能 力：24.6t/h	設置の完成：昭和44年10月1日 直近の完成：令和2年3月13日				
13 機 器 等	17 物質の区分				
名 称：熱交換器 番 号 (301)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、 気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：クロソール(33L)				
規 模：直径：880mm、長さ：6,677mm、75本	18 取扱者の概要				
14 発 生 箇 所	19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
名 称：その他の機器等本体 番 号 (199)	20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
材 質：銅	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	23 事故の概要： 運転員がパトロール中、臭気気付各所を確認したところPE-2ドレンノズルフランジ部よりガスが漏えいしている事を確認した。班長・係長・課長へ連絡し社内119番通報すると共に、プラント停止操作を開始した。				
作 業 状 況： 番 号 ()	24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止				

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 石綿ガスケットから非石綿ガスケットへの交換を計画的に実施していたが、当該ドレンフランジは今まで開放したことがなく、石綿ガスケットを長期間使用していた。使用流体中の微量成分が、長期間使用する間に石綿ガスケットを徐々に劣化させ事故に至った。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設外への拡大無し			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 破損無し			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	8 台	0 隻	0 機	26 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:1,000 第2石油類 33L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 現場確認及び調査						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒活動					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年6月8日	令和2年10月5日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和2年9月24日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	令和2年7月16日	令和元年11月20日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
そ の 他	年	月	日	年	月	日	内容：				
35 今後の対策	当該ガスケットを、仕様流体に対して耐薬品性を有している、PTFEフィラー渦巻きガスケットに交換した。その他の箇所については、令和2年定期修理において調査を実施し、交換が必要と判断された箇所全てをPTFEフィラー渦巻きガスケットに交換した。今後は、定期修理に合わせて計画的に交換を行っていく。合わせて工場内への水平展開を同様に実施していく。										
36 所 見	定期修理に合わせ計画的に交換を行う必要がある。										

1 事故名	反応釜の冷却コイル内の配管とジャケット溶接部にクラックが発生し、危険物が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	2月 20日 13時 35分	<input checked="" type="checkbox"/> 推定・確定	4 発 見
5 覚 知	2月 21日 16時 45分	6 鎮 圧 応急処置完了	2月 20日 13時 35分
7 鎮火・処理完了	2月 25日 9時 35分		2月 20日 16時 30分
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：2m/s 気温：12℃ 湿度：59%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 油脂加工製 番 号 (1752) 品・石けん・合成洗剤・界面活性 剤・塗料製造業 石けん・合成洗 剤製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 11,220L 56.1倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) キレン 14,000L 14倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ベンゼン 14,000L 7倍 第4類第3石油類(水溶性液体) PTA 7,000L 1.75倍 第4類第4石油類 ジベンジルトルエン、トリチロルブ、ロハントリガリシトルエン 14,000L 2.33倍 第4類アルコール類 IPA 2,000L 5倍 倍数の合計： 86.18倍 設置の完成： 昭和 47年 2月 4日 直近の完成： 令和 元年 9月 24日		
12 施 設 装 置	13 機 器 等		
名 称： 屋内タンク 番 号 (1208)	温度圧力： 400℃、1MPa		
能 力： 1,600L/d	名 称： 攪拌、混合機 (ニーダー) 番 号 (508)		
13 機 器 等	規 模： 容量8,000L		
14 発 生 箇 所	15 発 生 時		
名 称： 本体溶接部 番 号 (106)	材 質： ステンレス		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		
	作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： ジベンジルトルエン(1L未満)		
18 取 扱 者 の 概 要	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		
	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い
			①. 有 2. 無
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル有		
23 事 故 の 概 要：	製造所内に設置されている反応釜のジャケット内にジベンジルトルエン(第4類第4石油類)が入っており、冷却コイルとジャケットの溶接部にクラックが生じたため、ジベンジルトルエンが流出(にじむ程度)したものである。		
24 緊 急 処 置 の 状 況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他		

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()								
	関連原因												
	発生原因の状況： 反応釜のジャケット内部の熱媒体（300℃）を80℃まで冷却する際に、20℃の熱媒体と混ぜ合わせて冷却する。この際に急激な温度変化が加わり、ジャケット等が膨張・収縮を繰り返すため、強度の弱い溶接部にクラックが生じたものと推定した。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
	疲労・劣化		環境		その他								
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害				28 物的被害									
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 冷却コイルラインとジャケット溶接部にクラックが生じ、溶接部周囲に危険物のにじみが認められたもの					
区分													
当 事 者	0	0	0	0									
防災活動従事者	0	0	0	0									
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 攪拌機の溶接部にクラックが生じた。他に被害なし。					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類ジベンジルトルエンが若干（1L未満）流出			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人				
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
調査活動													
31 防災活動上の問題点 事故発生後の翌日に消防機関へ通報しているため、事故の規模の大小にかかわらず発見時に通報するよう指導した。													
政 策 措 置	32 施設名	製造所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日		定期・自主点検		令和 元 年 5 月 15 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日		保安検査		令和 2 年 2 月 20 日		年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無			
その他	製造所の一部停止を指示 令和 2 年 2 月 21 日				年 月 日		内容：						
35 今後の対策 ジャケットの圧力試験を年1回実施から年2回実施に強化。													
36 所 見 ジャケットの圧力試験の回数を増やすことを指示。													

1 事故名	ジャケットとタンク本体の溶接部分にクラックが生じ、危険物が漏れたもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	4月 3日 15時 20分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	4月 3日 16時 10分		6 鎮 圧
7 鎮火・処理完了	4月 3日 16時 30分		応急処置完了
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：4m/s 気温：16℃ 湿度：52%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 油脂加工製 番 号 (1752) 品・石けん・合成洗剤・界面活性 剤・塗料製造業 石けん・合成洗 剤製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称： 屋内タンク 番 号 (1208)	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所		
能 力： 1,600L/d	類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 11,220L 56.1倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) キレン 14,000L 14倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ヘンジール 14,000L 7倍 第4類第3石油類(水溶性液体) PTA 7,000L 1.75倍 第4類第4石油類 トリクロロブ ロパ ン 14,000L 2.33倍 トリク リンジ ルエーテル 第4類7アルコール類 IPA 2,000L 5倍		
13 機 器 等	温度圧力： 400℃、1MPa		
名 称： 攪拌、混合機 (ニーダー) 番 号 (508)	倍数の合計： 86.18倍		
規 模： 容量8,000L	設置の完成： 昭和 47年 2月 4日 直近の完成： 令和 元年 9月 24日		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称： 本体溶接部 番 号 (106)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
材 質： ステンレス	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： ジヘンジールトルエン(1L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	①. 選任有 2. 選任無		
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	3. 不要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	21 危険物取扱者 の取扱・立会い
22 設備・機器等の概要：	①. 有 2. 無		
オンラインファイル有			
23 事 故 の 概 要： ジャケットとタンク本体の溶接部分にクラックが生じ、危険物 (ジヘンジールトルエン) が流出 (にじんだ程度) したものと			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： このタンク内で危険物の加熱、冷却をくり返しているため金属疲労が生じ、強度の弱い溶接部分にクラックが生じ、危険物がにじんだものと推定した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		自然現象		その他					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ジャケットとタンク本体の溶接部分にクラックが生じ、この溶接部分周囲に危険物がにじんだもの		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ジャケットとタンク本体の溶接部分にクラックが生じた。他に被害なし。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類のジベンジルメタンが若干（1L未満）流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31 防災活動上の問題点 事故発生後約1時間経過してから通報しているため、発見後すぐに通報するよう指導した。										
政 策 措 置	32 施設名	製造所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和元年5月15日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	製造所の一部停止を指示			34 当該施設に係る法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無		
その他	令和2年4月3日	年 月 日		1. 文書 ②. 口頭			内容：			
35 今後の対策	・年2回非破壊検査を実施 ・日常点検の強化									
36 所 見	溶接部等の非破壊検査等の実施を指導した。									

1 事故名	製造所において、反応塔のバイパス配管から保温下外面腐食により灯油が流出						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	4月 11日 15時 43分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 11日 15時 43分			
5 覚 知	4月 11日 15時 48分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 11日 18時 07分			
7 鎮火・処理完了	4月 11日 18時 07分						
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：3.9m/s 気温：14.7℃ 湿度：32.7%						
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区			
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 静電防止剤 7L 0.04倍 (STSDIS-450) 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,313,000L 2313倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 重合灯油 72,000L 72倍			
名 称：水添脱硫装置 番号 (2108)			設置の完成：平成 8年 5月 15日 直近の完成：平成 19年 4月 12日			倍数の合計： 2,385.04倍	
能 力：5,565KL/d							
13 機 器 等			温度圧力：220℃、0.55MPa				
名 称：反応塔、槽 番号 (102)	規 模：反応器 (3.75MPa、200℃)						
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番号 (299)		17 物 質 の 区 分				
材 質：鋼鉄			①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：灯油 (450L)				
15 発 生 時	運 転 状 況：スタートアップ中 番号 (2)		18 取扱者の概要				
作 業 状 況：	作 業 状 況： 番号 ()		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 当該装置の通常運転中に、遊休中の反応塔バイパス配管 (2インチ) の保温材施工部分に腐食が疑われたため、保温材を剥がし点検したところ、配管外面に腐食が認められたので、肉厚測定を行った。測定の結果、肉厚は足りていたが、腐食部の予防保全措置として腐食防止板 (半割配管) をネジで取り付けたが、場所が少しずれていたことから、再設定するためネジを緩めたところ、配管と腐食防止板の隙間から灯油が霧状に流出した。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他							

25	主 原 因	腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因	維持管理不十分、誤操作									
	発生原因の状況：	<p>当該配管は、運転停止作業時のみに使用する行き止まり配管で、運転中の温度は常温に近い状態にあることから、保温板金の隙間より入り込んだ雨水が、保温材内部で滞留することによって発生する保温下外面腐食が経年的に進行したものの、そして、錆こぶ周辺をバンド掛けによる補強を行った際の締め付けにより、残存したスケールが配管にめり込むように設置された。この補強バンドの位置が外面腐食箇所に対して若干下側であったため、位置の修正をする目的でバンドを緩めた際に流出した。</p>									
	主原因の詳細										
		第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
		腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）							
因	関連原因の詳細										
	設備	監理・保守	点検・整備	点検内容が不適切							
	人	本人の知識・能力	技能・技術力	経験不足/習熟不足							
26	被害の状況	1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27	人的被害	28 物的被害									
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内に灯油450L流出			
	区分										
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： バイパス配管開口			
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
	消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	20 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	13 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油450L流出
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30	実施した防災活動の状況										
	公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (99)					
	・ガス検知活動 ・警戒筒先配備 ・情報収集					・警戒筒先配備					
31	防災活動上の問題点										
32	施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
政 策 措 置	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	令和元年6月10日	平成19年6月1日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
	その他	年 月 日				内容：					
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35	今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・当該配管の取替の実施 ・外面腐食配管の検査手順を改善 									
36	所 見	<ul style="list-style-type: none"> ・事故類似配管への検査等の水平展開、保温配管で加熱がされていないもの及び保温遊休配管等の使用前確認方法の見直し、作業中の被液対策を指導した。 									

1 事故名	製造所附属配管が圧力上昇により破裂したことにより、硫黄が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 22日 5時 50分	推定・確定	4 発 見	7月 22日 5時 50分	
5 覚 知	7月 22日 6時 04分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 22日 7時 25分	
7 鎮火・処理完了	7月 22日 7時 25分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南西 風速：2m/s 気温：26℃ 湿度：89%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類硫黄 硫黄 662,278.4kg 6,622.78倍 第4類第4石油類 消泡剤 120L 0.02倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,929,000L 4929倍 第4類第4石油類 潤滑油 1,255L 0.21倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフ 10,340L 51.7倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 防錆剤 85L 0.09倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 11,603.8倍				
名 称：硫黄回収装置 番号 (2110)	設置の完成：昭和46年 6月 1日 直近の完成：令和2年 6月 30日				
能 力：152t/d	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
名 称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)	(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第2類硫黄 名称：硫黄(102.3kg)				
規 模：3インチ	18 取扱者の概要				
14 発 生 箇 所	①. 選任有 2. 選任無 20 危 険 物 材 質：鋼鉄 保安監督者 3. 不要 21 危 険 物 取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
15 発 生 時	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
運 転 状 況：スタートアップ中 番号 (2)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
作 業 状 況： 番号 ()	23 事 故 の 概 要： 製造所から屋外タンク貯蔵所へ硫黄を移送するための配管を加温していたところ、高さ2.5mのラック上の配管が破裂し、熔融硫黄が約102.3kg流出したもの				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他				

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 運転の4日前に屋外タンク貯蔵所の元弁を開放して、タンクヘッド圧にて移送配管に熔融硫黄を逆流させてしまい、移送配管内に硫黄が冷えて硬化してしまった。 配管内を加温した際に、配管内部の硫黄が熱膨張し、圧力上昇に伴い配管が破裂し、熔融硫黄が流出したものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	設計不良		能力		想定を越えた圧力の発生					
	関連原因の詳細									
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順がない/文書化されない			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： 硫黄飛散範囲：2.5m×7.5m				
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	15 人	物質の被害状況： 硫黄約102.3kg流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	7 台	0 隻	0 機	18 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (500 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (9)						
・ガス検知活動 ・警戒筒先配備 ・情報収集										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 4 月 24 日	令和 2 年 7 月 1 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 元 年 8 月 14 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策		・配管の更新 ・作業手順書の改定 ・社内教育の実施								
36 所 見		類似箇所についての水平展開及び社内教育を実施し、再発防止に取り組むよう指導した。								

1 事故名	製造所において、反応釜の還流配管に接続された配管からの2-エチルヘキサノールの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 24日 22時 05分	推定・ 確定	4 発 見	7月 24日 22時 05分	
5 覚 知	7月 24日 22時 13分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 24日 23時 44分	
7 鎮火・処理完了	7月 24日 23時 44分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：1.4m/s 気温：26.3℃ 湿度：91%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 第2種 、その他)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)				
業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1734) 業製品製造業 環式中間物・合 成染料・有機顔料製造業	特別防災地区名：京浜臨海地区				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等				
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他				
能 力：処理能力 36,000t/y	貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所				
13 機 器 等	類・品名・名称・数量・倍数：				
名 称：配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)	第4類第2石油類(非水溶性液体) TPT (テトラ- プロポキシタン) 5,500L 5.5倍				
規 模：40A	第4類第3石油類(水溶性液体) EG (エチレングリコール)、14,500L 3.63倍 BG (1-2ブタンジオール) GL (グリセリン)				
14 発 生 箇 所	第4類第3石油類(非水溶性液体) DBP 17L 0.01倍				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	第4類第4石油類 PPG (ポリプロピレン) 28,500L 4.75倍 レンガリコール、PEG (ポリエチレングリコール)				
材 質：鋼鉄	第4類第3石油類(非水溶性液体) PEPO (ポリエポキシ) 33,664L 16.83倍 ルボリオール、(マキシモールRDK-133)				
15 発 生 時	第4類第4石油類 DOTP 45,016L 7.5倍				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	第4類第3石油類(非水溶性液体) 2EH (2-エチルヘキサノール) 301,000L 150.5倍				
作 業 状 況： 番 号 ()	設置の完成：昭和43年 3月 19日 直近の完成：平成30年 11月 28日				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 20時10分に屋外に設置された反応釜へ2-エチルヘキサノール(第4類第3石油類非水溶性)と無水フタル酸を張り込み、反応を開始した。22時05分に巡回点検中の職員が臭気を感じ、周囲を確認したところ、反応釜の還流配管(50A)に接続された40A配管から2-エチルヘキサノールが霧状に噴出しているのを発見した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()							
	関 連 原 因 維持管理不十分											
	発生原因の状況： 反応釜の還流配管に接続された分岐配管が腐食により開孔したもの。分岐配管は下流側が長期にわたりバルブにより閉止されており、還流配管を流れる危険物が滞留することで酸性残渣が堆積していた。この残渣により、濃淡電池が生じ配管の腐食が進行したと考えられる。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	腐食		環境		濃淡電池腐食（通気差電池腐食、すき間腐食等）							
	関連原因の詳細											
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順がない/文書化されない					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害						28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内に2-エチルヘキサノール約330L流出				
区分												
当 事 者	0	0	0	0								
防災活動従事者	0	0	0	0								
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 40A配管が開孔。				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	17 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	7 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）2-エチルヘキサノール約330L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	5 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人			
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)						
・ガス検知活動 ・警戒筒先配備 ・情報収集												
31 防災活動上の問題点												
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他					
	使用停止	年	月	日	年	月	日	令和元年11月18日		年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等		年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査		年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無					
その他	年	月	日	年	月	日	内容：					
35 今後の対策		腐食開孔した分岐配管は不要箇所であるため、本管を分岐の無いステンレス製の直管に交換した。発災箇所と同様に物質が滞留し内部腐食を引き起こす可能性のある箇所の点検、検査を行う。										
36 所 見		開孔箇所の分岐配管については撤去され、本管はステンレス製配管に交換が完了している。点検の水平展開も行われており、運転再開に支障はないと考える。										

1 事故名	接触改質装置のリアクター入口フランジから、ナフサを含有するガスが漏えいしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 13日 15時 15分	推定・ 確定	4 発 見	8月 13日 15時 15分	
5 覚 知	8月 13日 15時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 13日 17時 57分	
7 鎮火・処理完了	8月 13日 17時 57分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：3m/s 気温：33℃ 湿度：66%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、 貯 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：1 危険物 2 高压ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 ナフサ 1,351,400L 27,028倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 6,098,760L 30,493.8倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 添加剤 0L 0倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 添加剤 3,630L 3.63倍 第4類第4石油類 潤滑油 8,650L 1.44倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 添加剤 400L 0.2倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 添加剤 440L 0.22倍 第4類第4石油類 潤滑油 4,400L 0.73倍 倍数の合計： 57,528.02倍				
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所				
名 称：改質装置 番 号 (2109)	名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)				
能 力：154,151.027Nm ³ /H	材 質：特殊合金				
13 機 器 等	15 発 生 時				
温 度 圧 力：520℃、0.6MPa	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)				
名 称：その他 番 号 (999)	作 業 状 況： 番 号 ()				
規 模：高さ：32.15m	17 物 質 の 区 分				
14 発 生 箇 所	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、 気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類特殊引火物 名称：ナフサ含有ガス				
名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)	18 取 扱 者 の 概 要				
材 質：特殊合金	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
15 発 生 時	20 危 険 物 保 安 監 督 者				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
作 業 状 況： 番 号 ()	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い				
16 発生施設規制区分等	1. 有 ②. 無				
17 物質の区分	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
18 取扱者の概要	23 事 故 の 概 要： 接触改質装置のフランジからナフサを含有するガスが漏えいしたもの				
19 危険物保安統括管理者	24 緊急処置の状況 有 番号 () 無				

原 因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： フランジ部分の不均衡なボルト締めの結果、ガスケットが高温な蒸気に暴露され、ガスケットの質が低下したことにより、ナフサが漏えいしたものの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	施工不良		施工		ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいととも、空気拡散されてしまったため、拡大範囲にあつては不明。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ナフサ漏えい	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：			
そ の 他	年	月	日	年	月	日					
35 今後の対策 ・ガスケットの材質をタルクに変更。 ・フランジの施工を手締めから軸力管理に変更。											
36 所 見 施工方法に関しては、改めて見直す必要がある。											

1 事故名	製造所において、硫黄回収装置のサンプリングボックスの溶接部施工不良により硫黄が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 2日 10時 05分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	10月 2日 10時 05分	
5 覚 知	10月 2日 10時 08分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 2日 11時 13分	
7 鎮火・処理完了	10月 2日 11時 13分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東北東 風速：1.4m/s 気温：23.2℃ 湿度：57%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
12 施 設 装 置					区 分：①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区
13 機 器 等	温度圧力：140℃				16 発生施設規制区分等
名 称：硫黄回収装置 番号 (2110)	能 力：処理能力 152t/d				施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類硫黄 硫黄 662,278.4kg 6,622.78倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフ 10,340L 51.7倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,929,000L 4929倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 防錆剤 85L 0.09倍 第4類第4石油類 潤滑油 1,255L 0.21倍 第4類第4石油類 消泡剤 120L 0.02倍
14 発 生 箇 所	名 称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規 模：2インチ				設置の完成：昭和46年 6月 1日 直近の完成：令和2年 6月 30日 倍数の合計：11,603.8倍
15 発 生 時	名 称：その他の附属配管等 番号 (299) 材 質：鋼鉄				17 物 質 の 区 分
運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)	作 業 状 況： 番号 ()				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分 類：第2類硫黄 名称：硫黄(105kg)
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 当該装置の通常運転中、作業員が巡回点検をしていたところ、装置内ドラムのボトムラインにあるサンプリングボックスから、硫黄(第2類)が溢れ出て、固着しているのを発見したため、バルブを閉止し、配管破裂及び再流出のおそれもあることから、ジャケットスチームも停止した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

25	主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 腐食疲労等劣化									
	発生原因の状況： サンプリングボックス上流にあるサルファーシールレグ内の溶接部に開口が発生し、スチームが溶融硫黄内に流れ込み、溶融硫黄の温度及び粘度が低下し、サンプリングボックスより下流側配管を閉塞させサンプリングボックスからオーバーフローしたもの。開口した溶接部は十分な脚長を取れる構造になっていなかったため、設置時より肉厚が薄くなっていた。									
	主原因の詳細									
第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
施工不良		施工		溶接不良						
因	関連原因の詳細									
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内に硫黄が流出。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	16 人	物質の被害状況： 第2類硫黄105kg流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	7 台	0 隻	0 機	18 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) ・警戒筒先配備 ・ガス検知活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) ・警戒筒先配備 ・漏えい物の回収、除去				
31 防災活動上の問題点										
32	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年9月27日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/> 内容：		
35	今 後 の 対 策	サルファーシールレグを更新し、溶接部について十分な脚長もしくは開先を取れる構造とする。								
36	所 見	同様の構造のものについて、検査を実施し、脚長が不十分のものがあれば更新するよう水平展開を予定している。								

1 事故名	製造所の熱交換器修理工事後、増締め未実施によりフランジ部分から重油漏えいしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	11月 5日 9時 15分		
5 覚 知	11月 5日 9時 24分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 5日 9時 15分		
7 鎮火・処理完了	11月 9日 9時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：2m/s 気温：15℃ 湿度：47%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 144,000L 144倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 7,155,000L 3,577.5倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称：減圧蒸留装置 番号 (2102)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力：1日の処理能力7,155KL	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
13 機 器 等	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)				
温度圧力：290℃、1.62MPa	(低温、常温 [0-40℃]、高温)				
名 称：熱交換器 番号 (301)	分 類：第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：重油 (70L)				
規 模：外径 1,342mm	18 取扱者の概要				
14 発 生 箇 所	設置の完成：昭和47年 8月 26日 直近の完成：平成28年 10月 25日				
名 称：その他の機器等本体 番号 (199)	①. 選任有 2. 選任無				
材 質：鋼鉄	20 危険物 保安監督者				
15 発 生 時	21 危険物取扱者 の取扱・立会い				
運 転 状 況：スタートアップ中 番号 (2)	①. 有				
作 業 状 況： 番号 ()	2. 無				
19 危険物保安 統括管理者	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	23 事 故 の 概 要： 協力会社職員が、熱交換器の雨水防止カバーを取り付ける作業を控えていたため、作業前の確認に伴い現場へ訪れたところ熱交換器のシェルカバーから油が漏えいしているのを発見。協力会社職員は直ぐに製油所職員へ状況を伝え、製油所職員は現場確認に向かった。製油所職員が確認すると漏えい物は既に固化していたため、漏えい停止と判断。漏えい確認後速やかにポンプ吐出調整で減圧を行った。その後消防署へ覚知通報した。公設消防現場到着後、現場の安全性の確認を行いフランジ部分の増し締めを実施。熱交換器はシャットダウン工事が終了し、事故発生の日前から定常運用を始めるための準備に伴い施設を稼働させていたところであり、ホットボルディングは未実施の状態であった。				
20 危険物 保安監督者	24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止				
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					
21 危険物取扱者 の取扱・立会い					
①. 有 2. 無					

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 維持管理不十分										
	発生原因の状況： 当該熱交換器は250℃を超えるため、本来はホットボルディングを行う必要があったが、作業が実施されなかったためフランジ部分のボルトが緩み漏えいしたものである。ホットボルディングを実施しなかった理由は、事故発生の4年前に定期修理工事を実施しており、用途変更のため施設の改造を行った。施設の改造に伴い運転温度は250℃を超える温度に変更されたが、変更後の内容がメンテナンス情報に反映されていなかったためホットボルディングを実施する必要のある施設リストから漏れ落ちてしまった。リストに反映されていなかったことにより製油所職員や協力会社に情報が共有されず従前のとおり作業工程を組んだためホットボルディングは実施されなかったものと推定する。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	施工不良		施工		ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）						
	関連原因の詳細										
	管理		組織		記録		記録の更新がない				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分							被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えい面積 2.8㎡ 漏えい油深さ 2.5cm				
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：				
第 三 者	0	0	0	0			なし				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	94 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 重油 70L漏えい	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年5月3日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	年	月	日	年	月	日	内容：				
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 ホットボルディング実施リストの更新、メンテナンス要領の再検討、検討後周知徹底											
36 所 見 作業工程を決める段階で、過去に行った工事内容を確認し現在の施設の状況を把握していれば、作業の未実施は起きなかったのではないかと考える。											

1 事故名	製造所の20号タンクから屋内塗料製造固定タンクに移送する屋外配管の腐食進行によりワニスが流出																																																																
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()																																																																
3 発 生	11月 27日 12時 45分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	11月 27日 12時 52分																																																													
5 覚 知	12月 2日 10時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 27日 14時 30分																																																													
7 鎮火・処理完了	11月 27日 16時 00分																																																																
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()																																																																
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：3.2m/s 気温：12℃ 湿度：78%																																																																
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 油脂加工製 番 号 (1754) 品・石けん・合成洗剤・界面活性 剤・塗料製造業 塗料製造業																																																																
11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：																																																																
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数：																																																																
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	<table border="0"> <tr> <td><small>第2類前各号に掲げるもののいづれかを含有するもの(第1種可燃性固体)</small></td> <td>有機溶剤</td> <td>200kg</td> <td>2倍</td> </tr> <tr> <td><small>第2類前各号に掲げるもののいづれかを含有するもの(第2種可燃性固体)</small></td> <td>有機溶剤</td> <td>800kg</td> <td>1.6倍</td> </tr> <tr> <td>第2類引火性固体</td> <td>有機溶剤</td> <td>2,000kg</td> <td>2倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td> <td>有機溶剤</td> <td>226,663L</td> <td>1,133.32倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第1石油類(水溶性液体)</td> <td>有機溶剤</td> <td>1,991L</td> <td>4.98倍</td> </tr> <tr> <td>第4類7アルコール類</td> <td>有機溶剤</td> <td>4,099L</td> <td>10.25倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第2石油類(非水溶性液体)</td> <td>有機溶剤</td> <td>1,314,418L</td> <td>1,314.42倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第2石油類(水溶性液体)</td> <td>有機溶剤</td> <td>18,044L</td> <td>9.02倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第3石油類(非水溶性液体)</td> <td>有機溶剤</td> <td>41,036L</td> <td>20.52倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第3石油類(水溶性液体)</td> <td>有機溶剤</td> <td>2,445L</td> <td>0.61倍</td> </tr> <tr> <td>第4類第4石油類</td> <td>有機溶剤</td> <td>2,387.2L</td> <td>0.4倍</td> </tr> <tr> <td>第4類動植物油類</td> <td>有機溶剤</td> <td>65,480L</td> <td>6.55倍</td> </tr> <tr> <td>第5類有機過酸化物(第2種自己反応性物質)</td> <td>有機溶剤</td> <td>2,745kg</td> <td>27.45倍</td> </tr> <tr> <td>第5類-1化合物(第2種自己反応性物質)</td> <td>有機溶剤</td> <td>218kg</td> <td>2.18倍</td> </tr> <tr> <td>第5類7化合物(第2種自己反応性物質)</td> <td>有機溶剤</td> <td>100.2kg</td> <td>1倍</td> </tr> </table> 倍数の合計： 2,536.3倍					<small>第2類前各号に掲げるもののいづれかを含有するもの(第1種可燃性固体)</small>	有機溶剤	200kg	2倍	<small>第2類前各号に掲げるもののいづれかを含有するもの(第2種可燃性固体)</small>	有機溶剤	800kg	1.6倍	第2類引火性固体	有機溶剤	2,000kg	2倍	第4類第1石油類(非水溶性液体)	有機溶剤	226,663L	1,133.32倍	第4類第1石油類(水溶性液体)	有機溶剤	1,991L	4.98倍	第4類7アルコール類	有機溶剤	4,099L	10.25倍	第4類第2石油類(非水溶性液体)	有機溶剤	1,314,418L	1,314.42倍	第4類第2石油類(水溶性液体)	有機溶剤	18,044L	9.02倍	第4類第3石油類(非水溶性液体)	有機溶剤	41,036L	20.52倍	第4類第3石油類(水溶性液体)	有機溶剤	2,445L	0.61倍	第4類第4石油類	有機溶剤	2,387.2L	0.4倍	第4類動植物油類	有機溶剤	65,480L	6.55倍	第5類有機過酸化物(第2種自己反応性物質)	有機溶剤	2,745kg	27.45倍	第5類-1化合物(第2種自己反応性物質)	有機溶剤	218kg	2.18倍	第5類7化合物(第2種自己反応性物質)	有機溶剤	100.2kg	1倍
<small>第2類前各号に掲げるもののいづれかを含有するもの(第1種可燃性固体)</small>	有機溶剤	200kg	2倍																																																														
<small>第2類前各号に掲げるもののいづれかを含有するもの(第2種可燃性固体)</small>	有機溶剤	800kg	1.6倍																																																														
第2類引火性固体	有機溶剤	2,000kg	2倍																																																														
第4類第1石油類(非水溶性液体)	有機溶剤	226,663L	1,133.32倍																																																														
第4類第1石油類(水溶性液体)	有機溶剤	1,991L	4.98倍																																																														
第4類7アルコール類	有機溶剤	4,099L	10.25倍																																																														
第4類第2石油類(非水溶性液体)	有機溶剤	1,314,418L	1,314.42倍																																																														
第4類第2石油類(水溶性液体)	有機溶剤	18,044L	9.02倍																																																														
第4類第3石油類(非水溶性液体)	有機溶剤	41,036L	20.52倍																																																														
第4類第3石油類(水溶性液体)	有機溶剤	2,445L	0.61倍																																																														
第4類第4石油類	有機溶剤	2,387.2L	0.4倍																																																														
第4類動植物油類	有機溶剤	65,480L	6.55倍																																																														
第5類有機過酸化物(第2種自己反応性物質)	有機溶剤	2,745kg	27.45倍																																																														
第5類-1化合物(第2種自己反応性物質)	有機溶剤	218kg	2.18倍																																																														
第5類7化合物(第2種自己反応性物質)	有機溶剤	100.2kg	1倍																																																														
能 力： 指定数量2,536倍	設置の完成： 昭和 39年 11月 13日 直近の完成： 令和 2年 8月 20日																																																																
13 機 器 等	温度圧力：																																																																
名 称： その他 番 号 (999)	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： ワニス(10L)																																																																
規 模： SGP50A	18 取扱者の概要																																																																
14 発 生 箇 所	19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者																																																																
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)	21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無																																																																
材 質： 鋼鉄	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無																																																																
15 発 生 時	23 事故の概要： 事業所内通路上空の配管の下を通ったフォークリフト運転手が、樹脂溶液の細い液垂れを発見したことから、直ちに、漏えい防止の措置をし、受容液(ドラム缶)で約10Lを回収したもの。当該配管の保温材を剥がしたところ、直径約5mmのピンホールを確認した。配管の経年劣化による腐食が主な原因と考えられ、配管には保温材が巻かれており、目視による点検が出来ていなかったために、漏えい前に発見することができなかった。なお、消防機関への覚知は、後日当該漏えいした配管を取り替えた旨の相談があり発覚したものである。																																																																
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止																																																																
作 業 状 況： 番 号 ()																																																																	

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 当該配管の保温材を剥がしたところ、サポート部至近の直径計5mmのピンホールから漏えいしていたことが確認された。ピンホールの周囲は腐食が進行していた。 漏えい箇所は、屋外の横引き部で、サポート付近は特に雨水が溜まりやすい構造となっており、腐食が進行し、樹脂溶液移送時の送液ポンプによる振動が加わったことにより漏えいしたものと考えられる。 当該配管は、設置時から保温材が被覆されており、配管の点検は保温材の上部からの外観の目視によるもので配管本体は確認できる状況ではなかった。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外敷地内に第4類第2石油類（非水溶性）ワニス10L漏えい		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 危険物送油配管に直径約5mmのピンホールが発生。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	1 人	物質の被害状況： 第4類第二石油類（非水溶性）ワニス10L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)					
31 防災活動上の問題点 漏えい発見時には消防機関に通報せず、後日漏えいした配管の改修について相談があり発覚した。										
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		令和2年6月1日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無		
その他	年 月 日	年 月 日				内容：				
35 今後の対策 保温で覆われた機器及び配管の腐食に関するリスク評価をし、点検する頻度、内容を決め順次点検を始めていたが、今回の事故を受け評価方法を見直し、優先順位や内容を再定義した点検プログラムを展開し、早期発見及び必要に応じて補修することで再発防止とする。										
36 所 見 ・保温材で巻かれている配管については、目視点検では確認できないため、機器及び配管の腐食に関するリスク評価を行い、順次配管を点検するように指導。 ・通報を速やかに行うように訓練を行うよう指導。										

1 事故名	脱硫装置に設置された熱交換器のシェル側入口フランジのボルトが緩み水素と重質軽油が漏えい		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	12月 16日 10時 38分
5 覚 知	12月 16日 10時 45分	6 鎮 圧 応急処置完了	12月 17日 10時 30分
7 鎮火・処理完了	12月 21日 12時 00分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南西 風速：1m/s 気温：9℃ 湿度：46%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分：1 危険物 2 高压ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフ 350,000L 1,750倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 添加剤 430L 0.43倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 4,800,000L 2,400倍 第4類第4石油類 重質軽油 9,190L 1.53倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 4,151.96倍		
名 称：水添脱硫装置 番 号 (2108)	設置の完成：昭和47年 10月 5日 直近の完成：平成31年 3月 20日		
能 力：5,088KL/d	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重質軽油(5.7L)		
名 称：熱交換器 番 号 (301)	18 取扱者の概要		
規 模：全長7,874mm、外径1,251mm	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)	①. 有 2. 無		
材 質：鋼鉄			
15 発 生 時			
運 転 状 況：スタートアップ中 番 号 (2)			
作 業 状 況： 番 号 ()			
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 定期修理工事が完了し定常運転を行っていた際、他の装置に不具合が起こったため発災装置を緊急停止させた。その後、他の装置の不具合解消に伴い、発災装置もスタートアップを開始したが、発災装置に不具合が発生したため発災装置を緊急停止させる作業を開始した。従業員は停止作業に係る現場確認のため発災場所付近に至ると、熱交換器から漏えいしているガスと油を発見した。直ちにフランジ部に設置された冷却用スチーム噴射装置を起動、続いて装置の圧力を低下させる操作を実施し119番通報を行った。装置の圧力低下操作により漏えいは停止した。参集した自衛防災組織は装置内の水素を除去するため窒素パージ作業を行った。現着した公設消防は装置の配管の一部に使用制限命令を発動した。水素を除去後、フランジ部分のナットを増し締めし圧力試験を行ったが、漏れは解消できなかった。このため、装置内の滞留油を除去しフランジを開放、ガスケットを交換し復旧させた。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他			

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： ガスケットが新品の場合、フランジとガスケットは面全体が均一に密着し密封を保つこととなる。 フランジを開放し点検した結果、フランジの面とガスケットの面の間にはすき間が見られ面の全てが均一に密着していなかったが、密着面は存在し定常運転中の密封は確保されていた。しかし、装置の緊急停止の際に発生した急激な温度と圧力の変化に伴い、フランジのボルトが緩みフランジとガスケットの面圧が低下し、漏えいに至ったと推定。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	故障		機能		機器の異常動作						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 重質軽油は霧状に噴出し熱交換器に付着、水素ガスは大気に拡散した。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	19 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	146 人	物質の被害状況： 第四類 第三石油類 重質軽油 5.7L流出 水素ガス 流出量不明	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名 製造所											
行政措置	使用停止	令和2年12月16日			年	月	日	33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年	月	日	定期・自主点検	令和2年5月3日		年 月 日
	停止解除	令和2年12月21日			年	月	日	気密試験等	年 月 日		年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項							保安検査	年 月 日	
その他	年 月 日			年 月 日				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：	
35 今後の対策		発災フランジのガスケットを交換。 フランジ締結時に片締めが起こらないように、手締めからトルク管理方式に変更。									
36 所 見		ガスケット等消耗部品の交換時期を見直す必要がある。									

1 事故名	異常時に緊急冷却溶剤のボタンを押し忘れたことによる危険物（樹脂）の流出																																																																																			
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）																																																																																			
3 発 生	3月 10日 22時 50分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 10日 22時 50分																																																																																
5 覚 知	3月 13日 13時 25分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 11日 3時 00分																																																																																
7 鎮火・処理完了	3月 13日 16時 00分																																																																																			
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他（ ）																																																																																			
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南西 風速：7.2m/s 気温：13.2℃ 湿度：79%																																																																																			
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所																																																																																			
種 別： 業 態：	1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)		区 分：①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他）																																																																																	
	製造業 化学工業 その他の化 番号（1794） 学工業 ゼラチン・接着剤製造業		特別防災地区名：																																																																																	
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等																																																																																			
名 称： 能 力：	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所																																																																																			
	類・品名・名称・数量・倍数： <table border="0"> <tr><td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td><td>トルエン</td><td>10,000L</td><td>50倍</td></tr> <tr><td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td><td>酢酸エチル</td><td>20,000L</td><td>100倍</td></tr> <tr><td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td><td>アクリル酸エチル</td><td>5,000L</td><td>25倍</td></tr> <tr><td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td><td>アクリル酸メチル</td><td>5,000L</td><td>25倍</td></tr> <tr><td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td><td>アクリル酸メチル</td><td>10,000L</td><td>50倍</td></tr> <tr><td>第4類第1石油類(非水溶性液体)</td><td>アクリル樹脂粘着剤</td><td>30,000L</td><td>150倍</td></tr> <tr><td>第4類第1石油類(水溶性液体)</td><td>アセトン</td><td>4,000L</td><td>10倍</td></tr> <tr><td>第4類第2石油類(非水溶性液体)</td><td>アクリル酸n-ブチル</td><td>1,000L</td><td>1倍</td></tr> <tr><td>第4類第2石油類(非水溶性液体)</td><td>アクリル酸i-ブチル</td><td>3,000L</td><td>3倍</td></tr> <tr><td>第4類第2石油類(非水溶性液体)</td><td>アクリル酸n-ヘキシル</td><td>5,000L</td><td>5倍</td></tr> <tr><td>第4類第2石油類(非水溶性液体)</td><td>アセトン</td><td>5,000L</td><td>5倍</td></tr> <tr><td>第4類第2石油類(非水溶性液体)</td><td>ターペン</td><td>10,000L</td><td>10倍</td></tr> <tr><td>第4類第2石油類(非水溶性液体)</td><td>IPホルバント1620</td><td>1,000L</td><td>1倍</td></tr> <tr><td>第4類第3石油類(非水溶性液体)</td><td>合成樹脂グラー塗料</td><td>15,000L</td><td>15倍</td></tr> <tr><td>第4類第3石油類(非水溶性液体)</td><td>アクリル酸2エチルヘキシル</td><td>20,000L</td><td>10倍</td></tr> <tr><td>第4類第3石油類(非水溶性液体)</td><td>アクリル酸2エチルヘキシル</td><td>5,000L</td><td>2.5倍</td></tr> <tr><td>第4類第3石油類(非水溶性液体)</td><td>アクリル酸シクロヘキシル</td><td>5,000L</td><td>2.5倍</td></tr> <tr><td>第4類アルコール類</td><td>メチルアルコール</td><td>1,200L</td><td>3倍</td></tr> <tr><td>第4類アルコール類</td><td>n-ブチルアルコール</td><td>6,000L</td><td>15倍</td></tr> <tr><td>第5類アゾ化合物(第2種自己反応性物質)</td><td>アゾビスイソブチロニトリル</td><td>1,200kg</td><td>12倍</td></tr> </table>					第4類第1石油類(非水溶性液体)	トルエン	10,000L	50倍	第4類第1石油類(非水溶性液体)	酢酸エチル	20,000L	100倍	第4類第1石油類(非水溶性液体)	アクリル酸エチル	5,000L	25倍	第4類第1石油類(非水溶性液体)	アクリル酸メチル	5,000L	25倍	第4類第1石油類(非水溶性液体)	アクリル酸メチル	10,000L	50倍	第4類第1石油類(非水溶性液体)	アクリル樹脂粘着剤	30,000L	150倍	第4類第1石油類(水溶性液体)	アセトン	4,000L	10倍	第4類第2石油類(非水溶性液体)	アクリル酸n-ブチル	1,000L	1倍	第4類第2石油類(非水溶性液体)	アクリル酸i-ブチル	3,000L	3倍	第4類第2石油類(非水溶性液体)	アクリル酸n-ヘキシル	5,000L	5倍	第4類第2石油類(非水溶性液体)	アセトン	5,000L	5倍	第4類第2石油類(非水溶性液体)	ターペン	10,000L	10倍	第4類第2石油類(非水溶性液体)	IPホルバント1620	1,000L	1倍	第4類第3石油類(非水溶性液体)	合成樹脂グラー塗料	15,000L	15倍	第4類第3石油類(非水溶性液体)	アクリル酸2エチルヘキシル	20,000L	10倍	第4類第3石油類(非水溶性液体)	アクリル酸2エチルヘキシル	5,000L	2.5倍	第4類第3石油類(非水溶性液体)	アクリル酸シクロヘキシル	5,000L	2.5倍	第4類アルコール類	メチルアルコール	1,200L	3倍	第4類アルコール類	n-ブチルアルコール	6,000L	15倍	第5類アゾ化合物(第2種自己反応性物質)	アゾビスイソブチロニトリル	1,200kg
第4類第1石油類(非水溶性液体)	トルエン	10,000L	50倍																																																																																	
第4類第1石油類(非水溶性液体)	酢酸エチル	20,000L	100倍																																																																																	
第4類第1石油類(非水溶性液体)	アクリル酸エチル	5,000L	25倍																																																																																	
第4類第1石油類(非水溶性液体)	アクリル酸メチル	5,000L	25倍																																																																																	
第4類第1石油類(非水溶性液体)	アクリル酸メチル	10,000L	50倍																																																																																	
第4類第1石油類(非水溶性液体)	アクリル樹脂粘着剤	30,000L	150倍																																																																																	
第4類第1石油類(水溶性液体)	アセトン	4,000L	10倍																																																																																	
第4類第2石油類(非水溶性液体)	アクリル酸n-ブチル	1,000L	1倍																																																																																	
第4類第2石油類(非水溶性液体)	アクリル酸i-ブチル	3,000L	3倍																																																																																	
第4類第2石油類(非水溶性液体)	アクリル酸n-ヘキシル	5,000L	5倍																																																																																	
第4類第2石油類(非水溶性液体)	アセトン	5,000L	5倍																																																																																	
第4類第2石油類(非水溶性液体)	ターペン	10,000L	10倍																																																																																	
第4類第2石油類(非水溶性液体)	IPホルバント1620	1,000L	1倍																																																																																	
第4類第3石油類(非水溶性液体)	合成樹脂グラー塗料	15,000L	15倍																																																																																	
第4類第3石油類(非水溶性液体)	アクリル酸2エチルヘキシル	20,000L	10倍																																																																																	
第4類第3石油類(非水溶性液体)	アクリル酸2エチルヘキシル	5,000L	2.5倍																																																																																	
第4類第3石油類(非水溶性液体)	アクリル酸シクロヘキシル	5,000L	2.5倍																																																																																	
第4類アルコール類	メチルアルコール	1,200L	3倍																																																																																	
第4類アルコール類	n-ブチルアルコール	6,000L	15倍																																																																																	
第5類アゾ化合物(第2種自己反応性物質)	アゾビスイソブチロニトリル	1,200kg	12倍																																																																																	
13 機 器 等	温度圧力：107℃																																																																																			
名 称： 規 模：	設置の完成：昭和63年12月3日 直近の完成：平成31年3月4日																																																																																			
	番号（102）																																																																																			
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分																																																																																			
名 称： 材 質：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他																																																																																			
	(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第5類アゾ化合物(第2種自己反応性物質) 名称：アゾビスイソブチロニトリル 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン																																																																																			
15 発 生 時	18 取扱者の概要 経験年数15年																																																																																			
運 転 状 況： 作 業 状 況：	番号（1）		番号（10）																																																																																	
	番号（299）		番号（102）																																																																																	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無																																																																															
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有																																																																																				
23 事故の概要： 作業員が異常に気付き緊急冷却のため、非常停止ボタンは押したが、緊急冷却溶剤を投入するボタンを押し忘れたため反応槽の内温が上昇し、突沸した樹脂がダクト等を通り施設内及び屋外タンクの防油堤内に約1,000L流出した。施設、設備への影響はない。																																																																																				
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号（1） 無 装置の緊急停止																																																																																				

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 作業員が異常時の冷却作業の工程で、緊急冷却溶剤の投入ボタンを押し忘れた。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		知識		忘れる				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 製造所内及び屋外タンク貯蔵所の防油堤内			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								施設等の被害状況： なし			
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻			0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻			0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻			0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻			0 機	0 人
物質の被害状況： アゾビスイソプロピロニトリル、トルエン、アセトン、アクリル酸2エチルヘキシル 流出(流出量不明)								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和 2 年 2 月 18 日	令和 2 年 3 月 13 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			<input checked="" type="checkbox"/> ・無			
その他	年 月 日	年 月 日		内容： 法第10条第3項 貯蔵及び取扱いの基準違反 法第16条の3第2項 事故発生時の通報義務違反							
35 今後の対策	(暫定対策) ・モノマー混合槽添加開始後30分間の監視の徹底、処方の手順化及び確実な確認、緊急冷却溶剤投入方法の再教育 (恒久対策) ・処方の変更、モノマー混合槽添加開始30分間のジャケット温度を+5℃に仮設定する、添加スケジュールの見直し及び設定変更、インターロックの設定の検討										
36 所 見	今後は危険物施設での事故等が発生した場合には速やかに消防機関及び関係機関に通報すると共に危険物による災害防止のために必要な措置を取るよう命じた。										

1 事故名	タンクへ仕込み作業後、バルブを閉め忘れたまま運転したため、仕込みラインから危険物が工場内に流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	2月 20日 9時 20分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見
5 覚 知	2月 20日 9時 45分		2月 20日 9時 24分
7 鎮火・処理完了	2月 20日 9時 57分		6 鎮 圧 応急処置完了
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：2m/s 気温：8.2℃ 湿度：78%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 業 態：	区 分： 特別防災地区名：		
1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化 学工業製品製造業	①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称：屋内タンク 番号 (1208)	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸ビニルモノマー、 24, 216L 121.08倍 トルエン、酢酸エチル、アクリル酸エチルエステル、メタクリル酸メチル アセトン 4, 450L 11.13倍 第4類アルコール類 イソプロピルアルコール、 14, 054L 35.14倍 メタノール、アルコール 第4類第2石油類(非水溶性液体) メタクリル酸シブチル 48, 626L 48.63倍 アミノエチル、アクリル酸ブチルエステル、スチレン、ターペン 第4類第2石油類(水溶性液体) 80%メタクリル酸、 15, 080L 7.54倍 PGM、無水酢酸 第4類第3石油類(非水溶性液体) アクリル酸2-ヒドロ 129L 0.06倍 キシエチル、メタクリル酸2-エチルヘキシル 第5類前各号に掲げるもののいずれかを 16%アセチルパーオキ 220kg 22倍 含有するもの(第1種自己反応性物質) サイト溶液 第5類前各号に掲げるもののいずれかを アブビスイソブチロニトリル 150kg 1.5倍 含有するもの(第2種自己反応性物質) 倍数の合計： 247.08倍		
能 力：2,300L	設置の完成：昭和 36年 5月 16日 直近の完成：平成 29年 10月 30日		
13 機 器 等	17 物 質 の 区 分		
名 称：貯槽 (タンク) 番号 (107)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：メタクリル酸メチル(1.3L) 第4類第2石油類 (非水溶性液体) アクリル酸ブチルエステル(8.4L) 第4類第3石油類 (水溶性液体) 2-ヒドロキシエチルアクリレート(3.3L)		
規 模：直径1,600mm、高さ1,500mm、容量2,300L	18 取扱者の概要 経験年数10年		
14 発 生 箇 所	19 危険物保安 統括管理者		
名 称：その他の附属配管等 番号 (299)	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
材 質：ステンレス	20 危険物 保安監督者		
15 発 生 時	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)	21 危険物取扱者 の取扱・立会い		
作 業 状 況：運転操作中 番号 (1)	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要：	3種類の危険物を滴下タンクに入れ、タンク内の危険物を循環ポンプを使用し混合させる作業工程中、仕込みラインのバルブを閉め忘れたまま運転させたため、タンク内の危険物が仕込みラインから工場内に約13L漏えいした事故		
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無	装置の緊急停止		

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 3種類の危険物を滴下タンクに入れ、タンク内の危険物を循環ポンプを使用し混合させる作業工程中、仕込みラインのバルブを閉め忘れたまま運転させたため、タンク内の危険物が仕込みラインから工場内に約13L漏えいした。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 工場内			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： メタクリル酸メチル 1.3L アクリル酸ブチルエステル 8.4L 2-ヒドロキシエチルアクリレート 3.3L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	3 台	0 隻	0 機	9 人		
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和元年6月3日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
34	その他	年 月 日			年 月 日			当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：	
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策											
・仕込み配管ラインを循環ラインから切り離して単独ラインとして敷設する ・従業員に対し、危険物の取扱い工程について再教育の実施											
36 所 見											
今回の事故は人的要因に起因する事故である。人的要因の介入がなくなるように設備、取扱工程等の見直しが必要であるため、事故が起きにくい作業環境への改善及び作業員に対する保安教育の徹底を指導。											

1 事故名	製造所において、開閉弁の誤操作により配管から噴出した危険物を浴び作業員1名が化学熱傷を負った流出事故					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	1月 22日 9時 50分	推定・ 確定	4 発 見	1月 22日 9時 50分		
5 覚 知	1月 24日 10時 17分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 22日 10時 30分		
7 鎮火・処理完了	1月 22日 10時 45分					
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速：1.7m/s 気温：10℃ 湿度：96%					
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化 学工業製品製造業			11 発 生 場 所		
12 施 設 装 置	名 称： その他【有機化学工業】 番 号 (5999) 能 力： 1,500L			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン、メチルエチルケトン、メタクリル酸メチル、 8,662L 43.31倍 n-ヘプタン、酢酸エチル、メチルイソブチルケトン、クロルタンジエチル アセトン、トリエチルアミン、テトラヒドロフラン 13,544L 33.86倍 第4類アルコール類 エタノール、メタノール、イソプロピルアルコール、n-ブタノール 2,040L 5.1倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 無水酢酸、キレン、メキソプロピルアセテート、 240L 0.24倍 スチレン、プロピレン、リコールモノプロピルエーテル、n-ブチルメタクリレート 第4類第2石油類(非水溶性液体) エチルヘキシルメタクリレート 60L 0.06倍 第4類第2石油類(水溶性液体) プロピレングリコールモノメチルエーテル、 700L 0.35倍 1-メトキシ-2-プロパノール、ジメチルホルムアミド、氷酢酸、ジエチングリコール、メチルエチル 第4類第3石油類(非水溶性液体) サルチルアルデヒド、メタクリル酸シクロヘキシル、 23L 0.01倍 2-メチルプロピルケトン、メタクリル酸2-メチルプロピル、トリブチルアミン、3-メトキシプロピルエーテル 第4類第3石油類(非水溶性液体) α-メチルスチレン、イマ、トリシクロヘキシル 23L 0.01倍 メタクリレート、ビニルピリジン酸メチル 第4類第3石油類(水溶性液体) メルカプト酢酸、γ-ブチロラクトン、メタクリル酸、 2,883L 0.72倍 メタクリル酸2-ヒドロキシエチル、80%スチレンラジカル、N-メチルピロリドン 倍数の合計： 83.66倍 設置の完成：平成6年11月11日 直近の完成：平成28年12月2日		
13 機 器 等	温度圧力：0.15MPa 名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： タンクの上部に接続する配管直径20mm、高さ300mm			17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：キレン(10L)		
14 発 生 箇 所	名 称： 開閉弁 番 号 (204) 材 質： ステンレス			18 取扱者の概要 経験年数3年		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)			19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無						
23 事 故 の 概 要： (1) 1階にあるポンプ設備を使用し2階にある反応缶に危険物を送油していた。 (2) 2階にいた作業員が反応缶につながる配管のプラグ、開閉弁を操作していたが、開放したままその場を離れたため1階の作業員が送油を開始した際に危険物が噴出する。 (3) 2階にいた作業員が噴出した危険物を浴び化学熱傷を負う。 (4) 1階の作業員が送油を停止する。負傷者は浴びた危険物を洗い流しに行く。噴出した危険物を回収する。 (5) 一般加入電話により覚知する。 (6) 作業員1名が軽度の化学熱傷を負う。						
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止						

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()														
	関連原因																		
	発生原因の状況： 1階にあるポンプ設備を使用し2階にある反応缶に危険物を送油していた。2階にいた作業員が反応缶につながる配管のプラグ、開閉弁を操作していたが、誤って開閉弁を開放したままにしていたところ、1階の作業員が送油を開始した際に危険物が噴出する。																		
	主原因の詳細																		
	第I層		第II層		第III層		第IV層												
	人		本人の意識		思慮		不注意												
	人		本人の意識		思慮		思い込み												
	人		本人の意識		思慮		過信												
	関連原因の詳細																		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																			
27 人的被害						28 物的被害													
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 危険物を浴びたことにより作業員1名が軽傷を負う。 流出は建屋内機器周辺にとどまり、それ以上の拡大は無し。					
区分																			
当 事 者		0		0		0		1		化学熱傷		作業員							
防災活動従事者		0		0		0		0						施設等の被害状況： 特になし					
第 三 者		0		0		0		0											
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																			
消 防 機 関		0 台 0 隻 0 機 0 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）キシレン 10L噴出											
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人													
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人													
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)											
30 実施した防災活動の状況																			
公設消防機関：番号 ()							自衛防災・消防組織等 番号 ()												
31 防災活動上の問題点 事故が発生してから2日後に一般加入電話により消防へ通報があった。通常事故があった場合には直ちに消防機関へ通報するべきであり、今回それを怠ったことは問題である。機器取扱い時の確認や手順に関する指導の徹底及び通報に関する教育訓練が不足していたと感じる。																			
32 施設名		製造所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他									
使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 元 年 11 月 22 日		年 月 日									
改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日									
停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日									
関係条項						34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>											
その他		警告：法第16条の3第2項 事故発生時の通報義務違反 令和 2 年 3 月 2 日		年 月 日		内容：													
①. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭																	
35 今後の対策		従業員のマシナリ操作時の教育の実施。通報に関してフローチャートを作成し教育する。																	
36 所 見		作業開始時に指差し呼称等の確認を行うことを指導する。通報に関して遅延がなくなるように教育を実施することを指導する。																	

1 事故名		製造所附属の熱交換器から、ボルトの締付け不良によりナフサが流出した事故							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定			4 発 見		8月 19日 22時 19分		
5 覚 知		8月 19日 22時 20分			6 鎮 圧 応急処置完了		8月 20日 2時 04分		
7 鎮火・処理完了		8月 20日 3時 15分							
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()							
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：南東		風速：1m/s		気温：28℃ 湿度：94%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所					
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区					
12 施 設 装 置				16 発生施設規制区分等					
名 称：水添脱硫装置 番 号 (2108) 能 力：3,828,257Nm ³ /d				施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ等 34,781,777L 173,908.89倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 16,325,790L 16,325.79倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 汚れ防止剤 997L 0.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 7,430,398L 3,715.2倍 第4類第4石油類 潤滑油 82,654L 13.78倍 第2類硫黄 硫黄 152,000kg 1,520倍 第4類第3石油類(水溶性液体) 7シ 99L 0.02倍					
13 機 器 等				温度圧力：204℃、3.2MPa					
名 称：熱交換器 番 号 (301) 規 模：直径 1,100mm長さ 8,171mm処理量 100KL/h				倍数の合計：195,484.18倍 設置の完成：昭和48年 8月 13日 直近の完成：令和2年 6月 19日					
14 発 生 箇 所				17 物 質 の 区 分					
名 称：その他 番 号 (999) 材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加压]) (低温、常温 [0-40℃]、[高温]) 分 類：第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：ナフサ(253L)					
15 発 生 時				18 取扱者の概要					
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()				①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
								①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無									
23 事故の概要： 現場点検員が日常点検中に熱交換器シェルカバーフランジ締結部からナフサが流出しているのを発見し通報したもの									
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他									

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 事故が発生した熱交換器は、令和2年6月に定期点検（内部清掃等）を実施しており、令和2年7月から運転を再開していた。当該熱交換器はスタートアップ時に可燃性ガスの微量な漏れが確認されたため増し締めを実施した。その際に締め付けトルクの確認やフランジ面間の確認まではしなかった。（フランジ締結部に不均一が生じ、締結部が緩みやすい状況になっていた） 8月14日の定常運転時に運転変動（一時的な圧力変動及び温度上昇）が発生し、その影響で徐々に締結部が緩くなり流出に至ったと推定される。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	施工不良		施工		ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ナフサが熱交換器下部及び大気に約253L流出。 施設等の被害状況： ナフサが熱交換器下部及び大気に約253L流出。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	56 人	物質の被害状況： ナフサが約253L流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text" value=""/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動を実施。				自衛防災・消防組織等 番号 (99) 災害対策本部の設置及び車両配備等による二次災害防止活動を実施。						
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年10月18日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策	熱交換器における増し締めを実施した際は、面間測定を行い締結部が不均一にならないよう対応するとともに手順等に反映する。 運転変動があった場合はフランジ部のガス検知を実施する。									
36 所見	改善内容を確実に履行すること及び類似箇所の水平展開を行うことを指導する。 主原因は施工不良だが、増し締めをすることで締結部が不均一になるリスクがあることを知りつつも施工後のフランジ面間の確認が手順に入っていない等、リスクの評価やその対応に問題があった。それらの問題点について適切に対応するように指導する。									

1 事故名	製造所において、ボルト固定時の確認不十分により廃ラッカー蒸発缶から廃溶剤が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	1月 23日 10時 45分 推定・ 確定	4 発 見	1月 23日 10時 45分
5 覚 知	1月 23日 11時 01分	6 鎮 圧 応急処置完了	1月 23日 11時 00分
7 鎮火・処理完了	1月 23日 16時 00分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東北東 風速：3m/s 気温：9.7℃ 湿度：96.9%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 プラスチック製品製造 番 号 (1921) 業 (別掲を除く) プラスチックフィルム・シート・床材・合成皮革製造業 プラスチックフィルム製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 35,328L 176.64倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) メチルエチルケトン 54,988L 274.94倍 第4類第1石油類(水溶性液体) テトラヒドロフラン 63,283.2L 158.21倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 609.79倍		
名 称： 常圧蒸留装置 番 号 (2101)	設置の完成： 昭和 50年 11月 18日 直近の完成： 令和 元年 6月 11日		
能 力：	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等 温度 圧 力：	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： メチルエチルケトン等(廃溶剤)(70L)		
名 称： 蒸発機、サイクロン 番 号 (909)	18 取扱者の概要 経験年数4年		
規 模： 内径1,600mm	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
名 称： マンホール 番 号 (305)	23 事 故 の 概 要： 事故発生2日前に廃ラッカー蒸発缶のマンホールフランジの転落防止のために取り付けた鎖が、フランジ間に挟まったままボルト固定したため、通常運転中に当該フランジ部分から廃溶剤が噴き出し防油堤内及び油分離槽に約70L流出したものである。		
材 質： ステンレス			
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況： 原料仕込み中 番 号 (15)			

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： マンホールフランジの転落防止のために取り付けした鎖をフランジ間に挟まったままボルト固定したため隙間が生じたもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設防油堤内及び油分離槽に流出。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 廃ラッカー液（トルエン、メチルエチルケトン、テトラヒドロフラン）約70L流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
現場調査										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	製造所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和元年5月11日	年 月 日
	改善命令等	令和2年	1月	23日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	消防法第11条の5第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容：		
その他	令和2年	1月	23日	年	月	日				
1. 文書 ②. 口頭 1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策										
<ul style="list-style-type: none"> ・危険物取扱作業に従事する者は、危険物取扱者の立会いがない場合、作業させない。 ・危険物取扱作業の機械・設備に長年慣れた者であっても、免状を持っていない場合、可能な限り免状の取得を義務付ける。 ・危険物取扱作業に入る前に、危険物保安監督者と作業員による入念な安全点検の徹底を図る。 ・安全対策で取り付けした鎖を除去し、吊りボルトに設置しているシャックルのピンを溶接固定し転落防止を図る。 										
36 所 見										
<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年から今回を含めて9度の漏えい事故等を起こしていることから、工場長を含めた幹部職員に対して、厳しく再発防止対策を議論するよう指導した。 ・危険物を取り扱っている意識が乏しく、漏えい事故を起こしても切迫感、危機感が感じられないため、厳しく対処する必要がある。 										

1 事故名	高級潤滑油調合装置の加温庫において、誤操作によりドラム缶を破損させ油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 18日 10時 30分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	2月 18日 14時 10分	
5 覚 知	2月 18日 14時 19分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 18日 14時 12分	
7 鎮火・処理完了	2月 18日 17時 15分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：3m/s 気温：8℃ 湿度：52.1%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (<input type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 和歌山北部臨海南部	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：潤滑油製造装置 番 号 (2114)	能 力：		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,000L 2倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油添加剤 500,000L 250倍 第4類第4石油類 潤滑油添加剤 750,000L 125倍	倍数の合計： 377倍	
13 機 器 等	温度圧力：80℃		設置の完成：昭和39年12月31日 直近の完成：令和元年8月30日		
名 称：ドラム等容器 番 号 (201)	規 模：ドラム缶(直径58cm、高さ88cm、容量200L)		17 物質の区分		
14 発 生 箇 所	名 称：容器本体 番 号 (108)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input type="checkbox"/> 液相、気相) (<input type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input type="checkbox"/> 高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：潤滑油添加剤(84L)		
材 質：鋼鉄	15 発 生 時		18 取扱者の概要 経験年数1年		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
	20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： クランプリフトでドラム缶を加温装置内に入れたとき、操作ミスによりドラム缶に傷をつけ油が流出する。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input type="checkbox"/> 無					

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： クランプリフトの爪先部分にてドラム缶を奥に押し込んだ際、爪先の金属部分がドラム缶に接触し穴が開き漏えいに至った。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		技能・技術力		経験不足/習熟不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 加温装置ピット内に油滞留			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： ドラム缶 一個損傷			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 第3石油類 潤滑油添加剤 84L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (3 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 付近の警戒実施						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 油回収作業					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日	定期・自主点検	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日	保安検査	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
35 今後の対策	その他 年 月 日				年 月 日				<ul style="list-style-type: none"> ・クランプリフトで加温庫に押し込む作業は禁止し人力で押し込むこととする。 ・搬入時にドラム缶に穴等の異常がないか確認する。 ・作業実施者に手順書の内容を教育する。 		
36 所見	所見なし										

1 事故名	芳香族製造装置のポンプと配管の接続部分から外面腐食によりキシレンが流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	4月 9日 17時 45分		
5 覚 知	4月 9日 17時 59分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 9日 19時 45分	
7 鎮火・処理完了	4月 9日 19時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：3m/s 気温：14.6℃ 湿度：44.3%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (<u>製</u>)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 和歌山北部臨海南部				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 揮発油 5,250,000L 26,250倍 第4類アルコール類 メタノール 10,000L 25倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 12,000L 6倍 第4類第4石油類 潤滑油 300,000L 50倍 倍数の合計： 26,331倍				
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所				
名 称：ベンゼン・トルエン・キシレン (BTX) 製造装置 番 号 (5401) 能 力：処理量 17,069,429Nm ³ /d	設置の完成： 昭和 46年 10月 2日 直近の完成： 平成 31年 3月 8日				
13 機 器 等	温度圧力：150℃、0.14MPa				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：ミニマムフロー配管 2インチ	17 物 質 の 区 分				
14 発 生 箇 所	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：キシレン(500L)				
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： ポンプ172入ロラインとミニマムフローラインの接続部における保温の隙間より雨水が浸入し、水平部分に滞留したため、湿潤となり、外面腐食により穿孔に至った。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： ポンプ172入ロラインとミニマムフローラインの接続部における保温の隙間より雨水が浸入し、水平部分に滞留したため、湿潤となり、外面腐食により穿孔に至った。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出範囲は漏えい配管下の地面に滴る程度であり、配管の外部への漏えいは数リットルである。配管内の滯油量を合算し漏えい量は約500Lと判明した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	5 人	物質の被害状況： 第4第2石油類（非水溶性）キシレン 500L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	38 人	損害額 1万円未満、 <input type="text" value="1万円以上"/> (<input type="text" value="2万円"/>)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 消防機関到着時、漏えいはコントロールされていたため、漏えい停止を確認するまで付近の警戒に当たる。						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	芳香族製造装置			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 2 年 4 月 9 日	年	月	日	定期・自主点検	令和 元 年 9 月 27 日	令和 2 年 4 月 9 日		
	改善命令等	年 月 日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	令和 2 年 4 月 16 日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	年 月 日	年 月 日	内容：							
35 今後の対策	同様の配管に対して、今後検査結果対象として含める必要があるため、検査プログラムに写真を用いて追記し、基準の明確化を行う。									
36 所 見	特になし									

1 事故名	製造所において、釜で攪拌作業中に作業員が誤ってバルブを開放したことによる危険物の漏えい		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	10月 6日 12時 05分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	10月 6日 12時 20分		6 鎮 圧
7 鎮火・処理完了	10月 6日 15時 15分		応急処置完了
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：2.4m/s 気温：22.3℃ 湿度：51.6%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 <u>その他</u>)	区 分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他)		
業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1734) 業製品製造業 環式中間物・合 成染料・有機顔料製造業	特別防災地区名：和歌山北部臨海北部地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称：廃液、排水処理施設 番 号 (1602)	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他		
能 力：	貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所		
13 機 器 等	類・品名・名称・数量・倍数：		
名 称：反応塔、槽 番 号 (102)	第3類ナトリウム ナトリウム 926kg 92.6倍		
規 模：直径2,150mm、高さ561mm、内容量8,000L	第4類第1石油類(非水溶性液体) 第1石油類 38,012L 190.06倍		
14 発 生 箇 所	第4類アルコール類 アルコール類 28,550L 71.38倍		
名 称：塔槽類本体 番 号 (105)	第4類第2石油類(非水溶性液体) 第2石油類 2,820L 2.82倍		
材 質：鋼鉄	第4類第3石油類(非水溶性液体) 第3石油類 21,853L 10.93倍		
15 発 生 時	第4類第4石油類 第4石油類 830L 0.14倍		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	倍数の合計： 367.93倍		
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)	設置の完成：平成16年12月16日 直近の完成：令和2年8月14日		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	17 物質の区分
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、常温[0-40℃]、 <u>高温</u>) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：トルエン 第4類第1石油類(水溶性液体) メチルアクリロリン		
23 事故の概要： 農薬の中間物質を製造する施設で、釜でアンモニアを吹き込み攪拌作業中に、作業員が誤ってバルブを開放したため危険物(約3,000L)を漏えいさせた事故。この漏えい事故により、作業員4名が負傷した(全員軽傷)。	18 取扱者の概要 経験年数0年		
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号(1、10) 無 装置の緊急停止、その他	21 危険物取扱者の の取扱・立会い ①. 有 2. 無		

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 数m離れた別の釜を開放しようとしたところ、誤って攪拌作業中の釜を開放したもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		取り違い				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 同施設内の4階から下階へ流出した。施設外には流出していない。			
区分											
当 事 者		0	0	0	1	中毒					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
第 三 者		0	0	0	3	中毒					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	9 台	0 隻	0 機	30 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： アンモニアを含む混合液（危険物）7,600L中、約3,000L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (8) 工場敷地内を消防警戒区域とし、消火隊は警戒筒先を配備する。 発災場所の確認及び検知活動を行う（漏えいしたバルブ付近及び直下の3階で化学物質を検知）。						自衛防災・消防組織等 番号 (4、99) その他の内容：救護活動 誤って開放したバルブの閉鎖処置。 固定式消火設備の作動なし。					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	製造所			33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
	使用停止	令和2年10月6日			年 月 日		定期・自主点検		令和元年11月14日		年 月 日
	改善命令等	年 月 日			年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日
	停止解除	令和2年10月9日			年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		内容：
	その他	年 月 日			年 月 日						
		1. 文書 ②. 口頭			1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策						閉止フランジの取付実施。攪拌作動時開放禁止の表示板設置。反応工程にはバルブストッパーを南京錠で施錠。リスクアセスメント教育の徹底。安全対策の強化。意識改革の構築、教育方法を強化して再発防止策を徹底。					
36 所 見						現場にて漏えいした危険物は第4類第1石油類を含み、本事案では火災にはならなかったが一つ間違えれば大事故になっていた。事実、アンモニア臭が工場全体に充満し、作業員4名が吸入し気分不良を呈した。危険物保安監督者に対して、工場内の設備を隅々まで総点検した後、事故の問題点を洗い出し防火安全対策の見直しを図った上で、社員教育や指導を徹底し再発防止に努めるよう指導したが、早急に改善計画を提出するなど改善しようとする意識が見られた。 今後は、本事案で発生した事故を教訓とし、他の危険物施設に対しても具体的な例を出して指導することにより、類似事故を減少させたい。					

1 事故名	製造所の残渣タンクからの経年劣化による危険物の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 17日 0時 40分	推定・確定	4 発 見	12月 17日 1時 30分	
5 覚 知	12月 17日 2時 40分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 17日 3時 30分	
7 鎮火・処理完了	12月 17日 4時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北西 風速：4.8m/s 気温：4.2℃ 湿度：59%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 その他の化 番 号 (1799) 学工業 他に分類されない化学 工業製品製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 116,125L 580.63倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 46,000L 115倍 第4類第2石油類(水溶性液体) メチルカルブタン 960L 0.48倍
12 施 設 装 置	名 称： 廃液、排水処理施設 番 号 (1602)		設置の完成： 平成 2年 3月 9日 直近の完成： 令和 2年 8月 17日		
	能 力：				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 696.11倍		
	名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)				
	規 模： 直径2,000mm、高さ3,260mm、容量10m ³				
14 発 生 箇 所	名 称： タンク側板 番 号 (101)		17 物 質 の 区 分		
	材 質： 鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： 第4類第一石油類(40L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		18 取 扱 者 の 概 要		
	作 業 状 況： 番 号 ()				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 回収蒸留から残渣タンクへ送液後、現場確認を実施中タンクから第4類第1石油類約40Lの漏えいを認める。					
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 経年劣化による腐食の漏えい									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離（経年による剥離）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に流出。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性） 40L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)					
31 防災活動上の問題点										
32 施設名	SB反応プラント				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 2 年 12 月 17 日	年	月	日	定期・自主点検	令和 元 年 6 月 26 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	令和 2 年 12 月 25 日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> 工場内の老朽化タンクに順次点検実施及び重点箇所のパトロール強化 工場内の生産品目残渣の再判定及び適切な対応 								
36 所 見		施設老朽化に伴う管理体制について、他の事業所にも指導を行い、同種の事故防止に努める必要がある。								

1 事故名	製造所で圧縮機の弁から潤滑油系統にプロピレンが流入、系内加圧によりサイトグラスが破損し、潤滑油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 30日 10時 57分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 30日 10時 57分	
5 覚 知	4月 30日 11時 29分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 30日 11時 51分	
7 鎮火・処理完了	4月 30日 13時 55分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：4.1m/s 気温：17℃ 湿度：64%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：岩国・大竹	
12 施 設 装 置	名 称：分解装置 番 号 (2104) 能 力：流動接触分解装置 第1石油類 3,202KL/d 第2石油類 1,303KL/d 第3石油類 361KL/d 第4石油類 3,403KL/d		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 3,202,000L 16,010倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,303,000L 1,303倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 361,000L 180.5倍 第4類第4石油類 潤滑油 3,403,000L 567.17倍 倍数の合計： 18,060.67倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：55℃、1.7MPa 名 称：圧縮機 番 号 (502) 規 模：吸入量：60,000m ³ /h (吸入温度：25.4℃)		14 発 生 箇 所	設 置 の 完 成：平成 30年 2月 8日 直 近 の 完 成：平成 30年 3月 6日	
14 発 生 箇 所	名 称：覗き窓 番 号 (306) 材 質：その他		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分 類：第4類第4石油類 名称：潤滑油(240L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：スタートアップ中 番 号 (2) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 製造所において、巡回点検中の運転員が、プロピレンコンプレッサー付近で異音を確認、直後に潤滑油の戻し配管にあるサイトグラスが破損し、潤滑油が漏えいしていることを発見した。直ちに、運転員が現場の操作盤でコンプレッサーの緊急停止を行ったものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： プロピレンコンプレッサー出口弁に若干の隙間があり、そこからプロピレンが漏えいし潤滑油系統に流入している状態でコンプレッサーを起動させたため、機械的摩擦に伴う温度上昇により急激な酸化を起こし、一時的に系内が加圧された結果、経年劣化したサイトグラスが破損し、潤滑油が漏えいしたものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設外への流出はなし。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 危険物製造所のコンプレッサー潤滑油配管のサイトグラス（覗き窓）破損1箇所		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	40 人	物質の被害状況： 第4類 第4石油類 潤滑油 約240L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (20 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 警戒・調査						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 警戒・回収				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	製造所				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和 2 年 4 月 30 日				定期・自主点検	令和 元 年 11 月 1 日		令和 2 年 4 月 30 日	
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日	
	停止解除	令和 2 年 5 月 15 日				保安検査	年 月 日		年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日									
35 今後の対策	内部漏えいの原因となったコンプレッサー出口自動弁は、動作確認しか実施していなかったため、今後は定期点検の対象とし詳細点検を実施する。破損したサイトグラスについては、次回定期修理時に強度の弱いアクリル板から強化ガラスに取り替える。内部漏えいを起こすと開放系につながるリスクのあるエアモーター駆動付バルブの有無を洗い出し、対象のバルブについては定期点検の対象とする。									
36 所 見	使用歴の長い機器については、日常点検の頻度を増やす等して事故防止に努めるよう指導。									

1 事故名	製造所において、運転員の誤操作により減圧蒸留塔内の配管ドレン弁から重質油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 1日 13時 40分	推定・ 確定	4 発 見	8月 1日 13時 40分	
5 覚 知	8月 1日 13時 46分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 1日 13時 43分	
7 鎮火・処理完了	8月 1日 15時 49分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南東 風速：2.6m/s 気温：29℃ 湿度：75%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				
11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：岩国・大竹				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 20,670,000L 103,350倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 汚れ防止剤 9,100L 9.1倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 11,925,000L 5,962.5倍				
13 機 器 等	温度圧力：260℃、18MPa 名 称：蒸留、精留塔 (スクリュー、ストリッパー) 番 号 (101) 規 模：16C-1 (減圧蒸留塔) 容量：1,757m ³ 寸法：高さ 43m・直径10m 能力：75.0キロバレル/d				
14 発 生 箇 所	倍数の合計：109,321.6倍 設置の完成：昭和39年12月1日 直近の完成：令和元年12月20日				
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類：第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：重質油(25.5L)				
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル有				
23 事故の概要	製造所において、減圧蒸留塔内の重質油を還流する系統にあるストレーナーの閉塞を改修するため、重質油から軽質油への置換作業を実施していた。置換状況(色相)を確認するため、重質油を送液中の配管のドレン弁を開放したところ、勢いよく重質油が漏えい(約25.5L)、作業中の運転員1名が被液、負傷したものである。なお、被液した運転員から連絡を受けた班長が当該装置を緊急停止させ、その後ドレン弁を閉止したことにより漏えいは停止した。				
24 緊急処置の状況	有 番号 (1) 無 装置の緊急停止				

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 運転員が、マニュアルにない作業を実施したため、ドレンから高温の重質油が勢いよく排出されたものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足			
	管理		組織		人員配置（役割・責任）		メンバー構成が不適切			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設外への流出はなし		
区分										
当 事 者	0	0	0	1	熱傷					
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	47 人	物質の被害状況： 第4類 第3石油類 重質油 約25.5L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (150 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
警戒・調査										
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年11月1日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> ・経験の浅い運転員のみでの作業を実施する際は、必ず「リスク分析・作業開始前ミーティング」を開催すること。 ・「リスク分析・作業開始前ミーティング」後においても作業内容に変更や追加があれば必ず相談し承認を得ること。 ・作業中は「たぶん」「だろう」で判断せず、疑問があれば必ず相談すること。 								
36 所 見		漏えいの原因は、定められたルール（業務マニュアル）の不遵守及び「思い込み」作業によるものであり、「製油作業における注意事項手順教育」を再度徹底するとともに、これまで取り組んできている「リスク分析強化」及び「正しいルール・知識に基づく工事施工・現場作業の実行徹底」活動の実効性を高めていくよう指導した。								

1 事故名	製造所における中和槽からろ過器行き配管の腐食によるPPG (ポリエテルポリオール) の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 5日 6時 25分	推定・確定	4 発 見	8月 5日 6時 30分	
5 覚 知	8月 5日 6時 48分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 5日 6時 31分	
7 鎮火・処理完了	8月 5日 6時 31分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速：0.1m/s 気温：26.6℃ 湿度：86.6%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業 (脂肪族系溶剤を含まむ)				
11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：周南地区				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分：1 危険物 2 高圧ガス ③ 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 酸化プロピレン 128,500L 2,570倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸エチル 10,000L 50倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) アクリロニトリル 3,700L 18.5倍 第4類アルコール類 メタノール等 15L 0.04倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレン 4,210L 4.21倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) N,N-ジメチルシクロヘキシルアミン 350L 0.35倍 第4類第2石油類(水溶性液体) エチレンジアミン 8,400L 4.2倍 第4類第2石油類(水溶性液体) N-エチルモルホリン 50L 0.03倍 第4類第2石油類(水溶性液体) ポリエテルポリオール燐酸エステ 500L 0.25倍 第4類第2石油類(水溶性液体) オクチル酸カリウムメタノール溶液 80L 0.04倍 第4類第2石油類(水溶性液体) メチルセロソルブ 2L 0倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ポリエステルポリオール等 15,660L 7.83倍 第4類第3石油類(水溶性液体) プロピレングリコール等 62,080L 15.52倍 第4類第4石油類 ポリエテルポリオール 96,700L 16.12倍 第4類第4石油類 ビスベンタエリスリトールジメスファ等 2,987L 0.5倍 第5類7化合物(第2種自己反応性物質) アゾビスイソブチロニトリル等 170kg 1.7倍 倍数の合計：2,689.29倍 設置の完成：昭和39年 5月 4日 直近の完成：令和2年 7月 29日				
13 機 器 等	温度圧力：80℃、0.18MPa 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：80A				
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：その他				
15 発 生 時	運 転 状 況：払出中 番 号 (10) 作 業 状 況： 番 号 ()				
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：ポリエテルポリオール(3L)				
18 取 扱 者 の 概 要	19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要	プラント内のろ過ポンプ (P-23) からろ過器 (F-27) 行きの配管からポリエテルポリオール (第4類第4石油類) が3L程度漏えいしたものと				
24 緊急処置の状況	有 番号 (10) 無 その他				

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 配管保温施工の不良に伴う保温内への雨水浸入による外面腐食									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管上面の穿孔した部分から漏えいしたもので、送液停止と同時に漏えいは止まり、漏えい量は3Lと少量であった。そのため、漏えいは当該プラント内で留まったものである。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類ボリエーテルポリオールが3L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	1 台	0 隻	0 機	2 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 火災警戒活動				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 漏えい危険物回収作業						
31 防災活動上の問題点										
32 施設名	PE工場（発災施設）			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 8 月 26 日	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	指示 令和 2 年 8 月 5 日	年 月 日		内容：						
35 今後の対策	保温材から雨水が浸入したことが、腐食劣化の原因として考えられる。対象配管を更新した後、保温材については、板金はぎ掛け上向き部は雨水が浸入しやすいため、下向きに変更する。また、保温配管の自主点検の回数を増やす外、漏えいした配管は、プラント内の上部に存するため、上部配管が確認できるように高所点検カメラの設置を検討する。									
36 所 見	漏えい配管は、プラント内上部に存しており、保温施工もあるため、配管を視認しての点検は実施されていなかった。保温配管の点検基準を見直す必要があると考える。									

1 事故名	製造所のタンク内で、原料油と活性白土の攪拌中に、作業員の誤操作により混合液が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 25日 8時 35分	推定・確定	4 発 見	8月 25日 8時 52分	
5 覚 知	8月 25日 9時 04分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 25日 9時 00分	
7 鎮火・処理完了	8月 25日 10時 05分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：1m/s 気温：30℃ 湿度：72%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 岩国・大竹	
12 施 設 装 置	名 称：潤滑油製造装置 番 号 (2114) 能 力：原料油処理 14.5KL/バッチ3バッチ/dMAX=43.5KL/d		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 40,000L 20倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：75℃ 名 称：攪拌、混合機 (ニーダー) 番 号 (508) 規 模：円筒胴底部円錐型2,800mm (内径)×4,350mm (高さ)、材質：SS400、肉厚：9.0mm、容量：15KL		倍数の合計： 20倍 設 置 の 完 成：昭和 40年 10月 12日 直 近 の 完 成：令和 2年 6月 24日		
14 発 生 箇 所	名 称：マンホール 番 号 (305) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：潤滑油 (747L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 危険物製造所の20号タンク内で、原料油 (第4類第3石油類) と活性白土 (非危険物) を攪拌中に、タンクのサイドマンホールから同成分の混合液が747L漏えいしたものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 直接原因については、タンクに原料油を受け入れた後、タンク内を真空にして活性白土の吸引を実施、次に加圧エアで攪拌する際に、大気吸入弁を開放しタンク内圧を常圧としなければならないところを運転員がその作業を失念していたためタンク内が負圧の状態のまま加圧され、圧力に耐えられなくなったことでサイドマンホールから漏えいしたものであるが、調査の結果、加圧エアを用いた攪拌方法は運転基準にはなく、長年運転員の運用により実施されていたことが判明した。なお、漏えい部であるサイドマンホールについては、事故前からフランジナットボルトが一部欠損していることが確認されていたにも関わらずそのままの状態でのままに放置されていた。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		技能・技術力		経験不足/習熟不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に留まっており、周囲への影響なし。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	33 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性） 潤滑油 747L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (6 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
調査・警戒											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名 製造所											
行政措置	使用停止	令和2年 8月25日			年	月	日	33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年	月	日	定期・自主点検	令和2年 6月11日	年 月 日	
	停止解除	令和2年 9月7日			年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項							保安検査	年 月 日	年 月 日
置	その他	年 月 日			年	月	日	34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ 無	
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭				内容：		
35 今後の対策											
<ul style="list-style-type: none"> ・設備等の不具合部の緊急点検を実施。 ・攪拌用のエア配管の撤去 ・運転基準について教育を実施。 ・社内規程等に記載してある作業手順以外の運用の有無について調査を行う。 											
36 所 見											
運転基準についてノウ・ホワイ（原理原則）まで理解し、基準を遵守するとともに、施設の不具合等を発見した際は、早期に改修を行うよう指導した。											

1 事故名	製造所において、蒸留塔を運転開始した際に20号タンクがオーバーフローし通気管から酢酸ブチルが流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 23日 17時 28分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 23日 17時 28分	
5 覚 知	3月 23日 17時 51分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 23日 18時 48分	
7 鎮火・処理完了	3月 23日 19時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：3.9m/s 気温：17℃ 湿度：32%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 プラスチック製品製造 番 号 (1921) 業 (別掲を除く) プラスチックフィルム・シート・床材・合成皮革製造業 プラスチックフィルム製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 製造所 施設別： 製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第1類過マンガン酸塩類(第1種酸化性固体) 過マンガン酸カリウム 25kg 0.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸ビニルモノマー 19,050L 95.25倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸メチル 189,100L 945.5倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 酢酸 87,100L 43.55倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 酢酸ブチル 11,700L 11.7倍 第4類アルコール類 メタノール 646,761L 1616.9倍 倍数の合計： 2,713.4倍				
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所				
名 称： 常圧蒸留装置 番 号 (2101) 能 力： 55m ³ /d	名 称： 通気管 番 号 (304) 材 質： ステンレス				
13 機 器 等 温 度 圧 力：	17 物 質 の 区 分				
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 直径1,600mm、高さ2,900mm、容量4,500L	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 酢酸ブチル(60L)				
14 発 生 箇 所	18 取 扱 者 の 概 要 経 験 年 数 30 年				
名 称： 通気管 番 号 (304) 材 質： ステンレス	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
15 発 生 時	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無				
運 転 状 況： スタートアップ中 番 号 (2) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要： 工程のスタートアップのため、15:00頃から溶剤工程(酢酸と水の分離蒸留塔)の運転を開始し、水還流状態へ進めようとしていた際に、蒸留塔へ水還流させるポンプの起動が遅れてしまい蒸留塔からの溜出液で20号タンクがオーバーフローし、通気管先端部から酢酸ブチル約60Lが防油堤内に流出。流出液はドラムへ回収し、場外流出なし。					
24 緊 急 処 置 の 状 況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番 号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 蒸留塔から水還流状態開始作業中に、別の蒸留塔でトラブルが発生したため、対応を後回しにしたことにより、水還流ポンプの起動が遅れ、20号タンクがオーバーフローし通気管先端から酢酸ブチルが約60L流出。運転開始時に20号タンク液面が差圧伝送装置を超えて貯留されていたため、上限警報が発報しなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	設備		監視・保守		点検・整備		確認不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に約60L流出。場外流出なし。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類 酢酸ブチル約60L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
火災警戒活動											
31 防災活動上の問題点 流出した施設周辺に酢酸ブチル臭が充満していたため、回収作業時のガス濃度測定及び作業員以外の立入禁止を指導。											
行政措置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和元年6月26日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日		年 月 日								
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 手順書の修正を実施。											
36 所 見 20号タンクが満液時に警報が発報しなかったことから、差圧伝送装置の健全性の確認を行うよう指導。また、20号タンク自体が運転開始時に既に満液で警報レベルを超えて運用されていたため、基本操作の徹底を指導。											

1 事故名	製造所において、送油配管の防油堤貫通部が局部的に腐食し、ナフサが流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	12月 28日 18時 15分		
5 覚 知	12月 28日 18時 27分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 28日 21時 40分	
7 鎮火・処理完了	12月 28日 23時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：1.3m/s 気温：13℃ 湿度：76.9%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：大分地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：製造所 施設別：製造所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 23,055,000L 115,275倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 115,275倍				
名 称：常圧蒸留装置 番 号 (2101)	設置の完成：昭和47年 9月 16日 直近の完成：令和元年 10月 27日				
能 力：	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：ナフサ(8.2L)				
名 称：配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)	18 取扱者の概要				
規 模：6B 板厚5mm	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
14 発 生 箇 所	20 危 険 物 保 安 監 督 者				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
材 質：鋼鉄	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い				
15 発 生 時	①. 有 2. 無				
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
作 業 状 況： 番 号 ()	23 事 故 の 概 要： 製造所から屋外タンク貯蔵所へ送油する配管の防油堤貫通部からナフサが漏えいしたものである。 なお、製造所は火災後の復旧工事のため送油はなかったが、他系統の配管の送油に伴い圧力がかかった状態であった。				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他				

原 因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 配管の防食テープの施工が不完全であり、防油堤貫通部直近の配管が局部的に腐食し開口したもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	施工不良		施工		工事時の措置不良						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管の腐食より開口に至り、危険物（ナフサ）が漏えいした。 ・漏えい面積：0.5m (L) × 0.5m (W) の範囲 ・漏えい量：8.2L			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 製造所から屋外タンク貯蔵所への送油配管で、屋外タンク貯蔵所防油堤の貫通部分が腐食により開口に至った。 貫通部配管：6B×約1m			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	10 台	0 隻	0 機	34 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	15 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ナフサ8.2Lが漏えい	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (200 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査及び火災警戒											
31 防災活動上の問題点 目視できない配管の点検方法の確立又は精度向上が必要。											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年5月21日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年	月	日	年	月		日				
35 今後の対策	防油堤の配管貫通部の総点検を実施。同様の施工不良箇所が無いことを確認。 貫通部の腐食の状況確認は、引き続き非破壊検査により残肉厚を確認する（15年サイクル）。										
36 所見	目視できない配管部分については、非破壊検査とともに日常点検を徹底することにより、事故の防止及び被害拡大防止を図ること。										

2 屋 内 貯 蔵 所

1 事故名	屋内貯蔵所において、ドラム缶の内圧上昇により生じた底部の傷からエタノール及び樹脂の混合液が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	8月 31日 9時 30分
5 覚 知	8月 31日 11時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	8月 31日 10時 30分
7 鎮火・処理完了	8月 31日 10時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東北東 風速：2.3m/s 気温：27.2℃ 湿度：81.7%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1899) 造業 その他の石油製品・石炭 製品製造業 他に分類されない 石油製品・石炭製品製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ZM-24 162,000L 810倍 第4類第1石油類(水溶性液体) アセトン 5,000L 12.5倍 第4類アルコール類 メタノール 9,600L 24倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) CHA 70,000L 70倍 第4類第2石油類(水溶性液体) アクリル酸 15,000L 7.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) イソホン 50,000L 25倍 第4類第3石油類(水溶性液体) メタクリル酸 40,000L 10倍 第4類第4石油類 DOP 6,000L 1倍 倍数の合計： 960倍 設置の完成： 平成 14年 3月 27日 直近の完成： 平成 29年 12月 4日		
12 施 設 装 置	13 機 器 等 温度圧力：		
名 称： 貯蔵倉庫 番 号 (1302)	名 称： ドラム等容器 番 号 (201)		
能 力： 309.54㎡	規 模： 200L		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称： 容器本体 番 号 (108)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類アルコール類 名称： メタノール(28L)		
材 質： 鋼鉄	18 取扱者の概要		
15 発 生 時	19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
作 業 状 況： その他 番 号 (99)	23 事 故 の 概 要： 工場作業員が屋内貯蔵所からドラム缶搬出時、ドラム天板及び側面に危険物が固着しているのを発見、その上層部に貯蔵しているドラム缶底部にクラック状の傷があり、その部分より製品ポンプ洗浄液（アクリル系樹脂10%、メタノール90%の混合液）約28Lが漏れいていたもの。人的及び設備に被害なし、施設外への流出なし。		
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他			

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 貯蔵ドラム缶に薄肉再生ドラム缶を使用したため、夏場雰囲気下の内圧上昇によりクラック状の傷が発生し、漏えいしたと考えられる。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	疲労・劣化		素材等の劣化		その他						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設外への流出なし。高層式の屋内貯蔵所のため、流出したドラム缶の直下に貯蔵されていた他のドラム缶上部が被液した。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 施設被害なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類アルコール類 メタノール 28L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年9月4日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	年	月	日	年	月	日	内容：				
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策 廃液を入れるドラム缶に薄肉再生ドラム缶を使用しない。倉庫内漏えい確認として、日常点検に床面確認を追加し、倉庫内廃液ドラム缶を3ヶ月に1回、漏えい点検を実施する。											
36 所 見 従業員等に対し、定期点検のみならず業務中における日常点検も十分行うよう指導。											

1 事故名	屋内貯蔵所に貯蔵していたドラム缶の破裂による危険物流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 20日 17時 13分	推定・確定	4 発 見	11月 20日 17時 16分	
5 覚 知	11月 20日 17時 17分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 20日 19時 43分	
7 鎮火・処理完了	11月 20日 19時 43分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南西 風速：4.9m/s 気温：22.8℃ 湿度：73%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 <u>その他</u>) 業 態：製造業 プラスチック製品製造 番 号 (1931) 業 (別掲を除く) 工業用プラスチック製品製造業 工業用プラスチック製品製造業 (加工業を除く)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋内貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) アクリル酸メチル 1,400L 7倍 第4類第1石油類 (非水溶性液体) アクリル酸メチル 900L 4.5倍 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 3"ソリン 350L 1.75倍 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 混合油 36L 0.18倍 第4類第1石油類 (水溶性液体) アセトン 150L 0.38倍 第4類アコール類 メタノール 600L 1.5倍 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 4-メチルシロキサン 300L 0.3倍 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 軽油 400L 0.4倍 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 軽油 4,000L 4倍 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 洗剤油 200L 0.2倍 第4類第2石油類 (非水溶性液体) アクリル酸アクリル 200L 0.2倍 第4類第2石油類 (非水溶性液体) アクリル酸アクリル 200L 0.2倍 第4類第2石油類 (非水溶性液体) ロ-オクチルメルカプタン 1,000L 1倍 第4類第2石油類 (非水溶性液体) スチレン 1,000L 1倍 第4類第2石油類 (水溶性液体) ジ-2-エチルヘキシルスルホコハ酸ナトリウム 600L 0.3倍 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 工業用潤滑油 100L 0.05倍 第4類第3石油類 (非水溶性液体) フォグ リコール酸2-エチルヘキシル等 1,434L 0.72倍 第4類第4石油類 工業用潤滑油等 2,250L 0.38倍 第5類有機過酸化化物 (第2種自己反応性物質) ヒープチルバ-オキシ2-エチルキチノート 2,400kg 24倍 第5類有機過酸化化物 (第2種自己反応性物質) アロイバ-チキト 2,500kg 25倍 倍数の合計： 73.06倍				
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所				
名 称：貯蔵倉庫 番 号 (1302)	名 称：容器本体 番 号 (108)				
能 力：92m ² 軒高3.3m	材 質：鋼鉄				
13 機 器 等 温度 圧力：	15 発 生 時				
名 称：ドラム等容器 番 号 (201)	運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)				
規 模：200L	作 業 状 況：その他 番 号 (99)				
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分				
名 称：容器本体 番 号 (108)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：アクリル酸メチル (202L)				
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要 経験年数7年				
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)	20 危 険 物 保 安 監 督 者		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		1. 有 ②. 無
作 業 状 況：その他 番 号 (99)	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		1. 有 ②. 無
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 工場内 (屋外) にいた作業員が爆発音を聞いたため、工場内を調査したところ危険物屋内貯蔵所の屋根が開いているのを発見した。内部を確認したところ、アクリル酸メチル (第4類第1石油類 非水溶性) の廃液を入れたドラム缶の天板が外れ、屋内貯蔵所内全域に内容物が飛散しているのを発見したものである。 このドラム缶は、別の危険物施設でスタートアップ時に出る廃液を入れていたもの。別の危険物施設においてシャットダウン時には、配管内のアクリル酸メチルを屋外タンクへ液抜き後、窒素及び水押しを行い、エアブローにより清掃している。スタートアップ前には、アクリル酸メチルを張り込み、水切りしているが、エアブローが不十分であったため、配管内の水分が多く残っていた。通常、ガロン缶3、4本で水が切れるが、足りなかったため廃液用に使用している空のドラム缶4本に抜き取ったところ、ドラム缶内に微量の連鎖移動剤が残っていたため重合反応が開始し、温度上昇と共に圧力が急激に上昇しドラム缶が破裂した。					
24 緊 急 処 置 の 状 況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： ・連鎖移動剤が残っているドラム缶に、液抜きを行ってしまった。 ・配管内残液をドラム缶に抜き取ったあとに、本来投入すべき重合禁止剤を投入しなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		思い込み				
	人		本人の意識		思慮		配慮不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内にアクリル酸メチルが流出。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 屋内貯蔵所の屋根及び扉を一部破損			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	22 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）アクリル酸メチル 202L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	4 台	0 隻	0 機	9 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (140 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (2、5)					
・警戒筒先配備 ・内容物が同じ他のドラム缶への冷却放水 ・ガス検知活動 ・情報収集活動						・重合禁止剤の投入 ・漏えい物の回収					
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 2 年 9 月 30 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
34	その他	年 月 日			年 月 日			当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：	
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策											
・ガロン缶、ドラム缶の転用及び使いまわし禁止と廃液の混合禁止を明確にするために、手順書の改定やドラム缶に転用禁止の表示を取り付ける。 ・重合禁止剤の投入忘れ防止対策として、手順書の改定を行い、ドラム缶に重合禁止剤投入済みであることを表示するようにする。											
36 所 見											
手順書を変更した部分が多いため、社内教育を徹底し手順を誤らないよう指導した。											

1 事故名	屋内貯蔵所において、硬化剤用のドラム缶に主剤を誤混入したことによる噴出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	11月 13日 22時 00分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	11月 17日 9時 30分		6 鎮 圧
7 鎮火・処理完了	11月 17日 10時 30分		応急処置完了
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：2.6m/s 気温：16.7℃ 湿度：59.4%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 プラスチック製品製造 番 号 (1997) 業 (別掲を除く) その他のプラスチック製品製造業 他に分類されないプラスチック製品製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称： 貯蔵倉庫 番 号 (1302)	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内貯蔵所		
能 力： 屋内貯蔵所 最大許可倍数：9.93倍	類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ラッカーソナー、 1,650L 8.25倍 メチルエチルケトン等 第4類第1石油類(水溶性液体) アピソ等 270L 0.68倍 第4類アルコール類 エタノール 100L 0.25倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 溶剤等 300L 0.3倍 第4類第2石油類(水溶性液体) シンチアルミド 10L 0.01倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 硬化剤、主剤等 700L 0.35倍 第4類第4石油類 キヤ油等 600L 0.1倍		
13 機 器 等	温度圧力：		
名 称： ドラム等容器 番 号 (201)	倍数の合計： 9.94倍		
規 模： 200L	設置の完成： 平成 16年 11月 4日 直近の完成： 年 月 日		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称： 容器本体 番 号 (108)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
材 質： 鋼鉄	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
15 発 生 時	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)		
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)	(低温、常温 [0-40℃]、高温)		
作 業 状 況： その他 番 号 (99)	分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： フォトツブ #8000 主剤 #9 キヤグリン(159L) 第4類第3石油類 (非水溶性液体) フォトツブ #8000 硬化剤 夏型(39L)		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	18 取扱者の概要 経験年数1年
21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無		
23 事故の概要：	屋内貯蔵所内において、硬化剤用のドラム缶に塗料を誤投入したことにより、時間の経過とともに有毒ガスが発生し、ドラム缶内の内圧が上昇、その後、時間の経過とともにドラム缶の天蓋が破裂し、ドラム缶から固形化した塗料が噴出し、更には照明器具が破損したものである。		
24 緊急処置の状況	有 番号 ()	無	

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 塗料投入用ドラム缶と思い込み、誤って硬化剤投入用のドラム缶に塗料を投入し、事故発生までその事実気付くことはなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ドラム缶の破裂に伴い、危険物が屋内貯蔵所の天井、床、壁面へ飛散。貯蔵所外への流出はなし。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 屋内貯蔵所内に設置の照明器具の破損			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）フロアトップ#8000 主剤 #9 サマーグリーン159L噴出 第4類第3石油類（非水溶性）フロアトップ#8000 硬化剤 夏型 39L噴出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (15 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 油吸着マットによる漏えい物の除去、清掃及び換気作業					
31 防災活動上の問題点 危険物の噴出を発見してから約1日が経過していた。硬化剤用のドラム缶に塗料を誤投入したことにより有毒ガスが発生しており、危険物の性質に対する知識不足が認められた。											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反				
その他	年 月 日										
35 今後の対策 社内安全教育について文書化するとともに、従業員に対し再教育を実施し、再発防止に取り組む。											
36 所 見 当該事業所に対し、危険物施設における貯蔵・取扱いについての従業員への教育及び事故が発生した際は、直ちに消防機関へ通報するよう指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。											

1 事故名	屋内貯蔵所において貯蔵されているペール缶が破損したことにより潤滑油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	7月 6日 10時 40分
5 覚 知	7月 6日 13時 30分	6 鎮 圧 応急処置完了	7月 6日 16時 00分
7 鎮火・処理完了	7月 6日 16時 00分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西北西 風速：4m/s 気温：26℃ 湿度：90%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 1,010L 1.01倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 1,300L 0.65倍 第4類第4石油類 潤滑油 10,700L 1.78倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 3.44倍		
名 称： 貯蔵倉庫 番 号 (1302)	設置の完成： 昭和 60年 12月 11日 直近の完成： 平成 27年 3月 17日		
能 力： 91.28㎡ 平屋	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等 温度圧力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： 潤滑油(12.7L)		
名 称： ドラム等容器 番 号 (201)	18 取扱者の概要		
規 模： 20Lペール缶	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
名 称： 容器本体 番 号 (108)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
材 質： 合成樹脂	23 事 故 の 概 要： ドラム缶リフター使用時、隣接して置いているペール缶に接触、樹脂製ペール缶が破損し潤滑油が漏えい。		
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 有 番号 () 無		
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)			
作 業 状 況： 番 号 ()			

25	主 原 因 破 損	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： ドラム缶に隣接してペール缶を保管していた。		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	破損	定常運転時	車両等の接触
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			28 物的被害
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症
当 事 者	0	0	0
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			28 物的被害
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
30 実施した防災活動の状況			28 物的被害
公設消防機関：番号 ()		自衛防災・消防組織等 番号 ()	
31 防災活動上の問題点			
政 策 措 置	32 施設名		33 定期点検等
	使用停止	年 月 日	消 防 法
	改善命令等	年 月 日	定 期 ・ 自 主 点 検
	停止解除	年 月 日	年 月 日
	関係条項		気 密 試 験 等
その他	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査
34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無	
1. 文書 2. 口頭		内容：	
35 今後の対策			
金属ペール缶・樹脂ペール缶及びドラム缶の置き場を区分し、リフターの移動スペースを確保する。			
36 所 見			
貯蔵庫等は品名・数量・倍数に加え貯蔵する容器に応じた危険物の運搬方法や配置にも留意する必要がある。			

1 事故名	屋内貯蔵所において、第5類有機過酸化物の自己反応により分解し容器から流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	11月 7日 18時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見
5 覚 知	11月 9日 11時 50分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 7日 18時 00分
7 鎮火・処理完了	11月 9日 11時 50分		11月 7日 21時 15分
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：不明	風向：風向不明	風速： 気温： 湿度：
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化 学工業製品製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 第1石油類 26,000L 130倍 第4類第1石油類(水溶性液体) 第1石油類 12,000L 30倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 第2石油類 26,000L 26倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 第2石油類 23,000L 11.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 第3石油類 50,000L 25倍 第5類有機過酸化物(第2種自己反応性物質) 有機過酸化物 243,000kg 2,430倍 倍数の合計： 2,652.5倍 設置の完成： 昭和 57年 3月 26日 直近の完成： 年 月 日		
12 施 設 装 置	13 機 器 等		
名 称： 貯蔵倉庫 番 号 (1302)	温度圧力： -20℃		
能 力： 678.53m ²	名 称： 冷凍機 番 号 (906)		
13 機 器 等	規 模： 26.6KW		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称： 容器本体 番 号 (108)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (<input type="checkbox"/> 低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第5類有機過酸化物 (第2種自己反応性物質) 名称： トリゴ [®] ノックスEHP(982kg)		
材 質： 合成樹脂	18 取扱者の概要		
15 発 生 時	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
作 業 状 況： 番 号 ()	21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 倉庫の扉の故障により室温が上昇し、有機過酸化物の自己反応分解温度以上に達したため自己反応を起こし分解が発生、有機過酸化物の容器が破損し有機過酸化物が漏えいした。			
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input checked="" type="checkbox"/> 無			

25	主 原 因 破 損	着火原因	番号 ()								
原 因	関 連 原 因 監 視 不 十 分										
	発生原因の状況： 扉の留め具の破損により、低温倉庫内の温度が上昇した。室温の上昇による警報は出ていたが別の倉庫での作業をしていたため、その倉庫からの警報と思い込み、確認作業を怠ったため、自己反応分解温度以上に室温が上昇してしまった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層							
	破損	材料	その他								
	関連原因の詳細										
	管理	監督	監視	監視が実施されない/不足							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害			28 物的被害								
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ・有機過酸化物を収容していた容器の破損 ・有機過酸化物982kgが施設内に流出				
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 有機過酸化物982kgが分解	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 1万円以上 (159 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 火災ではなく分解事故であったため通報は必要ないと勘違いし、通報が遅延した。											
32 政 措 置	施 設 名					33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日				年 月 日	定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日	保安検査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ 無 内容：		
そ の 他	年 月 日				年 月 日						
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭											
35 今後の対策 警報発報時のチェック体制の強化及び低温倉庫の扉等設備のチェック体制の強化											
36 所 見 倉庫で作業時、頻繁に警報が発報することから警報に対して慣れが生じてしまっていたため、どの倉庫から警報が発報しているのか等確認をすることを怠ってしまったと思われる。常日頃から危機意識を高める教育が必要。											

3 屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所

1 事故名	屋外タンク貯蔵所のタンク側板腐食による重油漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 25日 10時 00分	推定・確定	4 発 見	3月 25日 10時 40分	
5 覚 知	3月 25日 12時 41分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 27日 9時 30分	
7 鎮火・処理完了	3月 27日 9時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：6m/s 気温：7℃ 湿度：70%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵 番号(4711) 倉庫業を除く) 倉庫業(冷蔵 倉庫業を除く)		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：室蘭地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番号(1201)			施設区分：①危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他	貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所	
能 力：容量2,843KL			類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 2,843,000L 1,421.5倍	倍数の合計： 1,421.5倍	
13 機 器 等	温度圧力：61℃		設置の完成：昭和32年 7月 4日 直近の完成：平成24年 12月 7日		
名 称：貯槽(タンク) 番号(107)			17 物質の区分		
規 模：内径19.37m、高さ10.707m、容量2,843KL			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(15L)		
14 発 生 箇 所			18 取扱者の概要		
名 称：タンク側板 番号(101)			①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
材 質：鋼鉄			21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
15 発 生 時			①. 有 2. 無		
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番号(7)					
作 業 状 況： 番号()					
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 重油を受け入れた翌日にタンク側板に腐食による開口が生じ、重油が漏えい。開口は直径約1mm程度で計器の誤差にも満たない流出であったため、アラームの発報なし。発見した従業員が計器室に連絡し、計器室の従業員が現場確認、応急処置を実施した後119番通報したものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号(9) 無 緊急排出、緊急移送					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関連原因							
	発生原因の状況： 保温リングに雨水がたまることにより側板が腐食し開口に至った。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に重油が15L程度流出。他300L程度ドラム缶に回収。
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： タンク側板に腐食による開口
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 6 人	自 衛	3 台 0 隻 0 機 58 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油 15L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	1 台 0 隻 0 機 2 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	2 台 0 隻 0 機 5 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 警戒筒先配備 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 漏えい油をドラム缶に受けローリーに回収 警戒筒先配備				
31 防災活動上の問題点 異常現象発見から通報まで121分経過していた。異常現象発見後に誰も即通報するといった行動を取らない環境となっている。								
32 施設名	441タンク				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 2 年 3 月 25 日	年 月 日	定期・自主点検		令和 元 年 9 月 27 日	令和 2 年 3 月 7 日	
	改善命令等	令和 2 年 3 月 27 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	令和 2 年 3 月 27 日	年 月 日	保安検査		平成 24 年 12 月 7 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項、法第12条第2項		34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容： 石災法第23条第1項 異常現象の通報義務違反		
35 今後の対策	従業員への再教育実施							
36 所 見	今後はより早い通報が望まれる。							

1 事故名	保温材を有する屋外タンク貯蔵所（675KL）側板が腐食したことにより重油流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）		
3 発 生	4月 29日 16時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見
5 覚 知	4月 30日 11時 55分	6 鎮 圧 応急処置完了	4月 30日 10時 00分
7 鎮火・処理完了	6月 17日 12時 00分		5月 1日 16時 00分
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他（ ）		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南西 風速：3.9m/s 気温：19.6℃ 湿度：57.4%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態： 製造業 非鉄金属製造業 非鉄 番号（2422） 金属第2次製錬・精製業（非鉄 金属合金製造業を含む） 亜鉛 第2次製錬・精製業（亜鉛合金 製造業を含む）	区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：		16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類（非水溶性液体） 重油・再生油 675,000L 337.5倍
	12 施 設 装 置 名 称： 固定屋根式（地上）タンク 番 号（1201） 能 力： 675KL		
13 機 器 等 名 称： 貯槽（タンク） 番 号（107） 規 模： 直径11,640mm、高さ7,200mm、容量675KL	14 発 生 箇 所 名 称： タンク側板 番 号（101） 材 質： 鋼鉄		
15 発 生 時 運 転 状 況： 受入中 番 号（9） 作 業 状 況： 番 号（ ）	18 取扱者の概要 19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 4月29日16時頃、A重油16KLを受け入れた際、屋外タンクの周り階段中段付近の保温材に油じみのような痕を確認し、漏えいが疑われたため、翌日勤務者へ申し送りを行った。 4月30日10時頃、申し送りを受けた従業員が現場を確認したところ、保温材に貯蔵油の漏えいを確認したため、通報及び吸着マットによる漏えい油の回収を実施したものである。 漏えい箇所の保温材を撤去したところ、高さ4.35mの階段踏み板付近が腐食、減肉しており、貯蔵油の漏えいが確認された。 なお、現在の液面高さは5.42mであり、貯蔵量は574KL。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号（10） 無 その他			

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 昇降用階段の踏面から屋外タンク保温材に水が浸入し、保温材が湿潤状態に保たれ、タンク側板が腐食したもの。漏えい箇所付近では、板厚4.5mmに対し、4mm程度の減肉が確認された。 また、当該タンクは平成20年に開放点検は実施したものの、階段踏面等詳細な点検は行っていなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えい油は、全量吸着マットで回収済み。防油堤外への流出はなし。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 漏えいのみ。被害なし。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油・再生油5L漏えい	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text" value=""/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5、99)					
調査活動						自衛消防による警戒					
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	令和 2 年 3 月 27 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	全量抜き取り、詳細点検実施するよう指示 令和 2 年 4 月 30 日				内容：						
35 今後の対策 保温材撤去後、開放点検を実施し、結果次第で補修又はタンク建て替え予定。 今後は保温施工を行わず、特定屋外タンク貯蔵所に準じて、12年ごとに開放点検を実施。											
36 所 見 「特定屋外貯蔵タンクの側板の詳細点検に係るガイドライン」（平成25年3月29日付け消防危第49号）で示す腐食しやすい箇所が腐食し漏えいに至ったもの。以前から、ガイドラインに基づき詳細点検を実施するよう指導しており、来年度実施予定とのことであったが、点検を待たずして、漏えいした。 腐食しやすい箇所を注視し点検するよう当該事業者だけでなく、管内の事業所へも水平展開し指導していきたい。											

1 事故名	屋外タンク貯蔵所燃料送油管の亀裂に伴う重油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 7日 7時 20分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	2月 7日 7時 40分	
5 覚 知	2月 17日 19時 36分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 7日 8時 00分	
7 鎮火・処理完了	2月 8日 14時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気:	風向:	風速:	気温:	湿度:
10 発 生 事 業 所	種 別 : 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態 : 鉱業 鉱業 窯業原料用鉱物鉱 番 号 (557) 業 (耐火物・陶磁器・ガラス・セメント原料用に限る) 石灰石 鉱業		11 発 生 場 所	区 分 : ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名:	
12 施 設 装 置	名 称 : 固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201) 能 力 : 33KL		16 発生施設規制区分等	施設区分: ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別: 貯蔵所 施設別: 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数: 第4類第3石油類(非水溶性液体) C重油 33,000L 16.5倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力 : 名 称 : 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模 : 直径3,512mm、高さ3,709mm		倍数の合計: 16.5倍 設置の完成: 平成 28年 3月 8日 直近の完成: 平成 28年 3月 8日		
14 発 生 箇 所	名 称 : 管継手 (ダクトを含む) 番 号 (201) 材 質 : 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分類: 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称: C重油 (800L)	
15 発 生 時	運 転 状 況 : 荷卸中 番 号 (13) 作 業 状 況 : 運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要: オンラインファイル有					
23 事故の概要: 屋外タンク貯蔵所へ荷卸しをしていたところ、屋外タンク直近の燃料送油管に亀裂が生じ、流出措置の作業中も含めて防油堤内にC重油約800Lが漏えいしたもの					
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 通気管の機能不良（タンク内部の水分等が引火防止網に付着凍結したもの）により、タンク内圧が上昇したため、タンク底部から基礎が浮上し、併せて配管が持ち上がり径違いの配管継手に亀裂が生じC重油が漏えいしたもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	破損		定常運転時		異常圧力上昇等						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 配管から漏えいした油は、防油堤内で収まり、事業所の敷地外への流出は無かったもの				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 屋外タンク固定部の防水モルタル等が剥離。 SGP配管15Aの管継手の破損				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）C重油800L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (59 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)					
31 防災活動上の問題点 事故発生から10日経った令和2年2月17日匿名で消防機関に通報があり事故が判明したもの。 危険物施設の関係者の話から、防油堤内で収まったため、事故との認識が無く、消防機関への通報を怠った。											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年	月	日	年	月		日				
35 今後の対策		1 危険物施設に係る事故は、流出範囲や量の程度に関わらず、速やかに消防機関へ通報する。 2 従業員の安全教育の実施									
36 所見		当該事業所に対し、速やかな通報や従業員の対応等について指導したところであるが、今後、地区の危険物安全協会の研修会などの機会を捉えて、管内の他事業者に対し情報提供を行い、従業員への保安教育の徹底と速やかな通報について促す必要がある。									

1 事故名	屋外タンク貯蔵所にて、危険物を移し替え中に操作確認不足が原因による仮設配管フランジ部から原油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 15日 17時 30分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	7月 15日 17時 30分	
5 覚 知	7月 15日 17時 38分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 15日 17時 31分	
7 鎮火・処理完了	7月 15日 17時 35分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：2.9m/s 気温：22.1℃ 湿度：78.3%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 業 態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵 番号(4711) 倉庫業を除く) 倉庫業(冷蔵 倉庫業を除く)		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：男鹿地区	
			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油+水 9,205,900L 46,029.5倍	
12 施 設 装 置	名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号(1202) 能 力：9,250.9KL		設置の完成：令和元年 9月 20日 直近の完成：平成31年 1月 25日 倍数の合計：46,029.5倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：貯槽(タンク) 番 号(107) 規 模：内径32,000mm、高さ14,127mm、容量9,250.9KL				
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号(299) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：高粘度原油(5L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：払出中 番 号(10) 作 業 状 況：抜取中 番 号(14)		18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 17時25分、TK-25タンクからTK-07タンクへ移送開始。ポンプ起動後のラインチェックのため待機していた作業員が仮設配管のフランジ部より漏えいを確認。バルブを閉め、ボルトの増締めにより止めたものである。					
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号(10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： ボルトナットが片締めになっており、配管復旧後、気密試験を実施しなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		違反（故意）		問題意識の不足				
	人		本人の意識		思慮		過信				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：			
区分								なし			
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況：			
第 三 者		0	0	0	0			なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	6 人	物質の被害状況： 高粘度原油5.0L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	1 台	0 隻	0 機	6 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 漏えい停止と他への流出の有無を確認。						自衛防災・消防組織等 番号 (3) オイルパン及び吸着マットで処理。					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	平成 23 年 11 月 30 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	年 月 日				内容：						
35 今後の対策 事業所内「保全作業安全細則」の徹底（気密試験）。作業要領の教育を実施する。											
36 所 見 本事案は、作業マニュアル通りに実施しなかった事が原因である。事業所に対してマニュアル遵守の徹底に努める必要がある。											

1 事故名		屋外タンク貯蔵所受入配管の腐食による重油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		10月 12日 12時 00分	推定・確定	4 発 見		10月 28日 16時 00分	
5 覚 知		10月 28日 16時 20分		6 鎮 圧		10月 28日 17時 00分	
7 鎮火・処理完了		10月 28日 17時 00分		6 応急処置完了			
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：南東		風速：2.8m/s 気温：16℃ 湿度：55%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 パルプ・紙・紙加工品製 番 号 (1522) 造業 紙製造業 板紙製造業				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) C重油 2,500,00L 1,250倍			
12 施 設 装 置							
名 称： 固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201)							
能 力： 重油 2,500KL							
13 機 器 等				温度圧力： 60℃			
名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)							
規 模： 配管口径200A 全長216.3m							
14 発 生 箇 所				設置の完成： 平成 25年 7月 25日 直近の完成： 令和 元年 6月 28日			
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)				17 物 質 の 区 分			
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： C重油 (50L)			
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況： 受入中 番 号 (9)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所で棧橋から受入の際、加圧された配管の腐食箇所から重油約50Lが配管下の土壌に流出したのを後日定期点検中に発見し、保温剤を撤去しクランプで応急措置し消防へ通報したものの							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他							

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 配管を覆う保温材の一部が劣化し雨水等が浸水し、配管とサポートの接触部分が腐食しピンホールが発生したため漏えいしたもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管下の土壌約10㎡の範囲に流出した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管約2mの範囲で腐食し、ピンホール2か所発生。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油 約50L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (80 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		令和2年10月12日	年 月 日		
	改善命令等	令和2年10月29日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項	消防法12条第2項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
	その他	年 月 日	年 月 日							
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 配管に覆われている保温材をすべて外した目視点検及び加圧試験										
36 所 見 保温材で覆われた配管の保温材を外しての目視点検又は加圧試験の必要性について、また年数が経過している施設の計画的な更新の検討										

1 事故名	危険物屋外タンク貯蔵所のトラフ内配管が腐食劣化したことによるA重油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月	日	時	分	推定・確定
4 発 見	12月	18日	7時	45分	
5 覚 知	12月	18日	8時	06分	
6 鎮 火・処理完了	12月	18日	15時	50分	
7 鎮火・処理完了	12月	18日	15時	50分	6 鎮 火 応 急 処 置 完 了
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：0.9m/s 気温：-0.6℃ 湿度：98.3%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 電子部品・デバイス製 番 号 (2914) 造業 電子部品・デバイス製造 業 抵抗器・コンデンサ・変成 器・複合部品製造業				
11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 45,000L 22.5倍				
13 機 器 等	温度圧力： 名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 配管直径25mm				
14 発 生 箇 所	設置の完成： 平成 3年 12月 12日 直近の完成： 平成 7年 3月 7日 倍数の合計： 22.5倍				
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(40L)				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事故の概要	工場敷地内の屋外タンク貯蔵所のトラフ内配管の腐食によりA重油が漏えいしたもの				
24 緊急処置の状況	[有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止				

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 維持管理不十分							
	発生原因の状況： 腐食劣化により漏えい							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： トラフ内配管の腐食部分よりA重油約40Lが漏えいし、うち約8Lが河川に流出した。流出範囲は敷地境界線より100m以上にわたる。
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管からの漏えい約40L。配管の取り替え。
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	第4類第3石油類（非水溶性）A重油約40L漏えい				
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	3 台 0 隻 0 機 5 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (34 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (4、5)				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策	耐食対策された材質の配管の取り替え、トラフ内の配管を目視で確認できるようにグレーチングを設置する。							
36 所 見	定期的な配管外観の目視の確認を指導する。							

1 事故名	原油を油送中、屋外タンク貯蔵所附属設備の受入弁のシール不良により、防油堤内に原油が約200L流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 4日 6時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 4日 6時 15分	
5 覚 知	7月 4日 7時 35分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 4日 13時 00分	
7 鎮火・処理完了	7月 4日 13時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：東 風速：2.1m/s 気温：19℃ 湿度：100%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <input checked="" type="checkbox"/> 第1種、第2種、その他) 業 態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵 番号(4711) 倉庫業を除く) 倉庫業(冷蔵 倉庫業を除く)		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：いわき地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番号(1202)	能 力：許可容量 95,460KL		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 95,460,000L 477,300倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力：常温、0.2MPa		設置の完成：昭和49年 8月 16日 直近の完成：平成27年 5月 7日		
名 称：その他 番号(999)	規 模：直径32インチ		倍数の合計： 477,300倍		
14 発 生 箇 所	名 称：開閉弁 番号(204)		17 物 質 の 区 分		
材 質：鋼鉄			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(200L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：受入中 番号(9)		18 取 扱 者 の 概 要		
作 業 状 況：	番 号 ()		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 当該屋外タンク貯蔵所へ原油を受入れ中、巡回中の従業員が防油堤内の受入弁の電動駆動ジョイント部分から原油が漏れているのを発見。移送ポンプを停止するも、防油堤内に約200Lの原油が流出したものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号(1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 受入弁のステムブッシュ部のシール不良により、ヨークチューブ内へ油が浸入し、電動駆動ジョイント部より流出したものの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した原油は、防油堤内で収まり、油吸着マットにて全量回収したもの		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	25 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）原油約200L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	1 台	0 隻	0 機	2 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	3 人	その他	1 台	0 隻	0 機	2 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (15 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集にあたった。					自衛防災・消防組織等 番号 (5) 移送ポンプを停止後、流出した原油を吸着マットにて回収した。					
31 防災活動上の問題点 発見から通報まで1時間以上が経過していたため、連絡体制を見直すよう指導した。										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 6 月 2 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	平成 27 年 2 月 10 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策		ヨークチューブ内へ油の浸入がないか毎日点検を実施し、漏えいが確認できるバルブは補修する。								
36 所 見		同様のバルブについては全て点検すること。また、消防機関への連絡体制を見直すこと。								

1 事故名	屋外タンク貯蔵所において、液面計の均圧弁の操作確認不十分により上部ブリーザー弁から危険物が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 10日 17時 24分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	2月 10日 17時 44分	
5 覚 知	2月 10日 18時 22分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 10日 23時 50分	
7 鎮火・処理完了	2月 11日 12時 20分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：1.9m/s 気温：7℃ 湿度：79%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 無機化学工 番 号 (1721) 業製品製造業 ソード工業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(水溶性液体) ポリアプロピレングリコール 28,600L 7.15倍				
12 施 設 装 置	名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：容量：28,600L				
13 機 器 等					温度圧力：
	名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：内径：2,900mm高さ：4,595mm				
14 発 生 箇 所	名 称：通気管 番 号 (304) 材 質：ステンレス				設置の完成： 昭和 50年 3月 7日 直近の完成： 年 月 日
15 発 生 時					
	運 転 状 況：払出中 番 号 (10) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)				17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(水溶性液体) 名称： ポリアプロピレングリコール(2,620L)
	18 取扱者の概要 経験年数36年				
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所ST-104の上部ブリーザー弁からポリプロピレングリコールが流出したもの。原因については、液面計の高圧側と低圧側を繋ぐ均圧弁が開であったため液面指示が消失、送液前にタンクの液面確認を実施していたが、液面の経時変化までは確認していなかったため液面指示消失に気付かず送液を実施、送液開始後にタンクの液面上昇確認をするのが遅れたため、流出に至ったものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 監視不十分									
	発生原因の状況： 原因については、液面計の高圧側と低圧側を繋ぐ均圧弁が開であったため液面指示が消失、送液前にタンクの液面確認を実施していたが、液面の経時変化までは確認していなかったため液面指示消失に気付かず送液を実施、送液開始後にタンクの液面上昇確認をするのが遅れたため、流出に至ったものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		違反（故意）		怠慢			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内にポリプロピレングリコール2, 620Lが漏えい。 施設等の被害状況： なし		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	24 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	48 人	物質の被害状況： 第4類 第3石油類 水溶性液体 ポリプロピレングリコール 2, 620L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (48 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、警戒態勢及び環境測定等実施。					自衛防災・消防組織等 番号 (99、5) 現場の警戒及び漏えい物回収を実施。					
31 防災活動上の問題点 発見者が課内の連絡を優先し対応を行い、その後保安センターへ連絡するも漏えい量が不明なことから現場確認を実施後、119番通報をしたことから通報遅延に至った。										
32 行政措置	施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> 均圧弁への接触による誤作動防止のため、同様の液面計における均圧弁にカバーを取り付け、又は金属ワイヤによる緊結固定を実施する。 タンクの液面変化を経時的に確認する。 通報遅延対策として、発見者は保安センターへの連絡を先に実施し、漏えい量の確認が取れない場合であっても119番通報を実施する。 									
36 所 見	管理面等十分に注意し再発防止に努めるように指導する。									

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の附帯配管が保温下面腐食により開孔し、パラキシレンが流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 30日 9時 06分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 30日 10時 00分	
5 覚 知	3月 30日 10時 20分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 30日 17時 28分	
7 鎮火・処理完了	3月 30日 17時 28分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：6.9m/s 気温：9℃ 湿度：67%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、 <input checked="" type="checkbox"/> 他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区	
16 発生施設規制区分等			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 6,718,600L 33,593倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) パラキシレン 0L 0倍		
12 施 設 装 置	名 称：浮屋根式(地上)タンク 番号 (1202) 能 力：容量：67,186,000L		設置の完成：昭和44年12月4日 直近の完成： 年 月 日 倍数の合計： 33,593倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力：20℃、0.1MPa 名 称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規 模：規格：3インチ				
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番号 (299) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：パラキシレン(25L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：停止中 番号 (5) 作 業 状 況： 番号 ()		18 取 扱 者 の 概 要		
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所 TK-951附帯留出配管からパラキシレンが漏えいしたもの。当該配管バルブブロック、配管開孔箇所へバンド掛けにて漏えい停止。原因は、外観目視検査及び放射線透過検査から外面腐食が進展し、開孔漏えいに至ったものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 原因は、外観目視検査及び放射線透過検査から外面腐食が進展し、開孔漏えいに至ったものである。外面腐食の原因については、当該配管の保温材内に浸入した水分によって湿潤環境が形成され、保温下外面腐食が進行したためである。保温材に水分が浸入した原因については、隣接する排水配管から漏えい飛散した排水が保温板金継手から浸入したものと推定される。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管下部にパラキシレン25Lが漏えい		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 3インチ配管（30m） フランジ（8枚）		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	24 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	64 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類 非水溶性液体 パラキシレン 25L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号（ 99 ） 情報収集、環境測定、現場の警戒を実施。					自衛防災・消防組織等 番号（ 99 ） 現場の警戒、漏えい物回収を実施。					
31 防災活動上の問題点										
32 行政措置	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日			年 月 日	定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日	保 安 検 査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：		
35 今後の対策	その他 年 月 日			年 月 日						
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭										
36 所 見 管理面等十分に注意し再発防止に努めるように指導する。										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所から残渣抜き後、ドラム缶への回収作業中、誤操作によりドラム缶から危険物が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 8日 12時 00分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	12月 8日 12時 00分	
5 覚 知	12月 8日 12時 21分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 8日 18時 50分	
7 鎮火・処理完了	12月 9日 12時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：5.9m/s 気温：14℃ 湿度：53%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<u>レイアウト</u>)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 無機化学工 番 号 (1721) 業製品製造業 ソーダ工業	区 分：①. 事業所内 (<u>製</u>)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) <u>メチルジメトキシシラン</u> 5,800L 29倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 29倍				
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)	設置の完成：平成 9年 6月 23日				
能 力：容量：6.117KL	直近の完成： 年 月 日				
13 機 器 等	17 物 質 の 区 分				
名 称：ドラム等容器 番 号 (201)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
規 模：容量：200L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
14 発 生 箇 所	(固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧)				
名 称：容器本体 番 号 (108)	(低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温)				
材 質：鋼鉄	分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： <u>メチルジメトキシシラン</u> (62L)				
15 発 生 時	18 取扱者の概要 経験年数0年				
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)	①. 選任有 2. 選任無				
作 業 状 況：その他 番 号 (99)	20 危険物保安監督者 ①. 有 2. 無				
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所 (ST-5530) から残渣抜き後、防油堤外で少量の水を入れたドラム缶に回収作業を行っていたところ、ドラム缶からメチルジメトキシシランが噴き出し、防油堤内外へ漏えいした。その際、ドラム缶の温度が上昇、メタノール、水素も反応により発生する。飛散したメチルジメトキシシランは乾燥砂及び吸着材にて処理。原因は、作業指示者の認識不足及び作業手順を変更(ドラム缶内への水張り)したにもかかわらず、上司に確認をとらず作業を実施したことにより、ドラム缶内の水とメチルジメトキシシランが反応し、漏えいに至ったものである。漏えい量はメチルジメトキシシラン約62L。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>					

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 原因は、作業指示者の認識不足及び作業手順を変更（ドラム缶内への水張り）したにもかかわらず、上司に確認をとらず作業を実施したことにより、ドラム缶内の水とメチルジメトキシシランが反応し、漏えいに至ったものである。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足				
	人		本人の意識		違反（故意）		問題意識の不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： メチルジメトキシシラン約44Lが防油堤内外に漏えい、約18Lをオイルパンへ受取			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	8 台	0 隻	0 機	26 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	57 人	物質の被害状況： 第4類 非水溶性液体 第1石油類 メチルジメトキシシラン 約62L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
						損害額		1万円未満、 <u>1万円以上</u> (9 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、警戒態勢及び環境測定実施						自衛防災・消防組織等 番号 (99、3、5) 現場の警戒及び漏えい物拡散防止、回収を実施					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> ・危険物の危険性について教育を実施。 ・作業手順が当初の計画と変更となる場合は、一旦作業を中止し、再度リスクアセスメントを行い、上司へ相談する。 ・非正常作業にて危険物を取り扱う場合は、取扱い物質や作業に応じた消火設備を作業前に準備する。 									
36 所 見		管理面等十分に注意し再発防止に努めるように指導する。									

1 事故名	屋外タンク底板の腐食穿孔から危険物約10Lが防油堤内に流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 26日 10時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	8月 26日 13時 00分	
5 覚 知	8月 26日 16時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 27日 13時 30分	
7 鎮火・処理完了	8月 27日 13時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：3.1m/s 気温：32.8℃ 湿度：52.4%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1899) 造業 その他の石油製品・石炭 製品製造業 他に分類されない 石油製品・石炭製品製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) イソアネト 20,000L 10倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201)	能 力： タンク容量 20,000L		設置の完成： 昭和 54年 9月 12日 直近の完成： 平成 29年 4月 27日		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 10倍		
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	規 模： 直径2,560mm、高さ4,600mm、容量20,000L		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： イソアネト(10L)		
14 発 生 箇 所	名 称： タンク底板 番 号 (102)		18 取扱者の概要		
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	作 業 状 況： 番 号 ()		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋外貯蔵タンク (保温ジャケット付) の底板下部に雨水が浸入し、底板の一部が腐食穿孔、穿孔箇所から危険物約10Lが防油堤内に流出したもの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1, 9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 屋外貯蔵タンクの底板下部に雨水が浸入し、底板の一部で腐食穿孔が発生したもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内にタンク内容物が約10L流出			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 底板に腐食穿孔			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）イソシアネート約10L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額	1万円未満、 <u>1万円以上</u> (105 万円)		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動、警戒活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 吸着マット及びかんなくず散布による危険物回収、他施設のタンクへ緊急移送。					
31 防災活動上の問題点 事故発生から消防機関への通報まで、約3時間を要しており、迅速な通報ができていないこと。消火設備の準備等が十分ではなかったこと。											
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年8月26日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年	月	日	年	月		日				
35 今後の対策	これまでの自主点検の方法と効果を検証し、当該タンクを含めた事業所内全てのタンクについて、義務の要否に関わらず、漏れ点検等の機能確認試験を実施し、事故を未然に防ぐ。										
36 所 見	定期点検が義務でない施設の場合、タンクの健全性判断は目視点検に依存することとなるが、これには限界があると考えられる。気密検査や内部開放検査など、合理的な健全性判断が重要であることを、関係者へ訴えていく必要がある。										

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の附帯配管のフランジ接続部が破損したことによる副生油流出事故									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		3月 25日 12時 55分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定			4 発 見		3月 25日 12時 55分				
5 覚 知		3月 25日 14時 03分			6 鎮 圧 応急処置完了		3月 25日 13時 30分				
7 鎮火・処理完了		3月 25日 14時 30分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：西南西		風速：2.8m/s		気温：14℃		湿度：20%	
10 発 生 事 業 所						11 発 生 場 所					
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <input checked="" type="checkbox"/> 第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業 (一貫して生産さ れる誘導品を含む)						区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部					
						16 発生施設規制区分等					
						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 副生油 200,000L 1,000倍					
12 施 設 装 置											
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)											
能 力：最大貯蔵数量200KL											
13 機 器 等						温度圧力：0.2MPa					
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)											
規 模：口径1.1/2B(40A)配管						倍数の合計：1,000倍					
14 発 生 箇 所						設置の完成：昭和43年 7月 25日 直近の完成：平成29年 8月 31日					
名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)						17 物 質 の 区 分					
材 質：鋼鉄						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：副生油(40L)					
15 発 生 時						18 取扱者の概要					
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)											
作 業 状 況： 番 号 ()											
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 貯蔵タンクからの払出し待機中(停止中)に従業員が道路歩行中に当該配管の漏れを発見。漏れ箇所を確認すると、配管フランジ接続部ガスケット不具合による漏れ(敷地内)であった。その後、配管附属バルブのブロック確認、漏れ停止の確認後、ガスケット取替え、払出し側20号タンクへの液押し及び室塞押しを実施した。											
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号(10) 無 その他											

25	主 原 因 破 損	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 送液停止中に配管ライン中が液封となり当該フランジガスケットが破断（当日の気象状況により、急激に気温が上昇）。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	破損	定常運転時	その他				
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該施設内で収まった。
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							施設等の被害状況： 当該配管ガスケットのみ
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）副生油、推定40L流出（水含む）
公設消防機関：番号（ 99 ） 情報収集				自衛防災・消防組織等 番号（ 5、99 ） オイル吸着マット、ドラム缶等準備し、Air駆動ポンプにて水洗水等にて注水洗浄後、水とともに汲み取る。その後、配管フランジ接続部のガスケットを取替え、配管内の液を払出しホソヅ 吐出側から取扱所20号タンク側へ不活性ガス（窒素）にて押し込み、配管内をバージする。			
31 防災活動上の問題点 油が流出しているにもかかわらずホットラインをしなかった。直接担当課へ電話にて連絡をした。							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 元 年 11 月 26 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：	
そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日				
35 今後の対策		・運転標準書の見直し ・設備的改善					
36 所 見		・通報の判断に迷った場合は、速やかにホットライン通報をする必要がある。					

1 事故名	屋外タンク貯蔵所において、従業員の不注意により送液先タンクを誤り消火設備の配管を危険物が逆流し流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 26日 12時 00分	推定・確定	4 発 見	4月 26日 12時 00分	
5 覚 知	4月 28日 16時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 26日 16時 30分	
7 鎮火・処理完了	4月 26日 16時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：2.9m/s 気温：21.7℃ 湿度：40%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 飲料・たばこ・飼料製造 番 号 (1024) 業 酒類製造業 蒸留酒・混成酒 製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他のタンク 番 号 (1299) 能 力： 400KL		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 エチルアルコール 400,000L 1,000倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 直径150mm		倍数の合計： 1,000倍 設置の完成： 昭和 63年 4月 28日 直近の完成： 平成 18年 6月 28日		
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類アルコール類 名称： エチルアルコール (28,000L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 受入中 番 号 (9) 作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)		18 取扱者の概要	経験年数5年	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 400KLの屋外タンク貯蔵所と990KLの準特定屋外タンク貯蔵所を間違えたことにより容量の小さいタンクに許容量以上のアルコールを送ってしまった。タンクが満量になり消火設備の配管を逆流しエアホームチャンバーのジェッター (直径5mmほどのエア抜き) からアルコールが流出した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 不注意							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		違反（故意）		怠慢	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内約1,800㎡に拡散
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：			
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人	第4類 引火性液体 指定数量400L アルコール類			
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人	エチルアルコール28,000L流出			
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他		0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (2,300 万円)			
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
31 防災活動上の問題点 流出から2日後と通報が遅い。								
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年7月31日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	再発防止策の策定 令和2年4月28日	顛末書の提出 令和2年4月28日	1. 文書 ②. 口頭 1. 文書 ②. 口頭					
35 今後の対策	確認作業をダブルチェックにする。 検算するチェックシート等に書式を改定する。 詳細な作業手順書を作成し教育を行う。							
36 所 見	通報が事故発生から2日後と遅れ、流出した危険物がアルコール類であったこともあり、現場の状況が確認できなかった。このことから、事故発生後の迅速な通報が重要であることを再確認した事案となった。							

1 事故名		屋外タンク貯蔵所附属配管において、防食テープ下の配管腐食によりナフサ流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		5月 7日 19時 45分	
5 覚 知		5月 7日 19時 50分		6 鎮 圧 応急処置完了		5月 8日 4時 00分	
7 鎮火・処理完了		5月 8日 4時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：東北東		風速：1.2m/s 気温：14℃ 湿度：44%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 9,181,400L 45,907倍			
12 施 設 装 置							
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)							
能 力：容 量：9,181KL							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)							
規 模：6インチ配管							
14 発 生 箇 所				設置の完成：昭和57年 5月 31日 直近の完成：令和元年 7月 8日			
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)				17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温][0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフサ(10L)			
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 操油グループ計器室からエンジニアリングセンターに向け自転車で通行していた際、5号道路上で微かな油臭気を感じたため直ちに操油グループ計器室へ連絡し、操油グループ員と一緒に周囲の配管を確認したところ、配管下部から糸状に流出しているナフサと地上部に白い氷塊(アイシング)を発見した。							
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他							

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 配管架台接触部の防食テープ下の外面腐食により、配管下部からナフサが糸状に流出した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管架台接触部の防食テープ下外面腐食による配管の開口により配管周囲の地面にナフサが滴った。他の施設への流出はなし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ナフサ移送配管のみ		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	14 台	0 隻	0 機	42 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:200 第1石油類 ナフサ 10L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (50 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 警戒活動及び情報収集				自衛防災・消防組織等 番号 () 大型化学消防車2台、泡原液車1台、固定泡放出砲2門配備						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所12-T231附属配管 (6B-Y-003)			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	令和 2 年 5 月 13 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項	消防法第12条第2項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日								
35 今後の対策		想定以上に腐食が進行していたため、当時の検査結果の評価に問題がなかったか検討する。								
36 所 見		同様の設備にも水平展開が必要である。								

1 事故名		屋外タンク貯蔵所浮き屋根からの原油流出事故								
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()								
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定			4 発 見		5月 29日 17時 22分			
5 覚 知		5月 29日 17時 22分			6 鎮 圧 応急処置完了		5月 30日 12時 31分			
7 鎮火・処理完了		5月 30日 12時 31分								
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()								
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：南		風速：3.6m/s	気温：25℃	湿度：29%		
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所						
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部						
12 施 設 装 置				16 発生施設規制区分等						
名 称：浮屋根式 (地上) タンク 番 号 (1202) 能 力：容 量：80,341L				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 80,341,000L 401,705倍						
13 機 器 等				温度圧力：						
名 称：貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模：内径：75.56m高さ：22.15m				倍数の合計： 401,705倍						
14 発 生 箇 所				設置の完成：昭和 49年 3月 2日 直近の完成：平成 30年 3月 14日						
名 称：タンク屋根板 番 号 (103) 材 質：鋼鉄				17 物 質 の 区 分						
15 発 生 時				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) (常圧、[加圧]) (低温、[常温] [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：原油 (25ML)						
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()				18 取扱者の概要						
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無										
23 事 故 の 概 要： 令和3年に定期開放を計画しているT-116浮き屋根の状況を確認しようとT-116のウインドガーターへ上がり、ウインドガーターから浮き屋根を目視確認をしているとローリングラダーのレール足付近に油染みがあるのを発見した。										
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (8) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等										

原因	25 主 原 因 調査中		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 調査中										
	発生原因の状況： 調査中										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： デッキ上に500mm×500mm程度の範囲で流出			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	12 台	0 隻	0 機	35 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	6 人	物質の被害状況： 原油25ML流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	7 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (110 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 () 火災発生に備え現場待機 情報収集				自衛防災・消防組織等 番号 () 大型化学消防車1台、大型化学高所放水車1台、泡原液車1台で泡放射のための現場待機 泡放水ノズル2線と援護注水用ノズル1線を設置し現場待機							
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所 12-T116				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 2 年 5 月 29 日				年 月 日		年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	令和 2 年 6 月 26 日				年 月 日		年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
35 今後の対策	漏えい部の屋根板の原因調査を実施。										
36 所 見	同様の事故が再度発生するおそれがあるため、原因調査を早期に行う必要がある。										

1 事故名	屋外タンク攪拌機のシールリングが摩耗し、シール性が保持できず原油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	10月 6日 22時 15分		
5 覚 知	10月 6日 22時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 7日 4時 30分	
7 鎮火・処理完了	10月 7日 4時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：1.4m/s 気温：21℃ 湿度：52%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 80,341,000L 401,705倍	
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)	能 力：容 量：80,340KL		設置の完成：昭和 50年 4月 25日 直近の完成：令和 2年 9月 24日		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 401,705倍		
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	規 模：内径：75.56m、高さ：22.15m		17 物 質 の 区 分		
14 発 生 箇 所	名 称：電動機 番 号 (401)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
材 質：ゴム	15 発 生 時		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	作 業 状 況： 番 号 ()		(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(3,080L)		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 10月06日21時00分頃から従業員はタンク廻りの定期現場巡回点検を実施していた。22時15分頃、タンク(12-T117)北東側のタンク攪拌機から原油が流出していることを発見した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()										
	関連原因														
	発生原因の状況： タンク（12-T117）北東側のタンク攪拌機のシールリングが摩耗によりシール性が保たれなくなったことにより原油が流出。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層								
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）											
関連原因の詳細															
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人的被害				28 物的被害											
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出は防油堤内に収まった。							
区分															
当 事 者		0	0	0	0										
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし							
第 三 者		0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	34 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:200 第1石油類 原油3,080L流出					
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	4 台	0 隻	0 機	14 人						
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人						
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (10 万円)							
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99) 火災発生に備え現場待機						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 大型化学高所放水車：高所車塔より放水待機 大型化学消防車：手広めによる2線放水体制									
31 防災活動上の問題点															
32 施設名 屋外タンク貯蔵所															
政 策 措 置	使用停止	令和2年10月7日				年	月	日	33 定期点検等		消 防 法	そ の 他			
	改善命令等	年 月 日				年	月	日	定期・自主点検	年	月	日	年	月	日
	停止解除	令和3年1月16日				年	月	日	気密試験等	年	月	日	年	月	日
	関係条項	法第12条の3第1項								保安検査	年	月	日	年	月
その他	年 月 日				年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：						
35 今後の対策		これまで攪拌機のメカニカルシールは目視点検で再使用の可否を判断していたが、シール面摩耗量の計測は実施しておらず、再使用可否の判定が目視検査のみだった。今後は、水平展開結果から再使用可否の判定基準を明確化し、整備時の再使用可否を判定する。 攪拌機はタンク定期整備時に内液遮断機構（ロックシール）の整備を実施しており、この時にメカニカルシールについても分解する必要があることから、タンク定期整備時には毎回メカニカルシールの再使用可否を判定する。													
36 所 見		他の機器への水平展開が必要である。													

1 事故名	ナフサタンクのポンプグランド部から、パッキン経年使用による劣化によりナフサ流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 16日 0時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	12月 16日 10時 00分	
5 覚 知	12月 16日 10時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 16日 11時 13分	
7 鎮火・処理完了	12月 16日 15時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後通知 7. 一般加入 ⑧. その他 (消防機関が立入検査実施時にて発見)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：1.3m/s 気温：7℃ 湿度：39%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 51,172,000L 255,860倍	
13 機 器 等	温度圧力：	14 発 生 箇 所		設置の完成：昭和38年 8月 3日 直近の完成：年 月 日	
名称：浮屋根式(地上)タンク 番号(1202)	能力：屋外貯蔵タンク 許可容量 51,172KL	15 発 生 時		17 物 質 の 区 分	
名称：貯槽(タンク) 番号(107)	規模：直径 68m、高さ 18m許可容量 51,172KL	名称：ラダー(廻りはしご等) 番号(315)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフサ(10L)	
名称：鋼鉄		15 発 生 時		18 取扱者の概要	
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 消防局立入検査中に、当該屋外タンク貯蔵所の自動水切り器のエア駆動方式ポンプグランド部から油漏れが発生しているのを発見した。脱液操作により油漏れを停止させ、措置を完了した。油が染み込んだ部分の土を回収し、新しい土と入れ替えた。また、同型のポンプと交換した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号(9) 無 緊急排出、緊急移送					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 水切り用エアードライブポンプのVパッキンの経年使用による劣化摩耗したことによりシール機能が失われ、ナフサが流出した。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤外に拡大なし			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:200 第1石油類 ナフサ 10L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
状況確認及び監視											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検		年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等		年 月 日	年 月 日
	関係条項							保安検査		年 月 日	年 月 日
その他		年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：	
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 水切り用エアードライブポンプは不具合が発生したら、グラウンド増締めに対応は行わず、使用を停止し、予備品ポンプと取り替える。											
36 所 見 定期点検のみならず日常点検において早期に発見できるよう努めること。											

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の附属配管が外面腐食により開口し、ナフサ流出									
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生	月	日	時	分	推定・確定	4 発 見	12月	23日	19時	20分
5 覚 知	12月	23日	19時	22分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月	24日	0時	25分
7 鎮火・処理完了	12月	24日	0時	25分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：1.5m/s 気温：6℃ 湿度：30%									
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<u>レイアウト</u> 、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業									
11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <u>貯</u> 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部									
16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 9,181,000L 45,905倍									
12 施 設 装 置	名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202) 能 力：容 量：9,181KL									
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107) 規 模：6インチ配管									
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄									
15 発 生 時	運 転 状 況：停止中 番 号 (5) 作 業 状 況： 番 号 ()									
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフサ(300L)									
18 取扱者の概要	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要									
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無						
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無									
23 事故の概要	5月7日19時45分頃、従業員が終業に伴う帰路で、操油グループ計器室からエンジニアリングセンターに向け自転車で通行していたところ、5号道路上で微かな油臭気を感じたため、連絡を行い、周囲の配管を確認したところ、配管下部から糸状に漏れいしているナフサと地上部に白い氷塊(アイシング)を発見した。									
24 緊急処置の状況	[有] 番号 (10) 無 その他									

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()								
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 配管架台接触部防食保護板下の外面腐食により配管が開口した。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層							
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害											
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	28 物的被害				
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 施設外への流出なし				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	10 台	0 隻	0 機	34 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	8 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:200 第1石油類 ナフサ300L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	4 台	0 隻	0 機	15 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 情報収集及び警戒活動						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 大型化学高所消防車1台、大型化学消防車2台、泡原液車1台、発災箇所への冷却散水準備					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 2 年 12 月 25 日				定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	令和 2 年 12 月 28 日				保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項	消防法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：				
その他	年 月 日		年 月 日								
①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭											
35 今後の対策 同様の施工のものに対し、計画的に点検及び補修を行う。											
36 所 見 同様の事故が多く散見されることから、早期の対策が必要である。											

1 事故名		屋外タンク貯蔵所受入配管のドレンバルブの腐食劣化による重油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		7月 6日 16時 00分			推定・確定		4 発 見		7月 6日 16時 00分		
5 覚 知		7月 7日 14時 00分			6 鎮 圧 応急処置完了		7月 6日 18時 30分				
7 鎮火・処理完了		7月 13日 10時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：雨		風向：南南西		風速：7m/s		気温：27.3℃		湿度：93%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
				16 発生施設規制区分等							
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 300,000L 150倍							
12 施 設 装 置				設置の完成： 昭和 52年 9月 7日 直近の完成： 令和 2年 2月 26日							
名 称： 固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201) 能 力： 300,000L											
13 機 器 等				温度圧力：							
名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 100A				倍数の合計： 150倍							
14 発 生 箇 所				17 物 質 の 区 分							
名 称： ドレンバルブ 番 号 (210) 材 質： その他				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： A重油 (52L)							
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要							
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7) 作 業 状 況： 番 号 ()				19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要：				①. 選任有 2. 選任無 3. 不要							
オンラインファイル無				21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い							
23 事 故 の 概 要：				①. 有 2. 無							
燃料輸送ポンプの2次側に位置するドレンバルブが腐食劣化し、重油が地盤面に滴下しているのが発見されたもの。 油吸着マット及びビニールシートにより流出拡大防止を行った。 重油は計52L流出し、施設外への流出はなかった。											
24 緊急処置の状況				[有] 番号 (10) 無 その他							

25	主 原 因	腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 当該ドレンバルブは27年間と長期間使用されていた。また、設置場所は屋外であり、島しょ地区の特性から塩害の影響を受ける環境下にあった。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
	腐食	環境	塩分の影響					
	関連原因の詳細							
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27	人的被害							
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	28 物的被害
区分								被災影響範囲及び拡大の状況： ドレンバルブ付近の地盤面に重油52Lが流出した。
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： ドレンバルブ1 腐食劣化
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	0台 0隻 0機 0人	自 衛	0台 0隻 0機 1人					物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油 52L流出
消 防 団	0台 0隻 0機 0人	共 同	0台 0隻 0機 0人					
海上保安部	0台 0隻 0機 0人	応 援	0台 0隻 0機 0人					
その他の機関	0台 0隻 0機 0人	その他	0台 0隻 0機 0人					損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (11 万円)
30	実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)				増締め、補強材埋めを実施し、漏えいした油を回収した。
31	防災活動上の問題点							
32	施 設 名			33	定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	34	定期・自主点検	年 月 日	令和2年6月8日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項			34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：		
そ の 他	年 月 日	年 月 日						
1.	文書	2.	口頭	1.	文書	2.	口頭	
35	今後の対策							
ドレンバルブの交換を実施。								
36	所 見							
島しょ地区は塩害の影響を大きく受ける可能性が高いことから、定期点検や自主点検はもとより、危険物配管等のハード面の更新については、本土と比べ短期的な更新を検討していくなど指導していく必要がある。								

1 事故名	屋外タンク貯蔵所のルーフドレンが腐食したことによるガソリンの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 16日 15時 30分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	10月 16日 15時 40分	
5 覚 知	10月 16日 16時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 16日 18時 00分	
7 鎮火・処理完了	12月 20日 15時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：2m/s 気温：18.8℃ 湿度：39%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 4,521,000L 22,605倍 倍数の合計： 22,605倍 設置の完成：平成 6年 9月 8日 直近の完成：令和 2年 7月 13日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 浮屋根式 (地上) タンク 番号 (1202)	能 力： 容量4,521KL	13 機 器 等	温度圧力：		
名 称： 貯槽 (タンク) 番号 (107)	規 模： 内径18.71m、高さ18.3m	14 発 生 箇 所	名 称： ドレンノズル 番号 (208)	18 取扱者の概要	
材 質： その他	15 発 生 時	運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番号 (7)	作 業 状 況： 番号 ()	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(1L)	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 特定屋外タンク貯蔵所のルーフドレンが経年腐食し開孔したことで、貯蔵されていたガソリンがルーフドレン内に浸入し、ドレン出口から下部のピット内に約1Lが流出した。水切り作業中の従業員が異臭を感じたことで発見、ルーフドレン出入口の閉止板を閉鎖し流出防止を実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関連原因					
	発生原因の状況： 当該施設は設置から約26年が経過していることから、長年雨水を排水していたことにより腐食が進行し開孔したもの					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 2 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン 1L流出						
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (10 万円)						
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (99) 調査活動			自衛防災・消防組織等 番号 (4, 99) ルーフドレン出入口の閉止板を閉鎖し流出防止を行った。 浮き屋根上の雨水をポンプにより常時排水する措置を講じた。			
31 防災活動上の問題点						
行政措置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和2年10月12日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：	
その他	ガソリンの抜油及び改修について指導 令和2年10月17日 年 月 日 1. 文書 ②. 口頭 1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 ルーフドレン出口及びピット付近の点検強化						
36 所 見 本件で腐食開孔した箇所は、タンク内であるとともに内面腐食であることから、普段はもちろんタンク開放時における目視点検においても腐食の進行具合を判断できない箇所であり、ルーフドレン出口から危険物が流出して初めて確認できるものである。今回、別作業を行っていた従業員が異臭を感じたことにより発見に至っていることから、日常点検においても五感を活用した点検が重要であると思料する。						

1 事故名	屋外タンク貯蔵所附属の送油管に取り付けられた保温材付き圧力計導圧管の外面が腐食し重油が漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	8月 6日 22時 20分		
5 覚 知	8月 6日 22時 43分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 6日 22時 20分	
7 鎮火・処理完了	8月 8日 16時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：5.4m/s 気温：27℃ 湿度：84%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、 <u>貯</u> 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 999,000L 499.5倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 499.5倍				
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)	設置の完成：昭和46年 11月 11日				
能 力：容量 999KL	直近の完成：平成31年 4月 8日				
13 機 器 等	17 物 質 の 区 分				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
規 模：口径 15mm	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
14 発 生 箇 所	(固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>)				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	(低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>)				
材 質：鋼鉄	分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(8.2L)				
15 発 生 時	18 取扱者の概要				
運 転 状 況：払出中 番 号 (10)	①. 選任有 2. 選任無				
作 業 状 況： 番 号 ()	20 危険物 保安監督者				
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 従業員は定時パトロール中、送油ポンプ囲い内に10L程度の微量な油の漏えいを発見したので、漏えい箇所であると想定される圧力計導圧管の元バルブを閉止させた。これにより漏えいは停止した。従業員は漏えい箇所に吸着マットを敷いた後、再度現場を確認すると、ポンプ囲いから外部へ漏えいした形跡があったため下流を調査した。その結果オイルセパレーター入口に油膜を確認したので、当直室へ連絡、当直が119番通報を行った。参集した自衛防災組織及び到着した公設消防は情報収集を行った。漏えい量は8.19Lで海上への流出はなかった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 設計不良									
	発生原因の状況： 圧力計導圧管には保温材が巻かれ保温材カバーで留められている。導圧管の敷設工事の際、導圧管敷設経路に接近して設置された配管ラックの梁が保温材カバーと接触することを避けるため、保温材カバーに切り欠きを設けたが、切り欠いた部分への雨水浸入防止措置をとることがなかった。これにより、保温材カバーの切り欠き部分から雨水が浸入し、保温材がこれを吸湿、配管との間に湿潤環境が形成された結果、配管の外表面が腐食し穿孔するに至ったと推定。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
因	関連原因の詳細									
	施工不良		施工		工事時の措置不良					
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ポンプ囲い内 3m×2.2mの範囲に漏えい 排水管を伝い180m先のオイルセパレーター入口まで油膜が到達 施設等の被害状況： なし		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	67 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 重油 8.19L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 情報収集					
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和2年 5 月 1 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策	今回漏えいした圧力計導圧管は撤去する。 点検し類似箇所があれば改修する。 保温材の設置された配管の外表面腐食に対し、運転管理部門と設備管理部門が一体となり継続的検査活動を行っているが、昨年からの専門家による点検を従前の点検に加え行い始め、所内展開している最中である。									
36 所見	今回の漏えい箇所は、配管ラックの下からも上からも視認しにくい場所であったが、そのような箇所があるという認識を持ち、点検する必要がある。									

1 事故名	屋外タンク貯蔵所附属配管のシートパッキン施工不良により、原油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 17日 10時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	8月 17日 10時 00分	
5 覚 知	8月 17日 10時 06分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 17日 12時 35分	
7 鎮火・処理完了	8月 17日 12時 35分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：3.1m/s 気温：33℃ 湿度：67%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区
					16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 混合油 46,363,000L 231,815倍 (原油、ナフ)
12 施 設 装 置					
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)					
能 力：容量46,363KL					
13 機 器 等	温 度 圧 力：40.6℃、0.01MPa				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)					
規 模：26インチ					
14 発 生 箇 所					倍数の合計：231,815倍
名 称：ストレーナー 番 号 (209)					設置の完成：昭和42年12月27日 直近の完成：令和2年6月12日
材 質：鋼鉄					17 物 質 の 区 分
15 発 生 時					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：混合油(原油、ナフ) (16,200L)
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)					
作 業 状 況： 番 号 ()					
					18 取扱者の概要
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移送準備のため、タンクの本弁を開けた状態で静置していたところ、ピット内にある配管ストレーナーの上蓋フランジ部にタンクのヘッド圧がかかりパッキンが破損し、原油やナフサを含む混合油が流出したものの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送					

原 因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 現場合わせで加工したシートパッキングが、ボルト穴と一致していなかったため、ボルトを締めた際にシートパッキングが巻き込まれ損傷した。そのまま5年程度使用したところで、損傷部分から亀裂が進展し、流出した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	施工不良		施工時の損傷		施工時に設備等を損傷したのに気付かず使用					
	施工不良		施工		施工内容の間違い					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ピット内（縦2,400mm×横5,600mm×高さ2,350mm）に流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： シートパッキング（膨張黒鉛＋アラミド繊維製）1個破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	20 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	18 人	物質の被害状況： 混合油16.2KL流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	2 台	0 隻	0 機	16 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (5, 3)						
・ガス検知活動 ・警戒筒先配備 ・情報収集				バキューム車でピット内の油を回収した。						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年10月10日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策	フランジの規格に適合したボルテックス製のパッキングに取り替えた。									
36 所 見	水平展開として、随時フランジの規格に適合したボルテックス製のパッキングに取り替えるよう指導した。									

1 事故名	特定屋外タンクに附属するルーフドレンノズルからガソリンが漏えいしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	8月 20日 15時 30分		
5 覚 知	8月 20日 16時 02分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 20日 15時 32分	
7 鎮火・処理完了	8月 21日 20時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：2.9m/s 気温：33℃ 湿度：64%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 20,771,000L 103,855倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 103,855倍				
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)	設置の完成：昭和 45年 10月 16日 直近の完成：平成 31年 1月 18日				
能 力：ガソリン 20,771KL	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等 温度圧力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
名 称：その他 番 号 (999)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
規 模：全長 34.7m	(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(0.1L)				
14 発 生 箇 所	18 取 扱 者 の 概 要				
名 称：ドレンノズル 番 号 (208)	①. 選任有 2. 選任無				
材 質：鋼鉄	20 危 険 物 保 安 監 督 者				
15 発 生 時	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い				
作 業 状 況： 番 号 ()	①. 有 2. 無				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル無				
20 危 険 物 保 安 監 督 者	23 事 故 の 概 要： 協会社職員が月1回実施しているタンクの巡回作業中、特定屋外タンクルーフ部分及びタンク周囲を目視にて点検した際、ルーフドレンノズルから貯蔵しているガソリンが少量漏えいしているのを発見。集水溝部分に薄く油膜が浮いていることを確認し、製油所職員へ連絡。遠隔操作にてバルブを閉止。バルブ閉止後公設消防へ通報。公設消防は到着後、調査活動を実施。タンク側では集水溝内に溜まった油交じりの水をローリーにて回収。回収しきれないものにあつてはオイル吸着マットを敷き回収した。タンク内部に残っているガソリンは別のタンクへ移送。				
21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	24 緊 急 処 置 の 状 況 [有] 番 号 (1) 無 装置の緊急停止				

25 主 原 因 調査中		着火原因		番号 ()							
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 現在調査中										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層							
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： タンク集水溝内3か所にて油膜確認（30m、1m、 6.9m）				
当 事 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 現在調査中				
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3台	0隻	0機	11人	自 衛	1台	0隻	0機	86人	物質の被害状況： 第4類第1石油類非水溶性 ガソリン 0.1L漏えい	
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	1台	0隻	0機	2人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
32 政 措 置	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和 2年 3月 26日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保 安 検 査	平成 27年 1月 28日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年	月	日	年	月	日	内容：				
35 今後の対策		原因調査中のため、究明後に報告予定。									
36 所 見											

1 事故名	屋外タンク貯蔵所附属配管ダミーサポート部分が腐食し重質軽油が漏えいしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	9月 11日 6時 15分		
5 覚 知	9月 11日 6時 31分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 11日 12時 00分	
7 鎮火・処理完了	9月 11日 15時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：2.8m/s 気温：30℃ 湿度：66%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、 <u>貯</u> 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油材 11,256,000L 5,628倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 5,628倍				
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)	設置の完成：昭和43年 11月 4日 直近の完成：平成31年 3月 29日				
能 力：容量11,256KL	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
規 模：口径4インチ	(固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧)				
14 発 生 箇 所	(低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温)				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	分 類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重質軽油(101L)				
材 質：鋼鉄	18 取扱者の概要				
15 発 生 時					
運 転 状 況：受入中 番 号 (9)	19 危険物保安 統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
作 業 状 況： 番 号 ()	20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
	21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 従業員は巡回点検中、配管ピット内に油膜を発見したので当直室に連絡、当直が119番通報を行った。現場到着した公設消防は配管ピット内に敷設された屋外タンク貯蔵所の附属配管に使用制限命令を発動した。参集した自衛防災組織によりバルブ閉止及び滞油抜き作業が開始された。その後ピット内の油膜除去作業を行っていたところ、従業員の1人は当該配管ピット付近に敷設された地上配管から漏えいしている油を発見したので、計器室へ連絡、計器室は環境安全グループへ連絡、環境安全グループが119番通報を行った。油膜除去作業を行っていた協力会社社員により漏えい部上下流の配管のバルブを閉止及び漏えい箇所下部にオイルパンを置き漏えい拡散防止措置が行われた。その後、漏えいが停止し、配管内の滞油抜き作業が行われた。後日調査が進むと、配管ピット内の油膜と地上配管から漏えいした油は同一のものであることが判明した。漏えい経路は、地上配管から流出し近くにあった流出油防止堤内の排水升から埋設管を経由し、流出油防止堤外に設置された油膜が発生した配管ピット兼排水ピットへ流出した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 維持管理不十分										
	発生原因の状況： 配管のL字形部分にはその部分を支持するための管（ダミーサポート）が溶接で取り付けられてある。穿孔箇所は配管を支持する管が取り付けられ囲われた部分になる。管には溶接施工時に必要な空気穴が、配管に溶接された方の逆側先端に付いている。配管への防食塗装は溶接の熱で焼けるため施工されていない。重質軽油は配管の穿孔部から漏れ、管を通じ空気穴から外へ漏れ出した。空気穴は溶接施工後には樹脂で封鎖される。樹脂は劣化の度に補修されるが、昨年の点検時には外れていた。この樹脂が外れている間に、空気穴から浸入した雨水又は結露による水分で管内が湿潤環境となり、配管が腐食し穿孔するに至ったと推定。なお樹脂の欠損は昨年の点検で把握され改修待ちの状態であった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足				
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分							被災影響範囲及び拡大の状況： 約1㎡の範囲に流出。				
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	14 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	68 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 重質軽油 101L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5)					
情報収集											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	タンクの附属配管				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 2 年 9 月 11 日				年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 3 月 20 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	令和 2 年 9 月 14 日				年 月 日	保安検査	平成 23 年 4 月 28 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：				
その他	年 月 日				年 月 日						
35 今後の対策 ・ダミーサポートの構造変更及び周期を定め詳細検査の実施 ・穴の閉鎖 ・樹脂が欠損していた場合、早急に詳細検査の実施											
36 所 見 各設備を点検するにあたり、構造に応じた点検項目が必要である。											

1 事故名	特定屋外タンクの附属配管において、内面腐食により穿孔しナフサが流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	9月 28日 18時 20分		
5 覚 知	9月 28日 18時 40分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 28日 19時 00分	
7 鎮火・処理完了	9月 28日 20時 15分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：2.1m/s 気温：22℃ 湿度：72%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 45,035,000L 225,175倍				
12 施 設 装 置	設置の完成：昭和43年 2月 1日 直近の完成：平成29年 11月 1日				
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)					
能 力：第四類第一石油類非水溶性ナフサ45,035KL					
13 機 器 等	温度圧力：				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)					
規 模：口径 14インチ					
14 発 生 箇 所	倍数の合計： 225,175倍				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	設置の完成：昭和43年 2月 1日 直近の完成：平成29年 11月 1日				
材 質：鋼鉄	17 物 質 の 区 分				
15 発 生 時	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ナフサ(200L)				
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)					
作 業 状 況： 番 号 ()					
	18 取扱者の概要				
19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 製油所職員が巡回中に臭気を確認。付近の配管を確認すると、改修工事のためバルブを閉めていた配管より油が漏えいしているのを発見。同時に排水溝を確認すると油膜が浮いていたため当直へ連絡。当直から公設消防へ通報。公設消防隊現場到着後、調査活動を実施。製油所職員が再度漏えい箇所付近を確認すると、配管下の地面が油の漏えいにより5から10cmえぐれているのを確認。現場へ駆けつけた自衛消防組織により土囊積み、漏えいした油の回収、漏えい箇所に対しテープ巻きを実施。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 当該配管は、ナフサ貯蔵タンクから接触改質装置へ送液するための配管です。送液するナフサにあっては未脱硫のため、不純物等も含まれ送液されます。漏えい箇所特定のため調査すると、当該配管の底部に直径9mmの円形ですり鉢状の穿孔箇所を確認。穿孔箇所以外の部分にあっては堆積物が付着している状態であり、付着物を除去すると内面腐食による減肉を認めた。 このことから、貯蔵タンクからナフサを送液した際に流れてきた不純物等が堆積し、腐食環境を形成。それにより内面腐食し、穿孔したものと推定する。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		デポジット腐食（堆積物下腐食、付着物下腐食）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該配管下部及び、排水溝に200L流出			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管穿孔部 4mm			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 第4類第1石油類非水溶性 ナフサ200L流出			
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	1 台	0 隻			0 機	75 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻			0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻			0 機	0 人
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (3、5)					
現状調査活動											
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 3 月 28 日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日		年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	平成 29 年 11 月 1 日		年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：						
35 今後の対策 ・配管取替工事の実施 ・堆積物があると思われる範囲の肉厚測定を実施し、減肉検出箇所に当て板補修を実施。 ・同系統の配管の検査計画を作成し順次実施。											
36 所 見 再発防止策を計画通り実施すること。											

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の附属配管が外面腐食により穿孔し重油が漏えいしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	10月 2日 9時 40分		
5 覚 知	10月 2日 9時 48分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 2日 15時 10分	
7 鎮火・処理完了	10月 3日 11時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：1.9m/s 気温：23℃ 湿度：75%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、 <u>用</u> 、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 27,195,000L 13,597.5倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力：最大貯蔵量 27,195KL	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(2,000L)				
13 機 器 等	18 取 扱 者 の 概 要				
名 称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
規 模：炭素鋼鋼管4インチ	20 危 険 物 保 安 監 督 者				
14 発 生 箇 所	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
名 称：その他の附属配管等 番号 (299)	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い				
材 質：鋼鉄	①. 有 2. 無				
15 発 生 時	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要 :				
運 転 状 況：移送中 番号 (18)	オンラインファイル無				
作 業 状 況： 番号 ()	23 事 故 の 概 要 :				
	当該事故配管とは別の配管工事を実施するため、現場を確認しにきた工事業者が油漏えいしているのを発見し、事業所職員へ連絡、直ちに遠隔操作にてバルブを閉止したもの。漏えいに関しては、保温材を巻いた配管が外面腐食により穿孔し、穿孔箇所から重油が漏えいしたもの。漏えい箇所にあつては、配管に巻かれた保温材はアスベストを使用していたため、解体までに時間を要したものである。				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	24 緊 急 処 置 の 状 況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無				
	装置の緊急停止				

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()								
	関連原因												
	発生原因の状況： 保温材シール部分の劣化により雨水が浸入し、保温材が雨水を吸収したことにより湿潤環境を形成。更に令和元年に発生した大型台風が上陸した際、高潮浸水による被害を受け、塩分により外面腐食の進行を促進。それにより配管真上方向に長さ80mm、幅15mm及び長さ8mm、幅4mmの穿孔部を形成。保温材の下にある配管のため穿孔していることに気が付かず重油の送油を行ったため、穿孔部から高い圧を受けて噴出し漏えいしたものと推定される。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）								
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害				28 物的被害									
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えい面積：200㎡					
区分													
当 事 者	0	0	0	0									
防災活動従事者	0	0	0	0									
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 穿孔部 1か所目 長さ80mm、幅15mm 2か所目 長さ8mm、幅4mm					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	20 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	79 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 重油 2,000L漏えい			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	1 台	0 隻	0 機	5 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	7 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人				
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)					
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (4、3、5)							
調査活動													
31 防災活動上の問題点													
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日		定期・自主点検		令和2年 3月 28日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等		令和2年 5月 14日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日		保安検査		令和2年 3月 26日		年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日				年 月 日				内容：				
35 今後の対策													
1 漏えいした配管にあつては部分的に交換を実施。 2 配管、保温材の専門知識を持った者による点検を実施。													
36 所 見													
保温材の巻かれた配管は内部の腐食状況が分からないため、定期的に点検を実施するべきだった。													

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の可撓管の施工不良により亀裂が生じ、重油が流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 28日 6時 30分	推定・確定	4 発 見	2月 28日 7時 00分	
5 覚 知	2月 28日 7時 03分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 28日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了	2月 28日 11時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：3.9m/s 気温：1.8℃ 湿度：71.6%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 繊維工業(衣服,その番号(1168) 他 他の繊維製品を除く) 染色整理業 繊維雑品染色整理業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 固定屋根式(地上)タンク 番号(1201) 能 力： 貯蔵量最大39.415KL		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 39,415L 19.71倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽(タンク) 番号(107) 規 模： 貯蔵量最大39.415KL		倍数の合計： 19.71倍 設置の完成： 昭和43年12月26日 直近の完成： 昭和44年6月6日		
14 発 生 箇 所	名 称： フレキシブル管継手(ダクトを含む) 番号(202) 材 質： ステンレス		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(140L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番号(1) 作 業 状 況： 運転操作中 番号(1)		18 取扱者の概要	経験年数25年	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： ボイラー始動のため、燃料(重油)を貯蔵している屋外タンク貯蔵所の元バルブとボイラー(少量危険物施設)手前にある燃料供給バルブを開放したところ、フレキシブル配管の継手の亀裂から重油が漏れ、河川へ流出したものの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号(1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原 因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因 維持管理不十分					
	発生原因の状況： 設置許可時から配管の更新はしていなかった。フレキシブル配管とユニオンの接続不良により、過度の負荷が生じ、亀裂が発生したものの					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	施工不良		施工		取り付け不良	
	関連原因の詳細					
	設備		監理・保守		点検・整備	
				点検内容が不適切		
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
						物質の被害状況： 重油約140L流出
						損害額 1万円未満、 <input type="checkbox"/> 1万円以上(16 万円)
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (4)				自衛防災・消防組織等 番号 ()		
油吸着マットで被害拡散防止を図った。						
31 防災活動上の問題点						
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年9月20日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無	
その他	年 月 日	年 月 日	内容： 資格外危険物取扱い（法第13条第3項）			
35 今後の対策	早急に変更許可申請において破損箇所を改修させる。作業員に危険物取扱者免状を有するように指示した。維持管理の質を向上させ、社内全体で保安体制を確立させる。					
36 所 見	危険物施設の基準及び危険物保安監督者（危険物取扱者含む）の責務を把握していないことが、本流出事故に繋がったと考察する。社内全体の意識を変えるべき。					

1 事故名	屋外タンク貯蔵所に接続しているサービスタンクのフロートスイッチが老朽化により故障、通気管から重油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 23日 9時 40分	推定・確定	4 発 見	3月 23日 10時 04分	
5 覚 知	3月 23日 10時 05分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 23日 12時 37分	
7 鎮火・処理完了	3月 23日 14時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：2m/s 気温：11℃ 湿度：37%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 飲料・たばこ・飼料製造 番 号 (1023) 業 業 酒類製造業 清酒製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201) 能 力： 容量 5,800L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,800L 2.9倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 容量 375L		倍数の合計： 2.9倍 設置の完成： 昭和 36年 12月 22日 直近の完成： 昭和 54年 7月 24日		
14 発 生 箇 所	名 称： 通気管 番 号 (304) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (629L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所に接続しているサービスタンク上部にあるフロートスイッチが、老朽化により端子ボックス内に雨水が入り込み絶縁不良を起こし作動しなかったため、送油ポンプが停止せずに重油を送り続け、通気管から重油が漏えいし敷地外側溝に流出したものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 老朽化により、サービスタンク上部のフロートスイッチが故障したため。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： サービスタンクから重油約629Lが漏えいし、内約17.2Lが敷地外の側溝に流出した。流出範囲は敷地境界線から約430m。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 特にありません。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 第3石油類（非水溶性）重油 約629L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	7 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4, 99) 漏えい防止措置：敷地外側溝と敷地内側溝に吸着マットを設置。 その他：調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 (4) 吸着マットにて重油を回収。					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 2 年	3 月	23 日	年	月	日			
	改善命令等	年	月	日	年	月	日			
	停止解除	年	月	日	年	月	日			
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	年	月	日	年	月	日	内容：			
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・フロートスイッチの更新 ・フロートスイッチが故障した際の安全対策 ・従業員への再教育 ・日常点検の実施 									
36 所 見	危険物施設の日常点検は毎日実施していたが、設備の老朽化に伴う故障により発生した流出事故であった。今後は老朽化した設備の更新とより一層の安全対策を働きかけ、流出事故等が発生しないよう注意喚起していきたい。									

1 事故名	屋外タンク貯蔵所（規制範囲内）配管が腐食したことによる重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）				
3 発 生	月	日	時	分	推定・確定
4 発 見	6月	27日	11時	30分	
5 覚 知	6月	27日	12時	21分	
6 鎮 火・処理完了	7月	2日	14時	20分	6 鎮 火 圧 応 急 処 置 完 了
7 鎮火・処理完了	7月	2日	14時	20分	
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他（専用回線）				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西 風速：3.9m/s 気温：27℃ 湿度：72.6%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 （レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他） 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号（3311） 気業 電気業 発電所				
11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：新湊				
16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 2,940,000L 1,470倍				
12 施 設 装 置	名 称：発電装置 番 号（4101） 能 力：				
13 機 器 等	温 度 圧 力：60℃、5.5MPa 名 称：配管（送油、注入管等） 番 号（606） 規 模：口径 15A 材質 STPG370 sch40				
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号（299） 材 質：鋼鉄				
15 発 生 時	運 転 状 況：シャットダウン中 番 号（3） 作 業 状 況： 番 号（ ）				
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、 <u>液相</u> 、気相）（ <u>常圧</u> 、加圧） （低温、常温〔0-40℃〕、 <u>高温</u> ） 分 類： 第4類第3石油類（非水溶性液体） 名称：重油(1,400L)				
18 取扱者の概要	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要 2. 無				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事故の概要	石炭1号機に重油を送油する送り配管の空気抜き配管より重油が漏えいしたもの				
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号（1、10） 無 装置の緊急停止、その他				

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関連原因					
	発生原因の状況： 防食テープの局部的な剥がれ箇所からの雨水浸水により、配管の外面が腐食し漏えいに至ったもの					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）	
	関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	6 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	1 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 第3石油類重油 1,400L漏えい						
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円						
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (99、3、5) 現場到着後、情報収集、漏えい箇所の確認、拡散防止、回収措置のため、土嚢設置、ドラム缶搬送の補助を実施。			自衛防災・消防組織等 番号 (99、3、5) 各機器等の停止、拡散防止、回収措置のため、土嚢設置、ドラム缶搬送を実施。			
31 防災活動上の問題点						
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所No.8タンク		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	令和 2 年	6 月 27 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 元 年 9 月 24 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日
	停止解除	令和 2 年	7 月 2 日	年 月 日	保安検査	年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：	
35 今後の対策	当該重油配管での防食テープを巻き付けた空気抜き配管及びドレン配管について、防食テープの剥がれ、亀裂等の有無を外観点検した上で、テープを剥がし配管の健全性を確認する。 今後は防食テープを巻かず防食塗料に変更する。					
36 所 見						

1 事故名	屋外タンク貯蔵所から温水ボイラーへつながるサービスタンク内フロートスイッチ故障により灯油流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	1月 31日 8時 00分
5 覚 知	1月 31日 8時 45分	6 鎮 圧 応急処置完了	1月 31日 8時 00分
7 鎮火・処理完了	2月 3日 9時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：雪 風向：北北西 風速：1.4m/s 気温：0.7℃ 湿度：84%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 窯業・土石製品製造業 番 号 (2222) セメント・同製品製造業 生コ ンクリート製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 16,500L 16.5倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 16.5倍		
名 称： ボイラー施設 番 号 (1505) 能 力： 426KW	設置の完成： 昭和 54年 8月 17日 直近の完成： 昭和 54年 8月 17日		
13 機 器 等	17 物 質 の 区 分		
名 称： ボイラー 番 号 (404) 規 模： 426KW	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(2,200L)		
14 発 生 箇 所	18 取扱者の概要		
名 称： その他の部位 番 号 (399) 材 質： 鋼鉄	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
15 発 生 時	21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	①. 有 2. 無		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所から配管接続されたボイラー室サービスタンク内のフロートスイッチ不良に伴い、サービスタンクへ継続した灯油が送油され続けたことによりオーバーフローし、防油堤内へ漏れ出し、更に防油堤周囲及び床面へ浸透した灯油が室外へ流出し、排水溝から油分離槽を経由し隣接した河川へ約2,200L流出したものである。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： サービスタンク内フロートスイッチのフロートゴムパッキン不良によりフロート機能を失い、灯油が継続的に送油され続けたもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の異常動作					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 隣接した河川へ約2,200Lの灯油が流出、下流4kmにわたり回収作業を実施。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： フロートスイッチ故障		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	6 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 灯油 2,200L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	9 台	0 隻	0 機	14 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (8 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5, 4)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 なし										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 2 年 1 月 31 日				年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等	年 月 日	
	停止解除	令和 2 年 2 月 19 日				年 月 日		保安検査	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
その他	年 月 日				年 月 日					
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・漏えい箇所周辺の地盤土砂を採取し、油分の検出結果を報告するとともに、必要に応じ土砂を入替え。 ・故障箇所改修に伴う変更許可申請書を提出、完成検査実施後に使用停止解除予定。 									
36 所 見	実施された対策及び故障箇所の改修により、再発防止は図られたと判断する。									

1 事故名	屋外タンク貯蔵所から製造所への送油配管の破損によって第4類第2石油類（非水溶性）塩化ベンジルが流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）				
3 発 生	3月 9日 14時 25分	推定・確定	4 発 見	3月 9日 14時 28分	
5 覚 知	3月 9日 14時 45分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 9日 14時 30分	
7 鎮火・処理完了	3月 9日 16時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他（ ）				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：3.7m/s 気温：21.7℃ 湿度：50.5%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態： 製造業 化学工業 その他の化 番 号（1792） 学工業 農薬製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他のタンク 番 号（1299） 能 力： 96,000L貯蔵タンク		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 塩化ベンジル 96,000L 96倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 配管（送油、注入管等） 番 号（606） 規 模： 3,400×10,000×3,000mm 96,000L		倍数の合計： 96倍 設置の完成： 平成17年 11月 28日 直近の完成： 平成17年 11月 28日		
14 発 生 箇 所	名 称： 配管の架台、サポート 番 号（217） 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温[0-40℃]、高温） 分類： 第4類第2石油類（非水溶性液体） 名称： 塩化ベンジル(200L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 払出中 番 号（10） 作 業 状 況： 番 号（ ）		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所から製造所へ第4類第2石油類（非水溶性）塩化ベンジルを地上配管で送液中にベローズ継手が破損し、敷地内に同油約200Lが漏えいしたもの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号（10） 無 その他					

1 事故名	屋外タンク貯蔵所から製造所への送液配管の破損によって塩化ベンジルが漏えいした事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 2日 12時 50分	推定・確定	4 発 見	4月 2日 12時 50分	
5 覚 知	4月 2日 13時 20分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 2日 13時 40分	
7 鎮火・処理完了	4月 2日 19時 50分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：6.5m/s 気温：21.1℃ 湿度：27.3%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 その他の化 番 号 (1792) 学工業 農薬製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他のタンク 番 号 (1299) 能 力： 96,000L貯蔵タンク		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 塩化ベンジル 96,000L 96倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 3,400×10,000×3,000mm 96,000L		倍数の合計： 96倍 設置の完成： 平成 17年 11月 28日 直近の完成： 平成 17年 11月 28日		
14 発 生 箇 所	名 称： 配管の架台、サポート 番 号 (217) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 塩化ベンジル(180L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 停止中 番 号 (5) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所と製造所間に敷設されている配管ラック上の送液配管の配管接続部 (ベローズ継手) が破損し、配管内に滞油していた危険物第4類第2石油類 (非水溶性) 塩化ベンジル約180Lが事業所敷地内に漏えいしたもの					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因 施工不良						
	発生原因の状況： 中古品の部品の劣化状態を確認せずに取替え使用したため、破損し事故に至ったもの						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	疲労・劣化	素材等の劣化	その他				
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出危険物は敷地内に漏えいしたもの
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管ベローズ継手
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）塩化ベンジル180L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (5 万円)
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 3 月 10 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日				
35 今後の対策	漏えい箇所を改修し、関連施設の定期修理を実施する。						
36 所 見	同施設の事故原因を究明、再発防止策を検討させるとともに点検要領等の見直しも視野に入れさせ事故防止に努める必要がある。						

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の側板に3mmのピンホールが出来た流出事故								
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()								
3 発 生		7月 7日 9時 30分			推定・確定	4 発 見		7月 7日 9時 35分		
5 覚 知		7月 10日 10時 00分			6 鎮 圧 応急処置完了		7月 7日 9時 50分			
7 鎮火・処理完了		7月 7日 10時 15分								
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()								
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：西		風速：6.3m/s		気温：23.6℃		湿度：93.9%
10 発 生 事 業 所					11 発 生 場 所					
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 建設業 職別工事業 (設備工事 番号 (799) 業を除く) その他の職別工事業 業他に分類されない職別工事業					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：					
					16 発生施設規制区分等					
					施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 49,000L 24.5倍					
12 施 設 装 置										
名 称： その他のタンク 番 号 (1299)										
能 力： 490L										
13 機 器 等					温度圧力：					
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)										
規 模： 490KL					倍数の合計： 24.5倍					
14 発 生 箇 所					設置の完成： 昭和 45年 4月 16日 直近の完成： 令和 2年 11月 18日					
名 称： タンク側板 番 号 (101)					17 物 質 の 区 分					
材 質： 鋼鉄					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (190L)					
15 発 生 時					18 取 扱 者 の 概 要					
運 転 状 況： 受入中 番 号 (9)					①. 選任有 2. 選任無		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		①. 有 2. 無	
作 業 状 況： 番 号 ()					3. 不要					
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者						
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有										
23 事 故 の 概 要： 屋外タンクにおいて、泡消火設備の配管を固定するためタンク本体に溶接した部分に約3mmのピンホールができ、そこからA重油190Lが漏れ出したもの										
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無										

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： タンクを塗装するにあたり、ブラッシングした際に削りすぎてしまった可能性がある。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		その他					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 190L流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 190L流出		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0台	0隻	0機	0人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 重油190L流出
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (99)				
活動無し						活動無し				
31 防災活動上の問題点										
覚知したのが、漏えい発生の日後。										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
その他	年	月	日	年	月		日	内容：		
35 今後の対策		廃棄を検討。								
36 所 見		数日前に塗装工事実施後漏えいしたため、他のタンクも早急に板厚点検を実施する旨指導する。								

1 事故名	屋外タンク貯蔵所において、タンク底板腐食により重油が河川へ流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	7月 21日 16時 00分		
5 覚 知	7月 31日 11時 50分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 31日 17時 00分	
7 鎮火・処理完了	8月 25日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (市役所内線電話)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：4m/s 気温：30℃ 湿度：73%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 飲料・たばこ・飼料製造 番 号 (1031) 業 茶・コーヒー製造業 製茶業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他のタンク 番 号 (1299) 能 力： 縦置円筒型 タンク容量10,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,000L 5倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 直径1,950mm 高さ3,600mm 容量10,000L		倍数の合計： 5倍		
14 発 生 箇 所	名 称： タンク底板 番 号 (102) 材 質： 鋼鉄		設 置 の 完 成： 昭和 59年 4月 7日 直 近 の 完 成： 平成 5年 3月 25日		
15 発 生 時	運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7) 作 業 状 況： 番 号 ()		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所のタンク底板の腐食により、貯蔵している重油が流出したもの。流出した重油は防油堤コンクリートリング内の土間の継ぎ目から地下に浸透し、河川へ流出したもの。土のう、吸着マット等を使用し、流出防止措置を実施。本事故に伴う物的及び人的被害はなし。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： タンク底板の腐食により、貯蔵している重油が流出。 防油堤のコンクリートリング内の土間の継ぎ目に亀裂。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		防食		防食無し（耐腐食性の材料を使用せず）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重油が事業所の土壌から河川に流れ込み、約200m（最終の流出防止措置の位置）にわたり拡散した。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 流出量不明（第4類第3石油類（非）：重油）	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	2 台	0 隻	0 機	4 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (3、6、99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
河川へ流出している箇所に土のう積み工法を実施後、吸着マット、万国旗型オイルフェンス及びオイルプロッターを使用し、流出防止を行う。浮遊している重油を柄杓を使い、廃油用ドラム缶に回収する。 その後、屋外タンク貯蔵所の原因調査を実施する。											
31 防災活動上の問題点											
第一発見者は、消防が覚知した約10日前に妻が河川に少量の油が流出していることを把握していたが、通報はせず、令和2年7月31日に、第一発見者が目視による確認したため通報に至ったこと。令和2年4月頃、タンクに重油を供給する業者がタンクの底板から油の滲みを発見し、当該施設所有者に報告、対策として重油の抜き取り及びタンクの清掃を実施している。その後、使用はないが、消防本部に報告はなく、令和2年7月に当該施設所有者から依頼を受けた業者がタンクの取替の相談に来署している。											
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	<input type="checkbox"/> 有・無				
その他	年	月	日	年	月	日	内容： 平成30年立入検査の指摘事項 法第12条第1項 製造所等の維持・管理義務違反（引火防止網の清掃） 法第13条の23 保安講習未受講違反				
35 今後の対策	当該屋外タンク貯蔵所の廃止の実施										
36 所見	当該施設所有者に対し、危険物施設からの漏えいとなるサイン（底板から油の滲み）が確認された際には、早期に消防へ通報するよう指導した。液体の危険物施設からの流出は、社会的影響（河川流出）が大きく回収が長期になることから、底板からの流出に対する強化策が今後重要であると解する。										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所と配管の接続部が腐食疲労したことによるエタノールの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 10日 13時 54分	推定・確定	4 発 見	1月 10日 14時 10分	
5 覚 知	1月 10日 14時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 10日 14時 45分	
7 鎮火・処理完了	1月 10日 15時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：7.2m/s 気温：12.5℃ 湿度：45.5%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 医薬品製造 番 号 (1762) 業 業 医薬品製剤製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201) 能 力： 容量100,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 エタノール 100,000L 250倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 容量1,100L		倍数の合計： 250倍 設置の完成： 昭和 55年 6月 28日 直近の完成： 平成 25年 1月 4日		
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類アルコール類 名称： エタノール(1,100L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 一般取扱所において使用したアルコールを空の状態の屋外タンク貯蔵所に送液中、屋外タンク貯蔵所の底部にある配管より内容物のアルコールが漏えいしたもの。なお、漏えいは防油堤内のみ。送液中、屋外タンクの防油堤内に危険物が漏えいしていることを発見し通報したもの。送液量は69,000L。緊急措置として、漏えい箇所を漏水防止テープにて応急措置。防油堤内のアルコールについては水で希釈し60%未満にして簡易タンクに抜取りを実施、屋外タンク内のアルコールについては、隣接する屋外タンクに移送する。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関連原因							
	発生原因の状況： 長期使用している配管の保温材部に囲われている部分に、何らかの原因により亀裂が入りその部分よりアルコールが漏えいしたもの							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に1, 100L漏えい
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 屋外タンク配管が腐食により破損。
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第四類アルコール類エタノール1, 100L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 2 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (100 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 火災警戒活動				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 自衛消防隊の活動が実施されていなかった。								
行政措置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年12月25日	平成12年1月9日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	令和2年1月17日	年 月 日						
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員への安全教育及び自衛消防活動の実施内容の修正 ・機器の日常点検の追加及び送液中の安全点検の実施 							
36 所 見	従業員等に対し、定期点検のみならず業務中における日常点検も十分に行うよう指導。							

1 事故名	屋外タンク貯蔵所附属配管において、埋設本管が外面腐食により開口しエキストラクトが流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	1月 17日 13時 28分		
5 覚 知	1月 17日 13時 39分	6 鎮 圧 応急処置完了	1月 17日 14時 28分		
7 鎮火・処理完了	1月 18日 0時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南西 風速：1.7m/s 気温：9℃ 湿度：76%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) エキストラクト 3,062,000L 15,310倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 15,310倍				
名 称：固定屋根付浮屋根 (地上) タンク 番 号 (1203)	設置の完成：昭和47年 10月 30日				
能 力：屋外タンク貯蔵所 容量：3,062KL	直近の完成：平成28年 11月 4日				
13 機 器 等 温 度 圧 力：	17 物 質 の 区 分				
名 称：配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
規 模：6B (SGP)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
14 発 生 箇 所	(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧)				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	(低温、[常温] [0-40℃]、高温)				
材 質：鋼鉄	分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：エキストラクト(803L)				
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	①. 選任有 2. 選任無				
作 業 状 況： 番 号 ()	20 危 険 物 保 安 監 督 者				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： オフサイト運転スタッフが工事資料準備のため現場ラインの確認を行っていたところ、油の臭気を感じたため周辺を調査したところ当該埋設配管の地上立ち上がり部のさや管の防雨板周辺から油の滴下を発見したものである (なお、当該配管理設部はさや管で保護された構造となっており地上立ち上がり部でその構造が終わっている。地上立ち上がり部から雨水が入るのを防止するため防雨板が設置されている。)					
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 埋設管の本管とさや管の間に水分が浸入し、湿潤環境となり本管の外面腐食が進み開口したと推測される。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 1㎡×深さ5mm		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： エキストラクト配管8Bに2mmの開口		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3台	0隻	0機	9人	自 衛	4台	0隻	0機	51人	物質の被害状況： 第4類第1石油類エキストラクトが約803L流出。
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 災害対策本部の設置及び車両配備等による二次災害防止活動を実施。				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和2年 1月 17日				年 月 日	定期・自主点検	令和2年 1月 16日		年 月 日
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	年 月 日		年 月 日
	停止解除	年 月 日				年 月 日	保安検査	年 月 日		年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日		年 月 日		内容：					
35 今後の対策 漏えい配管の検査を実施し原因究明を行い、再発防止対策を検討する。										
36 所 見 原因究明及び対策を確実に履行するとともに、保安対策を徹底することを指導。										

1 事故名		屋外タンク貯蔵所の軽油タンク側板に亀裂が生じ、粗製ベンゼンが流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定			4 発 見		4月 7日 9時 50分				
5 覚 知		4月 7日 11時 05分			6 鎮 圧 応急処置完了		4月 7日 14時 44分				
7 鎮火・処理完了		4月 7日 14時 44分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：西		風速：3m/s		気温：14℃ 湿度：33%			
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 鉄鋼業 製鉄業 高炉に 番 号 (2311) よる製鉄業				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区							
				16 発生施設規制区分等							
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 粗製ベンゼン 951,000L 4,755倍							
12 施 設 装 置											
名 称：固定屋根付浮屋根 (地上) タンク 番 号 (1203)											
能 力：貯蔵量：951KL											
13 機 器 等				温度圧力：							
名 称：貯槽 (タンク) 番 号 (107)											
規 模：板厚：4.5mm											
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成16年 4月 26日 直近の完成：平成16年 4月 26日							
名 称：タンク側板 番 号 (101)				17 物 質 の 区 分							
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：粗製ベンゼン(400L)							
15 発 生 時				18 取扱者の概要							
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)											
作 業 状 況： 番 号 ()											
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： タンク側板に亀裂が生じ、貯蔵していた粗製ベンゼンが防油堤内に漏えいしたもの											
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送											

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()						
原 因	関 連 原 因								
	発生原因の状況： 側板の板厚が減少し、貯蔵物の重量に耐えることが出来ず、タンク側板に亀裂が生じ漏えいに至ったもの								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層					
	疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害									
区分	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	28 物的被害	
当 事 者		0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内で留まる。	
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 準特定屋外タンク貯蔵所の側板の一部破損	
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 3 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 1 人	物質の被害状況： 粗製ベンゼン約400L流出					
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人						
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人						
その他の機関	1 台 0 隻 0 機 1 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (1 万円)					
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (4)				自衛防災・消防組織等 番号 (99)					
31 防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策	減肉が認められるため、腐食減肉防止対策を講じたタンク本体に更新。 タンク更新後は、特定屋外タンク貯蔵所の開放点検周期に準じて開放検査の実施。								
36 所 見	同時期に設置した同規模のタンクについて点検を実施するように指導。								

1 事故名	屋外タンク貯蔵所のタンク水抜管が落下物により破損及び脱落し、重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 24日 9時 20分	推定・確定	4 発 見	4月 24日 9時 20分	
5 覚 知	4月 24日 9時 24分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 24日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了	12月 4日 11時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：2.3m/s 気温：12℃ 湿度：47%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 窯業・土石製品製造業 番 号 (2246) 陶磁器・同関連製品製造業 陶 磁器製タイル製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)				
	特別防災地区名：				
12 施 設 装 置		16 発生施設規制区分等			
名 称： 固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201)		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他			
能 力： 貯蔵量 33,000L		貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所			
13 機 器 等		類・品名・名称・数量・倍数：			
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)		第4類第3石油類 (非水溶性液体) 第4類 第3石油: 33,000L 16.5倍			
規 模： 直径3,000mm、高さ5,000mm、容量33,000L		倍数の合計： 16.5倍			
14 発 生 箇 所		設置の完成： 昭和 51年 6月 18日			
名 称： ドレンノズル 番 号 (208)		直近の完成： 昭和 51年 6月 18日			
材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分			
15 発 生 時		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
作 業 状 況： 番 号 ()		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)			
		(低温、常温 [0-40℃]、高温)			
		分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油			
		18 取扱者の概要			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 令和2年4月24日午前9時20分頃、最大貯蔵量33,000Lの屋外タンク貯蔵所の保有空地内である防油堤外壁に沿って、廃棄業者が廃棄物用のバケツをフォークリフトを使用し3段に積み上げ設置しようとしたところ、誤って1器を防油堤内に転落させてしまう。バケツがタンク水抜管に接触し、破損及び脱落したことにより貯蔵していた重油が防油堤内に漏えい。9時24分、当該事業所から119番通報する。防油堤内に漏えいした重油8,800Lをタンクローリーにて回収する。 4月29日午前10時10分頃、消防署固定電話に当該事業所から事業所北側の貯木場水面に油膜が確認できる旨の連絡を受け出向。護岸、貯木場及び湾を隔てる堤防 (護岸と堤防はL字になっている) に沿って約2m幅の油膜を確認する。オイルフェンスを護岸に沿って設置し流出防止措置をとり、オイル吸着マットにて流出した重油を継続処理するよう指導する。湾への流出量が不明であり、事故当時のタンク内貯蔵量が不明であることから、総流出量も不明とする。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()												
	関 連 原 因 維持管理不十分																
	発生原因の状況： 屋外タンク貯蔵所の保有空地内である防油堤外壁に沿って、廃棄業者がフォークリフトを使用し3段に積み重ねようとする。1度目の搬送にて1器を設置。2度目は2器を上下に積み重ねた状態で搬送し、既に設置されていた1器の上に積み重ねようとしたところ、上段の1器を誤って防油堤内に転落させてしまい、タンク水抜管に接触したことにより破損及び脱落し、漏えい。防油堤底面には7か所のクラックが入っており、北側護岸の継ぎ目から貯木場へ流出及び拡散する。																
	主原因の詳細																
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層										
	破損		定常運転時		物質の落下・ぶつかりによる破損												
	関連原因の詳細																
	制度		規則・手順		内容・周知		周知不足										
環境		物理的環境		作業スペース		整理・清掃されない											
人		本人の意識		思慮		不注意											
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																	
27 人的被害						28 物的被害											
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした重油が、防油堤底面のクラックから漏れ、護岸の繋ぎ目から貯木場へ流出し拡散した。流出範囲は敷地境界線20m程度と推定する。			
区分																	
当 事 者		0		0		0		0						施設等の被害状況： 屋外タンク貯蔵所のタンク水抜管を破損。 漏えいした重油によりアスファルトサンドの一部が溶解。			
防災活動従事者		0		0		0		0									
第 三 者		0		0		0		0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																	
消 防 機 関		4 台 0 隻 0 機 13 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人		消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性） 重油 8,800L回収	
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人		海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人			
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他の機関		2 台 0 隻 0 機 4 人		その他		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (101 万円)	
30 実施した防災活動の状況																	
公設消防機関：番号 (5、6、7)						自衛防災・消防組織等 番号 ()											
<small>4月24日 重油の噴出箇所、防油堤の水抜管及び油分離層を確認し、継続する重油の漏えいが防油堤外に流出していないことを確認する。口頭による緊急使用停止命令を発生するとともに事故調査を実施。漏えい箇所からの噴出の勢いが強く養生不可の状況であったため、出火に対する警戒筒先を配備し、防油堤外に飛散した重油の回収を実施。廃油回収用のタンクローリー到着後、回収作業時の安全管理を実施。 4月29日 貯木場において重油の流出を認めたため、オイルフェンスの展開及びオイル吸着マットによる回収を指導する。</small>																	
31 防災活動上の問題点																	
政 策 措 置	32 施設名		屋外タンク貯蔵所		33 定期点検等		消 防 法		そ の 他								
	使用停止		令和2年 4月 24日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日								
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日								
	停止解除		令和2年 7月 10日		年 月 日		保安検査		年 月 日								
	関係条項		法第12条の3第1項		34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無		内容： 法第10条第3項 法第10条第4項								
その他		年 月 日		年 月 日													
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭															
35 今後の対策																	
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物用バケットの積み込み作業は屋内で実施する。 ・保有空地の確保を徹底し、物を置かないようにする。空地がより明確に判別できるよう空地ラインを引き直す。 ・屋外タンク貯蔵所周辺に置いていた製品等を別倉庫に移動させ、周辺を整理する。 ・防油堤内底部のクラック7か所の補修工事を実施する。 ・アスファルトサンド一部溶解に伴い、雨水浸入防止措置及びタンク外面腐食防止措置に係る工事を実施する。 																	
36 所 見																	
保安監督者に対し、保有空地の確保の徹底及び周辺の整理整頓状況を常に監督するよう指導。																	

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の脱臭装置取付けの施工監視不十分及び施工不良により、ナフサが浮屋根上及び防油堤内に流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	7月 18日 9時 05分		
5 覚 知	7月 18日 9時 42分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 18日 11時 15分	
7 鎮火・処理完了	7月 18日 18時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：1m/s 気温：24℃ 湿度：77%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 69,896,000L 349,480倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 349,480倍				
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)	設置の完成：昭和47年 5月 1日				
能 力：油種 ナフサ貯蔵量 69,896,000L、 倍数 349,480倍、直径 67m、高さ 21.96m	直近の完成：平成30年 5月 29日				
13 機 器 等 温 度 圧 力：	17 物 質 の 区 分				
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
規 模：油種 ナフサ貯蔵量 69,896,000L、 倍数 349,480倍、直径 67m、高さ 21.96m	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
14 発 生 箇 所	(固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧)				
名 称：マンホール 番 号 (305)	(低温、[常温] [0-40℃]、高温)				
材 質：鋼鉄	分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：ナフサ(50L)				
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要				
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)	①. 選任有 2. 選任無				
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)	3. 不要				21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 送油係員が、屋根マンホールに取り付けていた脱臭装置の取り外しに立ち会ったところ、当該マンホールと脱臭装置の接続部からナフサが流出しているのを見出し通報したもの。流出したナフサは雨水と一緒に屋根排水口を通り防油堤内にも流出した(当該屋外タンク貯蔵所は前日の7月17日13時50分からナフサの受け入れを開始し7月18日午前4時40分に移送を完了していた。)					
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因 施工不良						
原	発生原因の状況： 脱臭装置取付けの施工確認（監視）が不十分であったこと及び施工（接続）が適切ではなかったことが原因となり事故が発生した（脱臭装置は屋根マンホールの蓋を外しその上に接続されていた）。事故発生時は雨水が当該マンホール周辺に滞留し屋根板にたわみが生じた。その結果、油面がマンホールと脱臭装置の接続部以上に達したため接続部の隙間からナフサが約50L流出した。						
	主原因の詳細						
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		
	本人の意識		思慮		その他		
関連原因の詳細							
設計不良		機能		その他			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害				28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	
区分						職業又は職名	
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	3 台 0 隻 0 機 47 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
物質の被害状況： ナフサ約50Lの流出							
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円							
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (99) 調査活動を実施。			自衛防災・消防組織等 番号 (99) 災害対策本部の設置及び車両配備等による二次災害防止活動を実施。				
31 防災活動上の問題点							
32	施設名			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 6 月 4 日	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	平成 26 年 7 月 29 日	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>	
措 置	その他	年 月 日	年 月 日	内容：			
35 今後の対策		脱臭装置の設備構造及び設置位置の見直しを実施するとともに、使用の可否についても事業所内で検討する。					
36 所 見		改善内容を確実に履行すること及び事故の原因となった脱臭装置が屋外タンク貯蔵所以外の施設においても使用されていないか確認することを指導する。					

1 事故名	船からタンクへ危険物を移送中に配管のドレンノズルが開放されており第3石油類（非水溶性）が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）				
3 発 生	7月 25日 19時 00分	推定・確定	4 発 見	7月 25日 22時 30分	
5 覚 知	7月 27日 13時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 26日 12時 00分	
7 鎮火・処理完了	7月 26日 12時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他（ ）				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：3m/s 気温：25℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 （レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他） 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号（5223） 金属材料等卸売業 化学製品卸 売業 油脂・ろう卸売業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：名古屋港臨海地区
					16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) D-SOL200 470,000L 235倍
12 施 設 装 置					設置の完成：昭和36年 5月 19日 直近の完成：平成23年 11月 2日
名 称：固定屋根式（地上）タンク 番号（1201）					17 物 質 の 区 分
能 力：タンク容量 470KL、第4類第3石油類(非水溶性)					
13 機 器 等	温 度 圧 力：常温、常圧				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、 <u>液相</u> 、気相）（ <u>常圧</u> 、加圧） （低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温） 分類：第4類第3石油類（非水溶性液体） 名称：D-SOL200 (19,000L)
名 称：貯槽（タンク） 番号（107）					
規 模：直径8.7m、高さ9.0m、容量470KL					倍数の合計：235倍
14 発 生 箇 所					18 取扱者の概要
名 称：ドレンノズル 番号（208）					経験年数5年
材 質：鋼鉄					①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
15 発 生 時					21 危険物取扱者の の取扱・立会い
運 転 状 況：受入中 番号（9）					①. 有 2. 無
作 業 状 況：運転操作中 番号（1）					
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 船からNo.3タンクへ危険物（約375KL）を移送中に、本来閉止されていなければならない配管のドレンノズルが開放されていた。荷役中の配管パトロールを実施するも、当該バルブは閉止しているものと思い込み確認をしなかったため、危険物が約19,000L漏えいしたものである。					
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号（8） 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 危険物移送前に配管の見回りを行ったが、ドレンノズルは閉止されているものと思込み、実際に確認しなかった。 その状況下において船から当該タンクに移送作業を行ったため、開放されていたドレンノズルから危険物が漏えいした。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切			
	設備		監理・保守		点検・整備		確認不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内のピット及び側溝約10mの範囲に拡散。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	4 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性） D-SOL200約19,000L 流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (5) 防油堤内に漏えいした危険物をエアードラムポンプでドラム缶に移し、作業を完了したもの。回収量にあっては2,000L。					
31 防災活動上の問題点 危険物漏えい発生事案から2日後に通報。										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所(No.3タンク)				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和2年 5月 25日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
その他	令和2年 7月 28日		年 月 日		内容： ・消防法第10条第3項違反 ・消防法第14条の2第4項違反 ・石油コンビナート等災害防止法第23条第1項違反					
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・配管洗浄等の保守点検後に工事近傍のバルブの開閉状況確認を行う。 ・受払開始直後は必ず通油の進路に沿って配管パトロールを行い異常がないことを確認する。 ・必要に応じ開閉状況を示す表示(常時閉)を行う。 ・通報義務を定めた法令を全職員に周知し、異常現象発生時には迅速な通報を徹底する。 									
36 所 見	今回の事故に関する部分だけではなく、事業所全体の防火・防災管理について再確認が必要ではないか。									

1 事故名	船からNo26屋外タンク貯蔵所へ危険物の荷卸し中にオーバーフローし、防油堤内に漏えいしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発生	8月 24日 10時 00分	推定・確定	4 発生見	8月 24日 10時 05分	
5 覚知	8月 24日 10時 15分		6 鎮圧 応急処置完了	8月 24日 13時 40分	
7 鎮火・処理完了	8月 24日 16時 15分				
8 覚知別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気象状況	天気：晴 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：32℃ 湿度：				
10 発生事業所	種別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 業態：鉱業 鉱業 原油・天然ガス 鉱業 番号 (531) 原油鉱業		11 発生場所	区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋港臨海地区	
12 施設装置	名称：固定屋根式 (地上) タンク 番号 (1201) 能力：タンク容量 199.978KL 第4類第3石油類 (非水溶性) CVTF I-NS3		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) CVTF I-NS3 199,978L 99.99倍	
13 機器等	温度圧力：常温、常圧 名称：貯槽 (タンク) 番号 (107) 規模：直径5.7m、高さ8.2m、容量199.978KL		倍数の合計： 99.99倍		
14 発生箇所	名称：通気管 番号 (304) 材質：鋼鉄		設置の完成：昭和 45年 9月 9日 直近の完成：平成 28年 5月 23日		
15 発生時	運転状況：受入中 番号 (9) 作業状況：運転操作中 番号 (1)		17 物質の区分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：CVTF I-NS3 (13, 200L)	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 船からNo26屋外タンク貯蔵所へ危険物の荷卸し中にオーバーフローし、防油堤内に第4類第3石油類 (潤滑油) 13.2KLが漏えいしたもの					
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (8) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 故障										
	発生原因の状況： 本来、No.4タンクに荷卸しする予定だった危険物を、荷卸し先をNo.26タンクに指定した指示書が出ていたため現場作業員は指示書通り荷卸し先がNo.26タンクになるように関連バルブを操作し荷卸しを行った。荷卸しに先立ちNo.26タンクの残量確認を行ったが確認不十分（受け入れ可能量の確認）であった。また、当該タンクにはタンク上限警報（液面が許可数量上限に達するとタンク元弁が自動閉止）が備わっていたが、何らかの理由で機能せず、オーバーフローにつながったものである。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	設備		監理・保守		点検・整備		確認不足				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
	故障		機能		機器の機能の停止						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内、タンク周囲約5mの範囲に拡散。				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 防油堤内、タンク周囲約5mの範囲に拡散。				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性） CVTF I-NS3 約 13,200L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	2 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
防油堤内に漏えいした危険物を移動タンク貯蔵所に回収したものの（移動タンク貯蔵所のポンプを使用）。あわせて吸着マットによる油回収を実施。											
31 防災活動上の問題点											
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検		令和元年6月13日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無			
35 今後の対策	内容： ・オーダー受領時のダブルチェックによるシステムへの入力 ・V-netシステム（物流基幹システム）の運用の徹底（在庫確認、オーバーフローアラーム機能） ・タンク上限警報システムのメンテナンスによる機能回復										
36 所見	今回のタンク以外にも多数の屋外タンクがあることから、今回の事故の教訓を水平展開し事故防止につなげる必要がある。										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所防油堤内にあるポンプ設備のシール部が劣化し、軽油が漏えいした事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 25日 15時 00分	推定・確定	4 発 見	11月 25日 16時 00分	
5 覚 知	11月 25日 18時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 25日 19時 50分	
7 鎮火・処理完了	12月 23日 13時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：2.7m/s 気温：16.3℃ 湿度：46.9%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 鉄道業 鉄道業 軌道業 番 号 (4212)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 円筒横置型 (地上) タンク 番 号 (1204) 能 力： 1,600L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,600L 1.6倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 0.3MPa 名 称： ポンプ 番 号 (501) 規 模： 120L/min(at:1, 200rpm)		倍数の合計： 1.6倍 設置の完成： 平成 3年 9月 17日 直近の完成： 平成 3年 9月 17日		
14 発 生 箇 所	名 称： パッキング 番 号 (213) 材 質： ゴム		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(5L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 停止中 番 号 (5) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所に荷卸しに来た業者が防油堤内に油の滲みを発見。荷卸し業者が事業所に連絡し、事業所の危険物保安監督者が現場確認をすると、ポンプ設備のシール部から2から3秒に1滴のペースで油漏れを確認した。ポンプ設備の漏えい箇所には油受けを設置するとともに防油堤内の漏えいした油には吸着マットを使用し、応急措置を実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 1週間前に設備の点検を行ったところ、ポンプ設備シール部からの滲みを確認したため、部品供給の準備を進めていた。しかし、修理改善前に漏えいを起こしてしまったものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内にあるポンプ設備から漏えいし、防油堤内で3m程度の範囲にわたり滲みを確認。たまたますままでに達していない。 施設等の被害状況： ポンプ設備のシール部劣化		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油 5L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (36 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (4)					
31 防災活動上の問題点 漏えいしてから消防機関への通報が約2時間後であり、迅速に行われていない。										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	令和2年6月13日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	関係条項	標識及び掲示板の文字が不鮮明			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	平成29年8月23日	年	月	日						
35 今後の対策		日常点検の実施及び早期通報								
36 所 見		当該事業所に対し、日常的に点検を実施するとともに、異変があった場合は速やかに施設及び設備の点検を業者に依頼し対応をする。また、事故等が発生した際には速やかに消防機関に通報するよう指導した。								

1 事故名	準特定屋外タンク貯蔵所の液面計故障による浮き蓋破損及び浮き蓋デッキ部分へのライトナフサの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 15日 9時 15分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	5月 15日 9時 15分	
5 覚 知	5月 15日 11時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 23日 0時 10分	
7 鎮火・処理完了	5月 23日 0時 10分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南東 風速：2m/s 気温：22℃ 湿度：68%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：四日市臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ライトナフサ 980,000L 4,900倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称：固定屋根付浮屋根 (地上) タンク 番 号 (1203)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力：980KL	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
13 機 器 等	温度圧力：				
名 称：貯槽 (タンク) 番 号 (107)	(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)				
規 模：980KL	(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)				
14 発 生 箇 所	分 類：第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：ライトナフサ (21,600L)				
名 称：フレームアレスタ 番 号 (212)	18 取扱者の概要				
材 質：鋼鉄	①. 選任有 2. 選任無				
15 発 生 時	20 危険物保安監督者				
運 転 状 況：受入中 番 号 (9)	①. 選任有 2. 選任無				
作 業 状 況： 番 号 ()	21 危険物取扱者の取扱・立会い				
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 製油所において、常圧蒸留装置から屋外タンク貯蔵所へライトナフサを配管で移送中、当該タンクの液面計の不具合により適正な在庫量を表示できなくなり、結果として移送停止が行われず許可液面高を超え、内部浮き蓋が屋根板に接触し、浮き蓋デッキ上にライトナフサが漏えいしたものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、9、10) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送、その他					

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因		番号 ()					
	関連原因 監視不十分、維持管理不十分									
	発生原因の状況： 液面計の動作不良は液面計の故障によるもので、移送中に液面計の動作が停止したことに気付くことができなかった。また、液面計の動作不良はタンク内で発生したスケール（堆積物）や液面計の維持管理不足が原因である。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		周囲からの異物の作用による機器の動作不良					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 浮き蓋デッキ上		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： アトモス弁、ゲージウェル及びフレームアレスター		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第四類第一石油類非水溶性ライトナフサ21.6KL
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 () 活動なし						自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 窒素充填、漏えい物質調査等				
31 防災活動上の問題点										
異常覚知（タンク液面計の異常値）があった場合、状況によっては即座に通報が必要（参照：内部浮きぶた付き屋外タンクの異常時における対応マニュアル作成に係る検討報告書）。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和 2 年 6 月 3 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日			年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日			平成 27 年 7 月 14 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無				
その他	年 月 日	年 月 日		内容：						
35 今後の対策	液面計の動作不良が二度と起こらないよう、動作不良への対策品に交換する。 液面計が動作不良とならないよう定期点検及び不具合があれば分解清掃を実施する。 タンクレベル警報アラーム（Hアラーム）の設定値を下げる。									
36 所見	事故は一般的に過去の事故の繰り返しである事が多いため、過去の事例から学ぶ事で多くを防ぐことができるように思う。今回の液面計不良にしても、動作不良への対策品が同液面計メーカーからすでに販売されている。全国の過去の事故事案について、情報共有が必要である。									

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の頂部において、バルブ閉止未実施のため灯油がオーバーフローして流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 25日 11時 10分	推定・確定	4 発 見	2月 25日 11時 10分	
5 覚 知	2月 25日 11時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 25日 13時 18分	
7 鎮火・処理完了	2月 25日 14時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北東 風速：2.2m/s 気温：13℃ 湿度：52%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：堺泉北臨海地区
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 200,000L 1,000倍				
12 施 設 装 置					
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)					
能 力：200KL					
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)					
規 模：内径7,500mm、高さ6,125mm					
14 発 生 箇 所					設置の完成：昭和57年 4月 5日 直近の完成：平成29年 5月 24日
名 称：その他 番 号 (999)					17 物 質 の 区 分
材 質：鋼鉄					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(2,000L)
15 発 生 時					18 取 扱 者 の 概 要
運 転 状 況：払出中 番 号 (10)					
作 業 状 況：洗浄中 番 号 (11)					
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 灯油を貯蔵する屋外タンク貯蔵所からの払出に伴い、事前に配管を灯油で洗浄していた。その際に、ラインアップのミスにより想定していなかった原油を貯蔵する屋外タンク貯蔵所へ流れ込み、頂部のベントノズルからオーバーフローが発生し、許可外の灯油約2KLが防油堤内に流出したものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 当日は運転員が会議やその他の作業により多忙であった。当該運転員が焦りながら作業に当たっていたため、本来閉止されていなければならないバルブの閉止を見逃してしまった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の体調		精神的		冷静でなかった				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に流出。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 当該タンク周辺配管及び防油堤内地面に油汚れ			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	9 台	0 隻	0 機	30 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油 2,000L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (9 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 情報収集						自衛防災・消防組織等 番号 (5) エアーポンプによる回収					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 2 年 3 月 8 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	事故発生に基づく警告書 令和 2 年 2 月 28 日		年 月 日								
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・作業員にタイムプレッシャーがかからないように作業手順を見直し、改定する。 ・当該タンクにアラーム機能付きのレベル計を施工する。 										
36 所 見	当該タンクへのレベル計の施工によりハード面の対策は講じられているところであるが、作業員がミスを犯さないように作業手順などを見直す必要がある。										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所において、原油チャージポンプ吐出配管の溶接欠陥部が腐食進行し、原油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 7日 1時 15分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	5月 7日 1時 15分	
5 覚 知	5月 7日 1時 45分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 7日 2時 16分		
7 鎮火・処理完了	5月 7日 3時 41分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：1.8m/s 気温：15.8℃ 湿度：62%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <input type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：堺・泉北臨海地区	
12 施 設 装 置	名 称：浮屋根式 (地上) タンク 番 号 (1202) 能 力：40,000KL		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 40,000,000L 200,000倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：50℃、0.62MPa 名 称：ポンプ 番 号 (501) 規 模：270KL/h		倍数の合計：200,000倍 設置の完成：昭和43年11月26日 直近の完成：平成26年2月25日		
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input type="checkbox"/> 液相、気相) (<input type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：原油 (10.8L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：移送中 番 号 (18) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所の原油を均一化するため、チャージポンプによりサーキュレーション (循環) 運転を開始したところ、配管から原油10.8L流出したもの。なお、ポンプを停止し、バルブ間のブロックにより流出は停止した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 検査の結果、配管底部の溶接線に局所的な内面腐食を確認したが、それ以外では内外面ともに顕著な腐食は認められなかった。また、当該溶接線に著しい溶接不良が確認されたこと、及び腐食スケールの元素分析により塩化物イオンが検出されたことから、溶接欠陥部に原油内の水が浸入し滞留することで塩化物による腐食が進行したと推定する。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）						
	施工不良		施工		溶接不良						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管下部に原油約10.8L流出			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 特になし			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	27 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性） 原油 約10.8L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
情報収集活動											
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和2年 3月 6日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	事故発生に基づく指導書 令和2年 5月 13日		年 月 日				内容：				
35 今後の対策	現在では、当該事業所の自社基準において、溶接の品質管理を行っており、初層は必ずTIG溶接とし、適正なルート間隔で実施することが定められている。また、当該事業所で溶接を行う場合は、溶接工技量確認テストにより十分な技量を有しているか確認している。 なお、類似環境の溶接線に対し検査を実施し、同様の腐食がないことを確認した。										
36 所 見	溶接欠陥は、定期点検等で発見することは困難であることから、原油配管において極力原油が滞留しないような対策をする必要がある。										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所において、配管内の圧力上昇により移送配管バルブ本体が破損し、軽油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 8日 10時 30分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	6月 8日 10時 30分	
5 覚 知	6月 8日 10時 58分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 8日 11時 41分	
7 鎮火・処理完了	6月 8日 12時 47分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南西 風速：2m/s 気温：27℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <input type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 堺泉北臨海地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201)			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他		
能 力：容量 8,830KL			貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		類・品名・名称・数量・倍数：		
名 称：貯槽 (タンク) 番 号 (107)			第4類第2石油類 (非水溶性液体) 軽油 8,830,000L 8,830倍		
規 模：直径 29.06m、高さ 16.45m、容量 8,830KL			倍数の合計： 8,830倍		
14 発 生 箇 所			設置の完成：昭和 43年 7月 31日		
名 称：開閉弁 番 号 (204)			直近の完成：平成 29年 9月 28日		
材 質：鋳鉄			17 物 質 の 区 分		
15 発 生 時			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)			5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
作 業 状 況： 番 号 ()			(固相、 <input type="checkbox"/> 液相、気相) (<input type="checkbox"/> 常圧、加圧)		
			(低温、 <input type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)		
			分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：軽油 (126L)		
			18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所の移送配管 (タンク間移送用受払配管) のバルブ本体に亀裂・割れが生じ、軽油が約126L流出したものの。バルブ間のブロック及び残油の回収により流出は停止した。なお、事故当時は当該配管を使用しておらず、当該バルブは2次バルブ (材質はねずみ鋳鉄製) で開状態であった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送					

25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()																													
関 連 原 因 操作確認不十分、維持管理不十分 発生原因の状況： バルブ割れ箇所を目視検査した結果、鑄鉄特有の巣はなく、腐食も確認できなかった。また、当該配管系統には、逃し弁を2か所設置していたが、2か所とも逃し弁の元弁が閉止されていた。このことから、当該配管系統は液封状態となっており、温度上昇による配管内の圧力上昇により、バルブ許容圧力を大幅に超えたことで破損したと推測する。																																	
主原因の詳細 <table border="1"> <tr> <th>第I層</th> <th>第II層</th> <th>第III層</th> <th>第IV層</th> </tr> <tr> <td>破損</td> <td>定常運転時</td> <td>異常圧力上昇等</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						第I層	第II層	第III層	第IV層	破損	定常運転時	異常圧力上昇等																					
第I層	第II層	第III層	第IV層																														
破損	定常運転時	異常圧力上昇等																															
関連原因の詳細 <table border="1"> <tr> <td>設備</td> <td>監理・保守</td> <td>点検・整備</td> <td>確認不足</td> </tr> <tr> <td>制度</td> <td>規則・手順</td> <td>内容・周知</td> <td>規則・手順の内容が不適切</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						設備	監理・保守	点検・整備	確認不足	制度	規則・手順	内容・周知	規則・手順の内容が不適切																				
設備	監理・保守	点検・整備	確認不足																														
制度	規則・手順	内容・周知	規則・手順の内容が不適切																														
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																	
27 人的被害			28 物的被害																														
<table border="1"> <tr> <th>被害内容等</th> <th>死亡</th> <th>重症</th> <th>中等症</th> <th>軽症</th> <th>死傷原因</th> <th>職業又は職名</th> </tr> <tr> <td>当 事 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防災活動従事者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 三 者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	当 事 者	0	0	0	0			防災活動従事者	0	0	0	0			第 三 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 当該屋外タンク貯蔵所防油堤内 軽油 約126L流出 施設等の被害状況： 特になし		
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名																											
当 事 者	0	0	0	0																													
防災活動従事者	0	0	0	0																													
第 三 者	0	0	0	0																													
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																	
消防機関		8台 0隻 0機 27人		自 衛 3台 0隻 0機 10人																													
消防団		0台 0隻 0機 0人		共 同 0台 0隻 0機 0人																													
海上保安部		0台 0隻 0機 0人		応 援 0台 0隻 0機 0人																													
その他の機関		0台 0隻 0機 0人		そ の 他 0台 0隻 0機 0人																													
				物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油 約126L流出																													
				損害額 1万円未満、1万円以上 () 万円																													
30 実施した防災活動の状況																																	
公設消防機関：番号 (99)			自衛防災・消防組織等 番号 (4、5)																														
ガス検知器による警戒活動 情報収集活動			・配管内の残油の回収 ・バルブ間のブロック																														
31 防災活動上の問題点																																	
32 施設名 屋外タンク貯蔵所																																	
行政措置	使用停止	年 月 日		年 月 日																													
	改善命令等	年 月 日		年 月 日																													
	停止解除	年 月 日		年 月 日																													
	関係条項																																
その他	事故発生に基づく指導書 令和2年6月11日		年 月 日																														
		①. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭																													
33 定期点検等		消 防 法		そ の 他																													
定期・自主点検		令和2年3月2日		年 月 日																													
気密試験等		年 月 日		年 月 日																													
保安検査		年 月 日		年 月 日																													
34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：																															
35 今後の対策 (1) 液封状態となった配管及び機器類の健全性の確認 (2) マニュアルの見直し ・逃し弁における元弁の全開までの必要な規定回転数を明記 ・固縛する前の本弁開閉状況の確認 (3) 定期的にすべての逃し弁の本弁に対し、全開であることを確認する (4) 上記対策について運転員へ周知教育																																	
36 所 見 当該事故は安全装置である逃し弁の元弁が閉止していたことに伴いバルブが破損したものであり、長年閉止状態で運用していたことに気づけなかったことが本質的な原因と考えられることから、逃し弁の重要性を再度認識するとともに、有事の際に重要な役割をする弁に対しては定期的かつ適正な管理が必要と思慮する。																																	

1 事故名	屋外タンク貯蔵所において、タンク間の移送作業時、バルブの閉止忘れによるセパレーターへ油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 18日 12時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 18日 12時 25分	
5 覚 知	4月 18日 14時 57分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 18日 19時 00分	
7 鎮火・処理完了	4月 19日 16時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：4.8m/s 気温：17.1℃ 湿度：74.9%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 和歌山北部臨海南部	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 200,000L 1,000倍	
13 機 器 等	温度圧力：0.4MPa		設置の完成：昭和33年 5月 28日 直近の完成：平成10年 4月 24日		
14 発 生 箇 所	名称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201) 能力：200KL		17 物質の区分		
15 発 生 時	名称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規模：厚み 5.5mm 口径 3インチ		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(70L)		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： #287タンクから#2009タンクへ油の移送作業中、バルブを閉め忘れセパレーターに油を流出させる。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()				
原 因	関 連 原 因								
	発生原因の状況： 屋外タンク貯蔵所から屋外タンク貯蔵所へ原油を移送する際、水切り配管バルブを閉め忘れており、純粋製造装置内のセパレーター内に原油が約70L漏えいした。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層					
	人	本人の意識	思慮	思い込み					
	関連原因の詳細								
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27	人的被害					28 物的被害			
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： セパレーター内へ油を流出させる。	
	区分								
	当 事 者	0	0	0	0				
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし	
	第 三 者	0	0	0	0				
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
	消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 危険物 液相 加圧0.4MPa 常温 第4類 第1石油類（非水溶性液体） 原油 70L				
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
	その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	2 台 0 隻 0 機 5 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円				
30	実施した防災活動の状況								
	公設消防機関：番号 ()			自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
31	防災活動上の問題点								
32	施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
行 政 措 置	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年9月17日	令和2年4月18日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
	その他	年 月 日	年 月 日	内容：					
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭						
35	今後の対策 作業手順のない作業をリストアップし、作業手順を作成する。 配管に行き先を表示する。また弁と配管に赤色のペイントをし識別する。								
36	所 見 特になし								

1 事故名	芳香族製造装置屋外タンク貯蔵所タンクミキサーメカニカルシール部が劣化し、芳香族半製品が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 28日 15時 25分	推定・確定	4 発 見	10月 28日 15時 25分	
5 覚 知	10月 28日 15時 37分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 28日 17時 58分	
7 鎮火・処理完了	10月 28日 21時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北東 風速：2.1m/s 気温：18℃ 湿度：81.2%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 和歌山北部臨海南部				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 芳香族半製品 465,000L 2,325倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 2,325倍				
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)	設置の完成：昭和34年12月31日				
能 力：最大数量465KL	直近の完成：平成26年4月18日				
13 機 器 等	17 物 質 の 区 分				
名 称：攪拌、混合機(ニーダー) 番 号 (508)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
規 模：全長約100cm	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
14 発 生 箇 所	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)				
名 称：その他の部品 番 号 (499)	(低温、常温[0-40℃]、高温)				
材 質：鋼鉄	分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：芳香族半製品(300L)				
15 発 生 時	18 取扱者の概要				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	①. 選任有 2. 選任無				
作 業 状 況： 番 号 ()	3. 不要				
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 芳香族製造装置屋外タンク貯蔵所タンクミキサーメカニカルシール部から芳香族半製品が漏えいしたものの。 ミキサー内のシャフト部をシールしているシールリングが経年劣化により割れが生じたため、シャフト部を伝って漏えいした。 緊急措置として、ロックシール処置を施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1, 9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 当該タンクミキサー（攪拌機）は約50年前から使用されておらず、メカニカルシール部が劣化し漏えいに至った。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		その他					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該屋外タンク貯蔵所の犬走部分に約2L漏えい。漏えい発見後すぐにバケツによる回収作業開始。流出の拡大はなし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 特になし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	7 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類非水溶性 芳香族半製品 300L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	55 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 漏えいが停止するまでガス検知器を使用し付近の警戒を行う。					自衛防災・消防組織等 番号 (3、4、5)					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 2 年 10 月 28 日			年 月 日	年 月 日	令和 2 年 10 月 28 日			
	改善命令等	年 月 日			年 月 日	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	令和 2 年 11 月 6 日			年 月 日	年 月 日	年 月 日			
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
そ の 他	年 月 日			年 月 日						
35 今後の対策	タンクミキサーを撤去しマンホールの蓋を取り付ける。									
36 所 見	特になし									

1 事故名	屋外タンク貯蔵所からタンク底部腐食（推定）による第3石油類A重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	10月 28日 16時 00分		
5 覚 知	10月 29日 15時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 29日 16時 25分	
7 鎮火・処理完了	11月 17日 12時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他（ ）				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：5m/s 気温：22℃ 湿度：42%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態： 製造業 食料品製造業 その他 番 号（ 999 ） の食料品製造業 他に分類され ない食料品製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他のタンク 番 号（ 1299 ） 能 力： 直径1,750mm、全長2,250mm、容量5,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 5,000L 2.5倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽（タンク） 番 号（ 107 ） 規 模： 直径1,750mm、全長2,250mm、容量5,000L		倍数の合計： 2.5倍		
14 発 生 箇 所	名 称： タンク底板 番 号（ 102 ） 材 質： 鋼鉄		設置の完成： 昭和 51年 4月 1日 直近の完成： 年 月 日		
15 発 生 時	運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号（ 7 ） 作 業 状 況： 番 号（ ）		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所の防油堤内及び防油堤水抜き柵に油分がにじみ出ているのを確認したもの。乾燥設備の燃料としてA重油を貯蔵している容量5,000Lの縦置円筒型鋼製タンクであるが、消費施設である乾燥設備は約3か月間停止しており、在庫管理及び定期確認が出来ていなかったことから、流出日時及び流出量は不明である。タンクへのA重油の最終入荷履歴は事故覚知より6か月前であり、入荷量は2,000L、乾燥設備稼働による消費量は約2,500L、事故後に抜き取った残存量は約1,000Lであった。					
24 緊急処置の状況 有 番号（ ） 無					

原 因	25 主 原 因 不明		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 設置から44年経過した縦置円筒型鋼製タンクであり、外面露出部分に油分の付着なく、タンク底部と基礎の境界から油分がにじみ出ている状況であったが、漏えい場所を特定することなく当該タンクは廃止することとなったため、発生原因は不明である。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内及び水抜き溜枳への流出			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 無し			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0台	0隻	0機	0人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第3石油類A重油 流出量不明	
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人		
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/> 内容：			
その他	年	月	日	年	月	日					
35 今後の対策		日常点検の実施及び従業員への教育の実施									
36 所 見		類似施設への立入検査時に注意喚起を行う。									

1 事故名		屋外タンク貯蔵所のポンツーン内での漏えい					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		11月 26日 9時 00分	推定・確定	4 発 見		11月 26日 9時 00分	
5 覚 知		11月 26日 9時 53分		6 鎮 圧		11月 26日 11時 06分	
7 鎮火・処理完了		11月 30日 15時 30分		6 応急処置完了			
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：東 風速：0.6m/s 気温：18.8℃ 湿度：56.3%					
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業			区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 和歌山北部臨海南部				
			16 発生施設規制区分等				
			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) ソルベント 2,075,000L 2,075倍				
12 施 設 装 置							
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)							
能 力：最大数量2,075KL							
13 機 器 等			温度圧力：				
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)							
規 模：内径17.4m 高さ9.91m							
14 発 生 箇 所			設置の完成：昭和34年12月31日 直近の完成：令和2年2月28日				
名 称：ポンツーン 番 号 (104)			17 物 質 の 区 分				
材 質：ステンレス			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：ソルベント(40L)				
15 発 生 時							
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
			18 取扱者の概要				
19 危険物保安統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	
					①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所のポンツーン内に油(ソルベント)が漏えいする。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号(1,9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送							

原因	25 主 原 因 調査中		着火原因		番号 ()					
	関連原因 調査中									
	発生原因の状況： 調査中									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外タンク貯蔵所のボンズーン内に油を約40L漏えいする。ボンズーンは8室あり、その3室から漏えいを確認する。漏えい発見後、タンク内の油を別のタンクに移送する作業を行う。流出の拡大はなし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0					施設等の被害状況： 特になし	
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	6 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類非水溶性 ソルベント 約40L 漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	57 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 漏えいが停止するまでガス検知器を使用し付近の警戒を行う。					自衛防災・消防組織等 番号 (4、5)					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和 2 年 11 月 26 日			年 月 日		定期・自主点検		令和 2 年 2 月 27 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日		気密試験等		年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日		保 安 検 査		平成 31 年 3 月 23 日	
	関係条項	法第12条の3第1項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：	
その他	年 月 日			年 月 日						
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策										
36 所 見										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の配管スチームが停止したため、硫黄が固化し、フランジ部から硫黄が流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 18日 9時 09分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 18日 9時 10分	
5 覚 知	3月 18日 9時 13分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 18日 12時 50分	
7 鎮火・処理完了	3月 18日 12時 50分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：1.7m/s 気温：14℃ 湿度：62%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：水島臨海地区	
12 施 設 装 置	名 称：固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201) 能 力：容量 2,700KL		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第2類硫黄 硫黄 4,860,000kg 48,600倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：140℃ 名 称：配管 (送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：外径 165.2mm		倍数の合計： 48,600倍 設置の完成：昭和 49年 4月 26日 直近の完成：平成 20年 6月 24日		
14 発 生 箇 所	名 称：管継手 (ダクトを含む) 番 号 (201) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (<input checked="" type="checkbox"/> 固相、液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類：第2類硫黄 名称：硫黄 (30kg)	
15 発 生 時	運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7) 作 業 状 況：その他 番 号 (99)		18 取扱者の概要	経験年数6年	
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 3月17日13時30分頃、スチーム圧力調節弁の点検を実施するため、スチーム用バルブを閉止し、点検を開始した。17時45分、点検が終了しスチームバルブを開放し、配管の加温を開始した。3月18日9時10分、協力会社員が施設の点検中に、配管フランジ部から硫黄が漏れいしているのを発見し、他の従業員へ連絡した。9時13分、連絡を受けた計器室の従業員が119番通報を実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 破損									
	発生原因の状況： 屋外タンク貯蔵所の附属設備であるスチーム圧力調節弁の点検を実施した。点検はスチームの流れを停止する必要があったため、圧力調節弁下流仕切弁を閉止し、スチームを停止させた。当初は1時間程度で復旧できる予定であったが、点検終了まで4時間を要した。その結果、スチーム加熱配管部内は温度低下により硫黄が固化した。点検が終了したため、圧力調節弁下流仕切弁を開放し、スチームの通気を開始した。スチームの投入により、徐々に昇温されたことで、液化した硫黄と固化したままの硫黄が混在する状態となった。漏えいしたフランジ付近は液封状態となったため、配管内の内圧が上昇し、フランジ部のガスケットが破断し、漏えいに至った。また、固化する時間・温度の適切な指示ができていなかったことも要因であった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順の内容が不適切			
	関連原因の詳細									
	破損		定常運転時		異常圧力上昇等					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 硫黄が配管のフランジ部から漏えい（1,000mm×1,000mm×厚さ30mmの範囲）したが、防油堤内に留まった。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 硫黄海上出荷配管の絶縁フランジ部分のガスケットの交換		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	82 人	物質の被害状況： 第2類 可燃性固体 硫黄 30kg
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (35 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 警戒待機及びガス検知実施				自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒待機及びガス検知実施						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 2 月 27 日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日								
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> ・保温材及び破断したガスケットは、新品へ取り替える。 ・類似箇所への水平展開として、開放点検を行った絶縁フランジについても、保温材及びガスケットを交換する。 ・硫黄及び固化リスクのある油種について、加熱停止可能時間は、配管径や配管長さ、内部流体の流動状態等により異なるため、短時間でも保温を停止する場合は、部分的に加温することを作業手順に反映するとともに、従業員へ教育する。 								
36 所 見		工場全体として非定常時の作業においてリスク漏れがないか再度確認する必要がある。								

1 事故名	屋外タンク附属配管の外表面腐食により生じた開口からスロップ油が漏えいした事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	6月 19日 15時 35分		
5 覚 知	6月 19日 15時 43分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 19日 16時 25分	
7 鎮火・処理完了	6月 19日 16時 56分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：3m/s 気温：24℃ 湿度：61%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 ([製]、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：水島臨海地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) スロップ油 2,840,000L 14,200倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 14,200倍				
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：2,840KL	設置の完成：昭和36年 4月 16日 直近の完成：平成22年 11月 1日				
13 機 器 等 温 度 圧 力：	17 物 質 の 区 分				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：直径3インチ	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温][0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：スロップ油(140L)				
14 発 生 箇 所	18 取扱者の概要				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
15 発 生 時	20 危険物 保安監督者				
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7) 作 業 状 況： 番 号 ()	21 危険物取扱者 の取扱・立会い				
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 令和2年6月19日15時35分、巡回中の職員が屋外タンク貯蔵所附属配管からのスロップ油漏えいを発見し、直ちに統合計器室に無線連絡した。15時43分、連絡を受けた統合計器室の職員が119番通報を実施した。16時05分、漏えい箇所の上下流の仕切弁を閉止し、16時25分、漏えい箇所をウエスにより仮止め実施、16時56分、漏えい箇所にバンドを掛け、漏えい停止した。漏えい時、配管内部の流体は静止状態であり、漏えい箇所上流のポンプ吐出弁は閉止、下流の屋外タンク貯蔵所の液頭圧がかかっていた。					
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 漏えい配管の上部にある海水配管の補修部から滴下した海水により外面腐食環境となり漏えいに至ったもの									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		塩分の影響					
	関連原因の詳細									
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順がない/文書化されない			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管の外面腐食により生じた開口からスロップ油140Lが流出し、配管周囲約100㎡にわたり水溜り状に拡散した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	6 台	0 隻	0 機	17 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	103 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性液体）スロップ油140L 流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (3 万円)										
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 警戒待機						自衛防災・消防組織等 番号 (99、5) 警戒待機、漏えい油回収				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所附属ポンプ配管				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 2 年 6 月 19 日				定期・自主点検	令和 元 年 12 月 4 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保 安 検 査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日		年 月 日							
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> 漏えい箇所及び漏えい箇所直上の海水配管の取替を実施。 海水配管の下にある危険物配管をリスト化し、定期的に調査確認を実施。 								
36 所 見		当該事業所に対し、取替補修完了後の定期確認を徹底するよう指導し、同種の事故防止に努める必要がある。								

1 事故名	屋外タンク貯蔵所附属配管の腐食開口による重油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 1日 17時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	10月 3日 14時 18分	
5 覚 知	10月 3日 14時 23分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 3日 16時 07分	
7 鎮火・処理完了	10月 3日 17時 21分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北東 風速：2.5m/s 気温：26℃ 湿度：62%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input type="checkbox"/> レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：水島臨海地区
					16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 940,000L 470倍
12 施 設 装 置					倍数の合計： 470倍
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)					設置の完成：昭和46年10月4日 直近の完成：平成28年8月30日
能 力：940KL					17 物 質 の 区 分
13 機 器 等	温 度 圧 力：90℃				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)					5. 毒物 6. 劇物 7. その他
規 模：直径3インチ					(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(10,050L)
14 発 生 箇 所					18 取扱者の概要
名 称：配管の保温材、ヒーター 番 号 (214)					①. 選任有 2. 選任無
材 質：鋼鉄					20 危険物 保安監督者
15 発 生 時					21 危険物取扱者 の取扱・立会い
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)					1. 有
作 業 状 況： 番 号 ()					②. 無
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要			3. 不要	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 10月3日14時18分、移動中の職員が屋外タンク貯蔵所附属配管から周囲のグリーンベルト上に流出した重油を発見し、直ちに統合計器室に無線連絡した。14時23分、連絡を受けた統合計器室の職員が119番通報を実施した。15時7分、流出箇所の上流の仕切弁を閉止し、16時7分、流出停止を確認。17時21分、流出箇所へのバンド掛けを完了。流出した重油(凝固点約25度)は、グリーンベルト上及び配管付近のケーブルピット内で固化していた。流出時、配管内部の流体は静止状態であり、屋外タンク貯蔵所の液頭圧がかかっていた。					
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有	番号 (1)	無 装置の緊急停止		

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 施工不良										
	発生原因の状況： 流出配管保温板金内のスチームトレース管ジョイント部からスチームが漏えいし、保温内が湿潤状態となり、保温材と接触している配管上部が外面腐食により開口し、滯油が流出したものの。なお、スチームトレース管のジョイント部は保温板金外で接続するよう定めていたが、施工完了確認を保温板金取付後に行ったため、当該ジョイント部が保温板金内に残っていることを見落としていた。 また、該当屋外タンク貯蔵所は、事故発生前後に受入れ及び払出しをしていないが、10月1日17時頃にタンクレベルが低下し始めていることから、同時刻を事故発生推定日時とする。タンクレベルの変化は設定範囲内であり、アラームは発報していない。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
	施工不良		施工		施工内容の間違い						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 配管の外面腐食により生じた開口から重油10,050Lが流出し、配管周囲のグリーンベルト及びケーブルピット約60㎡にわたり水溜り状に拡散後、固化した。				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	112 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油10,050L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (3 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 警戒待機						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 警戒待機、流出箇所バンド掛け					
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日									
35 今後の対策 ・今後使用する予定がないため漏えい箇所の配管を撤去する。 ・施工品質チェックリストを改定し、スチームトレース配管のジョイント部を保温板金取付前に確認する。 ・漏えい早期発見のため、長期間使用しないタンクのアラーム設定範囲を通常運転時より狭める。											
36 所 見 当該事業所に対し、長期間未使用配管の維持管理及び工事施工管理を徹底するよう指導し、同種の事故防止に努める必要がある。											

1 事故名	屋外タンク貯蔵所のタンク底板の腐食により、底板と基礎の間からトルエンが漏えいした事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 12日 16時 50分	推定・確定	4 発 見	11月 12日 16時 50分	
5 覚 知	11月 12日 17時 11分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 12日 18時 33分	
7 鎮火・処理完了	11月 13日 4時 34分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：1.4m/s 気温：14℃ 湿度：71%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 化学繊維製 番 号 (1742) 造業 合成繊維製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201) 能 力： 容量90KL		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) トルエン 90,000L 450倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 鋼製、直径4,830mm、高さ6,060mm、容量90KL		倍数の合計： 450倍 設置の完成： 平成 5年 1月 18日 直近の完成： 平成 5年 3月 15日		
14 発 生 箇 所	名 称： タンク底板 番 号 (102) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： トルエン (10L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 作業員が、タンクヤードの日常点検において、屋外タンク貯蔵所の基礎切欠き部にトルエン臭のする液溜まりを発見し、液溜まりが拡大している兆候があったため119番通報する。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 事故発生時、当該施設の運行は生産調整時期のため停止されており、漏えいタンク内にはトルエン66㎡、水4㎡が2層に分離して内在していた。後にタンク内部点検を実施したところ、底板（鋼製）に腐食開孔箇所が3か所認められた。また、底板の雨水浸入防止処置としてシール処置を行っていたが、全周に渡り劣化剥離が認められた。以上のことから、シール材剥離部分から雨水等が浸入し、タンク底板を外部から腐食させたことにより、開孔された部分より内容物のトルエンがにじみ出たものと推定される。なお、当該タンクの定期点検は直近で令和元年12月に行われており、雨水浸入防止処置については異常なしと判断されていた。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離（経年による剥離）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 基礎切欠き部付近においてトルエン約10L漏えい、施設外への流出はなし。		
区分										
当事者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第三者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消防機関	3台	0隻	0機	12人	自衛	0台	0隻	0機	6人	物質の被害状況： 第4類第1石油類トルエン 約10L漏えい
消防団	0台	0隻	0機	0人	共同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 1万円未満、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 現地確認を行い、漏えい物の回収を指示する。				自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) 漏えい箇所に土嚢で堰を設け流出防止処置を行うとともに、該当タンク内に水を投入しつつ、回収工程の一般取扱所へ移送する。						
31 防災活動上の問題点										
行政措置	施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	令和 元 年 12 月 28 日	令和 2 年 11 月 12 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：			
その他	危険物漏えいの原因を調査し、報告すること。 令和 2 年 11 月 13 日			年 月 日						
①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 設備的対策として、タンク材質をステンレス製のものに更新する予定があり、当該タンクは更新までの間（工事時期令和3年12月頃）は使用不可とした。また、水平展開として、タンクヤード内の鋼製タンク2基を順次休止としていく予定である。管理的対策として、令和元年12月の定期点検において異常なしとされていた当該タンクの雨水浸入防止処置のシール材が、1年を経ずに全周に渡り剥離していたことから判断基準に問題があるとし、判断基準の見直しと点検者の再教育を徹底する。										
36 所 見 当事例は日常点検により漏えいを発見できたものであり、日常点検の重要性を再認識した。また、設備の維持管理として当事例が雨水浸入防止処置が不十分であることにより底板の腐食が進行した可能性が高いため、タンクの防食処置は必須であり、点検、維持管理の基準を再検討するよう指示した。										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の円筒横置型タンクが腐食したことにより廃液が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 27日 13時 54分	<input checked="" type="checkbox"/> 推定・確定	4 発 見	3月 27日 20時 20分	
5 覚 知	3月 27日 20時 52分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 27日 23時 30分	
7 鎮火・処理完了	3月 28日 0時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：0.7m/s 気温：17.4℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業 (脂肪族系溶剤を含まむ)	区 分：①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：岩国・大竹				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(水溶性液体) <input checked="" type="checkbox"/> メキシアターナル 25,000L 12.5倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 12.5倍				
名 称：円筒横置型(地上)タンク 番 号 (1204)	設置の完成：昭和39年 7月 14日 直近の完成：平成28年 11月 10日				
能 力：25,000L	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(水溶性液体) 名称：メキシアターナル(295L)				
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	18 取扱者の概要				
規 模：25,000L	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の取扱・立会い				
名 称：ドレンノズル 番 号 (208)	①. 有 2. 無				
材 質：鋼鉄					
15 発 生 時					
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)					
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 製造所内で発生した廃液を貯蔵する円筒横置型屋外タンク貯蔵所のタンク底部の払出しノズルから廃液が流出したもの。当日は朝から降雨で防油堤内に溜まった雨水を排水していたもの。そのまま弁を閉めることを忘れたため、堤外へ流出したもの。タンクから300L漏れいし、施設内排水路の閉鎖等の処置により工場排水への漏えい量は約4.4Lとの報告を受ける。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1, 8) 無 装置の緊急停止、防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等					

原	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 当該箇所は保温カバーを設置し多湿環境であり、蒸気による高温状態で腐食が促進されたもの									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		高温多湿環境（温泉の湯気の影響、周囲が高温多湿環境）					
	関連原因の詳細									
設備		監理・保守		点検・整備		整備していない				
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤から排水系路を経て処理場へ流出、漏えい量は約295L。そのほとんどが油水分離槽や排水処理場にて回収するも、処理場から事業所敷地に隣接する海上へ約22L流出した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 廃液295L		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 廃液（トキソゲン）295L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	7 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
原因調査										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日								
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策		当該タンクノズル及び接続配管の更新。類似箇所の点検実施。 防油堤の排出弁管理の安全巡回リストの見直しを図り、職員への教育周知する。								
36 所 見		配管等の腐食などによる流出が直接原因であるが、その流出対策としての防油堤であり、根本的な人為的ミスが最たる原因と考える。								

1 事故名	屋外タンクからポンプ設備への地上配管（防油堤貫通部）の腐食による重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	6月 1日 8時 30分		
5 覚 知	6月 1日 9時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 1日 8時 40分	
7 鎮火・処理完了	6月 17日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他（ ）				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東北東 風速：0.7m/s 気温：21℃ 湿度：73%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態： 製造業 パルプ・紙・紙加工品製 番 号（1511） 造業 パルプ製造業 パルプ製 造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 固定屋根式（地上）タンク 番 号（1201） 能 力： 497,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) C重油 497,000L 248.5倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 配管（送油、注入管等） 番 号（606） 規 模： 内径150mm		設置の完成： 昭和 37年 3月 29日 直近の完成： 平成 26年 11月 20日 倍数の合計： 248.5倍		
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号（299） 材 質： その他		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温[0-40℃]、高温） 分類： 第4類第3石油類（非水溶性液体） 名称： C重油(2L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 停止中 番 号（5） 作 業 状 況： 番 号（ ）		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 始業前巡回を実施していた従業員が、屋外タンク貯蔵所の防油堤配管貫通箇所からC重油が漏えいしているのを発見した。漏えいしたC重油は、防油堤内に約2L程度滞留していた。 応急措置として、バルブを閉止し漏えいしたC重油を吸着マットにより回収した。					
24 緊急処置の状況 有 番号（ ） 無					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 長期使用による腐食と考えられる。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外タンク貯蔵所からC重油約2Lが流出した。なお、流出したC重油は、当該タンクの防油堤内に全て収まっている。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 屋外タンク貯蔵所（C重油：497,000L）の配管の腐食		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）C重油2L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (111 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和2年 5月 19日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策		流出の原因を把握し、補修を行う。								
36 所 見		腐食を早期に見発見できるよう、日常点検等を強化するよう指導した。								

1 事故名	屋外タンク貯蔵所において、バルブ操作確認等不十分により払出しポンプのストレーナーから危険物が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 13日 3時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	12月 13日 9時 30分	
5 覚 知	12月 13日 10時 21分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 13日 9時 30分	
7 鎮火・処理完了	12月 17日 14時 50分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西 風速：5.4m/s 気温：9.4℃ 湿度：64%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 業 態：	①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他)		区 分： ①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
	製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業 (脂肪族系溶剤を含 む)		特別防災地区名： 岩国・大竹		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等				
名 称：固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201)	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他				
能 力：49,000L	貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所				
13 機 器 等	類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) ジブロビレングリコール 49,000L 24.5倍				
名 称：ポンプ 番 号 (501)	温度圧力：				
規 模：タンクからの払出し	倍数の合計： 24.5倍				
14 発 生 箇 所	設置の完成：昭和 39年 9月 20日				
名 称：ストレーナー 番 号 (209)	直近の完成：平成 21年 3月 27日				
材 質：ステンレス	17 物質の区分				
15 発 生 時	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
運 転 状 況：試運転中 番 号 (14)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
作 業 状 況：定期修理中 番 号 (2)	(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)				
	(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)				
	分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：ジブロビレングリコール(1,900L)				
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 製造プラントに属する屋外タンク貯蔵所のポンプストレーナーから漏えいしたものの。このバルブはポンプ囲いの上方に位置するが、ついには囲いを越えて周囲の土壌へ流出したものの。敷地外への流出はなく、汚染された土壌においても回収に至る。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 屋外タンク貯蔵所から通液するもポンプ吐出圧が上がらないため、ストレーナーの清掃を実施。定常時であれば開放後に通液し漏れを確認するが、今回の定期修理に伴い、屋外タンク貯蔵所の不純物処理を実施しており、タンクが空の状態であり漏れの確認できず。バルブも閉め忘れたまま、通液ラインのタンク側バルブなどを開け、通液可能な状態に戻してしまう。その後、製造された液がタンクに貯留し液面が上昇、通液しポンプストレーナーのエア抜きバルブから漏えいしたものである。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		違反（故意）		怠慢			
	関連原因の詳細									
	管理		組織		記録		記録の更新がない			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： ポンプ周囲に81.9㎡に流出			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 流出したポンプ周辺の敷地内に滞留してしていたため、土壌を回収する。			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	6 人	物質の被害状況： ジプロピレングリコール1,900L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 油吸着マット、土壌回収 自衛消防隊のホース警戒					
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策		通液未確認である場合、申し送り等に記載し引き継ぎを徹底する。 初期通液確認ができない場合、手順を標準書に具体的に記載し、教育し定着するまでは現場で実施状況を確認する。								
36 所 見		明らかな人的ミスである。事業所内の各課において情報共有・水平展開することで未然に防ぎ得る内容の事故であった。								

1 事故名	屋外タンク貯蔵所（ストレージタンク）側板の腐食による重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）				
3 発 生	1月 31日 4時 30分	推定・確定	4 発 見	1月 31日 5時 40分	
5 覚 知	1月 31日 7時 49分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 31日 14時 15分	
7 鎮火・処理完了	1月 31日 15時 20分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他（ ）				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：5.4m/s 気温：5.5℃ 湿度：69.6%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態： 製造業 ゴム製品製造業 タイ 番 号（2011） ヤ・チューブ製造業 自動車タ イヤ・チューブ製造業		11 発 生 場 所		
			区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：		
			16 発生施設規制区分等		
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) C重油 160,000L 80倍		
12 施 設 装 置	名 称： 固定屋根式（地上）タンク 番 号（1201） 能 力： 160KL		倍数の合計： 80倍 設置の完成： 昭和 46年 7月 2日 直近の完成： 平成 26年 12月 22日		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 60℃ 名 称： 貯槽（タンク） 番 号（107） 規 模： 直径5m 高さ6.75m				
14 発 生 箇 所	名 称： タンク側板 番 号（101） 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分		
15 発 生 時	運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号（7） 作 業 状 況： 番 号（ ）		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温〔0-40℃〕、高温） 分類： 第4類第3石油類（非水溶性液体） 名称： C重油（2.5L）		
			18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所が不要となり、残油（C重油）抜き取りのためスチーム加温していたところ側板部分からC重油が防油堤内に約2.5L流出したものの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号（1、10） 無 装置の緊急停止、その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関連原因					
	発生原因の状況： 長年使用によりタンク側板と保温材の間に雨水等が入り込み多湿環境となり、タンク側板が腐食開孔し流出したものと					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）	
	関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）C重油2.5L流出						
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円						
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 流出した危険物の回収		
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報の遅延						
行政措置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>	
その他	年 月 日	年 月 日	内容：			
35 今後の対策	類似タンクの腐食状態を確認するとともに、目視で点検できない箇所については定期的に点検できるような方策を構築するよう指導した。 また、今回は流出の拡大危険がないと事業所で判断したことから、消防機関への通報が遅延したため、従業員への安全教育（通報要領）の徹底が必要である。					
36 所 見	類似タンクの腐食状態を確認するとともに、目視で点検できない箇所については定期的に点検できるような方策を構築するよう指導したところではあるが、他の事業所においても同様の相談があった際には上記のような指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。					

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の附帯配管サポート部の溶接線が施工不良で開孔したことによる潤滑油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 30日 10時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 30日 13時 20分	
5 覚 知	3月 30日 13時 49分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 30日 14時 07分	
7 鎮火・処理完了	3月 30日 15時 25分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南東 風速：1.3m/s 気温：11℃ 湿度：63%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <input checked="" type="checkbox"/> 第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 岩国・大竹
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 950,000L 475倍				
12 施 設 装 置	名称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：屋外貯蔵タンク 容量・950KL				
13 機 器 等	温度圧力：0.01MPa 名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：6インチ、SGP、公称肉厚5.0mm				
14 発 生 箇 所	名称：配管の架台、サポート 番 号 (217) 材 質：鋼鉄				設置の完成：平成 5年 5月 24日 直近の完成：令和 2年 3月 23日 倍数の合計：475倍
15 発 生 時	運 転 状 況：払出中 番 号 (10) 作 業 状 況： 番 号 ()				17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：潤滑油(100L)
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所の附帯配管サポート部の溶接線(スポット溶接)の端部に開孔があり、潤滑油が漏えいしたものである。漏えいは防油堤内に留まっており、周囲への影響はなかった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 操作未実施										
	発生原因の状況： 主原因としては、配管のサポートを溶接中（TIG溶接）にシールドガスが無くなったことにより大きなアークが発生し配管を貫通したものである。関連原因としては、施工要領書の不遵守であり、配管溶接施工後に耐圧試験を実施、その後、配管にサポートを溶接したことから、開孔を発見することが出来なかったものである。										
	主原因の詳細										
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	施工不良		施工		溶接不良						
関連原因の詳細											
設備			監理・保守			点検・整備		点検内容が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に留まっており、周囲への影響なし。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管に1か所2.3mmの開孔			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	36 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性） 潤滑油100L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
警戒・調査											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 2 年 3 月 30 日				年 月 日	定期・自主点検	令和 元 年 11 月 4 日		令和 2 年 3 月 30 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	年 月 日		年 月 日	
	停止解除	令和 2 年 4 月 3 日				年 月 日	保安検査	年 月 日		年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	年 月 日				年 月 日	内容：					
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・配管施工不良防止のため、配管施工会社へ溶接施工要領（社内規程）の徹底を指導する。 ・気密試験要領等の社内規程について、リーク確認箇所の明確な記載等の改訂を行い、社内規程遵守の教育を行う。 										
36 所 見	配管にサポートを取り付けるスポット溶接であっても、配管母材に熱影響があるため、施工がすべて完了した後に耐圧試験を行うのは当然であり、従業員へ教育（ノウハウ含む）を行い、再発防止を徹底するよう指導した。										

1 事故名	屋外タンク貯蔵所の不使用配管において、塗装前のケレン作業中に腐食部分が開孔し、重質油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 19日 14時 06分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	8月 19日 14時 06分	
5 覚 知	8月 19日 14時 32分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 19日 16時 50分	
7 鎮火・処理完了	8月 19日 18時 33分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：3.2m/s 気温：31℃ 湿度：67%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 業 態：	①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他)		区 分： ①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
	製造業 石油製品・石炭製品製 番号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		特別防災地区名： 岩国・大竹		
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201) 能 力：容量13,680KL			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重質油 13,680,000L 6,840倍		
13 機 器 等			設置の完成：昭和40年10月6日 直近の完成：令和元年11月21日		
名 称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規 模：直径12インチ、肉厚6.9mm			17 物 質 の 区 分		
14 発 生 箇 所			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重質油(340L)		
名 称：その他の附属配管等 番号 (299) 材 質：鋼鉄			18 取扱者の概要		
15 発 生 時			①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
運 転 状 況：休止中 番号 (6) 作 業 状 況：定期修理中 番号 (2)			20 危 険 物 保 安 監 督 者		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者			21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有			①. 有 2. 無		
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所の不使用配管において、塗装前のケレン作業中に腐食部分が開孔し、重質油が漏えいしたもの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()																																	
関 連 原 因 発生原因の状況： 若手検査員がベテラン検査員から、当該配管は「空管理配管」であると聞いていた。ベテラン検査員の間では、「空管理配管」といっても配管内の滞油は完全に除去されていないとの認識であった。しかし、若手検査員は文字どおりに配管内は空であると思ひ込み、ケレン作業を行っても漏えいのリスクはないと判断して、作業の指示を出した。作業員が研磨紙を用いて、配管の下地処理中に錆スケールが除去され、重質油が漏えいしたものである。																																					
主原因の詳細 <table border="1"> <thead> <tr> <th>第Ⅰ層</th> <th>第Ⅱ層</th> <th>第Ⅲ層</th> <th>第Ⅳ層</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人</td> <td>本人の意識</td> <td>思慮</td> <td>思ひ込み</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層	人	本人の意識	思慮	思ひ込み																								
第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層																																		
人	本人の意識	思慮	思ひ込み																																		
関連原因の詳細 <table border="1"> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>																																					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																																					
27 人的被害				28 物的被害																																	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重質油はトレンチ内に留まっており、周囲への影響なし																													
区分																																					
当 事 者		0	0	0	0																																
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設等への被害なし																													
第 三 者		0	0	0	0																																
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																																					
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	67 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 重質油 340L流出																											
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人																												
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人																												
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)																											
30 実施した防災活動の状況																																					
公設消防機関：番号 (99) 警戒、調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5)																															
31 防災活動上の問題点																																					
32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他																												
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日																										
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日																										
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日																										
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/>																												
措 置	事故原因究明等指示 令和 2 年 8 月 21 日				1. 文書 2. 口頭			内容：																													
35 今後の対策 ・「不要・未使用設備の管理要領」を改正し、「空管理配管」の検査管理方法を明確にする。 ・社内における空管理配管の滞油状況を確認し、適切に滞油処理を実施する。																																					
36 所 見 若手社員による人的要因の事故が増加しているため、社内教育の充実を図り、技術の伝承に努めるよう指導した。																																					

1 事故名	屋外タンク貯蔵所所掌の熱交換器のスチームトラップが腐食により開孔し、PPG（ポリエーテルポリオール）が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）				
3 発 生	8月 28日 16時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	8月 29日 3時 55分	
5 覚 知	8月 29日 4時 24分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 29日 3時 57分	
7 鎮火・処理完了	8月 29日 3時 57分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他（ ）				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：1m/s 気温：28.6℃ 湿度：79%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 業 態：	①特別防災区域内 2特別防災区域外 （ <input type="checkbox"/> レイアウト、第1種、第2種、その他）		区 分： ①. 事業所内（ <input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他）		
	製造業 化学工業 有機化学工 番号（1732） 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業（脂肪族系溶剤を含む）		特別防災地区名：周南地区		
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：固定屋根式（地上）タンク 番号（1201） 能 力：668,000L			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 ポリエーテルポリオール 668,000L 111.33倍		
13 機 器 等			設置の完成：令和元年 9月 25日 直近の完成：平成23年 10月 28日		
名 称：熱交換器 番号（301） 規 模：全長4,324mm、伝熱面積100㎡			倍数の合計： 111.33倍		
14 発 生 箇 所			17 物 質 の 区 分		
名 称：その他 番号（999） 材 質：その他			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相）（ <input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧） （低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温） 分類：第4類第4石油類 名称：ポリエーテルポリオール(3L)		
15 発 生 時			18 取扱者の概要		
運 転 状 況：停止中 番号（5） 作 業 状 況： 番号（ ）			①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所（F-830）の製品（ポリエーテルポリオール：第4類第4石油類）を熱交換器（E-830）により温度調整して一般取扱所（No. 8ロー 出荷場）から出荷する工程において、熱交換器のスチームトラップから、ポリエーテルポリオールが漏えいし、防油堤内に流出したもの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号（10） 無 その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 維持管理不十分										
	発生原因の状況： 漏えい発見の前日に、対象熱交換器の点検を実施し、運転を再開して製品（ホ [®] リエテルボ [®] リオール：PPG）の払い出しを行っていた。操作後、熱交換器の製品受入バルブは閉止されていた。熱交換器シェル側に残存したPPGが、チューブ（工水/蒸気）腐食によるピンホールを通じてスチームトラップから漏えいしたものである。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 熱交換器のチューブ（工水/蒸気）に腐食・穿孔（直径1.5mm、推定値）があり、ホ [®] リエテルボ [®] リオールが3L防油堤内に流出したもの			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 熱交換器の蒸気チューブ1本			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3台	0隻	0機	8人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第4石油類ホ [®] リエテルボ [®] リオールが3L漏えい	
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	1台	0隻	0機	2人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text" value=""/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 火災警戒活動					自衛防災・消防組織等 番号 (5) 漏えい危険物回収作業						
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名	F-830（発災施設）			33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年 月 日			年 月 日		年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日			年 月 日		年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日			年 月 日		年 月 日		年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	指示 令和2年9月1日 1. 文書 ②. 口頭			年 月 日 1. 文書 2. 口頭		内容：					
35 今後の対策							熱交換器チューブの腐食が原因と考えられるため、チューブの全数取替を検討する。				
36 所 見							現状の点検内容では、腐食による流出を防げなかったことから、事業所全体の施設及び設備の保全方法の見直しが必要だと考える。				

1 事故名	配管ガスケット交換中に、操作確認不十分により屋外タンク貯蔵所の配管ドレンノズルからスチレンモノマーが流出					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	11月 18日 11時 25分	推定・ 確定	4 発 見	11月 18日 11時 25分		
5 覚 知	11月 18日 12時 09分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 18日 11時 27分		
7 鎮火・処理完了	11月 18日 11時 27分					
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東南東 風速：1.9m/s 気温：23.8℃ 湿度：50.1%					
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業 (脂肪族系溶剤を含まむ)		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、 貯 、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：周南地区		
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレンモノマー 28,000L 28倍		
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201) 能 力：28KL			13 機 器 等	温度圧力：18℃、0.35MPa 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：ガスケット部 材質(配管：SGP、ガスケット：V/#N7030)、口径：2B 設置の完成：昭和62年 2月 26日 直近の完成：平成30年 2月 22日 倍数の合計：28倍		
14 発 生 箇 所			14 発 生 箇 所	名 称：ドレンノズル 番 号 (208) 材 質：鋼鉄		
15 発 生 時	15 発 生 時	運 転 状 況：停止中 番 号 (5) 作 業 状 況：不定期修理中 番 号 (3)				
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	17 物質の区分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：スチレンモノマー(7L)		
21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無	18 取扱者の概要	経験年数6年			
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無					
23 事故の概要	屋外タンク貯蔵所から製造所20号タンク行きのスチレンモノマー送液配管のフランジガスケットを交換するため、当該フランジを開放したところ、上流にある供給ポンプ吐出配管のドレンノズルからスチレンモノマーが約7L流出した。事業所外への流出はなかったものである。					
24 緊急処置の状況	有 番号 () 無					

原 因	主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()									
	関 連 原 因 監視不十分													
	発生原因の状況： がスカート交換前に、配管内の危険物を当該ドレンズルから抜き出した。その後、ドレンズルのバルブを意図的に「開」にした状態でがスカート交換を実施。フレンジを開放した際に、空気の導通が可能となり、配管内に残存した危険物がドレンズルから流出した。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層							
	環境		社会的環境		雰囲気		安全に対する意識が低い							
	制度		教育・訓練		内容		教育・訓練がない/不足							
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順がない/文書化されない							
	関連原因の詳細													
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害						28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ドレンズルの位置である防油堤外の敷地に、スフレノマーが7L流出したもの						
区分														
当 事 者	0	0	0	0										
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 特になし						
第 三 者	0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	3台	0隻	0機	10人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性） スフレノマー 7L流出				
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人					
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人					
その他の機関	1台	0隻	0機	2人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text" value=""/> 万円)				
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99) 火災警戒活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 従業員が吸着マットと油処理剤を用いて流出防止措置を実施した。								
31 防災活動上の問題点 覚知から通報までに40分以上の時間を要した。														
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他						
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日	年	月	日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	年	月	日
	関係条項					保安検査	年	月	日	年	月	日	年	月
その他	事故原因究明等指示 令和2年11月19日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：								
35 今後の対策 事故原因の究明及び当該原因に基づく危険物取扱い作業を見直す。通報を含めた防災体制の教育を全従業員及び協力会社全従業員に実施し、周知徹底を図る。今後の計画及び結果の報告書を作成し提出。														
36 所 見 人的要因によるものであり、原因を反映させた作業の見直しや教育を実施すべきと考える。また、通報の遅れに対しても、教育や周知を図り対処していかなければならないと考える。														

1 事故名	特定屋外タンク貯蔵所浮き屋根の腐食による揮発油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 17日 12時 15分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	9月 17日 12時 55分	
5 覚 知	9月 17日 14時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 17日 13時 38分	
7 鎮火・処理完了	9月 17日 13時 38分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北西 風速：2.3m/s 気温：27℃ 湿度：76.3%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				11 発 生 場 所
					区 分：①. 事業所内 (製、 <input checked="" type="checkbox"/> 貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：松山地区
					16 発生施設規制区分等
					施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 揮発油 19,900,000L 99,500倍
12 施 設 装 置					倍数の合計： 99,500倍
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)					設置の完成：昭和48年12月22日 直近の完成：平成30年3月13日
能 力：許可容量：19,900KL					17 物 質 の 区 分
13 機 器 等 温度圧力：					①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：揮発油(1L)
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)					18 取扱者の概要
規 模：19,900KL					①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
14 発 生 箇 所					21 危険物取扱者の の取扱・立会い
名 称：タンク屋根板 番 号 (103)					①. 有 2. 無
材 質：鋼鉄					
15 発 生 時					
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)					
作 業 状 況： 番 号 ()					
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 特定屋外タンク貯蔵所の浮き屋根の屋根板溶接線付近に腐食によるピンホール(3mm)が発生し、屋根板上に危険物(揮発油)が約1L流出し、ルーフトレンを通して防油堤内の排水桝まで拡大したもの。その後、拡大した危険物の可燃性蒸気を排水桝に設置されている検知器が作動し、警報を防災センターで受信し、現地確認を行い、吸着マットで回収作業を実施する。防油堤外への流出なし。負傷者なし。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input checked="" type="checkbox"/> 無					

25	主 原 因	腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 腐食による開口部付近は、浮き屋根の屋根板の構造上、雨水が溜まりやすい状況下であった。 その状況により腐食が進み、また、長期間使用されていることによる経年劣化が合わさり、ピンホールが発生した。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層							
腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）									
疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）									
因	関連原因の詳細										
26	被害の状況	1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27	人的被害										
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	28 物的被害 被災影響範囲及び拡大の状況： 浮き屋根上及び防油堤排水柵の範囲に流出。			
	区分										
	当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 屋根板約3mm開口				
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	7 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）揮発油 約1L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30	実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (4、5)						
調査活動											
31	防災活動上の問題点										
32	施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	令和 2 年	9 月	17 日		年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日		年	月	日	年	月	日
	停止解除	令和 2 年	10 月	8 日		年	月	日	年	月	日
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無				
その他	年	月	日	年	月		日	内容：			
35	今後の対策	流出が発生した屋根板の板厚測定を行い、改修を実施する。 水平展開し、場内の類似箇所の点検を実施する。									
36	所 見	今回の流出事故は、流出が応急措置にて止まっていたため異常現象に該当するの判断つかず、早急な通報ができなかった。今後は、異常現象に該当していなくても消防法第16条の3による通報を早急に行うよう指導する。									

1 事故名		特定屋外タンク貯蔵所の附帯配管の腐食による重油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		10月 13日 14時 35分	推定・確定	4 発 見		10月 13日 14時 40分	
5 覚 知		10月 13日 15時 10分	6 鎮 圧 応急処置完了		10月 13日 16時 35分		
7 鎮火・処理完了		10月 13日 16時 35分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：北西		風速：5m/s 気温：25℃ 湿度：48%	
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業			区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：松山地区				
			16 発生施設規制区分等				
			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 8,805,000L 4,402.5倍				
12 施 設 装 置							
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番 号 (1201)							
能 力：許可容量：8,805KL							
13 機 器 等			温 度 圧 力：				
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)							
規 模：内径23.5m、高さ21.45m							
14 発 生 箇 所			設置の完成：昭和53年 5月 12日 直近の完成：平成23年 3月 30日				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)			17 物 質 の 区 分				
材 質：鋼鉄			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(1L)				
15 発 生 時							
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
			18 取扱者の概要				
19 危険物保安 統括管理者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
					1. 有 ②. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 特定屋外タンク貯蔵所の附帯配管(戻り配管)の腐食によりピンホール(1mm)が発生し、タンク基礎の法面に危険物(重油)が約1L流出したもの。場内巡回中の従業員が発見し、応急措置(バルブ止め及び吸着マット)を実施する。防油堤外への流出なし。負傷者なし。							
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
原 因	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 附帯配管には保温材が設置されており、その保温外装板金に1cmほどの開口が発生し、当該開口部から雨水が浸入したことにより部分的に内部配管に腐食が進行しやすい状況下であった。 その状況により腐食が進み、また、長期間使用されていることによる経年劣化が合わさり、ピンホールが発生したものである。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層				
腐食 疲労・劣化	環境 素材等の劣化	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
因	関連原因の詳細							
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害	被害内容等					28 物的被害 被災影響範囲及び拡大の状況： タンク基礎の法面に流出（約0.9㎡）		
	区分	死亡	重症	中等症	軽症		死傷原因	職業又は職名
	当 事 者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0				
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 5 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油 1L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> （ 5 万円）	
30	実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号（ 99 ）			自衛防災・消防組織等 番号（ 4、5 ）					
調査活動								
31	防災活動上の問題点							
32 行政措置	施設名	屋外タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和2年 3月 15日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	指摘				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：	
その他	令和2年 10月 13日	年 月 日	①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭				
35	今後の対策 流出の原因調査を行い、改修を実施する。 水平展開し、場内の類似箇所での点検を実施する。							
36	所 見 今回の流出事故は、従業員の巡回により早期に発見できたが、今後、巡回や定期点検時に保温材を設置している危険物配管を重点的に確認し、保温不良箇所については、保温材を離脱させ、内部配管の検査を実施して健全性を確認するよう指導する。							

1 事故名	屋外タンクの荷卸中に液面計のフロートの故障による重油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 27日 9時 10分	推定・確定	4 発 見	8月 27日 9時 15分	
5 覚 知	8月 27日 9時 40分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 27日 9時 30分	
7 鎮火・処理完了	8月 27日 15時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：5.4m/s 気温：29.4℃ 湿度：76.6%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番号(9621) の 地方公務 市町村機関 市 町村機関		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 6,000L 3倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他のタンク 番号(1299)	13 機 器 等 温度圧力：		設置の完成： 昭和 50年 7月 30日 直近の完成： 平成 17年 4月 4日		
能 力： 6,300L	名 称： 貯槽(タンク) 番号(107)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
13 機 器 等	規 模： 直径4,300mm、高さ2,700mm、容量6,300L		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	名 称： 通気管 番号(304)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)		
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		(低温、常温[0-40℃]、高温)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 荷卸中 番号(13)		分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(100L)		
作 業 状 況：	番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所の液面計のフロートが故障し実際の値と違う油量を表示していたため、移動タンク貯蔵所から荷卸し時に屋外タンクの容量限界を超えた受入れをしたことにより屋外タンクの通気管先端部より、重油約100Lが防油堤内に流出した。なお、吸着マット等を使用し応急措置を実施した。					
24 緊急処置の状況 有 番号() 無					

1 事故名	屋外タンク貯蔵所においてサブタンクの液面計センサーが故障し、送油ポンプの軸受け部から重油流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発生日	月 日 時 分 推定・確定	4 発見	7月 23日 5時 00分
5 覚知	7月 23日 8時 20分	6 鎮圧 応急処置完了	7月 23日 11時 30分
7 鎮火・処理完了	7月 23日 11時 30分		
8 覚知別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気象状況	天気：曇 風向：北東 風速：1.3m/s 気温：26℃ 湿度：98%		
10 発生事業所	11 発生場所		
種別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 <u>その他</u>) 業態：製造業 石油製品・石炭製品製造業 番号 (1899) 製造業 その他の石油製品・石炭製品製造業 他に分類されない 石油製品・石炭製品製造業	区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：北九州地区		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) LSA重油 4,000L 2倍		
12 施設装置	17 物質の区分		
名称：ボイラー施設 番号 (1505) 能力：2t/h	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：LSA重油(4,000L)		
13 機器等	18 取扱者の概要		
温度圧力： 名称：ポンプ 番号 (501) 規模：26L/min	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
14 発生箇所	21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
名称：軸受 番号 (903) 材質：鋼鉄	①. 有 2. 無		
15 発生時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
運転状況：休止中 番号 (6) 作業状況： 番号 ()	23 事故の概要： 事業所内の屋外タンク貯蔵所から少量危険物施設のボイラーに送油するポンプの軸受け部から重油が流出したもの。流出量はタンク残量の約4,000Lの全量が流出しており、事業所内の油分離槽などから約3,000Lを回収した。事業所付近の排水管(排水桝)を確認したところ、事業所から約300m離れた箇所の排水桝から重油らしき臭気と中和剤の泡が確認された。 排水管は、下水処理場に通じているが、海、河川への漏えいはなかった。 なお、重油が流出した送油ポンプはボイラーの附帯設備で少量危険物施設である。		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他

25	主 原 因 故障		着火原因		番号 ()												
	関 連 原 因 維持管理不十分																
	発生原因の状況： 事故の原因は、送油ポンプから送られてきた重油を、一時貯蔵する重油サブタンクのレベルスイッチ（液面レベルを察知し、当該ポンプをオン、オフする装置）電極の異常と推定する。部品業者の見解は、レベルスイッチ内の部品であるリードの寿命による故障ではないかと回答を得ている。 この液面計センサー（レベルスイッチ）の故障により、ポンプが誤作動し、ポンプ直近の弁が閉鎖されていたために、ポンプ軸受け部に圧力がかかり、メカニカルシールが剥がれ漏えいしたものである。 なお、当該レベルスイッチは、使用開始から18.5年を経過しているが、一度も交換していなかった。																
	主原因の詳細																
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層										
故障		機能		機器の異常動作													
因	関連原因の詳細																
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																	
27 人的被害						28 物的被害											
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした重油4,000Lの内、1,000Lが事業所外へ流出し、事業所から約300m離れた箇所の排水桝から重油らしき臭気が確認されたため、中和剤を散布した。			
区分																	
当 事 者		0		0		0		0						施設等の被害状況： 当該ポンプが故障した。			
防災活動従事者		0		0		0		0									
第 三 者		0		0		0		0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																	
消 防 機 関		3 台 0 隻 0 機 10 人		自 衛		1 台 0 隻 0 機 5 人		消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油4,000L流出。	
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人		海 上 保 安 部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人			
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他		2 台 0 隻 0 機 3 人		損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (70 万円)	
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他		2 台 0 隻 0 機 3 人											
30 実施した防災活動の状況																	
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (5)				重油流出発見後、事業所職員が吸着シート20枚で、床面及び油分離槽から重油約3,000Lを回収した。 また、事業所外に流出した重油を排水桝で確認し、中和剤を散布した。									
31 防災活動上の問題点 発見から消防機関への通報に3時間20分を要した。																	
32	施 設 名				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他								
	使用停止		年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日								
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日								
	停止解除		年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日								
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u>		内 容：								
その 他		年 月 日		年 月 日													
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭													
35 今後の対策		・当該ポンプの重油配管に新規バルブを設置し、A重油未使用時は、常時「閉」にする。 ・当該重油サブタンクのレベルスイッチを新品に交換するとともに、今後は定期的に目視点検を行い、結果が良好であっても、15年経過をもって新品に更新する。 ・漏えいを起こしたポンプは未使用時、電源を「OFF」にする。															
36 所 見		直接的な要因はポンプの故障によるものであるが、今後は従業員に対し、研修等の機会を捉え、設備や機器の取扱いを十分に周知させ、重油が海、河川等に流出した際の社会的影響を認識させる必要がある。															

1 事故名	屋外タンク貯蔵所のエンターリングミキサー部のメカニカルシールが剥がれ、防油堤内にクレオソート油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 11日 7時 00分	推定・確定	4 発 見	11月 11日 8時 40分	
5 覚 知	11月 11日 10時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 11日 10時 20分	
7 鎮火・処理完了	11月 11日 17時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南西 風速：1m/s 気温：13℃ 湿度：64%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 無機化学工 番 号 (1721) 業製品製造業 ソード工業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) クレオソート油 300,000L 150倍 倍数の合計： 150倍 設置の完成： 昭和 32年 2月 5日 直近の完成： 昭和 32年 5月 20日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201)			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： タンク容量 300KL			5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)		
名 称： 攪拌、混合機 (ニーダー) 番 号 (508)			(低温、常温 [0-40℃]、高温)		
規 模： プロペラ 45回転/mモーター 7.5KW			分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： クレオソート油 (1,896L)		
14 発 生 箇 所	番 号 (213)		18 取扱者の概要		
名 称： パッキング			①. 選任有 2. 選任無		21 危険物取扱者の の取扱・立会い
材 質： 特殊合金			3. 不要		
15 発 生 時	番 号 (1)		①. 有		
運 転 状 況： 定常運転中			2. 無		
作 業 状 況：	番 号 ()				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 8時40分ごろ、出勤した職員が7号屋外タンク貯蔵所のエンターリングミキサー部から油漏れを発見し、エンターリングミキサー (攪拌機) を停止したが、油漏れが止まらなかった。6号屋外タンク貯蔵所にクレオソート油の系統を切り替え、7号屋外タンク貯蔵所の残油を10号屋外タンクに移送を行ったが、1,896Lが防油堤内に流出したものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (8、1、9) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等、装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送					

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： エンターリングミキサーのメカニカルシールの不良による油漏れと推測。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		その他					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： クレオソート油1,896Lが防油堤内に流出した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： エンターリングミキサーのメカニカルシール破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： クレオソート油1,896Lが流出した。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	4 人	その他	1 台	0 隻	0 機	2 人	
30 実施した防災活動の状況								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (340 万円)		
公設消防機関：番号 (99) 情報収集を実施した。				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 防油堤内の溜めますに溜まったクレオソート油については、バキューム車により回収し、残油については、柄杓及び吸着マットにて回収した。						
31 防災活動上の問題点 発見から通報までに1時間30分を要した。										
政 策 措 置	32 施設名	7号タンク（屋外タンク貯蔵所）			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 2 年 11 月 11 日			年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 1 月 28 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日			年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日			年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日									
35 今後の対策	エンターリングミキサーをおよそ30年間使用しており、メカニカルシールの劣化状態を確認していなかったことで起きた事故であるため、点検項目、点検周期の見直しを行う。また、設備の劣化による事故を無くすため、耐用年数も考慮し、定期的な更新も検討する。									
36 所 見	設備の劣化による事故であるため、日々の点検、定期点検を強化すること。また、耐用年数も考慮した設備の更新についても検討するよう指導した。									

1 事故名	屋外タンクから送油用の配管が何らかの原因で破損し灯油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	5月 11日 10時 30分
5 覚 知	5月 11日 10時 43分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 11日 11時 04分
7 鎮火・処理完了	5月 11日 15時 07分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：1.4m/s 気温：22.8℃ 湿度：63.8%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：医療・福祉 医療業 病院 一般 番 号 (7311) 病院	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 10倍		
名 称： その他のタンク 番 号 (1299)	設置の完成： 昭和 51年 1月 29日		
能 力： 10,000L	直近の完成： 平成 6年 3月 19日		
13 機 器 等 温 度 圧 力：	17 物 質 の 区 分		
名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
規 模： 直径20mm	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)		
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)	(低温、常温 [0-40℃]、高温)		
材 質： 鋼鉄	分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 灯油 (800L)		
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	①. 選任有 2. 選任無		
作 業 状 況： 番 号 ()	3. 不要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い
			①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有			
23 事 故 の 概 要： 従業員から配管が折れているようだと言われた保安監督者が現場を確認したところ、屋外タンク貯蔵所の配管の破損を確認。その際配管からの灯油の漏えいは確認できなかったが元バルブを閉め、中和剤の散布を実施。その後消防機関へ通報。タンクの容量については10,000Lで最終確認時は約10分の1しか入っておらず、事故後に容量を確認すると残量は200Lであった。また、直近の安全点検では異常なし。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 危険物送油管が路上に近い場所にあるため、車両が接触した可能性がある。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	破損		材料		その他						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が事業所側溝から河川に流れ込み、約300m流出したが被害はなかった。				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 危険物送油管破損				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	1 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油約800L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	1 台	0 隻	0 機	2 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (18 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5、6)						自衛防災・消防組織等 番号 (4)					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		令和2年5月11日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	施設の改修指示を口頭で行った。 令和2年5月11日				1. 文書 ②. 口頭 1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 従業員の安全教育の実施											
36 所 見 従業員に対し、定期の点検のみならず業務中における日常点検も十分行うよう指導する。											

1 事故名		屋外タンク貯蔵所からボイラーへの配管の腐食による重油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定			4 発 見		8月 20日 19時 00分				
5 覚 知		8月 20日 19時 14分			6 鎮 圧 応急処置完了		8月 20日 22時 27分				
7 鎮火・処理完了		8月 20日 22時 50分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：南西		風速：1m/s	気温：32℃	湿度：64.6%			
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されな 番号 (9399) いもの) その他のサービス業 他に分類されないサービス業 他に分類されないサービス業				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
				16 発生施設規制区分等							
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 4,000L 2倍							
12 施 設 装 置											
名 称： 固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)											
能 力： 容量4,000L											
13 機 器 等				温度圧力：							
名 称： 配管(送油、注入管等) 番号 (606)											
規 模： 容量4,000L											
14 発 生 箇 所				設置の完成： 平成 18年 10月 16日 直近の完成： 令和 2年 10月 6日							
名 称： その他の附属配管等 番号 (299)				17 物 質 の 区 分							
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(2,000L)							
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要							
運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1)											
作 業 状 況： 番号 ()											
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 ②. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事 故 の 概 要： 屋外タンク貯蔵所から温水ボイラーに重油を供給する配管(U字溝内)から重油が漏えいし用水路に流出したもの											
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止											

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 配管の劣化及び配管を敷設するU字溝内への土砂の堆積									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地外（敷地境界線から約10m）の側溝内に流出、側溝から約200m下流まで及んでいた（河川への流出なし）。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： U字溝内配管の腐食		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油 2,000L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (14 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) 用水路に漏えいした重油を吸着マットで処理。					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	屋外タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無				
その他	令和2年8月21日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭			内容： ・法第13条第1項 危険物保安監督者の選任義務違反 ・法第13条第2項 危険物保安監督者の選解任届出義務違反						
35 今後の対策	・危険物保安監督者の選解任 ・日常点検の実施									
36 所見	従業員等に対し、施設の維持管理を徹底し、業務中における日常点検も十分に行うよう指導。									

1 事故名	No.35原油タンク浮屋根の経年劣化による腐食及び台風による強風による原油漏えい事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	9月 7日 15時 20分		
5 覚 知	9月 7日 15時 40分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 7日 16時 11分	
7 鎮火・処理完了	9月 7日 21時 25分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南西 風速：5m/s 気温：28.7℃ 湿度：69.5%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号(5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内(製、[貯]、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：喜入	
			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 164,736,000L 823,680倍	
12 施 設 装 置	名 称：浮屋根式(地上)タンク 番号(1202) 能 力：164,736KL		設置の完成：昭和50年 1月 10日 直近の完成：平成27年 7月 22日		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：その他 番号(999) 規 模：内径100,100mm、高さ22,570mm、容量164,736KL				
14 発 生 箇 所	名 称：タンク屋根板 番号(103) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、[液相]、気相) ([常圧]、加圧) (低温、[常温][0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(40L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：貯蔵・保管中 番号(7) 作 業 状 況： 番号()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 台風10号の影響により、No.35原油タンク屋根支柱保護板溶接線に亀裂が入り、浮屋根上に原油が漏えい、更に屋根排水管を通じリング側溝等に含有水が漏えいしたものの					
24 緊急処置の状況 有 番号() [無]					

原	25 主 原 因 地震等災害		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因 腐食疲労等劣化					
	発生原因の状況： 漏えい箇所（屋根支柱保護板溶接線）が経年劣化による腐食を経て、局所的に疲労を引き起こすような繰り返し荷重が発生し、さらに台風10号の強風により高応力が発生したため亀裂が生じたものと推定される。					
	主原因の詳細					
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	関連原因の詳細					
破損		自然現象		強風・台風		
疲労・劣化		環境		常に振動する環境下で疲労（想定内の振動であるが、材料が継続した疲労により損傷等）		
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	3 台 0 隻 0 機 100 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
						物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）原油 約40L流出
						損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (4、5)		
調査活動						
31 防災活動上の問題点 加入による通報ではなく、119番通報するべきであった。						
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等		消 防 法
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 元 年 9 月 29 日	令 和 2 年 8 月 29 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	平成 26 年 11 月 20 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	平成 26 年 11 月 4 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>
その他	年 月 日	年 月 日			内容：	
35 今後の対策		早期開放補修のスケジュールの具体化 仮補修箇所の定期かつ重要時の点検（風速15m以上、震度3以上、1時間雨量30mm以上）				
36 所 見		No.35タンクが即時の開放補修ができないことから、仮補修箇所の点検の強化と早期に開放補修を行うよう指導し、具体的なスケジュールの提示がされた。また、流出時の通報対応など従業員への教育体制の指導を実施するとともに、開放補修時の浮屋根の点検時に第三者機関を積極的に活用することを指導した。				

1 事故名	屋外タンク貯蔵所において、埋設スロップ配管が腐食したことによる原油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 30日 19時 50分	推定・確定	4 発 見	10月 30日 19時 50分	
5 覚 知	10月 30日 19時 51分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 30日 20時 52分	
7 鎮火・処理完了	10月 30日 20時 55分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：8m/s 気温：22.7℃ 湿度：68%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1899) 造業 その他の石油製品・石炭 製品製造業 他に分類されない 石油製品・石炭製品製造業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：小那覇特別防災区域				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：屋外タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 103,500,000L 517,500倍				
12 施 設 装 置	設置の完成：昭和55年7月29日 直近の完成：昭和55年7月29日				
名 称：浮屋根式(地上)タンク 番 号 (1202)	17 物 質 の 区 分				
能 力：軽油：103,500KL	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(3L)				
13 機 器 等 温度圧力：	18 取扱者の概要				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
規 模：許可数量：103,500KL 倍数：517,500倍	20 危険物 保安監督者				
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者 の取扱・立会い				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	①. 有 2. 無				
材 質：鋼鉄					
15 発 生 時					
運 転 状 況：払出中 番 号 (10)					
作 業 状 況： 番 号 ()					
19 危険物保安 統括管理者					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 10月30日、19時50分頃、社員が巡視点検中に油臭を感じたため、付近を調査。水抜き配管の埋設部付近に汚れを発見。掘削作業を行い地中約10cm付近で油混じりの水を確認。水抜き配管の移送を停止し更に掘削を行い、地中2mの配管屈曲部において直径約15mm程度の穿孔を確認。応急措置は関連装置の一斉停止。翌朝に当消防本部への通報となる。					
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1, 8) 無 装置の緊急停止、防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 配管滞留部に堆積した腐食性物質を含む堆積物の下で生じた配管の内面腐食。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 埋設配管部の土砂約36㎡を撤去。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 水抜き配管の移送停止		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	6 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類原油3L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5)				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策	貫通部を含む当該配管は取替え済み。配管の各種検査が行えるよう埋設配管からカルバート式へ変更済み。									
36 所 見	当該配管と類似する配管がその他4か所存在するため、必要に応じ補修又は取替えを行うよう指導済み。									

4 屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所

1 事故名	屋内タンク貯蔵所の注入管露出部に、腐食劣化による穿孔が生じ、コンバータ油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 6日 12時 00分	推定・確定	4 発 見	11月 6日 12時 00分	
5 覚 知	11月 6日 12時 49分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 6日 12時 00分	
7 鎮火・処理完了	11月 7日 15時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：5.7m/s 気温：16℃ 湿度：51%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番 号 (4211) 道業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 屋内タンク 番 号 (1208) 能 力： コンバータ油 (第3石油類) 1,350L×2、 エンジンオイル (第4石油類) 2,700L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) コンバータ油 2,700L 1.35倍 第4類第4石油類 エンジンオイル 2,700L 0.45倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 25A		倍数の合計： 1.8倍 設置の完成： 昭和 59年 1月 21日 直近の完成： 平成 24年 8月 9日		
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： コンバータ油 (30L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 受入中 番 号 (9) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要	1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要 2. 無	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 少量危険物施設 (ドラム缶から危険物を吸引・圧送する施設) から屋内タンク貯蔵所へ注油作業中に、屋内タンク貯蔵所1次側の注入管 (屋内タンク貯蔵所の規制範囲) に腐食劣化による穿孔が生じ、コンバータ油 (第4類第3石油類) 約30Lが敷地内地盤面に流出したものの。河川等への流出なし。なお、油吸着マットにより応急措置を実施した。					
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 事故発生部分の配管は、配管内危険物の温度低下防止のため、蒸気配管が並走して敷設されており、当該蒸気配管を含めて保温のためグラスウールで覆われている。配管腐食部分付近の蒸気配管接続部から経年劣化により蒸気が漏れ、当該蒸気により配管の腐食劣化が助長され穿孔が生じたものと考えられる。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋内貯蔵タンクへの注入管から危険物約30Lが流出した。敷地外への流出なし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 屋内貯蔵タンクへの注入管腐食		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）コンバータ油 約30L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
情報収集、事故調査										
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等		防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和2年 8月 15日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策		・目視点検を容易な措置を講じる。 ・保安教育を強化する。								
36 所 見		事故発生箇所はグラスウールで覆われていたため、目視点検（自主）による確認を行っておらず、事故が発生するまで腐食劣化に気付くことができなかった。危険物施設を設置する際は、維持管理や点検整備を考慮した構造とするよう指導するべきである。								

1 事故名	屋内タンク貯蔵所受け入れ配管接続部分からパッキン劣化による重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	7月 13日 15時 00分		
5 覚 知	7月 13日 15時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 13日 16時 00分	
7 鎮火・処理完了	8月 6日 0時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (立入検査時に覚知したもの)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東北東 風速：1.9m/s 気温：23℃ 湿度：92%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：教育・学習支援業 学校教育 小 番 号 (7611) 学校 小学校		11 発 生 場 所		
			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
			16 発生施設規制区分等		
			施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 2,400L 1.2倍		
12 施 設 装 置	名 称：タンク専用室 番 号 (1301)		設置の完成： 昭和 56年 11月 29日 直近の完成： 平成 8年 10月 24日		
	能 力：屋内タンク2,400L				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 1.2倍		
	名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)				
	規 模：口径65A				
14 発 生 箇 所	名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)		17 物 質 の 区 分		
	材 質：鋳鉄		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(0.3L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：停止中 番 号 (5)		18 取 扱 者 の 概 要		
	作 業 状 況： 番 号 ()				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 管轄署の立入検査時に屋内タンク専用室内に設置している注入管の継手2か所からA重油の滴下を確認したもの。当該流出事故により死傷者等は発生していない。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 屋内タンクへ荷卸しする際に、注油配管継手のシートパッキン及びシール材に危険物が時間の経過とともに徐々に浸透し配管外へ流出したものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）					
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	人		本人の意識		思慮		過信			
	管理		組織		人員配置（役割・責任）		役割・責任が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 注油配管継手から流出したA重油が屋内タンク専用室内に滴下し滞留したもの		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 屋内タンク専用室内の注油配管継手、パッキン		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類A重油0.3L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海 上 保 安 部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	1 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (26 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
事故調査										
31 防災活動上の問題点 早期の通報がされていない。										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	令和 元年 7 月 12 日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>			
その他	年	月	日	年	月		日	内容：		
35 今後の対策		・変更許可で注油配管パッキン及び配管取替え済。 ・通報、事故時の体制の検討実施。								
36 所 見		施設の自主点検（消耗品を含む）を定期的実施。								

1 事故名	屋内タンク貯蔵所の液面計取付け部から、モード切替え未実施により灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 27日 9時 15分	推定・確定	4 発 見	1月 27日 13時 10分	
5 覚 知	1月 27日 14時 20分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 27日 13時 20分	
7 鎮火・処理完了	1月 27日 14時 20分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：快晴 風向：西北西 風速：1.6m/s 気温：50℃ 湿度：63%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番号(9611) の 地方公務 都道府県機関 都道府県機関		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍 倍数の合計： 20倍 設置の完成： 昭和 11年 12月 3日 直近の完成： 昭和 12年 7月 7日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 屋内タンク 番号(1208)			①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(1,224L)		
能 力： 20,000L			18 取扱者の概要 経験年数11年		
13 機 器 等	温度圧力：	名 称： 貯槽(タンク) 番号(107)	19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者
名 称： 貯槽(タンク) 番号(107)	規 模： 縦2,588mm、横3,588mm、高さ2,351.5mm、容量20,000L	14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無	
名 称： 液面計 番号(309)	材 質： その他	15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番号(7)	作 業 状 況： 改造工事中 番号(8)	23 事 故 の 概 要： 発電機(一般取扱所)の集合操作盤の更新工事の際、制御盤内の複数の電源を落としたところ、屋内タンク貯蔵所及びサービスタンクの液面レベル計が下限となり、他の屋内タンク貯蔵所から当該屋内タンク貯蔵所へ燃料供給する供給ポンプと当該屋内タンク貯蔵所からサービスタンクへ移送する移送ポンプが自動で起動し燃料供給を続けたため、屋内タンク貯蔵所のフロート式液面計取付け部から灯油約1,224Lがオーバーフローし、防油堤内に流出したもの。なお、サービスタンクからの流出及び屋内タンク貯蔵所の防油堤外への流出はなかった。	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号(1,10) 無 装置の緊急停止、その他		

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 更新工事に伴い、本来であれば集合操作盤の電源を切る前に移送ポンプ及び供給ポンプのモード切替を「自動」から「手動」に切り替える作業をする が、事故当日は作業員が集合操作盤の回路図から、切替作業を行わなくても大丈夫であると思い、切り替えることなく電源を落とした。このため、屋内タンク貯蔵所及びサービスタンクの液面低下信号が発信され、供給ポンプ及び移送ポンプが自動的に起動し屋内タンク貯蔵所への燃料供給が行われた。また、屋内タンク貯蔵所からサービスタンクへ移送された燃料は返油管により当該屋内タンク貯蔵所へ返油され、最終的にフロート式液面計取付け部からオーバーフローし、防油堤内へ流出した。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		過信				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋内タンク貯蔵所の防油堤内に灯油1,224Lが流出。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	8 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油1,224L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (8 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) 装置の緊急停止、油吸着マットによる油の除去					
31 防災活動上の問題点 発見から通報までに時間を要した。											
行政措置	32 施設名	屋内タンク貯蔵所				33 定期点検等		防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	再発防止について指導 令和 2 年 1 月 27 日				年 月 日						
35 今後の対策	・事故発生時の対応フローを見直し、速やかに関係機関へ通報する体制を構築する。 ・工事実施の際のチェックリストを見直し、管理者及び工事作業員相互に確認する。										
36 所 見	同様の工事の相談の際には、工事時の設備養生等についても確認し、同種事故の再発防止に努めていく必要がある。										

1 事故名	屋内タンク貯蔵所の静電容量式レベルメータが故障したことによる灯油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 19日 14時 45分	推定・確定	4 発 見	5月 19日 14時 55分	
5 覚 知	5月 19日 16時 39分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 19日 22時 40分	
7 鎮火・処理完了	5月 20日 10時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北 風速：4m/s 気温：18.2℃ 湿度：90%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：金融・保険業 銀行業 銀行(中 番 号 (6121) 中央銀行を除く) 普通銀行		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 屋内タンク 番 号 (1208) 能 力： 20,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 縦4m、横2m、高さ2.7m		倍数の合計： 20倍 設置の完成： 昭和 55年 7月 7日 直近の完成： 平成 20年 3月 21日		
14 発 生 箇 所	名 称： マンホール 番 号 (305) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 灯油 (1,750L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋内タンク貯蔵所の静電容量式レベルメータが故障し、実際に貯蔵されている量より少なく表示されたことで送油ポンプが起動し、地下タンク貯蔵所から屋内タンク貯蔵所へ送油されつづけたことによりオーバーフローし、灯油1,750Lが区画室内に流出した。さらに、屋内タンク貯蔵所の床面に亀裂が生じており、亀裂箇所から地下ピットにまで流出拡大した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因 腐食疲労等劣化									
	発生原因の状況： 屋内タンクの静電容量式レベルメータが故障したことで、本来であれば100%を表示していなければならないところを28%を表示し停止している状態となった。このため燃料送油ポンプが起動し、地下タンクから屋内タンクへ送油し続け、マンホール部からオーバーフローし流出に至った。静電容量式レベルメータのメーカー推奨交換時期は10年であり、当該レベルメータは設置から40年であることから長期間の使用により故障に至ったものと推察される。 また、当該屋内タンク貯蔵所についても設置から40年が経過しており、適切に維持管理されていたものの、経年劣化によって床面に亀裂が生じたものと推定される。									
	主原因の詳細									
	第I層		第II層		第III層		第IV層			
故障		機能		機器の機能の停止						
因	関連原因の詳細									
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋内タンク貯蔵所から灯油が流出し、当該区画室内及び床に発生した亀裂からピット内に流出拡大した。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 静電容量式レベルメータ1故障、屋内タンク貯蔵所床面に2か所1.3m及び0.5mの長さの亀裂が発生。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	6 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油 1,750L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (63 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5, 99) 危険排除活動、調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 (5) ポリタンクに油を回収。					
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名				33 定期点検等		防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和2年 5月 14日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日								
35 今後の対策	機器の交換推奨時期を管理、把握することで、交換時期を見逃さない。									
36 所 見	当該施設は、毎月自主点検を行うなど管理体制は取れていたが、静電容量式レベルメータの交換については見落とされていた。各種機器が故障した際の危険予測をし、特に交換時期に留意しなければならないものを検討、指導推進していくことが求められる。									

1 事故名	屋内タンク貯蔵所の危険物埋設配管の接続部が離脱したことによる軽油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 17日 13時 00分	推定・確定	4 発 見	3月 17日 13時 00分	
5 覚 知	3月 17日 19時 16分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 18日 15時 25分	
7 鎮火・処理完了	3月 20日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：2m/s 気温：10℃ 湿度：48%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		11 発 生 場 所		
			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
			16 発生施設規制区分等		
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,800L 1.8倍		
12 施 設 装 置	名 称： 屋内タンク 番 号 (1208)				
	能 力： 容量1,800L				
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
	名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)				
	規 模： 角型1,350mm×900mm×1,670mm		倍数の合計： 1.8倍		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油管等 番 号 (907)		設置の完成： 平成 3年 8月 8日 直近の完成： 令和 元年 7月 23日		
	材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分		
15 発 生 時	運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 (240L)		
	作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)		18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル有				
23 事 故 の 概 要：	令和2年3月17日午後1時頃、移動タンク貯蔵所にて屋内タンク貯蔵所の遠方注油口から注油作業を実施したところ、屋内タンク貯蔵所の油面計及び同タンク内の液面上昇が確認できなかったため、令和2年3月18日調査したところ、埋設配管の接続部が離脱しており、そこから危険物(軽油)が流出していたことが判明する。				
24 緊 急 処 置 の 状 況	有 番号 (10) 無 その他				

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()							
	関連原因											
	発生原因の状況： 平成30年5月に発生した近傍の法面崩落で土圧による外力を受け、埋設配管接続部が離脱したものと想定される。なお、平成30年4月に注油作業を行ったが異常はなかった。 また、漏えい箇所の配管は溶接ではなくねじ込みにて施工され、基準に適合していなかった。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	施工不良		施工		施工内容の間違い							
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害				28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 危険物埋設配管直下約3mまで軽油が浸透したため、掘削除去を実施した。				
区分												
当 事 者	0	0	0	0								
防災活動従事者	0	0	0	0								
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 特になし				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油240L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
危険物流出事故調査												
31 防災活動上の問題点 発生後から覚知まで6時間程度要しており、消防機関への通報の遅れがみられた。												
行政措置	32 施設名	屋内タンク貯蔵所				33 定期点検等		防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日	令和2年3月16日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無				
その他	警告書交付：維持管理不足 令和2年3月30日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭						内容： 消防法第12条第1項 危険物屋内タンク貯蔵所の基準維持義務違反					
35 今後の対策 令和2年5月期大型連休までに埋設配管を撤去し、全て露出配管に変更工事を実施する。												
36 所 見 屋内貯蔵タンク本体及び露出配管については日常点検を実施していたが、埋設配管の点検実施記録は認められなかった。そのため、地下埋設配管の漏れの点検について指示した。 また、消防機関への通報の遅れがあったため、事故等が発生した場合は早急に通報するよう指導した。												

1 事故名	屋内タンク配管ストレーナー清掃作業の手順違いによるフラン樹脂流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	10月 6日 17時 00分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	10月 6日 17時 00分
5 覚 知	10月 7日 11時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	10月 6日 18時 00分
7 鎮火・処理完了	10月 7日 16時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：3m/s 気温：19.2℃ 湿度：59%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 一般機械器具製造業 番号 (2643) 金属加工機械製造業 金属工作 機械用・金属加工機械用部分 品・附属品製造業 (機械工具、 金型を除く)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(水溶性液体) フラン樹脂 15,000L 3.75倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： 屋内タンク 番 号 (1208)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 15,000L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (水溶性液体) 名称： フラン樹脂 (90L)		
13 機 器 等 温度圧力：	倍数の合計： 3.75倍		
名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)	設置の完成： 平成 25年 8月 1日		
規 模： 50A	直近の完成： 平成 25年 8月 1日		
14 発 生 箇 所	18 取 扱 者 の 概 要		
名 称： ストレーナー 番 号 (209)	1. 選任有 2. 選任無		
材 質： 鋼鉄	20 危 険 物 保 安 監 督 者		
15 発 生 時	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)	1. 有		
作 業 状 況： 洗浄中 番 号 (11)	②. 無		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有			
23 事 故 の 概 要： 作業員が屋内タンク貯蔵所の配管ストレーナーを清掃するため、フィルターカバーを開放した。この時バルブの閉止や切替弁の操作をしていなかったため、フラン樹脂が約90L流出したものである。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()							
	関連原因											
	発生原因の状況： 作業員が手順を誤り、バルブの閉止や切替弁の操作をせず配管ストレーナーを開放したため。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	人		本人の意識		思慮		不注意					
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害				28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該屋内タンクのポンプ（屋外設置）の貯留設備外に約4㎡流出。敷地外への流出はなし。				
区分												
当 事 者	0	0	0	0								
防災活動従事者	0	0	0	0								
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： フラン樹脂約90L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)						
31 防災活動上の問題点 事故発生の翌日だった。												
政 策 措 置	32 施設名	屋内タンク貯蔵所				33 定期点検等		防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日	令和2年10月6日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	事故発見者の通報について 令和2年10月13日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭						内容：					
35 今後の対策 再発防止対策会議開催、作業手順書の改正、従業員の安全教育の実施												
36 所 見 経験を積み、作業に慣れていても今回のような事故が起きるので、ノウハウの理解と教育が必要であると感じた。												

1 事故名	屋内タンク貯蔵所において、点検中にタンク底部が腐食疲労により開孔し重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 4日 13時 15分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	12月 4日 13時 15分	
5 覚 知	12月 4日 13時 22分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 4日 18時 15分	
7 鎮火・処理完了	12月 4日 18時 44分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：1.6m/s 気温：12.9℃ 湿度：52.5%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 農業 農業 園芸サービス業 園 番 号 (141) 芸サービス業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 屋内タンク 番 号 (1208) 能 力： 20KL		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 屋内タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 20,000L 10倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 40mm鋼管		倍数の合計： 10倍 設置の完成： 昭和 49年 12月 12日 直近の完成： 昭和 49年 12月 12日		
14 発 生 箇 所	名 称： 本体溶接部 番 号 (106) 材 質： その他		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (17,000L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 関係者及び従業員1名が13時15分ごろ、屋内タンク貯蔵所 (20KL) の点検中、タンク底部 (側板との溶接部付近) の汚れを素手で払い落としたところ、同箇所にて穴が生じ、重油が漏れ出したもの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： タンクの老朽化							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離（経年による剥離）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が事業所側溝から河川に流れ込み、約400mにわたり拡散（流出量約500ML）
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 屋内タンク貯蔵所20KL 1基破損
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	5 台 0 隻 0 機 14 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	第4類第3石油類（非水溶性）重油 約17,000L漏えい				
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	7 台 0 隻 0 機 14 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 () 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (4、3、5)				自衛防災・消防組織等 番号 (5、4)				
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名	屋内タンク貯蔵所		33 定期点検等		防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 2 年 12 月 4 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	令和 2 年 12 月 11 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項		34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無		
	その他	年 月 日	年 月 日			内容：		
35 今後の対策	屋内タンク貯蔵所の廃止及び新規貯蔵施設の設置							
36 所 見	今後、タンクの腐食・劣化の確認をより徹底する。 また、万一屋内タンクから危険物が流出した場合に備えて、吸着マットや油処理剤の備蓄を事業所に指導する。							

5 地 下 タ ン ク 貯 蔵 所

1 事故名		廃油用地下タンク貯蔵所の埋設配管の腐食による廃油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定			4 発 見		3月 11日 17時 10分				
5 覚 知		3月 11日 17時 10分			6 鎮 圧 応急処置完了		3月 11日 17時 45分				
7 鎮火・処理完了		8月 27日 15時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：みぞれ		風向：西		風速：2m/s		気温：1℃		湿度：99%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 輸送用機械器具製造業 番 号 (3011) 自動車・同附属品製造業 自動 車製造業 (二輪自動車を含 む)				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
				16 発生施設規制区分等				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 5,000L 5倍 第4類第4石油類 廃油 5,000L 0.83倍			
12 施 設 装 置				設置の完成： 昭和 57年 10月 13日 直近の完成： 昭和 57年 10月 13日							
名 称： 地下タンク 番 号 (1209) 能 力： 容量 10,000L											
13 機 器 等				温度圧力：							
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 直径 1,452mm、全長 6,842mm、容量 10,000L				倍数の合計： 5.83倍							
14 発 生 箇 所				設置の完成： 昭和 57年 10月 13日 直近の完成： 昭和 57年 10月 13日							
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質： その他				17 物 質 の 区 分							
15 発 生 時				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称： 廃油 (1,000L)							
運 転 状 況： その他 番 号 (99) 作 業 状 況： 番 号 ()				18 取 扱 者 の 概 要							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 廃油を受け皿から地下タンク貯蔵所に流し込み、貯蔵する施設において、受け皿から地下タンクまでの間の配管の腐食孔より廃油が敷地及び河川に1,000L流出したもの。なお、吸着マット及びオイルプロッターを使用し、流出拡大防止を図った。											
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無											

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 長期使用による腐食によるピンホールからの流出によるもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した廃油が事業所内の側溝から事業所外の雨水配管へと流れ込んだもの			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 一部埋設配管			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 廃油1,000L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <input type="text" value="1万円以上"/> (2,500 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 2 年 3 月 13 日				年 月 日	定期・自主点検	令和 元 年 12 月 25 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	令和 元 年 12 月 25 日	年 月 日		
	停止解除	令和 2 年 10 月 7 日				年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	年 月 日				年 月 日	内容：					
35 今後の対策		従業員の危険物に対する危険性の再認識									
36 所見	今回の事故は、直近において定期点検等を行っているにも関わらず、起きてしまった事故で、埋設され、目に見えない施設に対する確実な漏えい防止措置は難しいと再認識させられた。また、加圧法等の点検については、それがきっかけでピンホールが拡大しているのではないかと考えさせられる事案となった。										

1 事故名	地下タンク貯蔵所の埋設配管に腐食が生じ、地中内に重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	6月 17日 11時 30分		
5 覚 知	6月 17日 15時 53分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 17日 15時 50分	
7 鎮火・処理完了	6月 18日 9時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：3m/s 気温：17℃ 湿度：84%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：農業 農業 耕種農業 野菜作農 番 号 (113) 業 (きのこ類の栽培を含む)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,000L 5倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力： 10,000L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油				
13 機 器 等 温 度 圧 力：	18 取 扱 者 の 概 要				
名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)	1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有				
規 模： 口径25A 全長約52m	③. 不要				
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)	23 事 故 の 概 要： 地下タンク貯蔵所の埋設配管に腐食が生じ、地中内に重油が漏えいしたもの。 付近の工事をしていた建設業者が臭気に気づき当該施設の職員と調査した結果発見に至ったもので、普段人の往来する場所ではないため漏えい期間及び量は不明。付近に排水路等なく河川への流出はない。				
材 質： その他	24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止				
15 発 生 時					
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況： 番 号 ()					
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 送油管の腐食等劣化により漏えいしたもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）							
関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 腐食した配管を中心に幅2m×奥2m×深1.1mの範囲。 掘削した土砂について、油の滲出がなくなるまでの範囲を調査した結果によるものである。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 腐食した配管（0.4m）			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油が流出（漏えい時期が特定できず流出量不明）	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (150 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	令和 2 年 6 月 17 日				年 月 日	年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	令和 元 年 6 月 15 日		年 月 日		
	停止解除	令和 2 年 7 月 6 日				年 月 日	年 月 日		年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日				年 月 日						
		1. 文書 ②. 口頭				1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 危険物施設の埋設部土壌については、定期的に目視による異常確認を実施する。											
36 所 見 事業所の責任者は埋設配管の位置を把握しておく必要があるため、組合内の各施設に対しても今回の事故事例を周知し、教訓としていく。											

1 事故名	移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所へ危険物注入時、タンク注入口を誤ったことによる重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 23日 9時 00分	推定・確定	4 発 見	6月 23日 9時 10分	
5 覚 知	6月 23日 9時 21分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 23日 14時 27分	
7 鎮火・処理完了	7月 3日 9時 25分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東南東 風速：0m/s 気温：18℃ 湿度：74%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 19,000L 9.5倍	
12 施 設 装 置	名 称： 地下タンク 番 号 (1209) 能 力： 19,000L		設置の完成： 昭和 62年 7月 18日 直近の完成： 平成 9年 10月 9日 倍数の合計： 9.5倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 直径1,900mm、全長7,600mm、容量19,000L				
14 発 生 箇 所	名 称： 通気管 番 号 (304) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (1,170L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 受入中 番 号 (9) 作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)		18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所へ注入する際、タンク注入口を間違えたことにより通気管から重油が溢れたもの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因					
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所へ荷卸しを行う際、本来移動タンク貯蔵所と地下タンク貯蔵所双方の取扱者による立会いが必要だが、荷卸し側の作業員しかおらず、地下タンク貯蔵所側の立会いが行われていなかったことによるものである。					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	23 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
28 物的被害 被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンク及びサービスタンクの通気管より重油1,170L噴出したが、流出範囲は敷地内に収まっている。 施設等の被害状況： ・サービスタンク防油堤内に1cmの重油が溜まる ・サービスタンクの通気管から溢れた重油が外壁に付着 ・地下タンク通気管付近の重油の染み込んだ土砂 物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性液体）重油1,170L流出						
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (732 万円)						
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (4, 6) 地下タンク通気管付近には、油吸着マットを使用し排水口に流れないよう措置し、港へ繋がる排水路にオイルフェンスを設置する。				自衛防災・消防組織等 番号 ()		
31 防災活動上の問題点						
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無	
その他	年 月 日	年 月 日	内容： 危政令第31条 危険物取扱者の責務違反			
35 今後の対策	荷卸しをする際、荷受け側と移動タンク貯蔵所側双方の危険物取扱者の立ち会いによる確認の徹底。					
36 所 見	当該事業主及び危険物取扱者に対し危険物の管理等を徹底するよう指導し、管内の他の事業所に対しても危険物に係る事故事例を掲載したPRチラシを配布し同種事故防止に努めるようお願いをした。					

1 事故名	地下タンク貯蔵所において、送油管が施工不良のため腐食、開孔し灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発生	月	日	時	分	推定・確定
4 発見	11月	20日	7時	00分	
5 告知	11月	20日	8時	56分	
6 鎮圧 応急処置完了	11月	20日	10時	30分	
7 鎮火・処理完了	11月	20日	10時	30分	
8 告知別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気象状況	天気：雨 風向：南 風速：4.9m/s 気温：19℃ 湿度：85%				
10 発生事業所	種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：教育・学習支援業 学校教育中 番号 (7621) 学校 中学校				
11 発生場所	区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
12 施設装置	名称：地下タンク 番号 (1209) 能力：第4類第2石油類 (非水溶性) 灯油 1,900L				
13 機器等	温度圧力： 名称：貯槽 (タンク) 番号 (107) 規模：内径950mm、全長3,110mm、容量1,900L				
14 発生箇所	名称：その他の附属配管等 番号 (299) 材質：鋼鉄				
15 発生時	運転状況：定常運転中 番号 (1) 作業状況： 番号 ()				
16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍 倍数の合計： 1.9倍				
17 物質の区分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：灯油 (10L)				
18 取扱者の概要	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者 の取扱・立会い
20 危険物保安 監督者					①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事故の概要	ボイラーの通常稼働中、学校周辺の住民が側溝の油膜を発見した。側溝を辿ると学校の地下タンク貯蔵所付近に辿り着いた。地下タンク貯蔵所の配管を圧力試験したところ、漏れが確認された。土壌を掘り起こしたところ、配管に漏えい箇所が発見されたものである。				
24 緊急処置の状況	[有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止				

原 因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 腐食疲労等劣化									
	発生原因の状況： 平成26年10月の変更許可申請により、送油管取替え工事が行われた。その後、平成29年9月の変更許可申請により、返油管及び通気管の取替え工事が行われた。その際、送油管の防食被覆に損傷を与え、数年かけて腐食し穴が開いたと思われる。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		工事時		工事資機材による損傷					
	関連原因の詳細									
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離（工事等により損傷）					
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が付近の側溝に流れ拡散したが、敷地境界線から100m程度で収まっていた。流出した油により、地下タンク貯蔵所周辺の土壌改良が必要になった。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管にピンホールが発生した。			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性） 灯油10L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (50 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4)				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和2年 8月 3日	年 月 日			
	改善命令等	令和2年 11月 20日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和2年 8月 3日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項	法第12条第2項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>				
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：						
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策										
配管一部の取替え工事を実施。										
36 所 見										
平成29年の返油管及び通気管の取替え工事の中間検査の際に、他の配管の損傷に気づければ、防げた可能性があったと思われる。検査の際は、他の部分についても注意深く見る必要がある。										

1 事故名	地下タンク貯蔵所の配管破損による作動油の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	6月 21日 16時 00分
5 覚 知	6月 22日 10時 45分	6 鎮 圧 応急処置完了	6月 21日 16時 30分
7 鎮火・処理完了	6月 21日 16時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東北東 風速：4.2m/s 気温：21.7℃ 湿度：87.6%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 一般機械器具製造業 番 号 (2631) 建設機械・鉱山機械製造業 建 設機械・鉱山機械製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		特別防災地区名：
	16 発生施設規制区分等		
12 施 設 装 置		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他	
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)		貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所	
能 力： 9.6KL		類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 作動油 9,600L 1.6倍	
13 機 器 等 温度 圧力：		倍数の合計： 1.6倍	
名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)		設置の完成： 平成 元年 7月 13日	
規 模： 配管内径40mm 配管長10m		直近の完成： 平成 18年 10月 26日	
14 発 生 箇 所		17 物 質 の 区 分	
名 称： その他 番 号 (999)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス	
材 質： 鋼鉄		5. 毒物 6. 劇物 7. その他	
15 発 生 時		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)	
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)		(低温、常温 [0-40℃]、高温)	
作 業 状 況： 番 号 ()		分類： 第4類第4石油類 名称： 作動油 DEXON-PAID [®] 46HN (50L)	
19 危険物保安 統括管理者		18 取扱者の概要	
1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有			
23 事 故 の 概 要： 地下タンクよりギヤーポンプにて吸い上げ工場内へ作動油を供給する施設において、地上配管の一部に何らかの理由で亀裂が入ったため配管内に残っていた作動油約50Lが流出した。6月19日16時頃に行った終業時点検では異常は認められず、6月20日、6月21日は休業日のため運転は停止されていた。21日16時頃の施設巡回時に流出事故を発見した。翌営業日の6月22日に担当者から管轄消防本部予防課へ通報に至る。処置は事故発見直後にオイルキャッチシートにて拭き取りを実施、油が付着した土壌もスコップで回収した。付近のコンクリートに油痕は認められるが排水溝等はないため他への流出はないものと思われる。			
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無			

25	主 原 因 破 損	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： 休業日中に発覚した事故のため発生状況等不明。現場確認するも顕著な腐食劣化や衝突などによる外的要因も認められず。		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	第Ⅳ層		
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症
当 事 者	0	0	0
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
28 物的被害			
被災影響範囲及び拡大の状況： 亀裂が認められるフレキシブルホース周囲の地面約2mに油痕あり。排水溝等への流出なし。			
施設等の被害状況： フレキシブルメタルホース			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： 第4類第4石油類 作動油 約50L流出			
損害額 1万円未満、 1万円以上 (1 万円)			
30 実施した防災活動の状況			
公設消防機関：番号 (99)		自衛防災・消防組織等 番号 ()	
調査活動			
31 防災活動上の問題点			
配管破損発見後漏えい処置を実施、発見時本部予防課が日曜日で休みのため、通報が後日になったもの。			
政 策 措 置	32 施設名		33 定期点検等
	使用停止	年 月 日	消 防 法
	改善命令等	年 月 日	そ の 他
	停止解除	年 月 日	定期・自主点検
	関係条項		気密試験等
その他	年 月 日	保 安 検 査	
		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無
		内容：	
35 今後の対策	配管破損の原因である配管内の残圧を逃がすため、安全弁を組み込んだ配管経路にする変更工事を実施。		
36 所 見	従業員等に対し、定期点検のみならず業務中における日常点検も十分行うよう指導。		

1 事故名	地下タンク貯蔵所へ注入中、液面計の故障による過剰注入で通気管から重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 17日 16時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 17日 16時 20分	
5 覚 知	7月 17日 16時 40分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 17日 19時 15分	
7 鎮火・処理完了	7月 20日 14時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：1.2m/s 気温：22.1℃ 湿度：84.9%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,000L 2.5倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)	能 力： 5,000L		設置の完成： 平成 8年 2月 26日 直近の完成： 平成 8年 2月 26日		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 2.5倍		
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	規 模： 5,000L		18 取扱者の概要 経験年数24年		
14 発 生 箇 所	名 称： 通気管 番 号 (304)		19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		20 危険物 保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13)	作 業 状 況： 番 号 ()		21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： タンクローリーから地下タンクに重油を注入中、通気管から重油が漏えいし河川へ流出した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因 維持管理不十分、監視不十分									
	発生原因の状況： 液面計の故障に気づかず注入を続けた結果、過剰注入してしまい、通気管から漏えいし敷地内側溝を通して河川へ流出した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の機能の停止					
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		過信			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンク貯蔵所付近の側溝から約50m先の河川へ流出。さらに同河川から約4km下流で合流する別の河川でギラ及び油臭を確認。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 液面計の故障			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 重油約40L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額	1万円未満、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5、6、8)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	平成 31 年 3 月 8 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	平成 31 年 3 月 8 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
その他	指示 令和 2 年 7 月 22 日				内容： 消防法第13条第1項違反 危険物取扱者の立会いなしに、無資格者による危険物の 取扱いが行われていた。					
35 今後の対策	早急にタンクの圧力検査を行うこと及び有資格者を採用するか資格を取得すること。注入の際は立会者をつけること。									
36 所 見										

1 事故名	地下タンクに接続したボイラーのサービスタンクのフロートスイッチ故障による灯油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	12月 19日 9時 00分		
5 覚 知	12月 19日 14時 18分	6 鎮 圧 応急処置完了	12月 19日 11時 30分		
7 鎮火・処理完了	12月 19日 16時 31分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北東 風速：3.2m/s 気温：4.6℃ 湿度：38%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館； 番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称： その他のタンク 番 号 (1299)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 灯油 (45L)				
能 力： 200L	設置の完成： 昭和 50年 3月 31日 直近の完成： 平成 27年 3月 26日				
13 機 器 等 温度 圧力：	18 取扱者の概要				
名 称： その他の電源、計測機器 番 号 (799)	1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ③. 不要				
規 模： フロートスイッチ	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
14 発 生 箇 所	23 事 故 の 概 要： 従業員が施設の点検中にサービスタンクから灯油が流出しているのを発見した。サービスタンクは上部から灯油で濡れており、防油堤内には灯油が流出していた。防油堤に設置してある排水弁は閉まっていたが周辺の土や落ち葉が灯油で湿っていた。応急処置として防油堤周辺に中和剤を散布し、防油堤内の灯油を抜き取った。ボイラーへの送油は手動に切り替えた。				
名 称： 本体に係るボルト、ナット、リベット 番 号 (107)	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他				
材 質： 鋼鉄					
15 発 生 時					
運 転 状 況： 番 号 (0)					
作 業 状 況： 番 号 ()					

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： サービスタンクに設置してあるフロートスイッチが故障し、タンクへの送油が止まらず溢流した。また、防油堤の排水バルブは閉まっていたものの、バルブの接続部分が灯油で滲んでいたことからバルブの閉鎖が機能せず防油堤外に流出したものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の機能の停止					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤周辺の地盤（土）に約1㎡灯油が流出。敷地外への流出は無し。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： サービスタンクに設置してあるフロートスイッチの故障			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油約45L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年3月7日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和2年3月7日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容： 危険物取扱者の立会いなしに、無資格者による危険物の取扱いが行われていた。		
その他	年	月	日	年	月	日	1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策 早急にサービスタンクの修理及び点検を行うとともに有資格者を採用するか資格を取得すること。										
36 所 見										

1 事故名	地下タンク貯蔵所において、地下埋設配管が腐食したことによる重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 2日 12時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	10月 2日 17時 00分	
5 覚 知	10月 5日 13時 20分	6 鎮 圧 応急処置完了	10月 5日 13時 25分		
7 鎮火・処理完了	10月 5日 13時 25分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：8m/s 気温：25.4℃ 湿度：40.8%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番号(9521) の) 国家公務 司法機関 司法 機関		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称：地下タンク 番 号(1209) 能 力：容量4,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 4,000L 2倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：0.2MPa 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号(606) 規 模：25A		倍数の合計： 2倍 設置の完成：昭和57年 7月 8日 直近の完成：昭和57年 7月 8日		
14 発 生 箇 所	名 称：その他 番 号(999) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(1,700L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号(1) 作 業 状 況： 番 号()		18 取扱者の概要	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 地下貯蔵タンクに接続された地下埋設管である送油配管の一部が、孔食その他の腐食により、穿孔が発生、同所からA重油1,700L漏えいしたもの					
24 緊急処置の状況 有 番号() <input checked="" type="checkbox"/> 無					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： ボイラー消費の燃料であるA重油を貯蔵している地下貯蔵タンクに接続された地下埋設管である送油配管の一部が、孔食その他の腐食により、穿孔が発生、同所からA重油1,700L漏えいしたものの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	腐食	防食	防食塗装・被覆剥離（経年による剥離）							
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害			28 物的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内の土壌に浸透、一部のA重油は漏えい箇所付近の汚水用マンホールの隙間から汚水管内に浸入し施設内の排水処理施設まで流出したもの			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：			
第 三 者	0	0	0	0			地下埋設管である送油配管の一部が、孔食その他の腐食による穿孔。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）A重油1,700L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 1万円以上 (170 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 事業所側の事故発生による消防機関への通報の遅れがあった。										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 2 月 25 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 2 年 10 月 1 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策	施設の維持管理の徹底を図るとともに、異常時の場合は迅速な消防機関への通報を行う。									
36 所 見	地下埋設配管からの腐食穿孔による危険物流出を防止するためには、事業者が腐食の知識を養う必要があり、危険物の漏えいや流出により多くの影響を及ぼすことを再認識する必要がある。									

1 事故名	地下貯蔵タンクにおいて、土壤中の迷走電流によりタンクが腐食し軽油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 15日 0時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	2月 21日 9時 00分	
5 覚 知	2月 21日 10時 46分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 21日 9時 30分	
7 鎮火・処理完了	2月 21日 11時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：2m/s 気温：7℃ 湿度：50%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1899) 造業 その他の石油製品・石炭 製品製造業 他に分類されない 石油製品・石炭製品製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)				
	特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 15,000L 75倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 30,000L 30倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 15,000L 7.5倍 倍数の合計： 112.5倍				
12 施 設 装 置	設置の完成： 昭和 49年 3月 30日 直近の完成： 昭和 49年 3月 30日				
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)	17 物 質 の 区 分				
能 力： 15,000L	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (2,100L)				
13 機 器 等 温度 圧力：	18 取扱者の概要				
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者 1. 有 3. 不要 ②. 無				
規 模： 直径2,000mm、全長5,880mm	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
14 発 生 箇 所	23 事 故 の 概 要： 地下貯蔵タンクに直径約10mmの穿孔が発生し、軽油が約2,100L流出した。				
名 称： その他の機器等本体 番 号 (199)	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送				
材 質： その他					
15 発 生 時					
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)					
作 業 状 況： 番 号 ()					
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 土壌中で腐食電流が発生して、タンク外側から穴が開いた。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層						
	腐食		環境		迷走電流腐食						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地中へ流出する			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 地下貯蔵タンクに約10mmの穿孔			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油 約2,100L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 在庫が合わないことを覚知してから6日後に通報した。											
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和 2 年 2 月 21 日				年 月 日		定期・自主点検		令和 元 年 12 月 12 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等		令和 元 年 6 月 15 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日		保 安 検 査		年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る		有・ <input type="text" value="無"/>		そ の 他	
その他	加圧試験を指導した。				法令違反の有無		内容：				
	令和 2 年 2 月 21 日				年 月 日						
	①. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 各種点検、在庫管理で異常が認められた場合は速やかに使用を止め、消防機関へ通報する。											
36 所 見 各種点検、在庫管理で異常が認められた場合は速やかに使用を止め、消防機関へ通報するよう指導。											

1 事故名		地下タンク貯蔵所の送油ポンプの緩みによるガソリンの流出							
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()							
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定			4 発 見		2月 24日 9時 10分		
5 覚 知		2月 26日 16時 00分			6 鎮 圧 応急処置完了		2月 24日 10時 00分		
7 鎮火・処理完了		3月 2日 16時 00分							
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()							
9 気 象 状 況		天気：不明		風向：風向不明		風速：不明		気温：不明 湿度：不明	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所					
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 その他の製造業 他に 番 号 (3299) 分類されない製造業 他に分類 されないその他の製造業				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：					
				16 発生施設規制区分等					
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 40,000L 200倍					
12 施 設 装 置									
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)									
能 力： 容量40,000L 内径2,900mm 胴長6,100mm 全長7,000mm									
13 機 器 等				温 度 圧 力： 0.49MPa					
名 称： ポンプ 番 号 (501)									
規 模： 吐出圧力0.49MPa 吐出量毎分200L				倍数の合計： 200倍					
14 発 生 箇 所				設 置 の 完 成： 昭和 61年 11月 10日 直 近 の 完 成： 平成 23年 12月 26日					
名 称： その他 番 号 (999)				17 物 質 の 区 分					
材 質： 鋳鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(1L未満)					
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要					
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)									
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)									
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	
								①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有									
23 事 故 の 概 要： 通常運転において、送油ポンプのバイパス弁キャップ及びその周囲にガソリンがにじみ、これらに変色及び錆が発生した。									
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止									

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 送油ポンプ本体に、6本のボルトでバイパス弁キャップを取り付けており、この6本のボルトの締め付けが不均一であったため、送油ポンプ稼働時の振動によりボルトがゆるみ、ガソリンが漏れたものと推定した。										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	施工不良		施工		ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 送油ポンプ			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 送油ポンプのみ			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類が若干（1L未満）漏れた。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (40 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点 事故発見後から数時間後に通報したため、発見時に通報するよう指導した。											
行政措置	32 施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和元年10月21日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	令和元年10月20日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u>			
その他	施設の一部停止を指示。 令和2年2月26日				年 月 日		内容：				
35 今後の対策 ・送油ポンプのバイパス弁キャップのボルトに緩み防止対策として、バネ座金を追加する。 ・ボルトとバイパス弁キャップに「合マーク」を表示し、日常（毎日）点検でボルトの緩みを確認する。											
36 所 見 ・危険物のにじみ等でも消防機関に通報するよう指導。 ・日常（毎日）点検の際に、「合マーク」の確認を追加するよう指導。											

1 事故名	地下タンク貯蔵所の設備設計不良により、フレキシブルホースと金属配管のフランジ部分から若干量の油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	2月 26日 9時 00分		
5 覚 知	2月 26日 16時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 26日 9時 15分	
7 鎮火・処理完了	2月 26日 9時 15分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北東 風速：4m/s 気温：9℃ 湿度：88%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 その他の製造業 他に 番号 (3299) 分類されない製造業 他に分類 されないその他の製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 地下タンク 番 号 (1209) 能 力： 全容量30,000L 内径2,580mm 胴長6,100mm 全長6,800mm		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 15,000L 75倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 15,000L 15倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 0.49MPa 名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 吐出圧力0.49MPa 吐出量毎分200L		倍数の合計： 90倍 設置の完成： 昭和 61年 11月 10日 直近の完成： 平成 23年 12月 26日		
14 発 生 箇 所	名 称： フレキシブル管継手 (ダクトを含む) 番 号 (202) 材 質： ステンレス		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(1L未満)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 緊急操作中 番 号 (4) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 固定消火設備が誤作動し、地下タンク貯蔵所の遮断弁が作動したため目視による点検を行ったところ、送油ポンプ (以下「ポンプ」という。) から遮断弁の間に設置されたフレキシブルホースと金属配管のフランジから若干量 (1L未満) の油のにじみが認められたためポンプを停止した。また、この際に圧力計の損傷及びポンプからの異音を発見した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 固定消火設備の誤作動に連動し、送油ポンプ（以下「ポンプ」という。）とサービスタンクの間に設けられた遮断弁が作動した。この際にポンプは停止しないため、ポンプと遮断弁の間に0.2MPa、毎分40Lの油が流れ続けた。このためこの間が過加圧状態となり、この間のフレキシブルホースと金属配管のフランジから若干量（1L未満）がにじみ出たものと推定した。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	設計不良		能力		想定を越えた圧力の発生						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： フレキシブルホース、送油ポンプ及び圧力計を損傷したが、他に異常なし。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： フレキシブルホース、送油ポンプ及び圧力計の損傷。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻		0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類が若干（1L未満）が漏れた。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻		0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点 事故発見後の数時間後に通報したため、発見時に通報するよう指導した。											
行政措置	32 施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和元年10月21日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和元年10月20日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無			
その他	一部停止を指示。 令和2年2月26日		年 月 日		1. 文書 ②. 口頭		1. 文書 2. 口頭		内容：		
35 今後の対策 送油ポンプとサービスタンク間の遮断弁を取りはずしても構造上問題がないため、遮断弁をとりはずす。											
36 所 見 他のラインも同様の構造であるため、遮断弁を取りはずすよう指示した。											

1 事故名	移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所へ荷卸し中、過剰注入による通気管からの重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 27日 12時 07分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 27日 12時 07分	
5 覚 知	7月 27日 12時 12分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 27日 14時 01分	
7 鎮火・処理完了	7月 27日 14時 01分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南西 風速：2.9m/s 気温：27℃ 湿度：92%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,000L 5倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)	13 機 器 等 温 度 圧 力：		設置の完成： 昭和 59年 4月 10日 直近の完成： 昭和 59年 4月 10日		
能 力： 10,000L	名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)		17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等 温 度 圧 力：	規 模： 容量10,000L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
14 発 生 箇 所	名 称： 通気管 番 号 (304)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
名 称： 通気管 番 号 (304)	材 質： 鋼鉄		(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 受入中 番 号 (9)		(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)		
運 転 状 況： 受入中 番 号 (9)	作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)		分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油		
作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)	18 取扱者の概要		経験年数36年		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所の作業者は、地下タンク貯蔵所の管理者から依頼を受け、流量計を確認せずに遠方注入口から重油4,000Lの荷卸しを行った。荷卸し後に地下タンク貯蔵所付近を通過したところ、通気管から施設外へ重油が流出していることを発見した。地下タンク貯蔵所の油量計は故障しており、荷卸し前のタンク残量は不明。また、荷卸しの際、地下タンク貯蔵所の危険物取扱者は不在であった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因 故障									
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所の作業者は、地下タンク貯蔵所の危険物取扱者の不在及び油量計故障により油量が不明のまま荷卸しを実施した。また、重油が流出した通気管は小出し槽の上部に設置されており、小出し槽の防油堤に溜まった重油は、防油堤下部に開口されていた水抜き穴から流出し、さらに施設外の道路上へ拡大した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	管理		組織		人員配置（役割・責任）		役割・責任が不適切			
	人		本人の意識		違反（故意）		怠慢			
	設備		監理・保守		点検・整備		整備していない			
	関連原因の詳細									
	故障		機能		機器の機能の停止					
設計不良		機能		必要とされる機能が備わっていない						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者		0	0	0	0		被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重油は、施設外路上の下水管へ浸入した。下水管は下水処理施設へ繋がる配管であったため、河川又は海上への流出はしていない。 流出範囲は敷地境界線から路上へ約3m程度に収まっている。			
防災活動従事者		0	0	0	0		施設等の被害状況： 被害なし			
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（重油）の流出（流出量不明）
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text" value=""/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (3) 流出防止、二次災害防止及び情報収集				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無 内容： 油量表示装置の不備、定期点検未実施		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 油量表示装置の早期改修、荷卸し時の危険物取扱者の立会い、定期点検の実施										
36 所 見 移動タンク貯蔵所の作業員（危険物取扱者）に対し、今後は油量の確認を必ず実施すること及び地下タンク貯蔵所側危険物取扱者の立会いの下、荷卸しを実施するよう指導した。 地下タンク貯蔵所の管理者に対し、点検を含む危険物施設の維持管理の徹底、故障した機器の早期改修、荷卸し時の危険物取扱者の立会いが必要であること及びタンクの容量を確実に確認した上で発注を行うことを指導した。										

1 事故名	地下タンクから機械室へ至る吸引管の老朽化による重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 17日 16時 30分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	7月 17日 16時 30分	
5 覚 知	7月 17日 18時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 18日 12時 00分	
7 鎮火・処理完了	7月 18日 12時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：3.5m/s 気温：25℃ 湿度：69%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番号(9621) の 地方公務 市町村機関 市 町村機関	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,000L 5倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称：地下タンク 番号(1209) 能 力：10,000L	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(10L) 倍数の合計： 5倍				
13 機 器 等	設置の完成：昭和55年 1月 21日 直近の完成：平成26年 7月 15日				
温度圧力： 名 称：貯槽(タンク) 番号(107) 規 模：直径1,500mm、胴長5,900mm、鏡出130mm、容量10,000L	18 取扱者の概要				
14 発 生 箇 所	1. 選任有 2. 選任無 20 危険物 名 称：その他の附属配管等 番号(299) 保安監督者 材 質：その他				
15 発 生 時	21 危険物取扱者の 取扱い・立会い 1. 有 ②. 無				
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番号(7) 作 業 状 況： 番号()	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
19 危険物保安 統括管理者	23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所から地階の機械室へ至る吸引管の老朽化により、吸引管から敷地内に重油約10Lが流出した。なお、敷地外への流出はなかった。				
24 緊急処置の状況	有 番号() <u>無</u>				

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 吸引管が経年劣化により腐食し、腐食した部分から重油が流出したもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層						
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンクの吸引管の地上部から重油約10Lが漏えいしたが、敷地外への流出はなかった。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 地上配管の孔食			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油約10L流出			
消 防 機 関	0台	0隻	0機	0人	自 衛	0台	0隻			0機	0人
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻			0機	0人
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻			0機	0人
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点											
32 行政措置	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年3月21日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和2年3月21日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日		1. 文書 2. 口頭			内容：				
35 今後の対策	老朽化しているため、必要な措置を行い、廃止する。										
36 所 見	日常の点検及び定期点検を確実に実施している事業所であったため、早期に漏えいを発見、必要な措置を講ずることができた。今後も継続して必要な点検を実施していくよう指導。										

1 事故名	地下タンクに接続する少量危険物未満の配管が腐食したことにより、灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 10日 0時 00分	推定・確定	4 発 見	8月 8日 9時 00分	
5 覚 知	8月 11日 13時 36分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 12日 13時 00分	
7 鎮火・処理完了	9月 8日 15時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：2.5m/s 気温：33.8℃ 湿度：62.2%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：医療・福祉 社会保険・社会福 番 号 (7544) 社・介護事業 老人福祉・介護事 業 (訪問介護事業を除く) 痴 呆性老人グループホーム		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称：地下タンク 番 号 (1209) 能 力：5,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 5,000L 5倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：30L/d		倍数の合計： 5倍 設置の完成：平成13年 12月 10日 直近の完成： 年 月 日		
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(5,000L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：休止中 番 号 (6) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 地下タンク貯蔵所に接続する福祉施設内サービスタンク(灯油)からボイラーへの供給配管の途中で分岐する地下埋設配管部分(い ずれも貯蔵・取扱量が指定数量の5分の1未満)から灯油約5,000Lが令和2年5月頃から地中に流出したものの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因	腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 灯油供給配管（PLS）を地下水がある状態の埋設部分でティーを用いて分岐、接続する工事の際に配管をねじ接続し、防食措置を行わなかったため、その部分から腐食が進行して灯油が流出したもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層							
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）								
	関連原因の詳細										
26	被害の状況	1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27	人的被害	28 物的被害									
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が事業所敷地に隣接した用水に流れ込み、約120m離れた二級河川に拡散した。			
	区分										
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： ねじ込み配管の腐食			
	第 三 者	0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
	消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油 約5,000L流出
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (46 万円)
30	実施した防災活動の状況										
	公設消防機関：番号 (99) 調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) 分岐配管の元栓閉め供給を停止、水路に吸着マットを設置。					
31	防災活動上の問題点										
32	施設名	地下タンク貯蔵所				33	定期点検等	消 防 法	そ の 他		
行 政 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和 元年 10 月 2 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日		年 月 日			令和 2 年 8 月 12 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日		年 月 日			年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	危険物配管の漏えい点検指導 令和 2 年 8 月 11 日		年 月 日								
35	今後の対策	在庫確認と任意での気密検査の実施。									
36	所 見	少量危険物未満の施設であっても、施設の管理は徹底してもらい、必要に応じて気密検査などの実施も指導する。									

1 事故名		地下タンク貯蔵所の屋外油配管の腐食による重油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		3月 8日 18時 20分	
5 覚 知		3月 8日 18時 26分		6 鎮 圧 応急処置完了		3月 8日 18時 50分	
7 鎮火・処理完了		3月 8日 19時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：東		風速：1m/s 気温：7℃ 湿度：90%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,000L 1.5倍			
12 施 設 装 置							
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)							
能 力： 貯蔵量3,000L							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称： ポンプ 番 号 (501)							
規 模： 32Φ×22L/min×39not×0.7KW							
14 発 生 箇 所				設置の完成： 平成 元年 11月 20日 直近の完成： 年 月 日			
名 称： 給油管等 番 号 (907)				17 物 質 の 区 分			
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (30L)			
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)				経験年数44年			
作 業 状 況： その他 番 号 (99)							
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
				21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 地下タンク貯蔵所の送油管の腐食により、配管溝内に重油が漏れ出し、雨水と一緒に河川に流出したもの							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 施設の点検、整備が行われていなかったため、配管が腐食して漏れが発生したもの									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		その他					
関連原因の詳細										
設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足				
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管溝に漏れた重油が、雨水と一緒に用水路に流れ込んだもので、腐食配管からにじみ出た重油が、雨水とともに河川へ流出し、下流約50mの範囲まで、油膜が確認された。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管溝に敷設された送油管腐食		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 第3石油類 重油 約30L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	15 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (70 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	平成 28 年 12 月 1 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容： 法第12条第1項 製造所等の位置、構造及び設備の技術上の基準維持義務違反 法第14条の3の2 定期点検義務違反					
35 今後の対策	日常点検の徹底、整備、清掃の徹底									
36 所 見	同様の事故が起きないように、同様の施設の危険物取扱者へ周知徹底する。									

1 事故名	地下タンク貯蔵所のポンプ設備のパッキンが経年使用により劣化し危険物が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	4月 16日 12時 00分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 16日 12時 00分
5 覚 知	4月 16日 13時 25分	6 鎮 圧 応急処置完了	4月 16日 14時 30分
7 鎮火・処理完了	4月 24日 15時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：4.8m/s 気温：14.6℃ 湿度：48.6%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 プラスチック製品製造 番 号 (1941) 業 (別掲を除く) 発泡・強化 プラスチック製品製造業 軟質 プラスチック発泡製品製造業 (半硬質性を含む)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		特別防災地区名：
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) トリレンジイソシアネート 14,420L 7.21倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 14,420L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
13 機 器 等	温度圧力：		
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)		
規 模： 14,420L	(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)		
14 発 生 箇 所	設置の完成：平成元年 3月 9日 直近の完成：平成元年 5月 15日		
名 称： パッキング 番 号 (213)	18 取扱者の概要		
材 質： 合成樹脂	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
15 発 生 時	21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	①. 有 2. 無		
作 業 状 況： 番 号 ()			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有			
23 事 故 の 概 要： 地下タンク貯蔵所付近を通った従業員が、TDI送りポンプから、漏れているのを確認する。送りポンプの停止、バルブの閉鎖を行い、地下タンク貯蔵所の周囲を土嚢により囲い流出防止を行う。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他			

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 経年使用によるパッキンの劣化									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ポンプ付近よりトリレンジイソシアネートが178L流出した。土及び砂に吸着し回収及び地下タンク貯蔵所周囲の土壌へ浸透したため、施設外から5m程度に収まっている。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ポンプパッキンの破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 トリレンジイソシアネート 178Lの流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (35 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (3、5)					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	令和元年8月30日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和元年5月10日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策	漏えい検知時にポンプの緊急停止が作動する漏えいセンサーを設置する。									
36 所 見	配管に保温処理がされていたため、目視点検が不可でありパッキンの亀裂劣化を見逃した。目視点検が可能なカバー等による改善を行う必要がある。 また、漏えい時の早期発見を目的に警報ブザーやポンプの緊急停止装置を考慮されたい。									

1 事故名	地下タンク貯蔵所に接続されているサービスタンクのフロートセンサーが故障したことによる重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 11日 16時 00分	推定・確定	4 発 見	8月 11日 16時 00分	
5 覚 知	8月 11日 17時 36分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 11日 17時 46分	
7 鎮火・処理完了	8月 14日 16時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：3m/s 気温：16℃ 湿度：60%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館； 番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他のタンク 番 号 (1299) 能 力： 500L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 20,000L 10倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 10倍		
	名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 500L		設置の完成： 平成 元年 7月 4日 直近の完成： 年 月 日		
14 発 生 箇 所	名 称： タンク屋根板 番 号 (103) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (1,000L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 地下タンク貯蔵所 (20,000L) に接続されている、給湯用ボイラーのサービスタンク (500L) のフロートセンサーが油で固着したことにより作動しなかったため、オーバーフローした重油約1,000Lが敷地内に地下浸透したものであり、事故当日 (8月11日) は敷地外への流出が確認できなかったことから、サービスタンク周囲の土壌を吸着マットで応急処理を実施した。 事故発生から3日後 (8月14日) に、付近の河川及び敷地外の養殖用の池に流出が確認されたことから、河川に吸着マットを設置し、河川に流出している箇所の土壌を業者の重機により掘り起こしを行い、流出止用の鉄板を設置した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 地下タンク貯蔵所（20,000L）に接続されている、給湯用ボイラーのサービスタンク（500L）のフロートセンサーが油で固着したことにより作動しなかったため、重油が流出したもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の機能の停止					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重油約1,000Lが地下浸透して河川に流れ込み、340m下流にある事業所外の養殖用池内に流出し養殖用の魚に被害が及んだ。 施設等の被害状況： 養殖用魚1,500kg廃棄処分及び汚染土壌廃棄処分		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	20 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油1,000L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (400 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4, 5) ・サービスタンク周囲の土壌を吸着マットで応急処理。 ・重油が流出した河川に吸着マットを設置。 ・河川に流出している箇所の土壌を業者の重機により掘り起こしを行い、流出止用の鉄板を設置。					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年9月6日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和元年9月6日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 危険物を取り扱う設備の定期的な自主点検の実施及び従業員への安全教育の実施を行う。										
36 所 見 危険物を取り扱う設備の日常点検の重要性を危険物施設の立入検査において指導の徹底を行い、同様の事故防止に努める必要がある。										

1 事故名	工場から地下タンク貯蔵所への廃油の送油管（地下埋設配管）が腐食し、廃油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）				
3 発 生	月	日	時	分	推定・確定
4 発 見	11月	20日	15時	00分	
5 覚 知	11月	21日	13時	30分	
6 鎮 火・処理完了	12月	25日	16時	00分	
7 鎮火・処理完了	12月	25日	16時	00分	6 鎮 火 圧 応 急 処 置 完 了
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後周知 7. 一般加入 ⑧. その他（社員が状況について相談）				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速：5.3m/s 気温：10.6℃ 湿度：62.7%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態： 卸売・小売業 自動車・自転車小 番 号（5811） 売業 自動車小売業 自動車 （新車）小売業				
11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類（非水溶性液体） 重油・廃油 15,000L 7.5倍				
13 機 器 等	温度圧力：0.5MPa 名 称： 配管（送油、注入管等） 番 号（606） 規 模： エア圧0.5MPaで送油 倍数の合計： 7.5倍				
14 発 生 箇 所	設置の完成：平成17年11月28日 直近の完成：年 月 日				
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温[0-40℃]、高温） 分類： 第4類第3石油類（非水溶性液体） 名称： 廃油(300L)				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事故の概要	修理工場の廃油（エンジンオイル等）を毎日30L程度を地下タンク貯蔵所までエア圧送している送油管（一部地下埋設）が腐食劣化し廃油約300Lが敷地内地下中に流出した。				
24 緊急処置の状況	有 番号（10） 無 その他				

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 地下埋設配管の一部に3mm程度の亀裂あり									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離（経年による剥離）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えい箇所の中6.5mまで浸透する。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類（廃油）300L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31 防災活動上の問題点 漏油が地下6.5mまで浸透しており、汚染土の回収が困難であった。										
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 2 年 10 月 19 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	改善整備計画の提出依頼 令和 2 年 12 月 3 日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭			内容：						
35 今後の対策	地下埋設配管の撤去（12月9日 完了） 汚染土壌の掘削（12月25日 完了） 汚染土については、自社所有地でパイオレメディエーション方式により処理 危険物施設（地下タンク貯蔵所）廃止予定									
36 所見	タンクの廃油容量が例年より増加傾向であり、タンク容量いっぱいに近い状態のため、抜取りを行ったところ、水分が含まれていた。直近の漏れ等点検では、異常なし。再度点検で配管の圧力低下が見られ漏油の可能性を確認したことから、早期に在庫量の差異に注視すべきである。									

1 事故名	地下タンク貯蔵所から発電機、ボイラーへの埋設配管の腐食による重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 18日 14時 00分	推定・確定	4 発 見	5月 20日 14時 00分	
5 覚 知	5月 20日 14時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 20日 16時 00分	
7 鎮火・処理完了	7月 1日 14時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他(現場確認)				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南西 風速：3m/s 気温：16℃ 湿度：60%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 水 番 号 (3631) 道業 下水道業 下水道処理施設維持管理業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,000L 5倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)	能 力： 10,000L		設置の完成： 昭和 53年 9月 9日 直近の完成： 平成 24年 10月 24日		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 5倍		
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	規 模： 配管50mm 全長103m		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(470L)		
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)		18 取扱者の概要 経験年数35年		
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ③. 不要		
運 転 状 況： 試運転中 番 号 (14)	作 業 状 況： 番 号 ()		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要： 地下タンク貯蔵所から燃料小出槽へ重油を送油後に、地下タンク貯蔵所の貯蔵量が著しく低下していることに気付き、点検業者に点検を依頼した結果、埋設配管から重油が470L流出したと判明したものである。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 雨水により埋設配管が腐食され、また、土壌が陥没したことにより埋設配管に負荷がかかり配管が破損し漏えいしたと推測する。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 埋設配管から重油470Lが漏えい、施設外及び河川の流出なし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性液体）重油470L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (3 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (4)					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク貯蔵所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		令和元年10月7日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	重油拡散防止等指示 令和2年5月20日			年 月 日						
1. 文書 ②. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策										
<ul style="list-style-type: none"> ・発電機室への燃料供給停止、流出した重油の拡散防止、重油の回収（土砂の回収） ・その他の供給について、地下タンク貯蔵所の液面計に誤差があるため、液面計の交換（交換するまでは、1日2回、検尺棒にて在庫管理）。 ・発電機室の供給については、露出配管に交換する。 										
36 所 見										
設置後、40年以上経過した施設は液面計の故障や、埋設配管から漏えいする可能性が高くなることから、定期点検の回数を増やすなど管理の徹底及び異常時の早期通報が重要である。										

1 事故名	地下タンク貯蔵所において、メンテナンス時の監視不十分によりボイラー用サービスタンクの通気管から重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 16日 23時 00分	推定・確定	4 発 見	12月 18日 9時 45分	
5 覚 知	12月 18日 9時 52分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 18日 12時 03分	
7 鎮火・処理完了	12月 18日 12時 03分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雪 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：-3℃ 湿度：85%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 60,000L 30倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他のタンク	番 号 (1299)	能 力： 少量危険物 (920L)	設置の完成： 平成 6年 11月 4日	直近の完成： 平成 8年 3月 27日	倍数の合計： 30倍
13 機 器 等	温 度 圧 力：	名 称： その他	番 号 (999)	18 取扱者の概要 経験年数20年	
規 模： 横1,000mm、縦1,000mm、高さ1,000mmのサービスタンク	容積920L			19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
14 発 生 箇 所	名 称： 通気管	番 号 (304)	材 質： 鋼鉄	20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
15 発 生 時	運 転 状 況： 停止中	番 号 (5)	作 業 状 況： 点検中	番 号 (5)	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 12月16日8時から館内機器のメンテナンスのため、停電作業を実施。必要最小限の電力確保のため、非常用発電設備を運転させ、同発電設備の燃料補給のため、地下タンク貯蔵所の送油ポンプを手動運転したことから、消費の無いボイラー系統のサービスタンクにも重油が送油され、容量過多となった重油が通気管より屋外へ噴出。近くにあった暗きょ排水路を経由して河川に約100L流出したものである。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 操作確認不十分										
	発生原因の状況： 停電によりボイラー系統のサービスタンク受け入れ側に設置された電動弁が「開放」のまま停止し、自家用発電設備のサービスタンクへの燃料補給のため、地下タンク貯蔵所の送油ポンプを作動させたことにより、消費の無いボイラー系統のサービスタンクにも供給され、通常時であれば返油ポンプが自動的に作動するが、停電により作動せず、容量オーバーとなった重油が通気管より噴出した。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	管理		監督		監視		監視が実施されない/不足				
	関連原因の詳細										
	管理		リスクアセスメント		危険意識		安全装置・標示等が提供/使用されない/不適切				
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外に噴出した重油100Lが、暗き排水路から河川に流れ込み、流出範囲は敷地境界線より50m程度に取まっている。				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性液体）重油100L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4, 6) オイルプロッター、オイルフェンスにより漏えい防止措置を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年3月24日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和2年3月24日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：				
35 今後の対策	ボイラー系統のサービスタンク受け入れ側に設置された電動弁は、停電時には閉止されるように電磁弁に交換する。また、手動により補給作業が必要となる場合には、各系統バルブの開閉状況を確認することを徹底し、不要な補給がなされない様に実施すること。操作マニュアルに確認事項として付け加える。										
36 所 見	定例の業務はもちろんのこと、臨時的な作業をする場合は、細心の注意及び確認を実施し、危険物を取り扱う作業員を増やすなど管理の徹底及び異常時の早期通報が重要である。										

1 事故名	地下タンク貯蔵所に接続するサービスタンクからボイラーに給油するためのオイルキャリアーから灯油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 23日 16時 00分	推定・確定	4 発 見	12月 24日 8時 20分	
5 覚 知	12月 24日 8時 34分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 24日 9時 30分	
7 鎮火・処理完了	12月 24日 13時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：0℃ 湿度：98%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 12,000L 12倍	
13 機 器 等	温度圧力：	17 物質の区分		設置の完成：平成元年 8月 16日 直近の完成：平成元年 10月 3日	
14 発 生 箇 所	名 称： その他の機器等本体 番 号 (199) 材 質： ステンレス	17 物質の区分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 灯油 (1,050L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()	18 取扱者の概要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い ①. 有 2. 無	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 当該危険物施設及び関連施設は地下タンク貯蔵所、サービスタンク (少量危険物施設)、オイルキャリアー (貯槽付きオイルポンプ)、給湯ボイラー、配管等で構成されている。このうちオイルキャリアーの故障により機器から灯油が漏えいし、排水口から水路を通じて河川に流出したものである。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： オイルキャリアに戻り配管が設置されていないことから、フロートスイッチの故障によりポンプが作動し続け灯油がオーバーフローしたもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	施工不良		施工		施工内容の違い					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： オイルキャリアから灯油1,050Lが漏れいし事業所側溝から河川へ流出した。流出範囲は敷地境界線から300mの位置に河川があり、落水場所の淵に収まっている。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 施設の被害なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性液体）灯油1,050L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	5 台	0 隻	0 機	9 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (6、5)				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和2年 6月 16日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和2年 6月 16日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策	オイルキャリアの施工方法に問題があることから、施工方法を確認して取り付けること。施設内に異常がないことが確認できるまで使用を中止すること。									
36 所 見	オイルキャリアには安全装置として溢れた油を返油管で戻す接続口があるが、返油管が接続されていなかった、施工方法として問題がないか確認すること。									

1 事故名		地下タンクからサービスタンクへの埋設配管の腐食による灯油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発生		月 日 時 分 推定・確定			4 発生見		6月 5日 10時 00分
5 覚知		6月 8日 8時 30分			6 鎮圧 応急処置完了		6月 6日 10時 00分
7 鎮火・処理完了		6月 7日 14時 00分					
8 覚知別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気象状況		天気：晴 風向：南南西 風速：2.7m/s 気温：27℃ 湿度：67%					
10 発生事業所				11 発生場所			
種別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：医療・福祉 医療業 病院 一般 番号 (7311) 病院				区分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍			
12 施設装置							
名称：地下タンク 番号 (1209)							
能力：タンク容量3,000L							
13 機器等				温度圧力：0.1MPa			
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)							
規模：内径：1,200mm胴長：2,700mm鏡出：253mm容量：3,000L				倍数の合計： 3倍			
14 発生箇所				設置の完成：平成 元年 1月 10日 直近の完成：年 月 日			
名称：給油管等 番号 (907)				17 物質の区分			
材質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(1,700L)			
15 発生時				18 取扱者の概要			
運転状況：払出中 番号 (10)							
作業状況： 番号 ()							
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
				21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 地下タンクからサービスタンクへの埋設配管の腐食により灯油が敷地外の水路へ流出したもの							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関連原因								
	発生原因の状況： 地下タンクからサービスタンクへの埋設配管が腐食による経年劣化で穴が開き、ポンプによる圧送で配管の穴から灯油が流出したものの								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害				28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンクから灯油が1,700L漏えいし、施設外の水路内に流出した。流出範囲は敷地境界線より100m以内に収まっている。	
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 地下タンク埋設配管の腐食による破損	
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	0台 0隻 0機 0人	自 衛	0台 0隻 0機 0人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性） 灯油 1,700L流出					
消 防 団	0台 0隻 0機 0人	共 同	0台 0隻 0機 0人						
海上保安部	0台 0隻 0機 0人	応 援	0台 0隻 0機 0人						
その他の機関	0台 0隻 0機 0人	その他	0台 0隻 0機 0人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (8 万円)					
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (5, 4) 水路に流出した油をバキュームカー及び吸着マットにより回収し、流出箇所である埋設配管への送油を停止した。				
31 防災活動上の問題点 発見から消防への通報まで約3日間を要しており、消防側の対応が遅れた。									
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 元 年 7 月 12 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 2 年 3 月 27 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日	1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 定期の在庫確認で普段と違う変化を感じた際、専門業者へ早急に相談し対応する。									
36 所 見 今回の事故について事業所からの通報が遅れたため、消防側の対応も遅れたことから、事業所に流出事故等が発生した場合に直ちに消防機関に通報するよう強く指導した。									

1 事故名	地下タンク貯蔵所において、液面計の故障及び立会い不十分により、A重油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	7月 9日 11時 30分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 9日 14時 00分
5 覚 知	7月 9日 16時 15分	6 鎮 圧 応急処置完了	7月 10日 12時 00分
7 鎮火・処理完了	7月 10日 12時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：2m/s 気温：23℃ 湿度：97%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番号(9621) の 地方公務 市町村機関 市 町村機関	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 10,000L 5倍		
12 施 設 装 置	設置の完成：平成14年12月7日 直近の完成： 年 月 日		
名 称： 地下タンク 番号(1209) 能 力： 10,000L	17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： A重油(30L)		
13 機 器 等 温度圧力：	倍数の合計： 5倍		
名 称： 貯槽(タンク) 番号(107) 規 模： 直径1,600mm、全長5,254mm、容量10,000L	18 取扱者の概要 経験年数2年		
14 発 生 箇 所	設置の完成：平成14年12月7日 直近の完成： 年 月 日		
名 称： 通気管 番号(304) 材 質： ステンレス	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無		
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
運 転 状 況： 受入中 番号(9) 作 業 状 況： 番号()	23 事 故 の 概 要： 地下タンク貯蔵所の液面計が故障しており、施設側の立会い無しで移動タンク貯蔵所から荷卸した際に地下タンクの容量限界を超えた受入れをしたことにより、地下タンクの通気管先端部から敷地及び河川にA重油30Lが流出した。		
24 緊急処置の状況 有 番号() <input checked="" type="checkbox"/> 無			

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因		監視不十分							
	発生原因の状況： 地下タンク貯蔵所の液面計が故障しているのを把握していたが立会いをすることなく荷卸しを受入れたため。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の機能の停止					
	関連原因の詳細									
	管理		監督		監視		監視がない			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： A重油が通気口から噴き出した際に、直ぐにコンクリート製の集中桝、側溝を 通って水路へ流出したため、土壌と地下汚染はない。水路を流れ近隣の保育園、 河川付近まで流れ、河川より先のポンプ場まで流れ出していた。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： A重油が通気口から噴き出した際に、通気口を設置している ポンプ庫の屋根及び壁が油まみれとなった。			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	1 隻	0 機	15 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類30L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	11 人	その他	2 台	0 隻	0 機	4 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (6、5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				年 月 日	定期・自主点検	令和 元年 9 月 9 日		年 月 日
	改善命令等	令和 2 年 7 月 9 日				年 月 日	気密試験等	令和 元年 9 月 9 日		年 月 日
	停止解除	年 月 日				年 月 日	保安検査	年 月 日		年 月 日
	関係条項	消防法第16条の3第3項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 消防法第12条第1項関係等			
その他	年 月 日				年 月 日					
35 今後の対策 給油の際には給油業者（危険物取扱者）と施設の危険物取扱者による立会いの下、実施する。 給油作業中は通気口や注油口などから油漏れがしていないことを確認する。最後に液面計にて地下タンクの在庫の検 量、数量を確認する。										
36 所 見 今回の事故に見られるように、取扱責任者がお互いに立ち会い、また残量を確認後、荷卸しすることで事故を未然に防ぐ ことができる。										

1 事故名	地下タンク貯蔵所において、送油配管の外表面腐食により重油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 19日 9時 30分	推定・確定	4 発 見	1月 26日 9時 00分	
5 覚 知	1月 31日 15時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 26日 12時 00分	
7 鎮火・処理完了	1月 28日 8時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西 風速：0m/s 気温：11.3℃ 湿度：40.7%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 水 番 号 (3611) 道業 上水道業 上水道業		11 発 生 場 所		
			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
			16 発生施設規制区分等		
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 100,000L 50倍		
12 施 設 装 置	名 称： 地下タンク 番 号 (1209)				
	能 力： 貯蔵量100KL				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 0.39MPa				
	名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)				
	規 模： SGP 40A		倍数の合計： 50倍		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油管等 番 号 (907)		設置の完成： 昭和 56年 4月 3日 直近の完成： 平成 26年 7月 2日		
	材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分		
15 発 生 時	運 転 状 況： 試運転中 番 号 (14)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (60L)		
	作 業 状 況： 点検中 番 号 (5)		18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 1月19日9時37分頃、地下タンク貯蔵所燃料移送ポンプ試運転を実施し、1月26日9時頃、巡回点検時に送油管から重油が漏えいしていることを発見した。漏えい範囲は、送油管の通る側溝内のみであり、応急措置として吸着マット及び汲み取りにより重油の回収を実施した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 湿潤環境にあった側溝内の送油管の一部に防食テープが施工されていなかったため、外面腐食が進行し、重油が漏えいしたもの。また、視認性の悪い側溝内での漏えいであったことから従業員の発見が遅れたものである。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		防食		防食措置が悪いために腐食発生						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンク貯蔵所の燃料供給配管から重油約60Lが漏えいし、建屋内に流出した。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油 60L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 流出事故調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) 建屋内に流出した重油の回収作業等の実施					
31 防災活動上の問題点 設置者に危険物流出事故発生時の消防機関への通報について認識がなく、後日関連会社が危険物施設担当窓口へ来庁したことにより消防覚知となった。											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和元年9月30日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和元年8月21日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> 側溝内の腐食環境を改善するため、雨水等の滞留防止措置を実施 附属配管の巡回点検の強化 配管の防食措置の実施 配管の取替え 										
36 所 見	危険物漏えい時の消防機関への通報の必要性について広報する必要がある。										

1 事故名		地下タンクからボイラー設備への送油管腐食による重油の流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定			4 発 見		4月 18日 15時 00分				
5 覚 知		4月 18日 16時 00分			6 鎮 圧 応急処置完了		4月 18日 16時 00分				
7 鎮火・処理完了		4月 18日 16時 00分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：北北東		風速：1m/s	気温：14.7℃	湿度：63.8%			
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業 (他に分類されな 番 号 (8453) いもの) 娯楽業 公園、遊園地 テーマパーク				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
				16 発生施設規制区分等							
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 4,500L 2.25倍							
12 施 設 装 置											
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)											
能 力： 容量4,500L											
13 機 器 等				温 度 圧 力：							
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)											
規 模： 容量4,500L 全長3,584mm 直径1,400mm											
14 発 生 箇 所				設置の完成： 平成 元年 10月 13日 直近の完成： 平成 9年 5月 1日							
名 称： 給油管等 番 号 (907)				17 物 質 の 区 分							
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： A重油(10L)							
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要							
運 転 状 況： 休止中 番 号 (6)											
作 業 状 況： 番 号 ()											
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無											
23 事 故 の 概 要： 臨時休業中のホテルに設置された施設で、施設の点検中にボイラー設備へ燃料を供給する地下タンクの地下ピットに油が漏れているのを発見する。なお、流出した油は施設内地下ピットに溜まっており施設外への流出はなし。吸着マットを使用し応急処置を実施する。											
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関連原因							
	発生原因の状況： コロナウィルスによる施設の休業をしており、事業再開に向けて施設の点検をしていたところ配管の腐食による少量の漏れを発見したもの							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離（経年による剥離）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が地下タンク配管ピットに漏れ出しピット内10m程度の範囲に約10L溜まっていたもの
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 宿泊施設に附属する地下タンク埋設配管が部分的に腐食。
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類 第三石油類 A重油 約10L流出				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (83 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 () 事業所にて対応済みのため消防機関の出動なし				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 流出油を吸着マットにより回収し、漏えい箇所の特定、応急処置を行う。				
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	令和2年 4月 10日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	令和2年 1月 17日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策	今回のような長期休業となった場合でも、週1回の自主点検を行う。							
36 所 見	消防機関が得た教訓として、臨時的な休業であっても可能な限り維持管理の徹底を行うよう、他の事業所についても指導する。							

1 事故名	地下タンク架空配管の劣化に伴う穿孔箇所からガソリンの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 20日 11時 45分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	1月 20日 11時 45分	
5 覚 知	1月 20日 12時 14分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 20日 12時 56分	
7 鎮火・処理完了	1月 20日 12時 56分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：5m/s 気温：8℃ 湿度：60%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 輸送用機械器具製造業 番 号 (3011) 自動車・同附属品製造業 自動 車製造業 (二輪自動車を含 む)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)	能 力： 地下タンク貯蔵所タンク容量13,000L		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 13,000L 65倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 65倍		
名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)	規 模： 容量13KLタンクの配管		設置の完成： 昭和 48年 12月 4日 直近の完成： 平成 17年 12月 26日		
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)		17 物 質 の 区 分		
材 質： 鋼鉄			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(5L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)		18 取 扱 者 の 概 要		
作 業 状 況：	番 号 ()		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い 1. 有 ②. 無		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 地下タンクから建屋内の各消費場所へ送油している架空配管が経年劣化により穿孔し、同箇所から送油中のガソリンが漏れ、5L程度 滴下しているのを従業員が発見したもの。直ちに配管の送油を停止し、吸着材にて処理を行うとともに、消防機関への連絡後、配管用 補修クランプにて応急処置を行う。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 地下タンクから建屋内の各消費場所へ送油している架空配管が経年劣化により穿孔し、同箇所から送油中のガソリンが漏れ、5L程度滴下しているのを従業員が発見したもの。直ちに配管の送油を停止し、吸着材にて処理を行うとともに、消防機関への連絡後、配管用補修クランプにて応急処置を行う。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 架空配管穿孔箇所の直下にガソリン5Lが滴下したのみで、被害等なし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 架空配管穿孔箇所の直下にガソリン5Lが滴下したのみで、被害等なし。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン 5L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (3) 吸着マットにて吸着措置及び拡散防止措置を実施。					自衛防災・消防組織等 番号 (3) 配管の送油停止及び吸着マットによるガソリンの吸着措置を実施。また、周囲の立入及び火気使用の制限、消火器及び自衛消防隊による一線一口放水体系による消火体制の構築。					
31 防災活動上の問題点										
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	平成 31 年 4 月 14 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	平成 31 年 4 月 14 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策		危険物貯蔵所変更許可申請による許可を受けた後、配管の改修を実施。								
36 所 見		定期点検及び日常点検を行い、再発防止に努めるよう指導。								

1 事故名	地下タンク内のエタノールを循環作業中、誤操作及び監視業務不適により油量満量後に通気管からの危険物流出						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	11月 9日 10時 20分	推定・確定	4 発 見	11月 9日 10時 50分			
5 覚 知	11月 10日 18時 35分			6 鎮 圧 応急処置完了	11月 9日 10時 50分		
7 鎮火・処理完了	11月 13日 10時 00分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：西北西 風速：1.9m/s 気温：13.2℃ 湿度：67.2%						
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 医薬品製造 番 号 (1762) 業 業 医薬品製剤製造業			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 エタノール 24,400L 61倍		
12 施 設 装 置				17 物 質 の 区 分			
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)	設置の完成： 平成 6年 8月 17日			直近の完成： 平成 6年 8月 17日			
能 力： 24,400L	18 取扱者の概要			経験年数30年			
13 機 器 等 温度 圧力：	19 危険物保安			20 危険物			
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	統括管理者			保安監督者			
規 模： 直径：2,012mm 長さ：8,440mm 高さ：2,000mm 容量：24,400L	①. 選任有 2. 選任無			21 危険物取扱者			
14 発 生 箇 所	③. 不要			の取扱・立会い			
名 称： 通気管 番 号 (304)	22 設備・機器等の概要：			1. 有			
材 質： 鋼鉄	オンラインファイル無			2. 無			
15 発 生 時	23 事故の概要：						
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	危険物地下タンク貯蔵所 (4層タンク) のB層から同層 (B層) へ返油 (攪拌を目的) する工程でバルブ操作を誤り、A層に返油し、A層満量後に通気管からエタノール約1,500Lを漏えいした。						
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	当該事象発生時、作業現場に作業員 (危険物取扱者) を配置していなかった。						
	また、この作業の監視業務は別棟のコントロール室 (室内) の監視モニターでも行うことができるが、事象発生時、監視モニターの油量上限レベルの警報音と他の作業警報音が重複したため、監視員が油量上限レベルの警報音に気付かず、返油を続けたため漏えいさせたものである。						
	施設職員が、タンク内の受入れ量と払出し量の液量合計が合わないことに気付き、現地確認したところ地下タンクの通気管下の土壌からアルコール臭気を感じたため、アルコールの希釈のため水の散水措置を実施し、同時に地下タンク貯蔵所の作業の停止を行った。						
24 緊急処置の状況	24 緊急処置の状況						
装置の緊急停止	[有] 番号 (1) 無						

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 監視不十分									
	発生原因の状況： バルブの誤操作によって異なった循環サイクルになり、タンク内の満量を超過したこと。 また、作業現場に監視員を配置せず事象に気付かなかったこと。 さらに、コントロール室の監視員はレベル検知器の満量警報音の監視を見落としたため漏えいが発生した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		不注意			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンク貯蔵所の通気管付近（敷地境界内）の土壌に漏えいしたものと推測される。漏えい後、河川や周辺住民等から漏れや臭気等の被害報告はなし。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設被害なし			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 指定数量:400L アルコール類（エタノール）1,500L流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上（ <input type="text"/> 万円）
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (99)						
				散水によるアルコールの希釈及び地下タンク貯蔵所の作業停止措置。						
31 防災活動上の問題点										
消防機関への通報が、事象発生翌日であったため、事象発生時に通報するべきである。 また、事象発生当日にバルブ操作の誤操作及び上限レベル警報音の発報後、現地確認した際に液面計が振り切っている事を現認した時点で、危険物の漏えいを疑い消防機関へ通報するべきである。										
行政措置	32 施設名			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 9 月 17 日	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日			
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		内容：		
その他	年 月 日	年 月 日								
35 今後の対策	地下タンク貯蔵所付近のバルブ操作は2名でチェックし、操作後、工程終了まで現場に常駐し、監視業務を行う。 コントロール室の監視員は、警報音の対応が遅れることがないように現場作業員と連携体制を構築する。 また、コントロール室の監視モニターで、地下タンクの貯蔵量が上限レベルとなった場合、ポンプ設備が自動停止可能とし、ハード面の安全対策を実施した。									
36 所 見	今回の漏えい事故は、人的ミスが漏えいの原因であり、当該危険物施設において危険物の漏えい量の確認に時間を要したため、消防機関の通報が漏えい事故発生翌日であった。 危険物の漏えいが疑われた時点で、遅滞なく通報するよう指導した。 今後、各事業所に「漏えい事故の原因」及び「危険物の漏えい時の通報義務」について周知徹底する必要がある。									

1 事故名	地下貯蔵タンクに接続されたボイラー用サービスタンク（一般取扱所非該当）からオーバーフローし、灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）				
3 発 生	9月 20日 7時 45分	推定・確定	4 発 見	9月 20日 7時 45分	
5 覚 知	9月 20日 8時 26分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 20日 10時 30分	
7 鎮火・処理完了	9月 20日 14時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他（ ）				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東北東 風速：1.1m/s 気温：15.6℃ 湿度：90.6%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館； 番 号（7211） ホテル 旅館；ホテル		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 15,000L 7.5倍 倍数の合計： 7.5倍 設置の完成：平成 3年 5月 31日 直近の完成：平成 3年 5月 31日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他のタンク 番 号（1299） 能 力： 400L			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温[0-40℃]、高温） 分類： 第4類第3石油類（非水溶性液体） 名称： 重油(150L)		
13 機 器 等 温度圧力：			18 取扱者の概要		
名 称： 貯槽（タンク） 番 号（107） 規 模： 400L	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
14 発 生 箇 所	名 称： マンホール 番 号（305） 材 質： 鋼鉄				
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号（8） 作 業 状 況： 充填中 番 号（12）				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 地下タンク貯蔵所からボイラー室に設置されているサービスタンクに開閉バルブを開いて給油中、その場を離れた。約20分後にボイラー室に戻ると重油が流出しており、オーバーフローした重油は防油堤に留まることなく、送油管等を伝いボイラー室内に流出したものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号（10、1） 無 その他、装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()								
	関連原因												
	発生原因の状況： 本来、満量になれば自動的に送油が停止される仕組みになっていたが、リレー回路の交換を指摘されており、リレー回路の交換までは目視及び手動による開閉バルブの操作により給油を行っていた。今回は開閉バルブを閉じることなくその場を離れてしまったため、サービスタンク外に流出したものである。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
	管理		監督		監視		監視が実施されない/不足						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害						28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出はボイラー室内のみに限定。施設外の水路及び河川等に流出なし。					
区分													
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし					
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 第3石油類 重油約150L (推定) ※防油堤内約100L (推定)、防油堤外約50L (推定)			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (5) ボイラー室内に漏えいした重油を吸着マットにて処理。						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
31 防災活動上の問題点													
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	令和 2 年 9 月 20 日				年 月 日		定期・自主点検		令和 2 年 5 月 12 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	令和 2 年 9 月 20 日				年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項						34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		内容：	
	その他	年 月 日		年 月 日									
35 今後の対策 給油作業を行う際は、危険物取扱作業従事者による給油又は立会いのもと給油を行う。													
36 所 見 危険物の取扱については、再確認と危険性等を十分理解するよう指導。													

1 事故名	地下タンク間でJETA-1燃料を移送中、バルブ操作の誤りにより燃料が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 29日 16時 35分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 29日 16時 40分	
5 覚 知	3月 29日 18時 38分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 29日 19時 50分	
7 鎮火・処理完了	4月 2日 17時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西 風速：1.7m/s 気温：5.2℃ 湿度：89.4%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番号(9611) の 地方公務 都道府県機関 都道府県機関		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称：地下タンク 番号(1209) 能 力：31,000L(15,500L×2基)		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) JETA-1 31,000L 31倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：貯槽(タンク) 番号(107) 規 模：内径2,100mm、胴長4,612mm、容量15,500L		倍数の合計： 31倍		
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番号(299) 材 質：ステンレス		設置の完成：平成10年 3月 18日 直近の完成：平成10年 8月 5日		
15 発 生 時	運 転 状 況：移送中 番号(18) 作 業 状 況：その他 番号(99)		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：JETA-1(690L)	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 地下タンク間で燃料の移送作業を行っていた際、担当者が片方のバルブを開け忘れ一時作業現場を離れたため、燃料がオーバーフローし690L流出。漏出燃料は、排水路に漏出防止目的で設置されている油水分離槽で受け止めたが、一部がため池及び調整池に流出した。オイルフェンス及び土のうにて外部への流出を防止する。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号(1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因 監視不十分		
	発生原因の状況： 給油施設において、翌日に予定している燃料供給業者が実施する燃料搬入の準備のため、2つ設置されている地下燃料タンク間の燃料移し替え作業を開始した。作業手順では、2つの地下タンクを結ぶ配管に設置された3か所のバルブを開放し、ポンプを始動することで移し替え作業を行うが、移し替え先の地下燃料タンクに最も近いバルブを開放しないままポンプ始動を行ってしまった。このため、閉ざされたバルブ位置より燃料が先に進めず、配管途中にある検水タンクに一定量貯留した後、送油量が当該タンク容量を超え、当該タンクから上部から溢れ出した。作業を行った職員は、ポンプ始動後、施設周辺の巡回を行っており、約10分後給油施設に戻り、燃料が溢れている状況を現認し、すぐさまポンプを停止するとともに閉鎖されていたバルブを開放し、検水タンクに貯留した燃料を地下タンクへ移す作業を実施し漏出は停止した。後に燃料計の確認で690Lの燃料が減少しており、同量が漏出したものと推定。漏出した燃料は、ユニットの地面周囲に設置されている防油堤の内側に落ち込み、堤内から排水溝と枡を経由してヘリポート正面門南側に設置された油水分離槽へ流れ込み、槽の許容量を超えた燃料が敷地内の排水溝をさらに経由し、敷地内のため池及び調整池まで到達した。		
	主要原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	設備	監視・保守	点検・整備
	人	本人の意識	思慮
	確認不足	不注意	
	関連原因の詳細		
	管理	監督	監視
			監視が実施されない/不足
26	被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から		
27	人的被害		28 物的被害
	被害内容等	死亡	重症
	区分	中等症	軽症
	当 事 者	0	0
	防 災 活 動 従 事 者	0	0
	第 三 者	0	0
	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏出した燃料は、防油堤の内側に落ち込み、堤内から排水溝と枡を経由して油水分離槽へ流れ込み、槽の許容量を超えた燃料が敷地内のため池及び調整池まで到達した。
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況		施設等の被害状況： 燃料計の確認で690Lの燃料が減少しており、同量が漏出したものと推定。
	消 防 機 関	5 台 0 隻 0 機 13 人	自 衛
	消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同
	海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援
	その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他
		0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)
30	実施した防災活動の状況		
	公設消防機関：番号 (6) 調整池に燃料が流出しており、オイルフェンスを設置し応急処置。		自衛防災・消防組織等 番号 (3, 5) 油水分離槽周辺の枡、側溝で油吸着パッドを使用して吸着及び調整池へ入る排水路等の油分を油吸着パッドで吸着する。二次汚染防止型油処理剤(オイルウォッシュ)をため池、調整池へ散布。調整池北側の排出口周辺への土のう積み上げ及び排出口への土のう詰めを実施。
31	防災活動上の問題点		
32	施設名		33 定期点検等
政 策	使用停止	年 月 日	消 防 法
	改善命令等	年 月 日	定 期 ・ 自 主 点 検
	停止解除	年 月 日	年 月 日
	関係条項		気 密 試 験 等
措 置	その他	年 月 日	年 月 日
	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭	保 安 検 査
			年 月 日
34	当該施設に係る法令違反の有無		有・無 内容：
35	今後の対策 全職員に対して今回の事案詳細について、情報共有を行い、今後同様の作業を実施する場合は、 1必ず複数人で作業を行うこと。 2作業中是不測の事態が生じた場合に直ちに作業を中断できるよう持ち場を離れないこと。 について周知、徹底を行った。		
36	所 見 安直な人的ミスを起こさぬよう、注意喚起を徹底する。		

1 事故名	移動タンクから地下タンクへの荷卸し時、残量を見誤り重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 1日 9時 20分	推定・確定	4 発 見	2月 1日 9時 20分	
5 覚 知	2月 1日 9時 20分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 1日 12時 05分	
7 鎮火・処理完了	2月 1日 13時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：8℃ 湿度：52%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番号(9621) の 地方公務 市町村機関 市 町村機関		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 6,000L 3倍 倍数の合計： 3倍 設置の完成：昭和48年 6月 20日 直近の完成：平成25年 7月 2日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：地下タンク 番号(1209)			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力：容量 6,000L			5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
13 機 器 等	温度圧力：			(固相、液相、気相) (常圧、加圧)	
名 称：貯槽(タンク) 番号(107)			(低温、常温[0-40℃]、高温)		
規 模：直径 1,400mm 全長4,380mm 容量 6,000L			分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(150L)		
14 発 生 箇 所			18 取扱者の概要	経験年数5年	
名 称：通気管 番号(304)			1. 選任有 2. 選任無	21 危険物取扱者の の取扱・立会い	①. 有 2. 無
材 質：その他			③. 不要		
15 発 生 時					
運 転 状 況：荷卸中 番号(13)					
作 業 状 況：運転操作中 番号(1)					
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所から地下タンクへの荷卸中に、地下タンクの容量限界を超えた受入れをしたことにより、通気管先端部から敷地内にA重油150Lが流出したものの。 なお、吸着マットを使用し、応急措置を実施。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号(1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 事故行為者が、移動タンク貯蔵所内の重油の残量を見誤ったもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： A重油が敷地内20㎡に漏えいし、一部が敷地内側溝に流出した。 なお、敷地外への漏えいはなかった。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 敷地内土壌への流出			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量 2,000L 第3石油類 A重油 150L 流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況								損害額 [1万円未満]、1万円以上 () 万円)			
公設消防機関：番号 (5) 消防隊により、吸着マット及び乾燥砂の散布を行い流出した重油の回収及び拡散防止措置を実施した。					自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 事故行為者は流出に気づいた際に直ちにローリーによる供給を停止し、事故行為者及び施設関係者により吸着マットを使用し、応急措置を実施。						
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	平成 30 年 1 月 21 日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	平成 29 年 11 月 28 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・[無] 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日									
35 今後の対策 従業員の保安教育の徹底。											
36 所 見 本件は、人的要因で発生した事故であるため、保安教育及び確認の徹底を指導した。											

1 事故名	地下タンク貯蔵所からサービスタンクへの埋設配管の腐食による重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 14日 11時 00分	推定・確定	4 発 見	10月 14日 11時 00分	
5 覚 知	10月 14日 14時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 14日 16時 00分	
7 鎮火・処理完了	10月 14日 16時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：5m/s 気温：21℃ 湿度：57%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 各種商品卸売業 番 号 (4911) 各種商品卸売業 各種商品卸売業 (従業者が常時100人以上のもの)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)				
	特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,000L 5倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 15倍				
名 称： 地下タンク 番 号 (1209)	設置の完成： 平成 2年 8月 22日				
能 力： 10,000L	直近の完成： 平成 2年 8月 22日				
13 機 器 等	17 物 質 の 区 分				
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
規 模： 直径1,900mm、全長3,800mm、容量10,000L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
14 発 生 箇 所	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)				
名 称： 給油管等 番 号 (907)	(低温、常温 [0-40℃]、高温)				
材 質： 鋼鉄	分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (0.5L)				
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要				
運 転 状 況： 払出中 番 号 (10)	1. 選任有 2. 選任無				
作 業 状 況： 番 号 ()	20 危 険 物 保 安 監 督 者				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 非常用発電機点検のため、地下タンク貯蔵所から非常用発電機のサービスタンクへ送油したところ、敷地内の埋設配管上に油溜まりを発見したもの。油溜まりを発見後、配管のバルブを閉止し、吸着マットを使用して応急処置を実施した。なお、埋設配管の腐食により重油が漏えいし、敷地内に約0.5L流出した。予防課員が一般電話により消防本部へ電話することで覚知した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 地下埋設配管の防食テープが一重巻きであり、埋め戻しの砂に石が混じっていたため、防食テープが傷つき、その箇所から腐食が進行して穴があいたもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離（工事等により損傷）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下埋設配管から重油約0.5Lが流出した。なお、流出範囲は事業所敷地内で収まっている。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 地下埋設配管に楕円状に穴が見られる（幅1cm、長さ1.5cm）。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 第3石油類（非水溶性） 重油 0.5L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> （ 150 万円）
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号（ 5、99 ） 重油の回収を実施後、事故の原因調査を行う。				自衛防災・消防組織等 番号（ 5 ） 吸着マットにより回収作業を実施。						
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報は行っていない（別業務で事故現場付近を車で通った予防課職員からの連絡で、本件事故事案を覚知。）。										
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 2 年 10 月 14 日			年 月 日	定期・自主点検	令和 元 年 12 月 5 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日			年 月 日	気密試験等	令和 元 年 5 月 16 日	年 月 日		
	停止解除	令和 2 年 11 月 3 日			年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
そ の 他	年 月 日			年 月 日						
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策	事故後、地下タンク貯蔵所を廃止する。									
36 所 見	当該事業所の危険物施設は廃止になったが、事故を発見してからの消防機関への通報がなかったため、危険物取扱者の責任者に事故発見後の対応について指導を行った。今後は管内の他の事業所に対して、事故発生後の対応マニュアルの作成を促し、早期通報、迅速な応急措置の必要性を指導していく必要がある。									

1 事故名	地下タンク貯蔵所の注入配管のうち埋設溶接箇所への破損による重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	6月 5日 15時 15分		
5 覚 知	6月 5日 15時 21分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 5日 15時 20分	
7 鎮火・処理完了	6月 22日 14時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：1.5m/s 気温：29℃ 湿度：59%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業 (他に分類されないもの) 洗濯・理容・美容・浴場業 特殊浴場業 特殊浴場業		11 発 生 場 所 区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,000L 5倍		
12 施 設 装 置	名 称： 地下タンク 番 号 (1209) 能 力： 鋼製タンク 直接埋設 10,000L		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 設置の完成： 平成 9年 7月 22日 直近の完成： 平成 11年 4月 2日 倍数の合計： 5倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 注入配管 (65A、長さ65m (埋設35m、露出30m))				
14 発 生 箇 所	名 称： 給油管等 番 号 (907) 材 質： 鋼鉄				
15 発 生 時	運 転 状 況： 受入中 番 号 (9) 作 業 状 況： 番 号 ()				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 6月5日15時10分頃、移動タンク貯蔵所から遠方注入管を使用して地下タンク貯蔵所へ重油の受入れ作業を開始した。この際、注入配管の埋設配管経路上の地盤面から重油が湧いたため、すぐに受入れ作業を中止した。地盤面の重油は吸着マットで処理し、荷卸し量とタンク受入れ量の突合、配管ピットの確認等を行い、地下貯蔵タンク本体からの漏えいと引き続き漏えいがないことを確認したのち、消防へ通報した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25 主 原 因 破 損		着 火 原 因				番 号 ()					
関 連 原 因											
発生原因の状況： 掘削すると、車両通路際の埋設配管溶接部が破損していた。 車両の通行を想定していない通路際を車両が繰り返し通行した。この部分に溶接箇所があったため、車両の荷重等により溶接部分が破損したもの。また、破損部分から続く車両通路下の配管はカルバート内を通し、コンクリートを充填し固定されていた。この車両通路の表面が波打っており、掘削するとカルバートが沈下していた。カルバート内の配管がコンクリートで固定されていたため、カルバートが沈下した際の力が溶接部にかかったことも原因と考えられる。											
主原因の詳細											
第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
疲労・劣化		環境		荷重による疲労（車両や周囲の重量物等の影響）							
関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 埋設配管の破損部分から流出した危険物は、破損部分の周囲で収まっており敷地外への流出はない。				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：				
第 三 者	0	0	0	0			地下タンク貯蔵所の注入用埋設配管の溶接部分が破損した。				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	第4類第3石油類（非水溶性） 重油 漏えい量 200L程度（事故覚知当日分）	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	（覚知以前からの流出が疑われる。累積の流出量は不明）	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上（ 万円）	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号（ 99 ）						自衛防災・消防組織等 番号（ ）					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
行政措置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 2 年 4 月 5 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	令和 元 年 5 月 23 日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
置	その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無	
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭			内容：			
35 今後の対策											
危険物の受入れ方法を遠方注入式から直上式に変更する。 油面計の読取り方法について事業所内で統一し、人によって油面計の読取り精度に差が出ないようにする。 危険物施設の設備等について、危険物取扱者だけでなく事業所全体で情報を共有し、危険物取扱い設備への意識を高める。											
36 所 見											
掘削したところ、流出範囲が数㎡におよんでいたため、事故覚知以前からの流出が疑われる。 在庫管理は行っており特段の異常は確認していないが、アナログ式油面計であるため読取り精度が低かった可能性がある。漏えい検査管、配管ピット内の点検は日常的に行っていたが、目視できない埋設配管について注意が払えていなかった。 事業所の危険物取扱者が危険物取扱い設備について詳細を把握しているか、維持管理についてどんな点に注意を払い点検しているか確認する必要がある。認識不足や点検不足があればそれについて指導する。											

1 事故名	地下タンク貯蔵所のポンプ設備二次側フレキシブル配管の経年劣化による重油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 15日 15時 30分	推定・確定	4 発 見	8月 15日 16時 30分	
5 覚 知	8月 15日 17時 34分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 15日 19時 30分	
7 鎮火・処理完了	8月 15日 21時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：3.9m/s 気温：30℃ 湿度：73%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル				11 発 生 場 所
					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：
					16 発生施設規制区分等
					施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,000L 2.5倍
12 施 設 装 置	名 称： 地下タンク 番 号 (1209) 能 力： タンク容量：5,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 直径：1,300mm 全長：4,356mm 容量：5,000L				
14 発 生 箇 所	名 称： フレキシブル管継手 (ダクトを含む) 番 号 (202) 材 質： ゴム				設置の完成： 平成 12年 3月 28日 直近の完成： 年 月 日
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()				17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (500L)
					18 取 扱 者 の 概 要
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 8月15日16時30分頃、ホテル駐車場の係員が地下タンク貯蔵所のポンプ室扉の下端から重油が漏えいしているのを発見。関係業者へ連絡し、ポンプ停止及び、ウエス・吸着マット等で応急処置実施。17時34分(覚知)付近の一般市民が臭気を訴え警察電話により消防に一報が入るが、現場では原因を特定できず、継続して調査を行う。18時30分頃、当日休みであったホテルの危険物取扱者がホテルへ到着し、18時45分消防へ一報があり災害現場特定されたもの。19時消防隊現場到着。既にポンプは停止されているが、ポンプ室内及び敷地内の駐車場に重油の漏えいが認められることから、吸着マット及び吸着剤を散布し、漏油処理を実施。19時30分、排水溝等からの敷地外への流出危険がないことを認める。当日、特段の異音・異臭等はなく直近の点検でも異常はなかったもの。事故発生時間は屋上サービスタンクへ700L(下限200上限1,000)の残油があることから、ポンプ起動後ある程度時間が経過した後と推定。ポンプ吐出量42L/m及びポンプ室の容量約700L、室外への流出量約500L、サービスタンクへの送油量500Lから15時30分頃と推定する。ポンプ起動後、二次側フレキシブル配管の破損箇所から漏えいしポンプ室内に貯留した後、同室から溢れ出たものが敷地内駐車場に流出。					
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因 維持管理不十分					
	発生原因の状況： 平成12年の設置時から設備の改修等はない施設。ポンプ二次側直近のフレキシブル配管に経年劣化による3cm程度の亀裂があり、送油時に同部分から重油が漏えいした。一時側のフレキシブル配管については劣化は確認できない。定期点検等での異常（油しみ等含め）は確認されていないものの、日常点検を十分に行っていれば、漏油は防止できたと考えられる。					
	主原因の詳細					
原 因	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）			
	関連原因の詳細					
	設備	監理・保守	点検・整備		点検内容が不適切	
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名
区分	当事者	0	0	0	0	
	防災活動従事者	0	0	0	0	
	第三者	0	0	0	0	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消防機関	2台	0隻	0機	7人	自衛	0台 0隻 0機 0人
消防団	0台	0隻	0機	0人	共同	0台 0隻 0機 0人
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応援	0台 0隻 0機 0人
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台 0隻 0機 0人
						物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油、約500L流出（前日の地下タンク貯蔵所の残量約2,500L、事故後の地下タンク残量約800L、屋上サービスタンクへの送油量約500L、ポンプ室内容量約700L。）。
						損害額 1万円未満、 1万円以上 (80 万円)
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (5)				自衛防災・消防組織等 番号 (5)		
31 防災活動上の問題点 漏えい発見（16時30分）から通報（19時45分）まで時間がかかり過ぎている。危険物取扱者が来てから通報に至るまでの経過時間は問題なし。						
32	施設名					33 定期点検等
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 8 月 21 日	消 防 法
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 2 年 8 月 21 日	そ の 他
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
政 措 置	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無
	その他	年 月 日	年 月 日	有・ 無	内容：	
	1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭				
35	今後の対策 定期点検以外に、1週間に1回危険物取扱者による日常点検を行い、早期の異常発見に努める。万が一漏えいがあったときのために、ポンプ室内にセンサーの設置を検討中。また、通報・応急措置を即時行えるよう、事故時の行動マニュアルを作成する。					
36	所 見 事故後の、油漏れに対する応急措置は迅速に行っていたが、通報が遅く事故時の行動マニュアル作成や訓練の必要性がある。また、地下タンク、ポンプ設備及びボイラー消費に至るまでの施設全体の把握ができておらず、改善の必要がある。					

1 事故名	地下タンク貯蔵所に付随する燃料移送ポンプの故障及び設置当初の施工不良による重油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 24日 4時 20分	推定・確定	4 発 見	7月 24日 7時 15分	
5 覚 知	7月 24日 7時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 24日 9時 04分	
7 鎮火・処理完了	12月 3日 10時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：西南西 風速：0.3m/s 気温：23℃ 湿度：98%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 飲食店・宿泊業 宿泊業 旅館；番 号 (7211) ホテル 旅館；ホテル	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)				
	特別防災地区名：				
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称： 自家発電施設 番 号 (1503)			施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他		
能 力： 地下タンク貯蔵所 重油 20,000L燃料移送ポンプ 24L/m			貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所		
13 機 器 等			類・品名・名称・数量・倍数：		
名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)			第4類第3石油類 (非水溶性液体) 重油 20,000L 10倍		
規 模： 返油管 直径 40A閉止板取り付け (施工不良)			倍数の合計： 10倍		
14 発 生 箇 所			設 置 の 完 成： 平成 6年 8月 4日		
名 称： その他の部品 番 号 (499)			直 近 の 完 成： 平成 6年 8月 4日		
材 質： 鋼鉄			17 物 質 の 区 分		
15 発 生 時			①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
運 転 状 況： 休止中 番 号 (6)			5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
作 業 状 況： 番 号 ()			(固相、液相、気相) (常圧、加圧)		
			(低温、常温 [0-40℃]、高温)		
			分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (5,000L)		
			18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 河川に油が浮いているとの内容で一般住民から119番通報があり、調査を行ったところ、当該自家発電設備 (少量危険物施設) からの流出が判明したものの、原因は、地下タンク貯蔵所の燃料移送ポンプが何らかの要因で誤作動し、使用を休止している自家発電装置に燃料を供給し続けたため、自家発電装置に内蔵する燃料タンクの通気管から、重油が流出したものである。なお、自家発電装置に内蔵している燃料タンクには、余剰の燃料を地下タンク貯蔵所に戻す返油管が設置されているが、当該返油管のフランジ部分に閉止板が取り付けられたままになっていた。地下タンク貯蔵所の在庫記録と残量を比較し、燃料移送ポンプで移送された量は5,000Lであり、同量が通気管から流出したものである。なお、少量危険物施設の油分離槽等に1,500L収容されていたため、少量危険物敷地外 (側溝、河川等) への流出は3,500Lとする。流出した重油は側溝を経由し河川に流出した。また、河川に流出した重油を回収するため、オイルフェンスを展開したが、当日は大雨により増水していたため、有効に回収できず、約17km下流の海に到達したものと推定する。側溝に残った重油は、吸着マットを使用し回収した。					
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()							
	関 連 原 因 故障											
	発生原因の状況： 返油管に閉止板が取り付けられていたため、ポンプの異常動作による過剰な重油を地下貯蔵タンクに返油することができず、逃げ場を失った重油が自家発電装置に内蔵された燃料タンクの通気管から流出したもの											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	施工不良		施工		施工内容の間違い							
	関連原因の詳細											
	故障		機能		機器の異常動作							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害				28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名					
区分												
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重油が、敷地内の側溝を経由し河川に流出した。当日の大雨により河川が増水していたため、オイルフェンスが展張できず、流出した重油は約17km下流の海に到達したと推定する。					
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 付近の側溝及び河川が油により汚染した。					
第 三 者	0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	8 台	0 隻	0 機	28 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油 5,000L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	10 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人			
30 実施した防災活動の状況										損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (430 万円)		
公設消防機関：番号 (6、5)					自衛防災・消防組織等 番号 ()							
流出した油の回収及び原因調査												
31 防災活動上の問題点 大雨により河川が増水していたため、オイルフェンスの展張ができなかった。												
政 策 措 置	32 施設名	地下タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年		月	日	年	月	日	
	改善命令等	年	月	日	年		月	日	令和 2 年 1 月 16 日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年		月	日	令和 2 年 4 月 7 日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：					
その他	流出した重油の回収 令和 2 年 7 月 31 日											
①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭												
35 今後の対策 今後使用する予定のない施設の廃止												
36 所 見 本事案は、配管検査時に取り付けたと考えられる閉止板がそのままになっており、平時では考えられない事故であった。今後は、このような施工不良も考慮して完成検査を行い、同種事故防止に努める必要がある。												

1 事故名	地下タンク貯蔵所ポンプ設備の空気弁締め忘れにより、トルエンが流出した事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	11月 6日 14時 00分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	11月 6日 18時 55分		6 鎮 圧
7 鎮火・処理完了	11月 7日 12時 00分		応急処置完了
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：雨	風向：北西	風速：1m/s 気温：19℃ 湿度：98%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
業 態： 製造業 窯業・土石製品製造業 番号 (2244) 陶磁器・同関連製品製造業 電 気用陶磁器製造業	特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他		
	貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 地下タンク貯蔵所		
	類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 50,000L 250倍		
12 施 設 装 置	設置の完成：平成13年 4月 27日		
名 称： タンク専用室 番号 (1301)	直近の完成：平成19年 10月 29日		
能 力：	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
名 称： ポンプ 番号 (501)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
規 模： ポンプ高さ530mm 幅290mm 奥行640mm	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)		
14 発 生 箇 所	(低温、常温 [0-40℃]、高温)		
名 称： 電動機 番号 (401)	分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：トルエン(862L)		
材 質： 鋼鉄	18 取扱者の概要		
15 発 生 時	経験年数19年		
運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1)	①. 選任有 2. 選任無		
作 業 状 況： 運転操作中 番号 (1)	21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 地下タンクから一般取扱所にトルエンを送るポンプの空気弁を完全に閉鎖せず数日間ポンプを稼働させたため、空気弁からトルエンが約862L流出し、工場内の水路に流れ出たもの。水路から河川へも流れ出たが、正確な数量は分からず。人的損害無し。			
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無			

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 地下タンク貯蔵所ポンプ設備の空気弁の締め忘れ									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出したトルエンが事業所内水路から河川に流れ込み、魚が30匹程度死滅。海上まで2.5kmに渡り拡散した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 被害なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)トルエン862L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (3 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (4、5、3)					
調査活動										
31 防災活動上の問題点 事業所が流出を覚知した時間から消防機関へ通報まで約5時間費やしている。										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和2年10月4日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策	移送ポンプ室内の日常点検強化実施。ポンプ下部にオイルパン設置。ポンプピットの構造変更。トルエン使用時にタンク内残量を記録し使用量との差異の照合実施。									
36 所見	当該事業所に対し大規模な特別査察を実施し、施設の維持管理状況を確認するとともに、定期点検はもとより日常点検の強化を指導した。今後、管内の類似施設についても同様の指導を行い事故防止に努める。									

6 移動タンク貯蔵所

1 事故名	移動タンク貯蔵所で注入ホースが断裂したことによる灯油の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	2月 1日 17時 20分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見
5 覚 知	2月 1日 17時 53分	6 鎮 圧 応急処置完了	2月 1日 18時 26分
7 鎮火・処理完了	2月 1日 18時 50分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇	風向：北	風速：5.3m/s 気温：1℃ 湿度：74%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
	特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,000L 2倍		
12 施 設 装 置	13 機 器 等		
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)	温度圧力：		
能 力：許可容量2,000L	名 称：その他 番 号 (999)		
13 機 器 等	規 模：1B×30m		
14 発 生 箇 所	15 発 生 時		
名 称：給油(注油)ホース 番 号 (908)	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		
材 質：ゴム	作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		
15 発 生 時	17 物 質 の 区 分		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(4.7L)		
17 物 質 の 区 分	18 取 扱 者 の 概 要		
①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス	経験年数23年		
5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(4.7L)	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
18 取 扱 者 の 概 要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		
1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	1. 有 ②. 無		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：		
1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	オンラインファイル無		
20 危 険 物 保 安 監 督 者	23 事 故 の 概 要：		
1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	移動タンク貯蔵所の注入ホースでホームタンクへの給油を行い、給油作業終了し原動機を停止後、ホースの巻取り作業をせずにホームタンクの注油口にノズルが入った状態で車両を発進。ホースを延長しながら走行し伸びきった時点でホースが断裂。ホース内の灯油約4.7Lが道路上に漏えいした。事故当事者が被害の拡大を防ぐために注入ホースを回収、中和剤を現場に搬送し漏えい場所への散布を行った。この作業中に近隣の住民が消防へ通報し覚知に至る。また車両の走行により延長された注入ホースに接触した乗用車2台及び塀の一部が損傷した。		
21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	24 緊 急 処 置 の 状 況		
1. 有 ②. 無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他		

25	主 原 因 操作未実施	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 注入ホースを収納したと思いきみ発進し、注入ホースが断裂したもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	人	本人の意識	思慮	思い込み						
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害										
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	28 物的被害			
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 延長された注入ホースの接触により自動車2台と塀の一部が損傷し、断裂した注入ホースからは灯油4.7Lが道路上（約1.5m×10mの範囲）に漏えいした。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所の注入ホースの断裂			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 第2石油類（非水溶性） 灯油4.7L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (3, 99) 乾燥砂で拡散防止措置及び調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
32 政 措 置	施 設 名									
	使用停止		年 月 日		年 月 日					
	改善命令等		年 月 日		年 月 日					
	停止解除		年 月 日		年 月 日					
	関係条項									
そ の 他		年 月 日		年 月 日						
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭		33 定期点検等						
				消 防 法						
				定期・自主点検	令和 元年 10 月 16 日					
				気密試験等	令和 元年 10 月 19 日					
				保 安 検 査	年 月 日					
				そ の 他	年 月 日					
				34 当該施設に係る 法令違反の有無						
				有・無						
				内容： 消防法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反						
35 今後の対策										
確認作業の徹底										
36 所 見										
・従業員全員で日常点検も含めて、日ごろからの確認作業を徹底すること、状況に応じて2名での配達も考慮するよう指導。 ・最大貯蔵量を超過した充填を行わないよう一定の期間、充填量を消防へ提出するよう指導。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所の単独横転事故による灯油漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 12日 12時 35分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 12日 12時 51分	
5 覚 知	3月 12日 12時 51分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 12日 13時 54分	
7 鎮火・処理完了	3月 12日 19時 11分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：4m/s 気温：2℃ 湿度：51%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 その 番 号 (4499) 他の道路貨物運送業 その他の 道路貨物運送業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 26,000L 26倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)	能 力： タンク容量26,000L	13 機 器 等	温度圧力：	設置の完成： 平成 10年 8月 14日	直近の完成： 平成 27年 8月 14日
名 称： その他 番 号 (999)	規 模： 第2石油類 灯油	14 発 生 箇 所	材 質： 鋼鉄	18 取扱者の概要	倍数の合計： 26倍
15 発 生 時	運 転 状 況： 移送中 番 号 (18)	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要
作 業 状 況：	番 号 ()	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無	
23 事 故 の 概 要： 当該車両走行車線が道路工事中であったため、誘導員の指示に従い右カーブの対向車線を走行、その際車両が右側路側帯に乗り上げ、傾斜のある道路横法面上に積もった雪面に横転、上部マンホール注入口及び安全装置から灯油が漏えいしたものと					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 腐食疲労等劣化									
	発生原因の状況： 運転操作誤り									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	交通事故		運転操作		路肩に寄りすぎ					
関連原因の詳細										
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 路側帯横の雪面上10mにわたり灯油が漏えい		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 車両バンパーの破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性液体）灯油 50L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (20 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4、5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和元年5月20日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	平成27年8月1日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>				
その他	年 月 日	年 月 日		内容：						
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 従業員への交通安全遵守及び設備の維持管理点検の再教育の実施										
36 所 見 当該事業所へ従業員に対し交通安全の再教育及び移動タンクの設備等の再点検を実施するように指導。査察時に他の事業に対しても同様な教育をするように職員に周知した。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所の単独事故により、横転した衝撃でタンクが破損し、ガソリン等が流出したもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	3月 21日 5時 50分 推定・ 確定	4 発 見	3月 21日 5時 50分
5 覚 知	3月 21日 5時 51分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 21日 12時 46分
7 鎮火・処理完了	3月 21日 12時 46分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西南西 風速：15.1m/s 気温：4℃ 湿度：66%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他)		
	特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 20,000L 100倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍 倍数の合計： 140倍		
12 施 設 装 置	設置の完成：平成 7年 7月 5日 直近の完成：平成 7年 7月 5日		
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)	17 物 質 の 区 分		
能 力：容量 20,000L	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油		
13 機 器 等 温度圧力：	18 取扱者の概要 経験年数5年		
名 称：貯槽(タンク) 番 号 (107)	1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要		
規 模：1,2,7室 4,000L、3,4,5,6室 2,000L	20 危険物保安監督者		
14 発 生 箇 所	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
名 称：タンク側板 番 号 (101)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
材 質：アルミニウム	23 事故の概要： 国道を移送中、凍結した路面でスリップし、固定式視線誘導柱に衝突、横転する。横転した衝撃で、内部に設置された間仕切板がタンク本体を突き破って穴が開き、その開口部及び第7室底弁操作ハンドルからガソリン等が漏えいしたもの。積載量は18KLで、漏えい量は約11.5KL。タンク内の間仕切板が変形し、各室が開通状態となっていたため、油種ごとの漏えい量は不明。漏えいしたガソリン等が道路上の排水口から水路に流れ込み、河川へ少量流出する。現場を通りがかった別車両の運転手が警察へ通報し、消防隊及び関係機関により、油吸着マット、オイルフェンス等を使用して流出拡大防止措置をとる。死傷者の発生はない。		
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他		
運 転 状 況：移送中 番 号 (18)			
作 業 状 況： 番 号 ()			

原 因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()												
	関 連 原 因 操作確認不十分																
	発生原因の状況： 凍結した路面に気づき、乾いた反対車線に移動して走行する。凍結部分が過ぎたと思い、走行車線に戻ったがまだ路面が凍結しており、荷台がスリップして操作不能となる。																
	主原因の詳細																
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層										
	交通事故		路上環境		凍結、水たまり等で路上が滑りやすい												
	関連原因の詳細																
	人		本人の意識		思慮		思い込み										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																	
27 人的被害						28 物的被害											
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が道路上に設置された排水口から水路に流れ込み、約100m流れた後、河川に少量流れ込む。			
区分																	
当 事 者		0		0		0		0									
防災活動従事者		0		0		0		0						施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所1台、固定式視線誘導柱			
第 三 者		0		0		0		0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																	
消 防 機 関		5 台 0 隻 0 機 14 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人		消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン8KL、第2石油類（非水溶性）灯油2KL、第2石油類（非水溶性）軽油8KLの合計18KLを積載しており、漏えい量が約11.5KLであったが、タンク内の間仕切板が変形し、各室が開通状態となっていたため、油種ごとの漏えい量は不明である。	
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他の機関		7 台 0 隻 0 機 24 人		その他		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)	
30 実施した防災活動の状況																	
公設消防機関：番号 (4、5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()											
火災警戒筒先を配備するとともに、道路上、排水口及び水路に土嚢及び油吸着マット等を使用して流出拡大防止措置をとる。																	
31 防災活動上の問題点																	
32 施設名						33 定期点検等		消 防 法		そ の 他							
使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 元年 6 月 12 日		年 月 日							
改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和 元年 6 月 12 日		年 月 日							
停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日							
関係条項						34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無		内 容：							
その他		年 月 日		年 月 日													
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭													
35 今後の対策		従業員の安全教育の実施															
36 所 見		管内で発生する移動タンク貯蔵所からの漏えい事故の大半は、移送中に発生している。移動タンク貯蔵所を所有する事業所に対し、危険物取扱者の自覚と責任を徹底させ、同種事故防止に努める必要がある。															

1 事故名	移動タンク貯蔵所のホースが破損し、灯油が流出したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 17日 14時 30分	推定・確定	4 発 見	4月 17日 14時 30分	
5 覚 知	4月 20日 14時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 20日 14時 10分	
7 鎮火・処理完了	4月 20日 14時 10分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：5m/s 気温：14℃ 湿度：26%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の卸売業 番 号 (5499) 他に分類されない卸売業 他に 分類されないその他の卸売業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 7,500L 7.5倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)	能 力： タンク容量 7,500L		設置の完成： 平成 10年 12月 8日	直近の完成： 年 月 日	
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 7.5倍		
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	規 模： 不明		17 物質の区分		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
材 質： ゴム	15 発 生 時		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
運 転 状 況： 払出中 番 号 (10)	作 業 状 況： 番 号 ()		(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(5L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から福祉施設に付随するホームタンク(490L)に注油後、注油ノズルの手動開閉装置を閉鎖した際に注油ホース(摩擦による損傷があった箇所)が破損し、当該箇所から灯油が霧状に飛散した。 流出範囲は約10㎡(2m×5m)、流出量は推定5Lであった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25		主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()				
原 因	関 連 原 因													
	発生原因の状況： 維持管理の不適によるもの													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層				
	関連原因の詳細													
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害							28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 福祉施設の敷地内に流出（約10㎡）、河川流出なし。						
区分														
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし						
防災活動従事者		0	0	0	0									
第 三 者		0	0	0	0									
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性液体）灯油5L流出				
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円				
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()								
調査活動														
31 防災活動上の問題点 消防法第16条の3第2項に規定する通報義務の認識不足。														
32 行 政 措 置	施設名					33 定期点検等			消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/> 内容：					
その他	年	月	日	年	月	日								
		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭												
35 今後の対策 日常点検等の徹底														
36 所 見 日常的な点検を十分に行うこと及び事故発生の際には直ちに通報を行うことについて指導した。														

1 事故名	移動タンク貯蔵所の注油ノズルをホームタンクに残置したまま移送し、当該タンク転倒による灯油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 7日 15時 00分	推定・確定	4 発 見	5月 7日 15時 00分	
5 覚 知	5月 7日 15時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 7日 16時 40分	
7 鎮火・処理完了	5月 7日 16時 40分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東北東 風速：3m/s 気温：13℃ 湿度：47%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の卸売業 番 号 (5499) 他に分類されない卸売業 他に 分類されないその他の卸売業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,750L 3.75倍	
13 機 器 等	温度圧力：	14 発 生 箇 所		設置の完成：平成23年 3月 31日 直近の完成：平成23年 3月 31日	
14 発 生 箇 所	名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)	15 機 器 等		17 物 質 の 区 分	
15 機 器 等	能力：タンク容量 3,750L	16 発生施設規制区分等		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：灯油 (380L)	
16 発生施設規制区分等	名称：貯槽 (タンク) 番号 (107)	17 物 質 の 区 分		18 取扱者の概要	
17 物 質 の 区 分	規模：タンク容量 490L	18 取扱者の概要		経験年数1年	
18 取扱者の概要	14 発 生 箇 所	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		20 危 険 物 保 安 監 督 者	
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	名称：タンクの注入口 番号 (905)	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		①. 有 2. 無	
20 危 険 物 保 安 監 督 者	材質：その他	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要 :		オンラインファイル無	
21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	15 発 生 時	23 事 故 の 概 要 :		移動タンク貯蔵所から一般住宅のホームタンクに注油を行った後、当該移動タンク貯蔵所の運転手が注油ノズルをホームタンクの注油口に残留したまま移送を開始したことから、ホームタンクを転倒させ一般住宅の敷地内に推定380L灯油が流出した。タンクの転倒に気づいた、住宅の居住者が運転手の所属法人に連絡し、当該法人から運転手に連絡が入り、運転手が現場に戻った後、消防機関への通報を行った。なお、法人からの連絡を受けるまでの間、当該運転手は注入ホースと先端ノズルを引きずり公道を走行したものである (流出その他の被害なし。)	
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要 :	運転状況：移送中 番号 (18)	24 緊 急 処 置 の 状 況		[有] 番号 (10) 無	
23 事 故 の 概 要 :	作業状況：運転操作中 番号 (1)	25 緊 急 処 置 の 状 況		[有] 番号 (10) 無	
24 緊 急 処 置 の 状 況	その他	26 緊 急 処 置 の 状 況		[有] 番号 (10) 無	

25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()							
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所から一般住宅のホームタンクに注油を行った後、当該移動タンク貯蔵所の運転手が注油ノズルをホームタンクの注油口に残置したまま移送を開始したことから、ホームタンクを転倒させ一般住宅の敷地内に推定380L灯油が流出したもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層							
	人	本人の意識	思慮	不注意							
	人	本人の意識	違反（故意）	怠慢							
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般住宅の敷地内に380Lの灯油が流出。河川流出なし。				
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 一般住宅に設置されていたホームタンク及び附属設備の損傷				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性) 380L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <input type="text" value="1万円以上"/> (102 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
32 行 政 措 置	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検			年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等			年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査			年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			<input type="checkbox"/> 有・無 内容： 法第10条第3項 取扱い基準違反 法第16条の2第2項 移送基準違反			
35 今 後 の 対 策	移送開始前の点検の徹底										
36 所 見	危険物の取扱いについて法令を遵守し、安全を確保する社会的責務がある危険物取扱者が、このような違反行為に起因する流出事故を発生させたことは、危険物を取り扱う業務に対する安全性の認識が不足しているとともに、消防法令遵守の認識が欠如しているといえる。 また、注入ホースと先端ノズルを引きずり公道を走行したことは、注入ホース等の脱落により公道上に危険物を流出させるおそれが高く、公共の安全の維持及び災害の発生の防止の観点から強く非難されるといえる。										

1 事故名	移動タンクから屋外タンクへ荷卸し中注入ホース緊結金具の破断による重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 22日 10時 35分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 22日 10時 35分	
5 覚 知	7月 22日 11時 35分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 22日 11時 55分	
7 鎮火・処理完了	7月 22日 13時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東南東 風速：1.7m/s 気温：19℃ 湿度：96%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一般 番 号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業 (特別積合せ貨物運送業を除く)				11 発 生 場 所
					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：
12 施 設 装 置	名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力： 被けん引式移動タンク容量 18KL				16 発生施設規制区分等
					施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 18,000L 90倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 18,000L 18倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 18,000L 18倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 18,000L 9倍
13 機 器 等	温 度 圧 力：				倍数の合計： 90倍
	名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 移動タンク貯蔵所 給油ホース径65mm、長さ15m				
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908) 材 質： アルミニウム				設置の完成： 昭和 62年 12月 1日 直近の完成： 平成 24年 9月 27日
15 発 生 時	運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13) 作 業 状 況： 番 号 ()				17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： A重油 (130L)
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所から屋外タンク貯蔵所へA重油を荷卸し開始。低速で開始し、漏れ等が無いことを確認した後エンジンの出力を上げたところ、荷卸しホースの吐出口側の緊結金具が破断しA重油約130Lが流出。 直ちに吐出口の弁を閉め、エンジンを停止。道路上の雨水枡への流入を防止する措置を取る。 消防機関の覚知は屋外タンク貯蔵所の保安監督者より通報される。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 破損		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所の荷卸しホース（使用年数不明）の吐出口側の緊結金具が劣化、事故発生当日にエンジンの出力を上げた際に圧力に耐え切れなくなり金具が破断し、A重油が流出した。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）						
	破損		定常運転時		その他						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所の助手席側吐出口を中心に半径6.5mの範囲にA重油が流出したほか、一部雨水枡に流れ込んだが、中和剤により処理。河川、海への流出は無し。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所の荷卸しホース1本を破損（緊結金具の破断）。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻		0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）A重油130L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻		0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	6 台	0 隻	0 機	25 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (44 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 危険物流出等及び移動タンク貯蔵所の破損状況の調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 5 月 28 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	平成 29 年 11 月 6 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策	日常点検の徹底はもとより、設備に異常が認められる場合は、使用しない。										
36 所 見	始業時、終業後だけでなく、作業前、作業終了後の点検を実施することが必要である。										

1 事故名	危険物移送中の移動タンク貯蔵所が横転し、重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 17日 8時 20分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	9月 17日 8時 20分	
5 覚 知	9月 17日 8時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 17日 8時 47分	
7 鎮火・処理完了	9月 17日 13時 43分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南東 風速：5.8m/s 気温：21℃ 湿度：97%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 業 態：	1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)		区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他)		
	運輸業 道路貨物運送業 一般 番号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業 (特別積合せ貨物運送業を除く)		特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等		
12 施 設 装 置	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 20,000L 10倍				
名 称：移動貯蔵タンク	番 号 (1303)		設置の完成：平成元年 4月 17日 直近の完成：平成22年 9月 8日		
能 力：・貯蔵タンク 20,000L 7室	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(41L)				
名 称：貯槽(タンク)	番 号 (107)		18 取扱者の概要		
規 模：長さ 8,260mm幅 2,410mm高さ 1,400mm容量 20,000L	温度圧力：		経験年数30年		
14 発 生 箇 所	19 危険物保安統括管理者				
名 称：マンホール	番 号 (305)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
材 質：アルミニウム	20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い		
15 発 生 時	2. 選任無		①. 有 2. 無		
運 転 状 況：移送中	番 号 (18)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
作 業 状 況：	番 号 ()		23 事故の概要： 危険物の移送中、太陽光の眩しさを感じ、車内にある別の眼鏡にかけ替えようと視線を車内に移した結果、路肩にハンドルをとられ操作不能になり横転させた。乗務員は負傷しており救急搬送されている。警察への通報は通りかかった人により行われた。横転した移動タンク貯蔵所の防護枠内の第5、6、7室のマンホール及び底弁ハンドルからは重油が滴り落ちている状態であった。漏えいした油はポリ容器に回収されその量は3Lであった。その他、回収容器設置までの間に周囲の地盤に飛散した詳細量は不明であるが、現場の状況から約10Lと推定した。横転した移動タンク貯蔵所の残油については、別の移動タンク貯蔵所へ後部吐出口をホースで連結し、移送先車両のポンプにて全量を吸引回収した。当該貯蔵所は、進行方向左側の地盤面に接していたタンク部に数か所の凹みと、足場等の附属品の損傷を確認した。		
24 緊急処置の状況	有 番号 ()		<u>無</u>		

25	主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 操作未実施										
	発生原因の状況： 車両が走行車線を逸脱し横転した主な原因は、乗務員の脇見運転によることが大きいと思われる。漏えいに至った原因は、直近の定期点検で異常が発見されていないことから、通常は密閉状態を維持出来ているシール部分が、事故による衝撃で僅かな隙間が生じたことによると考えられる。										
	主原因の詳細										
原	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層						
因	関連原因の詳細										
	人	本人の意識		違反（故意）		問題意識の不足					
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 横転した移動タンク貯蔵所から重油が幅1m、長さ2mにわたり漏えいした。			
区分											
当 事 者		0	0	0	1	転倒等					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所及びトラクター破損			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	24 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量： 2,000 第3石油類 重油 41L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
漏えい油を容器にて回収。											
31 防災活動上の問題点											
32	施 設 名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		令和 2 年 5 月 7 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		令和 元 年 5 月 23 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保 安 検 査		年 月 日	年 月 日			
措 置	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無			
	その他	年 月 日	年 月 日		1. 文書 2. 口頭		内容：				
35 今後の対策											
・道路交通法の遵守 ・移送の基準の徹底											
36 所 見											
本事案は問題意識の不足による人的要因による事故である。危険物の貯蔵、取扱い基準の遵守はもちろんのことであるが、危険物の移送中であることを強く自覚し、その他の法令を意識することも必要不可欠である。また、事故が発生したときは、被害の拡大防止を図るため応急措置を行うとともに、速やかに消防をはじめ関係機関へ通報する義務がある。事業者に対し、他法規を含めた安全教育と移送の基準遵守の徹底を指導した。											

1 事故名	給油取扱所の専用タンクに給油中の移動タンク貯蔵所において、ホース結合確認不足により軽油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 30日 9時 16分	推定・ 確定	4 発 見	9月 30日 9時 16分	
5 覚 知	9月 30日 9時 54分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 30日 10時 10分	
7 鎮火・処理完了	9月 30日 10時 10分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：1.9m/s 気温：19℃ 湿度：69%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称： 移動貯蔵タンク 番号 (1303)	能 力： 容量20,000L		施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 20,000L 100倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 100倍		
名 称： その他の移送機器 番号 (699)	規 模： 口径3B、長さ3m、材質ポリプロピレン		設置の完成： 平成 7年 8月 16日 直近の完成： 年 月 日		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ホース 番号 (908)		17 物 質 の 区 分		
材 質： 鋼鉄			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (10L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1)		18 取扱者の概要		
作 業 状 況： 運転操作中 番号 (1)			経験年数0年		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から給油取扱所 (鉄道又は軌道) の専用タンク (地下貯蔵タンク) に注油中に、移動タンク貯蔵所の吐出口と注入ホースの結合不良により、当該結合部から軽油約10Lが流出したものの					
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25		主 原 因 操作確認不十分				着火原因				番号 ()		
原 因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所の運転手の確認不足											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	人			本人の意識			思慮			思い込み		
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害							28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 軽油が敷地内に流出した。河川等の敷地外への流出なし。				
区分												
当 事 者		0	0	0	0							
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし				
第 三 者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油約10L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
調査活動												
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報の遅れ。												
32 行 政 措 置	施設名					33 定期点検等				消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日			定期・自主点検				年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日			気密試験等				年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日			保 安 検 査				年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				<input type="checkbox"/> 有・無 内容： 法第10条第3項（政令第24条第8号） 危険物の貯蔵・取扱いの基準違反		
35 今 後 の 対 策	作業工程を確実に実施する等保安教育の徹底											
36 所 見	本件事故は、移動タンク貯蔵所の運転手の確認不足により発生したものであり、作業工程ごとに確認しながら確実に実施することで防ぐことができるものである。査察時等の機会に、事故事例等を用いて注意喚起を行い事故防止に努めた。											

1 事故名	移動タンク貯蔵所から灯油ホームタンクに給油中、監視不十分により灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 17日 10時 15分	推定・確定	4 発 見	12月 17日 10時 20分	
5 覚 知	12月 17日 10時 25分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 17日 11時 46分	
7 鎮火・処理完了	1月 12日 12時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雪 風向：西 風速：3.8m/s 気温：-6℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)				11 発 生 場 所
					区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：
		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,750L 3.75倍		
12 施 設 装 置	名 称： その他のタンク 番 号 (1299) 能 力： 容量 490Lホームタンク				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 横幅1,260mm、奥行476mm、高さ830mm、容量490L				
14 発 生 箇 所	名 称： タンクの注入口 番 号 (905) 材 質： 鋼鉄				
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)				
	設置の完成： 平成 25年 9月 24日 直近の完成： 年 月 日				倍数の合計： 3.75倍
	17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 灯油 (800L)				
	18 取扱者の概要		経験年数23年		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 12月17日 10時15分頃、移動タンク貯蔵所からは死角になる依頼先の灯油ホームタンクに残量2分の1を目視したうえで給油を開始。 雪が多く降っていたため、給油ノズルを開放状態で固定し、移動タンク貯蔵所の雪を払っていた。 作業を終え、移動タンク貯蔵所のメーターを見た所、安全装置で止まっているはずの給油が止まっておらず、慌ててホームタンクの 注入口まで走り、給油ノズルの固定を解除し停止させた。 メーターを確認すると、250Lほど給油する予定であった数量が1,044.7Lとなっていた。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25		主 原 因 監視不十分				着火原因				番号 ()		
		関 連 原 因 故障										
原	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所の給油ノズルを開放状態で固定するようにドライバーを差し込み、その場を離れた。 これまでも、給油場所を離れる際に同じ手法を取ったことがあるが、給油タンクが満量になったとき、安全装置が働き給油が停止していたので、当日も大丈夫だろうと過信し、同じ手法で給油場所を離れ、別の作業を行った。 結果、安全装置は何らかの原因で機能せず、灯油を溢れさせる原因となってしまった。											
	主原因の詳細											
		第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
		人		本人の意識		思慮		過信				
		人		本人の意識		思慮		不注意				
		人		本人の意識		思慮		思い込み				
因	関連原因の詳細											
	故障		機能		機器の異常動作							
	故障		機能		周囲からの異物の作用による機器の動作不良							
	故障		機能		機器の機能の停止							
26		被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害							28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油がホームタンク下部の土壌に全て浸み込んだ。				
区分												
当 事 者		0	0	0	0							
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 灯油ホームタンク下部の土壌汚染				
第 三 者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:1,000 第2石油類 灯油 800L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (6 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 汚染した土壌を全て回収した。						
31 防災活動上の問題点 消防機関へ通報する前に、会社に連絡をしたことにより、消防の覚知が遅れてしまった。												
32	施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和 2 年 10 月 1 日	年 月 日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	平成 30 年 9 月 11 日	年 月 日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：				
措 置	その他	年	月	日	年	月	日					
		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭										
35		今後の対策 給油中はいかなる場合も給油ノズルを開放状態で固定し、その場を離れるようなことをしない。										
36		所 見 毎年、管轄内事業所の移動タンク貯蔵所は全て立入検査を実施しており、その際、給油ノズルに固定できるラッチ等が取り付けられていないかを確認しているが、本件事故にて外部から給油ノズルを固定できることが判明したので、そういった行為をすることの無いよう、改めて指導及び注意喚起を実施していく。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所横転事故による灯油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発生	12月 24日 6時 50分	推定・ <u>確定</u>	4 発生見	12月 24日 6時 51分	
5 覚知	12月 24日 6時 55分		6 鎮圧 応急処置完了	12月 24日 7時 43分	
7 鎮火・処理完了	12月 24日 12時 16分				
8 覚知別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気象状況	天気：曇 風向：南 風速：1m/s 気温：2℃ 湿度：98%				
10 発生事業所	種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業		11 発生場所	区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施設装置	名称：その他のタンク 番号 (1299) 能力：24KL		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 24,000L 24倍	
13 機器等	温度圧力： 名称：貯槽 (タンク) 番号 (107) 規模：24KL		設置の完成：平成 25年 7月 9日 直近の完成：平成 25年 7月 9日 倍数の合計：24倍		
14 発生箇所	名称：その他 番号 (999) 材質：鋼鉄		17 物質の区分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：灯油 (300L)	
15 発生時	運転状況：移送中 番号 (18) 作業状況： 番号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 移送中、凍結路面でスリップし、路外に逸脱後横転、タンク上部より灯油300L流出。粘土で流出箇所を塞ぎ応急処置を実施。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>					

原 因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 移送中、凍結路面でスリップし、路外に逸脱後横転。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	交通事故		路上環境		凍結、水たまり等で路上が滑りやすい						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 横転した移動タンク貯蔵所から灯油が幅4m、長さ5mにわたり漏えいした。			
区分											
当 事 者	0	1	0	0	交通事故						
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： タンク上部の蓋を破損。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	21 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油300L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (70 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4) 漏えい箇所を粘土で塞ぎ流出防止措置を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	移動タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和 2 年 12 月 24 日				年 月 日		年 月 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日		年 月 日		年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
そ の 他	年 月 日				年 月 日						
35 今後の対策 従業員に冬道走行の安全教育を実施。											
36 所 見 従業員に冬道走行の安全教育を実施するように指導。今後、管内の事業者に対しても注意喚起が必要である。											

1 事故名	移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所への荷卸し時におけるホース脱落による重油の流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 21日 9時 00分	推定・確定	4 発 見	12月 21日 9時 00分	
5 覚 知	12月 24日 14時 05分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 21日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了	12月 21日 11時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：1m/s 気温：-11℃ 湿度：68%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一般 番号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業 (特別積合せ貨物運送業を除く)		11 発 生 場 所		
			区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
			16 発生施設規制区分等		
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,000L 2.5倍		
12 施 設 装 置	名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力： 容量5,000L		17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 容量5,000L				
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ノズル 番 号 (909) 材 質： ステンレス		設置の完成： 平成 6年 3月 22日 直近の完成： 年 月 日		
15 発 生 時	運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (10L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 地下タンク貯蔵所に荷卸しする際、ノズルレバーを開放状態に固定した状態で、注油口にノズルを差し込み、吐出バルブを開放したところ、ノズルが重油の吐出の反動で注油口から外れた。 取扱者は、ノズルが注油口から外れたことに気付き、吐出レバーを閉鎖したが、周囲に重油が約10L流出した。 取扱者は、会社に状況を報告し、流出した重油の回収を行う。 事故発生時点で消防への通報はなく、4日後、販売店 (受注元) から消防に連絡した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作未実施									
	発生原因の状況： 地下タンク貯蔵所に荷卸しする際、取扱者は注入ホースを緊結せず、開放状態で固定できるように細工をしたノズルを注油口に差し込んだ状態で車両の吐出バルブを開放したところ、重油の吐出の反動でノズルが注油口から外れ周囲に放出する。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		違反（故意）		怠慢			
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		違反（故意）		問題意識の不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 注油口の周辺の地面及び建物壁体に直径約3mの範囲で流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 重油約10L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 危険物流出状況の調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 関係者は、流出量が少なく、事故の認識が低かったため、すぐに消防への通報をしなかった。										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input type="checkbox"/> 有・無 内容： 危険物を貯蔵するタンクに、単独で荷卸し作業をする。 (法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反)		
35 今後の対策	従業員への法令等に基づく荷卸し時の安全教育の実施及び再発防止策の提出を指示する。									
36 所 見	従業員への教育の徹底を指導するとともに、管内の事業所に対し事故事例を周知し、同様の事故を防止するように指導する必要がある。									

1 事故名	移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所へ荷卸し中に監視業務を怠ったことによる重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 29日 10時 50分	推定・確定	4 発 見	1月 29日 10時 51分	
5 覚 知	1月 29日 16時 10分	6 鎮 圧 応急処置完了	1月 29日 18時 34分		
7 鎮火・処理完了	1月 29日 18時 34分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：西南西 風速：4.3m/s 気温：3.7℃ 湿度：96.3%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 3,000L 1.5倍 倍数の合計： 1.5倍 設置の完成：平成 6年 10月 26日 直近の完成：平成 16年 10月 14日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)	能 力：移動貯蔵タンク 3,000L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(80L)		
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
名 称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)	規 模：口径 1インチ		18 取扱者の概要 経験年数0年		
14 発 生 箇 所	名 称：給油(注油)ノズル 番号 (909)				
材 質：鋼鉄	15 発 生 時		21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 ②. 無		
運 転 状 況：荷卸中 番号 (13)	作 業 状 況：監視中 番号 (10)				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 令和2年1月29日10時50分頃、地下タンク貯蔵所に、移動タンク貯蔵所積載のA重油を緊結せずにノズルを用いて注入し、監視業務を怠りその場を離れたため、ノズルが離脱し敷地内に最大80LのA重油を流出させたもの。なお、吸着マット及び中和剤を用いて応急処置を実施した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 緊結して注入しなければいけないにもかかわらずノズルを使用し注入を行っていたもの。また、ノズルから手を離しても注入された状態を保てる措置を講じてその場を離れていることから、本人の問題意識の不足が明らかである。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		違反（故意）		問題意識の不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から重油約80Lが漏えいし、敷地内の側溝に流れ河川へ流出。流出範囲は敷地境界線より100m程度に収まっていると推測される。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）A重油最大80L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (6, 4) 緊急措置(オイルフェンスの展張及び吸着マットの設置)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 発生：10時50分頃、消防機関への連絡：16時10分 約5時間もの間通報されなかったもの											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和元年8月8日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	平成29年9月14日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	年	月	日	年	月		日	内容：			
35 今後の対策	今回の事故は人為的なミスによる違法行為であることから、危険物取扱業務に従事する職員に対して注意喚起や教育の徹底を指導。										
36 所 見	従業員に対して教育の機会を増やし、法令関係の理解と保安意識の高揚を目的とした教育を実施するよう指導。										

1 事故名	移送中の移動タンク貯蔵所において、マンホールの閉鎖確認不十分により灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 7日 16時 10分	推定・確定	4 発 見	5月 7日 16時 20分	
5 覚 知	5月 7日 16時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 7日 16時 40分	
7 鎮火・処理完了	5月 7日 16時 50分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：1m/s 気温：13℃ 湿度：56%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 3,750L 3.75倍 倍数の合計： 3.75倍 設置の完成：平成29年 6月 19日 直近の完成：平成29年 6月 19日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番号 (1303)	能 力： 3,750L積載 第1室2,000L、第2室1,750L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 灯油 (50L)		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		18 取扱者の概要 経験年数30年		
名 称： 貯槽 (タンク) 番号 (107)	規 模： 3.75KL		1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要		
14 発 生 箇 所	名 称： マンホール 番号 (305)		20 危険物保安監督者		
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
運 転 状 況： 移送中 番号 (18)	作 業 状 況： 運転操作中 番号 (1)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
23 事故の概要： 充填所にて灯油を積載したがマンホールのふたの開閉状況の確認を怠ったため、移送中、車 (タンクローリー) で思いがけず急ブレーキを踏んだ際に積載の灯油を揺らしてしまい、閉鎖が不十分であったマンホールが揺れた灯油にて押し上げられてしまったため防護枠に付随する水抜き管を通じて道路上に灯油が漏えいした。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 時間に追われてしまったの確認不十分と慣れ						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	人	本人の意識	思慮	不注意			
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害				28 物的被害			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 路上に灯油が約50L漏えいした。漏えいした範囲は長さ約50m、幅約50cm。 施設等の被害状況： 施設（タンク）の破損等は無し。
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 長さ約50m、幅約50cmの範囲で危険物（灯油）が約50L漏えい。 損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (3 万円)	
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他		0 台 0 隻 0 機 0 人
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 ()			自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)				
31 防災活動上の問題点							
32 行政措置	施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年8月27日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日				
35 今後の対策	危険物を積載し、移送を開始する前には関係機器（マンホール、底弁等）の状況を確認することである。						
36 所 見	今回の事故は移送開始前の点検等を怠ったために発生してしまったものである。同様の事故や災害を防止するために同業事業者への指導を徹底していく。						

1 事故名	移動タンク貯蔵所からホームタンクへ注油する際、注油レバーの確認不十分により灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 6日 11時 15分	推定・確定	4 発 見	3月 6日 11時 15分	
5 覚 知	3月 6日 13時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 6日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了	3月 6日 15時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西 風速：5.5m/s 気温：6.1℃ 湿度：56%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍
12 施 設 装 置	名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		設置の完成： 令和 元年 9月 4日 直近の完成： 令和 元年 9月 4日		
	能 力： 容量1,900L				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 1.9倍		
	名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)				
	規 模： 全長2,094mm、直径1,500mm、高さ880mm				
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ノズル 番 号 (909)		17 物 質 の 区 分		
	材 質： アルミニウム		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
15 発 生 時	運 転 状 況： スタートアップ中 番 号 (2)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
	作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 灯油 (15L)		
			18 取扱者の概要 経験年数24年		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所で一般住宅の屋外ホームタンクに灯油を注油しようとした際、ノズル掛けに収納していた注油ノズルの注油レバーが止め金具に引っ掛かり、開放状態で収納されているのに気づかず、注油スイッチを押したため、注油ノズルの先端から道路、L型側溝及び雨水ますに灯油約15Lが流出したものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所で一般住宅の屋外ホームタンクに灯油を注油しようとした際、ノズル掛けに収納していた注油ノズルの注油レバーが止め金具に引っ掛かり、開放状態で収納されているのに気付かず、注油スイッチを押したこと。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	人	本人の意識	思慮	不注意			
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	28 物的被害
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から灯油約15Lが道路、L型側溝及び雨水ますに長さ約19mにわたり流出した。
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類灯油約15L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満 、1万円以上 (万円)
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (99) 情報収集				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 市町村担当課が油吸着マットにより、道路上の灯油処理			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名	移動タンク貯蔵所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年10月26日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無	
その他	指導 令和2年3月6日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭			内容：			
35 今後の対策	・計量機の操作手順再確認及び作業時の指差呼称の徹底による再発防止 ・危険物流出事故発生時の対応について社内教育を定期的実施予定						
36 所 見							

1 事故名	移動タンク貯蔵所からホームタンクへ注油中、ホース内圧が高まりホースの亀裂部分から灯油が漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 24日 7時 43分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 24日 7時 43分	
5 覚 知	4月 24日 8時 27分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 24日 8時 35分	
7 鎮火・処理完了	4月 28日 16時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：4.1m/s 気温：6℃ 湿度：66%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍 倍数の合計： 1.9倍 設置の完成：平成 24年 6月 26日 直近の完成：令和 元年 6月 19日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：移動貯蔵タンク 番号 (1303) 能 力：容量1,900L			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(3L)		
13 機 器 等 温度圧力：			18 取扱者の概要 経験年数0年		
名 称：貯槽 (タンク) 番号 (107) 規 模：内径1,500mm 全長2,094mm 高さ880mm	19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
14 発 生 箇 所	名 称：給油 (注油) ホース 番号 (908) 材 質：ゴム				
15 発 生 時	運 転 状 況：給油中 番号 (8) 作 業 状 況：小分け・詰替中 番号 (13)				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所から一般住宅の198Lホームタンクへ注油した際、満量自動停止装置が作動したことによりホースの内圧が高まったため、ホースに亀裂が生じて亀裂部分から灯油が敷地内外へ3L噴出したもので、側溝等への流出はなかったものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 注入ホースの経年劣化を認識していたにも関わらず継続使用し、注油したところ、満量停止制御装置が作動したことによりホース内圧が高まり、注入ホースに亀裂が生じて亀裂部分から灯油が噴出。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	設備		監視・保守		点検・整備		整備していない				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 噴出した灯油が一般住宅の敷地内（空地）及び市道（1m未満）に流出。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所の注油ホースを破損。			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類灯油約3L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	2 台	0 隻	0 機	4 人	損害額 1万円未満、 <input type="text" value="1万円以上"/> (<input type="text" value="2万円"/>)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 流出原因調査の実施						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 市町村担当部局が道路に飛散し中和処理した灯油の拡散防止として油吸着マットを敷設。					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	移動タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検		令和元年7月2日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	指導 令和2年4月28日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭						内容：				
35 今後の対策 ・事故が発生した移動タンク貯蔵所は改修するまで使用停止。 ・事業所内で事故発生を周知して類似事故防止及び関係機関への即時通報を徹底。											
36 所 見											

1 事故名	移動タンク貯蔵所の走行中における注油ホース基部折損による軽油の流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 8日 14時 40分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	12月 8日 14時 41分	
5 覚 知	12月 8日 14時 41分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 8日 17時 50分	
7 鎮火・処理完了	1月 0日 0時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：3.8m/s 気温：4.8℃ 湿度：59.7%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,000L 2倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,000L 1倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)	能 力： 灯油・軽油3,000L		設置の完成： 平成 31年 1月 18日 直近の完成： 平成 31年 1月 18日		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 3倍		
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	規 模： 長さ2,535mm、幅1,800mm、高さ930mm		17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (180L)		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908)		18 取扱者の概要 経験年数16年		
材 質： ゴム	15 発 生 時		1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ③. 不要 2. 無		
運 転 状 況： 移送中 番 号 (18)	作 業 状 況： その他 番 号 (99)		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有		
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所の運転手が、掘削用建設機械 (以下「重機」という。) の給油を依頼されたため現地に向かった。到着後、重機に給油するため、移動タンク貯蔵所のポンプを起動するとともに注油ホースを延長、重機の給油口を開放しようとしたが施錠されていたため、関係者へ電話連絡したところ、依頼場所に誤りがあることが判明した。正式な依頼場所に向かうため車両を発進させたが、注油ホースの収納を忘れポンプを起動したまま走行を継続したため、負荷がかかりホースの基部が折損し軽油を市道及び河川に約180L漏えいさせたものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 危険物取扱者が車両を発進させる際、移動タンク貯蔵所の注油ホースの折損による漏れが起こらないための措置を怠ったものであり、危険物の保安の確保について細心の注意を払わなかったことによるものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から市道上約330mの範囲にわたり軽油約180Lが漏えいし、漏れた軽油の一部は付近の側溝を伝わり河川にまで流出したものの		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所の注油ホースの基部が折損。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油約180Lが流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	10 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (24 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (3、5、6)				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
1 土嚢3袋使用しての拡散防止措置の実施 2 油吸着マット等を使用しての油回収作業 3 河川へオイルフェンスの設置 (4か所)										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 4 月 29 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	平成 30 年 12 月 19 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策		従業員の安全教育指導								
36 所 見		危険物取扱者に指導するとともに、当該事業所に対し、従業員の安全教育について指導したところであるが、今後、地区の危険物安全協会の研修会などの機会を捉えて、管内の他事業者に対し情報提供を行い、従業員への保安教育の徹底を図る必要がある。								

1 事故名	移動タンク貯蔵所の注油ホースに亀裂がありタンク内の灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	5月 11日 13時 30分		
5 覚 知	5月 11日 14時 24分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 11日 15時 40分		
7 鎮火・処理完了	4月 20日 11時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南西 風速：6.9m/s 気温：17.1℃ 湿度：97.4%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力： 1,940L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,940L 1.94倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： その他 番 号 (999) 規 模： 第4類第2石油類、灯油、容量1,940L、タンク形状 だ円形、 内側寸法 長さ2,130mm 幅1,500mm 高さ880mm		倍数の合計： 1.94倍 設置の完成： 平成 26年 6月 27日 直近の完成： 年 月 日		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908) 材 質： ゴム		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 灯油 (1,500L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 移送中 番 号 (18) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 灯油の配達に向かおうとしたところ、常置場所以外に駐車していた移動タンク貯蔵所の周囲に灯油が流出していたもの。原因として、注油ホースの亀裂によるものと考えられる。前日に、タンクを満タンにしている、目盛から推察すると残量は約400Lのため、約1,500Lが流出したものと考えられる。なお、中和剤、吸着マットを使用し、応急措置を実施した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()																		
	関 連 原 因 維持管理不十分																						
	発生原因の状況： 定期・自主点検における確認不足が注油ホースの亀裂に気付かなかったと思われる。さらに危険に対する認識が不足している事として、底弁の使用時以外の開放と危険物を貯蔵した状態での危険物取扱者の未常駐が常態化していたことが流出につながったと思われる。																						
	主原因の詳細																						
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層																
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）																			
関連原因の詳細																							
因	人		本人の意識		思慮		不注意																
	管理		リスクアセスメント		危険意識		危険に対する認識がない/不足																
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																							
27 人的被害						28 物的被害																	
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油が土壌や農業用水路に流れ込み、事業所の敷地境界線から直線距離約450mにわたり拡散し、稲作の生育に影響を及ぼす可能性有り。									
区分														施設等の被害状況： なし									
当 事 者		0		0		0		0															
防災活動従事者		0		0		0		0															
第 三 者		0		0		0		0															
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																							
消 防 機 関		1 台 0 隻 0 機 4 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油 1,500 L流出									
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人											
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人											
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		そ の 他		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円									
30 実施した防災活動の状況																							
公設消防機関：番号 (5) 中和剤、吸着マットを使用し、応急措置を実施。								自衛防災・消防組織等 番号 ()															
31 防災活動上の問題点																							
32	施 設 名		移動タンク貯蔵所				33 定期点検等				消 防 法				そ の 他								
	行 政 措 置	使用停止		令和 2 年 5 月 11 日				年 月 日				定期・自主点検				令和 元 年 11 月 20 日				年 月 日			
		改善命令等		令和 2 年 5 月 14 日				年 月 日				気密試験等				令和 元 年 11 月 27 日				年 月 日			
		停止解除		令和 2 年 5 月 18 日				年 月 日				保 安 検 査				年 月 日				年 月 日			
	関係条項		法第12条の3第1項、法第16条の3第4項				34 当該施設に係る 法令違反の有無				<input checked="" type="checkbox"/> ・無				内容： 法第10条第1項違反、法第10条第3項違反、法第16条の2第1項違反、法第16条の3第1項違反								
そ の 他		年 月 日				年 月 日																	
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭																					
35 今後の対策 定期・自主点検の徹底、法令の遵守、保安教育の見直し																							
36 所 見 使用停止命令、措置命令を迅速、適切に発出できる業務の流れを経験できた。今後は、質問調書、必要に応じて実況見分などを作成するに際しては、現場活動以外の人員の増強も必要であり、署員の連絡・連携体制を確立させる。																							

1 事故名	移動タンク貯蔵所の注入ホースの損傷による灯油の漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 15日 8時 50分	推定・確定	4 発 見	4月 15日 8時 50分	
5 覚 知	4月 15日 10時 45分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 15日 10時 45分	
7 鎮火・処理完了	4月 15日 16時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西北西 風速：4.7m/s 気温：18.8℃ 湿度：22.2%				
10 発 生 事 業 所	種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 ガ 番 号 (3413) ス業 ガス業 ガス事業所 (本 社、営業所等)		11 発 生 場 所	区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍 倍数の合計： 1.9倍 設置の完成：平成18年 11月 15日 直近の完成：平成25年 9月 6日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力：1,900L			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(26L)		
13 機 器 等 温度圧力：0.55MPa 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：30m、外径40mm、内径29mm			18 取扱者の概要		
14 発 生 箇 所	名 称：給油(注油)ホース 番 号 (908) 材 質：ゴム	20 危 険 物 保 安 監 督 者	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無	
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所からポリ容器に灯油を小分け中、注油ホースが損傷し、敷地及び側溝に約26Lが流出した。吸着マットを使用し応急措置を実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 耐油ゴム製ホースに発生した約1.5cmの亀裂から灯油が流出したもの。ホース自体に劣化は見受けられず、過度な力が加わった形跡もない。亀裂周辺に鋭利な突起等は確認されない。流出前の配送先と経路上への流出はない。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		その他					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 専用住宅の敷地内約35㎡の範囲に灯油26Lが漏えいしその一部が融雪溝へ流れたがオイルフェンスの設置により敷地外へは15m範囲で収まる。中和剤により処理を行い関係者以外への被害なし。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 注油ホース破損			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油26L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (42 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
吸着マット使用										
31 防災活動上の問題点 事故発生からの消防機関への通報が遅い。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和元年8月1日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	平成28年11月25日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無				
その他	年 月 日	年 月 日		内容： 消防法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 ラッチ付きノズルを使用し容器への小分けを行った。消防法第11条第1項 製造所等の位置・構造及び設備の無許可変更 注油ノズルをラッチ付きノズルへ無許可で変更を行った。						
35 今後の対策	注油ノズルをラッチの無い許可されたものに取替え、流出事故防止も含めた内容で再発防止対策書の提出を求めた。									
36 所 見	法令違反の内容は流出事故と直接関係のあるものではないが、設置者への警告書交付と危険物取扱者の消防法第13条の2第5項に基づく通告措置を実施している。									

1 事故名	移動タンク貯蔵所の横転による軽油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 27日 10時 50分	推定・確定	4 発 見	8月 27日 10時 50分	
5 覚 知	8月 27日 10時 55分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 27日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了	8月 28日 11時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：3.8m/s 気温：25.4℃ 湿度：50%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油・灯油 3,000L 3倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)	13 機 器 等 温 度 圧 力：		設置の完成：平成22年 1月 27日 直近の完成：平成28年 7月 13日		
能 力： 容量3,000L	名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)		18 取扱者の概要		
規 模： 胴長2,650mm、長径1,700mm、短径880mm、鏡出90mm、容量3,000L	14 発 生 箇 所		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (1,200L)		
13 機 器 等 温 度 圧 力：	名 称： マンホール 番 号 (305)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
14 発 生 箇 所	材 質： 鋼鉄		20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
15 発 生 時	運 転 状 況： 移送中 番 号 (18)		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
	作 業 状 況： 番 号 ()				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 配送の途中、誤った道路を走行していたため後退していた時、砂利敷きの農道で路肩の法面にタイヤを脱輪して横転、そのはずみで上部マンホールが水田の畔に当たって開放し、水田約1.5ヘクタール及び水路、河川へ軽油約1,200L流出したものである。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 後退させていた時、運転席側のサイドミラーしか確認していなかったため。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	交通事故		運転操作		前方（後方）不注意						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 横転した移動タンク貯蔵所から水田約1.5ha及び水路、河川へ流出。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所1台全損			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油約1,200L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	13 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (500 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	移動タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	定期・自主点検	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日	気密試験等	年 月 日			
	関係条項					年 月 日	保安検査	年 月 日			
その他	警告書 令和2年10月8日				年 月 日	34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
35 今後の対策		事故事例を含めた社内教育の実施									
36 所 見		以前も同車両で別の危険物取扱者が同様の事故を起こしているため、再発防止と事故事例を含めた社内教育の徹底を指導した。									

1 事故名	交通事故による移動タンク貯蔵所からの流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 7日 16時 13分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	2月 7日 16時 14分	
5 覚 知	2月 7日 16時 26分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 7日 18時 47分	
7 鎮火・処理完了	2月 7日 20時 31分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北西 風速：1.3m/s 気温：2.8℃ 湿度：70.8%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他)	
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 3,000L 3倍
12 施 設 装 置	名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		設置の完成：昭和 63年 1月 13日 直近の完成：平成 25年 6月 18日		
	能 力：容量3,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 3倍		
	名 称：その他 番 号 (999)				
	規 模：直径1,800mm、高さ2,505mm、容量3,000L				
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)		17 物 質 の 区 分		
	材 質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(50L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：その他 番 号 (99)		18 取 扱 者 の 概 要		
	作 業 状 況： 番 号 ()				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 軽油1,000L、灯油80Lを積載した移動タンク貯蔵所が走行中に、後続の普通乗用車に追突され車両後部配管が破損し、灯油約50Lが路上に漏えいしたものの。河川流出はなし。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>					

原 因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()						
	関連原因 破損										
	発生原因の状況： 交通事故により、移動タンク貯蔵所後部配管が破損し、残存していた灯油約50Lが路上に流出。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層						
	交通事故		その他		追突を受ける						
	関連原因の詳細										
	破損		定常運転時		車両等の接触						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 灯油約50Lが路上約80mに渡り流出。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 交通事故により移動タンク貯蔵所後部バンパー、配管系統、標識を破損。			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油約50L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5) 油吸着材にて、拡散防止をはかった後、吸着剤を回収。						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 2 年 5 月 31 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		平成 27 年 5 月 21 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input type="checkbox"/> 有・無 内容： 法第13条の23 危険物保安講習の未受講 法第16条の2第3項 危険物取扱者免状携帯義務違反			
35 今後の対策	従業員の危険物取扱者免状台帳を作成し、営業開始前に危険物取扱者免状の所持を確認する。										
36 所 見	管理台帳の作成及び配送時の免状携帯の徹底について指導。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所から灯油用ポリタンクへ注油作業中、注入ホースの切損による灯油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 28日 16時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	2月 28日 16時 00分	
5 覚 知	3月 4日 15時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 4日 16時 00分	
7 鎮火・処理完了	3月 4日 16時 40分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北北東 風速：3m/s 気温：4.9℃ 湿度：91%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番号 (1303)	能 力： 容量3,000L		設置の完成： 平成 27年 9月 9日 直近の完成： 令和 2年 3月 19日		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		17 物質の区分		
名 称： その他 番号 (999)	規 模： 単一車 容量3,000L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(52L)		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ホース 番号 (908)		18 取扱者の概要		
材 質： ゴム	15 発 生 時		経験年数30年		
運 転 状 況： 払出中 番号 (10)	作 業 状 況： 小分け・詰替中 番号 (13)		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 令和2年2月28日16時頃、宅配先敷地屋外にて灯油用ポリタンクに危険物移動タンク貯蔵所から注油作業中、注入ホースの切損を原因とする危険物流出事故が発生、約52Lの灯油が流出した。事故発生時、従業員にて吸着マット及び中和剤にて処理を実施。消防職員が3月4日に現場確認へ出向するも、敷地内や用水路への残存油はない。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 破損、操作確認不十分									
	発生原因の状況： ポリタンクに注油作業を始め4缶目に注油をしたところ、注入ホースより灯油が吹き出したもの。なお、稼働前の点検確認未実施。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		その他					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
破損		定常運転時		その他						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所の注入ホースの切損により灯油約52Lが流出。 流出範囲は、敷地内法面約10mに飛散した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所の注入ホース切損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油約52L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海 上 保 安 部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
32 行政措置	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和元年6月9日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			有・無		
その他	年	月	日	年	月	日	内容： 消防法第16条の3第2項			
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策										
従業員による日常点検の実施										
36 所 見										
車両運行前に点検を実施するよう指導した。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所の移動中に給油ノズルが落下し、給油ホースが展張、ホースが破断し軽油が漏えいした事故					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	3月 11日 9時 20分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 11日 9時 20分		
5 覚 知	3月 11日 10時 20分			6 鎮 圧 応急処置完了	3月 11日 12時 00分	
7 鎮火・処理完了	3月 11日 15時 00分					
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：南西		風速：5.9m/s 気温：10.7℃ 湿度：62.5%	
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)			11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<input checked="" type="checkbox"/> 陸上、海上、その他)	
				特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	
				貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所		
				類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 2,000L 2倍		
12 施 設 装 置	名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)			設置の完成：平成 2年 4月 23日		
	能 力：最大貯蔵量2,000L			直近の完成：平成 25年 7月 30日		
13 機 器 等	温 度 圧 力：			17 物 質 の 区 分		
	名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
	規 模：給油ホースの長さ18.5m			5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	名 称：給油(注油)ホース 番 号 (908)			(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)		
	材 質：ゴム			(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)		
15 発 生 時	運 転 状 況：移送中 番 号 (18)			分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(150L)		
	作 業 状 況：その他 番 号 (99)			18 取扱者の概要		
				経験年数21年		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無						
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所より荷卸し作業を終了し移動走行中、給油ノズルが給油ノズル掛けから外れ落下し、ホースが展張されたことによりホースが破断し、軽油が約150L路上に流出したもの						
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他						

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所の給油ノズルを、給油ノズル掛けに確実に固定しなかったため、走行中に給油ノズルが落下し、ホースが展張されたことにより外力が加わり、ホースが破断し漏えいしたもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 破断したホースから、軽油約150Lが移動タンク貯蔵所の周辺路上及び側溝内(18m)に流出した。なお、オイルマット、中和剤により約75L回収した。 事故発生場所から100m以内に収まっている。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 市道の路面（アスファルト面）及び側溝に軽油の流出		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性液体）軽油約150L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) オイルマット、中和剤にて回収を実施。					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名	移動タンク貯蔵所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無			
その他	経験歴のある危険物取扱者の同乗による取扱の指導 令和2年 3月16日 年 月 日 1. 文書 ②. 口頭 1. 文書 2. 口頭					内容： 法第14条の3の2 定期点検の未実施（目視）				
35 今後の対策 従業員に、操作時における確実な指差し確認及び今回発生した事故の再確認と再発防止を指導した。										
36 所 見 本事案を踏まえ、同様の事業所に対し、同事案の再発防止についての指導等が必要である。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所の上部注入口の閉鎖確認を怠り、灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 8日 14時 40分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	10月 8日 14時 40分	
5 覚 知	10月 8日 14時 53分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 8日 15時 52分	
7 鎮火・処理完了	10月 8日 16時 24分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北 風速：2m/s 気温：15℃ 湿度：100%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他)	
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,940L 1.94倍
12 施 設 装 置	名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		設置の完成： 平成 14年 11月 29日 直近の完成： 平成 21年 7月 8日		
	能 力： 容量1,940L				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 1.94倍		
	名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)				
	規 模： 直径1,500mm、高さ2,010mm、容量1,940L				
14 発 生 箇 所	名 称： タンクの注入口 番 号 (905)		17 物 質 の 区 分		
	材 質： その他		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 灯油 (5L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 移送中 番 号 (18)		18 取 扱 者 の 概 要		
	作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 一般取扱所で灯油1,000Lを充填した移動タンク貯蔵所が、タンク上部注入口より約5Lを流出させたものである。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： タンク上部注入口の蓋を閉鎖したことを確認せず走行したため。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 路上80mに灯油が流出。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： タンク上部からの漏えい		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油5L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) 油処理剤にて処理。				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35	今後の対策 注入口の閉鎖の確認									
36	所 見 危険物施設に対する社員の教育及び危険物取扱者による貯蔵取扱いの徹底									

1 事故名	移動タンクから屋外タンクに注油中に、注油していない側の未閉鎖の注油口から道路上にA重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 27日 14時 30分	<input checked="" type="checkbox"/> 推定・確定	4 発 見	1月 27日 14時 33分	
5 覚 知	1月 27日 14時 36分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 27日 15時 39分	
7 鎮火・処理完了	1月 27日 16時 27分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南西 風速：0.6m/s 気温：5.6℃ 湿度：48.8%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、 <input checked="" type="checkbox"/> その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 4,000L 2倍 設置の完成： 平成 12年 9月 27日 直近の完成： 年 月 日 倍数の合計： 2倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力： タンク容量4,000L			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： A重油(300L)		
13 機 器 等 温度圧力： 名 称： その他 番 号 (999) 規 模： 呼径40mm			18 取扱者の概要 経験年数6年		
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999)	材 質： その他	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無
15 発 生 時	運 転 状 況： 払出中 番 号 (10)	作 業 状 況： その他 番 号 (99)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所の右側吐出口から注入ホースにより少量危険物の屋外タンクに注油しようとしたところ左側吐出口が開いていたため、道路上へA重油が約200～300L漏えいしたものの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 監視不十分									
	発生原因の状況： 注油していない吐出口が閉まっていると思い込み注油したため漏えいした。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	関連原因の詳細									
	人		本人の知識・能力		知識		忘れる			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 注油していた移動タンク貯蔵所からA重油が幅6m、長さ15mにわたり道路上へ漏えいした。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： A重油約300L流出		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	14 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）A重油約300L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (30 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4) 道路上へA重油が約200～300L漏えいしたため、乾燥砂で処理。						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 9 月 5 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	平成 28 年 8 月 9 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・運行前は移動タンク貯蔵所の点検表に基づいて運行前点検の実施 ・安全教育の実施 									
36 所見	当該事業所に対し、従業員への教育及び移動タンク貯蔵所の維持管理を徹底するよう指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。									

1 事故名	移動タンク貯蔵所の横転事故によるマンホール蓋部分及び安全装置の破損によるガソリン・灯油・軽油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 6日 12時 05分	推定・確定	4 発 見	2月 6日 12時 05分	
5 覚 知	2月 6日 12時 21分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 6日 12時 55分	
7 鎮火・処理完了	2月 6日 16時 47分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (消防)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：5.9m/s 気温：3.1℃ 湿度：30%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 運輸に附帯するサービ 番号 (4899) ス業 その他の運輸に附帯する サービス業 他に分類されない 運輸に附帯するサービス業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 8,000L 40倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000L 4倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 6,000L 6倍 倍数の合計： 50倍 設置の完成： 平成 20年 10月 9日 直近の完成： 平成 23年 9月 12日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)			①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(1,350L) 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 灯油(100L) 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 軽油(300L)		
能 力： 18,000L			18 取扱者の概要		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 0.02MPa				
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	規 模： 容量18,000L (長さ6,005mm・幅2,460mm・高さ1,577mm)				
14 発 生 箇 所	名 称： マンホール 番 号 (305)				
材 質： 鋼鉄					
15 発 生 時	運 転 状 況： 移送中 番 号 (18)				
	作 業 状 況： 番 号 ()				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所が高速道路を利用し、配送先に向かう際、ランプ内にて横転事故を起こした。横転によりマンホール及び安全装置部分から危険物油 (ガソリン約1,350L・灯油100L・軽油約300L) が漏えいしたものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 運転手が落としたものを拾う際によそ見したことで、運転操作を誤りカーブで車両が横転した。横転による衝撃で、マンホール蓋部分及び安全装置部分が損傷し、漏えいした。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	交通事故		運転操作		ハンドル操作ミス						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 横転した移動タンク貯蔵所からガソリン、灯油及び軽油が幅0.3m長さ70m（側溝）流出。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	12 台	0 隻	0 機	38 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン約1,350L・第4類第2石油類（非水溶性）灯油約100L・第4類第2石油類（非水溶性）軽油約300Lが流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4, 3)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
32 施 設 名					33 定期点検等			消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和元年10月4日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	平成28年7月20日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無		
措 置	年 月 日		年 月 日					内容：			
35 今後の対策	従業員に危険物の危険性及び運転について再教育を指導した。										
36 所 見	交通事故によるものであり、運転注意不足が原因であるため、危険物を移送中であることを再認識していただく必要がある。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所において道路上で停車中に後方から追突され重油が流出した事故						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	12月 18日 8時 25分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	12月 18日 8時 27分			
5 覚 知	12月 18日 8時 48分				6 鎮 圧	12月 18日 9時 14分	
7 鎮火・処理完了	12月 18日 9時 14分				6 応急処置完了		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：西		風速：0.8m/s		気温：2.1℃ 湿度：62.7%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)			11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,800L 1.9倍		
12 施 設 装 置				13 機 器 等			
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)	名 称： その他 番 号 (999)	名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908)	運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)	材 質： ゴム	直 近 の 完 成： 平成 21年 4月 8日	設置の完成： 平成 21年 4月 8日	
能 力： 移動貯蔵タンク 3.8KL	規 模： 全長5,850mm、全幅2,200mm、全高2,480mm	材 質： ゴム	作 業 状 況： 番 号 ()		直 近 の 完 成： 年 月 日	倍数の合計： 1.9倍	
						18 取扱者の概要	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者			1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 発生場所において、移動タンク貯蔵所が信号待ちで停車していた際、後方から進行してきた普通乗用車に追突されたもの。移動タンク貯蔵所の後方に積載していた給油ホースが破損し、ホース内に残存していた重油が道路上に約0.5L流出した。なお、車両本体に損傷は無く、タンク内は空の状態だった。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>							

原 因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 後方を進行していた車両の前方不注意										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	交通事故		その他		追突を受ける						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 道路上に重油が2m×1mの範囲で流出。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所の後方に積載していた給油ホースが破損。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油0.5L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (6 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	令和2年12月18日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日										
35 今後の対策 事故発生時の対応についての教育実施											
36 所 見 移動タンク貯蔵所の運転手に、危険物が流出した場合の対応を再確認するよう指導。											

1 事故名	移動タンク貯蔵所の注油ノズルの劣化による重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 3日 13時 00分	推定・確定	4 発 見	1月 3日 15時 25分	
5 覚 知	1月 3日 15時 33分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 3日 17時 08分	
7 鎮火・処理完了	1月 3日 18時 16分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：快晴 風向：西南西 風速：0.9m/s 気温：14℃ 湿度：28%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)	能 力： 移動タンク貯蔵所単一車3,600L		施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 3,600L 1.8倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 1.8倍		
名 称： その他 番 号 (999)	規 模： タンク (1,000×1,850×2,650+75+75)		設置の完成： 平成 11年 8月 5日 直近の完成： 年 月 日		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ノズル 番 号 (909)		17 物 質 の 区 分		
材 質： アルミニウム			①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： A重油 (10L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)		18 取 扱 者 の 概 要		
作 業 状 況：	番 号 ()		経験年数12年		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 令和元年12月30日に移動タンク貯蔵所に、重油3,600Lを貯蔵し、令和2年1月4日から重油を配送するため常置場所以外に駐車していたが、令和2年1月3日の15時25分頃、通行人(詳細不明)により移動タンク貯蔵所から重油が漏えいしていると警察に通報、警察からは消防及び事業所へ通報され覚知した。消防で現地確認すると、移動タンク貯蔵所の車両下部に重油約10Lの漏えいを確認、排水溝及び油水分離槽へは達していない。移動タンク貯蔵所のタンクのバルブは閉鎖を確認するが、注油ノズルからの重油の漏えいを確認する。消防と事業所にて、吸着マットとパーライトで拡散防止を実施した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 発生原因は、移動タンク貯蔵所の注油ホース先端の手动ノズルが経年劣化し、ダイヤフラムの不具合が生じたことにより、注油ホース内に残存する重油が事故当日の外気温が高いために温められ、ノズルの先端から徐々に重油が漏れたものである。									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層					
関連原因の詳細										
人		本人の意識		違反（故意）		問題意識の不足				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所の車両下のコンクリートに10Lの重油が流出、油水分離槽への流出なし			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 注油ホース先端手动ノズルの握手の不具合			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	6 台	0 隻	0 機	20 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 第3石油類（非水溶性液体） A重油10L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5)				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
吸着マットとパーライトにて重油10Lの回収、移動タンク貯蔵所のタンク内積載油の抜油指示し、2次災害防止。										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 2 年 1 月 3 日	年	月	日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	令和 2 年 1 月 10 日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：					
その他	年 月 日	年	月		日					
1.	文書		口頭		1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 設備の管理状況の再確認及び日常点検実施。車両の再点検による安全管理を行い、災害を未然に防ぐ対応を取る。										
36 所 見 今回は、移動タンク貯蔵車両の老朽化した注油ノズルの握手が完全に戻らない事で、温められた重油が10L漏えいしたが、移動タンク貯蔵車両に重油を積載状態で、更に常置場所以外に停車していた事が、被害を発生させた原因である。翌日に重油の配送があるとしても、危険物を取り扱う業者として違反を認識した上での行為であった。今後は、今回発生した事故を踏まえ、移動タンク貯蔵所車両の適正な維持・管理、車両の各部分の再点検をさせるとともに、近隣住民の発見による協力があつた事で、未然に大事故にならなかったのを教訓として、危険物の取扱いには一層注意するよう指導する。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所の事故による灯油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 7日 9時 42分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 7日 9時 42分	
5 覚 知	3月 7日 10時 03分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 7日 12時 28分	
7 鎮火・処理完了	3月 7日 14時 13分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北 風速：3.6m/s 気温：6.4℃ 湿度：82.2%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,750L 3.75倍 倍数の合計： 3.75倍 設置の完成：平成12年 9月 26日 直近の完成：平成24年 11月 1日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)	能 力：3,750L		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(800L)		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		18 取扱者の概要		
名 称：貯槽 (タンク) 番号 (107)	規 模：長さ3,111mm、幅1,600mm、1,100mm		1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要		
14 発 生 箇 所	名 称：タンク側板 番号 (101)		20 危険物保安監督者		
材 質：鋼鉄	15 発 生 時		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
運 転 状 況：給油中 番号 (8)	作 業 状 況： 番号 ()		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要： ポリタンクへ給油するため移動タンク貯蔵所を停車させ、給油用のポンプを作動したところ、車両が動き出した。運転手が車両を止めようとしたが止まらず、タンクと壁面が衝突し、損傷したタンクから灯油が流出した。運転手は、緊急停止レバーを引いたが、灯油は止まらなかったため、坂道の傾斜を利用して流出を止めようと、上り坂の山側に向かって損傷箇所が上になるように停車させたところ、流出は止まった。この事故により、灯油約800Lが流出し、その一部が付近の河川に流入した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()							
	関連原因											
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所を停車させる際に必要であった、サイドブレーキ及び車輪止め等の安全対策を十分に施さなかったため車両が動きタンクが破損。当該流出事故が発生した。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	交通事故		運転操作		停車時の安全管理不完全							
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害				28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 破損したタンクから灯油800Lが流出し、事故現場付近の側溝から付近河川へ流れこみ上流から下流へ約900mに渡り拡散した。				
区分												
当事者		0	0	0	1	転倒等	運転手					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所のタンク後部に10cmの穿孔が生じた。				
第三者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消防機関	5台	0隻	0機	15人	自衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油約800L流出		
消防団	0台	0隻	0機	0人	共同	0台	0隻	0機	0人			
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応援	0台	0隻	0機	0人			
その他の機関	9台	0隻	0機	14人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (33 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (3、5、6)						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
路上に流出していた灯油を油処理剤にて処理した。その後、現場付近の側溝から河川へ灯油が流出していることを確認したため、側溝に土嚢を使用して灯油の流出防止処置を実施した。												
31 防災活動上の問題点												
32 施設名	移動タンク貯蔵所						33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和2年 3月 7日	年 月 日		定期・自主点検		平成29年 5月 24日		年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日			
	停止解除	令和2年 3月 12日	年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日			
	関係条項	法第12条の3第1項						34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u>		
その他	年 月 日		年 月 日				内容：					
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策												
36 所 見 当該移動タンク貯蔵所の運転手には危険物の規制に関する政令第31条第2項危険物取扱者の責務違反があるため、平成3年12月19日付消防危第119号通知に基づく違反処理手続きを実施する。 また、移動タンク貯蔵所の運転手に対して、危険物を取り扱う事の責任の重さを認識させることができた。												

1 事故名	移動タンク貯蔵所の給油ホースが走行中脱落し、破損したことによる軽油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 26日 10時 44分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 26日 10時 44分	
5 覚 知	3月 26日 10時 44分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 26日 10時 56分	
7 鎮火・処理完了	3月 26日 10時 56分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：2m/s 気温：14.9℃ 湿度：32%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業				11 発 生 場 所
					区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油、軽油 3,000L 3倍
12 施 設 装 置	名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力： 3,000L				設置の完成： 平成 12年 5月 19日 直近の完成： 平成 24年 8月 13日
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 幅1,650mm、高さ870mm、長さ2,950mm 倍数の合計： 3倍				
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908) 材 質： ゴム				17 物 質 の 区 分
15 発 生 時	運 転 状 況： 移送中 番 号 (18) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (30L)
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 軽油を積載した移動タンク貯蔵所が、走行中何らかの要因によりホースリールから給油ノズル及び給油ホースが脱落しそのまま100m程度走行したことにより、給油ノズル及び給油ホースが破損した。さらに、PTOが起動状態であったため、車両を荷卸し先へ停車させギアをパーキングに入れた際に破損箇所から軽油30Lが道路上に流出した。 なお、通行人1名が道路上に落下した給油ホースに躓き受傷 (軽傷) した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()													
	関連原因																	
	発生原因の状況： 運転手は事故発生前に別の現場で荷卸しを終えた後、給油ノズルを固定したと思ったが固定状況の確認はしていない。また、PTOもオフにしたつもりであったが、実際にはオンのままであった。 事故発生場所の100m手前のあたりで「カラン」という音が聞こえたにもかかわらず、サイドミラーで確認するのみで、十分な確認を怠った。 また、運転手に対する保安教育も実施されていなかった。 事故当日は普段運転している車両とは別の車両であったため、機器の操作に関して不慣れな部分もあった。																	
	主原因の詳細																	
	第I層		第II層		第III層		第IV層											
	人		本人の意識		思慮		思い込み											
	制度		教育・訓練		内容		教育・訓練がない/不足											
	人		本人の知識・能力		技能・技術力		経験不足/習熟不足											
	関連原因の詳細																	
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																		
27 人的被害						28 物的被害												
被害内容等						被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所のホースの破損箇所から軽油30Lが道路上5m×5mの範囲に流出した。												
区分																		
当 事 者						0 0 0 0												
防災活動従事者						0 0 0 0												
第 三 者						0 0 0 1 転倒等												
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油30L流出												
消 防 機 関						3 台 0 隻 0 機 15 人 自 衛 0 台 0 隻 0 機 1 人												
消 防 団						0 台 0 隻 0 機 0 人 共 同 0 台 0 隻 0 機 0 人												
海上保安部						0 台 0 隻 0 機 0 人 応 援 0 台 0 隻 0 機 0 人												
その他の機関						0 台 0 隻 0 機 0 人 その他 0 台 0 隻 0 機 0 人												
30 実施した防災活動の状況						損害額 1万円未満、 <input checked="" type="checkbox"/> 1万円以上(20 万円)												
公設消防機関：番号 (5, 99)						自衛防災・消防組織等 番号 (4)												
流出した油の除去活動、救護活動、調査活動						緊急停止装置を作動させた。												
31 防災活動上の問題点 運転手からの通報ではなく現場を目撃した第三者からの通報であった。保安教育未実施。																		
行政措置	32 施設名			移動タンク貯蔵所			33 定期点検等			消 防 法			そ の 他					
	使用停止			年 月 日			年 月 日			定期・自主点検			年 月 日			年 月 日		
	改善命令等			年 月 日			年 月 日			気密試験等			年 月 日			年 月 日		
	停止解除			年 月 日			年 月 日			保安検査			年 月 日			年 月 日		
	関係条項																	
その他			違反通告措置 令和2年4月13日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無			<input checked="" type="checkbox"/> 有・無			内容： 法第11条第1項 無許可変更 法第11条第6項 譲渡・引渡の届出義務違反 法第12条第1項 危令第15条 静電気除去装置機能不良 法第14条の3の2 定期点検未実施			
35 今後の対策			保安教育の徹底															
36 所 見			本事業所は過去にも消防法令違反や同種の事故を発生させた経緯があり、引き続き立入検査などを定期的実施し実態把握に努めるとともに、従業員教育を徹底するよう繰り返し指導していく必要がある。															

1 事故名	航空機から燃料抜き取り作業中、給油タンク車の底弁等故障により、燃料（Jet-A1）の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）				
3 発 生	7月 9日 2時 30分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 9日 2時 40分	
5 覚 知	7月 9日 3時 46分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 9日 3時 40分	
7 鎮火・処理完了	7月 9日 3時 40分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他（ ）				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：6m/s 気温：25.2℃ 湿度：96%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 （レイアウト、 <input checked="" type="checkbox"/> 第1種、第2種、その他） 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号（6032） 燃料小売業 燃料小売業（ガソリンスタンドを除く）		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：東京国際空港特別防災区域	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：移動貯蔵タンク 番号（1303） 能 力：20,000L			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) Jet-A1 20,000L 20倍		
13 機 器 等 温度圧力：			設置の完成：平成6年 3月 8日 直近の完成：平成23年 7月 26日		
14 発 生 箇 所	名 称：マンホール 番号（305） 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相）（ <input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧） （低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温） 分 類：第4類第2石油類（非水溶性液体） 名称：Jet-A1 (4L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：受入中 番号（9） 作 業 状 況： 番号（ ）		18 取 扱 者 の 概 要	1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要 2. 無	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 航空機から給油タンク車へ燃料を抜き取る作業中、給油タンク車の第1から第5までであるタンク室のうち、第1タンク室のマンホールから燃料が流出した。事故当時、第1タンク室から順に燃料を充填していたところ、第4タンク室に充填している際に流出した。第1タンク室の底弁は、経年劣化による不良のために弁が完全に閉まりきらない状態であり、他のタンク室に充填中も第1タンク室への流入が続き流出に至ったものである。流出した燃料は地盤面約2×2m（約4L）の範囲に流出し、従業員により油吸着マット等で除去された。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号（10） 無 その他					

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： 給油タンク車の第1タンク室の底弁及びその附属設備は設置から26年が経過したことで、劣化により弁が完全に閉まらない状態になっていた。このため、第1タンク室への充填が完了し、第2から第4タンク室への充填に移行した後も、第1タンク室へ燃料が流入し続け、タンク頂部のマンホールから流出した。									
	主原因の詳細									
	第I層		第II層		第III層		第IV層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油タンク車から燃料約4Lが、地盤面約2×2mの範囲に流出した。		
区分										
当事者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第三者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 底弁及び附属設備の故障		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消防機関	1台	0隻	0機	5人	自衛	0台	0隻	0機	2人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）Jet-A1 4L
消防団	0台	0隻	0機	0人	共同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 (5) 油吸着マット、ウエス、中和剤による油の回収。					
31 防災活動上の問題点 通報の根拠（消防法第16条の3、石炭法第23条）が不明確であったことから、通報に時間を要した。										
行政措置	32 施設名	給油タンク車			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日			
	改善命令等	年	月	日	年	月	日			
	停止解除	年	月	日	年	月	日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	使用停止を口頭指導 令和2年7月9日 1. 文書 ②. 口頭			内容： 1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策	底弁の交換。 タンク内の満量表示板の下部に、満量の90%の位置がわかる表示板を新規で取り付けた。 各タンク室の90%の量以上入れないようにする。									
36 所見	定期点検や自主点検を適切に実施していても、経年劣化による事故を防げない場合もあるため、注油容量に余裕を持たせたり、事故発生時の迅速な対処方法を身に付けておく必要がある。当該事業所は石炭法の特定事業所であり、各種関係法令の遵守と従業員への教育に努め、保安管理体制の構築を図っていくべきである。									

1 事故名	移動タンク貯蔵所で移送中、底弁閉鎖未実施のうえ、注油ホースが破断したことにより灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 4日 9時 45分	推定・確定	4 発 見	11月 4日 10時 00分	
5 覚 知	11月 4日 10時 11分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 4日 11時 27分	
7 鎮火・処理完了	11月 4日 13時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：南南西 風速：2m/s 気温：9.5℃ 湿度：93.3%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力： 1,900L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： その他の移送機器 番 号 (699) 規 模： 注油ホース30m		設置の完成： 平成 15年 6月 9日 直近の完成： 平成 27年 5月 27日 倍数の合計： 1.9倍		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油(注油)ホース 番 号 (908) 材 質： ゴム		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(180L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 移送中 番 号 (18) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所で灯油を配達中、注油ホースの収納及び底弁の閉鎖を失念したまま走行したため、走行中に注油ノズルが側溝に引っかかり、注油ホースが破断し市道上約1.3kmにわたり、灯油約180Lが漏えいした。 移動タンク貯蔵所の運転手は交差点で赤信号のため停車中に後続車両の運転手に灯油の漏えいを指摘され、注油ホースの破断及び灯油の漏えいに気づいたが、応急措置、関係機関への通報を一切行うことなく、走行経路を戻り、破断した注油ホースを回収して帰社した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

25	主 原 因 操作未実施	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： 配達先の住宅が留守であったことから、次の配達先へ向かうため移動タンク貯蔵所を走行させたところ、注入ホースの収納及び底弁の閉鎖を失念していたため注入ホースが破断した。		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	人	本人の意識	思慮
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
28 物的被害		被災影響範囲及び拡大の状況： 市道上約1.3kmにわたり灯油約180Lが漏えいした。	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況		施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所の注入ホース破断	
消 防 機 関	1 台 0 隻 0 機 5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	2 台 0 隻 0 機 12 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
30 実施した防災活動の状況		物質の被害状況： 灯油約180Lが漏えいした。	
公設消防機関：番号 (99) 灯油の漏えい状況及び発生原因の調査		自衛防災・消防組織等 番号 ()	
31 防災活動上の問題点 移動タンク貯蔵所の運転手は関係機関への通報を一切行わなかった。 灯油の漏えいを発見した付近住民からの通報により覚知した。移動タンク貯蔵所の運転手は灯油の漏えいに対して状況の確認や自社への連絡等の対応を行わなかった。			
32 政 措 置	施 設 名	年 月 日	年 月 日
	使用停止	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日
	関係条項	年 月 日	年 月 日
その 他	年 月 日	年 月 日	1. 文書 2. 口頭
33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
定期・自主点検		令和 2 年 10 月 16 日	年 月 日
気密試験等		平成 30 年 10 月 30 日	年 月 日
保安検査		年 月 日	年 月 日
34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容： 法第10条第3項違反、法第16条の2第3項違反、法第16条の3第1項違反、法第16条の3第2項違反	
35 今後の対策	従業員に対して危険物の貯蔵、取扱基準及び移送基準の遵守、事故発生時の対応について教育を徹底する。		
36 所 見	管内の他の事業所においても指導を行い、類似事故防止に努める必要がある。		

1 事故名	移動タンク貯蔵所が交通事故を起こし、横転したことによるマンホールからの灯油の漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 30日 17時 00分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	4月 30日 17時 00分	
5 覚 知	4月 30日 17時 14分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 30日 18時 02分	
7 鎮火・処理完了	4月 30日 18時 02分				
8 覚 知 別	1. 119 ②. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：1.1m/s 気温：19.4℃ 湿度：37.2%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他)	
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,000L 2倍
12 施 設 装 置	名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		設置の完成：平成 24年 9月 13日 直近の完成：平成 26年 12月 4日		
	能 力：容量2,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 2倍		
	名 称：貯槽 (タンク) 番 号 (107)				
	規 模：容量2,000L				
14 発 生 箇 所	名 称：マンホール 番 号 (305)		17 物 質 の 区 分		
	材 質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
15 発 生 時	運 転 状 況：移送中 番 号 (18)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
	作 業 状 況： 番 号 ()		(固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：灯油 (5L)		
			18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 交差点内における移動タンク貯蔵所と普通乗用車の交通事故で移動タンク貯蔵所が横転し、マンホールから灯油が約5L漏えいしたものの					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>					

25	主 原 因 交通事故	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： 交差点内における移動タンク貯蔵所と普通乗用車の交通事故		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	交通事故	その他	交差点内における接触、衝突
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			28 物的被害
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症
当 事 者	0	0	0
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
軽症	1	死傷原因 交通事故	
職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 横転した移動タンク貯蔵所から灯油が幅1m、長さ1mにわたり漏えいした。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所の車両部分が破損。
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 8 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油5L流出			損害額 1万円未満、 1万円以上 (300 万円)
30 実施した防災活動の状況			
公設消防機関：番号 (5)		自衛防災・消防組織等 番号 ()	
31 防災活動上の問題点			
政 策 措 置	32 施設名		33 定期点検等
	使用停止	年 月 日	消 防 法
	改善命令等	年 月 日	そ の 他
	停止解除	年 月 日	定期・自主点検
	関係条項		令和 2 年 2 月 10 日
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭	
34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ 無 内容：	
35 今後の対策			
36 所 見			

1 事故名	危険物移動タンク貯蔵所の注入ホースを未収納のまま走行し、ホース結合部が破損したことによる灯油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 24日 14時 40分	推定・確定	4 発 見	11月 24日 14時 45分	
5 覚 知	11月 24日 14時 58分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 24日 15時 15分	
7 鎮火・処理完了	11月 24日 15時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：2.6m/s 気温：14.8℃ 湿度：40.8%				
10 発 生 事 業 所	種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：複合サービス業 協同組合(他 番 号 (7921) に分類されないもの) 事業協 同組合(他に分類されないも の) 事業協同組合(他に分類 されないもの)		11 発 生 場 所	区 分：1. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外(陸上、海上、その他)	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍	
13 機 器 等	温度圧力：	17 物 質 の 区 分		設置の完成：平成 26年 4月 10日 直近の完成：平成 26年 4月 10日	
14 発 生 箇 所	名称：給油(注油)ホース 番号(908)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(50L)		倍数の合計：1.9倍
15 発 生 時	名称：移動貯蔵タンク 番号(1303)		18 取扱者の概要		経験年数0年
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 危険物移動タンク貯蔵所で灯油を配達後、ホースの収納を失念したまま走行させたことにより、ホースの結合部が破損し、当該破損部分から走行した道路上約200mにわたり灯油約50Lが流出した。なお、河川への流出はなし。					
24 緊急処置の状況 [有] 番号(10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()									
	関連原因													
	発生原因の状況： ホースを収納する前に配達先の家人とのやり取りがあり、そのまま乗車し発進前の車両の状況を確認することなく、ホースの収納を失念したまま車両を走行させ、道路脇の障害物に引っ掛かったホースが破損し流出に至った。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層							
	人		本人の意識		思慮		配慮不足							
	関連原因の詳細													
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害				28 物的被害										
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ホース結合部の破損により灯油が走行した道路上約200mにわたり流出した。						
区分														
当 事 者	0	0	0	0										
防災活動従事者	0	0	0	0										
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ホース結合部の破損						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油約50L流出				
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	8 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <input checked="" type="checkbox"/> 1万円以上(25 万円)				
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (5) 油吸着マット等を使用した漏油の回収作業を実施し、その後調査活動にあたった。						自衛防災・消防組織等 番号 ()								
31 防災活動上の問題点 危険物取扱者に対する適切な教育が実施されていなかった。														
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他							
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年10月8日	年	月	日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無 内容： ・法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反							
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員への再教育の徹底 ・法令遵守の徹底 													
36 所見	移動タンク貯蔵所の検査時等の機会に適切な取扱い及び施設の維持管理を徹底するよう指導する必要がある。													

1 事故名	移動タンク貯蔵所から一般住宅オイルタンクへの注入作業中に監視不十分により発生した灯油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発生	3月 3日 14時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発生見	3月 3日 14時 00分	
5 覚知	3月 3日 15時 05分		6 鎮圧 応急処置完了	3月 3日 14時 30分	
7 鎮火・処理完了	3月 3日 14時 45分				
8 覚知別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気象状況	天気：晴 風向：西北西 風速：4.9m/s 気温：10℃ 湿度：37.2%				
10 発生事業所	種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発生場所	区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<input checked="" type="checkbox"/> 陸上、海上、その他)	
12 施設装置			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,000L 2倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,000L 1倍	
13 機器等	温度圧力：		設置の完成：平成 23年 8月 5日 直近の完成：平成 23年 8月 5日 倍数の合計：3倍		
14 発生箇所	名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303) 能力：3,000L				
15 発生時	名称：その他 番号 (999) 規模：ホームタンク480L 直径75cm 高さ110cm		17 物質の区分		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事故の概要	移動タンク貯蔵所から一般住宅オイルタンクへの注入中、その場を離れ他の作業中ノズルが外れ落ち飛散、流出したもの				
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他				

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： ラッチオープンノズルの使用により、監視を怠り他の作業に従事していたことによる。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	管理		監督		監視		監視が実施されない/不足			
	人		本人の意識		思慮		過信			
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		その他			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 住宅の敷地内及び住宅の北側に接する国道上に住宅の敷地から最大約4m離れた範囲で流出した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 無		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 灯油 10L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	3 人	その他	2 台	0 隻	0 機	2 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (4)			吸着マットによる回収作業		
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	有・無 内容： 注入ノズルをラッチオープンノズルへの無許可変更					
35 今後の対策	ラッチオープンの取り外しと従業員教育の徹底									
36 所見	作業の効率を優先するあまり、安全を軽視した結果が今回の流出事故につながった。立入検査等で継続的に指導が必要。									

1 事故名	移動タンク貯蔵所のタンク溶接部から溶接不良によるガソリンの漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 28日 14時 25分	推定・確定	4 発 見	6月 28日 14時 30分	
5 覚 知	6月 28日 15時 41分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 28日 15時 53分	
7 鎮火・処理完了	6月 28日 17時 16分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北西 風速：4.9m/s 気温：25.7℃ 湿度：69.7%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 10,000L 50倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,000L 4倍
12 施 設 装 置	名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		設置の完成： 平成 18年 10月 24日 直近の完成： 平成 18年 10月 24日		
	能 力： 14KL				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 54倍		
	名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)				
	規 模： 長さ6,320mm、幅2,360mm、最大容量14KL				
14 発 生 箇 所	名 称： 本体溶接部 番 号 (106)		17 物 質 の 区 分		
	材 質： その他		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(20L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 荷積中 番 号 (12)		18 取 扱 者 の 概 要		
	作 業 状 況： 番 号 ()				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 事故発生場所の油槽所で荷積後、運行前点検を実施していた際、移動貯蔵タンク下部の溶接部からガソリンの漏えいを確認したもの					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

25	主 原 因		施工不良			着火原因			番号 ()			
	関 連 原 因		腐食疲労等劣化									
	発生原因の状況：		<p>事故発生前、本件の移動タンク貯蔵所のシャーシに経年劣化による亀裂が認められたことから、自動車整備工場に修理のため入庫していた。この際、シャーシのみならず移動貯蔵タンク下部の溶接部にも亀裂が入っていることを当該整備工場が指摘し、当該溶接部を肉盛り溶接により補修することとなった。補修翌日、当該溶接部からガソリンが漏えいする事故に至ったことから、溶接不良が原因となったものと推測する。</p>									
	主原因の詳細											
原	第Ⅰ層		第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	施工不良		施工			溶接不良						
因	関連原因の詳細											
	疲労・劣化		素材等の劣化			長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害							28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所の周囲（2m四方）				
区分												
当 事 者		0	0	0	0							
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし				
第 三 者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ガソリン20L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
警戒活動												
31 防災活動上の問題点												
32	施設名					33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和 2 年 6 月 28 日	年 月 日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	平成 28 年 8 月 27 日	年 月 日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
措 置	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/>			
	その他	年	月	日	年	月	日	内容：				
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 従業員の安全教育の実施												
36 所 見 事故のあった移動タンク貯蔵所を所有する事業所に対し、引き続き安全教育を徹底するよう指導した。しかしながら、漏えい発生後、車両運行前に適切な点検を実施したことにより、速やかに漏えいを覚知するとともに、事故の拡大防止に至らしめており、他の模範となる適切な安全管理であった。												

1 事故名	移動タンク貯蔵所横転に伴う危険物の流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 12日 11時 25分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	8月 12日 11時 25分	
5 覚 知	8月 12日 13時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 12日 14時 00分	
7 鎮火・処理完了	8月 12日 14時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北西 風速：1.6m/s 気温：29.9℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他)	
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍
12 施 設 装 置	名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力：第2石油類3,000L		設置の完成：平成 26年 7月 3日 直近の完成：年 月 日 倍数の合計： 3倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模：3,000L				
14 発 生 箇 所	名 称：その他 番 号 (999) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(2L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：移送中 番 号 (18) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンクを運転中、前方から来た車両とすれ違うため後方へ下がったところ、助手席側の後輪が道路横の斜面に乗り上げ、また運転席側の車輪が道路のくぼみに入ったことでバランスを崩し横転した。その際にタンク上部の注入口、計量口、安全装置のいずれかから危険物が流出した。					
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 道路幅の狭い未舗装の林道で起きた事故。車両周囲の確認不十分により横転し危険物流出に至った。なお、タンク上部の注入口及び計量口に緩みがあったと推察される。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	交通事故		運転操作		前方（後方）不注意						
	交通事故		運転操作		路肩に寄りすぎ						
	交通事故		路上環境		その他						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 横転した移動タンク貯蔵所から灯油が180cm×110cmの範囲で流出した。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 車両運転席側の破損			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)灯油2L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 事故発生から約2時間後に通報。早期通報が求められる。											
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			<input type="checkbox"/> 有・無 内容： タンク気密点検未実施			
そ の 他	年	月	日	年	月	日					
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 運転時、前後左右の確認徹底。計量口など日常点検の実施を徹底する。											
36 所 見 道路状況が悪い条件で発生した横転事故からの流出。安全運転と施設の点検を今後求められる。											

1 事故名	移動タンク貯蔵所における注油ホース破損による流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 13日 14時 30分	推定・確定	4 発 見	11月 13日 14時 35分	
5 覚 知	11月 13日 16時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 13日 16時 30分	
7 鎮火・処理完了	11月 13日 16時 50分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (用務出向中に職員が発見)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：3m/s 気温：6℃ 湿度：54%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業 建築材料卸売業 セメント卸売業		11 発 生 場 所		
			区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
			16 発生施設規制区分等		
			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 4,000L 20倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 4,000L 4倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,000L 4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 4,000L 2倍		
12 施 設 装 置	名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		設置の完成：平成 20年 9月 3日 直近の完成：年 月 日		
	能 力：容量4,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 30倍		
	名 称：その他 番 号 (999)				
	規 模：容量4,000L				
14 発 生 箇 所	名 称：給油(注油)ホース 番 号 (908)		17 物 質 の 区 分		
	材 質：ゴム		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(10L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：移送中 番 号 (18)		18 取 扱 者 の 概 要 経験年数0年		
	作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 配送場所で給油後、次の配送先へ移送中、ノズルロックピンが走行時の振動で外れ、ノズルが脱落。更に、ホースリール操作ハンドルがフリーの位置で走行したことによりホースが伸長、これに気付かず走行し続けたためホースが切断され、ホース内に残留していた軽油約10Lが国道上670mに渡り流出したものである。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 知識不足により、ホースリール操作ハンドルのロックを忘れる。点検整備がされていないため、ノズルホルダーを挿入した場合、ロックピン受け金具が緩いことが把握されておらず、配送中にも上の穴にロックピンを挿入したため、走行中の振動でロックピンが外れたものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足			
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移送中の移動タンク貯蔵所から、幅5cm、長さ670mに渡り、道路上に軽油が流出。 流出量は約10L。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所のホースリールに巻かれたホース及びホース先端に接続されたノズル		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類軽油10L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
事故当事者により、すでにオイルマット等による油処理済みであったことから、二次災害の防止と状況確認のみ実施。										
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	平成 30 年 7 月 26 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無				
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	有・無 内容： 法第12条第1項違反、法第14条3の2違反、法第16条の2第3項違反、法第16条の3第2項違反					
35 今後の対策	従業員の安全教育の徹底、定期点検の実施									
36 所 見	事故後、当該施設所有の移動タンク貯蔵所全施設の立入検査を実施。違反箇所の指摘、法令遵守の徹底を指導。									

1 事故名	移動タンク貯蔵所から注入ホース亀裂による灯油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 23日 15時 15分	推定・確定	4 発 見	12月 23日 15時 15分	
5 覚 知	12月 23日 16時 20分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 23日 16時 30分	
7 鎮火・処理完了	12月 23日 19時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東北東 風速：2m/s 気温：-6℃ 湿度：62%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,940L 1.94倍
12 施 設 装 置	名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		設置の完成：令和元年 9月 20日 直近の完成：令和元年 9月 27日		
	能 力：1,940L				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 1.94倍		
	名 称：貯槽 (タンク) 番 号 (107)				
	規 模：1,940L				
14 発 生 箇 所	名 称：給油 (注油) ホース 番 号 (908)		17 物 質 の 区 分		
	材 質：合成樹脂		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
15 発 生 時	運 転 状 況：移送中 番 号 (18)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
	作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：灯油 (100L)		
			18 取扱者の概要 経験年数13年		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所の注入ホースを地面に引きずりながら走行したためにホースに穴が開き、また、走行中に底弁を閉鎖していなかったため灯油約100Lが道路上約3kmの範囲で流出したものである。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 灯油の配達終了後、注入ホースを完全に収納せずにホースの一部が地面に接触している状態、また底弁を閉鎖しない状態で走行したために、ホースが地面に引きずられて穴が開き、灯油約100Lが道路上約3kmの範囲で流出したものである。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 灯油約100Lが道路上約3kmの範囲で流出（道路上の漏油跡、河川への流出なし）			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油100L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (2 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
道路上の漏油跡、河川への流出はないため処置不要。											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	令和元年10月1日	年 月 日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無				
その他	年	月	日	年	月		日	内容： 法第16条の2第2項 移動タンク貯蔵所の移送基準 法第16条の2第3項 危険物取扱者免状不携帯 法第16条の3第2項 事故発生時の通報義務違反			
35 今後の対策	自主点検及び安全教育の実施										
36 所 見	自主点検及び安全教育の継続実施を立入検査等において指導し、同様の事故防止に努める必要がある。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所からボイラー用タンクに注油中、注油ノズルが注油口からはずれ重油流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	11月 27日 9時 30分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	11月 27日 9時 30分
5 覚 知	11月 27日 12時 08分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 27日 10時 30分
7 鎮火・処理完了	11月 27日 13時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：1m/s 気温：17℃ 湿度：		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		特別防災地区名：
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,000L 1.5倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番号 (1303)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 最大数量3,000L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
13 機 器 等 温度圧力：	(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)		
名 称： 貯槽 (タンク) 番号 (107)	(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)		
規 模： 容量3,000L	分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (10L)		
14 発 生 箇 所	18 取扱者の概要 経験年数0年		
名 称： 給油 (注油) ノズル 番号 (909)	設置の完成： 平成 29年 11月 24日		
材 質： アルミニウム	直近の完成： 平成 29年 11月 24日		
15 発 生 時	19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
運 転 状 況： 払出中 番号 (10)	20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無
作 業 状 況： 運転操作中 番号 (1)	③. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所からボイラー用重油タンク(少量危険物施設)に注油するため注入口に注入ノズルを差し込み送油したところ、注入ホースが車両側に引っ張られ、注油ノズルが注入口から外れ危険物が流出した。作業者は流出確認後送油を停止した。重油10L程度がアスファルト路面上に漏えいした。なお、油吸着マットと油中和剤を使用し応急処置を実施した。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 注入ホースドラムに収められたホースを十分に展張せず、ホースが空中で張られた状態で送油を行い、注油ノズルが注入口から外れた。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	人	本人の意識	思慮	配慮不足						
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害			28 物的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンクの注油ノズルから重油10L程度が事業所敷地内のアスファルト路面上及びU字溝に飛散、流出範囲は敷地境界線内に収まっている。 施設等の被害状況： なし			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油10L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況								損害額	1万円未満、1万円以上 () 万円)	
31 防災活動上の問題点					公設消防機関：番号 ()			自衛防災・消防組織等 番号 ()		
事故発生時から通報に時間を要しているため、速やかに通報するよう指導した。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止		年 月 日		年 月 日	定期・自主点検		年 月 日		年 月 日
	改善命令等		年 月 日		年 月 日	気密試験等		年 月 日		年 月 日
	停止解除		年 月 日		年 月 日	保安検査		年 月 日		年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無	内容：		
その他		年 月 日		年 月 日						
35 今後の対策		再発防止の教育								
36 所 見		当事業所に対し、再発防止教育の実施、早期通報について指導した。								

1 事故名	移動タンク貯蔵所において、走行中の注油ホース破損及び底弁未閉鎖による灯油の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	6月 23日 10時 00分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	6月 23日 10時 02分		6 鎮 圧
7 鎮火・処理完了	6月 23日 12時 08分		応急処置完了
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：2.5m/s 気温：28℃ 湿度：47%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 各種商品卸売業 番 号 (4911) 各種商品卸売業 各種商品卸売業 (従業者が常時100人以上のもの)	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 1.9倍		
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)	設置の完成：平成12年 11月 15日 直近の完成：平成21年 6月 18日		
能 力：灯油 貯蔵量1,900L	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等 温度圧力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
名 称：その他の移送機器 番 号 (699)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
規 模：29,500mm 材質：耐油ゴム	(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：灯油 (220L)		
14 発 生 箇 所	18 取扱者の概要 経験年数42年		
名 称：給油 (注油) ホース 番 号 (908)	1. 選任有 2. 選任無		
材 質：ゴム	20 危険物保安監督者 ③. 不要		
15 発 生 時	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ②. 無		
運 転 状 況：移送中 番 号 (18)			
作 業 状 況：その他 番 号 (99)			
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事故の概要： 客先で荷卸しが終了した後、底弁を閉鎖せずに路上を走行した。走行中に収納が不完全であったホースが路上の乗合自動車停留所の標識に引っ掛かりホースが破損した。運転手は事故に気付かず走行を続けてしまい、底弁が開放状態であったため破損したホースから灯油が漏えいした事故。 119番通報は付近住民が実施する。			
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無			

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： ホースの収納状況の確認及び底弁の閉鎖を実施せずに走行した結果、ホースが路上の乗合自動車停留所の標識に接触し破損する。底弁が閉まっていなかったため破損したホースから灯油が流出する。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		違反（故意）		怠慢				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ・油が約3kmにわたって断続的に路上へ流出する。 河川への流出及び農作物への被害は無。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ・注油設備のホースを破損する。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	6 台	0 隻	0 機	20 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油220L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (14 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
吸着マット等を使用し、流出した油を回収する。											
31 防災活動上の問題点 移動タンクが漏えいさせながら移動をしたため、流出した範囲を特定するのが困難であった。											
政 策 措 置	32 施設名	移動タンク貯蔵所				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年		月	日	令和 2 年 2 月 3 日	令和 2 年 6 月 23 日	
	改善命令等	年	月	日	年		月	日	気密試験等	平成 29 年 2 月 25 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年		月	日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	指導及び免状減点処理 令和 2 年 6 月 23 日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策		・社内教育を強化し、作業内容の再確認を実施する。 ・社内で漏油事故の想定で訓練を定期的実施する。									
36 所 見		・移動タンク貯蔵所は路上立入検査以外で普段の運用方法を確認することが難しいため、事業所側に積極的に働きかけ意識高揚を図っていく必要がある。									

1 事故名	移動タンク貯蔵所においてタンク本体から危険物（第4類第3石油類非水溶性液体）が漏えい		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	12月 8日 10時 00分
5 覚 知	12月 8日 13時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	12月 8日 14時 30分
7 鎮火・処理完了	12月 8日 14時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他（ ）		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：10℃ 湿度：		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一般 番 号（4411） 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業（特別積合せ貨物運送業を除く）	区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) アクリル酸メチルエステル 12,000L 60倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) アクリル酸ブチルエステル 12,000L 12倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) アクリル酸2-エチルヘキシルエステル 12,000L 6倍 倍数の合計： 60倍		
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所		
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号（1303） 能 力： タンク容量12,000L 許可倍数 60倍（第4類第1石油類～第3石油類）	名 称： 容器本体 番 号（108） 材 質： ステンレス		
13 機 器 等	15 発 生 時		
名 称： 貯槽（タンク） 番 号（107） 規 模： 容量12,000L	運 転 状 況： 停止中 番 号（5） 作 業 状 況： 番 号（ ）		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称： 容器本体 番 号（108） 材 質： ステンレス	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温[0-40℃]、高温） 分 類： 第4類第3石油類（非水溶性液体） 名称： アクリル酸2エチルヘキシル(3L)		
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要		
運 転 状 況： 停止中 番 号（5） 作 業 状 況： 番 号（ ）	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危 険 物 保 安 監 督 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所に危険物を荷積み後、常置場所に戻り移送準備を行っていたところ、タンク本体に危険物が漏れた跡が2か所見つか り、危険物（第3石油類非水溶性液体）が3L漏えいしていたもの			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号（10） 無 その他			

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： タンク室内の縦側に鋼製のサポートを設置しており、サポートとタンクの溶接部が腐食していた。腐食部分を調査したところ亀裂が生じていたため、亀裂部分から危険物（第4類第3石油類非水溶性液体）が3L漏えいしたもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所付近の0.5m範囲に漏えい。 施設等の被害状況： なし		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	8 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類 アクリル酸2エチルヘキシル 3L 流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 漏えい発生箇所下部にバケツを設置し、タンク内に残存した製品を別の車両へ移送した。				
31 防災活動上の問題点 漏えい事故を覚知後、通報までに3時間を要した。										
32 行政措置	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和 2 年 4 月 27 日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	平成 28 年 7 月 28 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：		
その他	年	月	日	年	月	日				
35 今後の対策 出発前点検時に車両一周及びシャーシの下に漏えい跡が無いか確認。 今回の事故を踏まえ車検及び3か月点検時に点検項目を追加するよう整備会社に依頼した。										
36 所 見 事故原因を特定して、同様の事故を防止するための対策を考える必要がある。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所が転覆しタンク側面に亀裂が生じ、積載していた軽油が流出したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 14日 16時 25分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	2月 14日 16時 25分	
5 覚 知	2月 14日 16時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 14日 19時 25分	
7 鎮火・処理完了	2月 14日 19時 46分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：東 風速：1.6m/s 気温：11℃ 湿度：83%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他)	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,350L 1.35倍	
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)			13 機 器 等	設置の完成： 平成 14年 2月 15日 直近の完成： 平成 19年 6月 25日	
能 力： タンク容量1,350L			温度圧力：	17 物 質 の 区 分	
13 機 器 等	名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	規模： 横1,500mm、高さ880mm、長さ1,497mm		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(50L)	
14 発 生 箇 所	名 称： タンク側板 番 号 (101)	材 質： アルミニウム		18 取扱者の概要 経験年数40年	
15 発 生 時	運 転 状 況： 移送中 番 号 (18)	作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
19 危険物保安統括管理者	20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所に軽油を約1,000L積載した状態で移送中に単独転覆しタンク側面に亀裂が生じ、積載していた軽油約50Lが路上に流出したもの。河川等への流出拡大なし。火災は発生せず。運転手は救急搬送される(軽症)。同乗者なし。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>					

原 因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()										
	関 連 原 因 操作確認不十分														
	発生原因の状況： 前方を走行中の車両がブレーキをかけたことにより、ブレーキを踏んだところタイヤがロックし、スリップして縁石に接触したものの。路面は雨で濡れていた。走行速度も法定速度を約10km超過していたと聴取する。														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層								
	交通事故		運転操作		スピード超過										
	交通事故		路上環境		凍結、水たまり等で路上が滑りやすい										
	関連原因の詳細														
	人		本人の意識		思慮		配慮不足								
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人的被害						28 物的被害									
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 転覆した移動タンク貯蔵所から軽油が国道上に幅約4m、長さ約10mにわたり漏えいした。	
区分															
当 事 者		0		0		0		1		交通事故		給油取扱所正社員			
防災活動従事者		0		0		0		0						施設等の被害状況： 積載タンクに約1cmの亀裂及び左側面枠取付け部の変形	
第 三 者		0		0		0		0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関		6 台 0 隻 0 機		19 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機		0 人		物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油約50L流出			
消 防 団		0 台 0 隻 0 機		0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機		0 人					
海上保安部		0 台 0 隻 0 機		0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機		0 人					
その他の機関		3 台 0 隻 0 機		9 人		そ の 他		0 台 0 隻 0 機		0 人		損害額 1万円未満、 <input checked="" type="checkbox"/> 1万円以上(63 万円)			
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (4、5、99) 油処理剤散布、救急搬送、調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5)									
31 防災活動上の問題点															
32 施設名								33 定期点検等				消 防 法		そ の 他	
行 政 措 置		使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		平成 29 年 6 月 22 日		年 月 日			
		改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		平成 29 年 6 月 22 日		年 月 日			
		停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日			
		関係条項													
		そ の 他		年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input checked="" type="checkbox"/> ・無		内容： 法第16条の2第2項 移送基準違反			
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭											
35 今後の対策								従業員教育の徹底							
36 所 見								今回の事故は運転手が保安の確保について細心の注意を払っていれば防げたものとする。運転手はもちろんのこと、設置者にも従業員教育の徹底を図ってもらう必要がある。							

1 事故名	移動タンク貯蔵所の単独事故に伴う危険物の流出事案				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 31日 10時 16分	<input checked="" type="checkbox"/> 推定・確定	4 発 見	7月 31日 10時 16分	
5 覚 知	7月 31日 10時 17分	6 鎮 圧 応急処置完了	7月 31日 11時 00分		
7 鎮火・処理完了	7月 31日 11時 52分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南東 風速：2.1m/s 気温：29.3℃ 湿度：91.4%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 特定番号 (4421) 貨物自動車運送業 特定貨物自動車運送業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力： 20KL		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 18,000L 90倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 2,000L 2倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 最大容量20KLのうち、第1室4KL		倍数の合計： 92倍 設置の完成： 平成 19年 9月 4日 直近の完成： 平成 25年 10月 4日		
14 発 生 箇 所	名 称： タンク側板 番 号 (101) 材 質： アルミニウム		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(60L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 移送中 番 号 (18) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所において危険物を移送中、運転操作を誤り貯蔵タンク側板と電柱が接触したため、当該箇所に穴が開き、給油取扱所内にガソリンが60L漏えいした。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所において危険物を移送中、後退を実施していたところ、運転操作を誤り貯蔵タンク側板と電柱が接触し、貯蔵タンクの側板に穴が開き、ガソリンが60L漏えいした。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	交通事故		運転操作		前方（後方）不注意					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所の敷地内にガソリンが60L漏えいした。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所 1施設 小損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	20 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ガソリン60L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 現場警戒、二次災害の防止						自衛防災・消防組織等 番号 (4)				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	平成 29 年 6 月 7 日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等 令和 2 年 6 月 1 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保 安 検 査	年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無		
その他	年	月	日	年	月	日	有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：			
35 今後の対策 ・車両運転手に対する、交通安全教育を含めた保安教育の実施 ・給油取扱所（狭隘施設）への進入路の検討										
36 所 見										

1 事故名	移動タンク貯蔵所が横転し、トリエチレングリコール及び燃料タンクから軽油が漏えいしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 9日 15時 46分	推定・確定	4 発 見	6月 9日 15時 51分	
5 覚 知	6月 9日 15時 51分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 9日 20時 32分	
7 鎮火・処理完了	6月 9日 20時 32分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：2.8m/s 気温：29℃ 湿度：55%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一般 番 号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業 (特別積合せ貨物運送業を除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(水溶性液体) トリエチレングリコール 9,090L 2.27倍
12 施 設 装 置	名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)		設置の完成： 平成 元年 4月 25日 直近の完成： 年 月 日		
	能 力： 最大積載量：12,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 2.27倍		
	名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)				
	規 模： 移動タンク貯蔵所最大積載量：12,000L、事故時に積載量：9,090L				
14 発 生 箇 所	名 称： その他の部位 番 号 (399)		17 物 質 の 区 分		
	材 質： ステンレス		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
15 発 生 時	運 転 状 況： 移送中 番 号 (18)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
	作 業 状 況： 番 号 ()		(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (水溶性液体) 名称： トリエチレングリコール(1L)		
			18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所(最大積載量12,000L)が単独事故により、高速道路料金所の東側斜面に転落し、横転した。積載していたトリエチレングリコール(危険物第四類第3石油類(水溶性))が約1L及び車両の燃料タンクから軽油約40L漏えいしたもので、運転手が全身打撲の軽傷で病院へ搬送された。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送					

原因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 高速道路を走行中、ハンドル操作を誤り車両が左右に振られ横転し、進行方向左側の料金所の東側斜面に転落したもの。タンク断熱材の被覆板に損傷はあるもののタンク本体までの損傷はなく、トリエチレングリコール（積載危険物）の漏えいは横転しているためタンク上の注入口等から1L漏えいしたもの。なお、横転した際に燃料タンクが破損し軽油（車両燃料）も流出している。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	交通事故		運転操作		急ハンドル					
	交通事故		運転操作		ハンドル操作ミス					
	交通事故		運転操作		前方（後方）不注意					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所の追突により、高速道路のガードレール約50m、標識等が破損、車両は料金所の東側斜面に転落し横転した。積載物トリエチレングリコール約1L及び燃料の軽油約40Lが同斜面上に流出した。		
区分										
当事者	0	0	0	1	交通事故により全身打撲	運送業				
防災活動従事者	0	0	0	0						
第三者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 高速道路料金所東側斜面に転落し、車両積載タンク断熱材の被覆板の変形及び燃料タンクの破損が見られた。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消防機関	4台	0隻	0機	11人	自衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 危険物第四類第三石油類（水溶性） トリエチレングリコール約1L流出 参考：燃料タンク危険物第四類第二石油類（非水溶性） 軽油約40L流出
消防団	0台	0隻	0機	0人	共同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	10台	0隻	0機	25人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (100 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4、5、9) 救急隊員による運転手の初期評価を実施する。その後車内収容し、病院に搬送する。 消防隊は警戒筒先を配備し、安全管理及び情報収集を実施する。事故車両の積載物の漏えいは微量で吸着マットで対応、燃料タンクからの漏えいも事故時に漏えいしたものがほとんどであり応急措置不要であった。業者により事故車両のタンクから危険物を抜き取っている間、現場にて二次災害防止措置として現場待機する。					自衛防災・消防組織等 番号 (4)					
31 防災活動上の問題点										
行政措置	施設名			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年9月26日	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日			
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u>		内容：		
その他	年 月 日	年 月 日								
35 今後の対策		・急のつく動作をしないこと。 ・違和感を覚える運転をしている車両は事前に回避すること。								
36 所 見		運転手等に対し、常に安全運転を心掛け危険予知意識をもって運転するよう指導。								

1 事故名	移動タンク貯蔵所の転倒による車内閉じ込め及び第4類第3石油類(重油)流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 18日 15時 54分	推定・確定	4 発 見	9月 18日 15時 58分	
5 覚 知	9月 18日 15時 59分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 18日 21時 56分	
7 鎮火・処理完了	9月 18日 21時 56分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北東 風速：4m/s 気温：24℃ 湿度：90%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一般 番 号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業 (特別積合せ貨物運送業を除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 16,000L 8倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)	能 力： 最大積載量：16,000L		設置の完成： 平成 17年 10月 14日	直近の完成： 年 月 日	
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 8倍		
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	規 模： 最大積載量：16,000L		17 物質の区分		
14 発 生 箇 所	名 称： タンクの注入口 番 号 (905)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
材 質： ステンレス	15 発 生 時		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
運 転 状 況： 移送中 番 号 (18)	作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (1,950L)		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所で客先の屋外タンク貯蔵所に重油を一部荷卸し後、後退で敷地外へ出ようとしたところ、強い雨での視界不良もあり運転操作を誤り、高低差約3mの法面へ転落し直下道路で横転停止し重油が約1,950L流出したもの。なお、屋外タンク貯蔵所は上り坂を登り切った場所にあり、方向転換が出来ない場所であるため後退で敷地外に出ようとしたものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (9) 無 緊急排出、緊急移送					

原 因	主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 移動タンク貯蔵所後退時の、後方確認不足により法面から転落横転したもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		過信			
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		不注意			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から流出した重油が側溝を経由し約100m下流の刈り取り前の田に流入し被害を出した。また道路と法面間の縁石・側溝を破損させた。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所が大破により廃車。移動タンク貯蔵所の法面落下による縁石・側溝の破損。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 重油（第4類第3石油類）1,950L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	5 台	0 隻	0 機	8 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (176 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4、5) 粘土等を使用した移動タンク貯蔵所からの重油流出防止対策。危険物の拡散防止のため側溝等へ吸着マットを設置する。					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 事故当時、強い雨が降っており、流出した危険物の拡散が大きくなった。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 2 年 9 月 4 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	平成 29 年 10 月 8 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日								
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 荷卸し場所付近が狭く、駐車車両があると方向転換ができない。緑地を減じ方向転換できる場所を確保する等が考えられる。										
36 所 見 移動タンク貯蔵所が横転した場所は傾斜がある場所で、事故発生時強い雨が降っていたこともあり流出範囲の把握に時間を要した。県及び市の環境部局が早期に臨場され十分な連携が取れた。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所のノズルのロック及びホース巻き取り忘れによるホース破断及び灯油漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 16日 17時 10分	推定・確定	4 発 見	9月 16日 17時 12分	
5 覚 知	9月 16日 17時 23分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 16日 19時 31分	
7 鎮火・処理完了	9月 16日 19時 31分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：3.1m/s 気温：25.8℃ 湿度：78.8%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一般 番 号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業 (特別積合せ貨物運送業を除く)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 1,900L 1.9倍 倍数の合計： 1.9倍 設置の完成： 令和 2年 7月 13日 直近の完成： 令和 2年 7月 13日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力： 1,900L			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 灯油 (130L)		
13 機 器 等 温度圧力： 名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 容量1,900L			18 取扱者の概要 経験年数0年		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908)	材 質： ゴム	21 危険物取扱者の の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
15 発 生 時	運 転 状 況： 移送中 番 号 (18) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 危険物の荷卸後、注油ノズル収納時のロック、注油ホースの撤収及び底弁の閉鎖を失念したまま車両を発進させ、走行中に注油ノズルが落下し、駐車場内の駐車車両のタイヤに引っ掛かり、注油ホースがホースリール接続部分で破断。破断箇所から灯油が漏えいしたものの。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因 破損										
	発生原因の状況： 運転者は注油ノズル収納時のロック、注油ホースの撤収及び底弁の閉鎖について漏えいまで気づかなかった。また、ホース破断時の衝撃にも気づくことはなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
	破損		定常運転時		その他						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 灯油が漏えいしている状態で車両を走行させたことにより、注油作業時に駐車した駐車場内及び、走行した道路付近に灯油約130Lが約240mの範囲で漏えいした。				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 注油ホースのホースリール接続部分が破断した。				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油130L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額	1万円未満、	<input checked="" type="checkbox"/> 1万円以上	(9 万円)
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4)						自衛防災・消防組織等 番号 (4)					
灯油を漏えいしたまま移動タンク貯蔵所を走行させたことにより、広範囲に灯油が漏えいしていたため、付近の事業所従業員の協力の元、ACライト及び油吸着マットによる漏えい防止措置を行った。											
31 防災活動上の問題点											
移動タンク運転者は119番通報を失念しており、周囲の事業所の従業員による119番通報が実施されていた。											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和 2 年 6 月 1 日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	平成 28 年 5 月 16 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無				
その他	年	月	日	年	月		日	内容： ・使用時以外の底弁の開放 ・灯油を漏えいさせた ・注油ホース（ホースリール結合部）の破断			
35 今後の対策	社員安全教育の教育内容として、今回の事故原因を検証し、会社一丸となって事故の再発防止に取り組む。										
36 所見	今回は海洋付近における漏えい事故であったが、幸い海洋への流出には至らなかった。漏えいした箇所付近にある事業所が資器材を持ち寄り漏えい防止措置に協力してくれたこともあり、道路上に流出したにも関わらず二次災害を防止することができた。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所の単独横転事故による灯油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発生	12月 30日 11時 15分	推定・ <u>確定</u>	4 発生見	12月 30日 11時 15分	
5 覚知	12月 30日 11時 23分		6 鎮圧 応急処置完了	12月 30日 11時 45分	
7 鎮火・処理完了	12月 30日 14時 05分				
8 覚知別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン ④. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気象状況	天気：曇 風向：西南西 風速：7.5m/s 気温：11℃ 湿度：60%				
10 発生事業所	種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業		11 発生場所	区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他)	
12 施設装置			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,000L 2倍	
名称：移動貯蔵タンク	番号 (1303)	能力：【タンク容量】第4類第2石油類 (灯油) 2,000L		設置の完成：平成 29年 4月 8日 直近の完成：令和 2年 11月 11日	
13 機器等	温度圧力：	名称：貯槽 (タンク) 番号 (107)		倍数の合計：2倍	
規模：内径1,600mm、全長2,770mm、容量2,000L	14 発生箇所		17 物質の区分		
名称：タンクの注入口 番号 (905)	材質：鋼鉄		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：灯油 (5L)		
15 発生時	運転状況：移送中 番号 (18)		18 取扱者の概要		
作業状況： 番号 ()	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所が路面状況の悪い下り坂にて、車両が横転したもの					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>					

原 因	25 主 原 因 交通事故		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 天候不良により路面が濡れており、かつ、下り坂の急なカーブに差し掛かったときにブレーキをかけた際、スリップして横転し、注入口及び安全装置部分から灯油が流出したもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	交通事故		その他		その他					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 横転した移動タンク貯蔵所から灯油が幅1m、長さ2mにわたり流出		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所1台が破損。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	8 台	0 隻	0 機	25 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油 約5L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (80 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4, 5) タンク注油口付近から灯油が漏えいしていたため、漏えい防止処置を実施し、路面上に漏えいした灯油を木ライト及びACライトで処理を行った。 また、車両用歯止め及びレスキューブロックを使用して横転車両の安定化を図るとともにバッテリーの離脱を行った。					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 法第13条の23 危険物取扱者保安講習未受講					
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・点検記録等備え付けること。 ・保安講習を受講すること。 ・運行に際して、細心の注意を払うこと。 									
36 所 見	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員に対し、安全運転を徹底。 ・従業員の免状管理 ・定期点検、日常点検のほか、移送時に不具合が発生すれば直ちに停車し、適切な対応をするよう指導が必要。 ・他市許可の移動タンク貯蔵所のため、他市消防本部との連携と情報共有が必要であった。 									

1 事故名	荷卸し中、危険物取扱者の誤操作により発生した移動タンク貯蔵所上部マンホールからの重油流出事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発生	8月 15日 11時 35分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発生見	8月 15日 11時 35分
5 覚知	8月 15日 14時 15分	6 鎮圧 応急処置完了	8月 15日 15時 39分
7 鎮火・処理完了	8月 15日 15時 39分		
8 覚知別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気象状況	天気：晴 風向：南南西 風速：3.1m/s 気温：36℃ 湿度：48%		
10 発生事業所	11 発生場所		
種別： 業態：	1. 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		
	区分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 2,000L 1倍		
12 施設装置	17 物質の区分		
名称：移動貯蔵タンク 番号 (1303)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能力：・タンク容量 2,000L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(30L)		
13 機器等	18 取扱者の概要		
温度圧力：常温、常圧	経験年数25年		
名称：貯槽(タンク) 番号 (107)	1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い		
規模：・だ円形、長さ2,350+100mm、幅1,450mm、高さ800mm、容量2,000L(第1・第2室共1,000L)	③. 不要		
14 発生箇所	20 危険物保安監督者		
名称：マンホール 番号 (305)	①. 有		
材質：鋼鉄	2. 無		
15 発生時	22 設備・機器等の概要：		
運転状況：荷卸中 番号 (13)	オンラインファイル無		
作業状況：運転操作中 番号 (1)	23 事故の概要：		
<p>本件責任者である危険物取扱者(以下、「行為者」という。)は、当該槽式の移動タンク貯蔵所の運航前点検を実施し異常がないことを確認した後、重油を積み込み出発する。この時、防護枠排水口の閉塞を失念している。発生場所に到着後、荷卸しのために受入れタンクの油種と残油量を確認し給油ホースを緊結する。続いて、車両のポンプを始動しタンク上部マンホールと前後の底弁バルブを同時開放させ、後部吐出弁を開いて給油を開始する。次に、遠方注入口の漏油を確認している際、車両上部マンホールから重油の漏出を発見。油脂は防護枠から水抜き配管を伝い、敷地内の路面に流出している。行為者は、直ちに水抜きバルブを閉鎖し、タオルを用いて流出拡大防止措置を講じたが、発生場所敷地内53.85㎡を汚損した。消防機関は覚知後、危険物漏えい事故として出動し、油吸着材による吸着処理を実施する。なお、人的被害はない。</p>			
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他			

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 積み込み時に、防護枠排水口が開放状態であること。荷卸しに際しては、容量が満杯である2槽式タンクの前・後底弁バルブを同時開放したこと。さらに、吐出弁を開放する前に車両のポンプを始動したこと。これらの複合的な要因により、後部タンク室内に前部タンク室内の重油が逆流し、上部マンホールから溢れ出て、防護枠排水ドレンを伝って敷地内の路面に流出したものと推定する。なお、行為者は「暑かったので時間短縮を図ろうとして、前後の底弁バルブを同時開放した。」と供述する。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		過信				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該地下タンク貯蔵所を有する敷地内の路面を約53.85㎡汚損			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 当該移動タンク貯蔵所の車体を汚損。			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油 約30L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (22 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5) 油吸着剤（ACライト）8袋を散布し吸着処理する。						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報が遅延する（事故発生より約2時間30分後）。											
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		令和2年 1月 29日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		令和2年 1月 29日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
35 今後の対策	従業員への安全教育と作業マニュアルを徹底。										
36 所 見	積み込みから荷卸しに至る一連の作業手順は、原理原則と認識するよう徹底指導する。										

1 事故名	移動タンクから地下タンクへの荷卸しの際の誤操作に伴う危険物流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 21日 11時 30分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	12月 21日 11時 35分	
5 覚 知	12月 21日 14時 19分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 21日 15時 39分	
7 鎮火・処理完了	12月 21日 15時 39分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西南西 風速：2m/s 気温：9℃ 湿度：49%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 特定番号 (4421) 貨物自動車運送業 特定貨物自動車運送業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 14,000L 7倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 14,000L 14倍	
12 施 設 装 置			14 発 生 箇 所		
名 称： 移動貯蔵タンク	番 号 (1303)	能 力： 14,000L	14 発 生 箇 所	設置の完成： 平成 20年 6月 11日 直近の完成： 年 月 日	
13 機 器 等	温 度 圧 力：		14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分	
名 称： 貯槽 (タンク)	番 号 (107)	規 模： 14,000L	14 発 生 箇 所	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (100L)	
14 発 生 箇 所	名 称： その他	番 号 (999)	14 発 生 箇 所	18 取 扱 者 の 概 要	
材 質： 鋼鉄			14 発 生 箇 所	経験年数19年	
15 発 生 時	運 転 状 況： 荷卸中	番 号 (13)	14 発 生 箇 所	21 危 険 物 取 扱 者	
作 業 状 況： 運転操作中	番 号 (1)		14 発 生 箇 所	①. 有 2. 無	
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所への荷卸しの際、注油ホースを車両右側吐出口から切り離し、後部吐出口へ繋ぎ変えたが、右側吐出口弁を閉鎖せず、底弁操作ハンドルにて底弁を開放したことによる危険物 (重油) の流出					
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()									
	関連原因													
	発生原因の状況： 底弁開放時に未使用吐出口の閉鎖確認を怠ったこと。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層							
	人		本人の意識		思慮		思い込み							
	関連原因の詳細													
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害				28 物的被害										
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から重油100Lが流出し、うち約50Lが施設外の側溝へ流出。流出範囲は敷地境界線から北側に約150m離れた地区農業用調整池で溜まっている。						
区分														
当 事 者	0	0	0	0										
防災活動従事者	0	0	0	0										
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 被害なし						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油 100L流出				
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)				
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99) 活動なし					自衛防災・消防組織等 番号 (4) 車両積載のウェスやタオルによる雨水溝への流入防止措置及び流入した雨水溝及びマンホール内での吸着マットを使用した拡散防止措置									
31 防災活動上の問題点														
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他							
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年9月10日	年	月	日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和2年9月10日	年	月	日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日	年	月	日
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：					
その他	年	月	日	年	月	日								
35 今後の対策 作業前にチェックシート等を活用し、確認作業を行う。														
36 所 見 本案件は、普段行っていることであることから大丈夫であるといった思い込みによる事故であった。普段からどれだけ慣れている作業であっても、必ず確認を行うことが大切であることを再認識し、他事業所へ注意喚起が必要であると感じた。														

1 事故名	移動タンク貯蔵所の誤操作による軽油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 19日 10時 30分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 19日 10時 30分	
5 覚 知	3月 19日 11時 15分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 19日 11時 58分		
7 鎮火・処理完了	3月 19日 11時 58分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：快晴 風向：西南西 風速：0.5m/s 気温：17℃ 湿度：53%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番 号 (4211) 道業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力：4,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,000L 4倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模：直径2,000mm、長さ2,875mm、容量4,000L		設置の完成：平成 28年 2月 17日 直近の完成： 年 月 日	倍数の合計： 4倍	
14 発 生 箇 所	名 称：その他 番 号 (999) 材 質：その他		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：軽油 (50L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：荷卸中 番 号 (13) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要	経験年数1年	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所から地下タンク貯蔵所に荷卸しするため、地下タンク貯蔵所注油口のジョイント部に移動タンク貯蔵所の配管を緊結したところ、うまく接続されておらず接続部から漏えいした。 いったん取り外すため、移動タンク貯蔵所の配管内の軽油を移動貯蔵タンクに戻そうと吸入ポンプを 작동させたところ、地下貯蔵タンクの軽油を吸い上げてしまい、移動貯蔵タンク内でオーバーフローレスカップー弁から約50Lが流出した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 初めての場所での作業で要領が分からず、操作に不慣れであった。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 約50Lの軽油が移動タンク貯蔵所から流出し、敷地内通路にて吸着マットにて応急処置された。約10L程度が敷地内側溝に流れたが、敷地外への流出はなかった。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 被害なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性液体）軽油50L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 現場到着時、すでに吸着マットにて応急処置済みであり、調査のみ実施。				自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 吸着マット約20枚を使用して応急処置を実施。						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年10月24日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策		・機器取扱方法の周知、習得 ・保安教育の実施								
36 所 見		危険物を取り扱う者は、施設及び車両の特性を把握したうえで操作を行う必要がある。 本件は敷地内で処理ができていたが、危険物が河川等へ流出すると被害が大きくなる。 同様の事故の発生を予防するため、事業者は従業員への保安教育をしっかりと行うよう指導したい。								

1 事故名	タンクローリーが、注油用ホースを伸ばした状態で走行し、ホースの根元が外れ灯油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 5日 7時 00分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	12月 5日 7時 00分	
5 覚 知	12月 5日 7時 59分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 5日 8時 18分	
7 鎮火・処理完了	12月 5日 8時 18分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：1.9m/s 気温：4℃ 湿度：98%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力：容量2,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,000L 2倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：長さ:20m、内径:25mm、材質:ニトリルゴム(内部アース線入)		設置の完成：平成13年 4月 4日 直近の完成：平成30年 4月 12日 倍数の合計： 2倍		
14 発 生 箇 所	名 称：給油(注油)ホース 番 号 (908) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(20L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：移送中 番 号 (18) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要	経験年数0年	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 灯油を積載したタンクローリーが、注油用のホースを伸ばした状態で走行。ホースの根元が外れ、灯油約20Lがタンクローリーの荷台と路上に漏えいしたものである。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>					

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： 灯油を積載したタンクローリーが、卸先を間違えたことに気づき途中で止めたが、注油ホースを収納し忘れそのまま走行したため注油ホースの根元が外れ、灯油20Lが漏えいしたものである。		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	人	本人の知識・能力	技能・技術力
			経験不足/習熟不足
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
28 物的被害			
被災影響範囲及び拡大の状況： 灯油20Lがタンクローリーの荷台と路上（約1m×2mの範囲）に漏えいしたもの			
施設等の被害状況： 注油ホース破損			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機
消 防 団	0 台	0 隻	0 機
海上保安部	0 台	0 隻	0 機
その他の機関	0 台	0 隻	0 機
物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:1000 第2石油類 灯油20L流出			
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円			
30 実施した防災活動の状況			
公設消防機関：番号 (5)		自衛防災・消防組織等 番号 ()	
31 防災活動上の問題点			
32 施設名			
使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日
改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日
停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日
33 定期点検等			
定期・自主点検	消 防 法		そ の 他
気密試験等	令和 2 年 11 月 7 日		年 月 日
保安検査	年 月 日		年 月 日
34 当該施設に係る法令違反の有無			
有・ <input type="text" value="無"/>			
内容：			
35 今後の対策			
ローリー小口配送時における安全対策を作成、その内容について月初のミーティングで再確認をする。			
36 所 見			
事故後提出されたローリー小口配送時における安全対策を基に、管理を徹底し、今後同様の事故防止を図る必要がある。			

1 事故名	移動タンク貯蔵所横転事故に伴う減圧弁からの軽油漏えい事案				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 23日 10時 00分	推定・確定	4 発 見	12月 23日 10時 00分	
5 覚 知	12月 23日 10時 02分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 23日 11時 30分	
7 鎮火・処理完了	12月 23日 11時 50分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：35m/s 気温：5℃ 湿度：68%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 各種商品小売業 番 号 (5599) その他の各種商品小売業 (従業者が常時50人未満のもの) その他の各種商品小売業 (従業者が常時50人未満のもの)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 2,790L 2.79倍 倍数の合計： 2.79倍 設置の完成：平成 2年 2月 6日 直近の完成：平成 19年 11月 21日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303)	能 力： 3,000L		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (10L)		
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	規 模： 3,000L				
14 発 生 箇 所	名 称： その他の機器等本体 番 号 (199)		18 取扱者の概要		
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
運 転 状 況： 移送中 番 号 (18)	作 業 状 況： 番 号 ()		20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 国道を走行中に車線変更を行ったところ、車線変更した際に前方の停止車両に気付き、急ハンドルを切り車両が横転し軽油約10Lが燃料タンク及び貯槽より路上に流出した事故。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

25	主 原 因 交通事故	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： タンクが横転したことにより、減圧弁が横向きになり危険物が漏えいした。		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	交通事故	運転操作	急ハンドル
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			
被害内容等	死亡	重症	中等症
区分	軽症	死傷原因	職業又は職名
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
28 物的被害			
被災影響範囲及び拡大の状況： 横転した移動タンク貯蔵所から軽油が幅1m、長さ1mにわたり漏えいした。			
施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： 軽油約10L漏えい			損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)
30 実施した防災活動の状況			
公設消防機関：番号 (4)		自衛防災・消防組織等 番号 ()	
燃料タンクからの軽油漏えい防止措置。また関係機関への連絡を行った。			
31 防災活動上の問題点			
政 策 措 置	32 施設名		33 定期点検等
	使用停止	年 月 日	消 防 法
	改善命令等	年 月 日	そ の 他
	停止解除	年 月 日	年 月 日
	関係条項		年 月 日
	その他	年 月 日	年 月 日
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭	
34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>	
内容：			
35 今後の対策			
36 所 見			

1 事故名	移動タンク貯蔵所からの少量危険物施設（屋上設置のタンク）に注油中に、注油量を誤り通気管から重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）				
3 発 生	9月 3日 5時 50分	推定・確定	4 発 見	9月 3日 6時 25分	
5 覚 知	9月 3日 6時 31分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 3日 7時 16分	
7 鎮火・処理完了	9月 3日 7時 16分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他（ ）				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：7.3m/s 気温：27.3℃ 湿度：72%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） ②. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称：移動貯蔵タンク 番 号（1303） 能 力：3,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油,軽油 3,000L 3倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 3,000L 1.5倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：貯槽（タンク） 番 号（107） 規 模：1,800L		倍数の合計： 4.5倍		
14 発 生 箇 所	名 称：通気管 番 号（304） 材 質：鋼鉄		設 置 の 完 成：平成 22年 11月 18日 直 近 の 完 成：平成 22年 11月 1日		
15 発 生 時	運 転 状 況：荷卸中 番 号（13） 作 業 状 況：運転操作中 番 号（1）		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温[0-40℃]、高温） 分 類：第4類第3石油類（非水溶性液体） 名称：A重油(30L)	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 移動タンク貯蔵所から少量危険物施設（屋上設置のタンク）へ注油後、配管内の残油を移動タンク貯蔵所のエア装置にてタンクに圧送したところ、タンクの通気管からA重油約30Lが流出した。また、通気管から流出したA重油が、強風により敷地外地上を通行中のバイク運転手に飛散した。					
24 緊急処置の状況 有 番号（ ） 無					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()	
	関連原因					
	発生原因の状況： 荷卸し作業員の目視による在庫確認のみで、注油量を誤ったため、タンク通気管から流出した。					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	人		本人の意識		思慮	
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	1	A重油の暴露	不明
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）A重油が約30L流出						
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円						
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()		
調査活動						
31 防災活動上の問題点						
政 策 措 置	32 施設名	移動タンク貯蔵所		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	平成 30 年 11 月 20 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	平成 27 年 10 月 22 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>	
その他	警告 令和 2 年 9 月 25 日	年 月 日	内容：			
①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策	荷卸し作業前に、目視によるタンク内の残油量の確認に加え、検知棒等を使用し注油可能量の測定を行う。					
36 所 見	発生事業所の従業員の在庫量の確認を定量的に行ってから注油する量を決めて荷卸し作業を行うよう指導を行った。					

1 事故名		移動タンク貯蔵所から船舶燃料タンクへ重油を注油中に、監視不十分により海上へ流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		5月 27日 12時 25分	推定・確定	4 発 見		5月 27日 12時 27分	
5 覚 知		6月 1日 13時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了		5月 27日 20時 00分	
7 鎮火・処理完了		5月 28日 12時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：北		風速：3m/s 気温：22.3℃ 湿度：69%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド				区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 3,000L 1.5倍			
12 施 設 装 置							
名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303)							
能 力：3KL/重油							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称：固定給油(注油)設備 番 号 (911)							
規 模：ホース長30m、手動開閉ノズル							
14 発 生 箇 所				設置の完成：平成30年 4月 17日 直近の完成：平成30年 4月 17日			
名 称：給油(注油)ノズル 番 号 (909)				17 物 質 の 区 分			
材 質：鋳鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(100L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要 経験年数14年			
運 転 状 況：払出中 番 号 (10)							
作 業 状 況：監視中 番 号 (10)							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事 故 の 概 要： 旅客船の甲板で発生した事故。作業員が手動開閉式の注油ノズルを開の状態に固定し、船内の燃料注油口へ注油していたところ、注油口からノズルが外れて船内の甲板へ流出し、甲板の排水溝から船外の海上へ流出したものの。流出量約100L。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止							

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 注油ノズルを固定し、取扱者がその場から離れたため、何らかの原因により注油口からノズルが落下。離れていたことにより発見が遅れる。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	管理		監督		監視		監視がない			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から重油約100Lが流出し、船内の甲板及び海上へ流出。海上保安庁の説明によると、海上へ流出した油は岸壁沿いに広がった。範囲としては縦100m横300m。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし		
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油約100L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	1 隻	0 機	5 人	応 援	0 台	1 隻	0 機	4 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text" value=""/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (7、5) 事業所の責任者は、作業員から事故の連絡を受けた後、海上保安庁へ通報し、事業所の自衛消防隊を編成し、流出油の回収を行う。回収方法は、油吸着マット。小型船による攪拌や中和剤を使用した中和も行う。				
31 防災活動上の問題点 事業所の責任者が海上保安庁に通報した際に、通報は海上保安庁から連絡すると説明があったので、事業所から通報はしなかった。海上保安庁は、市役所に情報提供を行った。双方とも、消防への通報義務を知らなかったため、今後、消防へ連絡をするように依頼し、再発防止を行う。										
政 策 措 置	32 施設名	移動タンク貯蔵所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 2 年 5 月 20 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input checked="" type="checkbox"/> ・無 内容： 法第10条第3項製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反		
35 今後の対策	手動開閉装置を固定しないで注油すること。その他の作業等がある場合は、2名以上で作業を行い、注油の監視を怠らないこと。									
36 所見	当該事業所は、手動開閉ノズルを固定し注油する行為を、取扱い違反になると認識していたが、作業員1名の作業であるためやむを得ないと考えていた。その他の事業所においても同様の取扱いが考えられるため、今後、立入検査や講習会を利用し指導・教育を行う必要がある。									

1 事故名	移動タンク貯蔵所マンホール及び防護枠内水抜きバルブ閉め忘れによる軽油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 14日 7時 27分	推定・確定	4 発 見	3月 14日 7時 50分	
5 覚 知	3月 14日 9時 43分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 14日 13時 30分	
7 鎮火・処理完了	3月 14日 13時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：1.3m/s 気温：8.8℃ 湿度：86.6%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称：移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力：容量4,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：貯蔵所 施設別：移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,000L 4倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模：変形楕円筒型 (胴長2,605mm、幅1,860mm、高さ1,000mm、容量4,000L)		倍数の合計： 4倍 設置の完成：平成21年 9月 7日 直近の完成：平成21年 9月 7日		
14 発 生 箇 所	名 称：マンホール 番 号 (305) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：軽油 (70L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：移送中 番 号 (18) 作 業 状 況：その他 番 号 (99)		18 取扱者の概要	経験年数4年	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 前日に移動貯蔵タンクの前方マンホールより給油、後方マンホールバルブは圧抜きのため緩められていたが閉め忘れ、当日バルブ等の点検をしなかったため、防護枠内の水抜きバルブの開放にも気づかず移送開始し、移送途中の道路から配達先事業所内に軽油約70Lが流出した。なお、吸着マット及び中和剤にて応急処置を実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()										
	関 連 原 因 維持管理不十分														
	発生原因の状況： 移送貯蔵タンク後方バルブ及び水抜きバルブの閉め忘れ並びに移送前点検未実施で移送開始したこと。また、上司も気づいていたが注意及び確認していないこと。														
	主要原因の詳細														
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層								
	人		本人の意識		思慮		不注意								
	関連原因の詳細														
	人		本人の意識		思慮		不注意								
	管理		組織		記録		記録されない/保存されない								
管理		リスクアセスメント		危険意識		危険に対する認識がない/不足									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から															
27 人的被害						28 物的被害									
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 移送中の移動タンク貯蔵所が、荷卸先から約600m道路まで合計約70L軽油を漏えいした。	
区分															
当 事 者		0		0		0		0						施設等の被害状況： なし	
防災活動従事者		0		0		0		0							
第 三 者		0		0		0		0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況															
消 防 機 関		3 台 0 隻 0 機 11 人		自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人		物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油約70L流出							
消 防 団		0 台 0 隻 0 機 0 人		共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人									
海上保安部		0 台 0 隻 0 機 0 人		応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人									
その他の機関		0 台 0 隻 0 機 0 人		その他		0 台 0 隻 0 機 0 人		損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (36 万円)							
30 実施した防災活動の状況															
公設消防機関：番号 (99) 漏えい状況の調査						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 発災事業所従業員等で吸着マットなどを使って除去作業を行った。									
31 防災活動上の問題点															
発見から通報までに1時間50分ほど時間を要している。自分たちでどうにか処理しようとしたため通報が遅れた。今後、業務開始前に「燃料配送時における業務マニュアル」に沿って点検を行うこととした。															
行政措置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他						
	使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和2年 3月 18日		年 月 日				
	改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和2年 4月 3日		年 月 日				
	停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日				
	関係条項						34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無 内容： 法第10条第3項						
その他		不備事項について警告を行った 令和2年 3月 24日		年 月 日											
①. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭													
35 今後の対策		・移送前点検マニュアルの作成 ・定期点検の実施 ・漏れの点検の実施													
36 所 見		移送前の点検をすることの重要性を同様の施設に周知してもらい、同様の事故防止に努める。													

1 事故名	営農タンクに注入中の移動タンク貯蔵所の横転による重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 15日 10時 50分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 15日 10時 50分	
5 覚 知	4月 15日 11時 48分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 15日 13時 27分	
7 鎮火・処理完了	4月 15日 13時 27分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：3.2m/s 気温： 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 複合サービス業 協同組合(他 番 号 (7911) に分類されないもの) 農林水 産業協同組合(他に分類され ないもの) 農業協同組合(他 に分類されないもの)				11 発 生 場 所
					区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：
			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,000L 1.5倍	
12 施 設 装 置	名 称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力： 移動タンク貯蔵所 A重油 3,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 容量：3,000L 寸法：全長2,470mm 胴長2,320mm 長径1,850mm 短径950mm 鏡出75mm				
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908) 材 質： ゴム				
15 発 生 時	運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)				
	設置の完成： 平成 22年 8月 6日 直近の完成： 令和 元年 12月 24日				倍数の合計： 1.5倍
	17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： A重油(10L)				
	18 取 扱 者 の 概 要				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要：	営農用タンクに重油を注入していたところ、当該車両が動き出し、後方のガードレールに衝突し車両が横転。その衝撃で注入ホースが切断され、ホース内に残っていた重油約10Lが路上に流出した。また、横転によりタンクの変形が生じたものである。				
24 緊 急 処 置 の 状 況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止				

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 監視不十分									
	発生原因の状況： 傾斜路に停車していた移動タンク貯蔵所が、確実なサイドブレーキが甘かったか、車輪止めをしていなかったため動き出し、約30mほど下った後方のガードレールに衝突・横転。その衝撃で注入ホースが切断され、ホース内に残っていた重油が流出したものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	管理		リスクアセスメント		危険意識		安全装置・標示等が提供/使用されない/不適切			
	関連原因の詳細									
	管理		監督		監視		監視が実施されない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 横転し破損した注入ホースから、ホース内に残っていた重油約10Lが事故現場路上に漏えいした。流出範囲は車両及び機器から1m以内であった。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 注入ホースの根元からの切断及びタンクの変形(タンクからの流出は無し)			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 第3石油類 (非水溶性液体) 名称：重油 約10L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	8 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) 油吸着マット150枚及びオイルドライ散布						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和元年9月2日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	平成27年5月11日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無		
その他	年 月 日	年 月 日		内容：						
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 荷卸等停車時の車両の固定(確実なサイドブレーキ又は車輪止めの措置)の徹底										
36 所 見 不安定な場所(傾斜路)での取扱いについて、法令以外の基本的な安全対策を指導。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所の注油ホースが注油中に破れたことにより重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 22日 9時 00分	<input checked="" type="checkbox"/> 推定・確定	4 発 見	10月 22日 18時 00分	
5 覚 知	10月 22日 18時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 22日 19時 37分	
7 鎮火・処理完了	10月 22日 19時 37分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北東 風速：0.4m/s 気温：20.3℃ 湿度：97.6%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 複合サービス業 協同組合(他 番 号 (7911) に分類されないもの) 農林水 産業協同組合(他に分類され ないもの) 農業協同組合(他 に分類されないもの)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 貯蔵所 施設別： 移動タンク貯蔵所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 3,000L 1.5倍 倍数の合計： 1.5倍 設置の完成： 平成 14年 12月 19日 直近の完成： 年 月 日	
12 施 設 装 置			名称： 移動貯蔵タンク 番 号 (1303) 能 力： 容量3,000L		
13 機 器 等	温度圧力： 1MPa		名称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 長さ10m 内径25mm		
14 発 生 箇 所	名称： 給油(注油)ホース 番 号 (908) 材 質： ゴム		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油(10L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 小分け・詰替中 番 号 (13)		18 取 扱 者 の 概 要	経験年数0年	
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所から少量危険物の屋外タンク(重油)へ注油中、注油ホースが破れ、破れた箇所から重油が約10L流出し、河川へ流れ込んだもの。なお、吸着マットを使用し応急措置を実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号(10) 無 その他					

25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()	
関 連 原 因					
発生原因の状況： 長期間の使用で注油ホースに亀裂が入った状態を知りつつも、継続して使用したことにより注油ホースが圧力に耐えることができず、注油ホースが破れ流出したものである。					
主原因の詳細					
第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
管理		リスクアセスメント		危険意識	
				危険に対する認識がない/不足	
関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から					
27 人的被害				28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症
区分					死傷原因
当 事 者	0	0	0	0	職業又は職名
防災活動従事者	0	0	0	0	
第 三 者	0	0	0	0	
被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重油が事業所内の用水路から河川に流れ込み、約2kmにわたり拡散した。					
施設等の被害状況： 移動タンク貯蔵所の注油ホースが破損。					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況					
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	14 人	その他
物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油 約10L流出。					
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円					
30 実施した防災活動の状況					
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()	
発生から覚知まで時間を要したため、調査活動を実施した（吸着マット等の応急措置は関係者により実施済み）。					
31 防災活動上の問題点					
作業員は流出した重油の量が10L程度で応急措置も実施したため、敷地外へ拡大するとは思わず通報を怠り、覚知するまで約9時間を要した。夜間で降雨という天候で流出範囲の状況調査を行うことが困難であった。					
32 施設名		33 定期点検等		消 防 法	
使用停止		年 月 日		年 月 日	
改善命令等		年 月 日		年 月 日	
停止解除		年 月 日		年 月 日	
関係条項		34 当該施設に係る		有・無	
その他		年 月 日		内容： 法第10条第3項 定期点検記録未積載（危令第26条第1項第9号）	
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策					
・消耗品等車両機材の点検・整備は定期的に行い、内容・対応を運行日誌に記録する。 ・危険物取扱部署・施設ごとに事故時対処訓練を定期的に行い、安易な過小判断が起らないようにする。 ・報告・連絡・相談を徹底し、迅速に対応する体制を構築する。					
36 所 見					
当該流出事故は、注油中の不注意であり、危険物取扱時において管理不十分が一番の原因と考察できる。危険物が流出し拡散防止する応急措置は認めるが、定期点検記録未積載や通報を怠るなど不備事項があるため、事故の再発防止策と今後の対応を文書で報告するように指導した。					

7 給油取扱所

1 事故名	給油取扱所で顧客自らが給油ノズルで給油中に、監視不十分により発生したガソリンの流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 19日 15時 25分	推定・確定	4 発 見	1月 19日 15時 25分	
5 覚 知	1月 19日 15時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 19日 17時 00分	
7 鎮火・処理完了	1月 19日 17時 46分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：2.7m/s 気温：-3℃ 湿度：74%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 28,000L 140倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 19,600L 19.6倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力： 給油取扱所(セルフ) ガソリン28,000L 軽油10,000L 灯油19,600L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： 第4類第1石油類 ガソリン(50L) 倍数の合計： 169.6倍				
13 機 器 等 温度 圧 力：	18 取 扱 者 の 概 要 経験年数5年				
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)	①. 選任有 2. 選任無				
規 模： 吐出量(使用最大流量)：標準(ガソリン)30L/min 標準(軽油)40L/min 中高速(灯油)60L/min	20 危 険 物 保 安 監 督 者 ①. 有 2. 無				
14 発 生 箇 所	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い				
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)	①. 有 2. 無				
材 質： ステンレス					
15 発 生 時					
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)					
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)					
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 顧客自ら給油等をさせる給油取扱所において、顧客が普通乗用車に給油ノズルを用いて、ハイオクガソリンを30L程度で停止させようと給油ノズルレバー(基準を満たすラッチオープンノズル)を操作したが給油停止に至らず、インターフォンで従業員にポンプ停止を求めたが、監視室に従業員は不在で応答せず、別の計量器で給油中の顧客が屋外で灯油荷卸し中の従業員に知らせた。その間、顧客は給油ノズルを給油口から抜き、北西側道路方向へ向けていたところから従業員が駆け付け、計量器のノズル掛けの停止スイッチを押し、ポンプ停止に至った。計量器メーターは82.05Lを示しており、ハイオクガソリン約50Lが給油空地内約27㎡の範囲で漏えいしたものである。					
24 緊 急 処 置 の 状 況 有 番 号 () 無					

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()	
	関連原因					
	発生原因の状況： 顧客自らによる給油作業を監視し使用状況を視認すべきところ、その場を離れ、緊急時に行うべき緊急停止スイッチの操作が行えず発生したもの					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	人		本人の意識		違反（故意）	
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： 第4類第1石油類 ガソリン 約50L漏えい						
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円						
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (4, 5) 油吸着マット43枚を使用し、危険物の除去及び拡散を防止する。 流出した危険物が施設外へ出ていないことを確認した。				自衛防災・消防組織等 番号 ()		
31 防災活動上の問題点						
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：		
35 今後の対策		1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭				
36 所 見	本件は、従業員（危険物取扱者）が顧客自らによる給油作業を監視し使用状況を視認すべきところ、制御卓で顧客が要請した油種のポンプを起動した後、その場を離れ、灯油の荷卸し作業を行っていたことから、緊急停止措置を行わず発生した人的要因のうち監視業務不十分にあたるもの。 当該従業員への聞き取りを行い、事業所へ再発防止のために勤務体制の見直しを図ること及び監視業務の強化を指導。 当該従業員に対して、危険物取扱者違反処理を実施。					

1 事故名	給油取扱所における固定給油設備満量停止装置不具合に起因するガソリンの流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 14日 19時 19分	推定・確定	4 発 見	3月 14日 19時 19分	
5 覚 知	3月 16日 8時 45分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 14日 19時 19分	
7 鎮火・処理完了	3月 16日 8時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：1m/s 気温：5℃ 湿度：87%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 96,000L 480倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 48,000L 48倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 48,000L 48倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力： タンク容量192,000L (48,000L4基 (ガソリン：96,000L、軽油：48,000L、灯油：48,000L))	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(1L)				
13 機 器 等 温 度 圧 力：	18 取 扱 者 の 概 要				
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	①. 選任有 2. 選任無				
規 模： 固定給油設備流量 ガソリン：25~30L/m、軽油：40L/m	20 危 険 物 保 安 監 督 者				
14 発 生 箇 所	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い				
名 称： 車両の給油口 番 号 (906)	①. 有				
材 質： 鋼鉄	2. 無				
15 発 生 時	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：				
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)	オンラインファイル無				
作 業 状 況： 番 号 ()	23 事 故 の 概 要：				
	顧客自らによる給油中、給油口からガソリンが吹きこぼれたもの。当該給油取扱所従業員からの通報により覚知した。				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
24 緊 急 処 置 の 状 況	有 番 号 () 無				

25	主 原 因 故障	着火原因	番号 ()
原 因	関 連 原 因		
	発生原因の状況： 固定給油設備満量停止装置の不具合又は顧客の給油ノズルの差し込み方法の不適により満量停止装置が作動しなかったもの		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	故障	機能	機器の機能の停止
	関連原因の詳細		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から			
27 人的被害			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
28 物的被害			
被災影響範囲及び拡大の状況： 流出したガソリンは、固定給油設備付近の給油空地上にとどまり、施設外への流出はない。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況			
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： 第4類 第1石油類（非水溶性）1L流出			
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)			
30 実施した防災活動の状況			
公設消防機関：番号 ()		自衛防災・消防組織等 番号 ()	
31 防災活動上の問題点			
政 策 措 置	32 施設名		33 定期点検等
	使用停止	年 月 日	消 防 法
	改善命令等	年 月 日	そ の 他
	停止解除	年 月 日	年 月 日
	関係条項		年 月 日
その他	年 月 日	年 月 日	34 当該施設に係る 法令違反の有無
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭	
有・ <input type="text" value="無"/>			
内容：			
35 今後の対策			
保安教育の再徹底			
36 所 見			
事業所における日常的な点検の励行等、保安教育の再徹底を指導した。			

1 事故名	船舶給油取扱所の埋設配管が腐食により穿孔し重油が土壌及び海上へ流出したもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	5月 10日 11時 00分
5 覚 知	5月 11日 10時 56分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 11日 12時 20分
7 鎮火・処理完了	5月 13日 9時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南西 風速：2.2m/s 気温：9℃ 湿度：100%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：複合サービス業 協同組合(他 番 号 (7912) に分類されないもの) 農林水 産業協同組合(他に分類され ないもの) 漁業協同組合(他 に分類されないもの)	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 100,000L 50倍		
12 施 設 装 置	名称：その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力：		
13 機 器 等	温度圧力： 名称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：80A、20m 倍数の合計： 50倍		
14 発 生 箇 所	設置の完成：昭和46年 11月 27日 直近の完成：平成23年 9月 21日		
名称：給油管等 番 号 (907) 材 質：鋼鉄	17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(200L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況：貯蔵・保管中 番 号 (7) 作 業 状 況： 番 号 ()	19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い 1. 有 ②. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 港内に重油及び油臭が確認されたため、船舶給油取扱所フランジ配管部の点検升を確認したところ、埋設配管より重油が漏えいしていたもの。船舶給油取扱所フランジ配管部の点検升からは重油200Lがくみ取られ、港内に確認された油膜はオイルフェンスの設置及び吸着マットの使用、油処理剤の散布にて防除措置している。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他			

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 穿孔した配管は沿岸近傍及び粘土層に埋設されており、配管溶接部付近の防食被覆が経年により剥離していたため、電食により穿孔したもの						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	腐食	防食	防食塗装・被覆剥離（経年による剥離）				
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	28 物的被害
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出油が土壌に浸透し、事業所の敷地境界線（岸壁）から海面に1m程流出。
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 船舶給油取扱所埋設配管の穿孔（0.5mm）
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	1 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油 200L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	1 隻	0 機	5 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号（ 4、5、6 ）				自衛防災・消防組織等 番号（ ）			
施設配管バルブの全閉止を確認。 2か所の排水溝から油膜の流出が継続していたため、1か所についてはオイルフェンスを展開、もう1か所については吸着マットを詰め閉止した。確認できる油膜、排水溝付近岸壁に処理剤を散布し拡散した。							
31 防災活動上の問題点 発見から通報まで丸1日経過していることから、早期に処置の完了とならなかった。							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	平成 28 年 8 月 24 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：			
35 今後の対策	施設職員による点検・計測の回数を増やした。						
36 所 見	定期的に点検をし、異常があった場合はすぐに消防機関へ通報するよう指導。						

1 事故名	給油取扱所の固定給油設備のホースが経年劣化により亀裂が生じ、ガソリンが流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 17日 16時 40分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	5月 17日 16時 40分	
5 覚 知	5月 17日 18時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了		5月 17日 19時 10分	
7 鎮火・処理完了	5月 17日 19時 10分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：7m/s 気温：10℃ 湿度：61%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の卸売業 番 号 (5499) 他に分類されない卸売業 他に 分類されないその他の卸売業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 60,000L 300倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 30,000L 30倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 30,000L 30倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	能 力： タンク容量 120,000L (60,000L2基 (ガソリン：60,000L、軽油：30,000L、灯油：30,000L))	13 機 器 等	温度圧力： 名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911) 規 模： 固定給油設備流量 ガソリン：25~30L/m、軽油：40L/m 倍数の合計： 360倍		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908)	材 質： ゴム	設置の完成： 平成 18年 12月 20日 直近の完成： 年 月 日		
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)	作 業 状 況： 番 号 ()	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(1L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 給油取扱所において顧客自らが給油中、給油ノズルと給油ホースの接続部付近において、ホースに亀裂が生じ、当該亀裂の部分から給油空地、顧客及び車両にガソリンが飛散したもの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25		主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()		
原 因	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 給油取扱所において顧客自らが給油中、給油ノズルと給油ホースの接続部付近において、ホースに亀裂が生じ、当該亀裂の部分から給油空地、顧客及び車両にガソリンが飛散したものと											
	主要原因の詳細											
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層		
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害							28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	被災影響範囲及び拡大の状況：					
区分							給油取扱所において顧客自らが給油中、給油ノズルと給油ホースの接続部付近において、ホースに亀裂が生じ、当該亀裂の部分から給油空地、顧客及び車両にガソリンが飛散したものと。敷地内の流出に留まり、公共下水等への被害なし。					
当 事 者		0	0	0	0		施設等の被害状況：					
防災活動従事者		0	0	0	0		なし					
第 三 者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン1L		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	顧客の衣服等		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (2 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()						
調査活動												
31 防災活動上の問題点												
32	施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>					
その他	年 月 日	年 月 日		内容：								
35		日常点検の励行、通報等の保安教育実施										
今後の対策												
36		設備の破損箇所について、当該給油取扱所においては、施設の点検が適正に行われ、事故の未然防止についての措置はとられていたものと推測する。監視の状況について、事故発生時において、屋外の従業員が直ちに緊急停止装置の作動を行っていることから、監視不十分とは言いがたい。事故発生後において、通報を失念したものであるが、これは事故に対する対応を優先したものであり、事後の措置については迅速且つ的確に行われている。しかし、当該給油取扱所における保安の体制等について見直す必要はあると史料する。										

1 事故名	給油取扱所（屋内・セルフ）において、顧客が給油中にガソリンが流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）		
3 発 生	6月 19日 10時 15分 推定・ 確定	4 発 見	6月 19日 10時 15分
5 覚 知	6月 19日 10時 15分	6 鎮 圧 応急処置完了	6月 19日 11時 00分
7 鎮火・処理完了	6月 19日 13時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他（消防職員が立入検査実施中に発生し、覚知）		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北西 風速：3.4m/s 気温：16℃ 湿度：84%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号（5231） 金属材料等卸売業 鉱物・金属 材料卸売業 石油卸売業	区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 96,000L 480倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 53,000L 53倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 48,000L 48倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 5,000L 2.5倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 583.5倍		
名 称： その他【分類なし】 番号（9999）	設置の完成：平成14年 7月 25日		
能 力： ガソリン 96,000L、灯油 53,000L、軽油 48,000L、廃油 5,000L	直近の完成： 年 月 日		
13 機 器 等	温度圧力：0.1MPa		
名 称： 固定給油（注油）設備 番号（911）	17 物 質 の 区 分		
規 模： 流量 50L/m	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、 液相 、気相）（常圧、 加圧 ） （低温、 常温 [0-40℃]、高温） 分類： 第4類第1石油類（非水溶性液体） 名称： ガソリン(6L)		
14 発 生 箇 所	18 取扱者の概要		
名 称： 給油（注油）ノズル 番号（909）	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
材 質： その他	21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
15 発 生 時	①. 有 2. 無		
運 転 状 況： 給油中 番号（8）			
作 業 状 況： 番号（ ）			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有			
23 事故の概要： 給油取扱所において、従業員（有資格者）監視下で顧客が自動二輪車に給油中、何らかの原因によりガソリン6L以上が流出したもの			
24 緊急処置の状況 有 番号（ 1 ） 無 装置の緊急停止			

原因	25 主 原 因 不明		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： 事故後、製造メーカーにより固定給油設備の点検を実施したが異常が見られなかったことから、顧客の誤操作が考えられるが、顧客は「ノズルを深く差し込みラッチをかけノズルから手を離した。給油中目を離していない、継ぎ足し給油もしていない。オートストップノズルが作動せずガソリンが溢れた。ガソリンが溢れてすぐにラッチを解除しノズルを固定給油設備に戻した。」と供述していることから原因不明とする。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： ガソリンは、給油取扱所内敷地内に流出し、敷地外へ流出しなかった。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 固定給油設備を点検するも異常なし。			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン6L以上が流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
流出油処理、事故調査										
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和元年8月5日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	平成31年2月27日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る			有・ <input type="checkbox"/> 無		
その他	年 月 日	年 月 日		法令違反の有無			内容：			
	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策										
流出油処理剤の常備										
36 所 見										
今回の事故は、危険物取扱者が他の固定給油設備を監視するため5秒程度目を離した間に起きた事故であり、当該固定給油設備は事故後の点検でも異常はなかったことから、未然に防ぐことは難しかったと考える。しかし、流出したガソリンの処理については、今回は施設に常備のウエスで応急措置を行うことができたが、更に多くの危険物が流出した場合対処しきれないため、今後は油処理剤等を常備するべきである。										

1 事故名		給油取扱所（セルフ・屋内）において、埋設配管から灯油が流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）									
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定			4 発 見		6月 29日 15時 25分				
5 覚 知		6月 29日 15時 27分			6 鎮 圧 応急処置完了		6月 29日 15時 27分				
7 鎮火・処理完了		7月 20日 10時 10分									
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他（ ）									
9 気 象 状 況		天気： 不明		風向： 風向不明		風速：		気温：		湿度：	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号（ 6031 ） 燃料小売業 ガソリンスタンド				区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：							
				16 発生施設規制区分等							
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 40,000L 200倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 30,000L 30倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 30,000L 30倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍				倍数の合計： 261倍			
12 施 設 装 置											
名 称： その他【分類なし】 番 号（ 9999 ）											
能 力： ガソリン40,000L、灯油30,000L、軽油30,000L、廃油2,000L											
13 機 器 等				温度圧力： 0.1MPa							
名 称： 配管（送油、注入管等） 番 号（ 606 ）											
規 模： 25Aポリエチレン被覆鋼管											
14 発 生 箇 所											
名 称： その他の附属配管等 番 号（ 299 ）								設置の完成： 平成 4年 2月 24日 直近の完成： 令和 2年 7月 20日			
材 質： 鋼鉄								17 物 質 の 区 分			
								①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温[0-40℃]、高温） 分類： 第4類第2石油類（非水溶性液体） 名称： 灯油(8,522L)			
15 発 生 時								18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号（ 1 ）								①. 選任有 2. 選任無 3. 不要			
作 業 状 況： 番 号（ ）								21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い			
								1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有											
23 事 故 の 概 要： 地下貯蔵タンクとボイラーを接続する配管の埋設部から灯油8,522L程度が流出したもの。 なお、令和元年5月頃から流出が疑われる状況が続いており、消防機関が覚知するまで1年以上要している。											
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号（ 1 ） 無 装置の緊急停止											

25		主 原 因 不明				着火原因				番号 ()			
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 地下埋設配管は、設置から28年以上経過していることから、腐食等経年劣化が疑われるが、流出箇所が特定できなかったこと、一部掘削した埋設配管は被覆が保たれており外観上支障ないことから原因は不明とした。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害							28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 事故発生箇所付近の土壌に流出。事業所外への流出なし。					
区分													
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 事故発生箇所付近の土壌汚染					
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油8, 522Lが流出。			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (76 万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
31 防災活動上の問題点													
32 行 政 措 置	施設名					33 定期点検等				消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和 2 年 4 月 17 日	年 月 日			
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	平成 29 年 9 月 11 日	年 月 日			
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年	月	日	年	月	日							
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭													
35 今後の対策 異常が見られた際の関係者間での情報等の共有について、社内マニュアルを改定し、周知徹底を図る。													
36 所 見 定期点検は適正に実施（在庫管理の計画届け出により漏れ点検を3年に1回としていた）しており、在庫管理も実施していたが、在庫管理状況の異常に気付いてから、情報の伝達や共有等の社内ルールが機能せず流出に気付くまでに1年近く要し、被害が拡大したと考えられる。今後、危険物施設関係者と接触する際には、今回の事故事例を周知し、日常点検や管理を慎重に行い、在庫量に不自然な増減が見られる場合には、流出を視野に入れて各種点検を行うことを指導する。													

1 事故名	給油取扱所で移動タンク貯蔵所のタンク上部マンホールへ軽油ノズルにて注油後マンホールから軽油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	9月 20日 7時 28分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	9月 20日 7時 46分
5 覚 知	9月 20日 8時 27分	6 鎮 圧 応急処置完了	9月 20日 10時 08分
7 鎮火・処理完了	12月 25日 11時 00分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇	風向：南東	風速：3m/s 気温：18℃ 湿度：60%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 建設業 総合工事業 一般土木 番 号 (611) 建築工事業 一般土木建築工事業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 2,850L 2.85倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,500L 9.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 6,650L 6.65倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： タンク容量 20,000L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (2,000L)		
13 機 器 等 温度圧力：	18 取扱者の概要 経験年数0年		
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有		
規 模： 内径1,430mm、全長6,560mm、容量9,500L	3. 不要		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
名 称： 給油 (注油) ノズル 番 号 (909)	23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所を給油取扱所に停車させ、タンク上部のマンホール2か所を開放し、軽油ノズルを2本使用し注油していた。注油中にその場を離れ、他の場所で仕事をしているうちに注油していたことを忘れ、気づいて給油取扱所に戻った時には注油は止まっており、移動タンク貯蔵所のタンク内は満タンで地面には軽油が溢れた跡が残っている状態であった。敷地及び河川に軽油約2,000Lが流出した。その後上司に相談し、消防署に通報が行われていた。なお、吸着マットを使用し、応急処置を実施した。		
材 質： 鋼鉄	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他		
15 発 生 時			
運 転 状 況： 荷積中 番 号 (12)			
作 業 状 況： その他 番 号 (99)			

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 設計不良									
	発生原因の状況： 給油取扱所にて移動タンク貯蔵所タンク上部マンホールに給油取扱所の給油設備軽油ノズルを使用し注油を行う（当該設備に軽油の注油設備は設置されていない。）、その際に注油したままの状態での場を離れてしまったため上部マンホールより軽油があふれ出した。なお、発見時の給油取扱所のタンク内は空の状態であった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	管理		監督		監視		監視がない			
	管理		組織		人員配置（役割・責任）		人の配置が不適切			
	制度		教育・訓練		内容		教育・訓練がない/不足			
	関連原因の詳細									
	設計不良		機能		機器を使用条件どおりに使用しない					
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が施設側溝から河川に約4kmにわたり流れ込んだ。 施設等の被害状況： 油が流出した河川の汚染		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油2,000L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (24 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	自家用給油取扱所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 2 年 9 月 20 日	年	月	日	定期・自主点検	令和 2 年 4 月 21 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年	月	日	気密試験等	令和 元 年 5 月 20 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年	月	日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策	従業員に事故発生状況を説明し危険物取扱者以外への危険物等の取扱い禁止徹底を実施。									
36 所 見	危険物施設の使用実態を把握する。									

1 事故名	自家用給油取扱所の専用タンクへの注入管の埋設部分腐食による軽油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	10月 14日 12時 00分		
5 覚 知	10月 29日 10時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	10月 29日 16時 15分		
7 鎮火・処理完了	1月 18日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：西 風速：1m/s 気温：8℃ 湿度：90%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：運輸業 運輸に附帯するサービ 番 号 (4852) ス業 運輸施設提供業 道路運 送固定施設業	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他)				特別防災地区名：
	16 発生施設規制区分等				
施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,000L 4倍					
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成：平成 2年 9月 11日 直近の完成：平成 2年 9月 11日				倍数の合計： 4倍
能 力：タンク容量 軽油 4,000L	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油				
13 機 器 等	18 取扱者の概要				
温 度 圧 力：常温、常圧	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				21 危険物取扱者の の取扱・立会い
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	①. 有 2. 無				
規 模：管口径 65A					
14 発 生 箇 所	19 危険物保安 統括管理者				
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				20 危険物 保安監督者
材 質：その他					
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要：				
運 転 状 況：その他 番 号 (99)	オンラインファイル無				
作 業 状 況： 番 号 ()	23 事 故 の 概 要：				
給油取扱所の地下埋設配管の漏れの点検(加圧試験)を実施したところ、注入管に圧力低下の異常が確認された。さらに専用タンクの周囲4か所に設けられた漏えい検知管を確認したところ、2か所から油分及び油臭を検知した。注入管の敷設ラインの掘削作業を実施し、その結果、注入管の溶接継手(エルボ)部材の中央部に直径20mmの腐食せん孔を確認し、その周囲の土壤に危険物が浸透していることを確認した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 地下埋設配管の防食塗覆層が何らかの原因で劣化し、配管表面が露出し腐食が進行したことによりせん孔が発生し、危険物が土壌に流出したものと推定される。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離（経年による剥離）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏れた危険物が施設内及び施設周辺の土壌100m ³ を汚染した。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 注入管の破損、漏れた危険物により専用タンクの塗覆層が浸食され、一部融解した。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油 流出量不明	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (3,000 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点 事業所従業員の認識不足により通報が遅延した。											
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年10月14日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和2年10月14日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年	月	日	年	月		日				
35 今後の対策 設置者は復旧工事を断念し、施設の廃止届がなされた。今後は、同一場所に同規模の給油取扱所を新たに設置するとの意向があった。組織としての危険物施設の日常的な点検・管理の取行についての体制整備を行う意向を確認した。											
36 所 見 当該事業所に対し、日常的な点検・管理について指導したところであるが、管内他事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める。											

1 事故名	給油取扱所において、給油中の車両の給油口からノズルが落ち、ガソリンが流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	11月 8日 8時 06分 推定・ 確定	4 発 見	11月 8日 8時 06分
5 覚 知	11月 13日 9時 15分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 8日 10時 00分
7 鎮火・処理完了	11月 8日 10時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：0.7m/s 気温：7.8℃ 湿度：68.3%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 その他)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	特別防災地区名：その他		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 30,000L 30倍		
12 施 設 装 置	設置の完成：平成19年 11月 12日 直近の完成：平成27年 1月 15日		
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)			
能 力：給油取扱所 タンク容量：軽油30,000L			
13 機 器 等	温度圧力：		
名 称：固定給油(注油)設備 番 号 (911)			
規 模：GAB3444型 2,300×1,280×530	倍数の合計：30倍		
14 発 生 箇 所	設置の完成：平成19年 11月 12日 直近の完成：平成27年 1月 15日		
名 称：給油(注油)ノズル 番 号 (909)	17 物 質 の 区 分		
材 質：アルミニウム	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(15L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要 経験年数7年		
運 転 状 況：給油中 番 号 (8)			
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有			
23 事 故 の 概 要： 11月8日8時6分ごろ、給油取扱所の固定給油設備において、従業員が車両へ軽油を給油中、他の車両へ給油をするためその場を一旦離れ対応中、当該給油所を通りかかった運転手から給油中であった車両の給油口から給油ノズルが地面に落ちて流出していることを知らされ、直ちに給油を停止した。その後、応急処置として流出した軽油を吸着マットや散水栓からの水を撒いて水切りワイパーで小排水溝へ流し込み、油分離槽へ溜めて一時的に処理した。同日8時25分、携帯電話にて同社上司へ報告し8時30分、現場へ臨場している。車両の燃料タンクに付着した軽油を除去、一時的に油分離槽に溜めた軽油を吸着マットで処理し、10時00分に作業を終了している。流出した軽油量は、現場の流出状況や時間経過、油分離槽から吸着マットで回収した量を換算して約15Lとしている。			
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無			

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 監視不十分							
	発生原因の状況： 給油の際、サイドバンパーが給油口の直近にあることから給油口への給油ノズルの差し込みが浅く、給油ホースの撓みもあり、給油時から4mの給油ホースにねじりの力が加わっていたことから、このねじりの復元力によりゆっくりと給油ノズルが給油口から外れ、そのまま衝撃なく地面に落下したことにより、安全装置が機能せず継続して流出したと推定する。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		配慮不足	
	人		本人の意識		思慮		過信	
	管理		組織		人員配置（役割・責任）		人の配置が不適切	
	関連原因の詳細							
	管理		組織		人員配置（役割・責任）		メンバー構成が不適切	
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						28 物的被害		
消 防 機 関		0台 0隻 0機 0人	自 衛		0台 0隻 0機 0人	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油空地内に給油ノズルから流出した軽油約15L @ ¥80.4 計1,206円		
消 防 団		0台 0隻 0機 0人	共 同		0台 0隻 0機 0人	施設等の被害状況： なし		
海上保安部		0台 0隻 0機 0人	応 援		0台 0隻 0機 0人			
その他の機関		0台 0隻 0機 0人	その他		0台 0隻 0機 0人	物質の被害状況： 第4類 第2石油類（非水溶性） 軽油 15L流出		
						損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 覚知後、実況見分、質問記録を行い消防内部報告後、厳重注意処分とする。				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 応急処置として流出した軽油を吸着マットや散水栓からの水を撒いて水切りワイパーで小排水溝へ流し込み、油分離槽へ溜めて一時的に処理した。同日8時25分、携帯電話にて同社上司へ報告し8時30分、現場へ臨場している。車両の燃料タンクに付着した軽油を除去、一時的に油分離槽に溜めた軽油を吸着マットで処理し、10時00分に作業を終了している。				
31 防災活動上の問題点 消防機関へ通報するまで5日間要した。また、他機関からの助言により通報に至る。事故発生の報告をすることを失念していたため、関係機関への情報提供が大幅に遅れた。								
行政措置	32 施設名		給油取扱所		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止		年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		年 月 日	年 月 日
	改善命令等		年 月 日	年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日
	停止解除		年 月 日	年 月 日	保安検査		年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>	
その他		令和2年11月27日 ①. 文書 2. 口頭		年 月 日 1. 文書 2. 口頭		内容：		
35 今後の対策		1. ノズルのかかりが悪い時はその場を離れず手で支える。 2. やむを得ずその場を離れる際は、一度給油を停止する。 3. 漏えい等事故が発生した場合は上司及び消防等、関係各所に連絡をする。 4. 全スタッフへ事故の周知及び予防規程の再確認を実施。						
36 所 見		消防機関への通報が遅延したが、軽油流出に対して二次災害防止を直ちに実施しその後、事業所内で早期に再発防止を講じ実践している。						

1 事故名	自家用給油取扱所において、軽油を給油中に給油ノズルの故障により、車両の給油口から軽油があふれ敷地外に流出						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	11月 17日 3時 55分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	11月 17日 9時 30分			
5 覚 知	11月 17日 11時 09分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 17日 14時 35分			
7 鎮火・処理完了	12月 3日 10時 00分						
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：雪		風向：南西		風速：4m/s		気温：1℃ 湿度：95%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一般 番号 (4412) 貨物自動車運送業 特別積合せ 貨物運送業			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍		
12 施 設 装 置				13 機 器 等			
名 称： その他【分類なし】	番 号 (9999)	名 称： 固定給油 (注油) 設備	番 号 (911)	材 質： 鋼鉄	番 号 (906)	18 取扱者の概要	経験年数12年
能 力： タンク容量 軽油 10,000L		規 模： 固定給油設備 流量 軽油 75L/m		運 転 状 況： 給油中	番 号 (8)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (264L)	倍数の合計： 10倍 設置の完成： 昭和 49年 11月 6日 直近の完成： 平成 21年 9月 8日
				作 業 状 況：	番 号 ()		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者		1. 有 ②. 無			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 自家用給油取扱所において給油中、給油ノズルの満量停止装置が作動せず車両の給油口から軽油があふれたもの。作業員(無資格者)はノズルを給油口に差し込んだ後、手動開放装置を開放状態で固定し、その場を5分程度離れており、その間に発生した。なお、貯留設備が有効に機能しなかったことから施設外及び河川に流出した。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input checked="" type="checkbox"/> 無							

25	主 原 因 故障		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 給油ノズルの流量停止装置が作動しなかったことから発生し、貯留設備が有効に機能しなかったことから施設外及び河川に流出した。 作業者(無資格者)はノズルを給油口に差し込んだ後、手動開放装置を開放状態で固定し、その場を5分程度離れており、その間に流出が発生した。なお、このとき有資格者の立会いはなかった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
故障		機能		機器の機能の停止						
因	関連原因の詳細									
	管理		組織		人員配置(役割・責任)		人の配置が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した危険物が事業所の側溝から河川に流入した(流出範囲は敷地外100m以上)。回収作業等については、令和2年12月3日に完了している。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 給油ノズルの故障		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類(非水溶性)軽油 約264L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	5 台	0 隻	0 機	14 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (450 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4、6、99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31 防災活動上の問題点 事業所従業員の認識不足により通報が遅延した。										
32	施 設 名	給油取扱所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	平成 31 年 4 月 23 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 2 年 10 月 8 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項	各設備改修までの間における施設の 使用停止を指導			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無			
その他	令和 2 年 11 月 17 日			年 月 日		内容： 次の法令違反のおそれがあり、調査中 法第10条第3項 製造所等における危険物取扱いの基準違反 法第13条第3項 製造所等における危険物取扱者以外の危険物の取扱い				
35	今後の対策 法令遵守、維持管理の徹底及び適正な人員配置を行う。									
36	所 見 当該事業所に対し法令遵守、維持管理の徹底及び適正な人員配置を指導したところであるが、同一事案発生防止のため、管内の類似施設等に注意喚起を実施した。									

1 事故名	セルフスタンドで顧客がノズルを入れたまま発車、ガソリンが流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 28日 8時 00分	推定・確定	4 発 見	12月 28日 8時 00分	
5 覚 知	12月 28日 8時 25分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 28日 8時 40分	
7 鎮火・処理完了	12月 28日 8時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：1.7m/s 気温：-2.6℃ 湿度：62%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所		
			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
			16 発生施設規制区分等		
			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 100,000L 500倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 30,000L 30倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 30,000L 30倍		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)		設置の完成： 平成 16年 9月 16日 直近の完成： 平成 22年 5月 27日		
	能 力： 給油取扱所 100,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 560倍		
	名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)				
	規 模： 高さ2,300mm、幅1,280mm、奥行き530mm				
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908)		17 物 質 の 区 分		
	材 質： ゴム		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(6L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)		18 取 扱 者 の 概 要		
	作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： セルフスタンドでガソリンを給油中の乗用車が、ノズルを給油口に入れたまま発車したことにより、固定給油設備のホースが引っ張られ、ホース上部の結合部から約1Lのガソリンが漏れ出した。その後、当該固定給油設備においては、侵入禁止のコーンを設置し、使用中止にしていたが、他の車両が侵入して給油しようとしたところ、同箇所より約4.9Lのガソリンが流出。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 監視不十分、維持管理不十分							
	発生原因の状況： セルフスタンドでガソリンを給油中の乗用車が、ノズルを給油口にいったまま発車。 従業員が固定給油設備から流出した場合について、予防規程に定めている対応を理解しておらず、実施しなかった。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		不注意	
	関連原因の詳細							
	管理		監督		監視		監視が実施されない/不足	
管理		緊急時対応		緊急時の管理		その他		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： 固定注油設備の周囲にガソリン飛散。		
消 防 機 関		0台	0隻	0機	0人	自 衛	0台 0隻 0機 0人	
消 防 団		0台	0隻	0機	0人	共 同	0台 0隻 0機 0人	
海上保安部		0台	0隻	0機	0人	応 援	0台 0隻 0機 0人	
その他の機関		0台	0隻	0機	0人	その他	0台 0隻 0機 0人	
						物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン 6L流出		
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (25 万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止		年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		令和2年 4月 21日	年 月 日
	改善命令等		年 月 日	年 月 日	気密試験等		令和2年 4月 21日	年 月 日
	停止解除		年 月 日	年 月 日	保安検査		年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：	
その他		年 月 日	年 月 日					
		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策		・給油中の監視業務の徹底 ・事故発生時の対応について、安全教育の実施						
36 所 見		町内の危険物施設等の事業者に対して行う法令講習会の題材として、今後の事故防止に努める。						

1 事故名	鉄道給油取扱所の固定給油設備で保守用車両に給油作業中、タンクの容量以上に給油したため流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 7日 10時 45分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	10月 7日 10時 45分	
5 覚 知	10月 7日 11時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 7日 11時 18分	
7 鎮火・処理完了	10月 7日 13時 10分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南西 風速：1.9m/s 気温：15.8℃ 湿度：66%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番 号 (4211) 道業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍	
名 称： その他【分類なし】	番 号 (9999)	能 力： 給油取扱所 タンク容量10,000L	倍数の合計： 10倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		設 置 の 完 成： 昭和 56年 2月 20日 直 近 の 完 成： 平成 13年 10月 19日		
名 称： 固定給油 (注油) 設備	番 号 (911)	規 模： 50L/m	17 物 質 の 区 分		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ノズル 番 号 (909)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (0.8L)		
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		18 取扱者の概要 経験年数1年		
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)	作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者の の取扱・立会い ①. 有 2. 無
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 軌道内の保守用車両に給油作業中、タンクの容量以上に給油したため流出したものであり、敷地外への流出はなかったものである。					
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()							
	関連原因											
	発生原因の状況： 鉄道給油取扱所の固定給油設備で軌道内の保守用車両に給油作業中、定められている作業手順に従わず、自らの感覚で更に給油ができると思い込み、継ぎ足して給油を行ったことで給油口から軽油が流出したものである。 なお、敷地外への流出はなし。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	人		本人の意識		思慮		過信					
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害				28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 軽油約0.83Lが固定給油設備北側に漏えいしたが、側溝等への流出はなく、施設内で留まった。				
区分												
当 事 者	0	0	0	0								
防災活動従事者	0	0	0	0								
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 軽油約0.83L漏えい				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 軽油約0.83L漏えい		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	2 台	0 隻	0 機	10 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) 流出範囲の確認						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 固定給油設備アイランド及び集水溝を油吸着マットで拭取り						
31 防災活動上の問題点												
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他				
	使用停止	年 月 日				年 月 日	定期・自主点検	令和 元年 12 月 19 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	令和 元年 12 月 19 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input type="checkbox"/> ・無 内容： 危険物取扱者法定講習未受講 消防法第13条の23				
35 今後の対策	同施設では類似する流出事故を度々繰り返していることから、施設関係者に対して消防法令違反の警告書を交付すると共に、従業員に対する保安教育、予防規程、維持管理などに係る組織体制を見直しさせ、事故防止を徹底するよう指導した。											
36 所 見	関係者の意識啓発を図るため、予防査察及び危険物安全週間などの機会を捉えて、消防機関による事故防止の指導教育を強化していく必要がある。											

1 事故名	給油取扱所の遠方注入管の埋設配管ねじ込み継手部亀裂によるガソリンの漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 18日 18時 00分	推定・確定	4 発 見	12月 18日 18時 30分	
5 覚 知	12月 18日 20時 04分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 19日 8時 15分	
7 鎮火・処理完了	12月 19日 19時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雪 風向：北 風速：0m/s 気温：-1.1℃ 湿度：92.1%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 19,200L 96倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,500L 9.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,600L 9.6倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 115.1倍				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成： 昭和 42年 4月 13日 直近の完成： 令和 2年 10月 27日				
能 力： 給油取扱所 9,600L	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等 温度 圧 力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(354L)				
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	18 取扱者の概要				
規 模： 内径1,440mm、外径1,452mm、全長6,530mm、容量9,600L	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の の取扱・立会い				
名 称： 給油管等 番 号 (907)	①. 有 2. 無				
材 質： 鋼鉄					
15 発 生 時					
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)					
作 業 状 況： 番 号 ()					
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 給油取扱所営業中に危険物保安監督者が、在庫に誤差が出ていることに気付き、地下貯蔵タンクの微減圧法による漏れの点検を実施したところ、リークを確認したため消防へ通報する。付近の河川に油膜を確認したため、オイルフェンスの設置及び地下貯蔵タンクからガソリンを抜き取る応急措置を実施する。ガソリン漏えい量は約354Lで、死傷者の発生はないもの。圧力検査及び掘削調査の結果、遠方注入管の埋設配管ねじ込み継手部亀裂によりガソリンが漏えいしたものである。					
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 経年劣化によるものと思われる。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいしたガソリンが地中から染み出て付近の河川に流出した。流出範囲は敷地境界線から29m程度に収まっている。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 埋設配管ねじ込み継手部に亀裂			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン約354L漏えい	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (6)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和 2 年 6 月 4 日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	平成 30 年 10 月 25 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容：				
その他	年	月	日	年	月	日					
35 今後の対策	在庫管理及び日常点検の回数を増やし厳密に実施する。従業員の安全教育を実施する。										
36 所見	当該事業所に対し、従業員への教育及び在庫管理を徹底するよう指導したところであるが、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。										

1 事故名	部外者の誤操作により休業中の自家用給油取扱所の固定給油設備から敷地内に軽油が流出						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	10月 29日 11時 35分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	10月 29日 11時 40分			
5 覚 知	10月 29日 13時 15分				6 鎮 圧 応急処置完了	10月 29日 13時 40分	
7 鎮火・処理完了	10月 29日 16時 00分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：曇		風向：西北西		風速：7m/s		気温：14℃ 湿度：61%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されな 番号 (8441) いもの) 娯楽業 スポーツ施 設提供業 スポーツ施設提供業 (別掲を除く)			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 給油取扱所 (5.7キロタンク)			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 5,700L 5.7倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911) 規 模： 奥行510mm、横730mm、高さ1,350mm			倍数の合計： 5.7倍			
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908) 材 質： ゴム			設置の完成： 平成 2年 12月 14日 直近の完成： 平成 2年 12月 14日			
15 発 生 時	運 転 状 況： 休止中 番 号 (6) 作 業 状 況： 不定期修理中 番 号 (3)			17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (250L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： 事故発生時、固定給油設備のノズルの修繕作業中のために、ノズルをホースから外していた。スキー場の草刈り作業をしていた部外者が建物 (休憩所) の電気のブレーカーと間違っ、固定給油設備の電源ブレーカーをONにしたため、固定給油設備が稼働し、ホース先端から敷地内に約250Lの軽油が流出した。なお、吸着マットを使用し、応急措置を実施した。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>							

25 主 原 因 誤操作		着火原因				番号 ()				
関 連 原 因										
発生原因の状況： 事故発生時は固定給油設備のノズルを交換するためにホースから外していた。部外者が建物の電気のブレーカーと間違っ、固定給油設備の電源ブレーカーをONにしたため、固定給油設備が稼働し、軽油が流出した。										
原 因	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 自家用給油取扱所の固定給油設備から敷地内に軽油250Lが流出。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油250L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	6 台	0 隻	0 機	12 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
32 行政措置	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和 2 年 8 月 14 日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和 元 年 11 月 25 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無		
その他	年	月	日	年	月	日	内容：			
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> ・固定給油設備の安全ブレーカーにその旨の表示を実施。 ・機器の修繕中はその旨の掲示を実施。 								
36 所 見		当該事業所に対し、再発防止対策を徹底するよう指導したところではあるが、管内の他事業所に対しても指導を行い、事故防止に努める。								

1 事故名	給油取扱所の油分離槽が長年維持管理されていなかったことによる廃油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 2日 0時 00分	推定・確定	4 発 見	6月 2日 15時 00分	
5 覚 知	6月 2日 17時 06分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 2日 18時 41分	
7 鎮火・処理完了	6月 3日 13時 40分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：4m/s 気温：28.9℃ 湿度：43%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： タンク容量：48KLタンク×3基 (48KLストレート2基、(38:10)1基)		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 58,000L 290倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油・灯油 86,000L 86倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： その他 番 号 (999) 規 模： 油分離槽		倍数の合計： 376倍		
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999) 材 質： コンクリート		設 置 の 完 成： 平成 21年 11月 2日 直 近 の 完 成： 平成 21年 11月 2日		
15 発 生 時	運 転 状 況： その他 番 号 (99) 作 業 状 況： その他 番 号 (99)		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称： 汚水を含む廃油(2,000L)	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 給油取扱所の分離槽から廃油が溢れ出し、廃油を含む汚水が敷地南側の側溝に流れ出したもの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 維持管理不十分	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 従業員が施設内に3つある分離槽のうち、1つを分離槽と認識していなかった。長年維持管理されずに、汚泥が蓄積したことにより、油分離槽内から廃油を含む汚水が溢れ出たものである。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	管理	組織	コミュニケーション	重要情報が伝達されない			
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 廃油が流入した側溝に流水はない状態で、傾斜が緩かったこと下流40mまでの流入に留まった。
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設等の被害はなし。
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 1 人	物質の被害状況： 汚水を含む廃油2,000L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	8 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (20 万円)
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (6) オイルフェンス及びオイルマットでの処置を実施。				自衛防災・消防組織等 番号 (99) 流出した側溝に、中和洗剤を散布し中和処置を行った。			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有 ・無 内容： 消防法第12条第1項	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日				
35 今後の対策	SS新築工事図面を常備し、維持管理の徹底、設備を十分に把握する。 事故のあった油分離槽のマンホール付近に油分離槽であることの標識を設置。 安全対策書を作成し、点検すべき箇所の見直しを図る。						
36 所 見	なし						

1 事故名	固定給油設備に顧客の車両が接触して破損したことによる軽油の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	3月 12日 16時 55分 推定・ 確定	4 発 見	3月 12日 16時 55分
5 覚 知	3月 12日 17時 22分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 12日 17時 00分
7 鎮火・処理完了	3月 12日 17時 32分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：5m/s 気温：12℃ 湿度：47%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されな 番 号 (9399) いもの) その他のサービス業 他に分類されないサービス業 他に分類されないサービス業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
	特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 281倍		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成： 平成 30年 8月 2日		
能 力： 給油取扱所 40KL×2基, 2KL×1基	直近の完成： 平成 30年 8月 2日		
13 機 器 等 温度 圧力：	17 物 質 の 区 分		
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
規 模： 高さ2.24m 幅1.285m 奥行き0.53m ホース長 4.0m	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)		
名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908)	(低温、 常温 [0-40℃]、高温)		
材 質： その他	分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (0.3L)		
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要		
運 転 状 況： その他 番 号 (99)	①. 選任有 2. 選任無		
作 業 状 況： その他 番 号 (99)	20 危 険 物 保 安 監 督 者 ①. 有 2. 無		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 顧客が車両(4tトラック)荷台に積載していた車両系建設機械(バックホウ)への給油終了後、車両を右方向へ進行させた時に車両系建設機械のアーム部分が固定給油設備のホース接続部分に接触、ホースを伝わり第2石油類(軽油)が約0.3L流出したものの			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他			

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 車両の運転操作の誤り									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		車両等の接触					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分							被災影響範囲及び拡大の状況： 固定給油設備の給油ホースの根元が破損し、固定給油設備下部の土間部分に軽油が0.3m×1mの範囲で流出した。			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 固定給油設備1基の破損			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油0.3L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (4 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
事業所が事故処理後に通報したため、防災活動は未実施で確認のみ実施。										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年9月30日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策		今後、事故を起こさないための対策								
36 所 見		管内のセルフスタンドにおいて、類似の事故を防止するために監視体制を強化するよう注意喚起が必要。								

1 事故名	給油取扱所の固定給油設備の機能不良によるガソリンの漏えい		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	2月 28日 13時 04分 推定・ 確定	4 発 見	2月 28日 13時 04分
5 覚 知	2月 28日 13時 44分	6 鎮 圧 応急処置完了	2月 28日 13時 15分
7 鎮火・処理完了	2月 28日 19時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：5m/s 気温：9.5℃ 湿度：25%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 倍数の合計： 291倍		
12 施 設 装 置	設置の完成：平成 8年 12月 22日 直近の完成：平成 31年 4月 19日		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	17 物 質 の 区 分		
能 力： 給油取扱所・タンク容量92,000L	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(1L)		
13 機 器 等 温度 圧力：	18 取扱者の概要		
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要		
規 模： 縦530mm 横1,285mm 高さ2,230mm	20 危険物保安監督者		
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
材 質： 鋼鉄	23 事故の概要： 顧客が地上式固定給油設備で車に給油を行っている際に、車の給油口からハイオクガソリンが溢れ出しハイオクガソリン約1L漏えい。		
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 有 番号 () 無		
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)			
作 業 状 況： 番 号 ()			

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： 地上式固定給油設備の給油ノズルのオートストップ動作不良により、満油状態でも給油が停止せずハイオクガソリンが車の給油口から約1L漏えい。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の機能の停止					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油空地にハイオクガソリン約1L漏えい		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	1 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 第1石油類（非水溶性） ハイオクガソリン 約1L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額	1万円未満、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
現地の確認調査										
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名	給油取扱所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項	違反処理なし				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無		
その他	令和2年2月28日		年 月 日				内容：			
1. 文書 ②. 口頭										
35 今後の対策		目視点検だけでなく、定期的に油出しを行ってオートストップの動作点検も行う。								
36 所 見		目視点検を実施しても定期的に機器の動作点検を行わないと機器の不良が確認できない部分があるため、定期的に動作点検を実施をするように他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。								

1 事故名	移動タンクにて荷卸し中、指定されたタンクとは別のタンクに注油し、計量機下部からガソリンが流出したもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	4月 7日 8時 30分 推定・ 確定	4 発 見	4月 7日 8時 30分
5 覚 知	4月 7日 9時 30分	6 鎮 圧 応急処置完了	4月 7日 9時 30分
7 鎮火・処理完了	4月 7日 9時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴	風向：風向不明	風速： 気温： 湿度：
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 38,000L 190倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,500L 9.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,500L 9.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 3,000L 1.5倍 倍数の合計： 210.5倍		
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成： 昭和 51年 11月 22日 直近の完成： 年 月 日		
能 力： 給油取扱所 ガソリン9,500L	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等 温度圧力：	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(30L)		
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	18 取扱者の概要		
規 模： 直径1,440mm、全長6,500mm、容量9,500L	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要 2. 無		
14 発 生 箇 所	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者		
名 称： タンクの注入口 番 号 (905)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
材 質： 鋼鉄	23 事故の概要： 移動タンクよりガソリンを荷卸し中、指定されたタンクとは違うタンクへ注油した。地下タンクの容量限界を超えたため計量機の下 部、地下タンクのマンホール部分に約30L流出した。利用客が流出を発見し、従業員へ知らせた。なお、敷地外への流出はなかった。ウ ェス等で応急措置を実施した。		
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		
運 転 状 況： 荷卸中 番 号 (13)			
作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)			

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 移動タンクより荷卸し中、指定されたタンクとは別のタンクに注油してしまった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		取り違い			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 荷卸し中にガソリンが流出したが、事業所外への流出はなかった。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 施設への損害はなかった。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	2 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン30L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 現場到着時には流出したガソリンは回収されていたため、調査活動を実施した。				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 計量機下部及びマンホール内に流出したガソリンをウエス等を使用して回収した。						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策	従業員の安全教育の実施									
36 所 見	人的要因のため、どの施設でも起こりえる。よって査察時に管内の事業所へも指導を行い、事故防止の徹底を図る必要がある。									

1 事故名	給油取扱所（船舶）の露出配管の劣化により、ガソリンの漏えいが認められたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）				
3 発 生	11月 15日 0時 00分	推定・確定	4 発 見	11月 15日 17時 00分	
5 覚 知	11月 16日 11時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 15日 17時 30分	
7 鎮火・処理完了	11月 15日 17時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他（ ）				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：2.4m/s 気温：21.1℃ 湿度：40%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号（6031） 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号（9999） 能 力： 給油取扱所15,000L/d		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 15,000L 75倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 5,000L 5倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 配管（送油、注入管等） 番 号（606） 規 模： 燃料配管1m		倍数の合計： 80倍 設置の完成： 平成 6年 3月 11日 直近の完成： 平成 23年 10月 7日		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油管等 番 号（907） 材 質： その他		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温[0-40℃]、高温） 分類： 第4類第1石油類（非水溶性液体） 名称： ガソリン(0.5L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号（1） 作 業 状 況： 番 号（ ）		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 11月15日の営業終了後、ポータヤードの見回りに行ったところ、ガソリンの臭気を感じ、配管を確認したところ、U字構内の露出配管からの漏れが認められたもの。漏えい部分をFRPで被覆し、応急措置を実施。遠方注油口及び河川への流出はなし。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号（10） 無 その他					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 燃料配管の高温多湿環境による劣化									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	腐食	環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）							
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害										
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	28 物的被害			
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： U字溝内にガソリン0.5Lが流出したもの			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 漏えいした給油配管の修繕			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0台	0隻	0機	0人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 漏えいした給油配管の修繕、第4類第1石油類非水溶性ガソリン0.5L
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和 2年 4月 1日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	平成 30年 12月 18日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無			
その他	年	月	日	年	月		日	内容：		
35 今後の対策 今回の事故以外の部分の燃料配管の更新										
36 所 見 定期的な立入検査の実施										

1 事故名		自家用給油取扱所にて地下埋設配管腐食による軽油の流出事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		9月 1日 11時 39分 推定・ <u>確定</u>			4 発 見		9月 1日 11時 39分						
5 覚 知		9月 9日 13時 00分			6 鎮 圧 応急処置完了		9月 1日 11時 39分						
7 鎮火・処理完了		10月 5日 8時 45分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：不明		風向：風向不明		風速：		気温：		湿度：			
10 発 生 事 業 所						11 発 生 場 所							
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 運輸に附帯するサービ 番 号 (4831) ス業 運送代理店 運送代理店						区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：							
						16 発生施設規制区分等							
						施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 2,900L 14.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 16,200L 16.2倍							
12 施 設 装 置						設置の完成： 昭和 56年 10月 8日 直近の完成： 平成 28年 3月 31日							
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 給油取扱所 タンク容量9,500L													
13 機 器 等						温度圧力：							
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 高さ1,490 幅914 奥行530						倍数の合計： 30.7倍							
14 発 生 箇 所						17 物 質 の 区 分							
名 称： 給油管等 番 号 (907) 材 質： 鋼鉄						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油							
15 発 生 時						18 取 扱 者 の 概 要							
運 転 状 況： その他 番 号 (99) 作 業 状 況： 番 号 ()						①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		①. 有 2. 無	
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要											
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事 故 の 概 要： 配管の気密検査により、地下埋設配管に孔食があることが発覚し、その孔食から軽油が流出量不明で土壌へ流出していたもの													
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>													

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 本事業所は海からも近く、地下水を多く含んでいるため、地下埋設配管が経年劣化により腐食し、孔食ができたもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離（経年による剥離）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内土壌へ第4類第2石油類軽油が流出。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 地下埋設配管（3.6m）に孔食（1mm×3mm）が発生。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類軽油 流出量不明	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (120 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
地下埋設配管の気密不良が確認できたため、改修が済むまで危険物施設の使用をしないことを口頭にて指導する。											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	令和 2 年 9 月 1 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
そ の 他	年 月 日	年 月 日									
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策 漏えい検査管にて、地下タンク又は地下配管からの流出がないことを確認することで、危険物施設の維持管理をしている。											
36 所 見 今回の流出事故は、地下埋設配管の腐食による孔食からの危険物の流出事故であり、配管気密検査により危険物流出を発見することが出来た。しかし、漏えい検査管にて点検を行うことにより、より早期に危険物の流出を発見することが出来るため、事業所には点検の徹底をするように指導する。											

1 事故名	給油取扱所における地下タンクから固定給油設備への埋設配管の腐食によるガソリンの漏えい		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	7月 24日 12時 00分
5 覚 知	10月 21日 10時 30分	6 鎮 圧 応急処置完了	10月 23日 16時 00分
7 鎮火・処理完了	11月 27日 11時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他(立入検査)		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：4m/s 気温：19℃ 湿度：48%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 19,000L 95倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,500L 9.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,600L 9.6倍 倍数の合計： 114.1倍		
12 施 設 装 置	設置の完成： 昭和 38年 9月 26日 直近の完成： 令和 2年 11月 27日		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)			
能 力： 給油取扱所・漏えいタンク容量10KL			
13 機 器 等	温度圧力： 常温、常圧		
名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)			
規 模： 埋設配管(レギュラーサクション管)：長さ3,000mm程度			
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称： 給油管等 番 号 (907)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン		
材 質： 鋼鉄			
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)			
作 業 状 況： 番 号 ()			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
21 危険物取扱者 の取扱・立会い			①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： ・覚知の経緯 ⇒ 立入検査時に漏えい検査管から油分が検出された。 ・緊急措置 ⇒ 固定給油設備の利用を停止。 ・令和元年8月報告の地下タンク等定期点検実施結果報告書において、漏えい検査管の点検結果から漏油有とされていた。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他			

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()								
	関 連 原 因 維持管理不十分												
	発生原因の状況： ・埋設配管の経年劣化により漏えいしたものと推測される。 ・設置者の埋設配管における腐食等、問題意識の欠如により発生したもの												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）								
	関連原因の詳細												
	人		本人の意識		違反（故意）		問題意識の不足						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害						28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 埋設配管付近への漏えい。流出した油の敷地外への漏えいなし。					
区分													
当 事 者	0	0	0	0									
防災活動従事者	0	0	0	0									
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 施設等の被害なし					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	0台	0隻	0機	0人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:200 第1石油類 ガソリン 流出量不明			
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人				
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人				
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人				
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (99) 当該固定給油設備の使用停止							
31 防災活動上の問題点 特になし													
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他					
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日			
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和元年7月24日	年	月	日	
	関係条項							保安検査	年	月	日	年	月
34 当該施設に係る法令違反の有無							[有]・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反						
35 今後の対策	定期点検等の適正化												
36 所 見	今回の事故は経年劣化により起きたものだが、その原因は定期点検内容の未確認、漏えい事故を意識していない自主点検等、設置者の問題意識の欠如により発生したものである。												

1 事故名	給油取扱所において固定給油設備の注油ノズルが劣化したことによるガソリン漏えい		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	11月 29日 18時 00分 推定・ 確定	4 発 見	11月 29日 18時 00分
5 覚 知	11月 30日 17時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 30日 13時 20分
7 鎮火・処理完了	11月 30日 13時 20分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：2m/s 気温：13℃ 湿度：29%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 45,000L 225倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 15,000L 15倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 5倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： タンク容量 ガソリン：45,000L、軽油：15,000L、灯油：10,000L	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン		
13 機 器 等 温度圧力：	倍数の合計： 245倍		
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	設置の完成： 平成 4年 1月 16日		
規 模： タンク容量 ガソリン：45,000L、軽油：15,000L、灯油：10,000L	直近の完成： 年 月 日		
14 発 生 箇 所	18 取 扱 者 の 概 要		
名 称： 給油 (注油) ノズル 番 号 (909)	①. 選任有 2. 選任無		
材 質： 鋳鉄	20 危 険 物 保 安 監 督 者 ①. 有		
15 発 生 時	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有		
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)	2. 無		
作 業 状 況： 番 号 ()			
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 給油取扱所において固定給油設備で自動車に給油していたところ、ノズルの根元部分が破断し、ガソリンが漏えいした。異常を 覚知した従業員により、緊急停止及び漏れたガソリンの改修作業が行われた。			
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 給油取扱所において固定給油設備で自動車に給油していたところ、ノズルの根元部分が破断し、ガソリンが漏えいした。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設外への流出なし		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 当該ノズルのみ		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 第1石油類 ガソリン 流出量不明
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
情報収集										
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報がなされなかった。										
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無		
その他	年 月 日	年 月 日				内容：				
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 ・業者によるノズル点検・交換の実施 ・目視点検の強化 ・従業員の事故対応教育										
36 所 見 破損、流出があったにもかかわらず、通報がなされなかったことから、事故発生対応教育を徹底し、すぐ通報ができるようにすること。										

1 事故名	給油取扱所において給油中、利用客のノズル誤操作により車両の給油口及び給油ノズルからガソリンの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 16日 18時 55分	推定・確定	4 発 見	2月 16日 18時 55分	
5 覚 知	2月 16日 19時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 16日 19時 59分	
7 鎮火・処理完了	2月 16日 19時 59分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：霧雨 風向：北 風速：1m/s 気温：9.6℃ 湿度：60%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 40,000L 200倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍				
12 施 設 装 置	13 機 器 等				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	温度圧力：				
能 力： 給油取扱所 20,000L	名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)				
13 機 器 等	規 模： 吐出量30L/m、定量定時間制御100L以下 4分以内				
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分				
名 称： 車両の給油口 番 号 (906)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
材 質： 鋼鉄	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
15 発 生 時	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)				
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)	(低温、常温 [0-40℃]、高温)				
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(1L)				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： セルフスタンドで利用客が給油中、60Lの燃料タンクに57L給油したところで、車両の給油口からガソリンが噴出し、さらに、ノズルレバーが開放されたまま給油口から引き抜いたため、ガソリン約1Lが給油空地に流出した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()		
	関連原因						
	発生原因の状況： 利用客が給油する際、給油ノズルを給油口に適正に挿入していなかったため、満量停止装置が機能せず給油口から溢れるまでガソリンが供給された。また、給油口から噴出したことで咄嗟に給油ノズルを引き抜いたが、ノズルレバーを開放状態で引き抜いたため、給油ノズルから給油空地へ流出した。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害				28 物的被害			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油空地にガソリン1Lが流出。 施設等の被害状況： なし
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 1 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン1L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (5, 99) 油処理剤による除去、調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (5) ウエスによる油の除去			
31 防災活動上の問題点 従業員による通報、通報の指示はなく、従業員の対応に不安を感じた利用客からの通報であった。従業員は油処理剤の保管場所を把握していなかった。							
32 施設名	給油取扱所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検		平成 31 年 4 月 3 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等		平成 31 年 4 月 4 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査		年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：	
その他	令和 2 年 2 月 17 日	年 月 日	①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策 ・予防規程の内容を従業員に周知させる。 ・事故対応訓練を実施する。							
36 所 見 従業員教育の大切さについて危険物安全週間などの機をとらえて指導していく必要がある。							

1 事故名	給油取扱所において懸垂式固定給油設備の給油ホースの亀裂から軽油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 15日 13時 30分	推定・確定	4 発 見	3月 15日 14時 30分	
5 覚 知	3月 15日 14時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 15日 15時 45分	
7 鎮火・処理完了	3月 18日 14時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (消防職員による現認)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：2.1m/s 気温：10.2℃ 湿度：48%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないもの) 番号(9611) の 地方公務 都道府県機関 都道府県機関		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称：その他【分類なし】 番号(9999) 能 力：給油取扱所 10,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 7,000L 35倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：固定給油(注油)設備 番号(911) 規 模：65L/m		倍数の合計： 45倍 設置の完成：平成10年 11月 19日 直近の完成： 年 月 日		
14 発 生 箇 所	名 称：給油(注油)ホース 番号(908) 材 質：ゴム		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(0.1L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：停止中 番号(5) 作 業 状 況： 番号()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 敷地内にいた職員が給油取扱所の懸垂式固定給油設備の給油ホースから軽油がにじみ出て地盤面に滴下している状況を見つけた。当該給油ホースの表面はひび割れ、亀裂が生じており、ホース内部に残油していた軽油約0.1Lがホース直下の給油空地に流出した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号(10) 無 その他					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 給油ホースの表面はゴムがひび割れ劣化していた。給油ホースは直近の交換から少なくとも10年が経過しており、メーカーの交換推奨時期である3年から7年が過ぎていた。直近の定期点検は事故発生から1年1か月前で給油ホースに異常はなく、以降事故発生までについても給油ホースの劣化は発見されていなかった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
関連原因の詳細										
因	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
	設備		監理・保守		点検・整備		整備していない			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油ホースに亀裂が生じ、軽油0.1Lが給油空地に流出した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 給油ホース1本が破損。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0台	0隻	0機	4人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油0.1L流出
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4) オイルパンの設置及び補修テープによる亀裂箇所への補修					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
32	施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	平成 31 年 2 月 6 日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	平成 31 年 2 月 6 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>
措 置	その他	年	月	日	年	月	日	内容：		
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策								給油する都度、ホースの劣化等、設備の異常の有無を確認する。		
36 所 見								日常点検を形骸化せず、些細な異常についても記録に残し、必要であれば早期に整備、交換等を実施する必要がある。		

1 事故名	給油取扱所において固定給油設備の給油ノズルが離脱し、離脱部からガソリンの流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	6月 12日 7時 30分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	6月 12日 9時 03分		6 鎮 圧
7 鎮火・処理完了	6月 12日 12時 20分		応急処置完了
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：4m/s 気温：26.4℃ 湿度：84%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 48,800L 244倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 29,600L 29.6倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 1,800L 0.9倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 274.5倍		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成： 昭和 47年 11月 6日		
能 力： 給油取扱所 20,000L	直近の完成： 令和 2年 2月 25日		
13 機 器 等	17 物 質 の 区 分		
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
規 模： 懸垂式、吐出力35L/m	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)		
名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908)	(低温、常温 [0-40℃]、高温)		
材 質： その他	分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(1L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況： スタートアップ中 番 号 (2)	経験年数13年		
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	①. 選任有 2. 選任無		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い
22 設備・機器等の概要：	①. 有 2. 無		
オンラインファイル無			
23 事故の概要：			
流出が発生する前日に、利用客が給油中に給油が終了したものと勘違いし急発進したことで、給油ホースの安全継手が離脱した。この時点では流出はなく、当該ホースはリールに巻き上げ使用停止としていた。翌日、当該ホースが使用不可であることを失念した従業員が当該給油設備の送油ポンプを起動させたところ、送油配管及び給油ホース内に残存していたガソリンが加圧されホース先端から敷地内に約1L流出した。			
24 緊急処置の状況			
[有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()														
	関連原因																		
	発生原因の状況： 従業員は給油設備が1台使用不能である旨の申し送りを受け、また、給油設備の起動装置の付近に使用禁止のメモ書きも残されていたが、接客をしている中で使用不能であることを忘れポンプを起動させた。ポンプの起動によって、送油配管及び給油ホースに残存していたガソリンが加圧され、流出に至った。 また、当該送油配管のバルブを閉鎖するなど、物理的措置は行われていなかった。																		
	主原因の詳細																		
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層												
	人		本人の知識・能力		知識		忘れる												
	管理		リスクアセスメント		危険意識		安全装置・標示等が提供/使用されない/不適切												
	関連原因の詳細																		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から																			
27 人的被害						28 物的被害													
被害内容等		死亡		重症		中等症		軽症		死傷原因		職業又は職名		被災影響範囲及び拡大の状況： 給油ノズルが離脱した。 離脱部からガソリン1Lが給油空地に流出した。					
区分																			
当 事 者		0		0		0		0											
防災活動従事者		0		0		0		0											
第 三 者		0		0		0		0						施設等の被害状況： 給油ノズルの離脱					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況																			
消 防 機 関		3台 0隻 0機 17人		自 衛		0台 0隻 0機 2人		物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン1L 流出											
消 防 団		0台 0隻 0機 0人		共 同		0台 0隻 0機 0人													
海上保安部		0台 0隻 0機 0人		応 援		0台 0隻 0機 0人													
その他の機関		0台 0隻 0機 0人		その他		0台 0隻 0機 0人													
30 実施した防災活動の状況																			
公設消防機関：番号 (5)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)													
危険排除活動						ウエス、受け皿により流出拡散防止													
31 防災活動上の問題点																			
事故発生から通報までに1時間半が経過している。 給油取扱所従業員ではなく、危険を感じた顧客からの通報であった。																			
行政措置		32 施設名 給油取扱所		33 定期点検等		消 防 法		そ の 他											
		使用停止		年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		平成 31年 1月 31日		年 月 日							
		改善命令等		年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和 2年 3月 1日		年 月 日							
		停止解除		年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日							
		関係条項						34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無									
その他		警告書 令和 2年 7月 2日		年 月 日				内容： 法第14条の3の2 定期点検一部未実施（気密以外） 法第12条第1項 製造所等の維持管理不適（防火設備機能不良）											
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> 顧客が給油中誤って発進しないように、車両のサイドミラー等に給油中であることを示すステッカーを貼付する。 当該店舗及び系列店舗に本事案の周知を行う。 事故発生時の初動措置について、従業員教育を行う。 																	
36 所 見		事故発生時における事業者の対応に不備があったことから、同種の事業者に対し予防規程の遵守及び自主保安に対する意識の厳格化について指導を行う必要がある。																	

1 事故名		給油取扱所の懸垂式固定給油設備の部品破損による軽油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		7月 24日 14時 30分	推定・確定	4 発 見		7月 24日 15時 00分	
5 覚 知		7月 24日 15時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了		7月 27日 11時 50分	
7 鎮火・処理完了		8月 6日 12時 00分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (消防職員による現認)					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：南	風速：2.7m/s	気温：26℃	湿度：88%
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：公務(他に分類されないも 番号(9611)の) 地方公務 都道府県機関 都道府県機関				区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 10,000L 50倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍			
12 施 設 装 置							
名 称： その他【分類なし】 番号(9999)							
能 力： 給油取扱所：10,000L							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称： 固定給油(注油)設備 番号(911)							
規 模： 横1,910mm、奥行490mm、高さ751mm				倍数の合計： 60倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成： 令和 2年 2月 13日 直近の完成： 令和 2年 2月 13日			
名 称： その他の部位 番号(399)				17 物 質 の 区 分			
材 質： 鋳鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油(1L)			
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要			
運 転 状 況： 停止中 番号(5)							
作 業 状 況： 番号()							
19 危険物保安統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 懸垂式固定給油設備から軽油が計量機下部の地盤面約0.5×0.5mの範囲に滴下しているのが発見されたもの。当該設備のデリバリーユニット内部のリール軸部フランジに微小の亀裂が生じていたことから、計量機内部に残存していた軽油が流出した。							
24 緊急処置の状況 有 番号() 無							

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 当該フランジの破面の状況から、鑄造不良ではなく、外面側を起点として過大な不可や衝撃が加わったことによる破損である。外力の要因の一つとして、当該フランジ製造時に加工機が無回転で接触した可能性が挙げられるが断定には至らなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	破損		材料		機器に使用している材料の不適による (設計不良、施工不良、腐食、疲労等を伴わない) 機器の破損						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 軽油が計量機下部の地盤面約0.5×0.5mの範囲に流出した。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 懸垂式固定給油設備のリール軸部フランジが破損。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油 約1L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/>			
そ の 他	年	月	日	年	月	日	内容：				
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策		製造メーカーに対し原因の究明と再発防止を指導した。 引き続き、定期点検及び自主点検の徹底を実施する。									
36 所 見		新設の施設であっても、施工不良や部品の破損により事故に至ることがあることから、事故の早期発見のためにも日常点検が重要であり、本件を踏まえ事業所に対しても日常点検や保安体制について指導していくべきである。									

1 事故名	給油取扱所において給油ホースの安全継手が離脱したことによるガソリンの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 28日 12時 00分	推定・確定	4 発 見	9月 28日 12時 00分	
5 覚 知	9月 28日 16時 40分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 28日 16時 00分	
7 鎮火・処理完了	9月 28日 16時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：1.4m/s 気温：25.3℃ 湿度：56%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 40,000L 200倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 221倍				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成： 昭和 43年 9月 30日 直近の完成： 平成 24年 9月 10日				
能 力： 給油取扱所 10,000L	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等 温度圧力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(1L)				
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	18 取扱者の概要				
規 模： 最大流量 40L/m	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の の取扱・立会い				
名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908)	①. 有 2. 無				
材 質： ゴム					
15 発 生 時					
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)					
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)					
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： フルサービスの給油取扱所において、給油が終了したものと勘違いした利用客が給油中に車を発進させ、給油ホースが引っ張られたことで安全継手が離脱し、離脱部からガソリン若干 (1L未満) が敷地内に流出した。安全継手の作動により流出が止まったため緊急措置の実施はない。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

25	主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
原 因	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 利用客は従業員から支払用のクレジットカードを返却されたことで、給油が完了したものと勘違いし、給油ノズルが給油口に差し込まれた状態で車を発進させた。2m程度進んだところで安全継手が離脱し、離脱部からガソリン若干が流出した。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因		
区分						職業又は職名		
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人		
						物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン1L		
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (7 万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動								
31 防災活動上の問題点 通報の遅延（4時間経過、ホースの修理後の通報）。バルブの閉鎖やガソリンの除去などの措置がない。								
32 行 政 措 置	施設名	給油取扱所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 2 年 4 月 10 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	平成 31 年 1 月 16 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：	
その他	事故発生時の対応について指導 令和 2 年 9 月 28 日 年 月 日 1. 文書 ②. 口頭 1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 ・販売員への教育徹底 ・事故発生時の対応要領の徹底								
36 所 見 本件は、危険物施設としての保安管理体制及び予防規程に基づく事故発生時の対応ができておらず、消防機関への通報が遅延している。本施設はもちろん他の危険物施設に対しても、組織としての管理体制、事故防止対策、従業員教育など、機をとらえた指導をしていく必要がある。								

1 事故名	給油取扱所において、利用客が誤った給油を行ったことによるガソリンの流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	10月 6日 21時 02分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	10月 6日 21時 02分
5 覚 知	10月 7日 11時 05分	6 鎮 圧 応急処置完了	10月 6日 21時 07分
7 鎮火・処理完了	10月 6日 21時 07分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：3m/s 気温：20℃ 湿度：59%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 261倍		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成：平成 9年 10月 8日 直近の完成：平成 17年 8月 31日		
能 力： 給油取扱所、タンク容量50,000L	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等 温度 圧 力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(1L)		
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	18 取扱者の概要		
規 模： 吐出量30L/h	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
名 称： 車両の給油口 番 号 (906)	①. 有 2. 無		
材 質： 鋼鉄	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
15 発 生 時	23 事 故 の 概 要： 利用客が車両に給油する際に、給油ノズルが給油口の奥まで差し込まれていない状態で、ノズルのトリガーに何らかの物を挟み、手を離れた状態で給油していたため、オートストップ機能が作動せず、車両の給油口からガソリン若干が給油空地に流出したもの。流出したガソリンは従業員が布で拭き取り除去した。		
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他		
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)			

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 監視不十分									
	発生原因の状況： 利用客が給油ノズルを給油口に完全に差し込まず、手で保持することもしなかったため、不完全な差し込み状態のまま給油を続けたことで、満量になっても給油が停止しなかった。 また、従業員は利用客の給油作業に対して監視が不十分であったため、手を放して給油していることに気が付かなかった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		違反（故意）		問題意識の不足			
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		違反（故意）		怠慢			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 車両の給油口から流出し、給油空地に流出した。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	1 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン1L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text" value=""/> 万円)		
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 布によりガソリンを除去した。				
31 防災活動上の問題点 事故発生から翌日経っての通報であった。										
32 施設名	給油取扱所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和2年4月2日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和2年9月17日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input checked="" type="checkbox"/> ・無		
その 他	事故発生時の通報について指導 令和2年10月7日		年 月 日		内容： 法第16条の3第2項 通報義務違反					
35 今後の対策		・利用客の給油作業等の監視強化 ・従業員に対し、事故発生時の行動要領について再度教育								
36 所 見		事故発生時の通報がなかったことから、予防規程に基づく従業員教育及び自衛消防訓練の実施をより徹底するよう、関係者に対し指導していく方針である。								

1 事故名	給油取扱所において、給油ノズルが折損したことによる軽油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 1日 19時 27分	推定・確定	4 発 見	4月 1日 19時 27分	
5 覚 知	4月 1日 19時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 1日 20時 16分	
7 鎮火・処理完了	4月 1日 20時 16分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北西 風速：3.4m/s 気温：11.8℃ 湿度：96%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド				
11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍				
13 機 器 等	温度圧力： 名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911) 規 模： 使用最大流量40L/m、口径25mm				
14 発 生 箇 所	設置の完成： 平成 8年 12月 25日 直近の完成： 平成 17年 12月 12日				
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (144L)				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事故の概要	顧客が車両の荷台にある容器に計量器を用いて軽油を注油しようとしたところ、給油ノズルを落下させ、ノズル根本部分が折損し軽油が流出したものの				
24 緊急処置の状況	有 番号 () 無				

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因 監視不十分									
	発生原因の状況： 顧客が車両荷台にある容器に計量器を用いて軽油を注油しようとしていたこと、また顧客が車両の給油口に給油ノズルを挿入したのを確認せずに、従業員が給油許可ボタンを押したことにより、誤った操作が行われ流出に至ったもの									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		定常運転時		機器そのものが落下					
	関連原因の詳細									
	管理		監督		監視		監視が実施されない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内に軽油流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 計量器ノズル折損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油144L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (11 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
側溝及び油水分離装置内に流出した軽油を回収するとともに、油吸着マットにて飛散した軽油を処置した。										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	平成 31 年 4 月 1 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策		・監視業務の徹底及び教育の実施 ・緊急停止ボタン操作教育の実施								
36 所 見		監視業務及び緊急停止操作を事業所内で教育し再発防止に努めるよう指導した。								

1 事故名	給油取扱所の地下埋設配管が破損したことにより、軽油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	6月 18日 15時 00分
5 覚 知	6月 19日 10時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	6月 25日 16時 00分
7 鎮火・処理完了	7月 2日 12時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他(現地確認)		
9 気 象 状 況	天気：不明 風向：風向不明 風速： 気温： 湿度：		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 13,600L 68倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,700L 9.7倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 15,560L 15.56倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 93.26倍		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成： 昭和 43年 2月 3日 直近の完成： 平成 24年 2月 2日		
能 力： 軽油タンク9,700L	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等 温度 圧 力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油		
名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)	18 取 扱 者 の 概 要		
規 模： 40A (内径41.6mm)、長さ約18.5mの配管	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
14 発 生 箇 所	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無		
名 称： 給油管等 番 号 (907)			
材 質： 鋼鉄			
15 発 生 時			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況： 番 号 ()			
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有			
23 事 故 の 概 要： 釣り人が発見した川に浮いている油を市環境課が調査をしたところ、当該給油取扱所の付近から流出があることが判明した。 現地確認を行い、気密検査を実施するよう指導したところ、軽油配管に漏れがあることが判明した。 当該配管の使用を停止したところ流出は収まった。当該タンク及び配管は廃止する見込みである。			
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無			

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 給油所の所有者によると2月頃に当該配管付近で水道管の修理をしており、その時に配管を傷つけたのではないかと供述しているが明確な原因は不明。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		工事時		その他					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 下流約10kmに影響・拡大		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 特になし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 軽油（流出量不明）
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		平成 30 年 1 月 28 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		平成 30 年 1 月 28 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input checked="" type="checkbox"/> ・無		
その他	指示 令和 2 年 6 月 26 日		年 月 日				内容： ・法第11条の4第1項 危険物の品名、数量又は指定数量の 倍数変更の届出義務違反			
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・地下に残った軽油の河川への流出防止対策として、油水分離装置にろ過装置を付ける。 ・流出した油の回収に努める。 ・貯蔵する危険物の品名及び数量の変更届を提出する。 ・漏えいのあった配管及びタンクの廃止措置。 									
36 所 見	設置者に対し、在庫管理を徹底し日常点検を十分行うように指導した。									

1 事故名	給油取扱所の給油ノズル誤操作により油が流出したもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	10月 8日 17時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見
5 覚 知	10月 8日 17時 06分	6 鎮 圧 応急処置完了	10月 8日 17時 50分
7 鎮火・処理完了	10月 8日 17時 50分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：雨	風向：北	風速：8.8m/s 気温：16℃ 湿度：89%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 30,000L 150倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 180倍		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成： 昭和 63年 8月 30日		
能 力： 屋外給油取扱所20KLタンク3基	直近の完成： 平成 12年 10月 1日		
13 機 器 等	温度圧力：	17 物 質 の 区 分	
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	規 模： 高さ2,300mm、幅1,226mm、奥行き493mm	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.1L)	
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ノズル 番 号 (909)	18 取扱者の概要	
材 質： 鋳鉄	15 発 生 時	経験年数0年	
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)	作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の の取扱・立会い
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 当該ガソリンスタンドに来店した顧客が、自家用車にガソリンの給油を開始した。給油量が定量に達し、ノズルを給油口から抜き、固定給油設備に戻そうとしたところ、誤ってノズルレバーを握ってしまった。この際、給油可能な状態であったため、ノズルからガソリンが噴出。固定給油設備に当たり、跳ね返ったガソリンが顧客に曝露したもの。これによりガソリンが約0.1L流出した。流出したガソリンにあってはガソリンスタンド従業員により処理済み。曝露した顧客1名が軽傷を負った。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他			

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 顧客の誤操作による流出したもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		技能・技術力		経験不足/習熟不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油空地内に0.1L流出			
区分											
当 事 者	0	0	0	1	ガソリンを暴露	利用者					
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン0.1L流出			
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻			0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻			0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻			0 機	0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日			年 月 日	定期・自主点検		年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日			年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日			年 月 日	保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日			年 月 日			内容：				
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策											
36 所 見 給油取扱所において顧客自らによる給油時の適正な方法を市民に注意喚起する必要がある。											

1 事故名	給油取扱所において、給油ホースの破断によるガソリンの流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	11月 3日 22時 00分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	11月 3日 22時 00分
5 覚 知	11月 3日 22時 33分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 3日 23時 24分
7 鎮火・処理完了	11月 3日 23時 24分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：2m/s 気温：15.7℃ 湿度：86%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 業 態：	区 分：①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） ②. 事業所外（陸上、海上、その他）		
	特別防災地区名：		
種 別： 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号（6031） 燃料小売業 ガソリンスタンド		16 発生施設規制区分等	
12 施 設 装 置		施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他	
名 称：その他【分類なし】 番 号（9999）		貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所	
能 力：30KLタンク4基、2KLタンク1基		類・品名・名称・数量・倍数：	
13 機 器 等		第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍	
名 称：固定給油（注油）設備 番 号（911）		第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 60,000L 60倍	
規 模：幅1,280mm、奥行530mm、高さ2,230mm		第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍	
14 発 生 箇 所		第4類第2石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 2倍	
名 称：給油（注油）ホース 番 号（908）		設置の完成：平成 8年 9月 18日	
材 質：合成樹脂		直近の完成：平成 29年 3月 6日	
15 発 生 時		17 物 質 の 区 分	
運 転 状 況：給油中 番 号（8）		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス	
作 業 状 況：その他 番 号（99）		5. 毒物 6. 劇物 7. その他	
		(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)	
		(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)	
		分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(40L)	
		18 取扱者の概要 経験年数1年	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事故の概要： 従業員が、顧客から受け取ったクレジットカードを店内で読み取り、返却した後に車両の給油口に給油ノズルを挿入しガソリンの給油を開始した。その後、従業員は他の顧客対応に当たるためその場を離れていた。 顧客は、クレジットカードが返却されたことから、給油が終了したものだと思い込み、給油口に給油ノズルを差し込んだまま車両を発進させたため、給油ノズルと給油ホースのつなぎ目付近が破断し、ガソリンが約40L流出したものである。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号（1、10） 無 装置の緊急停止、その他			

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因 破損									
	発生原因の状況： 従業員が給油中に給油作業から離れてしまったこと。また、顧客が給油口に給油ノズルを差し込んだまま、車両を発進させたため、給油ノズルと給油ホースのつなぎ目部分が破断し、ガソリンが流出したものの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	管理		監督		監視		監視が実施されない/不足			
	関連原因の詳細									
	破損		定常運転時		その他					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内にガソリン流出		
区分										
当事者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第三者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 給油ホース破断		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消防機関	0台	0隻	0機	0人	自衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン約40L流出
消防団	0台	0隻	0機	0人	共同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	
								損害額 1万円未満、 <input type="text" value="1万円以上"/> (4万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
出場部隊なし										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	警告書 令和2年11月6日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭					内容：				
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> ・保安監督者の増員及び教育の実施 ・事故発生時の対応について教育の実施 ・作業手順等の改訂 								
36 所 見		教育等を定期的に実施し、再発防止の徹底を図ることが重要である。								

1 事故名	セルフ屋外給油取扱所でノズル誤操作によるガソリンの流出事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	7月 4日 14時 36分 推定・ 確定	4 発 見	7月 4日 14時 37分
5 覚 知	7月 4日 14時 40分	6 鎮 圧 応急処置完了	7月 4日 14時 50分
7 鎮火・処理完了	7月 4日 14時 50分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：0.7m/s 気温：20.4℃ 湿度：97.7%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 48,000L 240倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 38,000L 38倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 288倍		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成：平成24年 11月 6日		
能 力： 給油取扱所、タンク容量96,000L	直近の完成：平成24年 11月 6日		
13 機 器 等	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他 番 号 (999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
規 模： 固定給油設備ガソリン吐出量40L/m	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	(固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧)		
名 称： 給油 (注油) ノズル 番 号 (909)	(低温、 常温 [0-40℃]、高温)		
材 質： アルミニウム	分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(1L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)	①. 選任有 2. 選任無		
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	3. 不要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	21 危険物取扱者 の取扱・立会い
			①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事故の概要： セルフ屋外給油取扱所に、自家用車の給油のために訪れた(73歳男性)がガソリンを給油した。ノズルを固定給油設備に収納する際、誤って手動開閉装置を握ったため、ガソリン推定1Lが噴出した。ガソリンは、固定給油設備のノズル掛けに噴出され、跳ね返り、当該顧客の顔面及び上半身にかかったもの。かかった後、すぐに従業員に事故があったことを知らせ、洗面所で洗い流した。従業員は、目視、モニター等で通常監視していた。事故があったことを当該顧客から聞き、すぐに消防署へ通報した。			
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無			

25	主 原 因	誤操作	着火原因	番号 ()											
原 因	関 連 原 因														
	発生原因の状況： セルフ屋外給油取扱所に、自家用車で給油のために訪れた顧客が、ガソリンを給油後、ノズルを固定給油設備に収納する際、誤って手動開閉装置を握ったためガソリンが噴出したもの														
	主原因の詳細														
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層											
	人	本人の知識・能力	知識	知識不足											
	関連原因の詳細														
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27	人的被害					28	物的被害								
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 被災した当該顧客。拡大なし。							
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし							
防災活動従事者		0	0	0	0										
第 三 者		0	0	0	0										
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	1 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ガソリン推定1L					
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人						
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人						
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人						
											損害額	1万円未満	、	1万円以上 ()	万円
30	実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 (99)							自衛防災・消防組織等 番号 ()								
事故調査															
31	防災活動上の問題点														
32	施設名					33	定期点検等	消 防 法	そ の 他						
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		令和 2 年 6 月 1 日	年 月 日							
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		平成 30 年 11 月 7 日	年 月 日							
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日							
	関係条項					34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無							
その他	年 月 日	年 月 日		内容：											
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭												
35	今後の対策														
固定給油設備の紙幣入金口付近に、注意喚起文書を貼付。															
36	所 見														
ノズルの収納の際に、誤って手動開閉装置を握ってしまったものである。 従業員の監視については、通常通り行われていた。 貼付する注意喚起文書には、「注意 車からノズルを外し、機械に戻す時は確実にレバーを離し、ゆっくりと戻してください。※再度、レバーを握った際は燃料が噴き出すおそれがありますので握らないでください。」と記載しており、再発防止の効果が期待できる。															

1 事故名	セルフ屋外給油取扱所における顧客のノズル誤操作によるガソリン流出事故						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	11月 28日 16時 24分	推定・ 確定	4 発 見	11月 28日 16時 25分			
5 覚 知	11月 28日 16時 36分				6 鎮 圧 応急処置完了	11月 28日 16時 26分	
7 鎮火・処理完了	11月 28日 17時 05分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：雨		風向：北北西		風速：3.4m/s		気温：6℃ 湿度：93.4%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 許可数量96,000L、指定数量の288倍			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 48,000L 240倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 38,000L 38倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： その他 番 号 (999) 規 模： 固定給油設備ガソリン吐出量40L/m			倍数の合計： 288倍			
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ノズル 番 号 (909) 材 質： アルミニウム			設置の完成： 平成 24年 11月 6日 直近の完成： 平成 24年 11月 6日			
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)			17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.5L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： セルフ屋外給油取扱所に、自家用車の給油のために訪れた顧客(68歳女性)がガソリンを給油し、ノズルを固定給油設備に収納する際、誤って手動開閉装置を握ったため、ガソリン推定0.5Lが噴出、跳ね返ったガソリンが当該顧客の顔面及び衣服にかかったもの。目視、モニター等で通常監視していた従業員は、事故があったことを当該顧客から聞き、すぐに消防署へ通報した。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： セルフ屋外給油取扱所に、自家用車で給油のために訪れた顧客が、ガソリンを給油後、ノズルを固定給油設備に収納する際、誤って手動開閉装置を握ったためガソリンが噴出したもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ガソリン推定0.5Lが当該顧客にかかったのみで、他への流出なし。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ガソリン推定0.5L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
事故調査											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 2 年 6 月 1 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	平成 30 年 11 月 7 日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：		
35 今後の対策		計量器本体及び液晶表示部に「給油後は給油レバーから指を離して戻してください。」と表示した。									
36 所 見		ノズルの収納の際に、誤って手動開閉装置を握ってしまったものである。									

1 事故名	固定注油設備から移動タンク貯蔵所へ積み込み中に、監視を怠り灯油が漏えいした事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	4月 11日 9時 46分 推定・ 確定	4 発 見	4月 11日 9時 47分
5 覚 知	4月 11日 10時 10分	6 鎮 圧 応急処置完了	4月 11日 9時 50分
7 鎮火・処理完了	4月 11日 11時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：2m/s 気温：11℃ 湿度：54%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 40,000L 200倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 30,000L 30倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 給油取扱所： (灯油タンク) 30,000L (二重殻タンク)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 灯油(10L)		
13 機 器 等 温度圧力：	18 取扱者の概要 経験年数1年		
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有		
規 模： 高速計量機 (W1, 280mm×D530mm×H2, 240mm)	3. 不要		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
名 称： 給油 (注油) ノズル 番 号 (909)	23 事 故 の 概 要： 固定注油設備から移動タンク貯蔵所へ積み込み中、その場を離れた間に灯油約10Lが敷地内に流出したもの (注入管未使用)		
材 質： 鋼鉄	24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		
15 発 生 時			
運 転 状 況： 荷積中 番 号 (12)			
作 業 状 況： 小分け・詰替中 番 号 (13)			

25	主 原 因 監視不十分	着火原因	番号 ()						
原 因	関 連 原 因								
	発生原因の状況： 固定注油設備から移動タンク貯蔵所へ積み込み中、監視を怠りその場を離れた。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層					
	人	本人の意識	違反（故意）	怠慢					
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害			28 物的被害						
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所敷地内コンクリート土間に、3m×4mの 範囲で漏えい。		
当 事 者	0	0	0	0					
防災活動従事者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							被災等の被害状況： なし		
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人			
30 実施した防災活動の状況							物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油約10L流出		
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)					
31 防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 2 年 4 月 11 日			年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 4 月 10 日		年 月 日
	改善命令等				年 月 日	気密試験等	令和 元 年 11 月 16 日		年 月 日
	停止解除	令和 2 年 4 月 11 日			年 月 日	保 安 検 査			年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無			
そ の 他				年 月 日	内容：				
1. 文書 ②. 口頭				年 月 日					
1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策	保安教育の充実								
36 所 見	本案件については、作業者の危険物取扱作業への認識の甘さに加え、管理者の監視不十分が重なり事故となったものです。対策を遵守することにより、改善されると思慮されます。								

1 事故名	屋外給油取扱所において、固定給油設備のノズル接続部破損によるガソリンの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 29日 15時 16分	推定・確定	4 発 見	8月 29日 15時 16分	
5 覚 知	8月 31日 9時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 29日 15時 17分	
7 鎮火・処理完了	8月 30日 12時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西北西 風速：2.7m/s 気温：34.8℃ 湿度：43.6%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 54,600L 273倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 29,400L 29.4倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 30,000L 30倍 倍数の合計： 332.4倍				
12 施 設 装 置	設置の完成：平成 7年 7月 28日 直近の完成：平成 31年 2月 20日				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	17 物 質 の 区 分				
能 力： 給油取扱所 35,000L	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(10L)				
13 機 器 等 温度 圧 力：	18 取扱者の概要				
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要				
規 模： 縦480mm、横1,300mm、高さ2,300mm	20 危険物保安監督者				
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
名 称： その他 番 号 (999)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
材 質： 鋳鉄	23 事故の概要： お客がレギュラーガソリンを給油中、ノズルとホースの結合部から約10Lのガソリンが敷地内で漏えいしたもの				
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止				
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)					
作 業 状 況： 番 号 ()					

原 因	25 主 原 因 不明		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 不明										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした油が当該固定給油設備の給油空地内に拡散した。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 当該固定給油設備のホースとノズルの結合部品の破損			
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン約10L漏えい	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (3 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 事後の報告となった。											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 2 年 8 月 25 日	年 月 日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日									
35 今後の対策		施設及び設備の点検時に今回の破損部分も含め、点検箇所の見直しを行うとともに、事故発生時には直ちに消防署等へ連絡するよう従業員に周知する。									
36 所 見		可動部分の経年劣化については、実際に手に取って確認しなければ分からない部分である。今後、立入検査時には類似事故をなくすために、細部の点検もしっかりと実施するよう指導したい。									

1 事故名	給油取扱所において、固定給油設備の圧送管が破損したことにより、ガソリンが流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 28日 18時 46分	推定・ 確定	4 発 見	2月 29日 10時 40分	
5 覚 知	3月 2日 17時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 2日 18時 30分	
7 鎮火・処理完了	3月 12日 12時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東北東 風速：2.3m/s 気温：6.6℃ 湿度：50%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド				
11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 38,000L 190倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,500L 9.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,800L 9.8倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 1,950L 0.98倍				
13 機 器 等	温度圧力： 名 称： その他 番 号 (999) 規 模： 吐出量 ガソリン30L/m				
14 発 生 箇 所	設置の完成： 昭和 48年 12月 28日 直近の完成： 平成 31年 3月 29日				
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル有				
23 事故の概要：	固定給油設備からガソリンが吐出しなくなったため、翌日点検業者が内部を確認したところポンプ軸のオイルシールから油が漏れていたためオイルシールを交換し、運転したところ、固定給油設備のポンプから電磁弁へ繋がる圧送管溶接部から霧状にガソリンが吹き上がったものである。				
24 緊急処置の状況	有 番号 () 無				

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 固定給油設備内部のポンプ主軸のベアリング部の油漏れにより、ベアリングの潤滑性が悪化し、回転不良による振動が発生し、圧送管に亀裂が入ったもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 固定給油設備の内部にガソリンが流出。		
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリンが流出（流出量不明）
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	平成 31 年 4 月 1 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	令和 元年 8 月 7 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無
そ の 他	年 月 日			年 月 日			内容：			
35 今後の対策 固定給油設備等の日常点検の実施										
36 所 見 始業前の日常点検の実施及び不良箇所があった場合の対応について指導。										

1 事故名	給油取扱所にて顧客がセルフで給油中に誤操作のためガソリンが流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	2月 9日 14時 13分 推定・ 確定	4 発 見	2月 9日 14時 13分
5 覚 知	2月 9日 14時 23分	6 鎮 圧 応急処置完了	2月 9日 14時 24分
7 鎮火・処理完了	2月 9日 18時 28分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：4m/s 気温：1℃ 湿度：50%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 14,000L 70倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 6,000L 6倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.3L)		
能 力： 給油取扱所 タンク容量10KL×2、9.5KL×1	設置の完成： 昭和 36年 5月 8日 直近の完成： 平成 25年 10月 8日		
13 機 器 等 温度圧力：	18 取扱者の概要		
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要		
規 模： マルチ型 倍数の合計： 86倍			
14 発 生 箇 所	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者		
名 称： 給油 (注油) ノズル 番 号 (909)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
材 質： 鋼鉄	23 事故の概要： 顧客に自ら給油等をさせる給油取扱所において、顧客が孫と一緒に給油行為を行おうとして給油ノズルを握ったところ、ガソリンが給油口から跳ね返り、約0.3Lが流出した。またその一部が孫の顔面等に付着し救急搬送された。		
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)			

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 給油行為者は当該給油取扱所を日常的に使用していたため、給油取扱所の施設については熟知していたが、孫と一緒に給油行為を行いたいと言われて断れず、給油ノズルの差し込みが少し浅い状態で給油行為を開始したため、本件事故が発生した。給油ノズルの差し込みは極端に浅いわけではなかったようであるが、子供と一緒に給油行為を行うこと自体が危険な行為である。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		配慮不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン約0.3L漏えい			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし			
第 三 者		0	0	0	1	ガソリンが皮膚へ付着した	未就学児				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3台	0隻	0機	8人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： ガソリン約0.3Lが漏えい	
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
救急搬送、危険物流出に伴う危険排除活動及び事故調査活動											
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年5月28日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	平成30年12月27日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		<input type="checkbox"/> 有・無 内容： 法第13条の23 危険物取扱者講習の未受講			
35 今後の対策	従業員の安全教育の実施										
36 所 見	セルフのガソリンスタンドにおいて子供が関係する事故が全国的に発生していることから、管内の給油取扱所に対して注意喚起及び広報を実施する必要がある。										

1 事故名	給油取扱所で車両にガソリンを給油中、燃料タンクからガソリンがあふれ、付近に流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	5月 2日 14時 05分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	5月 2日 14時 44分		5月 2日 15時 10分
7 鎮火・処理完了	5月 2日 15時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：1m/s 気温：32℃ 湿度：14%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 43,200L 216倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,600L 9.6倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 14,400L 14.4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 第4類第4石油類 エンジンオイル 1,800L 0.3倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 241.3倍		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成： 平成 元年 7月 10日 直近の完成： 平成 26年 8月 8日		
能 力： 給油取扱所 タンク容量：67.2KL	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(3L)		
規 模： 標準吐出	18 取扱者の概要		
14 発 生 箇 所	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者 ①. 有 3. 不要 3. 不要 の取扱・立会い 2. 無		
名 称： 車両の給油口 番 号 (906)			
材 質： 鋼鉄			
15 発 生 時			
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)			
作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 給油取扱所 (屋外・セルフ) において、顧客自らが車両にガソリンを給油中、燃料タンクからガソリンがあふれ、周囲に約3Lが流出したものの			
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無			

25	主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 本件事故は、固定給油設備の満量停止装置が何らかの原因により動作せず、車両の給油口からガソリンがあふれたものである。給油行為者は、事故時、計量器のメーターを注視していたため、流出に気付くまで多少の時間を要した。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人的被害					28	物的被害				
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 事故のあった固定給油設備の周囲約2m			
	区分										
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
	消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ガソリン3L
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)										
30	実施した防災活動の状況										
	公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
	調査活動										
31	防災活動上の問題点										
32	施 設 名					33	定 期 点 検 等	消 防 法	そ の 他		
行 政 措 置	使用停止	年 月 日				年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 4 月 30 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日	気密試験等	平成 30 年 7 月 13 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項						34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>		
	そ の 他	年 月 日				年 月 日	内容：				
	1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭										
35	今後の対策										
	セルスタンドにおける顧客自らの安全な給油方法等について、更なる周知が必要と思われる。										
36	所 見										
	対象施設の従業員は、事故覚知後、速やかに対応に当たっており、流出したガソリンをふき取るなど被害の拡大防止措置も図られていることから模範的な対応であった。引き続き従業員教育に努め、有事の対応に万全を期すことが肝要と史料する。										

1 事故名	移動タンク貯蔵所に過剰に灯油を注油した漏えい事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 28日 11時 00分	推定・確定	4 発 見	8月 28日 11時 00分	
5 覚 知	8月 28日 11時 44分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 28日 13時 30分	
7 鎮火・処理完了	8月 28日 13時 48分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：1m/s 気温：30℃ 湿度：62%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 給油取扱所 タンク容量 (28.8KL)		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 13,400L 67倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 5,800L 5.8倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,500L 9.5倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911) 規 模： 高さ1,490mm×幅914mm×奥行530mm		倍数の合計： 82.3倍 設置の完成： 昭和 48年 8月 4日 直近の完成： 平成 30年 1月 17日		
14 発 生 箇 所	名 称： タンクの注入口 番 号 (905) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 灯油 (50L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 荷積中 番 号 (12) 作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)		18 取扱者の概要	経験年数2年	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 行為者は、給油取扱所 (営業用・屋外) の固定注油設備を使用して、移動貯蔵タンクに灯油を充填する際、注入管を使用せずに注油ノズルを注入口の蓋を利用して固定した。 行為者は、他の用務に当たるため、その場を離れた。その後、行為者は、他の従業員に移動貯蔵タンクに灯油を充填している旨を告げ充填行為を引き継いだ。当該他の従業員は満量停止装置が作動すると慢心し、監視を怠っていた。 その後、充填が完了していることを確認するため、移動タンク貯蔵所の様子を見に行ったら、本件事故を発見した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 固定注油設備の満量停止装置が作動しなかった。 危険物の取扱中、行為者が目を離した。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		配慮不足				
	人		本人の意識		違反（故意）		問題意識の不足				
	人		本人の意識		思慮		過信				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油が事業所の側溝から付近の河川に流れ込み、事業所から約100mほどの距離にある河川に微量の油膜が認められた。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 特になし			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 灯油50L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点 施設関係者の認識が甘く、速やかな通報に至らなかった。											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年8月27日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	<input type="checkbox"/> 有・無 内容： 法第10条第3項違反、法第13条第1項違反、法第16条の2第3項違反、法第16条の3第2項違反				
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> 取扱機器の機能についての従業員教育 安全かつ適法な危険物の取扱いに関する従業員教育 										
36 所 見	当該事業所に対しては、従業員全体に対して危険物の取扱いに関する再教育等を指導した。今後は立入検査等において、継続的に従業員教育の定着度等を確認していく必要がある。										

1 事故名	給油取扱所点検マンホール内配管の腐食によるガソリン流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	8月 29日 12時 00分
5 覚 知	8月 31日 11時 20分	6 鎮 圧 応急処置完了	8月 31日 15時 00分
7 鎮火・処理完了	1月 15日 10時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南東 風速：2.2m/s 気温：30℃ 湿度：76%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 20,000L 100倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍		
12 施 設 装 置	13 機 器 等 温度 圧力：		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)		
能 力： 給油取扱所 タンク容量10,000L	規 模： 容量10,000L (中仕切りにより7,000L及び3,000Lに分かれる)		
14 発 生 箇 所	設置の完成： 昭和 39年 5月 13日 直近の完成： 平成 26年 8月 27日		
名 称： 給油管等 番 号 (907)	17 物 質 の 区 分		
材 質： 鋼鉄	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (水溶性液体) 名称： ガソリン		
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要		
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
作 業 状 況： 番 号 ()	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 給油取扱所において、地下貯蔵タンクの定期点検 (漏れの点検) を実施したところ、配管 (送油管) に異常が認められる。調査すると、点検マンホール内の配管継手部分が腐食しており、穿孔による漏えいが確認される。発見後、当該配管に係る部分の使用を停止。後日、消防機関への通報がされる。なお、点検マンホール下部が破損していたことにより、周囲の土壌に流出するが、土壌調査の結果、範囲は限定的であることが判明 (点検マンホール周囲の土壌 (地下2mまでの範囲) に油膜が確認)。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 水分が溜まりやすく、腐食の環境下にあったため配管が腐食したものと推察。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管の点検マンホール内から土壌へ流出。土壌調査から点検マンホール周囲の土壌（地下2mまでの範囲）に油膜、油臭が検知される。なお、地下水に油膜等は確認されない。よって、敷地外への流出は認められず。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管の腐食劣化		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン流出。流出量不明。 ※土壌調査において、油膜が顕著に確認できるレベルではないとの結果が出ているが、流出量を特定する明確な根拠がないため不明。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31 防災活動上の問題点 事故発生から2日後の通報であり、早急に通報が行われなかった。所有者と管理者が異なり、土壌調査費用の負担面で折り合いがつかず、当該調査までに時間を要す。										
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 元年 9 月 30 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	平成 28 年 2 月 24 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無		
その他	年 月 日	年 月 日				内容： 法第16条の3第2項 通報義務違反				
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・的確な日常点検の実施 ・従業員への安全教育の実施 ・土壌調査 									
36 所 見	日常点検等について再検討するとともに維持管理の更なる徹底を図ること事故発生時の早期の通報について周知徹底するよう指導したところであるが、同様の事故防止のため他事業所に対しても注意喚起を行う必要がある。									

1 事故名	給油取扱所内における破損車両からの漏油事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 23日 13時 10分	推定・ 確定	4 発 見	2月 23日 13時 11分	
5 覚 知	2月 23日 13時 55分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 23日 14時 30分	
7 鎮火・処理完了	2月 23日 14時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：3m/s 気温：9℃ 湿度：59%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 給油取扱所 第一石油類(ガソリン)96,000第、2石油類(灯油・軽油)48,000		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 96,000L 480倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 48,000L 48倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： その他 番 号 (999) 規 模： ガソリンスタンド内		倍数の合計： 528倍 設置の完成： 平成 16年 1月 22日 直近の完成： 平成 30年 3月 30日		
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999) 材 質： その他		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(25L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 給油取扱所において、給油中の一般車両の燃料タンクに空いた穿孔部からガソリンが流出したもの					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 燃料タンク内に発生していた直径2cmの穿孔部から、給油によりガソリンが流出したもの。なお、当該車両はガソリンスタンド到着前の走行中に、マンホールを跳ね上げていたことを運転手から聴取する。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	破損		材料		その他					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出したガソリンは運転手及び従業員が吸着マットで処理しており、敷地外への流出はない。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 流出したガソリンは運転手及び従業員が吸着マットで処理しており、敷地外への流出はない。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： ガソリン25Lの流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4) ガソリンタンクの穿孔部をパテ埋						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	平成 29 年 1 月 25 日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	平成 29 年 1 月 25 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：		
その他	年	月	日	年	月	日	1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策										
36 所 見 施設従業員による流出したガソリンの吸着マット処理、事故車両の移動、消防への通報等、事故処理を的確に実施することができた。										

1 事故名	鉄道用給油取扱所において、フランジのボルト施工不良により危険物配管から軽油漏えい		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	1月 15日 10時 00分 推定・ 確定	4 発 見	1月 15日 10時 30分
5 覚 知	1月 15日 10時 45分	6 鎮 圧 応急処置完了	1月 16日 12時 00分
7 鎮火・処理完了	1月 16日 17時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：5m/s 気温：9℃ 湿度：58%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：運輸業 鉄道業 鉄道業 普通鉄 番 号 (4211) 道業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 32,000L 32倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) オイル 250L 0.13倍 第4類第4石油類 オイル 3,400L 0.57倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 32.7倍		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成： 昭和 45年 10月 22日		
能 力： 屋外貯蔵タンク：32,000L	直近の完成： 昭和 45年 11月 28日		
13 機 器 等 温度 圧 力：	17 物 質 の 区 分		
名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
規 模： 配管の直径50mm	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)		
名 称： 管継手 (ダクトを含む) 番 号 (201)	(低温、 常温 [0-40℃]、高温)		
材 質： 鋼鉄	分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (130L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	①. 選任有 2. 選任無		
作 業 状 況： 番 号 ()	3. 不要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	21 危険物取扱者 の取扱・立会い
			①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事故の概要： 施設関係者が当該給油取扱所の危険物配管ピット付近を通った際に、油の臭いに気づき、ピット内を確認したところ、バルブフランジ部から軽油が漏えいしていることを確認した。施設関係者は漏油部分一次側の仕切弁を閉め、二次側にある固定給油設備 (4台) への軽油の提供を停止した。これにあわせて消防署へ連絡した。			
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原 因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： フランジを締め付けている4本のボルトのうち1本が緩んでいたことにより、送液中の軽油がフランジ部から漏えいしたものの							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	施工不良		施工		ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内配管ビット約80mにわたり、軽油が漏えい。 敷地外への漏えいはなし。
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 特になし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0台 0隻 0機 0人	自 衛	0台 0隻 0機 0人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性） 軽油 130L流出				
消 防 団	0台 0隻 0機 0人	共 同	0台 0隻 0機 0人					
海上保安部	0台 0隻 0機 0人	応 援	0台 0隻 0機 0人					
その他の機関	0台 0隻 0機 0人	その他	0台 0隻 0機 0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名	鉄道用給油取扱所（屋内）			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 2 年 1 月 15 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	令和 2 年 1 月 15 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	令和 2 年 1 月 16 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項、法第16条の3第3項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>		
その他	年 月 日	年 月 日		内容：				
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ●分解調査によるフランジパッキンの取替え ●関係配管のフランジボルトの増し締め確認 							
36 所 見	当該流出事故は、バルブフランジのボルトの緩みにより発生したものであるが、緩みが発生した根本的な原因は特定されていないことから、継続的な原因の追究と定期的なボルトの締め付け確認が必要である。							

1 事故名	自家用給油取扱所の埋設配管が腐食し軽油が漏れた事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発生日	月 日 時 分 推定・確定	4 発見	8月 3日 16時 40分
5 覚知	8月 3日 16時 41分	6 鎮圧 応急処置完了	8月 3日 18時 00分
7 鎮火・処理完了	8月 7日 15時 00分		
8 覚知別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気象状況	天気：快晴 風向：南南東 風速：3.6m/s 気温：29.7℃ 湿度：80.7%		
10 発生事業所	11 発生場所		
種別： 業態：	区分：①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 47,500L 47.5倍		
種別： 業態：	12 施設装置 名称：その他【分類なし】 番号（9999） 能力：給油取扱所（地下タンク 9,500L×5）		
種別： 業態：	13 機器等 温度圧力：0.2MPa 名称：配管（送油、注入管等） 番号（606） 規模：配管径40A		
種別： 業態：	14 発生箇所 名称：その他の附属配管等 番号（299） 材質：鋼鉄		
種別： 業態：	15 発生時 運転状況：定常運転中 番号（1） 作業状況： 番号（ ）		
種別： 業態：	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温 [0-40℃]、高温） 分類：第4類第2石油類（非水溶性液体） 名称：軽油（800L）		
種別： 業態：	18 取扱者の概要 ①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要 2. 無		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事故の概要： 隣接市内の河川で油の浮遊が発見され、上流に向かって原因調査を実施したところ、当該給油取扱所付近の水路まで油膜が確認されたため、タンク本体及び配管の漏れ点検を行った結果、地下貯蔵タンクから固定給油設備につながる配管で漏れが見つかったもの。毎日の在庫管理の値から約800Lの軽油が施設内外に流出したと推定されるが、その内訳等は不明である。なお、油吸着マット及びオイルフェンスを使用し、応急措置を実施した。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号（10） 無 その他			

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 配管が長期間の使用及び多湿環境の土壤に埋設されていたため腐食し軽油が漏れたもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壤、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 腐食した配管から軽油が付近の土壤に流出した。さらにその一部が事業所排水路等をつたって河川に流れ込み、約7kmにわたり拡散したと推定される。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：			
第 三 者	0	0	0	0			なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油、数量不明（推定約800L）
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	8 人	その他	0 台	0 隻	0 機	2 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号（ 6、5 ） オイルフェンスを設置						自衛防災・消防組織等 番号（ 4、5、99 ） 事業所排水口付近に油吸着マットを設置。タンク内残油を抜出し、施設を使用停止。施設周辺の土壤を調査実施（油の滞留なし）。				
31 防災活動上の問題点										
32 行政措置	施設名	給油取扱所				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他
	使用停止	令和 2 年 8 月 5 日				定期・自主点検			令和 2 年 4 月 30 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日				気密試験等			平成 29 年 8 月 12 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日				保 安 検 査			年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：	
35 今後の対策	当該自家用給油取扱所を廃止し、新しく施設を作り直す。									
36 所見	定期点検等を適切に行っても埋設配管が腐食し油が流出することがある。日々の在庫管理や日常点検の重要性を今後さらに指導していく。									

1 事故名	従業員が給油中に給油ノズルがはずれ、流れ出た軽油が、地下タンクの漏えい検知管から検知された流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	9月 17日 14時 00分		
5 覚 知	9月 17日 14時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 17日 14時 30分	
7 鎮火・処理完了	9月 18日 17時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他(立入検査)				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南東 風速：0.6m/s 気温：25.5℃ 湿度：88.9%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一般 番 号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業 (特別積合せ貨物運送業を除く)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)				特別防災地区名：
	16 発生施設規制区分等				
施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混合 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 19,200L 19.2倍					倍数の合計： 19.2倍
12 施 設 装 置	設置の完成： 昭和 60年 7月 26日 直近の完成： 昭和 60年 7月 26日				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)					
能 力： 軽油19,200L貯蔵					
13 機 器 等	温度圧力：				
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)					
規 模： 鋼製一重殻10KLタンク×2基					
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分				
名 称： その他 番 号 (999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
材 質： 鋼鉄	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
15 発 生 時	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)				
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)	(低温、常温 [0-40℃]、高温)				
作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)	分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油				
18 取扱者の概要					
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 消防本部が事業所に対して実施する立入検査の際、当該施設の漏えい検知管1か所から黒色の油分及び油臭を認め、漏えいの疑いがあるとして直ちに口頭にて使用停止を要請し、点検業者から漏えい検査を受けるよう指導した。 発見の翌日に点検業者の漏えい検査が実施され結果は異常なしであった。 当該施設の所有者へ聴取りを行うと、従業員が給油中に別作業をするためにその場を離れた際、給油ノズルが外れてそのまま燃料が流れ出ることが複数回あった。当該施設の所有者は報告を受けていたが、消防機関への通報は必要ないと判断し、措置は何もなされなかった。 また、聴取りを進める中で、毎週実施するべき漏えい検知管の点検を怠っていたこと及び危険物の在庫管理が不十分であることが分かった。 以上のことから、当該施設の所有者に対して適正な取扱い、点検及び従業員への周知徹底を指導した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()		
	関連原因						
	発生原因の状況： 貨物運搬車両へ給油する際、給油中にその場を離れ別作業をしていたため、給油ノズルが給油口から脱落したことで燃料が流出することが複数回あった。その際に流出した燃料が地下タンクのマンホールに流入し、さらに浸透したことで漏えい検知管にて油分が確認された。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		
	人		本人の意識		思慮		
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害				28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	
区分						職業又は職名	
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油 流出量不明							
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円							
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (99)			自衛防災・消防組織等 番号 ()				
原因調査活動							
31 防災活動上の問題点 当該施設の所有者は、通報の必要なしと判断し消防機関への通報はされなかった。燃料を給油する従業員に対して、その場を離れないよう周知する。 燃料が流出した場合は直ちに上司へ報告する。							
行政措置	32 施設名	給油取扱所		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無	
その他	使用停止指示 令和 2 年 9 月 17 日		年 月 日		内容： 漏えい検知管の定期点検未実施、在庫管理の不徹底（法第13条第1項） 漏えい時の措置及び通報未実施（法第16条の3関係）		
35 今後の対策		・定期点検、日常点検の再確認 ・従業員への安全教育の徹底					
36 所 見							

1 事故名	セルフ式のガソリンスタンドにおいて、給油中にノズルが抜け、付近にいた子供の顔にガソリンがかかったもの						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	11月 28日 10時 15分	推定・ 確定	4 発 見	11月 28日 10時 15分			
5 覚 知	11月 28日 10時 22分				6 鎮 圧	11月 28日 10時 40分	
7 鎮火・処理完了	11月 28日 10時 40分				6 応急処置完了		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：北西		風速：3m/s		気温：13℃ 湿度：45%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 地下タンク容量：30,000L×2基、20,000L×1基、2,000L×1基			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 50,000L 250倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 第4類第4石油類 エンジンオイル 1,800L 0.3倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 常温、常圧 名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911) 規 模： 幅：1,280mm、高さ：2,240mm、奥行き：833mm			倍数の合計： 281.3倍 設置の完成： 平成 8年 8月 6日 直近の完成： 平成 25年 8月 2日			
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ノズル 番 号 (909) 材 質： 特殊合金			17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.1L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)			18 取扱者の概要			
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事故の概要： セルフ式のガソリンスタンドにおいて、車に給油するにあたり、顧客が子供を車から降ろして給油作業を開始した際、所用により子供を当該車両の給油口付近に残してその場を離れたにもかかわらず、監視していた従業員による注意喚起や緊急停止の処置がされなかったことから、何らかの原因で給油ノズルが抜け、ガソリンが付近にいた子供にかかり被災したものである。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 今回、制御卓において従業員により監視はされていたが、当該従業員の経験不足及び知識不足であったことから、給油作業中に父親がその場を離れたにもかかわらず、注意喚起等の措置がなされなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	制度		教育・訓練		内容		教育・訓練がない/不足				
	管理		リスクアセスメント		危険意識		危険に対する認識がない/不足				
	人		本人の知識・能力		知識		知識の活用不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ノズルが落下したことにより、床にガソリン0.1L程度の漏えい			
区分											
当事者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 特になし			
第三者	0	0	0	1	危険物の付着						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消防機関	1台	0隻	0機	3人	自衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン0.1L漏えい	
消防団	0台	0隻	0機	0人	共同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 情報収集						自衛防災・消防組織等 番号 (9、5) ガソリンがかかった4歳子供の救護活動を実施するとともに、地面に付着したガソリンを油吸着マットにて回収。					
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名	給油取扱所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和 2年 6月 15日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	平成 30年 8月 1日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第10条第3項 取扱基準違反（警告）				34 当該施設に係る 法令違反の有無		<input checked="" type="checkbox"/> ・無			
その他	令和 2年 11月 30日		年 月 日		①. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭		内容： 子供が固定給油設備のノズル付近にいるのにも関わらず、制御卓において、法第10条第3項における製造所等における危険物の貯蔵・取扱いに基づく、監視及び顧客に対する必要な指示等を行わなかった。		
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> ・監視モニターによる危険性の共有と防止対策として注意喚起表示を掲示。 ・店長会議にて全店再指導（マニュアルの再徹底）。 ・全国の店舗への情報共有。 									
36 所 見		同様の事案を防ぐために、制御卓付近に注意喚起表示（給油口付近にお子様近づかないように注意すること等。）の掲示及びマニュアルの再教育等を実施するよう指導。また、今回のような事案は、日本全国のセルフスタンドにおいて起こりうる事案であるため、事案を広く知らせ、同様の事案の再発を防ぐ必要がある。									

1 事故名	給油すべき船舶を間違えたことにより、給油中の高速船から燃料（軽油）が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）		
3 発 生	8月 16日 5時 10分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	8月 16日 5時 10分
5 覚 知	8月 16日 6時 14分	6 鎮 圧 応急処置完了	8月 16日 6時 30分
7 鎮火・処理完了	8月 16日 8時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他（ ）		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：2.3m/s 気温：28.3℃ 湿度：72.4%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：運輸業 水運業 内陸水運業 港 番 号 (4531) 湾旅客海運業	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 30,000L 30倍		
12 施 設 装 置	設置の完成：平成 17年 2月 3日 直近の完成： 年 月 日		
名 称：その他【分類なし】 番 号 (9999)	17 物 質 の 区 分		
能 力：給油取扱所(船舶)30KL	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(80L)		
13 機 器 等	18 取扱者の概要 経験年数8年		
温度圧力：0.5MPa	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 3. 不要 ②. 無		
名 称：固定給油(注油)設備 番 号 (911)			
規 模：3.7kwギアポンプ			
14 発 生 箇 所			
名 称：通気管 番 号 (304)			
材 質：鋼鉄			
15 発 生 時			
運 転 状 況：給油中 番 号 (8)			
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)			
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 既に給油済みの燃料満タン状態の船舶を本来給油すべき船舶と間違えて給油作業を行い、燃料（軽油）が船舶燃料タンクの通気管から50ML程度海上へ、船舶燃料タンク検尺口から80L程度船内機関室床面に漏れ出したもの			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他			

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()			
	関連原因							
	発生原因の状況： 給油作業者の思い込みにより給油すべき船舶を間違え、さらに、無資格者のみで危険物を取り扱っていた。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		思い込み	
	人		本人の意識		思慮		取り違い	
	人		本人の意識		思慮		不注意	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 浮桟橋に停泊した船舶の周囲海上へ軽油が50ML流出した。 漏れ出した油は微量で、直ちに回収できたため、事業所の敷地内で収束。
区分	当事者	0	0	0	0			
	防災活動従事者	0	0	0	0			
	第三者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消防機関	3台 0隻 0機 10人	自衛	0台 0隻 0機 0人	物質の被害状況：				
消防団	0台 0隻 0機 0人	共同	0台 0隻 0機 0人	第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:1,000L				
海上保安部	0台 0隻 0機 0人	応援	0台 0隻 0機 0人	第2石油類 軽油約80L				
その他の機関	0台 0隻 0機 0人	その他	0台 0隻 0機 0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
海上に漏れ出した微量の軽油は既に回収済みであったが、機関室内に漏れ出した軽油は未回収であったため、二次災害防止及び漏えい状況の確認を実施した。								
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 元 年 9 月 30 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 2 年 6 月 29 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無		
その他	警告書 令和 2 年 9 月 8 日	年 月 日	①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭	内容： 法第13条第3項 資格外の取り扱い 法第14条の2第4項 予防規程遵守違反				
35 今後の対策 給油マニュアルの作成、予防規程の見直し、従業員の教育訓練								
36 所 見 警告期限内に上記の対策を講じ、以後、無資格者のみの給油作業を行わないように十分な対策がなされているため、消防法令上の違反はないと考えられる。								

1 事故名	自家用給油取扱所において、給油ノズルの誤操作によりガソリンが流出、従業員が負傷した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 19日 8時 25分	推定・確定	4 発 見	1月 19日 8時 25分	
5 覚 知	1月 19日 8時 31分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 19日 8時 45分	
7 鎮火・処理完了	1月 19日 8時 50分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：4.3m/s 気温：4.5℃ 湿度：77%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：教育・学習支援業 その他の教 番号 (7799) 育, 学習支援業 他に分類され ない教育, 学習支援業 他に分 類されない教育, 学習支援業				11 発 生 場 所
					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：
		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 7,000L 35倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 3,000L 3倍		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番号 (9999) 能 力： 給油取扱所 タンク容量10,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油 (注油) 設備 番号 (911) 規 模： 軽量機 P-100型				
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ノズル 番号 (909) 材 質： アルミニウム				設置の完成： 平成 7年 4月 7日 直近の完成： 平成 15年 4月 28日 倍数の合計： 38倍
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番号 (8) 作 業 状 況： 運転操作中 番号 (1)				17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(0.5L)
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 事業所内の自家用給油取扱所において63歳男性が給油作業中に、ノズル操作を誤ったため付近にいた従業員23歳女性の身体 (頭部から胸部付近、目に入る) にかかり救急搬送されたもの					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 車両給油口から給油ノズルを抜き出した際に、誤ってレバーを握ったためガソリンが噴出した。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	管理		監督		監視		監視がない				
	制度		教育・訓練		実施状況		教育・訓練が実施されない				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地外への漏えいはない。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし（人的被害のみ）			
第 三 者		0	0	0	1 汚損（目に入った）	会社員					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類引火性液体 非水溶性液体 ガソリン0.5L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
負傷者の救護											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名 給油取扱所											
行政措置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	平成 29 年 3 月 27 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	平成 29 年 3 月 27 日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
置	警告							34 当該施設に係る法令違反の有無		<input checked="" type="checkbox"/> ・無	
	その他	令和 2 年 2 月 5 日			年 月 日					内容： 法第13条第1項（危険物保安監督者保安業務不履行）、 法第13条第3項（危険物取扱時に危険物取扱者立会いなし）	
35 今後の対策		令和2年2月10日付で、警告書に対する、再発防止対策を提出する。									
36 所 見		上記内容を踏まえ、設置者から危険物保安監督者の交代、再発防止対策として給油時間に必ず危険物取扱者が立ち会えるよう勤務シフトの構築について提出された。当該施設の職種を鑑みてコンプライアンス遵守の再徹底がなされた。									

1 事故名	給油取扱所内の給油機のノズル破損により、軽油が流出したものの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 12日 11時 15分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 12日 11時 15分	
5 覚 知	3月 12日 11時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 12日 12時 00分	
7 鎮火・処理完了	3月 12日 12時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：快晴 風向：北北東 風速：5.5m/s 気温：12℃ 湿度：36%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路旅客運送業 一般 番 号 (4321) 乗用旅客自動車運送業 一般乗 用旅客自動車運送業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 20,000L 20倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	能 力： 給油取扱所 (タンク容量20KL)	13 機 器 等	温度 圧力：	設置の完成： 昭和 56年 12月 23日	直近の完成： 令和 元年 8月 23日
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	規 模： 寸法542W×850H×352D	14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908)	材 質： ゴム	15 発 生 時
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)	作 業 状 況： その他 番 号 (99)	18 取 扱 者 の 概 要	経験年数11年		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 給油取扱所内の給油機NO.2で新幹線用架線延線車 (以下、「保線車」という) に給油完了後、給油口とノズルが接続された状態で保線車を後退させたことにより、リールホースとノズルに負荷がかかり破断。破断した際に軌道敷地内に軽油が約10L流出したものの。流出後、事故関係者が吸着マットにて処置及び消防機関へ通報した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 給油完了後に給油機のノズルが保線車の給油口に挿入された状態で同車両を後退させたもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	管理		組織		コミュニケーション		伝達方法が不適切			
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		配慮不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油機のノズル及びリールホースの破損により、リールホース内の軽油が同敷地内線路上に流出したもの		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 給油機のノズル及びリールホースの破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 軽油10L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (70 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策										
今回の事故を受けて今後同様の事故が発生しないよう予防規程を見直した。										
36 所 見										
人的要因による事故であり、従業員の作業時の事故防止による意識を高めて行けるよう今回の事例を他の事業所の指導にも役立てていく。										

1 事故名	給油取扱所において、給油ホースの施工不良によりホースの継ぎ目からガソリンが流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	4月 2日 3時 30分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	4月 2日 4時 17分		6 鎮 圧
7 鎮火・処理完了	4月 2日 4時 46分		応急処置完了
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北北西 風速：3.7m/s 気温：10.2℃ 湿度：85.4%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他		
能 力： 給油取扱所 48Kタンク2基、2Kタンク1基	貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所		
13 機 器 等	類・品名・名称・数量・倍数：		
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	第4類第1石油類 (非水溶性液体) ガソリン 62,000L 310倍		
規 模： 幅1,280mm、奥行580mm、高さ2,300mm、ホース長4,000mm	第4類第2石油類 (非水溶性液体) 軽油 14,000L 14倍		
14 発 生 箇 所	第4類第2石油類 (非水溶性液体) 灯油 20,000L 20倍		
名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908)	第4類第3石油類 (非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍		
材 質： その他	第4類第4石油類 その他 1,800L 0.3倍		
15 発 生 時	倍数の合計： 345.3倍		
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)	設置の完成： 平成 18年 8月 3日		
作 業 状 況： 番 号 ()	直近の完成： 平成 18年 12月 26日		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	17 物質の区分
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(1L)		
23 事故の概要： 給油取扱所内で、給油客が給油中にホースの継ぎ目からガソリン約1Lが流出し、給油客に付着したもの。給油客に呼び出され監視業務者がノズルを戻し、しばらくして流出が止まった。流出量が少量であったため、消防隊現場到着時にはガソリンは既に揮発していた。	18 取扱者の概要		
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
	21 危険物取扱者の取扱・立会い		
	1. 有 ②. 無		

原	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分、監視不十分									
	発生原因の状況： ガソリンの流出原因は、業者による給油ホースの施工不良。当該給油ホースは前日に交換されていて、締付けが不十分であった。また、作業実施者と危険物保安監督者等による作業後の確認を双方の立会いの下実施していなかった。そのため、使用に際し、少しずつ締付け部が緩んだため、ガソリンが流出した。									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	施工不良		施工		取り付け不良					
	施工不良		施工		ボルトの締め付けの問題（締め付け不良、過度の締め付け等）					
	関連原因の詳細									
設備		監理・保守		点検・整備		確認不足				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 固定給油設備のホースの継ぎ目からガソリンが流出。ホースをつたい顧客にガソリン付着及び地面に流出。ノズルを戻し流出停止。流出量は約1L。 施設等の被害状況： なし		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	14 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン約1L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、1万円以上 () 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
固定給油設備の使用停止措置及び監視業務の徹底について口頭指導。										
31 防災活動上の問題点										
消防機関への通報が、夜間監視業務者から警備会社を通じてされており、事故発生から消防覚知まで数十分経過している。事故発生時、給油の一斉停止措置未実施。										
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 5 月 1 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	平成 30 年 10 月 12 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無				
その他	給油ホース改修等指導 令和 2 年 4 月 6 日			1. 文書 2. 口頭		内容： 危険物取扱者保安講習未受講				
35 今後の対策										
従業員への安全教育の実施、施工業者への改善対策の実施										
36 所 見										
その他の危険物施設への立入検査等の機会には、従業員への安全教育と設備改修後の確認を徹底するよう指導し類似の事故防止に努める必要がある。										

1 事故名		給油取扱所において給油中にノズルとホースの結合部分が外れたことによりガソリンが流出した事故											
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()											
3 発 生		2月 24日 18時 11分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定			4 発 見		2月 24日 18時 11分						
5 覚 知		2月 25日 13時 09分			6 鎮 圧 応急処置完了		2月 24日 18時 17分						
7 鎮火・処理完了		2月 24日 18時 40分											
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()											
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：南東		風速：2.9m/s		気温：9.7℃		湿度：49%			
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所									
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：									
				16 発生施設規制区分等									
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 48,000L 240倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 32,000L 32倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 16,000L 16倍									
12 施 設 装 置				設置の完成：平成18年 5月 1日 直近の完成：平成18年 7月 10日									
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 給油取扱所 タンク容量48,000L													
13 機 器 等				温度圧力：									
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模： 高さ1,560mm 横1,280mm 幅530mm				倍数の合計： 288倍									
14 発 生 箇 所				17 物 質 の 区 分									
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909) 材 質： アルミニウム				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称： ガソリン(25L)									
15 発 生 時				18 取 扱 者 の 概 要									
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 番 号 ()				19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				20 危 険 物 保 安 監 督 者		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有													
23 事 故 の 概 要： 給油取扱所内の固定給油設備により顧客が車両にガソリンを給油中、給油満量のオートストップ機能が作動しノズルとホースを結合するジョイント(スイベル部)が外れたことにより25L程度のガソリンが流出したものである。													
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他													

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 給油中にノズルとホースを結合するジョイント（スイベル部）が外れた原因にあつては、当該スイベルが長年にわたる給油時の回転動作により内部の抜け防止箇所（凸形状部分）が大きく摩耗し、給油中のポンプ圧力に耐えきれず、燃料が噴出したものとメーカーが判断した。なお、本スイベルは平成18年設置時から使用しており、摩耗そのものは通常の経年劣化によるものと考えられるとのこと。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油取扱所内へガソリン25Lが漏えい		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	3 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン25L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text" value=""/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
31 防災活動上の問題点 漏えいを確認後、消防機関への通報がされていなく、通報があつたのは事故発生時の翌日であつた。日常点検の徹底及び保安教育の徹底が必要。										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	平成 29 年 11 月 20 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	平成 29 年 4 月 28 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
置	その他	年 月 日	年 月 日		内容：					
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策		計量機の日常点検をより一層徹底し、給油中の監視業務をより注意するよう徹底する。また事故発生後直ちに関係機関へ通報することを徹底する必要がある。								
36 所 見		今回の事故は給油中にノズルとホースを結合するジョイント（スイベル部）が長年にわたる給油時の回転動作により内部の抜け防止箇所（凸形状部分）が大きく摩耗し、給油中のポンプ圧力に耐えきれず、燃料が噴出したもの。また日常点検を徹底することを指導した。なお、事故後直ちに消防機関に通報ができていないので、事故後は直ちに消防機関へ通報するように事業所内で周知徹底する必要がある。								

1 事故名	給油取扱所において、タンクローリーへ軽油を注油中に職員が持ち場を離れ流出したもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	5月 28日 9時 00分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	5月 29日 9時 38分		5月 28日 9時 15分
7 鎮火・処理完了	5月 28日 10時 05分		6 鎮 圧 応急処置完了
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴	風向：東北東	風速：1m/s 気温：21℃ 湿度：42%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所		
	類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 25,000L 125倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油・灯油 25,000L 25倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) エンジンオイル 1,800L 0.9倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 150.9倍		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成： 昭和 45年 3月 18日		
能 力： タンク全容量30,000L (ガソリン20,000L：ハイオク5,000L：軽油5,000L)	直近の完成： 平成 24年 12月 25日		
13 機 器 等	温度圧力： 0.1MPa		
名 称： 固定給油(注油)設備 番 号 (911)	17 物 質 の 区 分		
規 模： 1基(寸法：W860×H2,240×D480)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(930L)		
14 発 生 箇 所	18 取扱者の概要		
名 称： 給油(注油)ノズル 番 号 (909)	経験年数10年		
材 質： 特殊合金	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要		
15 発 生 時	20 危険物保安監督者		
運 転 状 況： 払出中 番 号 (10)			
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)			
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事故の概要： 事故当日の午前8時40分頃、ローリーのタンクに軽油の注油作業を始めた。その後、当該職員が持ち場を離れ別の作業を行い、約30分後に別の職員がタンクから軽油が流出しているのを発見し事故が発覚する。その後施設内にあるドラム缶と手動ポンプ、吸着マットにて流出した軽油の回収作業を行う。この時に敷地外への流出確認を行ったが、流出はないと判断し通常業務に戻る。その日の午後7時頃に当該給油所の支店長に付近の住民から「水路から油の臭いがする」と連絡が入ったため、施設職員を招集し再度確認と処置を行った。消防機関への通報は忘れていたとのことである。翌日の午前9時38分に当消防本部の指令センターに通報が入り覚知する。流出量にあつては約930L漏えいし、そのうちの約530Lを回収、約360Lが施設外へ流出したものと推定される。			
24 緊急処置の状況	有 番号 (10) 無 その他		

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 故障									
	発生原因の状況： 本件流出事故の主原因は職員が注油中に持ち場を離れ、別の作業にあっていたところが大きいその他の関連原因として注油設備のノズルのオートストップ機能が故障していたことも挙げられる。この職員は平時からこのオートストップ機能を頼りに持ち場を離れ、別の作業を行っていたとのこと。今回の流出事故ではこのオートストップ機能を作動させるノズル内のバネが錆び付いて機能していなかったことが後の検査で判明した。この機能は現在修繕済みである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		過信			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 軽油約360Lが施設外へ流出したものと推測される。直線距離にして南西1.1km付近の河川まで施設職員関係者により回収作業が行われている。 施設等の被害状況： タンクローリーから約930Lが漏えいしており、そのうち施設内に漏えいした軽油570Lを回収している。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油約930L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (11 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 漏えいのあった翌日に消防機関に通報が入り覚知する。管轄の消防隊により付近の水路及び河川への漏えい状況の確認を行う。				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 施設内の軽油回収は事故当日に行われており、施設外の回収は翌日に行われている。						
31 防災活動上の問題点 漏えい発見時の翌日の通報であったため、事故発生時は即時消防機関へ通報するよう指導する。予防規程には事故発生の際の対処法も記載されているが、消防機関への通報が翌日になっているなど、一部守られていなかった。										
32 施設名	給油取扱所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 2 年 5 月 29 日	年	月	日	定期・自主点検	令和 2 年 2 月 6 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	令和 2 年 6 月 3 日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u>	内 容：	
措 置	そ の 他	年 月 日	年 月 日							
35 今後の対策	本件事案は軽油を固定注油設備からタンクローリーへ注油中に漏えい事故が発生したものである。主たる原因としては作業員が注油中にノズルを差し込んだまま持ち場から離れたことにあるが、この他にも固定注油設備のノズルのオートストップ機能が故障していた事があげられる。さらには事故発生翌日に消防署への通報を行っており通報が遅れていた。今後、同様の事故を起こさないための対策として、職員間の予防規程の周知の徹底、給油取扱所内における危険物取扱い手順の再確認も含め、事業所管内の給油取扱所全職員を対象に研修を行い、今後は注油作業は2名で行うことを社内で行った。									
36 所 見	本件事案は危険物取扱い作業中に持ち場を離れ、さらには消防機関への通報が翌日になっており、危険物取扱者としての基本的遵守事項が守られておらず、危機管理意識が欠如していたと言わざるを得ない。機器類の管理も含め職員の再発防止対策が必要である。									

1 事故名	セルフ給油取扱所において、顧客がバイクに給油中、不注意による給油口からのガソリンの流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	10月 4日 10時 11分 推定・ 確定	4 発 見	10月 4日 10時 13分
5 覚 知	10月 4日 13時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	10月 4日 13時 11分
7 鎮火・処理完了	10月 4日 13時 36分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇	風向：北北西	風速：2.3m/s 気温：23℃ 湿度：71%
10 発 生 事 業 所	種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		
11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 55,000L 275倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 15,000L 15倍		
13 機 器 等	温度圧力： 名 称：固定給油(注油)設備 番 号 (911) 規 模：横1,280mm、高さ2,300mm、奥行508mm 設置の完成：平成 30年 5月 17日 直近の完成：令和 元年 7月 19日 倍数の合計：300倍		
14 発 生 箇 所	名 称：給油(注油)ノズル 番 号 (909) 材 質：アルミニウム		
15 発 生 時	運 転 状 況：給油中 番 号 (8) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(1L)		
18 取 扱 者 の 概 要	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要 :	オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要 :	バイクにガソリンを給油していた顧客Aが、誤って顧客用固定給油設備付近の土間にガソリンを流出させたものである。 また、顧客Aが給油を終えてバイクを発進した直後に軽自動車が入り、給油しようとした顧客Bが流出場所付近で転倒したため、駆け付けた従業員がガソリンの流出を発見した。 なお、流出したガソリンは、従業員が顧客Bを救護している間に揮発した。 その後、負傷した顧客Bが気分不良により自ら救急車を要請したことにより事案が発覚した。		
24 緊 急 処 置 の 状 況	有 番号 () 無		

25	主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因 監視不十分						
原	発生原因の状況： 顧客Aがバイクにガソリンを給油する際、誤ってガソリタンクからガソリンを溢れさせ、燃料タンクからノズルを抜き取った後もレバーを握っていたため土間にガソリンが流出したものである。 また、顧客Aは流出発生後すぐに立ち去り、その直後、顧客Bが乗車する軽自動車が入り込んだため、従業員は流出したガソリンの発見に遅れた。 なお、顧客用固定給油設備の点検を行ったが異常は認められなかった。						
	主原因の詳細						
因	第I層		第II層		第III層		
	人		本人の意識		思慮		
関連原因の詳細							
管理		監督		監視			
				監視が実施されない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害				28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	
区分						職業又は職名	
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	1	転倒等	会社員	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
物質の被害状況： 第4類第1石油類(非水溶性)ガソリン約1L流出							
損害額 1万円未満、1万円以上 (万円)							
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (99) 情報収集を実施。 なお、現着時にはガソリンは既に揮発していた。			自衛防災・消防組織等 番号 (99) 転倒した顧客Bの救護を実施。 なお、流出したガソリンは救護中に揮発した。				
31 防災活動上の問題点 流出したガソリンは少量で、顧客Bの救護中に揮発したこともあり、危険物に係る事故との認識が従業員になかったため消防機関への通報が遅れた。 なお、従業員は顧客Bと転倒の原因についての話し合いの立会いのため、警察への通報を行っている。							
32	施設名			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和2年6月10日	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：	
35	今後の対策	・顧客用固定給油設備付近にガソリンが流出・漏えい等した場合には直ちに従業員に知らせる旨の表示を実施 ・従業員の安全教育の実施					
36	所 見	保安監督者が従業員に対して「給油中の監視業務の徹底を図ること」、「事故が発生した際は直ちに消防機関へ通報すること」、「顧客用固定給油設備付近の見えやすい位置に、ガソリンが流出・漏えいした場合には直ちに従業員に知らせる旨を表示すること」を口頭指導した。 今後、管内の他の事業所に対しても同種事故防止に努める必要がある。					

1 事故名	給油取扱所において、給油中の車両が発進し、給油ホースが固定給油設備から離脱したことによるガソリンの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 30日 20時 20分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	10月 30日 20時 20分	
5 覚 知	10月 30日 20時 55分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 30日 21時 00分	
7 鎮火・処理完了	11月 2日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：5.5m/s 気温：14℃ 湿度：46%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 48,000L 240倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 16,000L 16倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,2000L 32倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 倍数の合計： 289倍				
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： タンク容量48,000L2基、2,000L1基				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911) 規 模： 縦：530mm、横：1,280mm、高さ：2,300mm				
14 発 生 箇 所	設 置 の 完 成： 平成 14年 11月 20日 直 近 の 完 成： 年 月 日				
名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908)	17 物 質 の 区 分				
材 質： ゴム	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン				
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要 経験年数3年				
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危 険 物 保 安 監 督 者		21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要： 給油ノズルを給油口に差し込んだまま顧客が車両を発進させたため、固定給油設備から給油ホースが離脱し、給油ホース内に滞留していた微量のガソリンが流出したものの。なお、ガソリンの流出量は微量であったため不明である。					
24 緊 急 処 置 の 状 況 <u>有</u> 番 号 (1) 無 装置の緊急停止					

原	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 従業員（保安監督者（代行者））が、車両のサイドミラーに給油中の旨の掲示をし、給油作業を行っていたところ、他の車両が給油を行うため入ってきたので、誘導を行うため、一時的に給油中の当該車両から離れた際に当該車両に乗車中の顧客が、エンジンをかけて発進したため、給油ホースが固定給油設備から離脱したもの。なお、このとき当該車両への給油は終わっていた。									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
関連原因の詳細										
管理		監督		監視		監視が実施されない/不足				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 給油ホースが固定給油設備から離脱したもの。なお、当該給油ホースは事故防止のため容易に離脱できる構造のものであり、ガソリンの流出量は微量で、固定給油設備付近のみである。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 固定給油設備の給油ホース1本を破損。		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 微量の第4類第1石油類（非水溶性）ガソリンの微量の流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集を行った。						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) 給油ホースが離脱した固定給油設備をただちに停止、流出した微量のガソリンを拭取りにより回収及びただちに消防機関への通報を行った。				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：			
そ の 他	年 月 日	年 月 日								
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 ・使用を停止している破損した固定給油設備の早期改修 ・従業員の安全教育の実施（給油中の車両から一時的に離れる場合はその旨を顧客に伝える等）										
36 所 見 事故発生後の従業員等の対応は適切であった。 今後同様の事案の発生を防止するために、給油中の車両から一時的に離れる場合はその旨を顧客に伝える等の安全教育を行うよう指導した。										

1 事故名	自家用給油取扱所の懸垂式固定給油設備に至る配管腐食による流出事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	11月 10日 5時 45分
5 覚 知	11月 10日 11時 20分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 10日 15時 00分
7 鎮火・処理完了	11月 10日 15時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：4.4m/s 気温：14.8℃ 湿度：46%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一般 番 号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業 (特別積合せ貨物運送業を除く)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,550L 9.55倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (2L)		
能 力： 第4類第2石油類 (軽油) 9,550L 9.5倍	設置の完成： 昭和 57年 4月 26日 直近の完成： 昭和 57年 4月 26日 倍数の合計： 9.55倍		
13 機 器 等 温 度 圧 力：	18 取 扱 者 の 概 要		
名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要		
規 模： 32A 板厚3.0mm			
14 発 生 箇 所	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危 険 物 保 安 監 督 者		
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)			
材 質： 鋼鉄			
15 発 生 時			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況： 番 号 ()			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 自家用給油取扱所のポンプから懸垂式固定給油設備へ至る送油配管から軽油約2L流出したもの			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他			

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 配管の腐食によるもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離（経年による剥離）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 軽油約2L漏えいしたうち、約0.1Lが雨樋から敷地外の側溝内に流出。流出範囲は10.9mで収まっている。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 漏えいした軽油がキャノピー上部から柱等に附着。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（軽油）約2L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海 上 保 安 部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (20 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31 防災活動上の問題点 漏えい確認後、速やかな通報を怠ったもの。										
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 3 月 18 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 2 年 3 月 18 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策		消防法令に基づく手続きを行い、技術上の基準に基づき早期改修を行う。 消防機関への迅速な通報と、初動体制の徹底及び従業員等の安全教育の実施。								
36 所見		当事業所へ日常の管理（在庫管理、配管等の目視点検）の徹底及び異常覚知後の早期消防機関への通報並びに施設の使用停止等の措置の徹底を指導したところであるが、今後、管内の危険物施設に対しても、立入検査等の機会に同様の指導を行う必要がある。								

1 事故名	自家用給油取扱所で給油中、給油が終了したと勘違いし、車両を発進させた事により、給油ホースが破断して軽油が漏えいする		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	8月 12日 10時 30分 推定・ 確定	4 発 見	8月 12日 10時 30分
5 覚 知	8月 12日 10時 40分	6 鎮 圧 応急処置完了	8月 12日 10時 50分
7 鎮火・処理完了	8月 12日 12時 10分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：快晴 風向：西 風速：2.9m/s 気温：34℃ 湿度：54%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：運輸業 運輸に附帯するサービ 番 号 (4822) ス業 貨物運送取扱業(集配利 用運送業を除く) 運送取次業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 2,880L 14.4倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 25,920L 25.92倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： タンク容量28,800L (9,600×3) 40L/m 自家用給油取扱所	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (60L)		
13 機 器 等 温 度 圧 力：	18 取 扱 者 の 概 要 経験年数29年		
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者 1. 有 3. 不要 21 の取扱・立会い ②. 無		
規 模： 1,280W×1,490H×833D ホース長ショート型3m型 (標準)	倍数の合計： 41.32倍		
14 発 生 箇 所	設置の完成： 平成 6年 4月 28日 直近の完成： 令和 元年 8月 26日		
名 称： 給油 (注油) ホース 番 号 (908)	19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者		
材 質： その他	21 危険物取扱者 の取扱・立会い 1. 有 ②. 無		
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)	23 事 故 の 概 要： 社用車のワゴン車に危険物保安監督者が給油中、急用で現場を離れたため、ワゴン車の運転手が給油が終了したと勘違いし、ワゴン車を発進させたところ、固定給油設備のジョイント部分から10cm下方で給油ホースが破断して軽油が流出する。付近にいた従業員が異常に気付いて、ワゴン車を停車させ、エンジンを切るよう指示する。給油設備から軽油の流出が継続していたので、危険物有資格者を呼び、ワゴン車の給油口に残存する給油ノズルを取り、給油設備のノズル受けに戻して軽油の流出を止める。事故発生を危険物保安監督者に知らせ、流出油が敷地内に留まっていることを確認後、地盤面の流出油を中和して二次災害防止にあたり、直近の消防署に通報する。この事故による死傷者はなし。		
作 業 状 況： その他 番 号 (99)	24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		

25	主 原 因 監視不十分	着火原因	番号 ()								
	関 連 原 因 操作確認不十分										
原 因	発生原因の状況： 給油中において、危険物保安監督者が途中で現場を離れたことにより、車両運転手が給油作業が終了したと思い込み、車両を発進させたことで給油ホースが破断したもの。本来、このような事案では、ジョイント部分が離脱することにより、油の流出は抑えられるが、給油ホースの劣化により、ジョイントに対して給油ホースの引張荷重の方が弱く耐えられなくなり破断したものと推察する。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層								
	第Ⅳ層										
因	関連原因の詳細										
	人	本人の意識	違反（故意）								
	人	本人の意識	思慮								
			問題意識の不足								
			思い込み								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害			28 物的被害								
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出油は、油分離装置4槽の内、1槽に収まり敷地外への流出は認められない。				
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油60L流出する。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 1万円未満、 1万円以上 (5 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	自家用給油取扱所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和 2 年 8 月 5 日	令和 2 年 8 月 5 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	令和 元 年 6 月 6 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保 安 検 査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ 無				
その他	誓約書提出等の指示 令和 2 年 8 月 12 日				内容：						
1. 文書 ②. 口頭					1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策	複数の有資格者で立会いを実施する。										
36 所 見	日常点検及び月例点検も取り入れ、事故防止に万全を期すよう指導。										

1 事故名	給油取扱所で給油作業中にノズルが外れ軽油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 30日 11時 00分	推定・確定	4 発 見	10月 31日 11時 45分	
5 覚 知	10月 31日 11時 52分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 31日 14時 55分	
7 鎮火・処理完了	10月 31日 17時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：2m/s 気温：19℃ 湿度：41%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一般 番号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業 (特別積合せ貨物運送業を除く)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称： その他【分類なし】	番 号 (9999)	能 力： 9.6KL×5基、2KL×1基	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他	貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所	施設別： 給油取扱所
13 機 器 等	温 度 圧 力：	名 称： 固定給油 (注油) 設備	番 号 (911)	規 模： 吐出量 45L/m	
14 発 生 箇 所	名 称： 車両の給油口	番 号 (906)	材 質： アルミニウム	15 発 生 時	
運 転 状 況： 給油中	番 号 (8)	作 業 状 況： 運転操作中	番 号 (1)	設置の完成： 昭和 45年 5月 19日	直近の完成： 平成 24年 7月 4日
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油				
18 取 扱 者 の 概 要	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	1. 有 ②. 無	
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要：	自社が所有するセミトレーラーに従業員が給油中にトイレに行くためにその場を離れた際に何らかの原因で燃料タンクから給油ノズルが外れ流出したものである。				
24 緊 急 処 置 の 状 況	有 番号 ()	無			

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 固定給油設備で軽油を給油中にその場を離れたため、ノズルが外れたのに気付くのが遅れ流出したものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		過信			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 普通河川約300mの範囲に油膜の浮遊が認められたものである。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 油分離槽の許容量を超えたため第四類第2石油類（非水溶性）の軽油が敷地外の普通河川へ（流出量不明）流出したものである。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4) 吸着マットを設置し漏えい防止措置を行った。						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 施設側からの通報はなかった。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検			年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等			平成 31 年 3 月 8 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容： 消防法第13条第3項（無資格者による危険物の取扱い）		
35 今後の対策	従業員への安全教育を実施すること。給油中の危険物取扱者立会いを徹底すること。									
36 所 見	今後の危険物に対する安全な貯蔵、取扱いを徹底するように嚴重注意した。									

1 事故名	給油取扱所内で顧客が運転する車が固定注油設備に衝突し、灯油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	2月 4日 11時 25分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	2月 4日 11時 25分
5 覚 知	2月 4日 11時 31分	6 鎮 圧 応急処置完了	2月 4日 11時 25分
7 鎮火・処理完了	2月 4日 15時 00分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東 風速：3.7m/s 気温：10℃ 湿度：68%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 56,000L 280倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) シナー 51.8L 0.26倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 24,000L 24倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 16,000L 16倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) シナー 140.2L 0.14倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 2,000L 1倍 第4類第4石油類 その他の第4石油類 80L 0.01倍 倍数の合計： 321.41倍		
12 施 設 装 置	設置の完成： 昭和 55年 10月 28日 直近の完成： 平成 20年 12月 19日		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	17 物 質 の 区 分		
能 力： 屋外給油取扱所 タンク容量：24,000L	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 灯油 (3L)		
13 機 器 等 温度 圧力：	18 取扱者の概要		
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要		
規 模： 標準 (40L/m)	20 危険物保安監督者		
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
名 称： その他の機器等本体 番 号 (199)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
材 質： ステンレス	23 事 故 の 概 要： 顧客の運転する車が、給油所内の固定注油設備、タイヤラック、車両用の大型掃除機等に衝突。 当該事故により、灯油を注油していた男性1名 (68歳) が負傷し、病院へ搬送された。また、衝突の影響により固定注油設備、タイヤラック、車両用の大型掃除機が破損し防火塀の一部に亀裂が入ったもの。なお、固定注油設備は注油行為のために停車していた車両に乗りかかる状態で倒れ、当該設備に残留していた灯油約3Lが給油所内に漏れたものである。		
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他		
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)			
作 業 状 況： 番 号 ()			

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因					
	発生原因の状況： アクセル操作の誤り					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	破損		定常運転時		車両等の接触	
	関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	1	0	設備の転倒	不明
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 3 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (5) ガソリンスタンド従業員と協力し、漏えいした灯油を吸着マットで吸着し、拡散防止を図った。 また、負傷者の救急搬送を行った。				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 消防機関及び警察への緊急通報を実施した。 また、消防隊と協力し、漏えいした灯油を吸着マットで吸着し、拡散防止を図った。		
31 防災活動上の問題点						
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 元年 9 月 2 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 2 年 2 月 6 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無	
その他	立入検査を実施して立入検査結果通知書を交付。 令和 2 年 2 月 5 日		内容：			
35 今後の対策 給油取扱所へ出入りする車両の衝突防止に一層の注意を払う。						
36 所 見 本事故は顧客がアクセル操作を誤ったことによる事故であるが、従業員一人一人が給油取扱所へ出入りする車両に注意を払い、衝突防止に努めてもらいたい。						

1 事故名	給油取扱所の地下埋設配管の腐食劣化に伴う軽油流出事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発生日	月 日 時 分 推定・確定	4 発見	4月 16日 13時 55分
5 覚知	4月 17日 10時 31分	6 鎮圧 応急処置完了	4月 17日 12時 28分
7 鎮火・処理完了	6月 15日 10時 00分		
8 覚知別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気象状況	天気：曇 風向：東南東 風速：0.5m/s 気温：16℃ 湿度：76%		
10 発生事業所	11 発生場所		
種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 15,936L 79.68倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 3,840L 3.84倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,600L 9.6倍 倍数の合計： 93.12倍		
12 施設装置	設置の完成：昭和 44年 10月 13日 直近の完成：令和 2年 5月 15日		
名称：その他【分類なし】 番号 (9999)	17 物質の区分		
能力：9.6KLタンク×3基	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：軽油		
13 機器等 温度圧力：	18 取扱者の概要		
名称：配管 (送油、注入管等) 番号 (606)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要		
規模：鋼管 直径45A	20 危険物保安監督者		
14 発生箇所	21 危険物取扱者の取扱・立会い		
名称：給油管等 番号 (907)	①. 有 2. 無		
材質：鋼鉄	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
15 発生時	23 事故の概要： 河川に油が浮いているとの内容で一般住民から119番通報があり、調査を行ったところ、当該給油取扱所からの漏えいが判明したものの。給油取扱所内のマンホール内及び周囲の側溝に軽油の流出を確認し、早急に吸着マットでの油の回収を指示した。河川に流出した油は河川管理者がオイルフェンスを展開し回収作業を行っていた。なお、119番通報の前日に、従業員がマンホール内の油分を確認し、設備業者に対応を依頼したところ、到着した業者が配管の切離しとマンホール内の油分の除去を行っていたが、付近の河川の確認は実施していない。		
運転状況：定常運転中 番号 (1)	24 緊急処置の状況 有 番号 () 無		
作業状況： 番号 ()			

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 軽油配管が腐食により劣化したものと推測される。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が、給油取扱所の側溝から河川に流れ込み、約400mにわたり漏えいした。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 付近の側溝及び河川が油により汚染した。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油 流出量不明	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	5 台	0 隻	0 機	12 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (474 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (6、5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
流出した油の回収及び原因調査											
31 防災活動上の問題点											
消防が覚知する前日に、給油取扱所の関係者は軽油の漏えいを確認し、施設の応急措置も行っていましたが、特段消防に通報はなかった。予防規程では、異常があれば消防に通報するよう定められていたが、遵守されていない。											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	平成 29 年 5 月 20 日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	平成 29 年 7 月 24 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年	月	日	年	月	日					
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策											
漏えいした配管を交換するとともに、敷地内に回収用の井戸を設置し、随時汲み上げを行う。また、河川及び側溝の監視を行う。											
36 所 見											
通報の前日に漏えいを把握しており、また、応急措置とはいえ無許可で配管の改修（切断）をされていたため、迅速な通報と法令の遵守を指導した。											

1 事故名	給油取扱所において、給油後ノズルを抜き忘れたことにより、ホースが破断したガソリン流出事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	12月 28日 16時 04分 推定・ 確定	4 発 見	12月 28日 16時 04分
5 覚 知	12月 28日 16時 09分	6 鎮 圧 応急処置完了	12月 28日 17時 15分
7 鎮火・処理完了	12月 29日 13時 15分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：8m/s 気温：16℃ 湿度：57%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 28,800L 144倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 19,200L 19.2倍 第4類第4石油類 エンジンオイル 2,700L 0.45倍 倍数の合計： 163.65倍		
12 施 設 装 置	14 発 生 箇 所		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	名 称： ホース (給油、注油及び注入ホースを除く) 番 号 (211)		
能 力： 給油取扱所 ガソリン30KL、灯油10KL、軽油10KL	材 質： ゴム		
13 機 器 等 温度 圧 力： 0.2MPa	15 発 生 時		
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)		
規 模： ホース6本マルチ型 吐出量40L/m	作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称： ホース (給油、注油及び注入ホースを除く) 番 号 (211)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン(150L)		
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要 経験年数4年		
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危 険 物 保 安 監 督 者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無		
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル無		
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止	23 事 故 の 概 要： 給油取扱所の従業員が車両にガソリンを給油した後、給油口からノズルを抜き忘れ、ノズルが挿入された状態で運転手へ発信の合図を出したため、ホースが展張破断し、ガソリン約150Lが施設内へ流出したものである。		

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()		
	関連原因						
	発生原因の状況： 給油作業（危険物取扱無資格者）は給油が終了し、ノズルを外したと思ひ込み、運転手へ給油を終了した旨を伝えたが、実際はノズルを給油口へ挿したままであった。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		
	人		本人の意識		思慮		
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害				28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	
区分						職業又は職名	
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	2 台 0 隻 0 機 4 人	
28 物的被害 被災影響範囲及び拡大の状況： 破断したホースからガソリン約150Lが施設内に流出した。							
29 物質の被害状況： 第4類 第1石油類（非水溶性）ガソリン 約150L 流出							
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号（ 8、99 ） 流出範囲の確認、火災警戒区域の設定、付近住民への広報活動			自衛防災・消防組織等 番号（ 5 ） 油分離槽のガソリンをドラム缶に回収し残油をマットで回収、その後施設内の流出箇所を中和剤で中和処理。				
31 防災活動上の問題点							
行政措置	32 施設名	給油取扱所		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止	令和 2 年 12 月 28 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 3 月 16 日	令和 2 年 11 月 30 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和 元 年 9 月 18 日	年 月 日	
	停止解除	令和 2 年 12 月 29 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項		34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無	
その他	行為者へ違反事項通知 令和 3 年 1 月 22 日 年 月 日		1. 文書 2. 口頭		内容： ・法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反 ・法第14条の2第4項 予防規程遵守義務違反		
35 今後の対策		・危険物を取り扱う従業員への保安に関する教育の徹底 ・事故再発防止策の検討 ・予防規程の遵守					
36 所 見		・当該給油取扱所の無資格者の危険物取扱いの教育及び予防規程の遵守について検討し、再発防止に努める必要がある。					

1 事故名	給油取扱所の埋設配管からガソリンが漏えいし施設外へ流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	10月 13日 14時 55分
5 覚 知	10月 13日 14時 55分	6 鎮 圧 応急処置完了	10月 15日 20時 53分
7 鎮火・処理完了	11月 6日 13時 57分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：3.9m/s 気温：24℃ 湿度：57%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 30,000L 150倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： ガソリン		
能 力： 給油取扱所 容量50,000L	18 取扱者の概要		
13 機 器 等 温度 圧力：	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の 3. 不要 ①. 有 の取扱・立会い 2. 無		
名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
規 模： SGP100A	23 事 故 の 概 要： 給油取扱所の遠方注入管からガソリンが漏えいし、給油取扱所の東側用水路へ流出したもの。近隣住民から用水路に油が流れていて、たどっていくと給油取扱所の東側の壁にあるひび割れ部分と地下水排出用パイプから油の染み出した痕があると消防へ相談があり 覚知したもの。地下タンク5基に設置してある12か所の検知管のうち2か所に油の付着を確認した。緊急使用停止命令を発令し営業を停止させて気密試験を実施し、遠方注入管の1か所に異常があることを確認した。晴天時は壁からの流出は見られない。雨天時に地下水の変動に影響を受け、東側の壁にあるひびわれ部分と地下水排出用パイプから染み出すことを確認。流出した時期、量については不明。9月6日に検知管での点検を実施した際には異常はなかった。		
14 発 生 箇 所	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止		
名 称： その他 番 号 (999)			
材 質： 鋼鉄			
15 発 生 時			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況： 番 号 ()			

原因	25 主 原 因 不明		着火原因		番号 ()		
	関連原因						
	発生原因の状況： 遠方注油管から漏えいしていると気密試験で特定した。対象配管を研り工事で掘り上げると、その他の埋設配管に振動等で損傷する可能性が考えられるとのことで、漏えいのあった配管を切り離し、断水ゴマと閉止キャップで配管を封鎖し埋めたままにする処置を行った。配管からの漏えい原因については掘上げをしていないため不明である。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害				28 物的被害			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が用水路から田んぼへ流れ込み、約100㎡程度の範囲で土壌と稲の根元に黒い油の固形物が付着する被害
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン 流出量は不明	
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他		0 台 0 隻 0 機 0 人
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (3 万円)	
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名	給油取扱所			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	令和元年10月15日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	令和元年11月9日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：	
その他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策	施設点検の実施						
36 所 見	当該事業所に対し、定期点検を1年に1回以上実施することを徹底するように指導したところである。管内の他の事業所への立入検査を実施し、定期点検が適正に実施されているか確認を行い、同種事故防止に務める必要がある。						

1 事故名	航空機用給油取扱所において、燃料供給配管切替弁の故障により、航空機からJETA-1が給油空地に流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 12日 13時 35分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	8月 12日 13時 36分	
5 覚 知	8月 12日 14時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 12日 14時 35分	
7 鎮火・処理完了	8月 12日 14時 35分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：3m/s 気温：35℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 運輸に附帯するサービ 番 号 (4856) ス業 運輸施設提供業 飛行場 業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 給油取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) JETA-1 200,000L 200倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) AVUGAS100 1,000L 5倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	能 力： 航空機		設置の完成： 昭和 59年 6月 29日	直近の完成： 令和 元年 12月 10日	
13 機 器 等	温度圧力：		倍数の合計： 205倍		
名 称： その他 番 号 (999)	規 模： 航空機左翼側燃料ベント (10cm×5cm)		17 物質の区分		
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
材 質： その他	15 発 生 時		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
運 転 状 況： 給油中 番 号 (8)	作 業 状 況： 番 号 ()		(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： JETA-1 (200L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 航空機用給油取扱所において、給油タンク車から航空機へ航空機燃料を給油していたところ、航空機の左翼側燃料タンクの燃料ベントから燃料約200Lが給油空地内に流出したもの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 故障	着火原因	番号 ()								
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 機体中央の燃料タンクへ給油しているところ、燃料配管切替弁の故障により、燃料が左翼側燃料タンクへ供給され燃料ベントから流出したもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層								
	故障	機能	その他								
	関連原因の詳細										
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27	人的被害				28	物的被害					
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 航空機給油取扱所の給油空地内に航空機燃料約200Lが流出した。			
	区分										
	当 事 者	0	0	0	0						
	防災活動従事者	0	0	0	0						
	第 三 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし			
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
	消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）航空機燃料JETA-1約200L流出
	消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (2 万円)										
30	実施した防災活動の状況										
	公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
	調査活動実施										
31	防災活動上の問題点										
32	施設名	給油取扱所				33	定期点検等	消 防 法	そ の 他		
政 策 措 置	使用停止	年 月 日				定期・自主点検 気密試験等 保安検査	令和2年4月1日			年 月 日	
	改善命令等	年 月 日					年 月 日			年 月 日	
	停止解除	年 月 日					年 月 日			年 月 日	
	関係条項						34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <u>無</u> 内容：	
	その他	災害発生届提出依頼 令和2年8月12日 年 月 日 1. 文書 ②. 口頭 1. 文書 2. 口頭									
35	今後の対策 航空機の整備の徹底及び複数人での給油監視										
36	所 見 複数人での給油監視を指導した。										

8 移 送 取 扱 所

1 事故名	移送取扱所で配管改造工事のため、既設配管を取り外した際、重油を海上へ流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 8日 9時 25分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	7月 8日 9時 25分	
5 覚 知	7月 8日 9時 35分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 8日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了	7月 8日 11時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南東 風速：3.9m/s 気温：21℃ 湿度：95%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の卸売業 番 号 (5499) 他に分類されない卸売業 他に 分類されないその他の卸売業		11 発 生 場 所	区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、 <u>海上</u> 、その他)	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	特別防災地区名：北斗地区	
名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401)			施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他	貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所	
能 力：900KL/h			類・品名・名称・数量・倍数：		
13 機 器 等 温度 圧 力：			第4類第1石油類(非水溶性液体)	ガソリン	3,000,000L 15,000倍
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)			第4類第2石油類(非水溶性液体)	灯油、軽油	13,000,000L 13,000倍
規 模：直径216.3mm			第4類第3石油類(非水溶性液体)	重油	14,000,000L 7,000倍
14 発 生 箇 所			倍数の合計： 35,000倍		
名 称：ホース(給油、注油及び注入ホースを除く) 番 号 (211)			設置の完成：昭和 31年 12月 5日		
材 質：その他			直近の完成：令和 2年 3月 23日		
15 発 生 時			17 物 質 の 区 分		
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)			①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
作 業 状 況：改造工事中 番 号 (8)			5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
			(固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧)		
			(低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温)		
			分類：第4類第2石油類(水溶性液体) 名称：重油(50ML)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	18 取扱者の概要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
			①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 9時25分栈橋揚荷配管工事のため移送取扱所1号バースの既設配管の残油抜き取り作業を実施し取り外した際、配管に付着していたC重油を海上に50ML程度流出した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 棧橋揚荷配管工事のため移送取扱所1号バースの既設配管の残油抜き取り作業を実施し取り外した際、配管に付着していたC重油を海上に50ML程度流出。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 棧橋入口付近に油膜が極少量程度確認できたが、吸着マットにより概ね回収済みであり、被害拡大無し。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 施設の設備、機器の被害は無し。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（水溶性）重油約50ML流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	1 台	0 隻	0 機	4 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (3)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年4月30日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	年 月 日	年 月 日				内容：					
35 今後の対策	作業範囲全てをシート養生後に作業を実施。耐油抜き後の配管内部清掃及び開口部の養生を実施。										
36 所 見	不注意による事故であったため、今後の安全対策を提出するように指導。										

1 事故名	移送取扱所ローディングアームからの軽油流出事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	6月 17日 13時 01分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	6月 17日 13時 01分
5 覚 知	6月 17日 13時 10分	6 鎮 圧 応急処置完了	6月 17日 15時 08分
7 鎮火・処理完了	6月 17日 15時 08分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：2.9m/s 気温：27℃ 湿度：38%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： ①特別防災区域内 2特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、 <input checked="" type="checkbox"/> 荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401) 能 力：21,520KL/d	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 21,520,000L 21,520倍		
13 機 器 等 温度 圧 力：0.47MPa	設置の完成：昭和 58年 4月 21日 直近の完成：平成 30年 6月 21日		
名 称：ローディングアーム 番 号 (604) 規 模：10インチx9.5m (ARM LENGTH)	17 物 質 の 区 分		
14 発 生 箇 所	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第2石油類 (水溶性液体) 名称：軽油 (70L)		
名 称：その他の部位 番 号 (399) 材 質：鋼鉄	18 取扱者の概要		
15 発 生 時	19 危険物保安 統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
運 転 状 況：荷積中 番 号 (12) 作 業 状 況： 番 号 ()	20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者 の取扱・立会い 1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 製品出荷棧橋にて船に軽油を3,000KLの積み込み予定で出荷中であつた。船への出荷は船長の指示により初速KL/hで数量KLを積み込み、その後、通常出荷流速の1,000KL/hまで流速を上げて出荷を実施していた。 棧橋上で積み込みを監視していた弊社協力会社員がローディングアームのスイベルジョイント部から軽油が漏えいしているのを発見し、棧橋上の所内電話にて、計器室へ連絡を行った。計器室からの指示により弊社協力会社員は緊急停止ボタンを操作し、ローディングアーム直近の出荷配管手動弁を閉止し、ヘッダー手動弁も閉止した。 漏えいした油は防液堤内にとどまり、海上流出がないことを確認し、防液堤内の油は吸着マットを使用して回収作業を行った。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原 因	25 主 原 因 調査中		着火原因		番号 ()					
	関連原因 調査中									
	発生原因の状況： 調査中									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内のみ		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	35 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	8 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 水溶性液体 指定数量:2,000 第2石油類 軽油70L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	4 台	0 隻	0 機	8 人	
海上保安部	1 台	0 隻	0 機	2 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	8 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 火災発生に備え現場待機及び情報収集						自衛防災・消防組織等 番号 () 大型化学消防車2台（自衛消防隊）、大型化学高所消防車1台（共同防災）、泡原液車1台（共同防災）を現場配置し泡放射のための現場待機。プロダクトバース上に泡消火・冷却散水用ホース2線延長・待機				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	移送取扱所（軽油）				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 2 年 6 月 17 日				年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等	年 月 日	
	停止解除	令和 2 年 6 月 26 日				年 月 日		保安検査	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：		
そ の 他	年 月 日				年 月 日					
35 今後の対策 漏えい部のローディングアームの原因調査を実施。										
36 所 見 同様の施設について水平展開が必要である。										

1 事故名	移送取扱所において、プレミアムガソリンの配管から維持管理不十分により当該危険物が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	9月 13日 11時 15分
5 覚 知	9月 13日 11時 23分	6 鎮 圧 応急処置完了	9月 13日 12時 32分
7 鎮火・処理完了	9月 13日 18時 20分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西 風速：2m/s 気温：26℃ 湿度：85%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部地区		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) プレミアムガソリン 14,400,000L 72,000倍		
12 施 設 装 置			
名 称：海上入出荷施設 番号 (1401)			
能 力：第4類第1石油類 ガソリン(非) 14,400KL			
13 機 器 等	温度圧力：20℃、0.69MPa		
名 称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)			
規 模：配管14インチ			
14 発 生 箇 所	設置の完成：昭和56年 9月 28日 直近の完成：令和元年 7月 17日		
名 称：その他 番号 (999)	17 物 質 の 区 分		
材 質：鋼鉄	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：プレミアムガソリン(16.5L)		
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要		
運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)			
作 業 状 況： 番号 ()			
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 9月13日10時30分頃から操油グループ員は排水処理設備及びタンクヤード内、道路沿いの側溝内の定期現場巡回点検を実施していた。11時10分頃、道路沿いのタンク(T221)南側付近でパイプラック上の配管からガソリンが流出していることを確認。操油グループ員は操油計器室の班長に無線で連絡を行い、班長及び直課長が現場に急行し11時15分にガソリンが流出していることを覚知したため所内非常電話の発信を指示した。連絡を受けた宿直者は11時28分に消防機関へ通報。市環境管理課と環境安全グループ員が周辺の側溝を確認し製油所外及び海上への流出が無いことを確認した。 なお、流出したガソリンは揮発性が高いため、油だまりは確認されなかった。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他			

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関連原因								
	発生原因の状況： 道路沿いのタンク（T221）南側付近でパイラック上の配管からガソリンが流出していることを確認。11時15分にガソリンが流出していることを覚知した。当該配管は、海岸に面しており、腐食しやすい環境下にあった。								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	腐食		環境		塩分の影響				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該配管に開孔がみられ、プレミアムガソリンが約16.5L漏えいした。	
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管サポート接触部ナイトステン下外面腐食による配管の穿孔。詳細原因は調査中。	
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	8 台 0 隻 0 機	28 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機	11 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:200 第1石油類 16.5L流出			
消 防 団	0 台 0 隻 0 機	0 人	共 同	4 台 0 隻 0 機	14 人				
海上保安部	0 台 0 隻 0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機	0 人				
その他の機関	4 台 0 隻 0 機	6 人	その他	0 台 0 隻 0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 () 大型消防車現場待機					自衛防災・消防組織等 番号 () 消防車（大化1）2線より放水体制：1線は漏えい箇所へ拡散のため放水実施。 （1線は予備）				
31 防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無			
その他	年 月 日	年 月 日		内容：					
	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 検討中									
36 所 見 配管の腐食による漏えいが多くみられる。維持管理体制の再検討が必要。									

1 事故名	移送取扱所のローディングアームから船舶へ出荷中監視不足によりタンカーハッチからガソリンが流出したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 5日 9時 07分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	2月 5日 9時 07分	
5 覚 知	2月 5日 9時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 5日 10時 33分	
7 鎮火・処理完了	2月 5日 11時 05分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：1.2m/s 気温：10℃ 湿度：48%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所 区 分：①. 事業所内 (製、貯、 <input checked="" type="checkbox"/> 荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：根岸臨海地区		
12 施 設 装 置	名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401) 能 力：1日最大取扱量25,000KL		16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 25,000,000L 125,000倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：ローディングアーム 番 号 (604) 規 模：高さ10m、配管10インチ		倍数の合計： 125,000倍 設置の完成：昭和46年 3月 9日 直近の完成：令和元年 8月 28日		
14 発 生 箇 所	名 称：その他 番 号 (999) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(500L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：監視中 番 号 (10)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 棧橋上にてガソリン出荷のため、タンカーの注入口にローディングアームを取り付け出荷を開始。ガソリンは3か所のカーゴタンクに入れられるが、各々のカーゴタンクへ入れていくのはバルブ操作にて切り替えながら行っていく。開始から約30分が経過したころ、船上で作業をしていた作業員が、閉めてあったハッチから油が漏えいしているのを見発。陸側から監視を行っていた2名の監視員が出荷ポンプの緊急停止スイッチの押下及びバルブの閉止を行った。これにより漏えい停止。監視員より当直へ連絡。当直から公設消防へ通報。到着した公設消防により現地調査を実施。海上保安庁到着後、サンプリングの採取及び現地調査実施。上甲板、下甲板に流出したガソリンを陸側に置いたポンプを使用し、廃油回収車にて回収。海上への流出も確認したためオイルフェンスを展開し、流出した油の回収及び拡散作業を実施した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 操作確認不十分							
	発生原因の状況： ローディングアームからガソリンの出荷をしていた際、液面監視中の機関長は、一等航海士に手袋を取ってくるよう依頼された。機関長は計量口内の液面確認用のメモリを確認したところ、3mまで降ろしたものを2mと誤認し時間的余裕があると思い持ち場を離れた。手袋を取って一等航海士に渡した後、そのまま一等航海士の作業補佐に入り、監視に戻らなかったためオーバーフローが発生した。オーバーフロー発生時、液面上昇警報は鳴動しなかった。鳴動不良の原因は、機関長が出向前に行った液面計の作動テストの際ブザーストップをしていたことを失念し、スイッチを操作しなかったことにより起こったものである。							
	主要原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	管理		監督		監視		監視が実施されない/不足	
	関連原因の詳細							
	人		本人の意識		思慮		思い込み	
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	
区分								
当 事 者		0	0	0	0			
防災活動従事者		0	0	0	0			
第 三 者		0	0	0	0			
						被災影響範囲及び拡大の状況： 船上 上甲板及び下甲板部分に漏えい 海上漏えい範囲 700mm×26,600mm 油膜厚 0.001mm		
						施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関		4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 129 人	
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部		0 台	1 隻	0 機	4 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関		1 台	0 隻	0 機	7 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
						物質の被害状況： 第4類第1石油類 ガソリン 500L流出		
						損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
情報収集								
31 防災活動上の問題点								
32 施設名								
行政措置	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	平成 31 年 3 月 22 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日		年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日
	関係条項					保安検査	年 月 日	年 月 日
その他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>	
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭		内容：		
35 今後の対策								
【スイッチ操作失念防止】 タンカーの液面計電源盤等に注意喚起表示。液面計警報テスト実施後、荷役管理版へのテスト実施時間記入。着棧後のミーティング時に、船長の液面警報テスト異状有無を陸側へ報告。チェックシートの改訂、ダブルチェック体制を確立。 【監視の徹底】 荷役中は必ず1名以上で監視を行う。監視交代の際は、指差し呼称で確認し互いに情報共有する。監視者は液面1m毎に指差し呼称し他の乗組員にも情報共有する。ハッチ付近に液面1m毎の昇降タラップ段数を表示する。								
36 所 見								
危険物の荷卸し作業中は、時間がかかる行為であってもその場から離れ、目を離すようなことがあってはならない。								

1 事故名	移送取扱所において、出荷作業時の連絡不十分により、出荷フィルターフランジ部からジエチレングリコールが流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	6月 15日 21時 30分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	6月 15日 21時 30分
5 覚 知	6月 15日 23時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	6月 16日 0時 03分
7 鎮火・処理完了	6月 16日 0時 03分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東北東 風速：0.7m/s 気温：25.5℃ 湿度：81%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 業 態：	区 分： 特別防災地区名：		
①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input checked="" type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1732) 業製品製造業 脂肪族系中間物 製造業 (脂肪族系溶剤を含 む)	①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、 <input checked="" type="checkbox"/> 他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 京浜臨海地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401) 能 力：処理能力 160KL/h	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(水溶性液体) ジエチレングリコール 1,500,000L 375倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 7ケル酸 514,400L 257.2倍		
13 機 器 等	17 物質の区分		
名 称：フィルター 番 号 (908) 規 模：直径1,250mm、高さ1,697mm	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (水溶性液体) 名称：ジエチレングリコール(10L) 倍数の合計： 632.2倍		
14 発 生 箇 所	18 取扱者の概要		
名 称：その他 番 号 (999) 材 質：鋼鉄	経験年数12年		
15 発 生 時	19 危険物保安 統括管理者		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)	20 危険物 保安監督者		
	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所から移送取扱所(出荷配管設備)を経由して、船出荷用棧橋からジエチレングリコール(第4類第3石油類)の出荷作業を終了し、作業員が事務所へ戻ろうとした際、出荷フィルター前の地上面が濡れていたため、周囲を確認したところ、出荷フィルターのフランジ部からジエチレングリコールが流出しているのを発見した。さらに、流出したジエチレングリコールが囲いのひび割れ部分から囲いの外へ流出していたもの。なお、発見時には流出は停止しており、流出量にあつては約10Lであった。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他			

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 出荷作業は、棧橋側作業員と屋外タンク側作業員とで連絡を取り合って作業をするが、屋外タンク側作業員が送液用ポンプ稼働前に棧橋側作業員に連絡することを忘れたため、出荷フィルター内に圧力が掛かった状態となり、出荷フィルターのフランジ部分からジェチレングリコールが流出したと推定される。 また、囲いにひび割れ部分があったことから、囲いの外へも流出した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	管理		組織		コミュニケーション		伝達方法が不適切			
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 出荷フィルターフランジ部から流出したジェチレングリコールが、囲いのひび割れ部分から囲いの外へ幅約20cm、長さ約5mにわたり流出。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（水溶性）ジェチレングリコール約10L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
・ガス検知活動 ・情報収集										
31 防災活動上の問題点										
32 行政措置	施設名					33 定期点検等			消 防 法	そ の 他
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和元年6月28日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無			有・無	
その他	年 月 日	年 月 日					内容：			
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策		・出荷フィルターの液抜きを行い、本体及びパッキン等の健全性を確認した後、パッキンの交換を実施する。 ・囲いのひび割れ部分を確認した後、補修を実施する。 ・水平展開の実施								
36 所 見		・事業所職員等に対し、作業手順の教育及び日常点検を十分に行い、再発防止の徹底を図るよう指導。								

1 事故名	移送取扱所の荷揚げ配管のドレン管が施工不良により腐食し、原油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	7月 25日 18時 30分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 25日 18時 30分
5 覚 知	7月 25日 18時 53分	6 鎮 圧 応急処置完了	7月 26日 0時 27分
7 鎮火・処理完了	7月 26日 0時 27分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：2.1m/s 気温：25.5℃ 湿度：94%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 業 態：	区 分： 特別防災地区名：		
①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <input checked="" type="checkbox"/> 第1種、第2種、その他) 運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵 番号(4711)) 倉庫業を除く) 倉庫業(冷蔵 倉庫業を除く)	①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 京浜臨海地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称：海上入出荷施設 番号(1401) 能 力：5,000KL/d	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) スロップ 5,000,000L 25,000倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 5,000,000L 25,000倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 2,499,000L 1,249.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 5,000,000L 5,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 5,000,000L 5,000倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 5,000,000L 25,000倍		
13 機 器 等	温度圧力：0.2MPa		
名 称：配管(送油、注入管等) 番号(606) 規 模：1インチ	倍数の合計：86,249.5倍		
14 発 生 箇 所	設置の完成：昭和57年 7月 11日 直近の完成：令和2年 6月 29日		
名 称：ドレンノズル 番号(208) 材 質：鋼鉄	17 物質の区分		
15 発 生 時	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温[0-40℃]、高温) 分 類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(110L)		
運 転 状 況：その他 番号(99) 作 業 状 況： 番号()	18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 栈橋において、13時50分から16時40分まで船舶から屋外タンク貯蔵所へ原油の荷揚げを行った。荷揚げ終了後、ローディングアーム内の油を抜くため、船側からエアージェット作業を実施したが、異常は認められなかった。その後、19時頃に巡回点検を行ったところ、原油荷揚げ配管(12インチ)の立ち上がり部分に設置されているドレン配管(1インチ)母材部の開口箇所(長さ約8mm、幅約4mm)から原油が流出しているのを発見した。また、流出した油が海上に広範囲(直線距離約2.5km先)にわたり油膜を形成した。なお、流出量は110L。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号(10) 無 その他			

25	主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 腐食疲労等劣化										
	発生原因の状況： ドレン配管に防食テープ巻き施工していたが、ガセットステーが設置されていたことから、ガセットステー近傍の防食テープ巻き部の隙間から雨水が浸入し外面腐食が進行した。また、その後の施工において、スケールの処置をせずに塗装をしたため、配管と塗装間において腐食が進行し、開口した箇所から原油が流出したものである。										
	主原因の詳細										
第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
施工不良		施工		工事時の措置不良							
因	関連原因の詳細										
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害					28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した原油が、海上へ広範囲（直線距離約2.5km先）にわたり油膜を形成。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管開口			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	7 台	1 隻	0 機	33 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	3 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）原油110L流出（110Lのうち80Lが海上へ流出）	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	1 隻	0 機	4 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	1 隻	0 機	5 人	その他	0 台	3 隻	0 機	12 人		
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 情報収集						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5、6、7) 警戒筒先配備					
31 防災活動上の問題点											
32	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年6月30日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無			
35	今後の対策	年 月 日			年 月 日			内容：			
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭						
36	所 見	今後の対策を検討し、再発防止の徹底を図るよう指導。									

1 事故名	移送中のバージ船のバルブ操作ミスにより発生した重油の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発生	12月 4日 10時 05分	推定・ 確定	4 発生 見 12月 4日 10時 05分
5 覚知	12月 4日 10時 15分		6 鎮 圧 12月 4日 11時 10分 応急処置完了
7 鎮火・処理完了	12月 4日 16時 00分		
8 覚知別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気象状況	天気：晴 風向：北東 風速：3.7m/s 気温：12.6℃ 湿度：59.1%		
10 発生事業所	11 発生場所		
種別： 業態：	区分： 1. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） ②. 事業所外（陸上、 <u>海上</u> 、その他） 特別防災地区名：清水		
①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 卸売・小売業 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 1,000,000L 500倍		
12 施設装置	17 物質の区分		
名称：海上入出荷施設 番号（1401） 能力：1,000,000L/d	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(294L)		
13 機器等 温度圧力：	18 取扱者の概要 経験年数6年		
名称：その他の移送機器 番号（699） 規模：220KL	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要 2. 無		
14 発生箇所	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者		
名称：給油(注油)ノズル 番号（909） 材質：鋼鉄	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有		
15 発生時	23 事故の概要： 移送取扱所からバージ船(125t)にA重油を送油し積み込みしていたところ、乗組員の伝達不足によりバルブの誤操作が発生し、バージ船タンクハッチよりA重油294Lが甲板に漏えいし、その一部が海上に流出したものである。		
運転状況：移送中 番号（18） 作業状況：充填中 番号（12）	24 緊急処置の状況 有 番号（1）無 装置の緊急停止		

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： バージ船の乗組員の伝達不足により、誤ったバルブ操作を行ってしまい、タンクハッチよりA重油がオーバーフローし、294Lが漏えいした。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		取り違い			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： バージ船タンクハッチより第4類第3石油類（非水溶性）A重油294L流出し、その一部が海上に流出した。海上への流出範囲は、敷地境界線より30m程度に収まっている。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	15 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）A重油294L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (7) オイルキャッチャーを使用し、流出油を回収した。				自衛防災・消防組織等 番号 (6, 7) バージ船周囲にオイルフェンスを展開して、オイルキャッチャーを使用し、流出油を回収した。						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	平成 31 年 4 月 6 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策	・連絡、報告の徹底 ・確認作業を2人1組で行う									
36 所見	バージ船乗組員の伝達不足と誤操作による漏えい事故であるため、移送先の船員への対策事項の周知徹底を図るよう指導した。									

1 事故名		移送取扱所の受入配管の腐食による原油流出									
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()									
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定			4 発 見		11月 1日 21時 35分				
5 覚 知		11月 1日 21時 42分			6 鎮 圧 応急処置完了		11月 2日 1時 35分				
7 鎮火・処理完了		11月 2日 16時 20分									
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()									
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：南西		風速：2.2m/s		気温：21℃		湿度：70%	
10 発 生 事 業 所						11 発 生 場 所					
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 ([レイアウト]、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業 (一貫して生産さ れる誘導品を含む)						区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 ([陸上]、海上、その他) 特別防災地区名：水島臨海地区					
						16 発生施設規制区分等					
12 施 設 装 置						施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 228,000,000L 1,140,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 60,000,000L 60,000倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 60,000,000L 30,000倍					
						13 機 器 等					
名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401)						倍数の合計： 1,230,000倍					
能 力：348,000KL/d						設置の完成：昭和41年 10月 7日 直近の完成：令和2年 3月 23日					
13 機 器 等 温度 圧力：						17 物 質 の 区 分					
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)						①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(6,900L)					
規 模：48インチ						18 取扱者の概要					
14 発 生 箇 所						19 危険物保安統括管理者					
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)						①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物保安監督者		21 危険物取扱者の取扱・立会い	
材 質：鋼鉄						3. 不要				①. 有 2. 無	
15 発 生 時						22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
運 転 状 況：移送中 番 号 (18)						23 事 故 の 概 要： 移送先の敷地内において、移送配管が腐食により開口し、原油が敷地上に流出した。なお、バキューム車及び油吸着マットによる応急措置を実施した。					
作 業 状 況： 番 号 ()											
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他											

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 維持管理不十分							
	発生原因の状況： 配管内面の漏えい箇所周辺に原油中に含まれるスラッジ及び微量な水分が滞留し、水分へ腐食性物質（塩化物等）が溶け込み、低pH環境が生成され腐食が発生した。また、検査管理上の認識違いにより、未検査（一部検査漏れ）となっていた。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	腐食		環境		工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）			
	関連原因の詳細							
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足	
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えい箇所付近、約229㎡の範囲に漏えいした。
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管8m
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	6 台 0 隻 0 機	19 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機	47 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性） 原油6,900L		
消 防 団	0 台 0 隻 0 機	0 人	共 同	2 台 0 隻 0 機	29 人			
海上保安部	0 台 0 隻 0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機	0 人			
その他の機関	1 台 0 隻 0 機	2 人	その他	0 台 0 隻 0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <input type="text" value="1万円以上"/> (115 万円)		
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 警戒筒先, ガス検知				自衛防災・消防組織等 番号 (3、4、5、8) 警戒筒先				
31 防災活動上の問題点								
行政措置	32 施設名	原油2号栈橋			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 2 年 11 月 1 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 元 年 12 月 1 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	令和 2 年 12 月 11 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>		
その他	年 月 日	年 月 日		内容：				
35 今後の対策	漏えい箇所周囲の配管約8mの取り替えに合わせ、滞留部が生じない構造（横向きノズルから上向きノズル）に改造する。また、当該事業所内の各種滞留部を抽出したうえで手順書を見直し、滞留部も点検箇所も含んだものに変更する。							
36 所 見	漏えいの直接原因が配管内面からの腐食であるため、外観上の点検では減肉箇所を見つけにくい。滞留部が発生しやすい類似箇所を早期に抽出し、肉厚測定等を実施する手順書に見直してもらいたい。また、漏えい量が約6.9KLと非常に多く、漏えい停止までに数時間を要している。当該配管のような大口徑の配管は一度漏えいが発生したら漏えい停止作業に時間を要するため、点検及び作業環境を整えることも重要だと思われる。							

1 事故名	移送取扱所において、主配管の水抜き配管の施工不良により、配管溶接部から危険物が流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 27日 15時 15分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	4月 27日 15時 15分	
5 覚 知	4月 27日 16時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 27日 16時 00分	
7 鎮火・処理完了	4月 27日 16時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南西 風速：7m/s 気温：18.3℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 500,000L 500倍 倍数の合計： 500倍 設置の完成：平成10年 11月 20日 直近の完成：平成29年 3月 21日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 500KL			5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
13 機 器 等 温 度 圧 力：			(固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧)		
名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)	(低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温)				
規 模： 500KL	分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油				
14 発 生 箇 所	18 取 扱 者 の 概 要				
名 称： その他 番 号 (999)	①. 選任有 2. 選任無	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	1. 有 ②. 無
材 質： 鋼鉄	3. 不要		3. 不要		
15 発 生 時					
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況： 番 号 ()					
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者					
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要：	軽油を送油したのちに弁等を閉止し、配管自体は使用していなかった。別の作業をしていた従業員が、配管の溶接部から霧状の軽油が出ているのを発見して覚知したもの。漏れ出た危険物は霧状であり、漏出箇所付近の配管外面が湿る程度で、地盤面等に貯留していないことから、多くて数十MLであると推測される。				
24 緊 急 処 置 の 状 況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番 号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 設計不良		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 水平方向に走行する主配管の空気抜き用配管が、主配管と垂直上方向に分岐し、先端がU字形に180度曲げられている形状であることと、重心が空気抜き配管の中心でなかったことから、移送時の振動等が増幅され、空気抜き配管分岐の溶接部に負荷を発生させ、これが長年にわたり蓄積したことにより破損したのではないかと推測。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層						
	設計不良		能力		想定を越えた応力の発生						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管の滲み及び防油堤内に数滴			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管の溶接部の亀裂			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類微量漏えい	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (65 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 調査						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 配管からの危険物漏出箇所をビニールテープで養生、ビニール袋をかけ、下部にオイルパン設置。					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：				
その他	年 月 日				1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策 変更許可申請にて改修する。改修時に、漏えいが発生した溶接部の損傷について調査する。(令和2年6月1日完成検査実施済み)											
36 所 見 事業所が漏えいを覚知してから消防通報まで45分程度を要しているが、負傷者なしであること、漏えい量が微量であること、応急措置等が適切に実施されていることから、許容される範囲であると考え。同時期に造られた配管の、他の溶接部について、同様の損傷が発生するおそれは十分考えられることから、日常の点検を十分に実施するよう指導。											

1 事故名	移送取扱所配管に雨水が浸入し、腐食したことによる重油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 8日 11時 20分	推定・確定	4 発 見	6月 8日 11時 30分	
5 覚 知	6月 8日 12時 08分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 8日 15時 40分	
7 鎮火・処理完了	6月 8日 15時 40分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：2.9m/s 気温：27.9℃ 湿度：42%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <u>第2種</u> 、その他) 業 態：製造業 パルプ・紙・紙加工品製 番 号 (1511) 造業 パルプ製造業 パルプ製 造業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 岩国・大竹	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等		
名 称：海上入出荷施設	番 号 (1401)	能 力：現在,受入なし	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 1,000,000L 500倍	倍数の合計： 500倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：	名 称：配管(送油、注入管等)	番 号 (606)	規 模：配管延長約1km	
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等	番 号 (299)	材 質：ステンレス		
15 発 生 時	運 転 状 況：停止中	番 号 (5)	作 業 状 況：その他		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(40L)	
18 取扱者の概要	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 移送取扱所の移送配管からの漏えい事故。平成24年6月が当該移送取扱所の最終受入であり、その後エアパージを実施したもの。以後、未使用状態である。移送配管は保温カバーをしており、雨水がカバー内に浸入、腐食し、ピンホール様の穴を形成。配管内残留重油が流出したものである。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>					

原	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 8年の間、未使用状態で点検されず。配管に保温カバーがされており、雨水浸入により腐食進行した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
因	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 休止中の移送取扱所の配管が雨水等により経年劣化し、残留物である重油が40L漏えいした。パイプブラック接触部付近から直下に流出する。事業所敷地内であり、外部への流出はなかった。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 重油40L（配管内残留物）
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
事故調査										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策										
・目視による外観調査を1日2回実施する。 ・本社への当該施設の全撤去の申請実施済み（回答待ちである）										
36 所 見										
高額の撤去費用となるため時間がかかると思慮される。										

1 事故名	危険物移送取扱所のガソリン配管損傷によるガソリン流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 21日 8時 30分	推定・確定	4 発 見	12月 21日 9時 00分	
5 覚 知	12月 21日 9時 56分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 21日 14時 30分	
7 鎮火・処理完了	月 日 時 分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：0.9m/s 気温：8.4℃ 湿度：37.7%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称：海上入出荷施設 番号 (1401) 能 力：		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：移送取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 600,000L 3,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 600,000L 600倍	
13 機 器 等	温度圧力：0.4MPa 名 称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規 模：配管径150A		倍数の合計： 3,600倍 設置の完成：昭和54年10月13日 直近の完成：平成27年9月11日		
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番号 (299) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(2,600L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：受入中 番号 (9) 作 業 状 況： 番号 ()		18 取扱者の概要	経験年数26年	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 船舶から危険物移送取扱所にガソリン荷受中、ガソリン用送油配管から施設の点検ピット内にガソリンが漏えいし、路上へ溢流(約2,600L)したため、ただちに荷受中の船舶及びタンク側バルブを閉鎖し、海上保安部へ通報したもの。当時、ピット内には、雨水が上部付近まで滞留していた。なお、消防の覚知は、海上保安部からの通報によるものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 海上と陸上との境の防潮堤付近の振動を吸収する継手等が経年劣化し、防潮堤貫通部分の配管が損傷及び腐食した。船舶から荷受中にポンプの圧送圧力により、配管の損傷及び腐食部分から穴開きが発生し、防潮堤貫通部分に接続する点検ビット内にガソリンが流出したと思われる。									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		環境		常に振動する環境下で疲労（想定内の振動であるが、材料が継続した疲労により損傷等）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地外部へのガソリンの流出はなく、点検ビット内部で留まっている。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 防潮堤から点検ビット内部までの配管損傷及び穴開き		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 2,600Lのガソリン
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海 上 保 安 部	0 台	0 隻	0 機	4 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (66 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 漏えい箇所の確認及び情報収集を実施。						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	移送取扱所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 2 年 12 月 21 日			年 月 日		定期・自主点検	令和 元 年 8 月 17 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日		気密試験等	令和 元 年 7 月 8 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日		保 安 検 査	年 月 日	年 月 日	
関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容： 消防法第10条第1項第4号 移送取扱所の位置、構造及び設備の技術上の基準違反 消防法第14条の3の2 点検記録の作成及び保存の義務違反				
その他	年 月 日			年 月 日						
35 今後の対策	移送配管に残留しているガソリンを全て抜き取り、点検ビット内の清掃及び防潮堤から点検ビット内までの配管を交換する予定である。また、合わせてフレキシブル継手（海上の振動を吸収する継手）を設置しようと考えている。									
36 所 見	ガソリン配管だけでなく、軽油（灯油）配管及び重油配管も同様の損傷があり、穴開きのおそれがあるため、改修を行う予定である。 1年に1回の定期点検は行っているようだが、部分的なもので、定期点検表の項目を全て網羅していない。									

9 一般取扱所

1 事故名	一般取扱所（共同住宅等の燃料供給施設）における屋内配管からの灯油の漏えい		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	1月 9日 16時 00分
5 覚 知	1月 14日 9時 14分	6 鎮 圧 応急処置完了	1月 15日 9時 40分
7 鎮火・処理完了	1月 17日 11時 14分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他（市役所庁内電話）		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速： 気温：-4.2℃ 湿度：98.8%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態：教育・学習支援業 学校教育 小 番 号（7611） 学校 小学校	区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称：その他のタンク 番 号（1299） 能 力：30L	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温[0-40℃]、高温） 分 類：第4類第2石油類（非水溶性液体） 名称：灯油		
13 機 器 等 温 度 圧 力：	設置の完成：昭和59年12月21日 直近の完成：昭和59年12月21日		
名 称：配管（送油、注入管等） 番 号（606） 規 模：配管径直径8mm	18 取扱者の概要		
14 発 生 箇 所	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者		
名 称：給油管等 番 号（907） 材 質：鋼鉄	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
運 転 状 況：定常運転中 番 号（1） 作 業 状 況： 番 号（ ）	23 事 故 の 概 要： 1階教室で灯油臭を確認し、調査したところ天井に直径30cm程度のシミを確認。 2階床下に設置されている配管のコンクリート貫通部で漏えいしていたものである。		
24 緊急処置の状況 有 番号（ ） 無			

原 因	25 主 原 因 不明		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 配管貫通部であることから地震等の振動による疲労劣化が想定されるが特定に至らない。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 1階天井（直径30cm）			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 配管 1階天井			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油 流出量不明	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	5 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> （ 14 万円）	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 油処理剤散布					
31 防災活動上の問題点 教職員が臭気を確認してから消防機関が覚知するまでに1週間程度を要している。											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		令和 元年 8 月 13 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		令和 元年 8 月 13 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保 安 検 査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
そ の 他	年 月 日		年 月 日								
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 在庫管理の回数を増やす等、こまめに残量を確認させる。											
36 所 見 臭いを確認してから消防覚知までに1週間程度を要していることから、消防を含めた関係機関への連絡体系の見直しを図るとともに、事故発生時の対応を再確認させる。											

1 事故名	共同住宅等の燃料供給施設の一般取扱所の地下埋設配管の継ぎ手が経年により緩み、灯油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	3月 1日 13時 50分
5 覚 知	3月 1日 14時 25分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 1日 14時 15分
7 鎮火・処理完了	5月 15日 10時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：不明 風向：風向不明 風速： 気温： 湿度：		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 分類不能の産業 分類不能の産 番 号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能 の産業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,000L 9倍		
12 施 設 装 置	13 機 器 等 温度 圧力：		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	名 称： 配管(送油、注入管等) 番 号 (606)		
能 力： 地下貯蔵タンク 灯油9,000L	規 模： 25A ネジ式継手 エルボ 倍数の合計： 9倍		
14 発 生 箇 所	設置の完成： 平成 10年 12月 21日 直近の完成： 平成 12年 8月 30日		
名 称： 管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)	17 物 質 の 区 分		
材 質： 鋼鉄	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 灯油		
15 発 生 時	18 取 扱 者 の 概 要		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
作 業 状 況： 番 号 ()	20 危 険 物 保 安 監 督 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い 1. 有 ②. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有			
23 事 故 の 概 要： 居住者から灯油臭がするとの連絡を受け、調査したところ地下埋設配管の継手部分から漏えいしていることが判明した。判明後は燃料供給を停止し、一時的な措置として継手部分を締め直すことで漏えいは止まり、消防署へ加入通報した。流出量は、在庫管理状況から150L程度と供述しているが、発生日の特定が困難なため不明とした。人的被害はなし。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因 施工不良							
	発生原因の状況： 地中埋設された継手部分が経年劣化による弛みにより間隙が生じたことに加え、本来地中埋設できないネジ式継手を使用していたことも関連する原因である。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）				
因	関連原因の詳細							
	施工不良		施工		工事時の措置不良			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 事故発生箇所直下の土壌、建物地下ピット内の床面に流出した。流出範囲は事業所内に留まった。
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 事故発生箇所直下の土壌汚染、建物地下ピット床面汚損
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0 台 0 隻 0 機 0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油が流出。流出量の算定は発生日の特定が困難なため不明である。				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (175 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年8月30日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和元年9月30日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
その他	年 月 日	年 月 日	内容： ・危政令第9条第1項第21号ホ 埋設部分に使用できないネジ式継手を使用していたこと。					
35 今後の対策	法定点検、日常点検及び在庫確認の徹底							
36 所 見	今回の流出箇所である継手は、建物と点検弁のわずかな隙間に設置されたものであり、漏れ点検でも確認できない位置にあったことから、異常の有無の確認が遅れたものである。また、このような施工は通常想定しにくい施工であったことから、今後の検査業務の教訓としたい。							

1 事故名	共同住宅等の燃料供給施設において、移動タンク貯蔵所から地下タンクに注油中、過剰注油により灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 21日 11時 57分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 21日 11時 57分	
5 覚 知	3月 21日 12時 03分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 21日 11時 57分	
7 鎮火・処理完了	3月 21日 13時 35分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：3.2m/s 気温：9℃ 湿度：37%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 分類不能の産業 分類不能の産 番 号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能 の産業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,000L 3倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】	番 号 (9999)	能 力： 地下貯蔵タンク容量3,000L	設置の完成： 昭和 52年 9月 14日	直近の完成： 年 月 日	倍数の合計： 3倍
13 機 器 等	温 度 圧 力：	名 称： 貯槽 (タンク)	番 号 (107)	規 模： 容量3,000L	
14 発 生 箇 所	名 称： 通気管	番 号 (304)	材 質： 鋼鉄	18 取扱者の概要	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中	番 号 (1)	作 業 状 況：	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の の取扱・立会い
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 移動タンク貯蔵所の運転手が、共同住宅等の燃料供給施設の一般取扱所の地下貯蔵タンクへ荷卸しする際、事前に液面計を確認し注油量を1,300Lと決定し注油したところ、警報ブザーが鳴動し通気管及び1階の個別タンクから灯油が合計で数十リットル流出した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input checked="" type="checkbox"/> 無					

原 因	25 主 原 因 不明		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因					
	発生原因の状況： 液面計の故障又は運転手の液面計見誤りが考えられるが、どちらも運転手の供述のみであるため不明とする。					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： 第4類第2石油類（灯油）が数十リットル流出したと考えられる。（流出量不明）						
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円						
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()		
調査活動						
31 防災活動上の問題点						
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年7月3日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和元年7月3日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>	内 容：
その他	年 月 日	年 月 日				
35 今後の対策		・移動タンク貯蔵所運転手への保安教育 ・液面計の点検				
36 所 見	今回の流出事故は、荷卸し前に運転手が液面計で残量を確認しているにも関わらず発生したものであり、原因は液面計の故障又は運転手の見間違いが考えられるが、当該一般取扱所への荷卸しは当該運転手が担当であり、10日前後ごとに荷卸ししていることから、過去の実績等を考慮していれば、液面計を確認した際の数量の異変に気付くことができた。液面計を確認する際は、見誤りや故障等も意識する必要がある。					

1 事故名	一般取扱所（潤滑油装置）油冷却器空気抜き配管ユニオン部の施工不良により、タービン油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）		
3 発 生	5月 29日 8時 50分 推定・ 確定	4 発 見	5月 29日 8時 53分
5 覚 知	5月 29日 9時 18分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 29日 9時 40分
7 鎮火・処理完了	5月 29日 11時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他（ ）		
9 気 象 状 況	天気：快晴 風向：南南西 風速：1.7m/s 気温：16℃ 湿度：71%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 （レイアウト、 第1種 、第2種、その他）	区 分：①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他）		
業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号（3311） 気業 電気業 発電所	特別防災地区名：知内地区		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 タービン油 58,000L 9.67倍		
12 施 設 装 置			
名 称：その他【電力事業】 番 号（4999）			
能 力：表面冷却式立置直管形 冷却面積330㎡ 最高使用温度 油側79℃ 水側40℃ 最高使用圧力 油側 478kPa 水側 680kPa			
13 機 器 等	温 度 圧 力：33℃、0.24MPa		
名 称：熱交換器 番 号（301）			
規 模：直径1,179mm 高さ3,107mm			
14 発 生 箇 所	設置の完成：平成 8年 12月 6日 直近の完成：年 月 日		
名 称：管継手（ダクトを含む） 番 号（201）	17 物 質 の 区 分		
材 質：鋼鉄	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、 液相 、気相）（常圧、 加圧 ） （低温、 常温 [0-40℃]、高温） 分類：第4類第4石油類 名称：タービン油 (20L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況：停止中 番 号（5）			
作 業 状 況： 番 号（ ）			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有			
23 事 故 の 概 要： 定期事業者検査のため一般取扱所の運転を停止し機器の点検で5月27日オイルフラッシングを実施中に油冷却器空気抜き配管ユニオン部より油が滴下していたことから、ユニオン部のOリング取替を実施した。その際にネジ山の根元に軽微な濡れを確認したがその後は滴下しなかったためオイルフラッシングを継続した。5月29日にオイルフラッシングのため補助油ポンプを起動した所Oリングを交換したユニオン部より漏えいを確認したため、ポンプを停止すると漏えいが止まり消防へ通報と同時にタービン油の清掃を実施した。			
24 緊急処置の状況 有 番号（ 1 ） 無 装置の緊急停止			

1 事故名	共同住宅の燃料供給施設（中継タンク方式）において、埋設配管が腐食劣化し、灯油流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	8月 8日 15時 34分
5 覚 知	8月 8日 15時 34分	6 鎮 圧 応急処置完了	8月 8日 15時 34分
7 鎮火・処理完了	月 日 時 分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 ⑤. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他（ ）		
9 気 象 状 況	天気：不明 風向：風向不明 風速：不明 気温：不明 湿度：不明		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態： 分類不能の産業 分類不能の産 番 号（9999） 業 分類不能の産業 分類不能 の産業	区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号（9999） 能 力： 地下貯蔵タンク容量10,000L	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温[0-40℃]、高温） 分 類： 第4類第2石油類（非水溶性液体） 名称： 灯油(8,000L)		
13 機 器 等 温 度 圧 力：	設置の完成： 昭和 58年 12月 24日 直近の完成： 年 月 日		
名 称： 配管（送油、注入管等） 番 号（606） 規 模： 20A配管	18 取 扱 者 の 概 要		
14 発 生 箇 所	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危 険 物 保 安 監 督 者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い 1. 有 ②. 無		
名 称： その他の附属配管等 番 号（299） 材 質： 鋼鉄	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要： オンラインファイル有		
15 発 生 時	23 事 故 の 概 要： 共同住宅等の燃料供給施設（中継タンク方式）において、中継タンクから隣接等の個別タンクへの送油管理設部に、腐食劣化による孔が生じ、当該孔から灯油が流出したもの		
運 転 状 況： 定常運転中 番 号（1） 作 業 状 況： 番 号（ ）	24 緊 急 処 置 の 状 況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番 号（1） 無 装置の緊急停止		

25		主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 事故発生部分は、構造上圧力点検が実施困難であった。また、当該部分は消防への相談等なく露出配管から埋設配管になっており、埋設配管の防食措置が講じられていなかった。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	腐食			防食			防食無し（耐腐食性の材料を使用せず）						
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害							28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した危険物は建築物外の土壌へ拡大したものの、敷地内に留まったものと推定する。なお、正確な流出範囲は、流出油処理完了後判明するものである。					
区分													
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： C棟1階のパイプシャフト内の配管が腐食。					
防災活動従事者		0	0	0	0								
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油が8,000L流出			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (72 万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (5, 99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
調査活動													
31 防災活動上の問題点													
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等				消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	平成 30 年 5 月 30 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	平成 30 年 5 月 30 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無			
その他	未実施部分の漏れ点検の実施について指示 令和 2 年 8 月 8 日				1. 文書 2. 口頭				内容： ・法第12条第1項（維持管理義務違反） 埋設配管の一部が防食措置の基準不適合 ・法第14条の3の2（定期点検一部未実施） 埋設配管の一部が漏れ点検未実施				
35 今後の対策 技術上の基準に適合させるとともに、埋設部分全ての漏れ点検を行えるように施設を変更する。													
36 所 見 事故が発生した埋設配管は、設置時は露出していたが、消防への相談等を行わず埋設されたもので、防食措置が講じられていなかった。技術上の基準に適合するよう設置していれば防げた可能性がある。また、当該施設は構造上の問題で埋設配管の漏れ点検が一部未実施であった。今回の事故は当該点検未実施部分で発生したことから、適正に点検を行えていれば早期に覚知できた可能性がある。査察時等には、施設の構造等の変更の有無や、漏れ点検の点検範囲についても注意を払う必要がある。													

1 事故名	配管供給の一般取扱所（中継タンク方式）において、埋設配管が腐食劣化し、灯油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	9月 10日 11時 55分
5 覚 知	9月 10日 11時 59分	6 鎮 圧 応急処置完了	9月 10日 11時 55分
7 鎮火・処理完了	10月 26日 10時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他（ ）		
9 気 象 状 況	天気： 不明 風向： 風向不明 風速： 気温： 湿度：		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態： 分類不能の産業 分類不能の産 番 号（9999） 業 分類不能の産業 分類不能 の産業	区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 6,000L 6倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号（9999）	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温 [0-40℃]、高温） 分類： 第4類第2石油類（非水溶性液体） 名称： 灯油 (2,800L)		
能 力：	18 取扱者の概要		
13 機 器 等 温度 圧 力：	1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の 番号 () 番号 () 番号 () 1. 有 ③. 不要 ③. 不要 の取扱・立会い ②. 無		
名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号（606）	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有		
規 模： 25A配管、20A配管	23 事 故 の 概 要： 令和2年8月26日に定期点検（目視及び漏れの点検）を実施し異常なかった（タンク残量約3,000L）が、翌日（8月27日8時頃）に計量したところタンク残量が700Lになっていた。再度詳細に点検をしたところ、残量は200Lとなっており地下タンクからポンプまでの吸引管の埋設部で気密不良が認められたため施設の運転を停止し消防に相談した。9月10日掘削調査を実施したところ、吸引管及び漏れ点検未実施部分の埋設配管（中継タンクから戸別タンクへの送油管及び返油管）に腐食孔及び腐食部からの灯油のじみを確認し消防へ通報した。点検未実施部分の事故発生時期が不明であるが、8月26日から27日のタンク残量の差異から約2,800L以上が流出したと考えられる。		
14 発 生 箇 所	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号（ 1 ） 無 装置の緊急停止		
名 称： その他の附属配管等 番 号（299）			
材 質： 鋼鉄			
15 発 生 時			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号（ 1 ）			
作 業 状 況： 番 号（ ）			

25		主 原 因 腐食疲労等劣化				着火原因				番号 ()			
原 因	関 連 原 因												
	発生原因の状況： 地下タンクからポンプまでの吸引管理設部及び中継タンクから戸別タンクまでの送油管理設部には腐食による孔が生じており、返油管理設部は腐食により減肉し、当該減肉部から灯油がにじみでていたもの												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層			第Ⅱ層			第Ⅲ層			第Ⅳ層			
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害							28 物的被害						
被害内容等 区分		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内の土壌に流出。河川等への流出なし。					
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 埋設配管（地下タンクからポンプまでの吸引管、中継タンクから戸別タンクへの送油管及び返油管）の腐食					
防災活動従事者		0	0	0	0								
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（灯油）約2,800L以上			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人				
							損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (22 万円)						
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()							
事故調査													
31 防災活動上の問題点													
32 行 政 措 置	施 設 名	一般取扱所				33 定期点検等				消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日				年 月 日				定期・自主点検	令和 2 年 8 月 26 日		
	改善命令等	年 月 日				年 月 日				気密試験等	令和 2 年 8 月 26 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日				保安検査	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無				有・無			
その他	定期点検（漏れ点検）一部未実施 令和 2 年 9 月 10 日				1. 文書 2. 口頭				内容： 消防法第14条の3の2 埋設配管の漏れ点検一部未実施 (未実施部分の前後に継手等が無いため。)				
35 今後の対策 埋設配管の取替え及び点検を行える構造に変更する。													
36 所 見 当該施設では毎年定期点検を行っており、異常を確認後もすぐに消防に相談し適切に対応していた。しかし、埋設配管の一部が構造上漏れ点検実施困難であったため、実施されていなかった。適正に漏れ点検が実施されていれば早期に漏れを覚知できた可能性もある。査察時等に定期点検記録を確認する際には、点検範囲についても注意を払う必要がある。													

1 事故名	一般取扱所において、クランプバンドのナットが緩み配管からエチルアルコールが流出						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	10月 5日 9時 23分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	10月 5日 10時 17分			
5 覚 知	10月 5日 10時 35分				6 鎮 圧 応急処置完了	10月 5日 16時 00分	
7 鎮火・処理完了	10月 5日 16時 00分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：西南西		風速：4m/s		気温：20℃ 湿度：36%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 医薬品製造 番 号 (1762) 業 業 医薬品製剤製造業			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
				16 発生施設規制区分等			
12 施 設 装 置	名 称： 制御計測室 番 号 (1507)			施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 エチルアルコール 14,400L 36倍 倍数の合計： 36倍 設置の完成： 平成 16年 7月 29日 直近の完成： 令和 2年 8月 20日			
	能 力： エチルアルコール14,400L (36倍)						
13 機 器 等	温 度 圧 力：			17 物 質 の 区 分			
	名 称： その他 番 号 (999)						
	規 模： 手締めクランプ 2.5S			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類： 第4類アルコール類 名称： エチルアルコール(5,556L)			
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)						
	材 質： ステンレス			18 取扱者の概要			
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)						
	作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)			20 危険物 保安監督者			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事 故 の 概 要： 製造施設へ送油する配管圧送ポンプの振動により、付近のボールロックと配管を接続するために使用していた手締めクランプバンドの手締めナットが緩み防油堤内に脱落、その外れた配管から加圧された状態で漏油したものの							
24 緊急処置の状況 <u>有</u> 番号 (1、9、10) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送、その他							

原因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 設計不良、施工不良										
	発生原因の状況： アルコール計量棟内の危険物タンクからM1棟へ送油する配管圧送ポンプ（圧縮空気可動）の振動により、付近のボールコックと出口側配管を接続するために使用していた手締クランプバンドの手締めナットが緩み、ボールコックと配管の間隙から加圧された状態で流出、防油堤内外及びピット内に貯留したものである（手締めナットの緩み防止のための結束バンドを取付けていなかったことも一つの要因である。）。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	設備		設計		工程・システム設計		安全設計が不適切				
	設備		監理・保守		監理		施工監理が不適切				
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所建屋内			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 特になし			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類アルコール類エチルアルコール約5,556L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (66 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和2年10月5日				定期・自主点検			令和2年10月4日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				気密試験等			年 月 日	年 月 日	
	停止解除	令和2年10月7日				保安検査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <u>無</u> 内容：		
その他	年 月 日				年 月 日						
①. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策 日常点検内容の強化、クランプの再点検と対策、漏えい検知センサーの運用方法の見直し											
36 所 見 流出したエチルアルコールを安全かつ速やかに回収し流出原因の究明を行い、日常点検の内容を強化し、漏えい検知センサーを定期的に点検する等の再発防止策を講じるよう指導。											

1 事故名	一般取扱所（燃料供給施設）の地下貯蔵タンクへの過剰注入により灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）				
3 発 生	10月 23日 9時 40分	推定・確定	4 発 見	10月 23日 9時 40分	
5 覚 知	10月 23日 10時 22分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 23日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了	10月 23日 13時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他（ ）				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：南南東 風速：10.1m/s 気温：17℃ 湿度：81%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態： 分類不能の産業 分類不能の産 番 号（9999） 業 分類不能の産業 分類不能 の産業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号（9999） 能 力： 地下貯蔵タンク 容量1,900L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 配管（送油、注入管等） 番 号（606） 規 模： 注入管65A、通気管32A		倍数の合計： 1.9倍 設置の完成： 平成 4年 2月 20日 直近の完成： 年 月 日		
14 発 生 箇 所	名 称： タンクの注入口 番 号（905） 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温[0-40℃]、高温） 分類： 第4類第2石油類（非水溶性液体） 名称： 灯油(10L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 荷卸中 番 号（13） 作 業 状 況： 番 号（ ）		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 定期配送する移動タンク貯蔵所から一般取扱所の地下貯蔵タンクへ灯油を荷卸しする際、屋外に設置された液面指示計で示す値が地下タンク容量の4分の3程度を示していたことから注入をしたものの、注入開始から約1分後、注入ホースと注入口の緊結部分から流出し、緊結が不完全だったと思い、注入ホースを離脱したところ灯油が溢れ出たもの。その後、通気管からの灯油漏えいを認めたもの。流出範囲は事業所内に留まった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号（ 1 ） 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因 操作確認不十分								
原	発生原因の状況： 地下貯蔵タンクのマンホール内に設置された発信部と、屋外に設置された液面指示計の結線部が腐食していたため、地下タンク内の残油量が反映されていなかった。また、移動タンク貯蔵所の運転手は、巡回配送ということで、液面指示計の値が一定値を下回ると自動的に注油を行っていた経緯があり、今回においても、屋外に設置された液面指示計の数値が一定値を下回っていたことから、当該数値が正しいものと思い込み、施設関係者への確認をとることなく注油を行った結果、過剰注油に至ったものである。								
	主原因の詳細								
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層				
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水水位の上昇）				
関連原因の詳細									
人		本人の意識		思慮		思い込み			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油が、一般取扱所敷地内駐車場へ流出、事業所外への拡散はなし。			
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人		
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人		
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人		
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人		
						物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油 約10L流出			
						損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()					
情報収集、事故調査									
31 防災活動上の問題点									
32	施 設 名				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	行 政 措 置	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検	令和 2 年 5 月 25 日	年 月 日
		改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等	令和 2 年 5 月 25 日	年 月 日
		停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>	
その他	年 月 日		年 月 日		内容：				
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> 一般取扱所の所有者又は管理者による在庫管理の徹底 移動タンク貯蔵所運転手による、注油前に事前確認の徹底 荷卸し時の双方立会い 							
36 所 見		荷卸しにあつては、液面指示計に示された値のみで判断するのではなく、受入側と荷卸し側の相互確認が事故を防ぐうえで重要である。特に、容量が小さい地下貯蔵タンクについては、荷卸し自体の機会が多くなることから、これらを徹底することが必要である。							

1 事故名	階層の一般取扱所の地下貯蔵タンクからポンプ室までの埋設送油配管腐食による灯油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	1月 28日 9時 00分		
5 覚 知	1月 28日 10時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 26日 10時 00分		
7 鎮火・処理完了	3月 26日 10時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東南東 風速：4m/s 気温：3℃ 湿度：86%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：教育・学習支援業 学校教育 中 番 号 (7621) 学校 中学校	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 5,000L 5倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力： 中継タンク：200L 戸別タンク：30L×3基(各階) 落差	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 灯油 (210.7L)				
13 機 器 等 温 度 圧 力：	18 取 扱 者 の 概 要				
名 称： その他 番 号 (999)	①. 選任有 2. 選任無				
規 模： 中継タンク：200L 戸別タンク：30L×3基(各階) 落差	20 危 険 物 保 安 監 督 者				
14 発 生 箇 所	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い				
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)	①. 有				
材 質： 鋼鉄	2. 無				
15 発 生 時	22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：				
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	オンラインファイル有				
作 業 状 況： 番 号 ()	23 事 故 の 概 要：				
令和元年11月11日消防覚知した送油配管からの流出事後、漏れのあった送油配管取替えの完成検査が令和2年1月14日に終了し、定常運転していたところ、1月28日、中学校校長が1階職員室制御盤の液面指示計に下限警報音及びランプ点灯を確認し、教育委員会へ連絡した。その後、業者にてポンプ起動を試みるも上がらず、1月31日にフレキシ升から地下タンクチャッキ弁までの送油配管に気密試験をしたところ圧力降下がみられたものだが、送油配管取替えに係る変更工事が3月26日に完了し改修したもの。この流出事故に係る死傷者は発生していない。					
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い
24 緊 急 処 置 の 状 況 [有] 番 号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因 破損						
原	発生原因の状況： 埋設された配管を掘削し見分すると、ポリエチレン樹脂の被覆が一部剥がれ、露出した配管が腐食し、開口部1か所が認められた。被覆の損傷についてはその剥離面の形状から過去に行われた工事の際に工具等が接触し剥離したものと推察する。						
	主原因の詳細						
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		
	破損		工事時		工事資機材による損傷		
関連原因の詳細							
腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害				28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	
区分						職業又は職名	
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した灯油が配管周囲の土壌へ浸透したが、敷地内に留まったもの	
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	3 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
						物質の被害状況： 第4類 引火性液体 第2石油類210.7L流出	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (84 万円)	
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (5)			
事故調査				吸着マット6枚敷設			
31 防災活動上の問題点							
32	施設名			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年11月29日	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和元年8月6日	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u>	
措 置	その他	年 月 日	年 月 日	内容：			
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策							
・監視強化及び記録 ・定期点検（漏れの点検） ・変更工事の際の安全対策に、配管の損傷防止対策について記載させ関係者に周知させる。							
36 所 見							
埋設された地下貯蔵タンク及び配管の漏れの点検の漏えい範囲の有無は告示で示しているが、その数値の変化にも着目したい。							

1 事故名	一般取扱所において長年にわたり清掃をしておらず設置者自らが清掃を実施した所、貯留していた危険物が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 27日 17時 00分	推定・確定	4 発 見	2月 28日 10時 00分	
5 覚 知	2月 28日 10時 26分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 28日 17時 00分	
7 鎮火・処理完了	3月 13日 10時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：4.8m/s 気温：5.7℃ 湿度：37.2%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： ローリー充てん施設 番 号 (1402) 能 力： 油分離槽 600×600×750		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,000L 5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 15,000L 15倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： その他 番 号 (999) 規 模： 600×600×750		倍数の合計： 30倍 設置の完成： 平成 5年 5月 11日 直近の完成： 平成 23年 11月 23日		
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999) 材 質： コンクリート		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要	経験年数45年	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所の油分離槽を設置者自ら清掃した所、長年油分離槽に貯留していた危険物が流出し排水堀へ流出したもの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因	維持管理不十分	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 長年（約9年）にわたり、油分離槽の清掃を行っておらず今回も、専門業者による清掃ではなく設置者自らが行ったことにより流出につながったと考えられる。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層							
	管理	リスクアセスメント	危険意識	危険に対する認識がない/不足							
	人	本人の意識	思慮	配慮不足							
	関連原因の詳細										
26	被害の状況	1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27	人的被害										
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	28	物的被害		
区分								被災影響範囲及び拡大の状況： 油分離槽から漏れた危険物が排水堀へ流出後、河川と合流し流出、拡散したもの			
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0						
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	15 台	0 隻	0 機	35 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 河川への流出であったが排水堀及び排水路を下流方向へ約6kmに渡り流出したもの	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	10 台	0 隻	0 機	20 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
										損害額	1万円未満、1万円以上 () 万円
30	実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4、5、6)						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5、6)					
31	防災活動上の問題点										
32	施設名	一般取扱所				33	定期点検等	消 防 法	そ の 他		
行 政 措 置	使用停止	年 月 日				年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 2 月 27 日	年 月 日		
	改善命令等	令和 2 年 2 月 29 日				年 月 日	気密試験等	平成 30 年 4 月 25 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日				年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項	消防法第16条の3第3項					34	当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：		
35	今後の対策	一般取扱所の油分離槽及び集水桝の定期的な清掃及び危険物の除去。日常における、定期的な巡視の徹底。									
36	所 見	今回事故を起こした施設は常に綺麗で掃除が行き届いています。しかし方法を間違えると思わぬ事故に繋がることを経験されました。今後は清掃の回数を増やすことや、清掃後に油の流出がないか必ず確認をすることが早い通報及び対策にも繋がることを再確認していました。									

1 事故名	一般取扱所から移動タンク貯蔵所への荷積作業中における操作不適切による灯油の流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 3日 19時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	12月 3日 19時 00分	
5 覚 知	12月 3日 20時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 3日 20時 23分	
7 鎮火・処理完了	12月 3日 20時 23分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：1m/s 気温：4℃ 湿度：78.3%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 60,000L 60倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： ローリー充てん施設 番号 (1402)	能 力： 一般取扱所 (地下タンク60,000L)	13 機 器 等	温度圧力：	設置の完成： 平成 12年 12月 25日	直近の完成： 年 月 日
名 称： その他 番号 (999)	規 模： 給油ノズル	14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ノズル 番号 (909)	材 質： アルミニウム	15 発 生 時
運 転 状 況： 荷積中 番号 (12)	作 業 状 況： 充填中 番号 (12)	18 取扱者の概要	経験年数1年		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 一般取扱所から移動タンク貯蔵所への荷積作業中、ドロップパイプにラッチオープンノズルの差し込みが不十分であったため、ノズルストッパーが作動せず移動タンク上部より灯油90Lが溢れたが一般取扱所の油分離槽2層目で止まり、敷地外への流出は免れたものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 監視不十分									
	発生原因の状況： 一般取扱所から移動タンク貯蔵所への荷積作業中、ドロップパイプにラッチオープンノズルの差し込みが不十分だったため、ノズルストッパーが作動せず移動タンク上部より灯油90Lが溢れだしたものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		過信			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所上部より溢れ出た灯油は一般取扱所内の油分離槽2層目にて止まり、敷地外への流出は免れたもの		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 特になし		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油 90L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動										
31 防災活動上の問題点 通報の遅れ。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検			令和 元 年 12 月 13 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等			令和 2 年 9 月 7 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保 安 検 査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/>		
その他	年 月 日	年 月 日		1. 文書 2. 口頭			内容：			
35 今後の対策 従業員の安全教育の徹底										
36 所 見 敷地外へ流出させまいと通報より漏油処理を優先したため通報まで1時間以上要した。										

1 事故名	一般取扱所において、屋外貯蔵タンク側板の腐食による重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 26日 10時 00分	推定・ 確定	4 発 見	11月 26日 10時 10分	
5 覚 知	11月 26日 10時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 29日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了	11月 30日 9時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西北西 風速：8.3m/s 気温：11℃ 湿度：63%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 パルプ・紙・紙加工品製 番 号 (1522) 造業 紙製造業 板紙製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) C重油 376,200L 188.1倍 第4類第4石油類 潤滑油 15,900L 2.65倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201)	能 力： 重油 51KL		設置の完成： 昭和 46年 12月 27日 直近の完成： 令和 2年 6月 4日		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 60℃		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	規 模： 51KL		5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： C重油 (40L)		
14 発 生 箇 所	名 称： タンク側板 番 号 (101)		18 取扱者の概要		
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有		
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)	作 業 状 況： 番 号 ()		3. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所の屋外貯蔵タンクの側板が腐食し、発生したピンホールから防油堤内に重油が流出しているのを巡回中に発見し、吸着マットで応急措置するとともに消防へ通報したものの					
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()							
	関 連 原 因 維持管理不十分											
	発生原因の状況： タンクを覆う保温材の一部が劣化し雨水等が浸水して、タンク側板が腐食しピンホールが発生したため漏えいしたもの											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）							
	関連原因の詳細											
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害						28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 屋外貯蔵タンクの防油堤内に重油約40Lが漏えい。 施設等の被害状況： タンク側板が腐食し、ピンホール3か所発生。				
区分												
当 事 者		0	0	0	0							
防災活動従事者		0	0	0	0							
第 三 者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関		1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油（非水溶性）重油 約40L流出				
消 防 団		0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部		0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関		0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <input type="text" value="1万円以上"/> (750 万円)				
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()								
調査活動												
31 防災活動上の問題点												
政 策 措 置	32 施設名		ボイラー発電所		ボイラー発電所		33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止		年 月 日		令和 2 年 11 月 26 日		定期・自主点検		令和 2 年 6 月 12 日		年 月 日	
	改善命令等		令和 2 年 11 月 26 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除		年 月 日		令和 2 年 12 月 4 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項		消防法16条の3第3項		消防法12条の3第1項		34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>			
その他		年 月 日		年 月 日				内容：				
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> ・タンクに覆われている保温材をすべて外した目視点検及び板厚測定 ・肉盛り及びあて板補修 										
36 所見		保温で覆われたタンクの保温材を外しての目視点検又は肉厚測定の必要性について、また計画的なタンク開放検査の検討										

1 事故名	一般取扱所における移動タンク貯蔵所への軽油充填中、監視不十分により流出した事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	5月 11日 14時 00分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	5月 11日 14時 24分		5月 11日 14時 15分
7 鎮火・処理完了	5月 12日 17時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西北西 風速：5m/s 気温：23.6℃ 湿度：47.2%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 50,000L 50倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 50,000L 50倍		
12 施 設 装 置	設置の完成： 昭和 55年 8月 8日 直近の完成： 平成 元年 12月 25日		
名 称： ローリー充てん施設 番号 (1402)			
能 力： タンク容量50,000L			
13 機 器 等	温度圧力：		
名 称： 固定給油 (注油) 設備 番号 (911)			
規 模： 超高速型計量器 超高速側180L/min 中速側60L/min 914W×1,560H×530D	倍数の合計： 100倍		
14 発 生 箇 所	設置の完成： 昭和 55年 8月 8日 直近の完成： 平成 元年 12月 25日		
名 称： タンクの注入口 番号 (905)	17 物 質 の 区 分		
材 質： 鋼鉄	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (300L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況： 荷積中 番号 (12)	経験年数0年		
作 業 状 況： 充填中 番号 (12)			
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
		21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所にて移動タンク貯蔵所へ軽油を充填中に監視を怠り、軽油約300Lが流出した。流出した軽油は敷地外の水路に流出したが、水量がほとんどない状態であったため、敷地外への流出距離は20m程であった。水路には吸着マットとオイルフェンス、路面への流出には吸着材を使用し応急処置を実施した。移動タンク貯蔵所への充填中は、移動タンク貯蔵所の運転手のみで実施しており、一般取扱所の立会人は誰もいない状況であった。また、移動タンク貯蔵所への充填はタンク上部から注油管は使用せずにタンク上部の蓋を閉めることで注油ノズルを固定し実施された。そのため、注油ノズル先端の停止装置が正常に作動せず、軽油がタンクからオーバーフローした。さらに移動タンク貯蔵所の水抜き弁が解放されたまま充填が実施されていたことも重なり、タンクからオーバーフローした軽油が水抜き管から流出したものである。			
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作未実施									
	発生原因の状況： 一般取扱所側及び移動タンク貯蔵所側双方の監視が不十分な状態でタンクへの充填が実施されたため、流出に気づけなかった。また、移動タンク貯蔵所の運転手によりタンクへの充填が実施されたが、その際注入管を使用することを知らなかったといった知識不足があった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	管理		監督		監視		監視がない			
	関連原因の詳細									
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所で軽油を充填していた移動タンク貯蔵所からオーバーフローし漏えい、事業所外の側溝へも軽油が流出したが側溝の流量がほとんどなく流出範囲は敷地境界線より約20m程度に収まっている。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油約300L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (3 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (6、4、5)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名	一般取扱所		移動タンク貯蔵所		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 2 年	5 月 11 日	令和 2 年	5 月 11 日	定期・自主点検 気密試験等 保安検査	平成 27 年 10 月 21 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日		年 月 日			平成 27 年 10 月 21 日	年 月 日		
	停止解除	令和 2 年	5 月 21 日	令和 2 年	5 月 21 日			年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項		法第12条の3第1項		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無			
その他	年 月 日		年 月 日		内容： ・法第13条第2項 危険物保安監督者の選解任届出義務違反 ・法第14条の3の2 点検記録の作成及び保存の義務違反					
35 今後の対策	・移動タンク貯蔵所への充填作業中における立ち会い作業の徹底 ・消防法令の遵守並びに事故の再発防止にかかる従業員教育の実施									
36 所 見	今回の事故を教訓に、同様の事故が発生しないよう各施設に安全対策を周知徹底する必要がある。									

1 事故名	専ら充填作業を行う一般取扱所の地下埋設配管の破損による灯油の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	7月 15日 11時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見
5 覚 知	7月 15日 12時 09分	6 鎮 圧 応急処置完了	7月 15日 11時 50分
7 鎮火・処理完了	8月 18日 17時 00分		7月 15日 13時 29分
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東 風速：2m/s 気温：22℃ 湿度：89%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油・軽油 9,000L 9倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称：ローリー充てん施設 番号 (1402) 能 力：灯油・軽油9,000L/d	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：灯油		
13 機 器 等	18 取扱者の概要		
温度圧力： 名 称：配管 (送油、注入管等) 番号 (606) 規 模：直径8mm 被覆銅管	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
名 称：給油管等 番号 (907) 材 質：銅	1. 有 ②. 無		
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有		
運 転 状 況：停止中 番号 (5) 作 業 状 況： 番号 ()	23 事 故 の 概 要： 一般取扱所の南側に位置している田の所有者から、「油臭がし、油膜が確認される。」と消防機関に通報があり、漏えい箇所を調査したが特定に至らなかった。後日、配管の圧力検査を実施したところ一般取扱所から屋外タンク貯蔵所に延伸している返油管から圧漏れがあることが分かった。原因配管は後日、撤去取替え工事をした。漏えい時期は不明、返油管に残存している危険物が漏れ出したと考える。吸着マット等で拡散防止措置を行った。		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()				
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 一般取扱所から屋外タンク貯蔵所に延伸している返油管がなんらかの原因で破損し、その箇所から地中に危険物が漏えい。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	破損		自然現象		地盤沈下						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名				
区分											
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所南側に隣接する手掘りの用水路に東西約2mにわたり油膜を確認。				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 直径8mmの埋設被覆銅管に穴が開いていた。				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油が漏えい。漏えい量は不明。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
30 実施した防災活動の状況								損害額	1万円未満	、	1万円以上 () 万円
公設消防機関：番号 (6, 99)						自衛防災・消防組織等 番号 (6)					
漏えい箇所の調査											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無				
その他	警告(消防法第12条第1項(位置、構造又は設備の維持管理不適) 令和2年8月12日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭				内容： 消防法第12条第1項 位置、構造又は設備の維持管理違反						
35 今後の対策 自主点検の計画実施											
36 所 見 事業所に対し、従業員への教育及び管理を徹底するよう指導し、更に点検記録表に漏えいに関する点検項目を追加させ、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種の事故防止に努める。											

1 事故名	一般取扱所での移動貯蔵タンクへの充填中、底弁等操作未実施により重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 6日 10時 50分	推定・確定	4 発 見	8月 6日 10時 50分	
5 覚 知	8月 6日 12時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 6日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了	8月 6日 11時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南西 風速：1.4m/s 気温：30.6℃ 湿度：55%				
10 発 生 事 業 所	種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 400,000L 400倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 100,000L 50倍
12 施 設 装 置	名 称：ローリー充てん施設 番 号 (1402) 能 力：容量 灯油400KL、重油100KL		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：重油 (100L)		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：ローディングアーム 番 号 (604) 規 模：容量 重油100KL				
14 発 生 箇 所	名 称：容器本体 番 号 (108) 材 質：鋼鉄		設置の完成：平成 10年 6月 3日 直近の完成：平成 27年 6月 3日 倍数の合計：450倍		
15 発 生 時	運 転 状 況：払出中 番 号 (10) 作 業 状 況：充填中 番 号 (12)		18 取扱者の概要 経験年数0年		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 管内の一般取扱所において、管外の事業所の移動貯蔵タンクに移動タンク貯蔵所の危険物取扱者が重油の充填作業を行い、3槽目を充填しているときに重油がマンホールから溢れ、防護枠内に約100L及び車両の停止しているコンクリートの地盤面に約5Lの重油が流出した。ローディングアームの緊急停止を行い、隣接事業所のバキューム式移動タンク貯蔵所で防護枠内の重油を回収し、その他は吸着マットで処理した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

1 事故名	一般取扱所において、維持管理不十分によりタービン発電機前後部軸受けから潤滑油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	2月 6日 14時 38分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	2月 6日 14時 48分		2月 6日 14時 40分
7 鎮火・処理完了	2月 6日 18時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：6.3m/s 気温：4℃ 湿度：37%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、 <u>その他</u>) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称：発電装置 番 号 (4101)	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所		
能 力：2号タービン発電機：71MW/d	類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 2,040L 2.04倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 絶縁油 18,749L 9.37倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) レジドール 24,000L 12倍 第4類第4石油類 潤滑油 35,423L 5.9倍		
13 機 器 等 温度圧力：	倍数の合計： 29.31倍		
名 称：発電機 番 号 (704)	規 模：油タンク容量：8,000L		
14 発 生 箇 所	設置の完成：昭和 45年 3月 4日 直近の完成： 年 月 日		
名 称：軸受 番 号 (903)	17 物 質 の 区 分		
材 質：鋼鉄	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称：潤滑油(5L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要 経験年数11年		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)			
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要：	一般取扱所2号蒸気タービン発電機前後部軸受けから、潤滑油が漏えいしたもの。原因については、油タンクへの潤滑油戻り系統にあるフラッシング用ストレーナの閉塞により、ループシールタンクレベルが上昇、軸受内部の潤滑油レベルも上昇し、行き先を失った潤滑油が軸貫通部より漏えいしたものである。漏えい量は潤滑油5L。		
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止		

原因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 監視不十分									
	発生原因の状況： 原因については、油タンクへの潤滑油戻り系統にあるフラッシング用ストレーナの閉塞により、ループシールタンクレベルが上昇、軸受内部の潤滑油レベルも上昇し、行き先を失った潤滑油が軸貫通部より漏えいしたものである。本来、このストレーナは、フラッシング時のみ挿入するものであるが、定期整備で挿入したまま使用を継続したことで汚れが蓄積、気相部、空気抜き配管にも潤滑油が流入し、汚れを持ち込んだことでストレーナ閉塞を加速、油タンク濾過器の閉塞を疑い、上部蓋を開放したところ、同タンクの圧力が下がりループシールタンクとの差圧が小さくなることで潤滑油量が少なくなり、ループシールタンクレベルが上昇、軸受内部の潤滑油レベルも上昇し、漏えいしたものである。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	設備		監視・保守		点検・整備		整備内容が不適切			
	関連原因の詳細									
	設備		監視・保守		点検・整備		確認不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 2号蒸気タービン発電機前後部軸受け付近に潤滑油5Lが漏えい。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	24 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 第4石油類 潤滑油 5L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 現場の警戒及び情報収集を実施。					自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 現場の警戒等及び油吸着マットによる処理実施。					
31 防災活動上の問題点										
32 施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		
措 置	そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 ・定期整備時の品質管理チェックリストを修正する。 ・運転員のパトロールチェックリストにループシールタンクレベルの記録を追加する。 ・当該事故事例教育を職員全員に実施する。										
36 所 見 管理面等十分に注意し再発防止に努めるように指導する。										

1 事故名	一般取扱所のドラム缶破碎設備のアクュームレータから、ネジ山摩耗により隙間が生じ危険物が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 23日 15時 30分	推定・確定	4 発 見	2月 23日 16時 00分	
5 覚 知	3月 4日 10時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 23日 16時 30分	
7 鎮火・処理完了	3月 4日 13時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北西 風速：7m/s 気温：12℃ 湿度：31.8%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： サービス業(他に分類されな 番号 (8522) いもの) 廃棄物処理業 産業 廃棄物処理業 産業廃棄物処分 業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 48t/d		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 廃油 2,400L 2.4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 廃油 9,600L 4.8倍 第4類第4石油類 作動油 2,050L 0.34倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： その他 番 号 (999) 規 模： 2t/h		倍数の合計： 7.54倍 設置の完成： 平成 17年 5月 17日 直近の完成： 平成 17年 12月 1日		
14 発 生 箇 所	名 称： その他の部位 番 号 (399) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称： 作動油(9L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要	経験年数10年	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： ドラム缶破碎装置(一般取扱所)に設置されているドラム缶破碎機において、駆動油圧モータのアクュームレータのボルト老朽化により接続部から第4類第4石油類(作動油)が流出したもの。通常運転中、オペレータの設備巡視点検時に流出を発見、ボルト増し締めを実施するも完全に止めることはできず。後日、ボルトを含むアクュームレーター一式を新品に交換した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： ドラム缶破砕機駆動油圧モータのアクュームレータ接続部ボルトのネジ山摩耗により隙間が生じ、作動油が流出したもの。使用されていたアクュームレータは、純正品ではなく同一性能の相当品であり、重量の違いなどから接続部のボルトに過大な負荷がかかり、ネジ山の摩耗につながったものと推測される。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）						
原 因	関連原因の詳細									
	設備		設計		工程・システム設計		その他			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 危険物は、一般取扱所規制外及び側溝等への流出なし。 施設等の被害状況： 床上に危険物が流出したが、オイルキャッチシートにて回収し、施設等への被害なし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類(作動油)約9L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動										
31 防災活動上の問題点 事故発見は令和2年2月23日だが消防機関への通報はされず、令和2年3月4日の立入検査時に事故が発生していたことが発覚した。										
32	施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年 月 日 令和元年11月1日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日 年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日 年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無		
措 置	その他	年	月	日	年	月	日	内容： 事故発生時の通報義務違反 消防法第16条の3第2項		
35	今後の対策 流出箇所のアキュームレータは純正品ではなく、相当品を使用していた。性能自体は同じだが、重量が重いため振動等により接続部への負荷が過大になっていたものと思われる。今後は純正品を適正に使用することにより過大負荷による部品疲労発生を防ぐよう努める。また、今回の事故発生時に消防機関等への適切な通報が実施されなかったことを受け、全従業員を対象に緊急時等の対応について改めて周知した。今後も定期的な確認の場を設けるとのこと。									
36	所 見 従業員等に対し、定期点検のみならず業務中における日常点検も十分行うよう指導。また、緊急時等の消防機関への適切な通報を指導。									

1 事故名	エチレンプロピレンゴム製造設備内水分離槽から、液面系設定不良によりノルマルヘキサンが流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	8月 19日 1時 25分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	8月 19日 3時 27分		6 鎮 壓
7 鎮火・処理完了	8月 19日 8時 30分		応急処置完了
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：2.9m/s 気温：25℃ 湿度：97%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1736) 業製品製造業 合成ゴム製造業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 鹿島臨海地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称：エチレン・プロピレン・ジエン・アクリル(EPR)製造装置 番 号 (5305)	施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス ③ 高圧混在 4 その他		
能 力：2,784,656L/d	貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所		
13 機 器 等	類・品名・名称・数量・倍数：		
名 称：貯槽 (タンク) 番 号 (107)	第4類第1石油類(非水溶性液体) n-ヘキサン 2,728,498L 13,642.49倍		
規 模：横置円筒直径：2,800mm、長さ：7,300mm	第4類第2石油類(非水溶性液体) n-ブタンノール 99L 0.1倍		
14 発 生 箇 所	第4類第2石油類(非水溶性液体) エチレンノルボルテン 16,477L 16.48倍		
名 称：ドレンバルブ 番 号 (210)	第4類第3石油類(水溶性液体) ノイグントDS-50 96L 0.02倍		
材 質：ステンレス	第4類第4石油類 シェル油 1,240L 0.21倍 (ダブニーオイルCP-68N)		
15 発 生 時	第4類第4石油類 潤滑油 7,074L 1.18倍 (ダブニーオイルCP-68N)		
運 転 状 況：スタートアップ中 番 号 (2)	第3類70キログラム未満 フルキアミン(EASC) 1,451kg 145.1倍		
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)	倍数の合計： 13,805.58倍		
19 危険物保安統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	設置の完成：平成 3年 9月 13日 直近の完成： 年 月 日
22 設備・機器等の概要：	17 物質の区分		
オンラインファイル無	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：ノルマルヘキサン(1,500L)		
23 事故の概要：	18 取扱者の概要		
エチレンプロピレンゴム製造設備内水分離槽 (V-302) ドレンからノルマルヘキサンが流出したものである。原因は、V-302液面計設定不良により、制御システムで表示される界面レベルと実際の界面レベルが異なっていたため、界面を下げるアクションを取り続けた結果、水がなくなりV-302内部がノルマルヘキサンで満たされた状態で、排水ピットへ移送を行ったため流出したものと推定する。漏れ量は約1,500L。	経験年数10年		
24 緊急処置の状況	有 番号 (1) 無	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
装置の緊急停止			

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()	
	関連原因					
	発生原因の状況： V-302液面計設定不良の原因は、当該液面計を令和2年度定期修理により更新したため、圧力設定値を変更する必要があったが、運転員と計装工事担当者間で情報共有ができていなかったため、計装工事担当者が本来すべき通常状態への設定をしなかったことによるものである。					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	設備		監視・保守		点検・整備	
					整備内容が不適切	
	関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	25 人	自 衛	2 台 0 隻 0 機 26 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
28 物的被害						
被災影響範囲及び拡大の状況： ノルマルヘキサン約1,500Lが排水ピットへ流出						
施設等の被害状況： なし						
物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ノルマルヘキサン 約1,500L 流出（流出したものは全量回収し、工程へ戻したため、損害はない）						
損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円						
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (99) 情報収集、現場の警戒、環境測定を実施。			自衛防災・消防組織等 番号 (99) 情報収集、現場の警戒等実施。			
31 防災活動上の問題点 本来であれば排水ピットへの流入を確認した時点で119通報すべきであったが、上司到着後、現場確認してから通報の担当部署である環境保安センターへ連絡したため通報が遅れた。従業員が事故発生後の対応で、流出したノルマルヘキサンの回収を静電気着火の危険性があるポリ容器へ行ってしまった。						
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：	
その他	年 月 日	年 月 日				
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> ・更新時に調整が必要となる液面計リストと調整法を策定、該当する液面計は確実に調整を実施できる仕組みづくりを行う。 ・通報遅延について異常現象判断基準内容について、再教育を実施する。 ・取り扱っている危険物の危険性に関する課内教育を実施する。 				
36 所 見		管理面等十分に注意し再発防止に努めるよう指導する。				

1 事故名	工場内に設置されている連続炉のレール部分の潤滑油が、誤操作により河川に流出したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 14日 17時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	12月 14日 17時 05分	
5 覚 知	12月 14日 20時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 14日 23時 00分	
7 鎮火・処理完了	12月 15日 8時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：1.8m/s 気温：2.9℃ 湿度：54%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 非鉄金属製造業 非鉄 番 号 (2423) 金属第2次製錬・精製業 (非鉄 金属合金製造業を含む) アル ミニウム第2次製錬・精製業 (アルミニウム合金製造業を 含む)				11 発 生 場 所
12 施 設 装 置					区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：
名 称： 電炉	番 号 (7102)				16 発生施設規制区分等
能 力：					施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 8,338L 8.34倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 作動油 259,472L 129.74倍 第4類第4石油類 潤滑油 202,016L 33.67倍
13 機 器 等	温度圧力：				倍数の合計： 171.75倍
名 称： 加熱炉	番 号 (401)				設置の完成： 昭和 47年 6月 19日 直近の完成： 平成 31年 1月 10日
規 模： 10m×5m					17 物 質 の 区 分
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999)				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： 潤滑油(10L)
材 質： 鋼鉄					18 取扱者の概要 経験年数5年
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)				21 危険物取扱者の の取扱・立会い ①. 有 2. 無
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 連続加熱炉の冷却水配管からの水漏れにより加熱炉の搬送用のレールに塗布されている潤滑油と水が混ざり、廃油となった物質を、本来廃油処理施設へと送られるべきところ、ルートを間違えて冷却水用水槽につながるルートにて水中ポンプを可動させたため一部が排水として流れてしまった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 誤操作	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 廃油となった物質を、本来廃油処理施設へと送られるべきところ、ルートを間違えて冷却水用水槽につながるルートにて水中ポンプを可動させたため一部が排水として流れてしまった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	人	本人の意識	思慮	思い込み						
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害			28 物的被害							
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 第4類第4石油類の潤滑油約10Lが、工場の敷地の排水口から約1km先の河川まで流出。 施設等の被害状況： 第4類第4石油類の潤滑油約10Lが、工場の敷地の排水口から約1km先の河川まで流出。			
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類潤滑油約10L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (6、4) 河川との工場からの排水の合流口の部分にオイルフェンス・オイルマットの設置					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止		年 月 日		年 月 日	定期・自主点検		年 月 日		年 月 日
	改善命令等		年 月 日		年 月 日	気密試験等		年 月 日		年 月 日
	停止解除		年 月 日		年 月 日	保安検査		年 月 日		年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>	内容：		
	その他		年 月 日		年 月 日					
1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策 工場の排水口のルートを図面化するとともに従業員の教育を徹底する。										
36 所 見 管内でも有数の危険物施設保有事業所であり、人的ミスが重大な事故につながることを再認識していただくとともに再教育の徹底をしていただきたい。										

1 事故名	一般取扱所の返油ポンプ室内の通気管から、電磁弁の誤操作により重油が敷地内に漏えいしたもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 6日 14時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	2月 6日 14時 05分	
5 覚 知	6月 11日 15時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 9日 12時 00分	
7 鎮火・処理完了	2月 24日 10時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：8.5m/s 気温：4℃ 湿度：17.6%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 医薬品製造 番 号 (1762) 業 業 医薬品製剤製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 自家発電施設 番 号 (1503) 能 力：		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 13,200L 6.6倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 発電機 番 号 (704) 規 模： 495KW		倍数の合計： 6.6倍 設置の完成： 平成 15年 5月 30日 直近の完成： 平成 19年 4月 11日		
14 発 生 箇 所	名 称： 通気管 番 号 (304) 材 質： 鋳鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： A重油(2L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 試運転中 番 号 (14) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要	経験年数30年	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 事業所内の一般取扱所の発電機のエンジンの載せ替え工事及び定期整備のため試運転中に、送油側の電磁弁が半開状態となっていたため、ポンプ圧力が上昇し、安全弁が作動。ポンプ室内の返油タンク（容量100L）に返油されたが、屋外タンク貯蔵所への返油が仕切弁閉鎖により返油されず、ポンプ室内の返油タンクが満油になり、返油タンク通気管から重油約2Lが敷地内に流出したもの。吸着マット及び重油のしみ込んだ土壌の撤去を実施する。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 事業所内の一般取扱所の発電機のエンジンの載せ替え工事及び定期整備のため試運転中に、送油側の電磁弁が半開状態となっていたため、ポンプ圧力が上昇し、安全弁が作動。ポンプ室内の返油タンク（容量100L）に返油されたが、屋外タンク貯蔵所への返油が仕切弁閉鎖により返油されず、ポンプ室内の返油タンクが満油になり、返油タンク通気管から重油約2Lが敷地内に流出したもの。吸着マット及び土壌にしみ込んだ重油の除去を実施する。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 重油が敷地内に漏えい、漏えい範囲は1㎡範囲で、敷地外への流出はなかった。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油約2L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点 漏えい発生時、消防機関への連絡がされていなかった。										
32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等				消 防 法	そ の 他
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年12月12日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無				有・無
その他	事故発生届出による報告 令和2年6月11日				1. 文書 2. 口頭				内容： 消防法第11条第1項 発電機のエンジン載せ替え工事による無許可変更	
35 今後の対策 ・点検項目に送油側の電磁弁、屋外タンク貯蔵所への返油仕切弁を追加。 ・危険物取扱者を中心とした適切な取り扱い体制の構築。 ・送油側の電磁弁、屋外タンクへの返油仕切弁の動作確認を行う。										
36 所 見 危険物取扱いについて、事業所として適切な体制の指導を行い、事故等が発生した場合の迅速な消防機関への連絡を周知徹底する必要がある。										

1 事故名	一般取扱所にて移動タンク貯蔵所へ灯油の充填作業後、給油ホースを上部に固定したまま発進し、計量機破損により危険物流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 12日 16時 00分	推定・ 確定	4 発 見	2月 12日 16時 00分	
5 覚 知	2月 12日 17時 02分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 12日 17時 27分	
7 鎮火・処理完了	2月 12日 17時 27分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南 風速：5.7m/s 気温：13.5℃ 湿度：58.4%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)				
11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10,000L 10倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,000L 5倍				
13 機 器 等	温度圧力： 名 称：充てん機 番 号 (901) 規 模：幅860mm、奥行き480mm、高さ1,440mmが1台 幅860mm、奥行き511mm、高さ1,600mmが1台				
14 発 生 箇 所	設置の完成：昭和 48年 9月 1日 直近の完成：平成 21年 10月 19日				
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(1L) 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油(1L)				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル有				
23 事故の概要	一般取扱所にて移動タンク貯蔵所へ灯油の充填作業後、給油ホースを上部に固定したまま発進したため、計量機を破損し、配管内残油(灯油・軽油)2L流出したもの				
24 緊急処置の状況	有 番号 () 無				

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()			
	関連原因							
	発生原因の状況： 充填作業において、作業手順の遵守と確認作業を怠ったため、計量機を破損し、灯油・軽油を流出した。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	人		本人の意識		思慮		不注意	
	人		本人の意識		思慮		思い込み	
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所内地面に灯油1L、軽油1Lの流出。
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 計量機の倒壊及び配管（送油管、戻り配管）の折損。
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0台 0隻 0機 0人	自 衛	0台 0隻 0機 0人	物質の被害状況： 第4類第2石油類灯油1L、軽油1L				
消 防 団	0台 0隻 0機 0人	共 同	0台 0隻 0機 0人					
海上保安部	0台 0隻 0機 0人	応 援	0台 0隻 0機 0人					
その他の機関	0台 0隻 0機 0人	その他	0台 0隻 0機 0人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (500 万円)				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (5) 幅1m、長さ4mに渡り流出した危険物（灯油・軽油）を油吸着材を使用し、除去した。				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 法令に沿った作業手順の遵守と作業手順書の見直し及び作業従事者の再教育を行う。								
36 所 見 今回の破損・流出の事故は、作業者の不注意や思い込みによって発生したものである。立入検査や各種講習会を利用して危機管理意識の向上を図っていきたい。								

1 事故名	一般取扱所における重油ポンプ室の加熱器内の蒸気配管が腐食により破孔し、重油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	4月 2日 7時 30分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	4月 2日 8時 47分
5 覚 知	4月 2日 9時 20分	6 鎮 圧 応急処置完了	4月 2日 10時 50分
7 鎮火・処理完了	4月 2日 11時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：8.8m/s 気温：18℃ 湿度：		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 業 態：	区 分： 特別防災地区名：		
①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 製造業 窯業・土石製品製造業 番号 (2211) ガラス・同製品製造業 板ガラ ス製造業	①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 京葉臨海中部		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称： 番 号 () 能 力：	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) C重油 130,000L 65倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 防錆剤 1.2L 0.01倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10L 0.01倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 2.6L 0倍 第4類第4石油類 潤滑油 72.8L 0.01倍		
13 機 器 等	温度圧力：200℃、1MPa		
名 称：熱交換器 番 号 (301) 規 模：横置円筒多管式U字型熱交換器C重油 25KL/hを スチームにて50℃から130℃に昇温	倍数の合計： 65.03倍 設置の完成：昭和 39年 6月 23日 直近の完成：令和 元年 7月 17日		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称：その他 番 号 (999) 材 質：鋼鉄	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 <input checked="" type="checkbox"/> 高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：C重油(31L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：番 号 ()	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	21 危険物取扱者 の取扱・立会い
22 設備・機器等の概要：	1. 有 ②. 無		
オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 発見者が流出場所付近を通行中にオイル臭を感じ、現場確認したところ、施設附帯の油水分離槽内に重油が流出しているのを発見した。流出したNo.1加熱器の使用を停止し、予備のNo.2加熱器への切替えを実施。重油ポンプ室油水分離槽内の重油部分をひしゃく、バケツで回収。そのほか、オイルプロッターでも回収した。油水分離槽以降の油流出はない。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 重油加熱器内の蒸気配管に穴があり、重油が蒸気配管内に浸入しドレンとして排出した。 破孔については、チューブシートの表面の浸食が激しいことからドレンが常時溜まっていた可能性があり、ドレンアタックにより腐食、浸食が起こった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		デポジット腐食（堆積物下腐食、付着物下腐食）						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油は当該施設の油水分離槽内で全量回収。施設外への流出はない。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： スチーム式横置円筒多管式U字型熱交換器1基の内部U字管を破損。			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	12 台	0 隻	0 機	38 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	25 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:2,000 第3石油類 重油31L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (100 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)					
警戒活動及び情報収集											
31 防災活動上の問題点 災害情報紙のFAX送信について、機器内で未送信となっており、送信できていなかった。											
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所 1F薬(重油加熱器(E-001))				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	令和2年 4月 2日				年 月 日		定期・自主点検		令和元年12月24日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等		年 月 日	
	停止解除	令和2年 7月 20日				年 月 日		保安検査		年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
そ の 他	年 月 日				年 月 日						
35 今後の対策 漏えいした加熱器について、配管内部についても詳細調査を実施し、再発防止につなげる。											
36 所 見 再発防止対策の早期検討が必要。											

1 事故名	一般取扱所における溶剤熱回収附帯配管の外表面腐食によるアセトニトリル流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 7日 9時 50分	推定・確定	4 発 見	6月 7日 9時 54分	
5 覚 知	6月 7日 10時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 7日 13時 50分	
7 鎮火・処理完了	6月 7日 13時 58分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：2m/s 気温：23℃ 湿度：70%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1736) 業製品製造業 合成ゴム製造業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部	
12 施 設 装 置	名 称：ブタジエン製造装置 番 号 (5301) 能 力：ブタジエン精製能力130,000t/y		16 発生施設規制区分等	施設区分：1 危険物 2 高圧ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(水溶性液体) ACNアセトニトリル(溶) 311,630L 779.08倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：100℃、0.45MPa 名 称：その他 番 号 (999) 規 模：配管3B 約100m内容量：約500L		倍数の合計： 779.08倍 設置の完成：昭和44年11月18日 直近の完成：令和元年11月18日		
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(水溶性液体) 名称：ACNアセトニトリル(溶)(5L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： プラント運転員が現場パトロール時にSRC REFLUX ACCUMULATOR付近で異臭を感じたため、ACCUMULATOR周辺を点検、ACN配管(3B保温部)から危険物(ACN：アセトニトリル)の流出を発見しホットライン通報実施。該当プラントを緊急シャットダウンし、漏れ箇所の配管についてバルブ閉止(3か所)による縁切り実施。該当配管内の液回収を行いガス検知器にて爆発下限以下を確認。アセトニトリルのプラント外への流出はなかった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1, 8) 無 装置の緊急停止、防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関連原因							
	発生原因の状況： 保温材の劣化により、隙間より雨水が浸入し、配管振れ止め部が腐食環境（多湿環境）となり外面腐食で溶剤が漏えいした。（配管（炭素鋼）・常用温度100℃）							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害				28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因		
区分						職業又は職名		
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	35 人	自 衛	1 台 0 隻 0 機 6 人		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	1 台 0 隻 0 機 6 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人		
物質の被害状況： 第4類 引火性液体 水溶性液体 指定数量:400 第1石油類 5L流出								
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (20 万円)								
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
警戒活動及び情報収集								
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所 (No.2 ACN PLANT)				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	令和 2 年 6 月 7 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	令和 2 年 9 月 8 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：	
その他	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策		同様の配管について洗出しを実施し、計画的に外面腐食調査を実施する。						
36 所 見		同施設の事故が見受けられるため更なる対策が重要である。						

1 事故名	No.2 ACNプラント抽出蒸留塔中間予熱器のボルトに伸びが発生し、ACNが流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 12日 4時 30分	推定・ 確定	4 発 見	9月 12日 4時 30分	
5 覚 知	9月 12日 5時 09分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 12日 14時 47分	
7 鎮火・処理完了	9月 12日 14時 47分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：南東 風速：2m/s 気温：24℃ 湿度：90%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1736) 業製品製造業 合成ゴム製造業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京葉臨海中部 16 発生施設規制区分等 施設区分：1 危険物 2 高压ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(水溶性液体) ACN7セトリル(溶) 311,630L 779.08倍 倍数の合計： 779.08倍 設置の完成：昭和44年 11月 18日 直近の完成：令和元年 11月 18日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：ブタジエン製造装置 番 号 (5301) 能 力：ブタジエン精製能力130,000t/y			①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：ACN7セトリル (溶) (5L)		
13 機 器 等 温度 圧 力：100℃、0.45MPa			18 取扱者の概要		
名 称：熱交換器 番 号 (301) 規 模：TUBE長さ：5,000mm、TUBE 本数：1,901本、伝熱面積：732㎡	19 危険物保安 統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無	
14 発 生 箇 所	名 称：容器本体 番 号 (108) 材 質：鋼鉄		15 発 生 時 運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： プラント運転員が現場パトロール時にNo.1 EDC INTERNAL HEAT EXCANGER-3のチャンネル部より危険物の流出を発見した。 班長は直ちに係長へ連絡すると同時に該当熱交換器の運転圧力を低下させ、危険物の流出を抑制した後、該当プラントの緊急シャットダウンを実施した。 危険物のプラント外への流出は無し(漏えい量；約5L)。					
24 緊急処置の状況 有 番号 (1, 8) 無 装置の緊急停止、防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関 連 原 因 監視不十分					
	発生原因の状況： プラント運転のストップ、スタートの繰り返しにより熱交換器のボルトの伸びが発生し、フランジ部分から危険物が流出した。フランジ、ガスケットを開放して点検したが異常なし。					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	15 台	0 隻	0 機	41 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	4 台 0 隻 0 機 13 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
						被災影響範囲及び拡大の状況： 人的被害は無し。 流出物は施設のダイク内で回収し被害の拡大無し。
						施設等の被害状況： 流出箇所調査のため、保温材の解体
						物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:200 第1石油類 (アセトニトリルとシリコンオイルの混合物)
						損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()		
31 防災活動上の問題点						
行政措置	32 施設名			33 定期点検等		消 防 法
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	そ の 他
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>
その他	年 月 日	年 月 日			内容：	
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭			
35 今後の対策						
36 所 見						
スタートアップ時の点検方法の再検討が必要。						

1 事故名	一般取扱所の電動バルブから、経年劣化により潤滑油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	11月 19日 13時 30分		
5 覚 知	11月 19日 15時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 19日 15時 30分		
7 鎮火・処理完了	11月 19日 15時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他(立入検査)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南西 風速：8.1m/s 気温：23℃ 湿度：60%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 鉱業 鉱業 金属鉱業 その他の番号 (519) 金属鉱業		11 発 生 場 所 区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
12 施 設 装 置	名 称： 熱間圧延装置 番 号 (6103) 能 力： 不明		16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 52,800L 26.4倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 常温、常圧 名 称： その他 番 号 (999) 規 模： 直径200mm程度		倍数の合計： 26.4倍 設置の完成： 昭和 52年 8月 4日 直近の完成： 平成 27年 1月 9日		
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質： 鋳鉄		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 潤滑油(20L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： ・覚知の経緯 ⇒ 立入検査時、施設関係者からの申し出により電気式流量弁から潤滑油が漏えいしていたのを確認する。 ・緊急措置 ⇒ 圧延機ラインの一時停止 ・原因究明、原因に対する対策及び処置を行うまで当該バルブを使用しない					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

1 事故名	トラックターミナルにおいてドラム缶が転倒したことによる廃エンジンオイルの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	3月 31日 8時 30分		
5 覚 知	3月 31日 9時 40分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 31日 9時 39分		
7 鎮火・処理完了	3月 31日 10時 19分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：2m/s 気温：9.4℃ 湿度：72%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：運輸業 運輸に附帯するサービ 番 号 (4853) ス業 運輸施設提供業 自動車 ターミナル業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 特殊引火物を 10,000L 50倍 除く全品名				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 50倍				
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	設置の完成： 昭和 59年 6月 19日 直近の完成： 平成 28年 2月 29日				
能 力： 荷捌場	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等 温 度 圧 力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： 廃エンジンオイル(10L)				
名 称： ドラム等容器 番 号 (201)	18 取扱者の概要				
規 模： 200L	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の の取扱・立会い				
名 称： 容器本体 番 号 (108)	①. 有 2. 無				
材 質： 鋼鉄					
15 発 生 時					
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)					
作 業 状 況： その他 番 号 (99)					
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 従業員が荷捌場を通りかかった際に、ドラム缶が倒れて内容物である廃エンジンオイルが流出しているのを発見したもの。事故現場に監視カメラ等はなく、また、事故の状況を目撃した者もないためドラム缶が転倒した経緯は不明であるが、当該ドラム缶は危険物保管場所以外の部分に存置されており、周囲にも複数のドラム缶が存置されている状況であることから、作業中に接触、転倒したものである可能性が考えられる。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原 因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 荷捌場にドラム缶が点在しており、作業の際に接触する可能性が高い。また、危険物保管場所は指定されているが、危険物が収納されているドラム缶が指定場所以外に複数存置されている状態であり、ルールが浸透していなかった。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	環境		物理的環境		作業スペース		整理・清掃されない				
	制度		規則・手順		内容・周知		周知不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 荷捌場 床面20㎡に廃エンジンオイルが流出。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 荷捌場 床面20㎡に廃エンジンオイルが流出。			
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	14 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類 廃エンジンオイル 10L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <input type="text" value="1万円以上"/> (10 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5, 99) 油の除去活動、調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 油の除去活動					
31 防災活動上の問題点 事故発見から報告及び通報の指示は行われたが、指示を受けた者も油の除去活動を実施したため通報までに時間を要した。											
政 策 措 置	32 施設名	トラックターミナル				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和元年5月27日	年 月 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無 内容： 法第13条の23 保安講習未受講				
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・危険物保管場所での保管を徹底する。 ・整理整頓を徹底する。 ・事故発生時の行動を周知させる。 										
36 所見	事前に指定された保管場所を従業員に周知させることや危険物取扱者の資格管理、保安教育の大切さを管理者に対し指導し環境を改善していく必要がある。										

1 事故名	非常用発電設備（一般取扱所）の返油管から重油の流出					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）					
3 発 生	9月 18日 20時 00分	推定・確定	4 発 見	9月 18日 21時 00分		
5 覚 知	9月 25日 11時 20分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 18日 23時 00分		
7 鎮火・処理完了	10月 22日 10時 00分					
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他（ ）					
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南東 風速：3.5m/s 気温：28℃ 湿度：73%					
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態：金融・保険業 銀行業 銀行（中 番 号（6124） 中央銀行を除く） 在日外国銀行		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：		
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 12,418L 6.21倍		
名 称： 自家発電施設 番 号（1503）			設置の完成： 平成 20年 2月 26日 直近の完成： 平成 25年 8月 5日		倍数の合計： 6.21倍	
能 力： 360kVA			17 物 質 の 区 分		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温[0-40℃]、高温） 分類： 第4類第3石油類（非水溶性液体） 名称： 重油(4L)	
13 機 器 等 温度圧力：			18 取扱者の概要		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	
名 称： 発電機 番 号（704）	20 危険物 保安監督者		21 危険物取扱者 の取扱・立会い			
規 模： 横3,050mm、奥行2,300mm、高さ2,700mm	19 危険物保安 統括管理者		1. 有 ②. 無			
14 発 生 箇 所	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要					
名 称： フレキシブル管継手（ダクトを含む） 番 号（202）	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
材 質： ステンレス	23 事 故 の 概 要： 非常用発電機の目視点検の際、発電機からサービスタンクに至る返油配管の可とう管継手から重油が流出しているのが発見されたもの。流出した重油は屋上部分約2m×2mの範囲（推定4L）に流出した。発見後、直ちに返油管のバルブを閉鎖するとともに、漏えい箇所を耐油テープで補強し、流出防止を図った。					
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号（10） 無 その他					
運 転 状 況： 停止中 番 号（5）						
作 業 状 況： 番 号（ ）						

原因	25 主 原 因 不明		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 当該継手は屈曲した状態で施工されており、内部を見分すると屈曲部に1mm×2mm程度の開孔が認められた。また、開孔部付近に腐食は認められなかった。以上のことから、事故原因は可とう管継手を屈曲した状態で施工したため負荷がかかり、7年間の使用で開孔が生じたものと考えられるが、当該開孔部の状況を仔細に見分することができなかったため、不明である。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 可とう管継手から重油が流出し、屋上約2m×2mの範囲に流出した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 可とう管継手が破損。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	1 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類（非水溶性）重油4L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (4) バルブを閉鎖するとともに、流出箇所を耐油テープで補強し流出防止を図った。						
31 防災活動上の問題点 通報までで一週間を要した。										
行政措置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	令和 2 年 8 月 21 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項	通報の遅延について指導			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：			
その他	令和 2 年 9 月 25 日	年 月 日		1. 文書 ②. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策 可とう管継手の上下のフランジ設置位置を修正し、屈曲しないよう改修した。										
36 所 見 可とう管継手は地震時の際などに正常に動作するよう、屈曲を生じさせずに施工する必要がある。本事案をもとに、今後設置させる場合について注視して指導していかなければならない。										

1 事故名	一般取扱所において、配管ダミーパイプサポート部の接続箇所が外面腐食により開口し、ペンタン流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	6月 27日 9時 35分 推定・ 確定	4 発 見	6月 27日 9時 43分
5 覚 知	6月 27日 9時 46分	6 鎮 圧 応急処置完了	6月 27日 11時 20分
7 鎮火・処理完了	6月 27日 11時 20分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東北東 風速：1.8m/s 気温：24.4℃ 湿度：88%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製)、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：1 危険物 2 高圧ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 c5留分 19,000L 380倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ナフサ 他 2,203,400L 11,017倍 第4類アルコール類 メタノール 15,000L 37.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) キシレン・灯油・軽油 108,030L 108.03倍 第4類第2石油類(水溶性液体) DMF 93,900L 46.95倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 熱媒油他 6,128L 3.06倍 第4類第4石油類 潤滑油 熱媒油 23,500L 3.92倍 倍数の合計： 11,596.46倍		
12 施 設 装 置	13 機 器 等		
名 称： 番 号 ()	温 度 圧 力：56℃、0.12MPa		
能 力：	名 称：貯槽 (タンク) 番 号 (107)		
	規 模：直径1,380mm、長さ4,880mm		
14 発 生 箇 所	15 発 生 時		
名 称：配管の架台、サポート 番 号 (217)	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)		
材 質：鋼鉄	作 業 状 況： 番 号 ()		
	17 物 質 の 区 分		
	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類特殊引火物 名称：C5軽質油 (ペンタン) (87L)		
	18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 有 2. 無
21 危険物取扱者 の取扱・立会い			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 作業員がパトロール中に、臭気を感じたため周辺を調査したところ、地上から約5mの高さにある配管近くから、C5軽質油が滴下しているのを発見した。流出箇所の上流側及び下流側のバルブを閉止し、関連する装置の緊急停止を行った。その後、ブロックした配管内の危険物を窒素により、ブローダウンドラムに圧送した。また、流出した危険物は、少量であったこともあり、すぐに気化するため、吸着マット等の回収措置は実施していない。公設消防隊により警戒筒先を1線配備した。			
24 緊急処置の状況 有 番号 (1, 9) 無 装置の緊急停止、緊急排出、緊急移送			

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()				
	関連原因								
	発生原因の状況： 配管とダミーサポートの接続箇所にて外面腐食による開口が発生し、C5軽質油がダミーサポート内に入り、ダミーサポートの知らせ穴から滴下流出したものの								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	腐食		環境		高温多湿環境（温泉の湯気の影響、周囲が高温多湿環境）				
	関連原因の詳細								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害				28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した危険物は工事用の足場パイプに滴下したが、すぐに気化して、氷の塊を形成した。	
区分									
当 事 者	0	0	0	0					
防災活動従事者	0	0	0	0					
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管開口（直径0.5mm）	
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	5 台 0 隻 0 機	19 人	自 衛	3 台 0 隻 0 機	16 人	物質の被害状況： 第4類特殊引火物C5軽質油（ペンタン）87L流出			
消 防 団	0 台 0 隻 0 機	0 人	共 同	7 台 0 隻 0 機	18 人				
海上保安部	0 台 0 隻 0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機	0 人				
その他の機関	0 台 0 隻 0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (99)					
・ガス検知活動 ・警戒筒先配備 ・情報収集				警戒筒先配備					
31 防災活動上の問題点									
32 施設名	使用停止		年 月 日	年 月 日		33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	改善命令等		年 月 日	年 月 日			定期・自主点検	令和元年6月3日	年 月 日
	停止解除		年 月 日	年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日
	関係条項						保安検査	年 月 日	年 月 日
	その他		年 月 日	年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>		
		1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭		内容：				
35 今後の対策 ・ダミーサポートを止め、当該サポートはH鋼でのサポートにする。									
36 所 見 ・ダミーパイプサポートの管理リストを作成し、検査プログラムにより管理するよう指導した。									

1 事故名	一般取扱所の遠方注入口から地下タンクへ接続されている埋設配管から灯油が流出したもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発生日	月 日 時 分 推定・確定	4 発見	7月 8日 13時 30分
5 覚知	7月 8日 17時 00分	6 鎮圧 応急処置完了	7月 8日 17時 15分
7 鎮火・処理完了	7月 8日 17時 15分		
8 覚知別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後開知 7. 一般加入 ⑧. その他 (市環境部環境保全課より連絡があったもの。)		
9 気象状況	天気：曇 風向：南 風速：6.1m/s 気温：25℃ 湿度：88%		
10 発生事業所	11 発生場所		
種別： ① 特別防災区域内 ② 特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：サービス業(他に分類されない番号(9112)のもの) 政治・経済・文化団体 経済団体 同業団体	区分：1. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外(陸上、海上、 <u>その他</u>) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 10,000L 10倍		
12 施設装置	17 物質の区分		
名称：その他【分類なし】 番号(9999) 能力：最大数量 10,000L	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油		
13 機器等 温度 圧力：	18 取扱者の概要		
名称：配管(送油、注入管等) 番号(606) 規模：直径80mm	1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要		
14 発生箇所	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
名称：給油管等 番号(907) 材質：鋼鉄	20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
15 発生時	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
運転状況：貯蔵・保管中 番号(7) 作業状況： 番号()	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
23 事故の概要： 令和2年7月8日「事業所から河川へ油が流出しているようだ」との連絡を受け、調査した結果、敷地内雨水枙及び敷地外歩道上の雨水管に油が流出しているのが確認できた。流出量は雨水に混入しているため、不明であるが、7月8日の午前中は4ミリの降雨が観測されている。7月9日、地下タンク及び配管の漏れの点検(微加圧法試験)を実施するが、異常は認められなかった。7月28日、地下タンク及び配管の漏れの点検(ガス加圧法試験)を実施したところ、試験結果は合格範囲であったが、遠方注入口から地下タンクへ接続されている埋設配管の一部から若干の漏気を認めた。遠方注入口から地下タンクへの給油は令和元年10月28日以降実施されていないため、数年前から地下タンクへの給油の際に、微量の灯油が地中に漏れていたものと推定する。			
24 緊急処置の状況 有 番号() <u>無</u>			

原因	25 主 原 因 不明		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 不明										
	発生原因の状況： 不明										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した微量の灯油が雨水管を通じて、約190m離れた河川へ流出。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 遠方注入口から地下タンクへ接続されている埋設配管の不良			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油流出（量不明）	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
32 施設名 一般取扱所											
行政措置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 元 年 11 月 18 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	令和 元 年 11 月 18 日	令和 2 年 7 月 28 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
置	警告							34 当該施設に係る法令違反の有無		<input type="checkbox"/> 有・無	
	その他	令和 2 年 8 月 13 日			年 月 日					内容： 消防法第12条第1項違反	
35 今後の対策		不良箇所と思われる埋設配管を廃止し、タンク直上式の注入口を設置する。									
36 所 見		本案件については、流出した事業所の任意のもと、一般取扱所の漏れの試験を2回実施した。1回目の微加圧法は異常なし。2回目のガス加圧法は異常なしの範囲内であったが、若干の漏気を認めた。事業所の供述から取扱上の不注意による流出は否定できたため、埋設配管の若干の漏気を認めた箇所から流出したと判定したものである。									

1 事故名	一般取扱所にて、国際輸送用積載式移動タンク貯蔵所の上部マンホール周囲枠からのメタクリル酸メチルの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 9日 9時 43分	推定・ 確定	4 発 見	7月 9日 9時 43分	
5 覚 知	7月 9日 10時 19分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 9日 11時 13分	
7 鎮火・処理完了	7月 9日 11時 13分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：3.9m/s 気温：25℃ 湿度：87%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)				
業 態：運輸業 倉庫業 倉庫業 (冷蔵 番号 (4711) 倉庫業を除く) 倉庫業 (冷蔵 倉庫業を除く)	特別防災地区名：京浜臨海地区				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他				
	貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所				
	類・品名・名称・数量・倍数：				
	第4類第1石油類(非水溶性液体) メタクリル酸メチル他 396,000L 1,980倍				
	第4類第1石油類(水溶性液体) アセトニトリル他 60,000L 150倍				
	第4類アルコール類 メタノール他 840,000L 2,100倍				
	第4類第2石油類(非水溶性液体) 酢酸ブチル他 384,000L 384倍				
	第4類第2石油類(水溶性液体) タイアセトンアルコール他 60,000L 30倍				
	第4類第3石油類(非水溶性液体) アルキルベンゼン他 150,000L 75倍				
	第4類第3石油類(水溶性液体) グイノールDPM他 144,000L 36倍				
	第4類第4石油類 ティアシン 120,000L 20倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 4,775倍				
名 称：ローリー充填施設 番号 (1402)	設置の完成：平成15年12月15日				
能 力：充填能力 2,150KL/d	直近の完成：令和元年10月16日				
13 機 器 等	温度圧力：				
名 称：貯槽 (タンク) 番号 (107)	17 物 質 の 区 分				
規 模：24,000L	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
14 発 生 箇 所	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
名 称：通気管 番号 (304)	(固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧)				
材 質：ステンレス	(低温、 常温 [0-40℃]、高温)				
15 発 生 時	分 類：第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：メタクリル酸メチル(30L)				
運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)	18 取扱者の概要				
作 業 状 況： 番号 ()	1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有				
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要				
22 設備・機器等の概要：	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有				
オンラインファイル無	2. 無				
23 事故の概要：					
運転手がローリー充填作業中、通常30分で完了する充填作業が1時間経過しても完了していないことから、計器を確認したが、予定量の半分程度しか充填されていなかったため、作業を継続した。その後、タンク上部にて監視をしていたところ通気管からメタクリル酸メチルが漏れ出し、運転手が付近緊急停止ボタンにより緊急停止をした。また、漏れたメタクリル酸メチルが、ローリー車ドレン管を伝い、ローリー充填所床面及び側溝に流入した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 (1、10) 無	装置の緊急停止、その他				

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因									
	発生原因の状況： 出荷ラインの流量計において、ローター軸内にポリマー化したメタクリル酸メチルが噛みこみ、ローターの正常な回転を阻害した。それにより適正な流量が計測できず、充填予定量を超えても充填が停止せず、流出に至った。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		周囲からの異物の作用による機器の動作不良					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した危険物はローリー上部、ローリー充填所床面及び側溝に流出した。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 流量計1機故障			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	16 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類メタクリル酸メチル30L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (3、5)				
・ガス検知活動 ・警戒筒先配備 ・情報収集										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年3月23日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策 ・ポリマー化しにくい流量計を導入する。 ・流量異常があった際に、自動停止するシステムを導入する。										
36 所 見 いつもと違ったり、不信に思うことがあれば、すぐに確認し異常を排除することを指導した。事業所内で教育を実施し、再発防止に努めるとのことであった。										

1 事故名	一般取扱所において、ポンプのドレンプラグ脱落によるモノマーエマルジョンの流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	8月 12日 22時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見
5 覚 知	8月 13日 7時 52分	6 鎮 圧 応急処置完了	8月 12日 22時 46分
7 鎮火・処理完了	8月 13日 10時 30分		8月 13日 10時 30分
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：5.3m/s 気温：29.3℃ 湿度：77.5%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 業 態：	区 分： 特別防災地区名：		
①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 製造業 化学工業 有機化学工 番号 (1736) 業製品製造業 合成ゴム製造業	①. 事業所内 (<input checked="" type="checkbox"/> 製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 京浜臨海地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称： 能 力：	施設区分： 1 危険物 2 高压ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第1類その他のもので政令で定めるもの 亜硝酸ナトリウム 50kg 1倍 第4類特殊引火物 イソブレン 11,780L 235.6倍 第4類アルコール類 メチルアルコール 604L 1.51倍 第4類アルコール類 エチルアルコール 5L 0.01倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) アクリル酸エチル他 54,010L 270.05倍 第4類第1石油類(水溶性液体) テトラヒド・ロフラン 250L 0.63倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレン他 41,170L 41.17倍 第4類第2石油類(水溶性液体) アクリル酸他 1,674L 0.84倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) アクリルアミド他 14,811L 7.41倍 第4類第3石油類(水溶性液体) メタクリル酸他 1,150L 0.29倍 第5類その他(第2種自己反応性物質) アリルグリシドエーテル他 832kg 8.32倍 倍数の合計： 566.83倍		
13 機 器 等	温度圧力： 0.3MPa		
名 称： 規 模：	番号 (501) 吐出量0.015m ³ /m 揚程40m		
14 発 生 箇 所	設置の完成： 昭和 42年 6月 26日 直近の完成： 令和 元年 7月 24日		
名 称： 材 質：	番号 (999) ステンレス		
15 発 生 時	17 物 質 の 区 分		
運 転 状 況： 作 業 状 況：	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： アクリロトリル、メタクリル酸メチル、アクリル酸エチル (153.4L) 第4類第2石油類 (非水溶性液体) スチレン (196.5L) 第4類第3石油類 (水溶性液体) メタクリル酸 (35.3L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	18 取扱者の概要
21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無	①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無		
23 事故の概要：	12日20時13分頃から混合槽にて、スチレン、メタクリル酸メチル、界面活性剤、水等からなるモノマーエマルジョンを調製し、重合を行う反応槽に送液していた。22時46分に混合槽から反応槽への送液完了を知らせるアラームが発報したが、オペレーターが通常よりも30分程度早く送液が終了したことに気がついた。併せてトレンドデータ上からも、22時00分頃から混合槽の液面レベルの低下速度が通常よりも増加している様子が見られたため現場を確認したところ、混合槽から反応槽へモノマーエマルジョンを送液するポンプ周囲に漏えいを確認した。なお、その後の調査でポンプのドレンプラグが付近に脱落しているのを発見した。		
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他		

25	主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()									
	関 連 原 因													
	発生原因の状況： ポンプケーシング側のねじ山の摩耗等により、ドレンプラグが緩みやすくなっていたものと推定される。また、整備後の取り付け確認、漏れの確認では異常がなく、ポンプの振動もなかった。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層							
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）										
原 因	関連原因の詳細													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害					28 物的被害									
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設建屋内にモノマーエマルジョンが流出した。						
区分														
当 事 者	0	0	0	0										
防災活動従事者	0	0	0	0										
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 危険物第4類第1～3石油類を含むモノマーエマルジョン532L（うち危険物は386L）が流出した。				
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人					
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 ()									
出場部隊なし														
31 防災活動上の問題点														
火災危険も少なく、異常現象であるという認識がなかったために通報を行わなかった。翌日、管轄署に加入電話にて連絡があり、事故発生が判明した。異常現象に関する認識が十分ではなかった。														
32	施 設 名				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他						
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和元年12月21日	年	月	日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る		有・ <input type="checkbox"/> 無							
措 置	そ の 他	年	月	日	年	月	日	法令違反の有無 内容：						
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> モノマーエマルジョンの添加量と混合槽の在槽量を定期的に確認することで、万が一、危険物が流出した場合に早期に発見できるようにする。 ポンプの整備仕様書にドレンプラグの点検を追記する。 												
36 所 見		<p>ポンプケーシングのねじ山の健全性を整備時に確認するようにルール化し、万が一、危険物の流出が起こった際の早期発見のための体制も整えられており、今後の対策に支障はないと考える。</p> <p>今回の事案では、定期整備を終えた直後にドレンプラグが脱落している。「整備を完了したばかりなので大丈夫である。」といった思い込みをせず、運転前後にドレンプラグ等の点検を入念に行うことが重要である。</p>												

1 事故名	一般取扱所の重油加熱器内の蒸気配管にピンホールが生じたことにより重油が流出したもの				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 28日 9時 00分	推定・確定	4 発 見	9月 28日 9時 00分	
5 覚 知	9月 28日 9時 54分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 28日 10時 40分	
7 鎮火・処理完了	9月 28日 11時 55分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：3.1m/s 気温：22℃ 湿度：64%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <u>第2種</u> 、その他) 業 態：製造業 窯業・土石製品製造業 番号 (2211) ガラス・同製品製造業 板ガラ ス製造業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 72L 0.07倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 65,000L 32.5倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称：その他【分類なし】 番号 (9999)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力：不明	5. 毒物 6. 劇物 7. その他				
13 機 器 等	(固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧)				
温度圧力：70℃、0.5MPa	(低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温)				
名 称：その他 番号 (999)	分 類：第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：重油 (50L)				
規 模：直径約390mm、高さ600mm	18 取扱者の概要				
14 発 生 箇 所	設置の完成：昭和40年 3月 30日 直近の完成：平成20年 11月 17日				
名 称：その他 番号 (999)	①. 選任有 2. 選任無				
材 質：鋼鉄	20 危険物 保安監督者				
15 発 生 時	21 危険物取扱者 の取扱・立会い				
運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)	①. 有				
作 業 状 況： 番号 ()	2. 無				
19 危険物保安 統括管理者	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	23 事 故 の 概 要： 当該事業所社員が定期パトロール中に事業所の排水溝付近の海に油膜 (10m×10m) が浮いているのを発見した。当該排水溝から海への放流を停止し、流出箇所特定のため調査したところ一般取扱所内に設置されている重油加熱器の蒸気ドレンから重油の漏れがあることを確認した。オイルフェンス設営及びオイルキャッチャーにて油膜の回収作業の実施と併せて重油漏えいを停止するため、蒸気ドレンのバルブを閉止した後、119番通報及び118番通報した。				
20 危険物 保安監督者	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他				
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					

25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因				番号 ()				
関 連 原 因										
発生原因の状況： ピンホールが発生した蒸気配管は通常の5.1mmの厚みだが、ピンホールが発生した付近の配管断面は、1.5mmまで減肉していた。配管は少なくとも平成13年から継続使用しており、20年以上にかけて腐食したものと推定する。 なお、当該設備内に敷設されている蒸気配管7本のうち、4本の減肉が確認された。ストール現象のような加速度的な腐食であれば配管下部面などドレンが溜まりやすい位置が腐食すると考えられるが、減肉の箇所は側面もあるため、長期間をかけ減肉したものと推定される。										
主原因の詳細										
第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）						
関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 重油が排水溝を通じて海へ流出し10m×10mの範囲に拡散した。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	2 隻	0 機	20 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油 50L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	1 台	0 隻	0 機	5 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査活動										
31 防災活動上の問題点 通報に時間を要した。										
32 施設名	使用停止	年 月 日		年 月 日		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	関係条項					保安検査		年 月 日	年 月 日	
	その他	年 月 日		年 月 日		34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：		
35 今後の対策		・20年を超える連続使用がないように、設備定期修理（14年）のタイミングで重油加熱器の蒸気配管を実施する。 ・今回漏えいした加熱器は早急に減肉配管を更新する。 ・現在運転中の加熱器についても、発災加熱器同様の漏えいシルクがあるため、更新を行う。								
36 所見		配管の腐食が原因であると考えられるが、加熱器内の配管ということもあり、日常での目視の点検は難しいと考えられる。本件のような設備の老朽化及び腐食等に対する安全対策、点検方法等についてソフト・ハードの両面から考える必要がある。								

1 事故名	一般取扱所の配管ドレンバルブの閉鎖未実施により、ガソリンが流出したもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	10月 2日 10時 58分 推定・ 確定	4 発 見	10月 2日 11時 10分
5 覚 知	10月 2日 11時 19分	6 鎮 圧 応急処置完了	10月 2日 11時 15分
7 鎮火・処理完了	10月 2日 14時 20分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴	風向：南南東	風速：1m/s 気温：25℃ 湿度：70%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1821) 造業 潤滑油・グリース製造業 (石油精製業によらないもの) 潤滑油製造業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 385,380L 1,926.9倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) コム揮発油 14,100L 70.5倍 第4類7アルコール類 エタノール 1,000L 2.5倍 第4類7アルコール類 メタノール 2,500L 6.25倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) ソルベント 960,000L 960倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 50,000L 50倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 10,000L 5倍 倍数の合計： 3,021.15倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称：その他【石油精製工業】 番 号 (2999)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：ガソリン(330L)		
能 力：小口燃料油調合施設80,000L	18 取扱者の概要 経験年数4年		
13 機 器 等 温度 圧力：	19 危険物保安 ①. 選任有 2. 選任無 20 危険物 統括管理者 3. 不要 保安監督者		
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)	21 危険物取扱者 ①. 有 の取扱・立会い 2. 無		
規 模：小口燃料油調合施設80,000L	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
14 発 生 箇 所	23 事 故 の 概 要： 特殊ガソリンを製造するため、調合燃料油であるガソリンを、調合設備の方へ送油したところ、危険物移送配管のドレンバルブが開放されたままの状態であったため、開放されたドレンノズルから流出したものを。 予定されていた全てのガソリンの送油が完了した後、ドレンノズル下ダイク内にガソリン330Lが漏れいしているのを発見。構内の非常用電話で事務所に通報するとともに、吸着マットにより漏れい油の吸い上げを実施した。非常電話で漏れいの通報を受けた職員が119番通報を実施した。		
名 称：ドレンノズル 番 号 (208)	24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他		
材 質：鋼鉄			
15 発 生 時			
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)			

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 監視不十分									
	発生原因の状況： 本来、移送配管のドレンバルブが閉まっていることを確認した後、危険物の移送作業を開始するところ、確認することを忘れて、ドレンバルブが開放された状態で、移送作業を開始したため、開放されたドレンノズルから漏えいに至った。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		違反（故意）		怠慢			
	関連原因の詳細									
	人		本人の知識・能力		知識		忘れる			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ドレンノズル下のダイク内において約50㎡にわたり流出。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 施設等の被害はなし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	3 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン330L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (270 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>				
その他	年 月 日	年 月 日		内容：						
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> 作業手順の見直し（手順書等の文書改善等を含む）。 ドレンバルブに開閉プレートの取付け実施。 当該バルブ箇所から配管接続をして廃油ラインに接続を検討。 事業所と業務委託先との安全管理の徹底と連携の見直し 								
36 所 見		事業所に対し流出事故原因を踏まえた再発防止対策等の報告と事業所内教育の実施を指導した。								

1 事故名	一般取扱所の燃料小出し槽へ送油するポンプが故障したことにより、軽油が流出					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	10月 12日 17時 11分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	10月 12日 17時 11分		
5 覚 知	10月 12日 17時 11分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 12日 17時 15分		
7 鎮火・処理完了	10月 12日 19時 30分					
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東北東 風速：2.8m/s 気温：21℃ 湿度：96%					
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3313) 気業 電気業 電気事業所 (本 社, 営業所等)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
			特別防災地区名：	16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,058L 1.06倍	
12 施 設 装 置			名 称： 自家発電施設 番 号 (1503)	能 力：	設置の完成： 平成 28年 7月 15日 直近の完成： 年 月 日	
13 機 器 等			温 度 圧 力：	名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)		
14 発 生 箇 所	名 称： 通気管 番 号 (304)	材 質： ステンレス	17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (50L)		
15 発 生 時	運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)	作 業 状 況： 番 号 ()	18 取 扱 者 の 概 要	1. 選任有 2. 選任無 21 危 険 物 取 扱 者 ③. 不要 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無						
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所、燃料小出し槽へ送油するポンプの自動停止及び返油ポンプの自動起動が機能せず、燃料小出し槽及び通気管フランジ部より約50Lの軽油が漏えいしたもの						
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止						

原因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関連原因		設計不良							
	発生原因の状況： 燃料小出し槽へ送油するポンプの自動停止及び返油ポンプの自動起動が機能しなかった。 返油ポンプさや管が燃料小出し槽底部まで長さがあり、ストレージタンクとの高低差により日常的に微量の返油が発生し、減量信号により想定外にポンプが起動していた。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の機能の停止					
	関連原因の詳細									
	設計不良		機能		その他					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
						被災影響範囲及び拡大の状況： 施設装置建屋内に軽油約50Lが漏えい				
						施設等の被害状況： 施設装置建屋内を汚染				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 軽油約50Lが漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) 軽油の回収及び除去				自衛防災・消防組織等 番号 (4) 油吸着材等による流出防止措置						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		内容：	
その他	指導 令和2年10月15日 ①. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 原因究明、設計の見直し、各装置部品交換										
36 所 見 施設側の応急措置行動は迅速であった。 想定外のポンプの起動について他の施設でも起こり得る事案であったため、機会を捉え同様の施設に注意喚起を実施する。										

1 事故名	一般取扱所において、水添脱硫装置の配管が腐食により現肉し、軽油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 19日 3時 10分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	12月 19日 3時 10分	
5 覚 知	12月 19日 3時 28分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 19日 5時 43分	
7 鎮火・処理完了	12月 19日 5時 43分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速：0.3m/s 気温：6.4℃ 湿度：47%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業				
11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：京浜臨海地区				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 添加剤:DMS 77,000L 385倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 添加剤(デマワナー) 1,300L 6.5倍 ナフサ 2,861,000L 14,305倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 9,699,000L 9,699倍 第4類第4石油類 残渣油 11,559,300L 1,926.55倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,134,400L 4,134.4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 添加剤:SZ54 98,000L 49倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 1,839,200L 919.6倍 第4類第4石油類 潤滑油 2,220L 0.37倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 添加剤(分散剤) 230L 0.23倍 倍数の合計： 31,425.65倍 設置の完成：昭和46年6月24日 直近の完成：令和2年6月15日				
13 機 器 等	温度圧力：194℃、0.45MPa 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：直径25.4mm				
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：ステンレス				
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()				
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(5L)				
18 取 扱 者 の 概 要	経験年数25年				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要	オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要	事業所職員が、定期巡回中にストラクチャー2階部分の床面に油が滴下しているのを発見した。また、滴下箇所上部に設置されているエアフィンクーラーのチューブ配管(直径25.4mm)から軽油が毎秒数滴程度、滴下しているのを確認したため、119番通報したものである。				
24 緊 急 処 置 の 状 況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他				

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： チューブ配管内にスラッジ等が付着したことで、堆積物下腐食が発生し、局部的な減肉の進行により開孔し流出に至ったと推定する。当該熱交換器は、SUSチューブであるため、腐食進行は極めて小さいと考え、昭和46年に設置された以降、検査を行っていなかった。令和元年に肉厚検査を行った際にA号機のみ実施して、流出のあったB号機はA号機の評価と同じと考え、実施していなかった。腐食率や傾向を把握していない機器であることから、A号機、B号機、両方の検査を行っておくべきであった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		その他					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内に軽油が流出。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： チューブ配管開孔		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	17 人	自 衛	3 台	0 隻	0 機	16 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油約5L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	7 台	0 隻	0 機	18 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
・警戒筒先配備 ・ガス検知活動 ・情報収集					ガス検知活動					
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	令和2年9月30日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策		機器保全戦略に腐食メカニズムから代表機器のみのチューブ検査とはしない旨を記載する。								
36 所 見		検討した対策について、従業員全員へ周知・教育し、再発防止の徹底を図るよう指導。								

1 事故名	一般取扱所の地下埋設タンクからサービスタンクに送る埋設配管の腐食による灯油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 10日 14時 38分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	1月 10日 15時 30分	
5 覚 知	1月 15日 11時 30分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 10日 15時 30分	
7 鎮火・処理完了	1月 10日 15時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：南 風速：3m/s 気温：7℃ 湿度：87%				
10 発 生 事 業 所			11 発 生 場 所		
種 別：	1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)		区 分：	①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
業 態：	教育・学習支援業 学校教育 高 番 号 (7631) 等学校, 中等教育学校 高等学 校		特別防災地区名：		
			16 発生施設規制区分等		
			施設区分：	① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他	
			貯蔵・取扱・運搬の別：	取扱所 施設別：一般取扱所	
			類・品名・名称・数量・倍数：	第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 15,000L 15倍	
12 施 設 装 置					
名 称：	その他【分類なし】 番 号 (9999)				
能 力：	タンク容量：15,000L				
13 機 器 等	温 度 圧 力：				
名 称：	配管(送油、注入管等) 番 号 (606)				
規 模：	送油配管(20A)				
14 発 生 箇 所			設置の完成：	昭和 56年 11月 21日	
名 称：	その他の附属配管等 番 号 (299)		直近の完成：	平成 26年 8月 19日	
材 質：	鋼鉄		17 物 質 の 区 分		
15 発 生 時			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
運 転 状 況：	定常運転中 番 号 (1)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
作 業 状 況：			(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧)		
			(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)		
			分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：灯油(60L)		
			18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要：	学校教室のストーブに灯油を供給する燃料供給施設の一般取扱所で発生した事故で、ストーブを使用しようとした際、点火しなかったため、業者に点検・調査を依頼したところ、地下タンクから送油ポンプ間の地下に埋設されている配管の腐食が進行しており、灯油約60Lが地中に流出したものであるが、敷地外への流出はなかった。				
24 緊 急 処 置 の 状 況	<input checked="" type="checkbox"/> 有	番 号 (1)	無		
	装置の緊急停止				

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 施設の長期使用により地下埋設配管が腐食して穴が開き、灯油が漏えいしたもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離（経年による剥離）					
	腐食		防食		エロージョン・コロージョン					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下埋設配管から灯油約60Lが地中に流出したが、敷地外への流出はなかった。		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 地下埋設配管（20A）が腐食し、約1cmの穴が開いたもの		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 灯油約60Lが地中に流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 送油ポンプの停止及び各バルブを閉鎖。 付近河川等の流出確認及び業者に連絡した。				
31 防災活動上の問題点 漏えい箇所及び原因の把握に時間を要し、消防機関への通報が事故発生から5日後だった。事故発生後、直ちに消防機関への通報すること。										
32 行政措置	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和 元年 9 月 1 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	令和 元年 9 月 5 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日								
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策 施設職員に、事故発生後は直ちに消防機関への通報することなど安全教育の実施。										
36 所 見 保安監督者に定期点検のみならず日常点検も十分に行うように指導。										

1 事故名	一般取扱所（共同住宅等燃料供給施設）における地下貯蔵タンクへの埋設返油管の腐食劣化により灯油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）				
3 発 生	2月 15日 17時 40分	推定・確定	4 発 見	2月 17日 9時 30分	
5 覚 知	2月 17日 10時 45分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 17日 15時 20分	
7 鎮火・処理完了	2月 17日 17時 39分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他（ ）				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：西南西 風速：7m/s 気温：5℃ 湿度：98%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 業 態：	1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 教育・学習支援業 学校教育 高 番 号（7632） 等学校, 中等教育学校 中等教育学校		区 分：①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：		
			16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 13,000L 13倍		
12 施 設 装 置	13 機 器 等 温度 圧力：				
名 称：	その他【分類なし】 番 号（9999）		設置の完成：昭和62年 3月 29日 直近の完成：平成28年 10月 12日		
能 力：	地下貯蔵タンク8,000L、地下貯蔵タンク5,000L、 中継タンク200L、戸別タンク30L		17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等	温度 圧力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温[0-40℃]、高温） 分類：第4類第2石油類（非水溶性液体） 名称：灯油(2,990L)		
名 称：	配管（送油、注入管等） 番 号（606）		18 取扱者の概要 経験年数5年		
規 模：	配管用炭素鋼鋼管 50A 厚さ 3.7mm		①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 3. 不要		
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号（299）		20 危険物保安監督者		
材 質：	鋼鉄		21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号（1）		22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
作 業 状 況：	番 号（ ）		23 事 故 の 概 要： 危険物保安監督者による日常点検において地下貯蔵タンクの液面指示計を確認したところ、警告ランプが点灯しており、灯油の残量が減少しているのを確認した。その後、校舎1号館及び2号館へ供給される地下貯蔵タンク、オイルギアポンプ、中継タンク、各階戸別タンク、地上送油管の点検を実施するも流出は確認されなかったため、返油管の異常を疑い消防機関へ通報した。消防機関現場到着後、施設平面図から地下埋設返油管の位置を確認し、周辺の土壌を調査したところ2号館付近地面から雨水に混じり油膜が確認されたものである。		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		24 緊急処置の状況 有 番号（ ） 無		

25	主 原 因	腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()						
原 因	関 連 原 因	操作確認不十分								
	発生原因の状況：	<p>校舎内2号館に埋設された返油管の溶接継手付近の防食テープが損耗し、腐食劣化で開口していたところに、事故発生時、2号館2階戸別タンクドレンバルブ（常時閉）が何らかの原因により開放状態となっていたため、送油ポンプから当該戸別タンク経由で地下貯蔵タンクへ灯油を送り続け、灯油2,990Lが校庭内に流出したもの</p>								
	主原因の詳細									
		第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層					
	腐食		環境	多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）						
因	腐食	防食	防食塗装・被覆剥離（経年による剥離）							
	腐食	防食	エロージョン・コロージョン							
	関連原因の詳細									
26	被害の状況	1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27	人的被害	28 物的被害								
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況：		
区分								埋設返油管から流出した灯油約2,990Lが中庭地中に流出したが、汚染された土砂は撤去し、敷地外への流出はなかった。		
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況：		
防災活動従事者		0	0	0	0			なし		
第 三 者		0	0	0	0					
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況：
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (24 万円)
30	実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (4, 5)					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
事故現場の状況把握並びに関係者の事情聴取を含む事故調査を実施した。										
31	防災活動上の問題点									
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和元年6月5日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	令和元年8月21日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ <u>無</u>				
その他	年 月 日	年 月 日		内容：						
35	今後の対策	地下埋設されていた返油管を撤去し、目視点検が容易に行えるように露出配管での管路に変更する。								
36	所 見	施設の点検については定期点検のみならず毎日実施されていたが、ドレンバルブの開放に気づかなかったことや、施設が設置後42年経過したことなどを考慮し、より詳細な点検を行い、計画的な改修を行うことが重大事故の防止につながっていくものである。また、異常を確認した場合は消防機関に対しても速やかな通報も行うよう指導していきたい。								

1 事故名	一般取扱所にて移動タンク貯蔵所に軽油を充填中、その場を離れている間に自動停止装置が働かず流出した事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 20日 9時 00分	推定・確定	4 発 見	3月 20日 9時 20分	
5 覚 知	3月 20日 10時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 20日 12時 30分	
7 鎮火・処理完了	3月 23日 12時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西南西 風速：8.4m/s 気温：8.2℃ 湿度：72.2%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 9,800L 9.8倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： ローリー充てん施設 番 号 (1402)	能 力： 軽油用固定注油設備 タンク容量20,000L	13 機 器 等	温度 圧力： 0.1MPa	名 称： 固定給油 (注油) 設備 番 号 (911)	規 模： 180L/m
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ノズル 番 号 (909)	材 質： その他	15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)	作 業 状 況： その他 番 号 (99)
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	18 取扱者の概要	経験年数35年	21 危険物取扱者の取扱・立会い
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事故の概要	移動タンク貯蔵所 (6,000L) の上部マンホールから軽油を注油する際、注油ノズルに注入管を取り付けずに注油したままその場を離れ、オートストップが機能しなかったため約1,400Lが敷地内に溢れ、約200Lが油分離槽から敷地外に流出したもの				
24 緊急処置の状況	有 番号 (1) 無 装置の緊急停止				

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 固定注油設備に専用の注入管が備えられていることを知らず、これまで幾度と注入管を用いずに注油作業をしていた。またオートストップ機能を過信し、その場を離れてしまったため軽油を流出させたものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足			
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		過信			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所から溢れ出た軽油は4槽式油分離槽に流入し、貯留能力を超えた200Lが敷地外へ流出した。流出油は側溝から付近の河川に流れ出た。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油約1,400Lが流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	9 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (3) 土のうにより付近側溝に流出した軽油の拡散防止をした。					自衛防災・消防組織等 番号 (5, 6) 関係者により河川にオイルフェンスを設置し、流出油を吸着マットで回収した。 油分離槽内の流出油については関係者にてドラム缶に回収した。					
31 防災活動上の問題点 エリアマネージャーに事故連絡し、その後の指示により消防機関に通報したため覚知時間が遅れてしまった。従業員への教育を徹底すること。										
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 2 年	3 月	20 日	年	月	日	年 月 日	令和 2 年 3 月 16 日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年 月 日	
	停止解除	令和 2 年	3 月	21 日	年	月	日	気密試験等	平成 28 年 7 月 19 日	
	関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無			保 安 検 査	年 月 日	
そ の 他	年	月	日	年	月	日	有・無 内容： 法第10条第3項（貯蔵及び取扱いの基準違反） 注入時に注入管を使用せず、その場を離れたため。			
35 今後の対策	危機管理意識の向上及び保安教育を徹底する。									
36 所 見	保安監督者による取扱い指示や教育が不足していたため、原因者の怠慢からの流出事故である。今後は法令を遵守し、取扱いには細心の注意をもって対応してもらいたい。									

1 事故名	一般取扱所において、ミニローリーに重油を充填中に取扱者の不注意により重油が敷地外に流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	12月 25日 12時 00分	推定・ 確定	4 発 見
5 覚 知	12月 26日 9時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了
7 鎮火・処理完了	1月 4日 13時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：雪 風向：南西 風速：1m/s 気温：2℃ 湿度：98%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 建築材料、鉱物・番号 (5231) 金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 18,000L 18倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 4,000L 4倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,000L 2.5倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 24.5倍		
名 称： ローリー充てん施設 番 号 (1402)	設置の完成： 平成 6年 9月 30日 直近の完成： 令和 2年 12月 25日		
能 力：	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等 温度 圧力：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (350L)		
名 称： ローディングアーム 番 号 (604)	18 取扱者の概要 経験年数9年		
規 模： 吐出量180L/m	19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
名 称： マンホール 番 号 (305)	23 事 故 の 概 要： 充填の一般取扱所において、ミニローリーに重油を注油中にタンク容量を超えて注油され、ミニローリーのマンホールから重油が溢れたが、取扱者が監視を怠りその場を離れたため、ポンプの停止等、対応が遅れて重油350Lが流出した。その後、ミニローリーを施設外に移動させたため、車体に付着していた重油 (推定数L) が溶けた雪とともに敷地外の側溝に流れ込み、河川に流出したものである。		
材 質： 鋼鉄	24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		
15 発 生 時			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)			

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 充填作業中、定量停止装置が無い設備にもかかわらず、注油状況の監視を怠りその場を離れたため、過剰に注油されたことに気付かず、ポンプの停止等、流出防止の対応が遅れ、重油を流出させた。更に、車体に付着した重油を完全に拭き取らずに施設外に移動させたため、溶けた雪とともに重油を側溝を通じて河川にまで流出させた。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 車体に付着していた重油（推定数リットル）が側溝に流れ込み、約800m離れた場所にまで油膜が確認された。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類重油350Lが流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <input type="text" value="1万円以上"/> (<input type="text" value="3"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
危険物の流出原因の調査										
31 防災活動上の問題点										
32 行政措置	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年6月1日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/>		
その他	年 月 日	年 月 日		内容：						
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 従業員及び取扱者に対して保安教育の徹底										
36 所 見 当該事業所に対し、従業員及び取扱者に対する教育指導の徹底を指導した。さらに、応急処置の他消防機関への通報も直ちに行うよう指導した。										

1 事故名	一般取扱所において配管の外表面腐食による重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 2日 13時 30分	推定・確定	4 発 見	5月 2日 13時 33分	
5 覚 知	5月 2日 13時 42分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 2日 18時 00分	
7 鎮火・処理完了	5月 3日 18時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他(専用回線)				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：5.8m/s 気温：27.1℃ 湿度：75.5%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所				
11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新湊				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 80,000L 80倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 2,808,000L 1,404倍 第4類第4石油類 ケービング油 80,000L 13.33倍				
13 機 器 等	温度圧力：60℃、5.5MPa 名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：口径25A 材質STPG sch40				
14 発 生 箇 所	設置の完成：昭和46年10月22日 直近の完成：平成29年4月28日				
15 発 生 時	17 物質の区分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (常圧、 <u>加圧</u>) (低温、常温 [0-40℃]、 <u>高温</u>) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(3L)				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無				
23 事故の概要：	2号タービン建屋(No.206一般取扱所)3階部分の重油リークチェック後、配管より3L程重油が流出した。応急処置は漏えい箇所下部にオイルパン設置、雨水側溝に土嚢を設置したもの。外部への流出なし。				
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他				

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()							
	関連原因											
	発生原因の状況： 保温材隙間からの雨水浸入による重油配管の外表面腐食により漏油に至った。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）							
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害						28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内での漏えい。外部に漏えいなし。				
区分												
当 事 者		0	0	0	0							
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 外面腐食により重油配管に3.4mm程のピンホールが発生。				
第 三 者		0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 第3石油類 重油3L漏えい		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円		
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 3)						
31 防災活動上の問題点												
行政措置	32 施設名	一般取扱所No.206 2号タービン				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	令和 2 年 5 月 2 日				年 月 日			定期・自主点検	令和 2 年 2 月 1 日		年 月 日
	改善命令等	年 月 日				年 月 日			気密試験等	年 月 日		年 月 日
	停止解除	令和 2 年 5 月 3 日				年 月 日			保安検査	年 月 日		年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日				年 月 日			内容：				
35 今後の対策												
計画的に保温材を取り外し、配管状況を確認する。												
36 所 見												

1 事故名		一般取扱所内の配管からの腐食による重油の流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定			4 発 見		9月 17日 11時 44分
5 覚 知		9月 17日 12時 11分			6 鎮 圧 応急処置完了		9月 17日 13時 00分
7 鎮火・処理完了		9月 17日 17時 00分					
8 覚 知 別		①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：曇		風向：西		風速：1.8m/s 気温：30℃ 湿度：71.4%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 <u>第1種</u> 、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所				区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：新湊			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 原油 5,994,000L 29,970倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 126,000L 126倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,767,000L 2,883.5倍 第4類第4石油類 ケーベン油 170,000L 28.33倍			
12 施 設 装 置							
名 称：発電装置 番 号 (4101)							
能 力：ボイラー設備 重油110.6kg/h、原油110.6kg/h ※他、附属設備多数あり							
13 機 器 等				温度圧力：40℃			
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)							
規 模：STPG370 Sch40 (外径60.5mm 肉厚3.9mm)				倍数の合計： 33,007.83倍			
14 発 生 箇 所				設置の完成：昭和48年10月8日 直近の完成：令和元年6月27日			
名 称：その他の附属配管等 番 号 (299)				17 物 質 の 区 分			
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：重油(5L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運 転 状 況：その他 番 号 (99)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 新港2号機の機械装置中間補修工事中に配管から漏えいしたもの							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他							

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()								
	関連原因												
	発生原因の状況： 配管内の滞留水により配管内面が腐食し漏えいに至った。配管継手のシール不良により、油にじみに至った。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）								
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害						28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 配管直下に約5Lの漏えい。外部に漏えいなし。					
区分													
当 事 者		0	0	0	0								
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 被害なし					
第 三 者		0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 重油約5Lの漏えい			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (3、5)							
漏えい箇所、配管仕切弁閉鎖の確認													
31 防災活動上の問題点													
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	令和 2 年 9 月 17 日				年 月 日		定期・自主点検		令和 2 年 2 月 9 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	令和 2 年 10 月 2 日				年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項	法第12条の3第1項						34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日				年 月 日				内容：				
		1. 文書 2. 口頭				1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策 漏えいした配管の部分取り換え（約45m）													
36 所 見 当該事業所に対し、今後、各点検方法の見直し等、配管管理の指導を行い、再発防止に努める必要がある。													

1 事故名	危険物一般取扱所の20号タンク劣化によるメタノールの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 20日 14時 30分	推定・確定	4 発 見	4月 20日 14時 30分	
5 覚 知	4月 30日 15時 50分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 30日 16時 30分	
7 鎮火・処理完了	4月 30日 16時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：4.9m/s 気温：25.2℃ 湿度：23.1%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化 学工業製品製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 精製装置 番 号 (2103) 能 力： 500L/d		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 メタノール 291,100L 727.75倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 20号タンク 高さ1,219mm、直径771mm、容量515L		倍数の合計： 727.75倍 設置の完成： 昭和 48年 5月 2日 直近の完成： 令和 元年 5月 27日		
14 発 生 箇 所	名 称： タンク底板 番 号 (102) 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類アルコール類 名称： メタノール(0.1L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 従業員が日常点検を実施していた際、タンクの底面からメタノールが0.1L滲み漏れ地面に染みがあるのを発見した。施設保安員が詳細に点検をしたところ、20号タンクの劣化により当該箇所へ減肉及び腐食が生じ漏れが発生していたため装置を緊急停止した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 経年劣化に伴うタンクの減肉及び腐食の有無を定期的に点検していなかったため、20号タンクの底板が劣化により腐食し孔が開いたもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： タンク底板に孔が開いた。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類引火性液体 指定数量:400 アルコール類 メタノール0.1L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (4)				
事故調査活動										
31 防災活動上の問題点 消防機関への通報が遅い。危険物漏えい事故の認識の希薄。										
32 行政措置	施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和元年11月30日	年 月 日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無		
その他	年 月 日	年 月 日		内容： ・法第14条の3の2 点検記録の作成及び保存の義務違反（定期点検資料未保管）						
35 今後の対策	タンク本体の更新又は修繕及び従業員に対する事故対応等に係る教育訓練の実施									
36 所見	本件は、タンク底板が腐食したものであり、同部分は定期点検等においても目視等での劣化の判断が困難であることから、精密に内部を検査するなどの定期的な検査等が必要である。									

1 事故名		サービスタンクからボイラーへの危険物配管の腐食による重油の流出						
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生		4月 6日 9時 00分	推定・確定	4 発 見	4月 6日 10時 00分			
5 覚 知		4月 6日 15時 41分			6 鎮 圧 応急処置完了	4月 6日 10時 11分		
7 鎮火・処理完了		4月 6日 10時 42分						
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：西南西 風速：4.9m/s 気温：15.4℃ 湿度：59.4%						
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：医療・福祉 医療業 病院 一般 番 号 (7311) 病院				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
				16 発生施設規制区分等				
				施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 15,917.9L 7.96倍				
12 施 設 装 置								
名 称：ボイラー施設 番 号 (1505)								
能 力：129.4L/h								
13 機 器 等				温度圧力：				
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606)								
規 模：直径50mm								
14 発 生 箇 所				設置の完成：昭和58年 3月 22日 直近の完成：令和2年 4月 7日				
名 称：給油管等 番 号 (907)				17 物 質 の 区 分				
材 質：鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温[0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：A重油(50L)				
15 発 生 時				18 取扱者の概要				
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)								
作 業 状 況： 番 号 ()								
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い		
						①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有								
23 事 故 の 概 要： 午前10時頃、点検作業のためボイラー室に入室したところ、臭気により配管からA重油の漏えいを発見したもの。サービスタンクからボイラーに接続する配管が、腐食したことにより穴が開き、A重油50Lが配管ピット内に流出した。流出時にはボイラーは稼働していなかった。なお、発見者はサービスタンクのバルブを閉め、油吸着マットを使用し、応急措置を実施した。								
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他								

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 経年により配管の塗装が剥離したことにより配管が腐食し、その箇所からA重油が漏えいしたものの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		防食		防食塗装・被覆剥離（経年による剥離）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検内容が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： A重油が配管から流出したが、危険物施設外部への流出なし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： サービスタンクからの配管からA重油50Lが配管ピット内に漏えいした。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0台	0隻	0機	0人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）A重油50L流出
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人	
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人	
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
31 防災活動上の問題点 事故後、通報までに時間を要した。（発見10時、通報15時41分、発見後5時間41分）。										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年	月	日	年	月	日	令和2年3月20日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無				
その他	年	月	日	年	月	日	内容： 法第12条（危政令第19条） 配管には外面の腐食を防止するための措置を講ずること。 法第16条の3第2項 危険物の流出を発見したときは、直ちにその旨を消防署に通報すること。			
35 今後の対策	機器類の点検の実施									
36 所 見	再発防止のため、管理体制を見つめなおすよう指導したところであり、今後は、点検を行う際は詳細に行う必要がある。									

1 事故名	地下タンク貯蔵所からボイラーで消費する一般取扱所への地下埋設配管の腐食によるA重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	8月 20日 17時 20分		
5 覚 知	8月 21日 11時 09分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 21日 6時 30分	
7 鎮火・処理完了	8月 21日 18時 25分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南西 風速：4.4m/s 気温：32.3℃ 湿度：94%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 建設業 総合工事業 舗装工事 番 号 (631) 業 舗装工事業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,390L 2.7倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： ボイラー施設 番 号 (1505)	能 力： 5,390L/d		設置の完成： 昭和 58年 12月 24日 直近の完成： 令和 2年 9月 28日		
13 機 器 等	温 度 圧 力：		倍数の合計： 2.7倍		
名 称： ボイラー 番 号 (404)	規 模： 5,390L/d		18 取扱者の概要		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油管等 番 号 (907)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)	作 業 状 況： 番 号 ()		(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： A重油 (2,420L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： A重油を地下タンク貯蔵所からポンプで送油しサービスタンクを経由してボイラーで消費する一般取扱所の地下埋設配管から漏えい。地下埋設配管の経年劣化と思われる腐食による穿孔箇所から漏えいし、近くの河川へ流入したものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 地下埋設配管の経年劣化による。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした重油が約100m離れた箇所から地下水とともに河川に流入し、下流へ拡散したものであるが、少量の拡散であるため拡散範囲は特定できず。下流域における被害は確認できなかった。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 第3石油類（非水溶性）A重油 2,420L漏えい（推定）
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (13 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()						
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
32 行政措置	施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	令和元年10月7日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u>		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日			内容：			
35 今後の対策		地下埋設配管をピット内、及び地上の配管へ敷設替え（変更許可）を行い、点検が容易にできるようにした。給油量、使用量の把握に努める。								
36 所 見		毎年地下配管の漏れの点検が行われていたものの、給油量、使用量の把握がしっかりなされていなかったため、漏えいに気付くのが遅れた可能性が考えられる。給油量、使用量を毎日確認することが必要。								

1 事故名	一般取扱所において、重油移送ライン中のリリース弁の故障により、サービスタンクの防油堤内に重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	4月 29日 14時 13分	推定・確定	4 発 見	4月 29日 14時 15分	
5 覚 知	4月 29日 14時 42分		6 鎮 圧 応急処置完了	4月 29日 15時 36分	
7 鎮火・処理完了	4月 29日 15時 36分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西 風速：4.5m/s 気温：22.7℃ 湿度：31.1%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1739) 業製品製造業 その他の有機化 学工業製品製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 19,100L 9.55倍	
13 機 器 等	温度圧力：	14 発 生 箇 所		設置の完成：平成 5年 7月 15日 直近の完成：平成 5年 7月 15日	
名称：その他のタンク	番 号 (1299)	15 発 生 時		17 物 質 の 区 分	
能 力：1,000L		名称：貯槽 (タンク)		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：A重油(100L)	
規 模：1,000L		名称：その他		18 取扱者の概要	
材 質：ステンレス	番 号 (999)	19 危険物保安統括管理者		20 危険物保安監督者	
15 発 生 時		1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
運 転 状 況：定常運転中	番 号 (1)	21 危険物取扱者の取扱・立会い		①. 有 2. 無	
作 業 状 況：	番 号 ()				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 従業員が事業所内を巡回中、ボイラー室付近で警報が鳴っていることに気付き確認したところ、ボイラー室内サービスタンク (容量1,000L) のオーバーフローラインから防油堤内に重油が100L程流出していた。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()	
	関連原因							
	発生原因の状況： 重油移送ライン中のリリーフ弁（移送ポンプの起動、停止と連動するもの）に異物が詰まることにより、サービスタンク内に重油が流入し続けた。							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	故障		機能		周囲からの異物の作用による機器の動作不良			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	
区分								
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 防油堤内に重油が100L程流出した。	
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 特になし	
第 三 者	0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 11 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）A重油100L程流出した。				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人					
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	2 台 0 隻 0 機 4 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (99) 状況聴取等				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 防油堤内の重油を回収。				
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年5月28日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策	重油移送ラインに電動ボール弁、リリーフ弁にストレーナーを設置する。（令和2年5月14日資料提出）							
36 所 見	リリーフ弁の異物混入については、定期的に点検を実施し、確認を行うこと。							

1 事故名	サービスタンクからボイラーへの配管腐食による重油の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	8月 28日 14時 00分
5 覚 知	8月 28日 15時 02分	6 鎮 圧 応急処置完了	8月 28日 16時 30分
7 鎮火・処理完了	9月 28日 12時 00分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南 風速：4.6m/s 気温：33℃ 湿度：63%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 繊維工業(衣服,その番号(1166) 他繊維製品を除く) 染色整理業 綿状繊維・糸染色整理業	区 分： ①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他)		
	特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 6,500L 3.25倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： ボイラー施設 番 号 (1505)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 蒸発量8,000kg/h	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
13 機 器 等 温 度 圧 力：	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)		
名 称： その他 番 号 (999)	(低温、常温[0-40℃]、高温)		
規 模： 配管40A	分 類： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称： 重油		
14 発 生 箇 所	18 取 扱 者 の 概 要		
名 称： その他の附属配管等 番 号 (299)	設置の完成： 昭和 62年 11月 27日		
材 質： その他	直近の完成： 年 月 日		
15 発 生 時	19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者		
運 転 状 況： シャットダウン中 番 号 (3)	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
作 業 状 況： 番 号 ()	20 危 険 物 保 安 監 督 者		
	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い		
	1. 有 ②. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 当日稼働させていないボイラーの配管部分から重油が流出し、敷地外の排水路に流出したことから近隣住民が通報して発覚した危険物流出事故。 事故発生当時、ボイラー施設付近には作業員がいなかったため事業者は流出には気づかず、事故発覚後にボイラー施設及び敷地外への流出防止措置を取ったもの。 配管腐食によって発生したピンホールから重油が配管ピット内に滴下し、最終的には屋外に流出していることから、短期間に発生した漏えいではない可能性があり、その流出量については不明ではあるが数リットルから多くても数十リットル程度と推定される。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他			

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 配管ピット内に隠されたサービスタンクからボイラーへの供給配管が、点検されることなく放置されたため腐食し重油が漏えいした。 事故発生時には配管ピット内には重油とともに水が溜まっており、漏えいした配管は溜まった水と接する腐食しやすい環境下であった。									
	主要原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		多湿環境（保温材に雨が浸入、水はけの悪い土壌、地下水水位の上昇）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重油が事業所排水溝から公道側溝に流出し、敷地境界から550m先の排水路へと流れ出た。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 事業所敷地内排水溝が重油にて汚染された。		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油 流出量は不明
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	6 台	0 隻	0 機	12 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4, 6) 流出先の排水路にオイルフェンスを展張し、流出元である事業所側では敷地外への吸着マット等による流出防止措置を実施した。					自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) 事業所内の排水溝に流れ出た重油を吸着マット等で除去するとともに流出防止措置を講じた。また、重油流出箇所が判明後、直ちにボイラー施設配管ピット内に溜まった重油を除去した。さらに敷地外へ流出した重油についても、側溝を洗浄することによって処理した。					
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名	一般取扱所（ボイラー）			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	令和元年12月23日		
	改善命令等	令和2年	8月	28日	年	月	日	年 月 日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	関係条項	法第11条の5第1項			34 当該施設に係る		有・無			
その他	法第13条第3項 危険物取扱者以外の危険物の取扱い（指示） 令和2年 8月 31日			法令違反の有無		内容： ・法第10条第3項違反 配管からの重油の漏えい ・法第13条第3項違反 資格者がいない時に無資格者が危険物の取扱いをする				
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・危険物を取扱う際には危険物取扱者が実施。 ・配管ピット内の月例点検を実施。 									
36 所 見	施設主要部分だけでなく、配管ピットのような隠蔽箇所についても定期的な点検を実施するよう指導。									

1 事故名	一般取扱所における移動タンク貯蔵所へ積込み中に、ローディングアームの一部操作を怠り、重油が流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	8月 26日 7時 35分 推定・ 確定	4 発 見	8月 26日 7時 35分
5 覚 知	8月 26日 8時 35分	6 鎮 圧 応急処置完了	8月 26日 7時 35分
7 鎮火・処理完了	8月 26日 12時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：1.7m/s 気温：27.8℃ 湿度：75%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6099) 他に分類されない小売業 他に 分類されないその他の小売業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 2,200,000L 11,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,100,000L 1,100倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,200,000L 1,200倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 2,000,000L 1,000倍 倍数の合計： 14,300倍 設置の完成：平成 5年 8月 27日 直近の完成：平成 23年 12月 6日		
12 施 設 装 置	13 機 器 等 温度 圧力：		
名 称： ローリー充てん施設 番 号 (1402) 能 力： 6,500KL/d	名 称： ローディングアーム 番 号 (604) 規 模： 全長3.6m		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他 番 号 (999) 材 質： 鋼鉄	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (25L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要 経験年数2年		
運 転 状 況： 荷積中 番 号 (12) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 作業者が一般取扱所において、移動タンク貯蔵所に重油を積込み中に供給ポンプの回転数上昇により、ローディングアームが同貯蔵所積載槽のマンホールから跳ね上がり、ローリーハッチに約20L及び一般取扱所床面に5L漏えいさせたもの。なお、施設外への流出はなく、施設及び人的被害はなし。			
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無			

25	主 原 因 操作未実施	着火原因	番号 ()							
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 一般取扱所において、作業員が移動タンク貯蔵所に重油を積込み中にローディングアームの跳ね上がり防止装置(跳ね上がり防止レバー及び防止チェーン)を怠ったため、同貯蔵所積載槽のマンホールからローディングアームが跳ね上がり漏えいさせたものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層						
	人	本人の意識	思慮	不注意						
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害										
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	28 物的被害			
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所のローリーハッチに20L及び一般取扱所床面に5Lの漏えい			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 漏えい			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 危険物第4類第3石油類(非水溶性)C重油 25L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止		年 月 日		年 月 日	定期・自主点検	令和 元 年 11 月 19 日		年 月 日	
	改善命令等		年 月 日		年 月 日	気密試験等		年 月 日		年 月 日
	停止解除		年 月 日		年 月 日	保安検査		年 月 日		年 月 日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無			
その他		年 月 日		年 月 日	内容：					
35 今後の対策 積込みマニュアルを再教育し、マニュアル作業実施を徹底させる。										
所 見	36 本件事故は通常行う手順を守らなかったことにより起きた事故である。「教育の徹底」はソフト面ゆえ、消防指導が行き届きにくい部分であるが、本件事故を参考事例として管内事業に対し、継続的に指導を行い、再発防止に努める必要がある。									

1 事故名	一般取扱所内の配管において、連結部に取り付けられているパッキンが破損し、第4類第4石油類が約200L流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 13日 10時 10分	推定・確定	4 発 見	5月 13日 10時 10分	
5 覚 知	5月 13日 10時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 13日 11時 40分	
7 鎮火・処理完了	5月 13日 13時 58分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：8.8m/s 気温：23℃ 湿度：27%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 ゴム製品製造業 タイ 番 号 (2011) ヤ・チューブ製造業 自動車タ イヤ・チューブ製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： 固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201) 能 力： 2,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 不明 50L 0.25倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 不明 250L 0.25倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) イソシアネート(4石以外) 5,600L 2.8倍 第4類第4石油類 イソシアネート(3石以外) 15,520L 2.59倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 39℃、0.19MPa 名 称： その他 番 号 (999) 規 模： 65A配管		倍数の合計： 5.89倍 設置の完成： 昭和 55年 9月 27日 直近の完成： 令和 元年 5月 30日		
14 発 生 箇 所	名 称： パッキン 番 号 (213) 材 質： 合成樹脂		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： イソシアネート(234L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 屋内タンク貯蔵所から一般取扱所内へ危険物(イソシアネート)を液送中に配管の連結部から危険物が流出していることを従業員が発見したもの。液送ポンプを停止させた後、流出した危険物をおがくずにより回収するとともに連結部を取り外し確認したところ、連結部のパッキンが破損していることを確認し、その後消防機関へ通報した。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()					
	関 連 原 因											
	発生原因の状況： 事故発生した配管が両端バルブ締め切り（誤操作、操作未実施ということではない。）によるものであったため、配管内にウォーターハンマー現象のような事態が発生し、配管内に過剰の負荷がかかったことから連結部に備え付けてあるパッキンが破損したものである。											
	主原因の詳細											
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層					
	破損		定常運転時		異常圧力上昇等							
	関連原因の詳細											
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から												
27 人的被害						28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名					
区分												
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所内の配管及び流出配管下部に設けられていた屋外タンク貯蔵所防油堤内に流出した。					
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 連結部パッキン及び配管に巻かれていた保温材約10mの範囲に被害					
第 三 者	0	0	0	0								
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況												
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類イソシアネート234L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人			
								損害額	1万円未満、	1万円以上	()	5万円
30 実施した防災活動の状況												
公設消防機関：番号 (99) 二次的災害発生の状況確認						自衛防災・消防組織等 番号 (3、5) おがくずを使用した二次的災害防止及びその回収措置						
31 防災活動上の問題点 事故発生から消防機関への通報まで約3時間を要したことから、早期通報が必要であった。二次的災害防止対策を全て事業所で完結させようとしていたことから、消防機関による確実な対応が必要であった。現場には大勢の従業員がいたにも関わらず、誰一人消防機関への通報という選択をしなかったことから、従業員に対しての日ごろの教育、訓練が欠けていたことが考えられる。												
行政措置	32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他			
	使用停止	令和 2 年	5 月	13 日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	
	停止解除	令和 2 年	5 月	25 日	年	月	日	保安検査	年	月	日	
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る		有・無				
その他	年 月 日		年 月 日		法令違反の有無		内容：					
35 今後の対策 両端バルブ締め切りによる配管を片側締め切り型に変更し、配管内にかかる圧力を軽減させ、損失を防ぐ措置を講じることとした。事業所内で事故検討を行い、再発防止に努める。												
36 所 見 消防機関への通報に時間を要したことが問題である。事故施設付近には多くの危険物施設が設置されており、今回は流出が防油堤内に収まったため被害が最小限に抑えられたが、防油堤から流出していた場合、大災害に移行した可能性も考えられる。そのため今後は早期通報を行うことと、その旨を従業員全員が把握できるよう教育訓練を定期的に行うよう指導した。												

1 事故名	一般取扱所において、ドラム缶から移動タンク貯蔵所に危険物を充填中、ホースのカムロックが外れ軽油流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	10月 26日 14時 40分 推定・ 確定	4 発 見	10月 26日 14時 40分
5 覚 知	10月 26日 15時 00分	6 鎮 圧 応急処置完了	10月 26日 15時 15分
7 鎮火・処理完了	10月 26日 15時 15分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：無風状態 風速：0m/s 気温：20℃ 湿度：		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、 第1種 、第2種、その他) 業 態：鉱業 鉱業 原油・天然ガス鉱業 番 号 (531) 原油鉱業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：名古屋臨港地区特別防災地域		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称：ドラム充てん施設 番 号 (1403) 能 力：充填能力48KL/d	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 ブロビレンオキソイド 50,000L 1,000倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 20,000L 100倍 第4類アルコール類 イソプロピルアルコール 50,000L 125倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) パラジエチルベンゼン 50,000L 50倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) メジクロロベンゼン 50,000L 50倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 200,000L 200倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 水酢酸 20,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 潤滑油 20,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 絶縁油 20,000L 10倍 第4類第4石油類 潤滑油 60,000L 10倍 第4類第4石油類 フリオリブプロピレン 60,000L 10倍 第4類第4石油類 クワリセルエーテル DOP 60,000L 10倍 倍数の合計： 1,585倍		
13 機 器 等	温度圧力：常温、常圧		
名 称：充てん機 番 号 (901) 規 模：ウエルデンポンプ (16L/m) 接続ホース	設置の完成：昭和30年11月18日 直近の完成：令和2年2月3日		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称：給油 (注油) ホース 番 号 (908) 材 質：鋼鉄	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称：軽油(100L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要 経験年数11年		
運 転 状 況：荷積中 番 号 (12) 作 業 状 況： 番 号 ()	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： ドラム缶から移動タンク貯蔵所に軽油を充填中、ホースを固定するカムロックが外れ、危険物 (100L) が流出したもの			
24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

25	主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()									
	関 連 原 因 維持管理不十分													
	発生原因の状況： ドラム缶から移動タンク貯蔵所に軽油を充填中、ホースを固定するカムロックの爪部分が経年劣化により摩耗しておりポンプの振動により外れた。													
	主原因の詳細													
第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層								
疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）										
関連原因の詳細														
設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足								
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害						28 物的被害								
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名							
区分														
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所内周囲2mの範囲に軽油が漏えいした。							
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし							
第 三 者	0	0	0	0										
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類軽油約100L流出				
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (10 万円)				
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 漏えいした危険物を吸着マット及び乾燥砂により回収。								
31 防災活動上の問題点 なし														
32	施 設 名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他					
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年6月2日	年	月	日		
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日	年	月	日
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：				
そ の 他	年	月	日	年	月	日								
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> ・接続する全てのカムロック部分を結束バンドで固定し、振動でカムロック爪が外れないように対策する。 ・ホース接続前にカムロック爪の摩耗状態を確認し不具合があった場合は運転手に交換を指示する。 ・ホース接続バルブ付近にカムロックの監視及びバルブ操作がすぐに行えるよう人員を配置する。 												
36 所 見		同様の操作を行う施設への水平展開を行い事故防止につなげる必要がある。												

1 事故名	屋外タンク貯蔵所への荷卸し作業時、一般取扱所の配管に通じるバルブの閉め忘れによる、配管からの流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	3月 18日 12時 55分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	3月 18日 12時 55分
5 覚 知	3月 18日 13時 09分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 18日 14時 18分
7 鎮火・処理完了	3月 18日 14時 18分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南西 風速：3.1m/s 気温：15℃ 湿度：45%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：卸売・小売業 その他の小売業 番号 (6032) 燃料小売業 燃料小売業 (ガソリンスタンドを除く)	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<input checked="" type="checkbox"/> 陸上、海上、その他)		
	特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 56,000L 56倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 110,000L 55倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 111倍		
名 称：固定屋根式(地上)タンク 番号 (1201)	設置の完成：昭和 38年 12月 20日		
能 力：タンク容量：323KL	直近の完成：平成 28年 1月 18日		
13 機 器 等 温度 圧力：	17 物 質 の 区 分		
名 称：配管(送油、注入管等) 番号 (606)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
規 模：直径130mm	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)		
名 称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201)	(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)		
材 質：ステンレス	分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：重油(200L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要 経験年数20年		
運 転 状 況：受入中 番号 (9)	①. 選任有 2. 選任無		
作 業 状 況：運転操作中 番号 (1)	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事故の概要： 屋外タンク貯蔵所へローリーより荷卸し作業をした際、一般取扱所のフランジから重油が流出した。事故当日は当該屋外タンク貯蔵所と接続される一般取扱所の配管撤去作業が行われており、作業員が一般取扱所側のバルブが閉止されているものと思い込んで荷卸しを実施したが、バルブは開放されており、さらに直近のフランジから先が撤去されていたため、そこから重油が公道へ流出したものである。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 従業員が、本来閉止されるべきバルブの開閉確認作業を怠り、閉まっているものと思い込んで荷卸し作業を実施し、重油が公道へ流出したものの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		思い込み				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 事業所外の公道へ重油が流出したため、一部公道の通行規制。 なお、下水への流れ込みはなく、流出範囲も100m以内に収まっている。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性） 重油 約200L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 情報収集及び流出した危険物の吸着作業実施						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年	月	日	年	月	日					
35 今後の対策	保安教育の実施を徹底し、事業所内の設備状況（配管、バルブ等）を把握、取扱時に徹底した安全確認を実施し、再発防止を図る。										
36 所見	人的要因により事故が発生したため、ソフト面の強化が必要であり、今後の再発防止に向けて事業所のみ動きとならないよう、消防と協議して進めていくことが重要である。										

1 事故名	一般取扱所において、塔本体の内面腐食によるヘキサン流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 26日 10時 20分	推定・確定	4 発 見	3月 26日 10時 20分	
5 覚 知	3月 26日 10時 27分		6 鎮 圧 応急処置完了	3月 26日 12時 50分	
7 鎮火・処理完了	3月 26日 13時 10分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：4m/s 気温：11.5℃ 湿度：46.7%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業 (一貫して生産さ れる誘導品を含む)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：堺・泉北臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第3類7ℓカリ金属(カリウム及びトリウムを除く。) エチルアルミニウムセスキ 2,180kg 218倍 及び7ℓリチウム金属(第1種自然発火性物質及び燃水性物質) クロライド* 第4類第1石油類(非水溶性液体) ヘキサン 167,604L 838.02倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ノボールン混合物 411L 2.06倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) テトラシクロデセン 52L 0.03倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) シェルオイル 1,902L 0.95倍 第4類第4石油類 潤滑油 622L 0.1倍 第4類第4石油類 熱媒体油 3,200L 0.53倍 第4類7ℓアルコール類 メタノール 3,200L 8倍 第4類7ℓアルコール類 エタノール 800L 2倍 倍数の合計： 1,069.69倍 設置の完成：平成 20年 1月 25日 直近の完成：平成 20年 1月 25日				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称：その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：ヘキサン(20L)				
能 力：約12t/d	18 取扱者の概要				
13 機 器 等	温度圧力：80℃、0.18MPa				
名 称：その他の塔槽類 番 号 (199)	19 危険物保安 統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
規 模：容量 10.88m ³	20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者 の取扱・立会い 1. 有 ②. 無				
名 称：塔槽類本体 番 号 (105)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
材 質：鋼鉄	23 事 故 の 概 要： 運転員が当該設備付近を移動中、異臭を感じたため、付近を点検した結果、塔の下部からヘキサンが流出しているのを発見したものの。プラント停止により流出は停止した。				
15 発 生 時	24 緊急処置の状況 [有] 番号 (1) 無 装置の緊急停止				
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況： 番 号 ()					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 維持管理不十分		発生原因の状況： 点検を実施した結果、顕著な内面腐食が確認されたことから、当該設備の前工程（水添工程）で生成される強酸の凝縮液により、徐々に減肉したと推定する。								
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	腐食		環境		工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）						
	関連原因の詳細										
	制度		規則・手順		実用性		実施困難/不可能				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該施設下部のみ			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 特になし			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	12 台	0 隻	0 機	38 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	18 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ヘキサン約20L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) ガス検知器による警戒活動 情報収集活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 装置の緊急停止 静電気着火防止のための散水作業					
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検		令和 2 年 3 月 6 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				保安検査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	事故発生に基づく指導書 令和 2 年 3 月 27 日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭						内容：				
35 今後の対策 強酸凝縮液の中和処理。 水添工程を使用する場合は、凝縮液を定期的にサンプリングを実施し、pH濃度を測定する。											
36 所 見 当該事案は、設置から10数年で塔本体が内面腐食により開孔、流出に至っていることから、内面腐食のメカニズムを把握するとともに、適正な維持管理をする必要がある。											

1 事故名	一般取扱所において、ドラム缶を運搬車両に積載中にフォークリフトで容器を破損したことによる流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 19日 17時 45分	推定・確定	4 発 見	6月 19日 17時 52分	
5 覚 知	6月 19日 18時 02分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 19日 20時 15分	
7 鎮火・処理完了	6月 19日 20時 15分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北西 風速：2m/s 気温：23℃ 湿度：72%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 業 態：	1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他)		区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
	運輸業 道路貨物運送業 一般 番号 (4412) 貨物自動車運送業 特別積合せ 貨物運送業		特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等		
12 施 設 装 置	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 5,650L 28.25倍 第4類第1石油類(水溶性液体) 3,000L 7.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 7200L 7.2倍 第4類第2石油類(水溶性液体) 600L 0.3倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 1,000L 0.5倍 第4類第3石油類(水溶性液体) 5,000L 1.25倍 第4類第4石油類 18,000L 3倍 第4類7アルコール類 800L 2倍				
名 称：	番 号 ()				
能 力：					
13 機 器 等	温度圧力：				
名 称：	ドラム等容器 番 号 (201)				
規 模：	300Lドラム缶3本 倍数の合計： 50倍				
14 発 生 箇 所	設置の完成：平成25年 1月 24日 直近の完成：平成25年 1月 24日				
名 称：	容器本体 番 号 (108)				
材 質：	ステンレス				
15 発 生 時	17 物 質 の 区 分				
運 転 状 況：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：テトラヒド ^o ロフタルン(600L)				
作 業 状 況：	荷積中 番 号 (12) 作業状況：その他 番 号 (99)				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル有				
23 事 故 の 概 要：	令和2年6月19日午後5時50分頃、倉庫内プラットホームから運搬車両荷台にフォークリフトで荷積みしていたところ、プラットホームと荷台の間にある隙間を埋めるために設置していた鉄板による段差でフォークリフトが後退できなくなり、荷台上で何度かきり返していた際に荷台に積載済みのドラム缶容器 (200L) 3本にフォークリフトのフォーク部分が突き刺さり全量漏えいしたものである。				
24 緊急処置の状況	有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他				

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： フォークリフトで後退できず、焦りから操作を誤ったものと思慮する。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の体調		精神的		冷静でなかった			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： プラットホーム及び構内道路、敷地内側溝内までの流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 商品であるドラム缶3本破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）テトラヒドロナフタリン 600L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (80 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (4、5) 液体用吸着剤にて漏えい危険物を吸着。						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			保安検査	年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る 法令違反の有無		
その他	年 月 日			年 月 日			有・無 内容： 法第14条の3の2 点検記録の作成及び保存の義務違反			
35 今後の対策	従業員の安全教育の実施									
36 所 見	従業員教育の重要性について、管内各事業所にも指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。									

1 事故名	ローリー充填場におけるローリー充填中に、誤操作によりガソリン流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 17日 5時 45分	推定・ 確定	4 発 見	7月 17日 5時 45分	
5 覚 知	7月 17日 7時 40分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 17日 7時 48分	
7 鎮火・処理完了	7月 17日 8時 33分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：東北東 風速：5.3m/s 気温：23.3℃ 湿度：82%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、 荷 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：堺泉北臨海地区	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 85,000L 425倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 6,100,000L 30,500倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,800,000L 2,800倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 2,900,000L 2,900倍 倍数の合計： 36,625倍	
13 機 器 等	温度 圧力：0.75MPa	設置の完成：昭和 57年 12月 20日 直近の完成：令和 2年 2月 14日			
14 発 生 箇 所	名称：ローリー充てん施設 番 号 (1402) 能力：11,885KL/d	17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：ガソリン(30L)			
15 発 生 時	名称：給油 (注油) ノズル 番 号 (909) 材質：鋼鉄	18 取扱者の概要 経験年数20年			
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： ローリー充填場 (一般取扱所) において、ローリーにガソリンを荷積み中にハッチよりオーバーフローしたもの					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因 操作確認不十分										
	発生原因の状況： 荷積前にローリーとローディングアームを接続する際、誤認識が発生したため、容量2KLのハッチに4KL充填する信号が送られた。その後の充填中に、オーバーフローセンサーが作動し、ローディングアームの先端バルブが自動閉止したが、運転手が充填を再開したため、オーバーフローしたもの。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		違反（故意）		怠慢				
	関連原因の詳細										
	人		本人の意識		思慮		思い込み				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ローリーの防護枠内及びローリー下部の地上面に流出			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン 30L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名 一般取扱所											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 2 年 6 月 10 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
34	その他	事故発生に基づく指導書			令和 2 年 7 月 21 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>	
		①. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭					内容：	
35 今後の対策											
<ul style="list-style-type: none"> ・当該施設のセンサーなどの点検 ・当該事例及び作業手順について各社に周知 ・オーバーフローセンサー作動後の上流バルブ閉止までのタイムラグを短縮する 											
36 所 見											
当該事業所に対し、ローリー運転手への教育及び管理を徹底するよう指導したところであるが、事業所としてハード面及びソフト面での対策を検討し続ける必要がある。											

1 事故名	ローリー充填場におけるローリー充填中に、流量調整弁等の故障により灯油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 16日 19時 39分	推定・ 確定	4 発 見	8月 16日 19時 39分	
5 覚 知	8月 16日 20時 08分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 16日 20時 50分	
7 鎮火・処理完了	8月 16日 22時 20分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南西 風速：1.6m/s 気温：31℃ 湿度：70%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、 荷 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 堺泉北臨海地区				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 5,800,000L 29,000倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 3,450,000L 3,450倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 2,650,000L 2,650倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 2,800,000L 1,400倍 倍数の合計： 36,500倍				
12 施 設 装 置	設置の完成： 昭和 57年 12月 20日 直近の完成： 平成 28年 9月 8日				
名 称：ローリー充てん施設 番 号 (1402)	17 物 質 の 区 分				
能 力：14,700KL/d	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：灯油(170L)				
13 機 器 等 温度 圧力： 0.8MPa	18 取扱者の概要				
名 称：ローディングアーム 番 号 (604)	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者 ①. 有 3. 不要 3. 不要 の取扱・立会い 2. 無				
規 模：アーム長さ4,500mm、口径4インチ	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
14 発 生 箇 所	23 事 故 の 概 要： ローリー充填場 (一般取扱所) において、ローリーに灯油を荷積中にハッチよりオーバーフローしたもの				
名 称：給油 (注油) ノズル 番 号 (909)	24 緊急処置の状況 有 番号 () 無				
材 質：鋼鉄					
15 発 生 時					
運 転 状 況：荷積中 番 号 (12)					
作 業 状 況： 番 号 ()					

原因	25 主 原 因 故障		着火原因		番号 ()								
	関連原因												
	発生原因の状況： 当該充填場では、ローリーに荷積する際、ローディングアームとハッチキーを接続するとハッチ容量を自動認識し、適正な量を荷積すれば自動で流量を調整して停止する仕組みになっている。 しかし、空気起動式の流量調整弁の空気排出口に蜂が営巣して空気穴を塞いだため、流量調整弁が作動せずオーバーフローに至ったものと推定される。 また、ローディングアーム先端にオーバーフロー防止センサーが備え付けられているが、経年劣化により作動しなかった。												
	主原因の詳細												
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層						
	故障		機能		周囲からの異物の作用による機器の動作不良								
	関連原因の詳細												
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から													
27 人的被害				28 物的被害									
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ローリーの防護枠内及びローリー下部の地上面に流出					
区分													
当 事 者	0	0	0	0									
防災活動従事者	0	0	0	0									
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況													
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	10 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油 170L流出			
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人				
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人				
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)			
30 実施した防災活動の状況													
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)							
調査活動													
31 防災活動上の問題点													
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等		消 防 法		そ の 他			
	使用停止	年 月 日				年 月 日		定期・自主点検		令和 2 年 7 月 20 日		年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				年 月 日		気密試験等		年 月 日		年 月 日	
	停止解除	年 月 日				年 月 日		保 安 検 査		年 月 日		年 月 日	
	関係条項							34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	事故発生に基づく警告書 令和 2 年 8 月 20 日				年 月 日		内容：						
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・弁の空気排出口に網などの進入防止策を講じる ・オーバーフロー防止センサー不動作の原因が判明するまで、監視体制を強化する 												
36 所 見	当該事業所においては、以前に同様の事案が発生しており（2020年事案No.26）、その際はオーバーフロー防止センサーが作動したが、今回は作動しなかった。ハード面での不具合を徹底的に調査し、運用面でも適切に管理することで、再発を防止するよう指導する必要がある。												

1 事故名	一般取扱所において、移動タンク貯蔵所へ荷積み中にタンク積載数量以上に充填し、トリデカノールが流出					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	8月 19日 14時 10分	推定・確定	4 発 見	8月 19日 14時 10分		
5 覚 知	8月 19日 14時 51分			6 鎮 圧	8月 19日 15時 21分	
7 鎮火・処理完了	8月 19日 15時 21分			6 応急処置完了		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：西南西		風速：2.9m/s 気温：34℃ 湿度：85%	
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <u>第2種</u> 、その他) 業 態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵 番号(4711) 倉庫業を除く) 倉庫業(冷蔵 倉庫業を除く)			11 発 生 場 所		
12 施 設 装 置				区 分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名：堺・泉北臨海地区		
13 機 器 等	温度 圧力：0.3MPa			16 発生施設規制区分等		
14 発 生 箇 所	名称：ローリー充てん施設 番号(1402) 能力：121KL/d			施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) メルイブチルケン 15,000L 75倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 酢酸ブチル 18,000L 18倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) ノルマルブチノール 18,000L 18倍 第4類第2石油類(水溶性液体) その他第2石油類 20,000L 10倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) その他第3石油類 30,000L 15倍 第4類第3石油類(水溶性液体) その他第3石油類 10,000L 2.5倍 第4類第4石油類 その他第4石油類 10,000L 1.67倍		
15 発 生 時	名称：配管(送油、注入管等) 番号(606) 規模：口径 75mm、長さ 3,000mm			設置の完成：昭和 45年 1月 21日 直近の完成：平成 9年 8月 18日 倍数の合計：140.17倍		
17 物 質 の 区 分	名称：通気管 番号(304) 材質：ステンレス			①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(非水溶性液体) 名称：トリデカノール(30L)		
18 取 扱 者 の 概 要	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者			21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要	オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要	一般取扱所においてトリデカノールを国際輸送用積載式移動タンク貯蔵所に荷積み、積載可能容量以上にトリデカノールを充填し、通気管から約30L流出したもの					
24 緊 急 処 置 の 状 況	有 番号() <u>無</u>					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 配車担当者、乗務員及び立会者それぞれが国際輸送コンテナの積載可能容量に対しての知識が不足していたため、国際輸送コンテナ後方に記載されたタンク最大容積を積載可能数量と誤認識して充填を行い、また、車両が後方に傾斜していたことで通気口からオーバーフローしたものである。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足				
	制度		規則・手順		内容・周知		規則・手順の内容が不適切				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内にトリデカノール約30L流出			
区分											
当事者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 特になし			
第三者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消防機関	4台	0隻	0機	15人	自衛	0台	0隻	0機	7人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶）トリデカノール 約30L流出	
消防団	0台	0隻	0機	0人	共同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 情報収集活動				自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 流出した危険物の回収 警戒筒先の配備							
31 防災活動上の問題点 事故発見から通報まで時間を要した。											
行政措置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等		消 防 法		そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	令和2年7月31日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		内容：		
その他	事故発生に基づく指導書 令和2年8月25日			1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> ・ISOタンクコンテナ容量と積載可能容量について、全所に周知 ・ISOタンクコンテナ専用チェック表の作成 ・水平器を用いて、ISOタンクコンテナの水平確認 ・立会者及び乗務員の監視体制の強化 									
36 所見		当該事故は、移動タンク貯蔵所の乗務員がタンクの最大積載容量を把握せず充填量を決定したこと、及び立会者も確認を怠ったことが原因であることから、充填作業手順の見直し等により事前に気付ける対策が必要である。									

1 事故名	ローリー充填場におけるローリー充填中に、ハッチキーの誤認識によりオーバーフローシガソリンが流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	11月 29日 13時 48分 推定・ 確定	4 発 見	11月 29日 13時 48分
5 覚 知	11月 29日 14時 19分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 29日 14時 50分
7 鎮火・処理完了	11月 29日 16時 30分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：2.3m/s 気温：12.6℃ 湿度：57%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、 荷 、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 堺泉北臨海地区		
	16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 85,000L 425倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) ガソリン 6,100,000L 30,500倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 2,800,000L 2,800倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 2,900,000L 2,900倍 倍数の合計： 36,625倍		
12 施 設 装 置	名 称：ローリー充てん施設 番 号 (1402) 能 力：11,885KL/d		
13 機 器 等	温 度 圧 力：0.75MPa 名 称：ローディングアーム 番 号 (604) 規 模：アーム長さ4,500mm、口径4インチ		
14 発 生 箇 所	名 称：給油(注油)ノズル 番 号 (909) 材 質：鋼鉄		
15 発 生 時	運 転 状 況：荷積中 番 号 (12) 作 業 状 況：充填中 番 号 (12)		
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：ガソリン(20L)		
18 取 扱 者 の 概 要	経験年数9年		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 有 2. 無
21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無		
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要：	ローリー充填場(一般取扱所)において、ローリーにガソリンを荷積中にハッチよりオーバーフローしたもの		
24 緊 急 処 置 の 状 況	有 番 号 () 無		

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 荷積前にローリーとローディングアームを接続する際、ハッチキーの誤認識が発生したため、容量2KLのハッチに4KLを充填する信号が送られた。その後の充填中に、誤った送油情報によりタンク容量以上の送油が行われたことでオーバーフローセンサーが作動し、ローディングアームの先端バルブが自動閉止したが、運転手が充填を再開したため、オーバーフローしたものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		違反（故意）		怠慢			
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ローリーの防護枠内に流出。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	10 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（非水溶性）ガソリン 20L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)					自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	ローリー充填場（一般取扱所）			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和2年11月19日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	事故発生に基づく警告書 令和2年12月1日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭			内容：						
35 今後の対策		・当該事案の周知（運送会社へのメール、ビラ配布及び現地でのボイスナビ設置による） ・ハード面での対策を検討する。								
36 所 見		当該事業所においては、同様の事案が頻発しており、その都度事案の周知などによる対策を講じてはいるものの、事業所としてハード面での対策を検討していく必要がある。								

1 事故名	一般取扱所（ローリー充填場）の荷積み中に、放置された不使用ハンドルが半開となりアルコール流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）		
3 発 生	12月 10日 11時 36分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	12月 10日 11時 36分
5 覚 知	12月 10日 11時 44分	6 鎮 圧 応急処置完了	12月 10日 11時 36分
7 鎮火・処理完了	12月 10日 12時 33分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他（ ）		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：0.8m/s 気温：13.1℃ 湿度：50%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 業 態：	区 分： 特別防災地区名：		
①特別防災区域内 2特別防災区域外 （レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他） 運輸業 倉庫業 倉庫業（冷蔵 番号（4711） 倉庫業を除く） 倉庫業（冷蔵 倉庫業を除く）	①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 堺・泉北臨海地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称：ローリー充てん施設 番 号（1402） 能 力：300KL/d	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 エチルアルコール 300,000L 750倍		
13 機 器 等	温度圧力：0.08MPa		
名 称：配管（送油、注入管等） 番 号（606） 規 模：口径80mm、長さ4,500mm	倍数の合計：750倍 設置の完成：昭和48年 2月 22日 直近の完成：昭和48年 8月 3日		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称：給油（注油）ホース 番 号（908） 材 質：ステンレス	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相）（ <input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧） （低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温[0-40℃]、高温） 分類：第4類アルコール類 名称：エチルアルコール(135L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況：荷積み中 番 号（12） 作 業 状 況：充填中 番 号（12）	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	21 危険物取扱者 の取扱・立会い
			①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所（ローリー充填場）において、エチルアルコールを移動タンク貯蔵所に2,000L荷積み中に、充填ホースに繋がるバイパス配管の開閉弁が開放状態であったため、流量計を通らずバイパス配管からタンクに充填されたエチルアルコール約135Lが流出したものと推定される。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号（ 1 ） 無 装置の緊急停止			

原	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 操作確認不十分									
	発生原因の状況： 当該バイパス配管の開放弁には、積込作業時に使用しないハンドルが付けたまま放置されていた。監視員が積込用ホースを準備する際に、体の一部がハンドルに当たり、バルブが半開になり出荷配管とバイパス配管から充填が行われ、流量計設定数量に達しない時点で、2,000L以上の充填が行われ、オーバフローした。									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	設備		監視・保守		点検・整備		その他			
関連原因の詳細										
人		本人の意識		違反（故意）		怠慢				
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 移動タンク貯蔵所の防護枠内にエチルアルコール約135L流出		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 特になし		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	14 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	7 人	物質の被害状況： 第4類アルコール類 エチルアルコール 約135L 流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
									損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (4 万円)	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 情報収集活動						自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 防護枠内に流出したエチルアルコールの回収 警戒筒先の配備				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和2年 7月 31日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	事故発生に基づく警告書 令和2年 12月 18日 年 月 日 ①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 当該バルブは再発防止のため南京錠を設置。 その他対策については検討中。										
36 所 見 当該事業所は、今年度において移動タンク貯蔵所への荷積み中の流出事故が続いているため、ハード対策による再発防止を検討するとともにマニュアルの見直しや従業員の教育等ソフト面における対策も必要である。										

1 事故名	一般取扱所のオイルセラー内で潤滑装置の圧力スイッチ用導管が破損したことによるタービン油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 11日 17時 25分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	2月 11日 17時 30分	
5 覚 知	2月 11日 20時 04分	6 鎮 圧 応急処置完了	2月 11日 19時 00分		
7 鎮火・処理完了	2月 11日 21時 10分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：0.7m/s 気温：8℃ 湿度：58%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 業 態：鉱業 鉱業 石炭・亜炭 鉱業 石 番 号 (521) 炭鉱業 (石炭選別業を含む)		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：神戸地区	
12 施 設 装 置	名 称：その他【鉄鋼・非金属工業】 番 号 (6199) 能 力：各貯槽合計16,850L (沈殿槽1：12,400L, 沈殿槽2：1,950L, 油圧槽：2,500L)		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 タービン油 16,850L 2.81倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：25℃、0.54MPa 名 称：その他 番 号 (999) 規 模：流量 100L/m		倍数の合計：2.81倍 設置の完成：昭和44年11月24日 直近の完成：平成30年8月20日		
14 発 生 箇 所	名 称：その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質：銅		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第4石油類 名称：タービン油(30L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		18 取扱者の概要	19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 7線材工場No.2オイルセラーにおいて、潤滑装置の定常運転中に圧力警報が作動し、圧力スイッチ入側配管ねじ込み部にて配管折損による油漏れが発生していることが確認された。装置を停止させバルブ閉止措置を取った後、床面及びオイルピット内に漏えいしたタービン油約30Lを吸着マット等により回収した。 事故発生から約2時間30分後応急措置等が完了した時点で、消防機関への通報が必要なことに気づき119通報が行われた。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()
	関 連 原 因 維持管理不十分		
原	発生原因の状況： 2月6日に油タンクに水が混入していることが判明していたが、水分値が許容範囲内であると判断し、そのままの状態としていた。 2月11日（事故発生日）に潤滑装置のフィルター清掃後、試運転時にポンプでキャビテーションによる振動が確認されたが、圧延停止時にポンプ切替えを行うことを予定し、そのまま通常運転を行った。その後圧力警報が作動し、圧力スイッチ入側配管ねじ込み部にて配管折損による油漏れが発生していることが確認された。		
	主原因の詳細		
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層
	疲労・劣化	素材等の劣化	長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）
設計不良	能力	想定を越えた振動等の発生	
因	関連原因の詳細		
	設備	監視・保守	点検・整備
	設備	監視・保守	点検・整備
	人	本人の意識	思慮
26	被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から		
27	人的被害		28 物的被害
	被害内容等	死亡	重症
区分		中等症	軽症
当 事 者	0	0	0
防災活動従事者	0	0	0
第 三 者	0	0	0
	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいしたタービン油は約30Lであり、No.2オイルセラー内の床及びオイルピット内より回収を行った。
			施設等の被害状況： 潤滑装置の圧力スイッチ用の導管の折損
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況		
消 防 機 関	2 台 0 隻 0 機 6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 3 人
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 3 人
			物質の被害状況： 第4類第4石油類 タービン油 約30L 漏えい
			損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (万円)
30	実施した防災活動の状況		
公設消防機関：番号 (99)	現場到着時、関係者により装置の停止及び漏えいした油の回収が完了していたため、現場を確認し情報収集を実施した。		自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 関係者により、潤滑装置の停止及び配管のバルブ閉止措置を行い、漏えいしたタービン油を床面及びオイルピット内から回収した。
31	防災活動上の問題点 事故発生から通報までに時間を要した（2月11日 17時30分頃に事故を発見したが、20時4分頃まで通報できていない。）。		
32	施設名		33 定期点検等
	使用停止	年 月 日	定期・自主点検
	改善命令等	年 月 日	令和元年 6月 21日
	停止解除	年 月 日	令和2年 2月 9日
政 措 置	関係条項		気密試験等
	その他	年 月 日	年 月 日
			保安検査
			年 月 日
			34 当該施設に係る法令違反の有無
			有・ <input type="text" value="無"/>
			内容：
35	今後の対策 配管折損に繋がったポンプのキャビテーションによる振動は、油タンクへの水分混入及びフィルター清掃後の配管内圧力低下により発生したと推定されることから、以下の対応を実施する。 1 振動が発生した場合は、即ポンプを停止させ、圧力・油量調整を行い、振動の低減を図る。 2 油タンク内に水分が混入した場合には、水分除去を行うとともに、油入替えを行うまで点検頻度をあげ、圧力低下によるキャビテーション発生を防止する。 以上の内容を係員に周知するとともに、各オイルセラーに掲示する。 通報遅れに関しては、以前からの課題であり、社内研修などで従業員へ教育を行っており継続していく。		
36	所 見 当事業では、ポンプのキャビテーションによる振動の発生について、把握しているにも関わらず大丈夫と判断し通常運転を行ったり、また、事故が発生した導管は老朽化によりまもなく更新予定であったりしたことなど、点検・整備面で不備があったことが原因と推定されます。今後はヒヤリハット事例を取り上げる社内研修や設備の更新時期の見直しなどを、事業所全体で実施していく必要があると考えます。また、通報遅れに関しては、当事業所では以前からの課題であり社内教育を進めているところですが、漏えい量等に関わらず通報が必要であるという基本的な内容が周知徹底されておらず、社内教育の内容も含め引き続き指導を行っていきます。		

1 事故名	一般取扱所における放電加工機の加工槽パッキンの劣化による油流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 3日 10時 15分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	9月 3日 10時 15分	
5 覚 知	9月 3日 10時 56分	6 鎮 圧 応急処置完了	9月 3日 11時 10分		
7 鎮火・処理完了	9月 5日 15時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南南東 風速：7.6m/s 気温：32℃ 湿度：72.8%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 業 態：製造業 一般機械器具製造業 番 号 (2612) ボイラ・原動機製造業 蒸気機 関・タービン・水力タービン製 造業 (船用を除く)		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：東播磨特別防災区域	
12 施 設 装 置	名 称：その他【鉄鋼・非金属工業】 番 号 (6199) 能 力：		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 加工油、潤滑油 19,101L 9.55倍 第4類第4石油類 作動油 268.6L 0.04倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：その他 番 号 (999) 規 模：L3,860×W3,370×H2,995		倍数の合計： 9.59倍		
14 発 生 箇 所	名 称：パッキング 番 号 (213) 材 質：合成樹脂		設 置 の 完 成：平成 20年 9月 1日 直 近 の 完 成：令和 2年 9月 17日		
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (水溶性液体) 名称：加工油、潤滑油(130L)	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： ブレード第5工場のJOBエリアの放電加工機11号機において、ガスタービン動翼の放電加工のため加工槽内への放電加工油の自動運転による充填中に、通路を歩いていた作業者が加工槽扉下部から油が漏えいしていることに気付いた。なお、系外への流出はなかった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 放電加工機11号機において加工槽パッキンの全体的な劣化が認められ、R形状の変形、パッキンの飛出し量の減少により締付時のシール性が低下し油が発生したと推定。									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 放電加工機の加工槽より加工油約130Lが漏えい。漏えい範囲にあつては放電加工機の周囲で危険物施設外への漏えいはなし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 危険物第4類第3石油類（非水溶性）加工油 130L 流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 関係者から状況を聴取する。 中隊長から事業所に対して、11時15分に放電加工機の緊急使用停止命令、11時30分に同型機にも緊急使用停止命令を下す。						自衛防災・消防組織等 番号 (4) 発災時の119番通報を行うとともに、下記の措置を実施した。 ・放電加工機の緊急停止及び加工液のタンクへの回収実施。 ・吸着マット等による漏えい油回収実施。 ・所内関係者への連絡				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	令和 2 年 9 月 3 日			年 月 日			年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			年 月 日	年 月 日	
	停止解除	令和 2 年 9 月 17 日			年 月 日			年 月 日	年 月 日	
関係条項	法第12条の3第1項			34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="checkbox"/> 無 内容：			
その他	年 月 日			年 月 日						
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策 旧パッキンはシール性低下の要因となりうる劣化が確認されたため、当該設備の同型機を含めた2台の扉パッキンを新品に交換します。定期メンテナンスでパッキンを交換します。当該設備の同型機を含めた2台の老朽化更新計画を進めます。更新後設備の加工槽扉の機構はクランプ締付タイプから自動昇降式の最新機とする予定。										
36 所 見 点検不足による漏えい事故のため、定期的なメンテナンスを行い、老朽化した部品の交換を行うように指導した。										

1 事故名	常用発電機燃料タンクへの注油配管とフレキシブルチューブとの接続部に過剰な応力がかかり重油流出						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	10月 13日 10時 30分	推定・ 確定	4 発 見	10月 13日 10時 30分			
5 覚 知	10月 13日 10時 45分			6 鎮 圧 応急処置完了	10月 13日 14時 00分		
7 鎮火・処理完了	10月 13日 14時 00分						
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：曇		風向：北東		風速：2.6m/s		気温：23℃ 湿度：58%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 分類不能の産業 分類不能の産 番 号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能 の産業			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 特A重油 73,000L 36.5倍 倍数の合計： 36.5倍 設置の完成： 平成 13年 11月 21日 直近の完成： 令和 2年 10月 2日		
12 施 設 装 置				名称： 自家発電施設 番 号 (1503) 能 力： 発電施設 A重油 106L/h			
13 機 器 等				温度 圧力： 0.4MPa 名称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 容量 73,000L			
14 発 生 箇 所				名称： 管継手 (ダクトを含む) 番 号 (201) 材 質： 鋳鉄			
15 発 生 時	運 転 状 況： 受入中 番 号 (9) 作 業 状 況： 番 号 ()	17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 特A重油				
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所 (敷地内海に浮かぶ台船) に、特A重油50,000L受入時の監視で、受け入れ終了後(圧送+パージ作業3回繰り返し)に内海面に水没設置しているフレキシブルホースとの継手部から油膜を発見。 なお、外洋への流出は発生していない。 圧送中に当該場所には異常は見当たらず、パージ後に発生した。 内海への漏油量は配管残油が内部の残圧で流出した模様。							
24 緊急処置の状況 有 番号 (10) 無 その他							

25	主 原 因 腐食疲労等劣化	着火原因	番号 ()				
原 因	関 連 原 因 地震等災害						
	発生原因の状況： 台風による高潮で、内海の水面が想定外に上昇して（平成30年）おり、フレキシブルチューブとの接続部に過剰な応力が起きていたものと推測される。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	腐食	環境	塩分の影響				
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害			28 物的被害				
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内の内海水面に漏油
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 注油配管に穴
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）特A重油流出量不明
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 5 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (6、5) オイルフェンス展開・漏油回収・油膜の洗浄・清掃			
31 防災活動上の問題点							
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和2年3月5日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：	
そ の 他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭	
35 今後の対策	当該腐食配管の交換・フレキシブルチューブの交換・近接する配管の予防的交換						
36 所 見	特になし						

1 事故名	一般取扱所において、エンジンポンプの点検中に疲労劣化した燃料配管から重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	10月 22日 13時 30分	<input checked="" type="checkbox"/> 推定・確定	4 発 見	10月 22日 13時 30分	
5 覚 知	10月 28日 11時 00分		6 鎮 圧 応急処置完了	10月 22日 14時 00分	
7 鎮火・処理完了	10月 28日 14時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東 風速：3m/s 気温：21.5℃ 湿度：62.4%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 水 番 号 (3631) 道業 下水道業 下水道処理施設維持管理業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 7,920L 3.96倍 第4類第4石油類 潤滑油 3,108L 0.52倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称： 廃液、排水処理施設 番 号 (1602)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： A重油(0.1L)				
能 力：	倍数の合計： 4.48倍				
13 機 器 等	設置の完成： 昭和 55年 2月 27日 直近の完成： 平成 27年 12月 17日				
名 称： ポンプ 番 号 (501)	18 取扱者の概要				
規 模： 出力：680PS	1. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 ③. 不要				
14 発 生 箇 所	19 危険物保安統括管理者				
名 称： 管継手(ダクトを含む) 番 号 (201)	20 危険物保安監督者				
材 質： 鋼鉄	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
運 転 状 況： 試運転中 番 号 (14)	23 事故の概要： 雨水を排水するためのエンジンポンプの試運転中に点検を行っていた際に、燃料配管からA重油が若干漏えいしていたもの				
作 業 状 況： 番 号 ()	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他				

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()	
	関連原因					
	発生原因の状況： エンジンポンプの設置当初から燃料配管の更新を実施しておらず、使用の際の振動等により疲労劣化し、3cm程度の亀裂から漏えいした。					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	疲労・劣化		環境		常に振動する環境下で疲労（想定内の振動であるが、材料が継続した疲労により損傷等）	
	関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
物質の被害状況： A重油0.1L程度漏えい						
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (18 万円)						
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 ()		
現地調査						
31 防災活動上の問題点 発見から6日後に報告しているため、直ちに通報がなされなかった。						
行政措置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	令和2年9月24日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u>	
その他	年 月 日	年 月 日	内容：			
35 今後の対策		週に1回程度の目視点検を、漏えい防止対策として毎日実施することに変更した。				
36 所 見		危険物許可施設に係る事故が発生した場合にあっては、どのような軽微なものであっても遅滞なく速やかに通報及び報告するように指導した。				

1 事故名	一般取扱所の定期修理中、ストレーナー閉止フランジ取付不良による洗浄液（危険物）の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）		
3 発 生	11月 5日 3時 00分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見
5 覚 知	11月 5日 6時 45分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 5日 6時 25分
7 鎮火・処理完了	11月 5日 8時 00分		11月 5日 8時 00分
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他（ ）		
9 気 象 状 況	天気：晴	風向：北	風速：0.9m/s 気温：6℃ 湿度：82%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 業 態：	区 分： 特別防災地区名：		
①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 製造業 プラスチック製品製造 番 号 (1931) 業 (別掲を除く) 工業用プラスチック製品製造業 工業用プラスチック製品製造業 (加工業を除く)	①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 姫路臨海地区		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称： 能 力：	施設区分： 貯蔵・取扱・運搬の別： 類・品名・名称・数量・倍数：		
その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959) 生産能力 60t/d	① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 取扱所 施設別：一般取扱所 アクリロニトリル 56,391.9L 281.96倍 ジメチルアミン 166.5L 0.83倍 エチルベンゼン 30,332.7L 30.33倍 スチレン 63,348.6L 63.35倍 テレピレン 70L 0.07倍 トリエチルフェニル 442L 0.22倍 タール 115L 0.06倍 N,N-ジメチルアセトアミド 420L 0.21倍 潤滑油 1,546L 0.26倍 ジベンゾフルエン 118L 0.02倍 Nメチル-N-ニトロアニン 860kg 8.6倍 ジメチルパーオキサイト 800kg 8倍 倍数の合計： 393.91倍		
13 機 器 等	温度 圧力：		
名 称： 規 模：	配管 (送油、注入管等) 番 号 (606) 内径43mm		
14 発 生 箇 所	設置の完成： 直近の完成：		
名 称： 材 質：	ストレーナー 番 号 (209) ステンレス		
15 発 生 時	17 物 質 の 区 分		
運 転 状 況： 作 業 状 況：	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (水溶性液体) 名称： N,N-ジメチルアセトアミド (130L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	18 取扱者の概要
21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事故の概要： 施設の定期メンテナンスに伴い、洗浄液を反応器等系内に循環送液し、当該系内の洗浄を行っていたところ、送液配管途中にあるストレーナー付近から、当該洗浄液が漏えいした。 付近を通りかかった従業員が発見し、直ちに通報担当者に連絡するとともに、バルブを閉止したため、漏えいは停止した。 漏えいは、施設範囲内にある周囲の囲いで留まっており、漏えい量は約130Lであった。 消防機関への通報は、通報担当者が連絡を受けた後、直ちにホットラインにより実施された。 死傷者等はなし。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原因	25 主 原 因 施工不良		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 約2週間前、ストレーナー分解清掃を実施し、復旧する際、下部のフランジ接続部に樹脂（低重合物）が付着しているのを気付かずに、当該フランジを取り付けてしまった。 その後、反応系内の洗浄のため洗浄液を送液したことで、当該樹脂が熔融し、当該フランジの密閉性が低下したため、洗浄液が漏えいした。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	施工不良		施工		工事時の措置不良						
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 洗浄液が施設周囲の囲いの中に漏えい。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 洗浄液約130L漏えい			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	10 台	0 隻	0 機	39 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： N,N-ジメチルアセトアミド 130L漏えい	
消 防 団	2 台	0 隻	0 機	7 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	5 台	0 隻	0 機	17 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (2 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 情報収集を実施し、危険物の漏えい停止及び漏えいした危険物の回収を確認した。						自衛防災・消防組織等 番号 (5) バルブ閉鎖により、漏えいを停止させるとともに、ウエス等で漏えい危険物を回収した。 消防車を出動させ、消火体制をとった。					
31 防災活動上の問題点											
32 行政措置	施設名					33 定期点検等		消 防 法		そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検		令和 元年 10 月 15 日		令和 元年 7 月 31 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等		年 月 日		令和 2 年 11 月 4 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査		年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 樹脂を取り扱い、分解を行うすべての機器について、フランジ部の総点検を行う。 樹脂を取り扱い、分解を行うすべての機器について、分解清掃後の復旧方法の手順化を図り、マニュアルを整備し、従業員に教育する。											
36 所 見 液面の警報アラームを設定する等、早期発見方法を検討するよう指導した。 社内全体に当該事故に関する情報提供を行うとともに、再発防止対策の水平展開を図るよう指導した。											

1 事故名	一般取扱所から移動タンク貯蔵所へ充填中に、オーバーフローさせ危険物を流出させた事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	3月 11日 11時 50分	推定・確定	4 発 見	3月 11日 11時 50分	
5 覚 知	3月 11日 13時 56分	6 鎮 圧 応急処置完了	3月 11日 17時 00分		
7 鎮火・処理完了	3月 11日 18時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西南西 風速：4.6m/s 気温：14.5℃ 湿度：53.2%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： ローリー充てん施設 番 号 (1402) 能 力： 3,000L		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 3,000L 3倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 長径1,700mm、短径880mm、胴長2,650mm、容量3,000L		倍数の合計： 3倍 設置の完成： 平成 28年 7月 14日 直近の完成： 年 月 日		
14 発 生 箇 所	名 称： 液面計 番 号 (309) 材 質： その他		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (200L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 給油中 番 号 (8) 作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)		18 取扱者の概要	経験年数13年	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 一般取扱所から移動タンク貯蔵所へ軽油を充填中、その場を離れたため約200L漏えいさせたもの					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()						
	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 一般取扱所から移動タンク貯蔵所へ軽油を充填中、その場を離れたため										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 敷地内外に軽油が漏えいしたが、範囲20m以内に収まっていた。 施設等の被害状況： なし			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油200L流出			
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	12 人	自 衛	0 台	0 隻			0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻			0 機	0 人
海上保安部	1 台	0 隻	0 機	2 人	応 援	0 台	0 隻			0 機	0 人
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4、5)					自衛防災・消防組織等 番号 (8、99) オイルフェンス準備						
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日			年 月 日			年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	令和 2 年 3 月 11 日			年 月 日			年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日			年 月 日			年 月 日	年 月 日		
	関係条項	消防法第16条の3第3項			34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/> 内容：			
そ の 他	年 月 日			年 月 日							
		1. 文書 ②. 口頭			1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 従業員の安全教育の実施											
36 所 見 危険物を取り扱っているにも関わらず、目を離しその場を離れたことで起こった事故であることから、安全教育と危険物の取扱基準遵守の再徹底を行うよう指導した。											

1 事故名	一般取扱所においてドラム缶に廃溶剤を移送中にトルエンを含有するインクを人的要因により流出した事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	5月 20日 19時 40分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見
5 覚 知	5月 20日 19時 52分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 20日 19時 40分
7 鎮火・処理完了	5月 20日 21時 35分		5月 20日 21時 23分
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西北西 風速：2.6m/s 気温：13.9℃ 湿度：74%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 その他の製造業 他に 番号 (3296) 分類されない製造業 情報記録 物製造業 (新聞、書籍等の印刷 物を除く)	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 2,500L 12.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) メチルエチルケトン 1,600L 8倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) メチルイソブチルケトン 200L 1倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) シクロヘキサン 100L 0.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) メチルセロソルフ 100L 0.5倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) MCアセテート 100L 0.1倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 160L 0.16倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 550L 0.28倍 第4類アルコール類 イソプロピルアルコール 2,100L 5.25倍 第4類アルコール類 メチルアルコール 500L 1.25倍 倍数の合計： 29.54倍 設置の完成： 平成 4年 11月 17日 直近の完成： 令和 2年 4月 21日		
12 施 設 装 置	13 機 器 等		
名 称： ドラム充てん施設 番号 (1403)	温度圧力：		
能 力：	名 称： ドラム等容器 番号 (201)		
	規 模： 860mm×580mm		
14 発 生 箇 所	15 発 生 時		
名 称： その他 番号 (999)	材 質： 鋼鉄		
	運 転 状 況： 定常運転中 番号 (1)		
	作 業 状 況： 運転操作中 番号 (1)		
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： トルエンを含有するインク(100L)		
18 取扱者の概要	経験年数26年		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 有 2. 無
21 危険物取扱者の の取扱・立会い			
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： インク移送時にインク移送配管をインクタンクに接続すべきところを廃液用ドラム缶に設置した状態になっていたことで(従業員の思い込みによる)ドラム缶より溢れ出し、トルエンを含有するインク約100Lが漏えいした。このことにより室内に漏えいしたインクの一部が地下ピット内(1,700mm×4,500mmの高さ1,500mm)に流入した。このピットの清掃作業のため作業員1名が進入し、作業を行っていたところ倒れ、救出活動のため進入した2名も倒れた。他の作業員により救出したもの。なお、負傷した3名は防毒マスクを装着しておらず、救出した従業員にあっては防毒マスクを装着していた。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： インク移送時にインク移送配管をインクタンクに接続すべきところを廃液用ドラム缶に設置した状態になっていたことで（従業員の思い込みによる）ドラム缶より溢れ出し、トルエンを含有するインク約100Lが漏えいした。このことにより室内に漏えいしたインクの一部が地下ピット内に流入した。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		思い込み				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該建物の室内及びピット内に流出したもの。よって建物外には流出していない。			
区分											
当 事 者		0	0	1	0	中毒					
防災活動従事者		0	2	0	0	中毒		施設等の被害状況： なし			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	9 台	0 隻	0 機	30 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量:200 第1石油類 トルエンを含有するインク 100L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 保安教育の徹底はもちろん、個人の保安意識の高揚が必要。											
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等	消 防 法		そ の 他		
	使用停止	令和 2 年 5 月 20 日				定期・自主点検	令和 2 年 4 月 17 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	令和 2 年 5 月 25 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項	法第12条の3第1項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
その他	年 月 日				内容：						
35 今後の対策	保安監督者をはじめ、従業員の保安教育の徹底。 インク移送配管の設置方法を手順化し、作業員が見える位置に掲示する。 溶剤が漏えいした場合の手順書の見直し、またピットは施錠し、ピット内の作業についての手順の見直しも行った。 設備系の対策として作業員全員に倒れコール（転倒時に他の従業員や守衛に知らせるシステム）を準備する。 漏えい防止対策として、液面センサーで停止するノズル設置を検討する。										
36 所 見	今回の事故は作業員の認識不足や思い込みによって発生したものである。このことにより、作業手順を明確化し、作業手順が見える位置に掲示することを指導した。また3名がピット内に入室した際は防毒マスクを装着しておらず無謀な行動であった。溶剤漏えい時はピット内に入ってはならない決まりであったが施錠もなく、入れる状況であった。このことにより、ピットは常に施錠し、上長が鍵を保管することとした。										

1 事故名	一般取扱所の鹼化F列液切機更新工事に伴う洗浄配管フランジ開放時にメチルアルコールが流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 13日 8時 53分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	6月 13日 8時 53分	
5 覚 知	6月 13日 9時 15分	6 鎮 圧 応急処置完了	6月 13日 10時 05分		
7 鎮火・処理完了	6月 13日 10時 05分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：西 風速：1.4m/s 気温：25℃ 湿度：95%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 化学繊維製 番 号 (1742) 造業 合成繊維製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 <small>メチルアルコール</small> 591,005L 1,477.51倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) <small>酢酸メチル</small> 208,005L 1,040.03倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 2,517.54倍				
名 称： その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959)	設置の完成： 昭和 55年 4月 25日				
能 力： 不明	直近の完成： 令和 元年 12月 6日				
13 機 器 等	温度圧力： 0.5MPa				
名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)	17 物 質 の 区 分				
規 模： 25A	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類アルコール類 名称： <small>メチルアルコール</small> (1,400L)				
14 発 生 箇 所	18 取扱者の概要				
名 称： 管継手 (ダクトを含む) 番 号 (201)	①. 選任有 2. 選任無				
材 質： ステンレス	20 危険物 保安監督者				
15 発 生 時	21 危険物取扱者 の取扱・立会い				
運 転 状 況： 改造中 番 号 (16)	①. 有				
作 業 状 況： 改造工事中 番 号 (8)	2. 無				
19 危険物保安 統括管理者	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	23 事 故 の 概 要： 鹼化F列液切機を更新する工事において、既存の液切機を撤去する準備として、洗浄液配管のバルブ1次側 (液切機の上流側) のフランジを開放したところ当該配管からメチルアルコール (漏えい量1,400L) が漏えいした。				
20 危険物 保安監督者	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他				
①. 選任有 2. 選任無 3. 不要					
21 危険物取扱者 の取扱・立会い					
①. 有 2. 無					

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 工事担当者と生産担当者の間での打合わせ不足により、工事担当者は洗浄液配管のバルブ1次側（液切機の上流側）のフランジを開放する、生産担当者はバルブの2次側（液切機側）のフランジを開放するという双方の認識の違いにより、液切機上流側の液抜きを行わない状態で工事作業者に1次側のフランジの開放を行わせたため、開放したフランジよりメタノールが漏えいした。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	管理		組織		コミュニケーション		伝達方法が不適切				
	管理		組織		コミュニケーション		重要情報が伝達されない				
	人		本人の意識		思慮		思い込み				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 液切機周囲へメチルアルコール約1,400L漏えい。施設内に留まり施設外への漏えいはなし。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： なし			
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	8 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	6 人	物質の被害状況： 第4類アルコール類 メチルアルコール 約1,400L 流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (4 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 通報時に漏えいは停止した旨を聴取していたため、現地確認を行い、漏えい物の回収を指示する。						自衛防災・消防組織等 番号 (4、5) 元弁の閉止及び開放したフランジの閉止を行い漏えいを止める。漏えいしたメタノールの回収については、防液堤の水抜き弁を閉止して、防液堤内のメタノールを含む排水を棚上げする。					
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年 2月 28日	令和2年 6月 13日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：			
その他	事故発生原因報告等 令和2年 6月 15日		年 月 日		①. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策		当事案は工事担当者と設備担当者の情報共有・連絡不足、思い込みにより発生した事案であるため、業所規定「保全作業における移行基準」の見直しを行い、工事における担当者間での打合わせ、作業開始時の立会いについて明記し、これを周知徹底させるため教育資料を作成し、繰り返し教育により再発防止を行う。									
36 所 見		工事の際は、工事計画者と工事実施者で、情報共有を確実にし、作業前に確認作業をするよう指導する。									

1 事故名	一般取扱所の燃料ドレン管バルブの確認不足により、ドレンタンクからオーバーフローし、通気管から重油が漏えい						
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()						
3 発 生	10月 14日 23時 00分	推定・確定	4 発 見	10月 15日 6時 30分			
5 覚 知	10月 15日 10時 00分			6 鎮 圧	10月 15日 8時 30分		
7 鎮火・処理完了	10月 15日 11時 30分			6 応急処置完了			
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()						
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：東南東		風速：2.1m/s		気温：20.4℃ 湿度：58.1%
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 輸送用機械器具製造業 番 号 (3031) 船舶製造・修理業、船用機関製 造業 船舶製造・修理業			11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 消費量78KL/d			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油、防錆油 2,000L 2倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 78,000L 39倍 第4類第4石油類 潤滑油 206,000L 34.33倍		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 容量5.5m ³			倍数の合計： 75.33倍			
14 発 生 箇 所	名 称： 通気管 番 号 (304) 材 質： 鋼鉄			設置の完成： 平成 21年 5月 14日 直近の完成： 令和 2年 5月 15日			
15 発 生 時	運 転 状 況： 停止中 番 号 (5) 作 業 状 況： その他 番 号 (99)			17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (764.2L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有							
23 事故の概要： 一般取扱所においてディーゼルエンジンの陸上試運転を行うため、燃料であるA重油を供給する配管を接続し、準備完了後、通常「閉」の状態である燃料ドレン管バルブのレバーハンドルに作業員や物が意図せずに接触し、「開」になったが確認不足のため燃料ドレン管にA重油が流れ続け、ドレンタンクがオーバーフローし、通気管から764.2Lが漏えいし、事業所内の雨水溝に流れ込んだものである。 なお、漏えいした重油はバキュームクリーナー、油吸着マットを使用し、応急措置をした。							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10, 1) 無 その他、装置の緊急停止							

25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()	
関連原因					
発生原因の状況： ディーゼルエンジンの陸上試運転準備を完了した後、作業員や物が意図せず、通常「閉」の状態である燃料ドレン管バルブのレバーハンドルに接触し「開」になったが、確認不足のため開放状態のままとなり、燃料ドレン管に燃料が流れ、ドレンタンクがオーバーフローし、通気管からA重油が漏えいした。					
主原因の詳細					
第I層		第II層		第III層	
人		本人の意識		思慮	
関連原因の詳細					
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から					
27 人的被害				28 物的被害	
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症
区分					死傷原因
当 事 者		0	0	0	0
防災活動従事者		0	0	0	0
第 三 者		0	0	0	0
職業又は職名					
被災影響範囲及び拡大の状況： 重油が、漏えい箇所付近に設置してある防油堤内及び事業所の構内道路を伝い、雨水溝に幅0.38m、長さ10mの範囲に漏えいした。なお、海上への流出はない。					
施設等の被害状況： なし					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況					
消防機関	1台 0隻 0機 3人	自 衛	0台 0隻 0機 50人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油764.2L	
消防団	0台 0隻 0機 0人	共 同	0台 0隻 0機 0人		
海上保安部	1台 0隻 0機 2人	応 援	0台 0隻 0機 0人		
その他の機関	0台 0隻 0機 0人	その他	0台 0隻 0機 0人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (72 万円)	
30 実施した防災活動の状況					
公設消防機関：番号 (99) 調査活動			自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5) 雨水溝及び雨水枡の重油はオイルフェンス、油吸着マットで回収、防油堤内の重油はバキュームクリーナー、油吸着マットで回収。		
31 防災活動上の問題点 事故発生から消防機関に通報するまで長時間を要した。					
32 施設名		33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
行政措置	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和2年 9月 24日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	
その他	年 月 日	年 月 日	有・ <u>無</u> 内容：		
35 今後の対策		燃料ドレン管バルブのレバーハンドルについては、容易に開放状態にならないように固定することが可能なロック機能付きバルブ等に変更。燃料油計測タンクの通気管の途中に設置されている燃料漏えい検知用スタンドパイプのセンサー取付け穴については、適切にセンサーを取り付ける。			
36 所 見		この事故は、バルブ開閉状態の確認不足から発生したもので、バルブの設置位置及び構造も事故発生の一因となっている。従って今後の事故防止対策として、製造所等の位置、構造及び設備の変更の際には適材適所のものが使用されているか判断し、指導する。あわせて事故発生時における消防機関等への早期通報の徹底を指導する。 また、保安講習などで事故事例としてあげ、他の事業所に対しても注意喚起する。			

1 事故名	一般取扱所において脱水機の熱交換器内の冷却チューブが腐食により破孔し、オイルが流出					
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生	5月 21日 16時 42分	推定・ 確定	4 発 見	5月 21日 17時 50分		
5 覚 知	5月 21日 18時 18分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 21日 18時 36分		
7 鎮火・処理完了	5月 21日 19時 50分					
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況	天気：晴		風向：東南東		風速：3m/s 気温：20.8℃ 湿度：	
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 業 態：製造業 化学工業 化学繊維製 番号 (1741) 造業 レーヨン・アセテート製 造業			11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：岩国・大竹	
12 施 設 装 置				16 発生施設規制区分等		
名 称：脱湿装置	番 号 (1606)		施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) メタクリル酸メチル 39,531.2L 197.66倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) スチレン 16,633.8L 16.63倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ジメタクリル酸ブチル 1,980.4L 0.99倍 第4類第4石油類 キヤオイル 1,470L 0.25倍 第5類有機過酸化物質(第2種自己反応性物質) テーパチルハイト [®] パーオキシド 1,027kg 10.27倍			
能 力：			倍数の合計： 225.8倍			
13 機 器 等	温 度 圧 力：		設置の完成：平成 2年 9月 27日 直近の完成：令和 2年 2月 14日			
名 称：遠心ろ過機	番 号 (506)		17 物 質 の 区 分			
規 模：縦：2,000mm,横：1,700mm			①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、 加圧) (低温、常温 [0-40℃]、 高温) 分類：第4類第4石油類 名称：ダブノータービンオイル(50L)			
14 発 生 箇 所	名 称：その他の機器等本体		番 号 (199)		18 取扱者の概要	
材 質：銅					①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
15 発 生 時	20 危険物 保安監督者		①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		21 危険物取扱者 の取扱・立会い	
運 転 状 況：定常運転中	番 号 (1)		①. 有 2. 無			
作 業 状 況：運転操作中	番 号 (1)					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無						
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所において遠心式脱水機の熱交換器(オイルクーラー)内の冷却チューブが破孔し、作動油がチューブ内の冷却水に混入。作動油は冷却水配管を通じて屋外の再冷塔を経由し、排水ピットへ流出した事故である。						
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無						

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： オイルクーラー設置から23年経過するも点検未実施であったもの。チューブ内に鉄さび等が発生し、局所的な流速低下により腐食が進行した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		防食		エロージョン・コロージョン					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 当該施設屋外へ流出した作動油は排水ピットまでに留まり、海上への流出は無し。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 遠心ろ過機の熱交換器破損		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	7 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 作動油（ダフニータービンオイル）第4類第4石油類 非水溶性 漏えい量 50L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	8 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 漏えい原因調査					自衛防災・消防組織等 番号 (99) 火災警戒による筒先配備					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容：		
そ の 他	年	月	日	年	月	日				
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・熱交換器の交換周期設定及び定期交換 ・冷却水ラインに鉄錆除去フィルター設置 ・再冷却塔の戻りラインに油水分離槽を設置し、モニターする。 									
36 所 見	定期的なメンテナンスで十分予防できる事故であった。									

1 事故名	定期修理中の試運転による潤滑油の補給バルブ閉め忘れによる流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 13日 23時 20分	推定・確定	4 発 見	11月 13日 23時 20分	
5 覚 知	11月 14日 8時 58分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 14日 10時 05分		
7 鎮火・処理完了	11月 14日 16時 15分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北西 風速：0.7m/s 気温：10.8℃ 湿度：70%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1899) 造業 その他の石油製品・石炭 製品製造業 他に分類されない 石油製品・石炭製品製造業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：岩国・大竹				
	16 発生施設規制区分等 施設区分：1 危険物 2 高压ガス ③ 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 メタノール 2,000L 5倍 第4類第2石油類(水溶性液体) アクリル酸 32,000L 16倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) アクリル酸イブチル 33,578L 33.58倍 第4類第3石油類(水溶性液体) メタクリル酸 50,000L 12.5倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) ポリアテン 450L 0.23倍 第4類第4石油類 潤滑油 12,220L 2.04倍 第5類有機過酸化化物(第2種自己反応性物質) 有機過酸化化物 100kg 1倍 倍数の合計： 70.35倍				
12 施 設 装 置	名 称：ポリエチレン製造装置 番 号 (5102) 能 力：				
13 機 器 等	温 度 圧 力：0.35MPa 名 称：圧縮機 番 号 (502) 規 模：潤滑油定量約200L				
14 発 生 箇 所	名 称：本体に係るボルト、ナット、リベット 番 号 (107) 材 質：鋼鉄				
15 発 生 時	運 転 状 況：試運転中 番 号 (14) 作 業 状 況：定期修理中 番 号 (2)				
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第4石油類 名称：潤滑油(570L)				
18 取 扱 者 の 概 要	19 危険物保安 統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 20 危険物 保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者 の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要	当該一般取扱所は定期修理中であつた。定期修理も終了を迎え、圧縮機の試運転に際し、減少していた潤滑油を補給するためバルブを開けたもの。潤滑油は施設外の屋外タンク貯蔵所から窒素加圧にて送液されているが、この潤滑油の補給についての過剰補給装置及び計器等は未設置であつた。バルブ閉め忘れにより、定量を超えた潤滑油は送液され続け、点検開放された覗き窓等から流出したものである。				
24 緊急処置の状況	有 番号 () 無				

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 監視不十分									
	発生原因の状況： バルブを閉め忘れ、1日の作業内容を記帳し退社したことによるもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		違反（故意）		怠慢			
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設内にて回収する。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	4 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類潤滑油 570L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動					自衛防災・消防組織等 番号 (5、99) 流出物の回収 自衛消防によるホース展張					
31 防災活動上の問題点 回収作業に没頭し、消防機関への通報に時間を要した。危険物を取り扱う者に対する再教育の実施。										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策	危険物取扱者に対する再教育、漏えい時の通報手順等の再教育 補給システムの見直し、定期修理時における夜間監視要員の増強									
36 所 見	本件は、明らかに人的要因が強く本人の自覚はもとより、事業者側のソフト面の強化が必要である。									

1 事故名	一般取扱所において、原料移送経路フランジ部分のパッキンが欠損し第4類第4石油類のポリオールが流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	1月 7日 15時 00分 推定・ 確定	4 発 見	1月 7日 15時 00分
5 覚 知	1月 7日 15時 43分	6 鎮 圧 応急処置完了	1月 7日 16時 07分
7 鎮火・処理完了	1月 8日 12時 08分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東 風速：3m/s 気温：16℃ 湿度：87%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 ゴム製品製造業 タイ 番 号 (2011) ヤ・チューブ製造業 自動車タ イヤ・チューブ製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 離型剤等 2,004L 2倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) TDI等 62,708L 31.35倍 第4類第3石油類(水溶性液体) トリレンジアミン等 3,404L 0.85倍 第4類第4石油類 ポリオール等 95,151L 15.86倍		
12 施 設 装 置	名称： その他【分類なし】 番号 (9999) 能 力：		
13 機 器 等	温度 圧力： 0.5MPa 名称： 配管 (送油、注入管等) 番号 (606) 規 模： SUS-TPA80A12M 倍数の合計： 50.06倍		
14 発 生 箇 所	設置の完成： 昭和 57年 8月 10日 直近の完成： 令和 2年 2月 10日		
15 発 生 時	名称： パッキング 番号 (213) 材 質： その他		
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧、 加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第4石油類 名称： ポリオール(250L)		
18 取 扱 者 の 概 要	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い ①. 有 2. 無
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要：	製品名ボラノール (第4類第4石油類ポリオール) を一時貯蔵する40KLの20号タンクから発泡工場へ送液する配管途中のフランジ部分から推定250Lのボラノールが漏えい。フロアー等に流出した危険物はウエス等で拭取りを実施し、液体は廃油として処理、ウエスについてドラム缶に投入後密閉した状態で保管。ためます内の危険物はポンプで汲み上げドラム缶に投入保管。		
24 緊 急 処 置 の 状 況	有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 令和元年8月14日に完成検査を実施後、外部のバルブを閉止したままポンプを稼働してしまい、配管内に高い圧力が加わったことにより、フランジ部分のパッキンが破損し、危険物が流出したと思われる。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出によりフローア、ピット及び漏えい防護柵内に危険物が流出。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設等への被害はなし			
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況：					
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	第4類第4石油類製品名ボラノール（ポリオール） 約250L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (5 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
調査活動											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検		年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等		年 月 日	年 月 日
	関係条項							保安検査		年 月 日	年 月 日
置	その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：	
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策 工場全体の安全確認の徹底											
36 所 見 再度工場全体に安全確認の徹底を実施し、危険物取扱者、従業員に対する再発防止教育を徹底することを指導。											

1 事故名	一般取扱所（充填）から移動貯蔵タンクへ充填中に、監視を怠りA重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）				
3 発 生	1月 24日 9時 20分	推定・確定	4 発 見	1月 24日 9時 30分	
5 覚 知	1月 24日 10時 59分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 24日 9時 30分	
7 鎮火・処理完了	1月 24日 15時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他（ ）				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：1.9m/s 気温：14.7℃ 湿度：80.2%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号（6031） 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： ローリー充てん施設 番 号（1402） 能 力：		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) A重油 19,980L 9.99倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 固定給油（注油）設備 番 号（911） 規 模： 計量機吐出量 75L/m		倍数の合計： 9.99倍 設置の完成： 令和 元年 9月 20日 直近の完成： 年 月 日		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油（注油）ノズル 番 号（909） 材 質： 鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温[0-40℃]、高温） 分類： 第4類第3石油類（非水溶性液体） 名称： A重油(322L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 払出中 番 号（10） 作 業 状 況： 充填中 番 号（12）		18 取扱者の概要	経験年数6年	
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事故の概要： 一般取扱所（充填）において移動貯蔵タンクにA重油払出しの際、移動タンク貯蔵所を一般取扱所の敷地外に停車させ払出しを開始。払出量を過剰に設定してしまっていたが、監視を怠りその場を離れていたため漏えいの発見が遅くなる。漏えいしたA重油は側溝から水路、そして河川へと流出。漏えい発見から通報まで緊急措置の実施なし。					
24 緊急処置の状況 有 番号（ ） 無					

原 因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()				
	関 連 原 因 誤操作								
	発生原因の状況： 一般取扱所（充填）において移動貯蔵タンクにA重油の払出中、監視を怠りその場を離れていたため漏えいの発見が遅くなったもの								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層		
	人		本人の意識		違反（故意）		問題意識の不足		
	関連原因の詳細								
	人		本人の意識		思慮		過信		
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害						28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名		
区分									
当 事 者		0	0	0	0				
防災活動従事者		0	0	0	0				
第 三 者		0	0	0	0				
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						被災影響範囲及び拡大の状況： 流出したA重油が側溝から水路、そして河川へと約2km流出。			
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人
その他の機関	5 台	0 隻	0 機	13 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人
						物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）A重油322L流出			
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (2 万円)			
30 実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (5) 油吸着マットの設置、調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 覚知の時点で広範囲に流出していたため、回収に困難を極めた。									
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	有・無 内容： 一般取扱所（充填）敷地外での取扱い（法第10条第3項） 事故発見時、通報なし（法第16条の3第2項）				
35 今後の対策	危険物取扱いの基本徹底、一般取扱所（充填）敷地内での取扱い及び監視の徹底、移動貯蔵タンク残油量の確認と視差確認の徹底、事故発生時には直ちに関係機関への通報								
36 所 見	上記対策を確実に実施し、同様の事故防止に努める必要がある。								

1 事故名	排水処理施設において、オイルセパレーターのレベル管理不備によるキャッチベーン及び海上への重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	1月 25日 14時 30分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	1月 25日 15時 00分	
5 覚 知	1月 25日 15時 19分		6 鎮 圧 応急処置完了	1月 25日 17時 15分	
7 鎮火・処理完了	1月 28日 8時 00分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東北東 風速：1.9m/s 気温：9℃ 湿度：58%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (<input type="checkbox"/> レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、 <input checked="" type="checkbox"/> 他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：岩国・大竹	
16 発生施設規制区分等			施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 廃油 170,000L 850倍		
12 施 設 装 置	名 称：廃液、排水処理施設 番 号 (1602) 能 力：排水処理能力 450t/h		倍数の合計： 850倍 設置の完成：昭和48年 5月 7日 直近の完成：平成30年 5月 25日		
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称：その他 番 号 (999) 規 模：446.8m ³				
14 発 生 箇 所	名 称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：廃油 (重油) (25.2L)		
15 発 生 時	運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		18 取 扱 者 の 概 要		
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 従業員がパトロール中に排水口から海上へ油膜が流出しているのを発見したものであり、直ちに排水口出口ゲートを閉止して海上への流出は停止。オイルフェンスを展開すると共に、油膜の回収及び攪拌処理を行った。油膜は成分分析の結果、重油と判明した。なお、海上の油膜の流出範囲は敷地境界線から110mであった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 監視不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 定期補修工事中で排水中の油分が通常より多い状態であったため、オイルセパレーター水面に浮いた油層とポンプ吸込み口の距離が近かったことにより、ポンプが油層をそのまま吸い込み、油吸着層へ送り込み、処理出来なくなった油分がキャッチベーンに行き、排水出口ゲートを通過して海上へ流出したものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 排水処理施設から流出した廃油25.2Lの内、16.7Lがキャッチベーンを経由して海上へ流出したものであり、敷地境界線から110m範囲に油膜が認められた。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 施設の被害なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛	4 台	0 隻	0 機	45 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）廃油25.2L流出。廃油であるため損害なし。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 警戒及び調査				自衛防災・消防組織等 番号 (7、5) 海上の油膜は海上保安庁の指示のもと、攪拌処理を行い、陸側は吸着マット等を使用して油回収を行った。						
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年11月19日	令和2年1月25日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日								
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭									
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・オイルセパレーターのレベル管理を適正な値に設定し、ポンプが油膜を吸い込まないようにした。 ・協力会社のみがキャッチベーンの油膜検知器の警報を確認していたため、統合計器室にて常時監視できるダブルチェック体制とした。 ・キャッチベーンの油膜検知器を増設するまでは、交替で常時監視することとした。 									
36 所 見	当該事故は令和2年1月25日発生したものであるが、排水2次処理施設からの漏えいであることが特定できておらず、キャッチベーンの油膜検知器の警報を統合計器室でも監視できるダブルチェック体制としたが、監視が不十分であったため、同年2月6日に再度、排水2次処理施設からの漏えいが発生したものである。再発防止対策は2件目の漏えい事故後、同年2月13日に報告されたものであり、監視を怠ることのないよう指導した。									

1 事故名	一般取扱所において、機器の故障が起因となり、計量タンクのベントからトリエチレングリコールの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 5日 1時 00分	推定・確定	4 発 見	2月 5日 1時 50分	
5 覚 知	2月 5日 2時 08分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 5日 3時 21分	
7 鎮火・処理完了	2月 5日 4時 31分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：3.2m/s 気温：5℃ 湿度：75%				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <u>第2種</u> 、その他) 業 態：製造業 化学工業 化学繊維製 番 号 (1742) 造業 合成繊維製造業				11 発 生 場 所
12 施 設 装 置					区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 岩国・大竹
13 機 器 等	温度圧力：				16 発生施設規制区分等
名 称：その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959)	能 力：0.16KL/d				施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 流動パラフィン 12,862L 6.43倍 第4類第3石油類(水溶性液体) N-メチル-2ピロリドン、49,141L 12.29倍 エチレングリコール、トリエチレングリコール、グリセリン 第4類第4石油類 シェルターミヤオイルB 4,923L 0.82倍
14 発 生 箇 所	名 称：貯槽 (タンク) 番 号 (107)				倍数の合計： 19.54倍
15 発 生 時	規 模：直径510mm、高さ830mm、容量170L				設置の完成：昭和 57年 2月 15日 直近の完成：令和 2年 1月 10日
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル有				
23 事故の概要：	一般取扱所において、停電工事後のスタートアップ中に、計量タンクのベントからトリエチレングリコールがオーバーフローしたものの				
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止				

原因	25 主 原 因 故障		着火原因		番号 ()	
	関連原因		操作確認不十分			
	発生原因の状況： 計器室内の計量器ロードセル（荷重を電気信号に変換する装置）アンプが故障しており、荷重を検知できなかったため、ポンプ運転が続き、計量タンクのベントからエチレングリコールがオーバーフローした。さらに、計量異常警報が鳴動した際、運転員が原因を確認せずにリセットしたため、自動計量が再開し、漏えい量が拡大した。					
	主原因の詳細					
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層	
	故障		機能		機器の機能の停止	
	関連原因の詳細					
	人		本人の意識		思慮	
				配慮不足		
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から						
27 人的被害				28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因
区分						職業又は職名
当 事 者	0	0	0	0		
防災活動従事者	0	0	0	0		
第 三 者	0	0	0	0		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	14 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 54 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人
						物質の被害状況： 第4類第3石油類（水溶性）トリエチレングリコール 900L流出
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (35 万円)
30 実施した防災活動の状況						
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (5)		
警戒、調査活動						
31 防災活動上の問題点						
32 施設名 一般取扱所						
行政措置	使用停止	令和2年 2月 5日	年 月 日	33 定期点検等		消 防 法
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和2年 2月 4日	令和2年 1月 30日
	停止解除	令和2年 2月 7日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	関係条項	法第12条の3第1項		保安検査	年 月 日	年 月 日
その他	年 月 日	年 月 日	34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：	
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> ・安全方向へ設備の改造を実施 ・作業手順書の改訂 ・従業員の安全教育の実施 				
36 所 見		危険物施設の機器等の維持管理不足、従業員の危険な物質を取り扱うという意識の欠如が見られた。設備の見直し、安全方向への改造を実施し、運転員への教育を徹底するよう強く指導した。				

1 事故名	排水処理施設において、油吸着槽の能力低下によるキャッチベーン及び海上への重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	2月 6日 11時 15分	推定・確定	4 発 見	2月 6日 11時 50分	
5 覚 知	2月 6日 12時 17分		6 鎮 圧 応急処置完了	2月 6日 13時 40分	
7 鎮火・処理完了	2月 7日 15時 30分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北 風速：3.3m/s 気温：5℃ 湿度：58%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト)、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1811) 造業 石油精製業 石油精製業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：岩国・大竹				
	16 発生施設規制区分等				
	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) 廃油 170,000L 850倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称：廃液、排水処理施設 番 号 (1602)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類：第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：廃油 (重油) (0.9L)				
能 力：排水処理能力 450t/h	設置の完成：昭和 48年 5月 7日 直近の完成：平成 30年 5月 25日				
13 機 器 等	18 取扱者の概要				
温度圧力：	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要				
名 称：その他 番 号 (999)	20 危険物 保安監督者				
規 模：1系列 第1槽から第4槽 合計47.7m ³ コークス充填量25t	21 危険物取扱者 の取扱・立会い				
14 発 生 箇 所	①. 有 2. 無				
名 称：その他 番 号 (999)					
材 質：鋼鉄					
15 発 生 時					
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)					
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)					
19 危険物保安 統括管理者					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有					
23 事 故 の 概 要： 従業員がパトロール中に排水口から海上へ油膜が流出しているのを発見したものであり、直ちに排水口出口ゲートを閉止して海上への流出は停止。オイルフェンスを展開すると共に、油膜の回収及び攪拌処理を行った。なお、廃油の漏えい量は0.9Lであり、その内、海上への流出量は0.1L、流出範囲は敷地境界線から10mであった。					
24 緊急処置の状況 [有] 番号 (10) 無 その他					

原因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 令和2年1月25日に当該施設のオイルセパレーターのレベル管理不備により、廃油がキャッチベーン及び海上へ流出する事故が発生し、漏えい元を調査中に再発したものである。排水処理施設からの漏えいと判明していなかったことから、排水処理施設の油吸着槽の能力が低下していることに気付かず、多量の排水を通水したことにより、油分を吸着できずに廃油が流出したものである。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	設備		監視・保守		点検・整備		整備内容が不適切				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 排水処理施設から流出した廃油0.9Lの内、0.1Lが海上へ流出したものであり、敷地境界線から10mの範囲に油膜が認められた。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設の被害なし			
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	13 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	186 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）廃油0.9L流出。廃油であるため損害なし。	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99) 警戒及び調査						自衛防災・消防組織等 番号 (7、5) 海上の油膜は海上保安庁の指示のもと、攪拌処理を行い、陸側は吸着マット等を使用して油回収を行った。					
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	令和元年11月19日	令和2年2月6日				
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日				
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日				
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>				
置	その他	年 月 日	年 月 日		内容：						
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭							
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> ・オイルセパレーターのレベル管理を適正な値に設定し、ポンプが油膜を吸い込まないようにした。 ・油吸着槽のコークスの吸着性能を評価する手法を確立し、管理方法を改善する。 ・協力会社のみがキャッチベーンの油膜感知の警報を確認していたため、統合計器室においても監視できるダブルチェック体制とした。 ・キャッチベーンの油膜検知器を増設するが、設置までの間は交替で常時監視する。 									
36 所 見		1件目の事故が発生したことにより監視強化しているにもかかわらず、2件目の漏えいも排水口から海上へ流出してしまったため、当該施設の事故再発防止はもとより、保安教育を行い危機意識をもって監視体制を強化するよう指導した。									

1 事故名	一般取扱所において、フレキシブルホースのバルブを閉め忘れたことによりN-メチル-2-ピロリドンが流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	6月 15日 7時 20分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見
5 覚 知	6月 15日 9時 41分	6 鎮 圧 応急処置完了	6月 15日 7時 30分
7 鎮火・処理完了	6月 15日 9時 40分		6月 15日 7時 50分
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南西 風速：3m/s 気温：26℃ 湿度：66%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 化学繊維製 番 号 (1742) 造業 合成繊維製造業	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 岩国・大竹		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 流動パラフィン 12,862L 6.43倍 第4類第3石油類(水溶性液体) N-メチル-2-ピロリドン他 49,141L 12.29倍 第4類第4石油類 シェル サーマイルB 4,923L 0.82倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 19.54倍		
名 称：その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959)	設置の完成：昭和 57年 5月 31日		
能 力：22万km/d (糸の生産)	直近の完成：令和 2年 5月 20日		
13 機 器 等	17 物 質 の 区 分		
名 称：洗浄塔、槽 (ワッシングター、スクラパー) 番 号 (105)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
規 模：容量：35L、内径：259.4mm、高さ：668.0mm	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)		
名 称：ホース (給油、注油及び注入ホースを除く) 番 号 (211)	(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)		
材 質：ステンレス	分 類： 第4類第3石油類 (水溶性液体) 名称： N-メチル-2-ピロリドン(21.7L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要		
運 転 状 況：定常運転中 番 号 (1)	①. 選任有 2. 選任無		
作 業 状 況：充填中 番 号 (12)	3. 不要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	21 危険物取扱者 の取扱・立会い
22 設備・機器等の概要：	1. 有 ②. 無		
オンラインファイル有			
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所において、タンクから洗浄槽に洗浄液 (N-メチル-2-ピロリドン：危険物第4類第3石油類) を充填中に別ラインのフレキシブルホース先端部分から洗浄液が漏えいしたもの			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 事故発生日の前日に使用していたフレキシブルホースのバルブを閉め忘れたことにより、ホース先端部分から洗浄液が漏えいしたもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	環境		社会的環境		雰囲気		安全に対する意識が低い			
	人		本人の意識		違反（故意）		怠慢			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 室内に留まっており、周囲への影響なし		
区分										
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設等への被害なし		
第 三 者		0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（水溶性）N-メチル-2-ピロリドン 21.7L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
調査										
31 防災活動上の問題点 漏えい処理後に通報がなされたため、発見から通報まで約2時間を要した。										
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日		年 月 日		定期・自主点検		年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日		年 月 日		気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日		年 月 日		保安検査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		<input checked="" type="checkbox"/> ・無		
その他	異常現象の発生時には、関係機関に直ちに通報すること 令和2年6月16日 年 月 日				①. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭		内容： 法第13条第1項 危険物保安監督者保安監督業務不履行、法第13条の23 危険物取扱者保安講習未受講			
35 今後の対策 ・フレキシブルホース先端に閉止栓の取付け ・チェックリスト項目の追加（始業、終業時にフレキシブルホースのバルブの閉鎖及び閉止栓の取付け状況の確認） ・作業員へ安全教育の実施										
36 所 見 当該事故において、消防法令違反が多数認められ、作業員の危険物取扱いに対する危機意識が低下しているため、事業所に対して、基本に立ち返った教育を実施するよう指導した。										

1 事故名	一般取扱所において、窒素配管と危険物配管を取り違えフランジを開放したことによる危険物の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	7月 7日 14時 10分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見
5 覚 知	7月 7日 14時 40分	6 鎮 圧 応急処置完了	7月 7日 14時 15分
7 鎮火・処理完了	7月 7日 14時 52分		7月 7日 14時 20分
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：南南西 風速：0.4m/s 気温：20℃ 湿度：97%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 業 態：	区 分： 特別防災地区名：		
①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他) 製造業 化学工業 化学繊維製 番号 (1742) 造業 合成繊維製造業	①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 岩国・大竹		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称：その他の合成樹脂製造装置 番号 (5959) 能 力：22万km/d (糸の生産)	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 流動パラフィン 12,862L 6.43倍 第4類第3石油類(水溶性液体) N-メチル-2-ピロリドン他 49,141L 12.29倍 第4類第4石油類 シェル サーマイルB 4,923L 0.82倍		
13 機 器 等	温度圧力：		
名 称：配管(送油、注入管等) 番号 (606) 規 模：外径21.7mm 肉厚3mm 材質 SUS304	倍数の合計： 19.54倍		
14 発 生 箇 所	設置の完成：昭和 57年 5月 31日 直近の完成：令和 2年 5月 20日		
名 称：管継手(ダクトを含む) 番号 (201) 材 質：ステンレス	17 物 質 の 区 分		
15 発 生 時	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第3石油類(水溶性液体) 名称：N-メチル-2-ピロリドン(19.9L)		
運 転 状 況：スタートアップ中 番号 (2) 作 業 状 況：その他 番号 (99)	18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要
21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 ②. 無		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル有			
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所において、スタートアップ中に脱泡ラインの詰まりが酷く分解して清掃を行っていたところ、誤って危険物配管のフランジを開放したため、N-メチル-2-ピロリドンが漏えいした。直ちにポンプを止めたことで漏えいは停止。漏えいは施設内に留まっており、吸着マットにて回収した。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止			

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 脱泡ラインを分解して清掃作業を実施中、干渉する配管の取外し作業が発生、作業員が危険物配管を窒素配管と取り違えて取り外した。取り外した危険物配管は他系列と共用しており、他系列の送液が開始されたため、N-メチル-2-ピロリドンが漏えいしたものである。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		取り違い				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 室内に留まっており、周囲への影響なし			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 施設等への被害なし			
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	50 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（水溶性）N-メチル-2-ピロリドン 19.9L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
調査											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
行政措置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 2 年 5 月 29 日	令和 2 年 7 月 1 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
置	その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/> 内容：	
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策											
<ul style="list-style-type: none"> 危険物配管の行先表示を行う。 危険物配管を分解取外し後は、速やかに閉止フランジを取り付けることをルール化する。 教育の実施 											
36 所 見											
着工前確認が行われていれば防げた事故であるため、工事スケジュールは余裕をもったものとし、急ぐあまり、決められたルールを違反することのないよう指導した。											

1 事故名	一般取扱所において、配管が劣化したことによる埋設部分からの重油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	月	日	時	分	推定・確定
4 発 見	9月	8日	12時	43分	
5 覚 知	9月	8日	12時	43分	
6 鎮 火・処理完了	9月	8日	16時	30分	
7 鎮火・処理完了	9月	8日	16時	30分	
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：4m/s 気温：30℃ 湿度：58%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業 鉱物・金属材料卸売業 石油卸売業				
11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 18,000L 9倍				
12 施 設 装 置	名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999) 能 力： 最大18KL送液 (船舶への給油施設)				
13 機 器 等	温 度 圧 力： 0.3MPa 名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 埋設配管約5m				
14 発 生 箇 所	名 称： その他の附属配管等 番 号 (299) 材 質： 鋼鉄				
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 番 号 ()				
17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (1L)				
18 取 扱 者 の 概 要	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要	オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要	配管の老朽化により、埋設部分から漏油が確認されたもの				
24 緊 急 処 置 の 状 況	有 番号 () 無				

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()			
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 埋設部分のため腐食が確認できなかったもの							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 腐食した配管から幅1m、長さ0.3mにわたり漏えいした。
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	0台 0隻 0機 0人	自 衛	0台 0隻 0機 0人	物質の被害状況： 重油1Lの流出				
消 防 団	0台 0隻 0機 0人	共 同	0台 0隻 0機 0人					
海上保安部	0台 0隻 0機 0人	応 援	0台 0隻 0機 0人					
その他の機関	0台 0隻 0機 0人	その他	0台 0隻 0機 0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	内容：					
	1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭					
35 今後の対策 配管の更新及び点検の実施								
36 所 見 配管の埋設部分が短くコンクリートに覆われている部分だったため漏えい量もわずかで漏えいの発見が困難であった。								

1 事故名	一般取扱所において、作業員が操作バルブを取り違えたことによりN-メチル-2-ピロリドンが流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	9月 26日 5時 30分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見
5 覚 知	9月 26日 6時 52分	6 鎮 圧 応急処置完了	9月 26日 6時 15分
7 鎮火・処理完了	9月 26日 8時 15分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇	風向：西	風速：3.9m/s 気温：20℃ 湿度：84%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <input checked="" type="checkbox"/> 第2種、その他)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
業 態：製造業 化学工業 化学繊維製 番 号 (1742) 造業 合成繊維製造業	特別防災地区名：岩国・大竹		
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等		
名 称：その他の合成樹脂製造装置 番 号 (5959)	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他		
能 力：22万km/d (糸の生産)	貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所		
13 機 器 等	類・品名・名称・数量・倍数：		
名 称：配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)	第4類第3石油類 (非水溶性液体) 流動パラフィン 12,862L 6.43倍		
規 模：テフロンホース (分岐後)：直径4mm、6mm	第4類第3石油類 (水溶性液体) N-メチル-2-ピロリドン他 49,141L 12.29倍		
14 発 生 箇 所	第4類第4石油類 シェル サニオイルB 4,923L 0.82倍		
名 称：開閉弁 番 号 (204)	設置の完成：昭和 57年 5月 31日		
材 質：ステンレス	直近の完成：令和 2年 9月 23日		
15 発 生 時	17 物質の区分		
運 転 状 況：停止中 番 号 (5)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
作 業 状 況：不定期修理中 番 号 (3)	5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
	(固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧)		
	(低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温)		
	分類：第4類第3石油類 (水溶性液体) 名称：N-メチル-2-ピロリドン (120L)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	18 取扱者の概要 経験年数15年
21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル有		
23 事故の概要：	一般取扱所において、ノズル交換のための洗浄作業の際に、純水バルブを開けるところを誤って洗浄液 (N-メチル-2-ピロリドン：危険物第4類第3石油類) のバルブを開けたため、事業所内の排水系統へ洗浄液が120L流出したものである。なお、流出した洗浄液は全量、排水処理槽に留まっており、事業所外へは流出していない。		
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 作業員が操作バルブを取り違えたもの										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した危険物は事業所内の排水処理槽に全て留まっております、事業所外への流出なし			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 施設等への被害なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	4 台	0 隻	0 機	11 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	71 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（水溶性）N-メチル-2-ピロリドン 120L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (99)					
警戒、調査						警戒					
31 防災活動上の問題点											
32 施設名 一般取扱所											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和 2 年 5 月 29 日	令和 2 年 9 月 15 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
その他	事故原因を究明し、事故報告書並びに改善計画書を提出すること			令和 2 年 9 月 28 日			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		
35 今後の対策		<ul style="list-style-type: none"> ・バルブに物質名の表示及び色分けを行う。 ・作業員に対して、当該事故に関する教育の実施 ・バルブ操作時における指差呼称の徹底 									
36 所 見		同じ施設において、人的要因による事故が立て続けに発生しているため、事故の深層原因についても究明するよう指導。									

1 事故名	一般取扱所のタンクコンテナに接続した、サンプリングホース亀裂部分からのプロピレンカーボネート流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 15日 17時 00分	推定・確定	4 発 見	5月 18日 9時 00分	
5 覚 知	5月 18日 14時 50分		6 鎮 圧 応急処置完了	5月 18日 15時 00分	
7 鎮火・処理完了	5月 18日 15時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北東 風速：1.2m/s 気温：22.5℃ 湿度：80.5%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 医薬品製造 番 号 (1762) 業 業 医薬品製剤製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) ジェチルカーボネート 20,000L 20倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) プロピレンカーボネート 20,000L 10倍	
12 施 設 装 置	名 称： その他のタンク 番 号 (1299) 能 力： 5,000L/d			倍数の合計： 30倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107) 規 模： 直径1,940mm、全長5,916mm、容量20,000L			設置の完成： 平成 26年 2月 10日 直近の完成： 平成 27年 8月 26日	
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999) 材 質： その他		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： プロピレンカーボネート(909L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 停止中 番 号 (5) 作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)		18 取 扱 者 の 概 要	経験年数6年	
19 危 険 物 保 安 統 括 管 理 者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危 険 物 保 安 監 督 者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危 険 物 取 扱 者 の 取 扱 ・ 立 会 い	①. 有 2. 無
22 設 備 ・ 機 器 等 の 概 要：	オンラインファイル無				
23 事 故 の 概 要：	タンクコンテナからキャニスターに危険物を充填する一般取扱所において、タンクコンテナ及びサンプリングラインのコックを閉め忘れたことにより、サンプリングラインの亀裂部分からプロピレンカーボネート909Lが流出したもの。ためます及び油水分離槽内の危険物を水中ポンプを使用して回収する。施設外への流出なし。				
24 緊 急 処 置 の 状 況	有 番号 () 無				

25	主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()		
	関 連 原 因 腐食疲労等劣化						
原	発生原因の状況： タンクコンテナの元コック及びサンプリングホースのコックを閉め忘れたことにより、サンプリングラインに危険物が流れ込む。サンプリングライン先端にはプラグが接続されており、本来であれば流出することはないが、サンプリングラインに亀裂があったため流出。サンプリングラインは使用時以外も常時接続されたままであったため、先端プラグの自重で折れ曲がり、亀裂部分周辺には常に負荷がかかっている状態であった。						
	主原因の詳細						
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		
	人		本人の意識		思慮		
関連原因の詳細							
疲労・劣化		環境		その他			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害				28 物的被害			
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	
区分						職業又は職名	
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	
物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）プロピレンカーボネート909L流出							
損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (37 万円)							
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 ()			自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
ためます及び油水分離槽内の危険物を、水中ポンプを使用して容器に回収する。							
31 防災活動上の問題点 回収作業に傾注しすぎるあまり、発生から消防機関への通報までに6時間を要した。							
32	施設名			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年11月22日	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日
	関係条項			34 当該施設に係る法令違反の有無		有・無	
措 置	その他		年 月 日		内容： 危政令第32条第2項 取扱い作業の注意義務違反 消防法第13条の23 危険物取扱者講習未受講		
35	今後の対策 ・タンクコンテナ付近にコックの閉鎖状態及び作業手順を明示する。 ・サンプリングラインは接続したままにせず、使用時のみ接続する。 ・維持管理及び取扱手順の周知教育の徹底。						
36	所 見 ・事故発生時は速やかに消防機関へ通報することを強く指導する。 ・今回の事故を踏まえた緊急事態対応訓練を実施するよう指導する。						

1 事故名	一般取扱所において、サービスタンクへの灯油受入を制御する自動弁の故障により灯油流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 16日 4時 43分	推定・確定	4 発 見	6月 16日 4時 45分	
5 覚 知	6月 16日 8時 22分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 16日 5時 10分	
7 鎮火・処理完了	6月 16日 9時 25分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南東 風速：0.8m/s 気温：24.8℃ 湿度：59.2%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 化学工業 その他の化 番 号 (1799) 学工業 他に分類されない化学 工業製品製造業		11 発 生 場 所		
12 施 設 装 置			区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
名 称： ボイラー施設 番 号 (1505)	16 発生施設規制区分等				
能 力：	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数：				
13 機 器 等 温度 圧 力：	第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 550L 0.55倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 15,000L 15倍 第4類第4石油類 作動油 5,000L 0.83倍				
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	規 模： 200Lサービスタンク			倍数の合計： 16.38倍	
14 発 生 箇 所	設置の完成： 昭和 47年 7月 10日 直近の完成： 令和 元年 7月 16日				
名 称： 制御弁 番 号 (205)	17 物 質 の 区 分				
材 質： ステンレス	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 灯油 (100L)				
15 発 生 時	18 取扱者の概要				
運 転 状 況： 受入中 番 号 (9)	19 危険物保安 統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物 保安監督者			21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
作 業 状 況： 番 号 ()					
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 6月16日4時43分、屋外タンク貯蔵所から配管で灯油を一般取扱所の屋外設置ボイラーサービスタンクに200L送油中、当該サービスタンク上部のベント弁より約100L溢れ出し、防油堤内に漏えいした。4時45分に防油堤内の漏えい検知装置（フロート式）が作動し計器室で覚知、現場に駆け付けた従業員が制御自動弁が閉まり切っていないことを確認したため、手動弁を閉止して漏えいを止めた。その後、油回収等の応急措置を実施する。なお、漏えいした灯油はサービスタンク防油堤内に留まり、敷地外及び海上への流出は認められなかった。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (8, 9) 無 防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等、緊急排出、緊急移送					

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因				番号 ()			
	関 連 原 因									
	発生原因の状況： LPGボイラーが故障したため代替機として灯油ボイラーを使用していたが、サービスタンクへの灯油受入れを制御する自動弁の作動不良により灯油受入れが設定値で停止せず、サービスタンク上部のベント弁より約100Lが漏えいしたものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の異常動作					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 漏えいした灯油はサービスタンク防油堤内に留まり、敷地外及び海上への拡大は認めなかった。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 特になし			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 非水溶性液体 指定数量：1,000 第2石油類 灯油 100L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
						損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (2 万円)				
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)				自衛防災・消防組織等 番号 (4、5)						
調査活動										
31 防災活動上の問題点										
第1報が加入電話による通報で発見してから約4時間経過しており、早期通報ができていない。 事故発生時における早期119番通報の重要性を再認識させる必要がある。発見後、サービスタンクの手動弁を閉止し漏えいした灯油を防油堤内に留めていた。その後、防油堤内に溜まった灯油を回収するとともに吸着マットにより完全に除去していた。事故発生時における早期通報を徹底するため、系列事業所の通報要領を参考に通報体制の整備と再発防止対策における社内教育の実施。定期点検については外観点検のみならず機能点検も取り入れ、施設・機器等の適切な維持管理に努める必要がある。										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和 2 年 6 月 5 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <u>無</u> 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
		1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭						
35 今後の対策		1. 事故発生時における早期通報を徹底させるため、連絡体制に関するマニュアル化を見直し、教育・訓練を定期的に行い初動対応の充実を図る。 2. 灯油受入れ制御自動弁の整備を行い、自動弁アクチュエーターの分解による調査を行い原因の解明を進める。 3. 定期点検については外観点検のみではなく機能点検も取り入れ、自動弁等の開閉動作確認を実施する。 4. 他3機の同等灯油サービスタンクについても、水平展開し調査と整備を実施する。								
36 所 見		再発防止のため従業員に対して教育・訓練の重要性を認識させ、異常現象発生時の早期通報と定期点検の充実など保安体制の確立を図ることが必要である。								

1 事故名	清掃時、元弁の閉め忘れにより、バーナ用重油サービスタンクのオーバーフロー配管から重油が流出した事故		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	11月 10日 16時 00分	推定・確定	4 発 見
5 覚 知	11月 10日 16時 55分		6 鎮 圧
7 鎮火・処理完了	11月 10日 16時 30分		応急処置完了
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北東 風速：3.7m/s 気温：15℃ 湿度：57%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、 <u>第2種</u> 、その他)	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他)		
業 態：サービス業 (他に分類されな 番号 (8522) いもの) 廃棄物処理業 産業 廃棄物処理業 産業廃棄物処分 業	特別防災地区名：北九州地区		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所		
	類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) その他の第1石油類 180.1L 0.9倍 第4類第1石油類(水溶性液体) その他の第1石油類 25.5L 0.06倍 第4類アルコール類 エチルアルコール 5L 0.01倍 第4類第2石油類(水溶性液体) その他の第2石油類 0.1L 0倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) その他の第3石油類 606,490L 303.25倍 第4類第4石油類 キター油 13,640L 2.27倍 第4類第4石油類 熱媒油 200L 0.03倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計：306.52倍		
名 称：その他のタンク 番号 (1299)	設置の完成：平成20年 10月 29日 直近の完成：令和2年 9月 30日		
能 力：タンク容量 350L	17 物 質 の 区 分		
13 機 器 等	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
名 称：その他 番号 (999)	(固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧)		
規 模：吐出流量と圧力・出滓バーナ用 240L/H、0.7MPa ・恒温チャンバ用 600L/H、0.7MPa	(低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温)		
14 発 生 箇 所	分 類：第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称：重油(9L)		
名 称：その他の附属配管等 番号 (299)	18 取扱者の概要		
材 質：鋼鉄	経験年数6年		
15 発 生 時	19 危険物保安 統括管理者		
運 転 状 況：定常運転中 番号 (1)	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要		
作 業 状 況：洗浄中 番号 (11)	20 危険物 保安監督者		
	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
	21 危険物取扱者 の取扱・立会い		
	①. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無		
23 事 故 の 概 要：	作業者が、重油タンクとサービスタンクの間にある元弁を閉め忘れたままバーナ用重油サービスタンク上部のフロート式レベル計の清掃作業に入り、フロート式レベル計の配線を離線した。その結果、当該サービスタンクに設置の別の圧力検知式レベル計により一旦は停止するものの、フロート式レベル計が供給の信号を送り続けたことでオーバーフロー配管から約9Lの重油が流出したものである。		
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1) 無 装置の緊急停止		

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()									
	関連原因													
	発生原因の状況： 元請業者の委託業者である作業者がフロート式液面計の清掃作業を行うのに、補給元弁を閉め忘れたことにより発生した。													
	主原因の詳細													
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層							
	管理		監督		監視		監視が実施されない/不足							
	関連原因の詳細													
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から														
27 人的被害				28 物的被害										
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 重油約9Lが漏えいしたが設備下の防油堤内におさまった。						
区分														
当 事 者	0	0	0	0										
防災活動従事者	0	0	0	0										
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況														
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： バーナ用重油サービスタンク内の重油約9L流出				
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人					
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人					
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人					
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円				
30 実施した防災活動の状況														
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()								
31 防災活動上の問題点 発見から通報までに約1時間を要した。														
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他						
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日	年	月	日
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容：						
その他	年	月	日	年	月	日								
35 今後の対策 補修作業前の環境設定及び確認を十分に行い、補給弁を確実に「閉」とし、作業員への教育並びに全体の作業確認について、元請業者だけでなく発注元業者、運転委託業者の3者で確認して作業を行う。														
36 所 見 本事案は補給弁の閉め忘れという作業員及び監督者の確認不足に起因する事故である。今後、同様の事故を起こさないために作業前の監督者、作業員による確認はもちろんのこと、発注元の業者等にも監視に入ってもらい、監視確認体制の強化を構築するよう指導した。														

1 事故名	一般取扱所において、ポンプドレンの一部未閉鎖により廃油処理タンクから重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 1日 15時 47分	推定・確定	4 発 見	9月 1日 15時 47分	
5 覚 知	9月 1日 16時 50分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 1日 15時 50分	
7 鎮火・処理完了	9月 1日 19時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：1m/s 気温：30.3℃ 湿度：70%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,387,800L 1,387.8倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 1,820,000L 910倍 第4類第4石油類 潤滑油 236,500L 39.42倍				
12 施 設 装 置	倍数の合計： 2,337.22倍				
名 称： その他【電力事業】 番 号 (4999)	設置の完成： 昭和 54年 12月 15日 直近の完成： 令和 元年 12月 27日				
能 力： 重油燃料ポンプ 流量35m ³ /h	17 物 質 の 区 分				
13 機 器 等 温度 圧力：	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (490L)				
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	18 取扱者の概要 経験年数22年				
規 模： 容量1,900L 板厚6mm	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要 20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要 21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無				
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
名 称： 覗き窓 番 号 (306)	23 事 故 の 概 要： 一般取扱所内の重油ポンプの消耗品を取替後、重油張り込み作業を行ったが、本来ポンプドレン2か所を「閉」とする必要があるところを1か所しか「閉」としていなかったため、「開」にしていたポンプドレン弁のラインから廃油処理タンクへ重油が流れ込み廃油処理タンクの重油が重油加熱ヤード内にオーバーフローしたものである。				
材 質： 鋼鉄	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他				
15 発 生 時					
運 転 状 況： 試運転中 番 号 (14)					
作 業 状 況： 監視中 番 号 (10)					

原因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 一般取扱所内の重油ポンプの消耗品を取替後、重油張り込み作業を行ったが、本来ポンプドレン2か所を「閉」とする必要があるところを1か所しか「閉」としていなかったため、「開」にしていたポンプドレン弁のラインから廃油処理タンクへ重油が流れ込み廃油処理タンクの重油が重油加熱ヤード内にオーバーフローしたものである。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		不注意			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 地下タンクの覗き窓から溢れた油が約10mの範囲で漏えいした。なお、漏えいした油はすべて防油堤内に収まっている。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 特になし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油490L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	50 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (5) 約50名の従業員で吸着マットによる重油の回収、清掃を行った。						
31 防災活動上の問題点										
32 施設名					33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和2年7月15日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
1. 文書 2. 口頭		1. 文書 2. 口頭								
35 今後の対策 従業員の安全教育の徹底										
36 所 見										

1 事故名	一般取扱所において、作業員の認識不足による非常用予備電源装置用の配管フランジ部からの軽油の漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	9月 20日 11時 45分	推定・確定	4 発 見	9月 20日 11時 55分	
5 覚 知	9月 20日 12時 13分		6 鎮 圧 応急処置完了	9月 20日 12時 13分	
7 鎮火・処理完了	9月 20日 13時 55分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北北東 風速：1.9m/s 気温：22.9℃ 湿度：53%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 電 番 号 (3311) 気業 電気業 発電所				
11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
12 施 設 装 置	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,387,800L 1,387.8倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 1,820,000L 910倍 第4類第4石油類 潤滑油 236,500L 39.42倍				
13 機 器 等	温度圧力： 名 称： 発電機 番 号 (704) 規 模： 幅6,000mm 高さ2,500mm 奥行2,000mm 倍数の合計： 2,337.22倍				
14 発 生 箇 所	設 置 の 完 成： 昭和 54年 12月 15日 直 近 の 完 成： 令和 元年 12月 27日				
15 発 生 時	17 物 質 の 区 分 ①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (100L)				
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要	オンラインファイル無				
23 事故の概要	現場の作業員が一般取扱所内で軽油が漏えいしているのを発見したもので、連絡を受けた作業員が非常用予備電源装置用の軽油配管のフランジ部からの漏えいと確認、弁を閉鎖し漏えいは停止した。前日にタンクの配管取替作業を行っていたが作業員の認識不足により配管内の軽油が封じ込みになったものである。				
24 緊急処置の状況	有 番号 (10) 無 その他				

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 事故前日に2基の軽油タンクの戻り配管取替作業を行っていたが、作業員の認識不足により、軽油送油ポンプ出口逆止弁から非常用予備電源装置用の間の軽油配管内に軽油が封じ込めになった。そのため、気温の上昇に伴い配管内の軽油が膨張し圧力が上昇したことにより、非常用予備電源装置軽油配管フランジ部から軽油が漏えいしたものである。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		思い込み				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所内に約5mの範囲で油が漏えいした。なお、漏えいした油は構内で収まっている。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油 100L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	20 人		
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
32 行政措置	施設名					33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検			令和2年7月15日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日				気密試験等			年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日				保安検査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無			有・無		
その他	年 月 日							内容：			
1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭											
35 今後の対策 保安教育の徹底											
36 所 見											

1 事故名	充填の一般取扱所において、充填後バルブを閉め忘れたことによるアルコールの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	12月 2日 16時 59分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	12月 2日 16時 59分	
5 覚 知	12月 4日 10時 12分		6 鎮 圧 応急処置完了	12月 2日 17時 30分	
7 鎮火・処理完了	12月 2日 18時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：4m/s 気温：14℃ 湿度：56%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 飲料・たばこ・飼料製造 番 号 (1024) 業 酒類製造業 蒸留酒・混成酒 製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置	名 称： ローリー充てん施設 番 号 (1402) 能 力： ローリー充てん施設 700KL/d		16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 アルコール 700,000L 1,750倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力： 0.2MPa 名 称： 充てん機 番 号 (901) 規 模： 直径89mm		倍数の合計： 1,750倍 設置の完成： 昭和 53年 11月 2日 直近の完成： 平成 25年 8月 7日		
14 発 生 箇 所	名 称： 給油 (注油) ノズル 番 号 (909) 材 質： ステンレス		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (常圧、 <input checked="" type="checkbox"/> 加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類アルコール類 名称： アルコール(130L)	
15 発 生 時	運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1) 作 業 状 況： 充填中 番 号 (12)		18 取扱者の概要	経験年数5年	
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： アルコール充填の一般取扱所において、積込作業員がアルコールの積込作業を行った後、積込バルブを閉め忘れて出荷に出発したため、次の作業員が別系列で積込作業を行った際、開放していたバルブ側からアルコール約130Lが施設内に流出したものである。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： アルコール充填の一般取扱所において、積込作業員がアルコールの積込作業を行った後、積込バルブを閉め忘れて出荷に出発したため、次の作業員が別系列で積込作業を行った際、開放していたバルブ側からアルコール約130Lが施設内に流出したものである。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		思い込み				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： アルコール充填ノズルからアルコール約130Lが流出した。流出範囲は施設内に収まる。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	0 台	0 隻	0 機	0 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 アルコール類 130L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (5) 散水による希釈を行い、ためますからアルコールの回収を実施。					
31 防災活動上の問題点 散水による希釈を行い、アルコールの回収を実施し、アルコール検知器を用いてアルコール濃度を測定し異常がなかったため、事故の報告まで2日を要している。											
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	令和2年8月21日	令和2年12月2日	
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る法令違反の有無			<input checked="" type="checkbox"/> ・無 内容： 法第10条第3項 製造所における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反			
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員の安全教育の実施 ・事故発生時の通報体制の見直し 										
36 所 見	<ul style="list-style-type: none"> ・行為者の事業所に対し、従業員へ事故再発防止のための教育の徹底を指導。 ・事故発生施設へ事故発生時の早期通報、報告を指導。 										

1 事故名	バルブ閉止誤操作によるベント配管から酢酸ビニルとメタノール混合溶剤の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	1月 30日 13時 45分 推定・ 確定	4 発 見	1月 30日 13時 45分
5 覚 知	1月 30日 14時 04分	6 鎮 圧 応急処置完了	1月 30日 14時 12分
7 鎮火・処理完了	1月 30日 14時 56分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：曇	風向：北西	風速：3.9m/s 気温：12℃ 湿度：55%
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 プラスチック製品製造 番 号 (1921) 業 (別掲を除く) プラスチックフィルム・シート・床材・合成皮革製造業 プラスチックフィルム製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 アセトアルデヒド 400L 8倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸ビニルモノマー 156,670L 783.35倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 1,300L 6.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸エチル 500L 2.5倍 第4類第1石油類(水溶性液体) CS溶剤 233,850L 584.63倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) キシレン 1,400L 1.4倍 第4類アルコール類 メタノール 238,693L 596.73倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 3,4ジメチルペンタジエン 5,000L 2.5倍 第4類第4石油類 ポリオキシプロピレン モノアリテール 720L 0.12倍 第5類-10化合物(第2種自己反応性物質) ジニトロベンゼン 10kg 0.1倍 倍数の合計： 1,985.83倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： 常圧蒸留装置 番 号 (2101)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称： 酢酸ビニル(70.8L) 第4類アルコール類 メタノール(45.2L)		
能 力： 蒸留塔 0.3t/h	18 取扱者の概要 経験年数44年		
13 機 器 等 温度圧力：	19 危険物保安統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606)	20 危険物保安監督者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
規 模： 内径16.1mm	21 危険物取扱者の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
14 発 生 箇 所	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
名 称： ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303)	23 事故の概要： 事故当日の午前、蒸留塔停止後に還流槽内の残液を封液タンクへ移液するため、作業員がバルブの開閉作業を実施し、午後1時27分から遠隔操作にてポンプ移液を開始。午後1時45分ごろに現地運転員がプラント上階からの溶剤落下を発見し、ポンプ停止。流出箇所が凝縮ポットのベント配管であることを確認。酢酸ビニルとメタノールとの混合液約116L流出。場外流出なし。		
材 質： 鋼鉄	24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止		
15 発 生 時			
運 転 状 況： シャットダウン中 番 号 (3)			
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)			

原 因	25 主 原 因 誤操作		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： バルブ開閉作業時に、残液の行先バルブが閉止されていたため、残液の行き場がなくなりベント配管より流出したもの										
	主要原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		取り違い				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 4階凝縮ポットのベント配管からの流出により、フロア床面及び、1階囲い内に流出。場外流出なし。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類酢酸ビニル約61%、第4類アルコール類メタノール約39%の混合液、約116L	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人		
								損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)			
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
火災警戒活動											
31 防災活動上の問題点											
32 施設名											
政 策 措 置	使用停止	年 月 日			年 月 日			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他
	改善命令等	年 月 日			年 月 日			定期・自主点検	令和元年6月19日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日			気密試験等	年 月 日	年 月 日	
	関係条項							保安検査	年 月 日	年 月 日	
その他	年 月 日			年 月 日			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・ <input type="text" value="無"/>		
		1. 文書 2. 口頭			1. 文書 2. 口頭			内容：			
35 今後の対策											
勤務交代時の申し送り徹底、チェックリスト開閉表示の改善及びポットからベント配管までの撤去を実施する。											
36 所 見											
手順書及びチェックシートを活用しての作業であったが、チェックシートにはバルブ開を記載しており、実際はバルブを閉鎖しているため、手順書及びチェックシート内容確認の遵守を従業員に周知するよう指導。											

1 事故名	一般取扱所において、移送用機器の故障により、20号タンクからエチルアルコールが流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	5月 14日 9時 10分	<input checked="" type="checkbox"/> 推定・確定	4 発 見	5月 14日 9時 26分	
5 覚 知	5月 14日 10時 13分	6 鎮 圧 応急処置完了		5月 14日 10時 00分	
7 鎮火・処理完了	5月 14日 10時 40分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 ⑥. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南西 風速：2.6m/s 気温：20℃ 湿度：67.4%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 飲料・たばこ・飼料製造 番 号 (1024) 業 酒類製造業 蒸留酒・混成酒 製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類アルコール類 エチルアルコール 12,000L 30倍 倍数の合計： 30倍 設置の完成： 昭和 37年 3月 29日 直近の完成： 平成 24年 3月 13日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： 固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201)	能 力： 容量19,000L		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類アルコール類 名称： エチルアルコール (2, 227L)		
13 機 器 等	温度圧力：				
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	規 模： 内径:2,900mm 高さ:3,150mm		18 取扱者の概要 経験年数5年		
14 発 生 箇 所	名 称： マンホール 番 号 (305)				
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		21 危険物取扱者の の取扱・立会い ①. 有 2. 無		
運 転 状 況： 受入中 番 号 (9)	作 業 状 況： 番 号 ()				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 一般取扱所の20号タンクにエチルアルコールを移送中、タンク容量を超えて移送したため、タンク上部の検尺マンホール及びエアベントからエチルアルコール2,227Lが流出したものの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止					

原 因	25 主 原 因 故障		着火原因		番号 ()					
	関連原因 監視不十分									
	発生原因の状況： 移送作業に使用している数量設定器に不具合が生じ、本来移送を停止すべき数量を超えて移送された。また、移送中の監視がされていなかった。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	故障		機能		機器の機能の停止					
	関連原因の詳細									
	管理		組織		人員配置（役割・責任）		人の配置が不適切			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 一般取扱所の20号タンクの防油堤内にエチルアルコール2, 227Lが流出。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 無し。			
第 三 者	0	0	0	0						
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類 引火性液体 指定数量:400 アルコール類 2, 227L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (20 万円)		
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()						自衛防災・消防組織等 番号 (4, 5)				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和2年 4月 30日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日						
35 今後の対策		1 2人体制での移送作業の監視 2 タンクに自動停止装置を設置 3 作業員の再教育								
36 所 見		今回の流出事故は装置の不具合が原因ということであったが、作業員の監視が及んでいれば防げた事故であったと思われる。今回の事故を踏まえ、機械に何もかも任せるのではなく、人と機械とで相互に補足しながら事故を未然に防ぐ体制を作ってもらいたい。								

1 事故名	一般取扱所において、PVOH樹脂微粉で配管が閉塞し、攪拌機軸封グランドパッキン部から溶剤が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 6日 2時 45分	推定・ 確定	4 発 見	8月 6日 2時 45分	
5 覚 知	8月 6日 2時 55分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 6日 3時 45分	
7 鎮火・処理完了	8月 6日 3時 55分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：南西 風速：0.3m/s 気温：25.8℃ 湿度：89.1%				
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所				
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 プラスチック製品製造 番 号 (1921) 業 (別掲を除く) プラスチックフィルム・シート・床材・合成皮革製造業 プラスチックフィルム製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：				
	16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類特殊引火物 アセトアルデヒド 400L 8倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸ビニルモノマー 156,670L 783.35倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) トルエン 1,300L 6.5倍 第4類第1石油類(非水溶性液体) 酢酸エチル 500L 2.5倍 第4類第1石油類(水溶性液体) CS溶剤 238,850L 597.13倍 第4類第2石油類(非水溶性液体) キシレン 1,400L 1.4倍 第4類アルコール類 メタノール 241,873L 604.68倍 第4類第3石油類(非水溶性液体) 3,4-Diacetoxyl-1-butene 5,000L 2.5倍 第4類第4石油類 ポリオキシプロピレン 720L 0.12倍 第5類-10化合物(第2種自己反応性物質) モノアリルエーテル ジニトロベンゼン 10kg 0.1倍 倍数の合計： 2,006.28倍				
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分				
名 称： 固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201)	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス				
能 力： 30KL	5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 液相 、気相) (常圧 、加圧) (低温、 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類アルコール類 名称： メタノール(200L)				
13 機 器 等 温度 圧力：	18 取扱者の概要				
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)	①. 選任有 2. 選任無				
規 模： 直径4,850mm、胴長1,524mm、缶底 (円錐部分) 400mm、350mm	20 危険物 保安監督者				
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者の の取扱・立会い				
名 称： タンク屋根板 番 号 (103)	①. 有				
材 質： 鋼鉄	2. 無				
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無				
運 転 状 況： スタートアップ中 番 号 (2)	23 事 故 の 概 要： 整備のため、8月3日に乾燥工程 (G系列) 停止。8月5日から運転準備を行う。8月6日1時20分に乾燥工程 (G系列) 運転を再開し、スラリーの遠心分離機を起動。2時45分に乾燥工程一般排水ピットTOC計アラームが発報し現地を確認。G1-Thタンク上部から溶剤が漏れいしているところを発見。2時50分運転を停止し、2時55分消防機関へ通報。メタノールと酢酸メチル混合液約200L流出。場外への流出はなし。				
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)	24 緊急処置の状況 有 番号 (1) 無 装置の緊急停止				

原因	25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 監視不十分									
	発生原因の状況： PVOH樹脂微粉が配管を閉塞させ、移送不能となったためタンク上部攪拌機軸封（グランドパッキン部）からCS溶剤が流出したものの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	設備		監視・保守		点検・整備		点検内容が不適切			
	設備		監視・保守		点検・整備		その他			
	関連原因の詳細									
	設備		監視・保守		監視		その他			
26 被害の状況 1. 設備機器内 ②. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名			
区分										
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： タンク上部から漏えいした溶剤が囲い防油堤内に約200L流出したが回収。横を流れる構内排水に流れ込んだが排水ピット内で回収し施設外への流出はなし。構内排水に流れ込んだ量については不明。			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況：			
第 三 者	0	0	0	0			なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	5 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類アルコール類メタノール・第2石油類酢酸エチルの混合液200Lが流出。
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
								損害額	1万円未満	、1万円以上 () 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
火災警戒活動										
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検			令和2年6月16日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等			年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容：		
その他	年 月 日	年 月 日								
35 今後の対策		漏えいタンクにつながる配管が2か所あり、通常一方しか使用していないが両方使用できる状態にする。								
36 所 見		今回、閉塞した配管部分は4か月前に更新していたが微粉を含む溶剤が溜まりやすい構造となっていた。現在は配管内を清掃して、2つの配管で漏えいしないように対策をとり使用再開している。今後も閉塞する可能性が考えられるため溜まりやすい構造となっている配管については改善を指導。								

1 事故名	一般取扱所にて噴燃ポンプメカニカルシール劣化による重油の流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	月 日 時 分 推定・確定	4 発 見	4月 1日 10時 10分
5 覚 知	4月 1日 10時 49分	6 鎮 圧 応急処置完了	4月 1日 11時 16分
7 鎮火・処理完了	4月 1日 15時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：西南西 風速：3m/s 気温：13℃ 湿度：98%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 窯業・土石製品製造業 番 号 (2221) セメント・同製品製造業 セメント製造業	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) C重油 312,000L 156倍		
12 施 設 装 置	設置の完成： 昭和 56年 1月 31日 直近の完成： 年 月 日		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	17 物 質 の 区 分		
能 力： 312KL/d	①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： C重油 (228L)		
13 機 器 等	18 取扱者の概要		
温 度 圧 力： 80℃、0.7MPa	①. 選任有 2. 選任無 21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 3. 不要 ②. 無		
名 称： ポンプ 番 号 (501)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
規 模： 7.2KL/h、22kw、7MPa	23 事 故 の 概 要： 3号キルン2階に位置する一般取扱所内の2号重油噴燃ポンプメカニカルシールが破損しC重油が漏えい、噴燃ポンプ室から配管を通じ1階に設置された油受けのドラム缶をオーバーフローし場内の側溝を通り油水分離槽を通過、油膜が海上へ流出した。 噴燃ポンプ室の上部にある重油サービスタンクレベルの減少量が228L、油受けドラム缶200L分を除くと28L。ポンプ室内・側溝・分離槽に残っていた油もあることから海上流出量はそれ以下。オイルフェンス内(約40㎡)の薄い油膜(厚さ0.25mm以下と推測)から0.01m ³ =10Lと推定。		
14 発 生 箇 所	24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他		
名 称： その他の機器等本体 番 号 (199)			
材 質： その他			
15 発 生 時			
運 転 状 況： 定常運転中 番 号 (1)			
作 業 状 況： 番 号 ()			
19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要			
20 危険物保安監督者			

原 因	主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分、監視不十分									
	発生原因の状況： 長期運転により平滑なシール表面の摩耗に伴い、シール（密閉）効果が減少し漏えいに至ったもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		点検していない/不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重油が場内側溝から海上へ流れ込み、常設の排水口オイルフェンス内(約40㎡)及びオイルフェンス外(約500㎡)に点々と拡散した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	3 人	自 衛	0 台	2 隻	0 機	23 人	物質の被害状況： 第4類第3石油類(非水溶性)重油228L流出（うち海上流出 推定10L）
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	1 台	0 隻	0 機	4 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	4 台	0 隻	0 機	12 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動						自衛防災・消防組織等 番号 (4、6、7、5) 常設オイルフェンス外に油膜が確認されたためオイルフェンス増設、吸着マットによる回収、中和剤散布				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日			年 月 日	定期・自主点検		令和2年 2月 27日	令和2年 3月 6日	
	改善命令等	年 月 日			年 月 日	気密試験等		年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日			年 月 日	保安検査		年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・無 内容： 法第10条第3項 製造所等における危険物の貯蔵・取扱いの基準違反		
35 今後の対策	漏えい防止措置、定期的なパトロールや点検等の頻度の見直し、従業員への安全教育の実施、法令の遵守									
36 所 見	当該事業所に対し、従業員への教育及び施設の維持管理、危険物の貯蔵・取扱い時の監視体制の強化を徹底するよう指導したが、今後、管内の他の事業所に対しても指導を行い、同種事故防止に努める必要がある。									

1 事故名	屋外タンクから供給を受ける一般取扱所において集中豪雨により付近の土砂が崩落、配管等を損壊し重油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 7日 5時 00分	推定・確定	4 発 見	7月 7日 6時 00分	
5 覚 知	7月 7日 12時 28分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 7日 15時 30分	
7 鎮火・処理完了	7月 7日 15時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (消防職員が豪雨災害による道路状況調査中に自己覚知)				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：無風状態 風速：0.2m/s 気温：23℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 卸売・小売業 その他の小売業 番 号 (6031) 燃料小売業 ガソリンスタンド		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分： ① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 5,000L 2.5倍	
13 機 器 等	温度圧力： 常温、常圧		設置の完成： 平成 元年 9月 7日 直近の完成： 平成 2年 3月 6日 倍数の合計： 2.5倍		
14 発 生 箇 所	名 称： ドラム充てん施設 番 号 (1403) 能 力： 第4類第3石油類 重油 5,000L		17 物 質 の 区 分		
15 発 生 時	名 称： 配管 (送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模： 詰め替え一般取扱所でギヤポンプ、流量計、送油配管、注油ノズルから構成される、敷地面積15㎡。		①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (200L)		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 ②. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 7月6日からの断続的な大雨のため、隣接している水田法面が崩落し土砂が当該一般取扱所の配管等を押し流し崩壊させたもの。併設している屋外タンク貯蔵所本体も一部損壊した。これにより、一般取扱所の配管破損部分から重油が流出し、国道を経由し1級河川へ流れ込んだもの。覚知は、消防吏員が災害道路調査に出動した際に発見。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

25	主 原 因 地震等災害	着火原因	番号 ()								
原 因	関 連 原 因										
	発生原因の状況： 7月6日からの断続的な大雨のため、隣接している水田法面が崩落し、大量の土砂が当該一般取扱所に流入した。これにより配管類が破損し重油が流出、国道の側溝を經由し、河川への流出。流出量は200Lと推定される。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層							
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害											
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	28 物的被害				
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： 災害に伴う土砂流入により一般取扱所への送油配管から注油ノズルまでの部分が破損及び湾曲し、その部分から重油が流出、施設に面した国道を雨水とともに道路や排水溝を約200m經由して一級河川へ流れ込んだ。				
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 一般取扱所の送油管等の損壊及び隣接の屋外タンク貯蔵所のタンク本体及び配管等				
第 三 者	0	0	0	0							
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	1台	0隻	0機	2人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第3石油類（非水溶性）重油約200L流出	
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	1台	0隻	0機	2人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 1万円未満、 1万円以上 (5 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (4) 事故内容を確認後、関係機関へ通報。関係機関により吸着マットの設置が行われた。						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点 当該施設関係者が事故覚知時に簡易的な流出防止措置を行ったが、当施設のみでなく水害により地区全体が被災していたため対応に追われ、消防機関への通報が遅延した。											
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日			
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日			
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日			
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：				
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日							
1. 文書 2. 口頭	1. 文書 2. 口頭										
35 今後の対策 今回、予測不能な豪雨災害ではあったが、災害時の対応について、事業所内で協議し、流出に対する応急措置、早急な関係機関への通報を確認した。また、可能な限り施設巡視を行うことも決定された。											
36 所 見 今回豪雨による災害となり、予測不可能な状況であったと思慮されるが、通報の遅れもあり、事故発生時の対応について事業所で再教育し、従業員に周知徹底するよう指導した。また、当施設は被災により廃止の意向があり、今後設置の場合は、土砂崩落や水没の可能性が無い場所とするよう指導する。											

1 事故名	一般取扱所で船からコークス炉ガス軽油を受け入れ中、受入れ配管の腐食によりエルボ部分から危険物流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 24日 17時 13分	推定・確定	4 発 見	8月 24日 17時 15分	
5 覚 知	8月 24日 17時 22分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 24日 17時 20分	
7 鎮火・処理完了	8月 24日 17時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 ③. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北西 風速：2.3m/s 気温：30.4℃ 湿度：69%				
10 発 生 事 業 所	種 別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 化学工業 有機化学工 番 号 (1731) 業製品製造業 石油化学系基礎 製品製造業 (一貫して生産さ れる誘導品を含む)		11 発 生 場 所	区 分：1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：① 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) コークス炉ガス軽油 3,000,000L 15,000倍 倍数の合計： 15,000倍 設置の完成：昭和44年 3月 14日 直近の完成：平成31年 3月 28日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：海上入出荷施設 番 号 (1401) 能 力：3,000KL/d			①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類 (非水溶性液体) 名称：コークス炉ガス軽油(10L)		
13 機 器 等 温 度 圧 力：36℃、0.3MPa			18 取扱者の概要		
名 称：配管(送油、注入管等) 番 号 (606) 規 模：200A配管	19 危険物保安 統括管理者 ①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
14 発 生 箇 所	名 称：管継手(ダクトを含む) 番 号 (201) 材 質：鋼鉄				
15 発 生 時	運 転 状 況：受入中 番 号 (9) 作 業 状 況： 番 号 ()				
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 第1海上出荷設備(一般取扱所)において、船からコークス炉ガス軽油(RCN)を受け入れ中、受け入れ配管のエルボ部よりコークス炉ガス軽油が霧状に漏れ出し、一部が海上に流出したものの					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (1、10) 無 装置の緊急停止、その他					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 配管のガス溜りとなる部分（腐食環境となる部分）で、摩耗的腐食による減肉が進行したことにより、配管から油が漏えいしたもの									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		デポジット腐食（堆積物下腐食、付着物下腐食）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： コークス炉ガス軽油が配管から露状に漏えいし、一部が海上に流出した。海上への流出量にあっては露状のものが微量流出したものであり、流出範囲にあっては敷地境界線から5m程度で収まっている。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 特になし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	11 台	0 隻	0 機	33 人	自 衛	1 台	0 隻	0 機	7 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類コークス炉ガス軽油10L程度流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	1 台	1 隻	0 機	8 人	
海上保安部	1 台	1 隻	0 機	2 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	5 台	0 隻	0 機	8 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 調査活動				自衛防災・消防組織等 番号 (6, 7) 吸着マットにより回収						
31 防災活動上の問題点										
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	令和元年9月30日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策	第1海上出荷設備（一般取扱所）から屋外タンク貯蔵所までの受入れ配管について、計画的に配管の取り換えを行う。									
36 所 見	類似施設においてもガス溜り及びスラッジが溜りやすい部分について、使用年数に応じて交換等の措置を講じること。									

1 事故名	一般取扱所のアスファルトプラントのポンプ設備付近の配管の腐食及び劣化により重油が漏えい				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 16日 7時 00分	推定・確定	4 発 見	7月 16日 7時 20分	
5 覚 知	7月 16日 8時 36分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 16日 11時 28分	
7 鎮火・処理完了	9月 2日 15時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北東 風速：0.4m/s 気温：20.6℃ 湿度：99.1%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1841) 造業 舗装材料製造業 舗装材 料製造業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： ① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 取扱所 施設別： 一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) 重油 8,944L 4.47倍 倍数の合計： 4.47倍 設置の完成： 平成 13年 2月 21日 直近の完成： 令和 2年 9月 2日	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： アスファルト製造装置 番 号 (2118)	13 機 器 等 温度圧力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
能 力： 1,110L/h	名 称： ポンプ 番 号 (501)		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
14 発 生 箇 所	規 模： 吐出量1,260L/h(60HZ)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧)		
名 称： フレキシブル管継手 (ダクトを含む) 番 号 (202)	15 発 生 時		(低温、常温 [0-40℃]、高温)		
材 質： 鋼鉄	運 転 状 況： 停止中 番 号 (5)		分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： 重油 (3L)		
15 発 生 時	作 業 状 況： その他 番 号 (99)		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 ③. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 一般取扱所であるアスファルトプラントのポンプ設備付近の配管の腐食及び劣化により重油が漏えいし、敷地内の側溝を伝って川へ流出したもの。流出した重油は、約2.6km下流の主流まで達している。始業前に漏えいを確認しており、作業は停止中であり、死傷者は発生していない。事故後、従業員により、漏えいした重油の回収を行い、拡散防止措置を実施。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他					

原	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： ポンプ設備付近の配管の腐食及び劣化により重油が漏えい。									
	主原因の詳細									
因	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の劣化（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の劣化）					
	関連原因の詳細									
	設備		監理・保守		点検・整備		確認不足			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 河川2.6km以上への流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： ポンプ設備配管、敷地内への漏えい		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 重油3L
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	3 台	0 隻	0 機	6 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99)						自衛防災・消防組織等 番号 (5)				
油の流出状況を確認										
31 防災活動上の問題点										
漏えい確認から、消防への通報まで約1時間かかっており、迅速な通報ではなかった。										
政 策 措 置	32 施設名	一般取扱所			33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年	月	日
	関係条項	拡散防止を行うとともに警察、消防への通報を指示。			34 当該施設に係る法令違反の有無			有・無		
その他	令和2年7月16日	年	月	日	1. 文書 ②. 口頭			内容：		
35 今後の対策		危険物施設の点検項目のチェックリストを作成し、チェックリストに基づいて定期的に点検を実施する。また、点検で異状を確認したら、すぐに対応を行う。								
36 所 見		設置者、使用者を中心に、チェックリスト等を活用して定期的に点検を実施することが必要だと考えます。本施設は定期点検が不要な対象物であり、当該漏えい箇所の確認不足が考えられます。定期点検不要施設にあってもしっかりと維持管理を行うよう、立入検査等の機会を通じて広報することも必要だと再確認しました。								

1 事故名	原液ポンプ場において、腐食等劣化の原因による原油の流出事故				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	11月 12日 15時 00分	推定・確定	4 発 見	11月 12日 15時 00分	
5 覚 知	11月 12日 15時 10分		6 鎮 圧 応急処置完了	11月 12日 19時 30分	
7 鎮火・処理完了	11月 12日 19時 30分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：東北東 風速：6.3m/s 気温：24.7℃ 湿度：				
10 発 生 事 業 所	種 別：①特別防災区域内 2特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：製造業 石油製品・石炭製品製 番 号 (1899) 造業 その他の石油製品・石炭 製品製造業 他に分類されない 石油製品・石炭製品製造業		11 発 生 場 所	区 分：①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：小那覇特別防災区域	
12 施 設 装 置	名 称：熱調調整装置 番 号 (3109) 能 力：		16 発生施設規制区分等	施設区分：① 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 4 その他 貯蔵・取扱・運搬の別：取扱所 施設別：一般取扱所 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(非水溶性液体) P-100 12,360,000L 61,800倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：20MPa 名 称：ポンプ 番 号 (501) 規 模：許可数量：12,360KL 倍数：61,800倍			倍数の合計： 61,800倍 設置の完成：昭和51年 6月 26日 直近の完成：昭和51年 6月 26日	
14 発 生 箇 所	名 称：ベント管、ブロー管、放出管 番 号 (303) 材 質：鋼鉄		17 物 質 の 区 分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類：第4類第1石油類(非水溶性液体) 名称：原油(3,000L)	
15 発 生 時	運 転 状 況：停止中 番 号 (5) 作 業 状 況： 番 号 ()		18 取扱者の概要		
19 危険物保安 統括管理者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	①. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	①. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 原油ポンプ場で作業中の社員が気体が噴出するような音を確認したため、場所を特定したところ、横行する配管の下部から原油がミスト状に噴出しているのを確認、至急ポンプを作動停止し、関連配管のバルブを閉鎖。付近の排水溝へ多量に流出しているため回収作業を実施し約4時間半後に回収終了。後日の報告によると流出量は約3KL。					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (1, 8) 無 装置の緊急停止、防油堤排水弁閉止、防油堤遮断装置作動等					

原因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： 当社からの報告において配管内のスラッジが堆積した箇所配管の腐食が進行し穿孔（直径約20mm）したとの事。流出は排水溝内に留まり、その他の施設、海洋への流出はなし。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	腐食		環境		工程の中で腐食環境の生成（塩素イオン、水素イオン、酸、硫化物等）					
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 施設の排水溝にのみ流出。隣接施設、海洋への流出なし。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 配管の取替え		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	2 台	0 隻	0 機	6 人	物質の被害状況： 第4類第一石油類原油 流出量3KL
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()					自衛防災・消防組織等 番号 (5)					
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策	当該配管は、長期にわたり不利用の配管であり、今後も使用する予定がないため、近く撤去の予定であった。今後の対策としては、 1. 当該配管（不要配管）は予定通り撤去する。 2. 長期不要配管の滞留部の内面腐食検査を行い、減肉箇所は補修又は取替えを実施する。									
36 所 見	不利用配管からの貫通・漏えい事故のため今後も使用予定のない施設に関しては事業所と協議しながら早急の廃止・撤去を推進し、使用配管については定期点検の徹底を指導する。									

10 無 許 可 施 設

1 事故名	屋外貯蔵タンク（無許可施設）に接続された給油ホース接手が経年劣化により離脱し、軽油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他（ ）				
3 発 生	8月 3日 16時 40分	推定・確定	4 発 見	8月 3日 16時 45分	
5 覚 知	8月 3日 16時 58分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 3日 19時 30分	
7 鎮火・処理完了	8月 4日 17時 00分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他（ ）				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：西北西 風速：1.8m/s 気温：32.1℃ 湿度：46.1%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 （レイアウト、第1種、第2種、その他） 業 態： 農業 農業 サービス業 番 号（131） （園芸サービス業を除く）穀 作サービス業		11 発 生 場 所	区 分： ①. 事業所内（製、貯、荷、用、事、他） 2. 事業所外（陸上、海上、その他） 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 無許可施設 施設別： 無許可施設 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 1,000L 1倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他のタンク 番 号（1299）	13 機 器 等 温 度 圧 力：		設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日		
能 力： 円筒縦置き型タンク 容量2,000L	名 称： 貯槽（タンク） 番 号（107）		18 取扱者の概要 経験年数10年		
規 模： 直径1,450mm、高さ1,220mm、容量2,000L	14 発 生 箇 所		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 （固相、液相、気相）（常圧、加圧） （低温、常温[0-40℃]、高温） 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(350L)		
15 発 生 時	名 称： 給油（注油）ホース 番 号（908）		21 危険物取扱者の の取扱・立会い		
材 質： 鋳鉄	19 危険物保安 統括管理者		1. 有 2. 無		
15 発 生 時	運 転 状 況： 荷積中 番 号（12）		1. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
作 業 状 況：	番 号（ ）		20 危険物 保安監督者		
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事 故 の 概 要： 屋外貯蔵タンク（無許可施設）に軽油を充填していたところ、給油ホースの接手金具が離脱し、敷地及び河川に軽油約350Lが流出した。なお、吸着マットを使用し、応急措置を実施した。					
24 緊急処置の状況 有 番号（ ） 無					

原 因	25 主 原 因 腐食疲労等劣化		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分、操作確認不十分									
	発生原因の状況： 給油ホースの接手金具が経年劣化により離脱したことによる流出事故であるが、充填前に元バルブの閉鎖及び給油ホースの確認をしていなかったことも要因である。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	疲労・劣化		素材等の劣化		長期使用による素材等の摩耗（腐食の発生や疲労環境下にはないが、長期間の使用による素材等の摩耗）					
	関連原因の詳細									
	人		本人の意識		違反（故意）		怠慢			
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害						28 物的被害				
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が事業所側溝から河川に流れ込み、5,800mに渡り拡散した。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 被害なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	4 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油350L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	2 台	0 隻	0 機	7 人	損害額 1万円未満、 <input type="text" value="1万円以上"/> (<input type="text" value="3"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (99) 消防職員による火災危険の有無、流出量及び流出範囲の調査を実施する。						自衛防災・消防組織等 番号 (3, 4) 関係者により、吸着マットを使用し応急措置を実施した。				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名	無許可施設			33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	改善命令等	令和 2 年	8 月	5 日	年	月	日	年 月 日		
	停止解除	年	月	日	年	月	日	年 月 日		
	関係条項	法第16条の6			34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容： 法第10条第1項 指定数量以上の危険物の無許可貯蔵・取扱い			
そ の 他	年	月	日	年	月	日				
35 今後の対策	屋外に設置している円筒縦置き型タンク（容量2,000L）の撤去									
36 所見	今回の事案は、流出事故から無許可貯蔵が発覚したものである。荷卸し事業所を含め、危険物取扱者に対して法令の遵守の徹底を図っていく必要がある。									

1 事故名		無許可貯蔵営農用屋外タンク (1,900L) から灯油約150Lの漏えい事故					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		月 日 時 分 推定・確定		4 発 見		12月 17日 8時 00分	
5 覚 知		12月 17日 10時 44分		6 鎮 圧 応急処置完了		12月 17日 12時 30分	
7 鎮火・処理完了		12月 24日 16時 45分					
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴		風向：北		風速：2.3m/s 気温：5.3℃ 湿度：49.1%	
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 農業 農業 耕種農業 米作農業 番 号 (111)				区 分： ①. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 無許可施設 施設別： 無許可施設 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 灯油 1,900L 1.9倍			
12 施 設 装 置							
名 称： 固定屋根式 (地上) タンク 番 号 (1201)							
能 力： 屋外タンク 1,900L							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称： 貯槽 (タンク) 番 号 (107)							
規 模： 屋外タンク 1,900L							
14 発 生 箇 所				設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日			
名 称： 開閉弁 番 号 (204)				17 物 質 の 区 分			
材 質： 鋼鉄				①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 灯油 (150L)			
15 発 生 時				18 取扱者の概要			
運 転 状 況： 貯蔵・保管中 番 号 (7)							
作 業 状 況： 番 号 ()							
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 3. 不要		20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
				21 危険物取扱者 の取扱・立会い		1. 有 2. 無	
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 無許可設置されていた営農用屋外貯蔵タンク (1,900L) のノズル開閉バルブが開いていたため、灯油約150Lが漏えいしたもの							
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他							

原因	25 主 原 因 不明		着火原因		番号 ()		
	関連原因						
	発生原因の状況： 何らかの原因により、屋外タンクに取り付けられたノズル開閉バルブが開いていたため漏えいしたもの。なお、現場は部外者が容易に侵入することが可能であることから、悪戯の可能性も考えられるが原因は不明である。さらに、当該施設は無許可で設置されており、防油堤等の技術基準を満たしていなかったため、被害が拡大したと考えられる。						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		
	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害				28 物的被害			
被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した油が土壌に浸み込み、道路側溝を通過して河川約100mにわたり流出したもの
区分							
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			
第 三 者	0	0	0	0			施設等の被害状況： 損害なし
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況						物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）灯油約150L流出	
消 防 機 関	3 台	0 隻	0 機	9 人	自 衛		0 台 0 隻 0 機 0 人
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同		0 台 0 隻 0 機 0 人
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援		0 台 0 隻 0 機 0 人
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (116 万円)
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (6) 河川にオイルフェンスを展開した。				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
行政措置	32 施設名	無許可貯蔵屋外タンク（灯油1,900L）			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	令和 2 年 12 月 24 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項	消防法第16条の6			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・無 内容： 無許可貯蔵	
その他	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策	令和2年12月24日16時45分に危険物が除去されたことを確認した。						
36 所 見	関係法令を遵守するよう指導した。						

11 危 險 物 運 搬 中

1 事故名	ドラム缶に収納した軽油を運搬中、道路上にドラム缶が落下、当該ドラム缶に対向車が衝突し蓋が緩み灯油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 8日 7時 30分	推定・ 確定	4 発 見	7月 8日 7時 30分	
5 覚 知	7月 8日 8時 20分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 8日 9時 10分	
7 鎮火・処理完了	7月 8日 9時 10分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：南南東 風速：3m/s 気温：18℃ 湿度：91%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 農業 農業 耕種農業 野菜作農 番 号 (113) 業 (きのこ類の栽培を含む)		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 600L 0.6倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【有機化学工業】 番 号 (5999)	能 力： 容量200L		設置の完成： 年 月 日	倍数の合計： 0.6倍	
13 機 器 等	温 度 圧 力：		直近の完成： 年 月 日		
名 称： ドラム等容器 番 号 (201)	規 模： 容量200L		17 物質の区分		
14 発 生 箇 所	名 称： その他 番 号 (999)		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス		
材 質： 鋼鉄	15 発 生 時		5. 毒物 6. 劇物 7. その他		
運 転 状 況： 運搬中 番 号 (11)	作 業 状 況： その他 番 号 (99)		(固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (100L)		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： トラックで軽油入りドラム缶200L3本を運搬中、1本を道路上に落下させ、対向車線を走行していたダンプカーが衝突したものの。衝突により道路上及び排水口に軽油100Lが流出。排水口が目詰まりしていたため、河川等へは流出せず、吸着マット等を使用し、応急措置を実施した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無					

25 主 原 因 維持管理不十分		着火原因		番号 ()			
原 因	関 連 原 因						
	発生原因の状況： 積載した運搬容器の不適切な固定、注入口の蓋の閉めが緩かったため						
	主原因の詳細						
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層			
	人	本人の意識	思慮	配慮不足			
因	関連原因の詳細						
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から							
27 人的被害				28 物的被害			
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ドラム缶が落下し、道路上及び落下地点から約50m北側にある排水口へ軽油が約100L流出したもの
当 事 者	0	0	0	0			
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： なし
第 三 者	0	0	0	0			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況							
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類 第2石油類（非水溶性）軽油 100L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (1 万円)
30 実施した防災活動の状況							
公設消防機関：番号 (5) 道路上へ油吸着剤を散布、排水口へ油吸着マットを設置したもの				自衛防災・消防組織等 番号 ()			
31 防災活動上の問題点							
32 行政措置	施設名				33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日		年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日		年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日		年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <u>無</u> 内容：	
その他	運搬に際しての説明 令和2年7月13日 1. 文書 ②. 口頭		年 月 日				
35 今後の対策	積載した運搬容器が転倒・落下しないよう確実に固定するとともに、危険物を積載しているという自覚をもって安全運転に努める。						
36 所 見	積載及び運搬方法の技術上の基準の遵守徹底はもとより道路交通法等を遵守し、交通事故等を起こさないという心構えが必要。						

1 事故名	2tトラックの荷台に積載されていたドラム缶が破損したことによる軽油の流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	8月 26日 9時 03分	<input type="checkbox"/> 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	8月 26日 9時 03分	
5 覚 知	8月 26日 9時 07分		6 鎮 圧 応急処置完了	8月 26日 11時 00分	
7 鎮火・処理完了	8月 26日 11時 35分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：東 風速：1m/s 気温：28.2℃ 湿度：73%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 建設業 総合工事業 一般土木 番 号 (611) 建築工事業 一般土木建築工事業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他)	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬	
名 称： 番 号 ()			類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 200L 0.2倍		
能 力：			倍数の合計： 0.2倍		
13 機 器 等			温度圧力：	設置の完成： 年 月 日	直近の完成： 年 月 日
名 称：ドラム等容器 番 号 (201)	規 模：200L	17 物 質 の 区 分			
14 発 生 箇 所	名 称：その他 番 号 (999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス			
材 質：鋼鉄		5. 毒物 6. 劇物 7. その他			
15 発 生 時	運 転 状 況：運搬中 番 号 (11)	(固相、液相、気相) (常圧、加圧)			
作 業 状 況：運転操作中 番 号 (1)		(低温、常温 [0-40℃]、高温)			
		分 類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称：軽油 (200L)			
		18 取扱者の概要	経験年数15年		
19 危険物保安統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者の取扱・立会い	1. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 2tトラックが荷台上にドラム缶1本及び重機のバケットを積載し走行していたところ、走行中の振動により積載されたバケットがドラム缶と接触、ドラム缶に約10cm四方の開口部が生じ、ドラム缶内の軽油約200Lが道路上に漏えいしたものである。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input type="checkbox"/> 無					

原 因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関 連 原 因 維持管理不十分									
	発生原因の状況： 荷台上のドラム缶及び重機のバケットをしっかりと荷台に固定していなかったため、走行中の振動により接触し、ドラム缶に開口部が生じ漏えいした。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		思い込み			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 破損したドラム缶から軽油が長さ500m漏えいした。		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防 災 活 動 従 事 者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 積載されたドラム缶1缶		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	7 台	0 隻	0 機	27 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油200L漏えい
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海 上 保 安 部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 (5) 危険物処理剤を用いて危険物の除去を行った。						自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点										
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他	
	使用停止	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検			年 月 日	年 月 日	
	改善命令等	年 月 日	年 月 日		気密試験等			年 月 日	年 月 日	
	停止解除	年 月 日	年 月 日		保安検査			年 月 日	年 月 日	
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/> 内容：		
そ の 他	年 月 日	年 月 日								
35 今後の対策 運搬する際には、しっかりと容器及び資機材を固定すること。										
36 所 見 危険物を運搬する際には、危険物の容器及びその周囲にある資機材の固定状況をしっかりと確認する必要がある。										

1 事故名	走行中の運搬車両に積載していた運搬容器が転落し、道路上に漏えいしたもの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	5月 26日 10時 34分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	5月 26日 10時 34分
5 覚 知	5月 26日 10時 34分	6 鎮 圧 応急処置完了	5月 26日 12時 00分
7 鎮火・処理完了	5月 26日 13時 33分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：2.3m/s 気温：22℃ 湿度：74%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 業 態：	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他) 特別防災地区名：		
1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 運輸業 道路貨物運送業 一般 番号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業 (特別積合せ貨物運送業を除く)	16 発生施設規制区分等 施設区分： 1 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第4石油類 潤滑油 1,416L 0.24倍		
12 施 設 装 置	設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日		
名 称： 能 力：	番号 ()		
13 機 器 等	温度圧力： 常温、常圧		
名 称： その他 規 模： 直径270mm 高さ360mm 容量20L	番号 (999) 倍数の合計： 0.24倍		
14 発 生 箇 所	17 物 質 の 区 分		
名 称： 容器本体 材 質： その他	番号 (108) ①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第4石油類 名称： 潤滑油(100L)		
15 発 生 時	18 取扱者の概要 経験年数3年		
運 転 状 況： 運搬中 作 業 状 況： その他	番号 (11) 番号 (99)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要
21 危険物取扱者 の取扱・立会い	2. 有 3. 無		1. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
23 事 故 の 概 要： 潤滑油及びグリスを運搬していた運搬車両(4tトラック)が右折した際、荷台のあおりが下がっていたため、当該部分から荷台に積載していた金属製20Lペール缶5缶及び4L金属缶17缶が転落。 転落した衝撃により20Lペール缶5缶が破損し、潤滑油(第4類第4石油類)約100Lが道路上に流出したものである。 なお、4L金属缶17缶については、変形はあったものの、潤滑油の流出はなし。 別の運搬車両(4tトラック)に、転落していない運搬容器を載せ替え、固定を施したため、違反内容については即時是正された。			
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号 (10) 無 その他			

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 市内の配送先へ潤滑油等を配送した際、運搬車両荷台のあおりを上げることを忘れたまま次の配送場所に向かって走行していた。防振ゴムの上に容器を積載していたが、荷台での固定が不十分であったため、交差点を右折した際の慣性力により、積載していた運搬容器があおりが下がっている部分から道路上に転落し破損、道路上に潤滑油が流出したものである。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の意識		思慮		不注意				
	人		本人の意識		思慮		過信				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 道路上に流出した後に後続車両が通過したことにより、幅約5m、長さ約70mの路面に拡散した。			
区分											
当 事 者		0	0	0	0						
防災活動従事者		0	0	0	0						
第 三 者		0	0	0	0			施設等の被害状況： 施設等への被害はなし。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	6 台	0 隻	0 機	14 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第4石油類 潤滑油 100L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 1万円未満、 <u>1万円以上</u> (20 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5, 99)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
油吸着材により流出した潤滑油の回収作業及び関係者への状況聴取を実施。											
31 防災活動上の問題点											
行政措置	32 施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他			
	使用停止	年 月 日				定期・自主点検	年 月 日		年 月 日		
	改善命令等	年 月 日				気密試験等	年 月 日		年 月 日		
	停止解除	年 月 日				保安検査	年 月 日		年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・無				
その他	年 月 日				内容： 法第16条 危険物の運搬基準違反 危険物を収納した運搬容器が落下して破損したことから、危険物の規制に関する政令第29条第3号に違反したものの						
35 今後の対策		積載する容器の前後にラッシングベルトを用いて固定を実施する。 トラック荷台のあおりを閉めた目印ロープにより積載する容器の固定を実施して、転落防止措置を講じる。									
36 所 見		運搬車両荷台のあおりを上げたと思い込んでいたことが原因であるため、走行前に再度確認をすることが重要であると考える。 また、仮にあおりが下がっていたとしても、積載されている運搬容器の固定が十分にできていれば、本事故を防ぐことができた可能性もあるため、二重の安全対策を講じていくことも必要であると感じた。									

1 事故名	トラック荷台に積載していたポリ容器が固定不十分により転倒し、軽油が流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	6月 26日 16時 42分	推定・ <u>確定</u>	4 発 見	6月 26日 16時 42分	
5 覚 知	6月 26日 16時 45分		6 鎮 圧 応急処置完了	6月 26日 17時 10分	
7 鎮火・処理完了	6月 26日 17時 10分				
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：北北東 風速：1.4m/s 気温：30.7℃ 湿度：60%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態：電気・ガス・熱供給・水道業 水 番 号 (3611) 道業 上水道業 上水道業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他)	
12 施 設 装 置			16 発生施設規制区分等	施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 10L 0.01倍	
名 称： 番 号 ()			17 物質の区分	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 名称： 軽油(10L)	
能 力：			18 取扱者の概要	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	
13 機 器 等	温度圧力：	20 危険物 保安監督者	21 危険物取扱者 の取扱・立会い		
名 称：ドラム等容器 番 号 (201)	規模：20L	1. 有 2. 無			
14 発 生 箇 所	名 称：容器本体 番 号 (108)	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無			
材 質：合成樹脂	15 発 生 時	23 事 故 の 概 要： 作業現場から自社にトラックで帰る途中に、荷台に積載していた軽油入りポリ容器(灯油用)が転倒し、道路上に軽油が10L流出した もの			
運 転 状 況：運搬中 番 号 (11)	作 業 状 況：その他 番 号 (99)	24 緊急処置の状況 有 番号 () <u>無</u>			

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： トラック荷台にポリ容器を積載する際、固定をしていなかったこと及びポリ容器のキャップをせずエレファントノズルをつけたまま走行したことから、走行の振動により転倒し、道路上に軽油が流出したものである。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	設備		監視・保守		点検・整備		確認不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害						28 物的被害					
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 道路上に幅3m、長さ30mにわたり軽油が付着。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： なし			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	3台	0隻	0機	13人	自 衛	0台	0隻	0機	0人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油10L流出	
消 防 団	0台	0隻	0機	0人	共 同	0台	0隻	0機	0人		
海上保安部	0台	0隻	0機	0人	応 援	0台	0隻	0機	0人		
その他の機関	0台	0隻	0機	0人	その他	0台	0隻	0機	0人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5)						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
・警戒筒先配備 ・ガス検知活動 ・情報収集											
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			有・ <input type="text" value="無"/> 内容：			
そ の 他	年	月	日	年	月	日	1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策 車両に軽油を積載する際、容器に蓋をし、固定を徹底することを社員に教育させる。											
36 所 見 積載方法等を事業所内で教育し、再発防止の徹底を図るよう指導する。											

1 事故名	危険物運搬車両に積載していた容器が急停車により破損し、エンジンオイル約30Lが流出したものの		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	11月 16日 18時 33分 推定・ 確定	4 発 見	11月 16日 18時 33分
5 覚 知	11月 16日 18時 53分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 16日 19時 16分
7 鎮火・処理完了	11月 16日 19時 16分		
8 覚 知 別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()		
9 気 象 状 況	天気：晴 風向：北 風速：2.1m/s 気温：17℃ 湿度：81%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 運輸業 道路貨物運送業 一般 番号 (4411) 貨物自動車運送業 一般貨物自動車運送業 (特別積合せ貨物運送業を除く)	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：		
	16 発生施設規制区分等 施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第3石油類(非水溶性液体) エンジンオイル 500L 0.25倍 第4類第4石油類 エンジンオイル 2,820L 0.47倍		
12 施 設 装 置	17 物 質 の 区 分		
名 称： その他【分類なし】 番 号 (9999)	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分 類： 第4類第3石油類 (非水溶性液体) 名称： エンジンオイル(15L) 第4類第4石油類 エンジンオイル(15L)		
能 力： 最大積載量3,650kg、全長7,930mm	設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日 倍数の合計： 0.72倍		
13 機 器 等 温度圧力：	18 取扱者の概要		
名 称： ドラム等容器 番 号 (201)	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
規 模： 容量20L	20 危険物 保安監督者		
14 発 生 箇 所	21 危険物取扱者 の取扱・立会い		
名 称： 容器本体 番 号 (108)	1. 有 2. 無		
材 質： 鋼鉄			
15 発 生 時	22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無		
運 転 状 況： 運搬中 番 号 (11)	23 事 故 の 概 要： トラックで運搬走行中に自転車が飛び出したため、急ブレーキをかけたところ、荷台に積載していた危険物(第4類第3、4石油類)を収納していたドラム缶が動揺し(バンドで固定していた)、ドラム缶によりペール缶が潰され破損し、危険物が荷台から道路上に約20m、約30L流出したものである。		
作 業 状 況： 番 号 ()			
19 危険物保安 統括管理者	24 緊急処置の状況 有 番号 () 無		

原 因	25 主 原 因 破 損		着火原因				番号 ()	
	関 連 原 因							
	発生原因の状況： 急停車により運搬車両の荷台に積載していたドラム缶が動揺し、ペール缶が破損し流出したもの							
	主原因の詳細							
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層	
	破損		定常運転時		物質の落下・ぶつかりによる破損			
	関連原因の詳細							
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27 人的被害						28 物的被害		
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 道路上に約20mにわたり流出
区分								
当 事 者	0	0	0	0				
防災活動従事者	0	0	0	0				
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： トラックの荷台のあおり部分破損（若干のへこみ及び変形）
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況								
消 防 機 関	4 台 0 隻 0 機 20 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況：				
消 防 団	0 台 0 隻 0 機 0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人	第4類第3石油類（非水溶性）エンジンオイル、第4類第4石油類エンジンオイル合計約30L流出				
海上保安部	0 台 0 隻 0 機 0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人					
その他の機関	0 台 0 隻 0 機 0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円				
30 実施した防災活動の状況								
公設消防機関：番号 (5) 油吸着材による危険物の回収及び2次災害防止活動				自衛防災・消防組織等 番号 ()				
31 防災活動上の問題点								
政 策 措 置	32 施設名			33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項			34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/> 内容：			
その他	年 月 日	年 月 日						
35	従業員に対する安全運転教育の実施							
36	本件については、法令等の違反はないが、運搬の基準（積載方法・運搬方法）について指導し、注意喚起した。							

1 事故名	軽トラックの荷台で軽油をエレファントノズルを取り付けたポリ容器で運搬中、ポリ容器が転倒して軽油流出		
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()		
3 発 生	11月 9日 8時 00分 推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	11月 9日 8時 20分
5 覚 知	11月 9日 14時 56分	6 鎮 圧 応急処置完了	11月 9日 10時 00分
7 鎮火・処理完了	11月 11日 14時 30分		
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 ⑧. その他 (異常水質事案連絡表メール着信時)		
9 気 象 状 況	天気：雨 風向：北西 風速：7.5m/s 気温：10℃ 湿度：64%		
10 発 生 事 業 所	11 発 生 場 所		
種 別： 業 態：	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<u>陸上</u> 、海上、その他)		
	特別防災地区名：		
種 別： 業 態：	16 発生施設規制区分等		
	施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高危混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 36L 0.04倍		
12 施 設 装 置	倍数の合計： 0.04倍		
名 称：	番 号 ()		
能 力：			
13 機 器 等	温度圧力：		
名 称：	番号 (201)		
規 模：	容量18L		
14 発 生 箇 所	設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日		
名 称：	給油 (注油) ノズル 番号 (909)		
材 質：	合成樹脂		
15 発 生 時	17 物 質 の 区 分		
運 転 状 況：	①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <u>液相</u> 、気相) (<u>常圧</u> 、加圧) (低温、 <u>常温</u> [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (6L)		
作 業 状 況：	番号 (11) 番号 (1)		
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	18 取扱者の概要 経験年数10年 1. 選任有 2. 選任無 3. 不要
21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 2. 無		
22 設備・機器等の概要：	オンラインファイル無		
23 事故の概要：	軽油を入れたポリ容器 (18L) 2個を軽トラックの荷台に固定して現場に向かった。運搬中、交差点を左折した際にポリ容器1個が転倒した。ポリ容器の片口が閉止弁の無い給油ノズル (エレファントノズル) だったため軽油が流出し、運転手は気付かないまま約4.3km走行した。後発した同事業所の車両の運転手が道路上の油分に気付き、危険物を運搬中の運転手に知らせ、車両を停車させて荷台を確認すると、ポリ容器1個が転倒していたため、直ちにポリ容器を起こして流出を止めた。流出量は約6Lで、軽油が流出した県道を走行した住民から関係機関に通報があり、職員が現場に向かい事情聴取及び周辺の被害状況を確認した。当日、雨天のため道路上に流出した軽油が付近の用水路にも流出していた。発生事業所職員が道路及び用水路に中和剤を散布、用水路にオイルフェンスを設置し被害拡大防止措置を実施した。消防は、河川管理者からの異常水質事案連絡票メール受信時に覚知した。		
24 緊急処置の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 番号 (10) 無 その他		

原因	25 主 原 因 操作確認不十分		着火原因		番号 ()					
	関連原因									
	発生原因の状況： キャップの一つにエレファントノズルを取り付けたポリ容器に軽油を入れ、軽トラックの荷台にロープフック1か所にロープで同容器を結着し、運搬していたが、その結着が緩く、車両が左折した際にポリ容器が転倒し、開放状態のエレファントノズルから軽油が流出した。									
	主原因の詳細									
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層			
	人		本人の意識		思慮		過信			
	関連原因の詳細									
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から										
27 人的被害				28 物的被害						
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： ・事故発生場所から走行した道路上約4.3kmにわたり軽油の流出 ・事故発生場所付近から下流の用水路約300mにわたり軽油の流出		
区分										
当 事 者	0	0	0	0						
防災活動従事者	0	0	0	0						
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 被害なし		
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況										
消 防 機 関	1 台	0 隻	0 機	2 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油 6L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	2 台	0 隻	0 機	4 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)
30 実施した防災活動の状況										
公設消防機関：番号 ()				自衛防災・消防組織等 番号 (6)						
31 防災活動上の問題点										
32 行政措置	施設名					33 定期点検等	消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項					34 当該施設に係る法令違反の有無	有・ <input type="text" value="無"/>			
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	内容：					
35 今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> ・危険物が漏れないよう運搬容器は密封させる。 ・運搬容器が転倒しないよう確実に固定する。 									
36 所 見	全従業員に対し、危険物の積載方法について、教育を徹底するよう指導。									

1 事故名	2tトラックで軽油を運搬中に容器が荷台上で倒れて道路及び側溝に流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発 生	7月 9日 13時 00分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発 見	7月 9日 13時 10分	
5 覚 知	7月 9日 13時 15分		6 鎮 圧 応急処置完了	7月 9日 13時 45分	
7 鎮火・処理完了	7月 9日 13時 45分				
8 覚 知 別	1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()				
9 気 象 状 況	天気：曇 風向：西 風速：2m/s 気温：27℃ 湿度：62%				
10 発 生 事 業 所	種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 農業 農業 耕種農業 その他の番号 (119) 耕種農業		11 発 生 場 所	区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (<input checked="" type="checkbox"/> 陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分： 1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 18L 0.02倍	
12 施 設 装 置			17 物 質 の 区 分		
名 称：	番 号 ()	能 力：	設置の完成： 年 月 日	直近の完成： 年 月 日	倍数の合計： 0.02倍
13 機 器 等	温 度 圧 力：		①. 危険物 2. 高圧ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、 <input checked="" type="checkbox"/> 液相、気相) (<input checked="" type="checkbox"/> 常圧、加圧) (低温、 <input checked="" type="checkbox"/> 常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (10L)		
名 称： ドラム等容器	番 号 (201)	規 模： 18L			
14 発 生 箇 所	名 称： 容器本体 番 号 (108)		18 取扱者の概要		
	材 質： 合成樹脂				
15 発 生 時	運 転 状 況： 運搬中 番 号 (11)		1. 選任有 2. 選任無 3. 不要		
	作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)				
19 危険物保安 統括管理者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者	1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 軽油18Lを詰め替えた灯油用の運搬容器を、2tトラックの荷台で運搬中に容器が倒れたことにより、エレファントノズルから軽油約10Lが荷台上に漏れ、荷台から道路及び側溝に流出したもので、道路上の漏油を油吸着剤、側溝は吸着マットで応急処置を実施した。					
24 緊急処置の状況 有 番号 () <input checked="" type="checkbox"/> 無					

原 因	25 主 原 因 操作未実施		着火原因		番号 ()						
	関連原因										
	発生原因の状況： 軽油の運搬容器として不適切な運搬容器を、転倒防止未措置及び容器密閉未措置の状態ですらトラックの荷台上で運搬したことにより、運搬中に容器が倒れて容器内の灯油が流出したものである。										
	主原因の詳細										
	第Ⅰ層		第Ⅱ層		第Ⅲ層		第Ⅳ層				
	人		本人の知識・能力		知識		知識不足				
	関連原因の詳細										
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から											
27 人的被害				28 物的被害							
被害内容等		死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した重油約10Lが道路及び側溝上に流出した。流出範囲は100m以内に収まっている。			
区分											
当 事 者	0	0	0	0							
防災活動従事者	0	0	0	0							
第 三 者	0	0	0	0				施設等の被害状況： 流出した重油約10Lが道路及び側溝上に流出したのみで他被害なし。			
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況											
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油10L流出	
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人		
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人		
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 (<input type="text"/> 万円)	
30 実施した防災活動の状況											
公設消防機関：番号 (5) 油吸着材及び油吸着マットによる処置						自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点											
政 策 措 置	32 施設名				33 定期点検等			消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年	月	日	年	月	日	定期・自主点検	年	月	日
	改善命令等	年	月	日	年	月	日	気密試験等	年	月	日
	停止解除	年	月	日	年	月	日	保安検査	年	月	日
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無			<input type="checkbox"/> 有・無 内容： 法第16条 危険物の運搬基準違反			
その他	年	月	日	年	月	日	1. 文書 2. 口頭 1. 文書 2. 口頭				
35 今後の対策 危険物を運搬する場合の適正な容器及び運搬方法を徹底し、販売業者は適正な運搬容器への詰め替えを行う。											
36 所 見 給油取扱所に対しても小分け販売する場合の注意点を指導し、同種事故防止に努める必要がある。											

1 事故名		軽トラックで軽油を運搬中に容器が荷台上で倒れて道路に流出					
2 事故種別		1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()					
3 発 生		12月 1日 8時 40分	推定・確定	4 発 見		12月 1日 8時 50分	
5 覚 知		12月 1日 9時 25分		6 鎮 圧		12月 1日 10時 00分	
7 鎮火・処理完了		12月 1日 10時 00分		6 応急処置完了			
8 覚 知 別		1. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 ⑦. 一般加入 8. その他 ()					
9 気 象 状 況		天気：晴 風向：南南東 風速：0.3m/s 気温：-3℃ 湿度：75%					
10 発 生 事 業 所				11 発 生 場 所			
種 別： 1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業 態： 分類不能の産業 分類不能の産 番 号 (9999) 業 分類不能の産業 分類不能 の産業				区 分： 1. 事業所内 (製、貯、荷、用、事、他) ②. 事業所外 (陸上、海上、その他) 特別防災地区名：			
				16 発生施設規制区分等			
				施設区分： 1 危険物 2 高压ガス 3 高危混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別： 運搬 施設別： 運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第2石油類(非水溶性液体) 軽油 15L 0.02倍			
12 施 設 装 置							
名 称： 番 号 ()							
能 力：							
13 機 器 等				温度圧力：			
名 称： ドラム等容器 番 号 (201)							
規 模： 18L							
14 発 生 箇 所				設置の完成： 年 月 日 直近の完成： 年 月 日			
名 称： 容器本体 番 号 (108)				17 物 質 の 区 分			
材 質： 合成樹脂				①. 危険物 2. 高压ガス 3. 指定可燃物 4. 可燃性ガス 5. 毒物 6. 劇物 7. その他 (固相、液相、気相) (常圧、加圧) (低温、常温 [0-40℃]、高温) 分類： 第4類第2石油類 (非水溶性液体) 名称： 軽油 (15L)			
15 発 生 時							
運 転 状 況： 運搬中 番 号 (11)							
作 業 状 況： 運転操作中 番 号 (1)							
				18 取扱者の概要			
19 危険物保安 統括管理者		1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	20 危険物 保安監督者		1. 選任有 2. 選任無 3. 不要	21 危険物取扱者 の取扱・立会い	1. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無							
23 事 故 の 概 要： 灯油用ポリエチレン容器に軽油を密閉をせずに収納し、また容器を固定しないまま軽トラックの荷台に積載したため、走行中に容器が荷台上で倒れ、荷台から道路上に約300mの範囲で軽油約15Lが流出したものである。							
24 緊急処置の状況 有 番号 () 無							

25	主 原 因	操作未実施				着火原因	番号 ()			
原 因	関 連 原 因									
	発生原因の状況： 軽油の運搬容器として不適切な容器を、転倒防止未措置及び容器密閉未措置の状態で軽トラックの荷台上で運搬したことにより、運搬中に容器が倒れて軽油が流出したものである。									
	主原因の詳細									
		第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層					
	人		本人の知識・能力	知識	知識不足					
	関連原因の詳細									
26	被害の状況	1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 3. 隣接施設へ拡大 ④. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から								
27	人的被害						28 物的被害			
	被害内容等	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は職名	被災影響範囲及び拡大の状況： 流出した軽油約15Lが道路上に流出した。約300mの道路上に薄く漏油跡、河川への軽油の流出は認められなかった。		
当 事 者		0	0	0	0					
防災活動従事者		0	0	0	0					
第 三 者		0	0	0	0					
29	関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	2 台	0 隻	0 機	6 人	自 衛	0 台	0 隻	0 機	0 人	物質の被害状況： 第4類第2石油類（非水溶性）軽油15L流出
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台	0 隻	0 機	0 人	
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台	0 隻	0 機	0 人	
その他の機関	1 台	0 隻	0 機	2 人	その他	0 台	0 隻	0 機	0 人	損害額 <input type="text" value="1万円未満"/> 、1万円以上 () 万円)
30	実施した防災活動の状況									
公設消防機関：番号 (99) 道路上に薄く漏油跡があるが、ほぼ乾燥した状態で臭気、河川等への流入危険もなく処置不要とした。					自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31	防災活動上の問題点									
32	施設名				33 定期点検等		消 防 法	そ の 他		
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	定期・自主点検	年 月 日	年 月 日		
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	気密試験等	年 月 日	年 月 日		
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	保安検査	年 月 日	年 月 日		
	関係条項				34 当該施設に係る 法令違反の有無		有・無 内容： 法第16条 危険物の運搬基準違反			
33	その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日					
35	今後の対策									
36	所 見	・行為者に危険物を運搬する場合の適正な容器及び運搬方法について指導し、販売業者に対しても適正な運搬容器への詰め替えを指導した。 ・給油取扱所に対しても小分け販売する場合の注意点を指導し、同種事故防止に努める必要がある。								

1 事故名	ドラム缶積み替え運搬中、ドラム缶がトラック荷台突起物と接触し、破損したことによるピリジンの流出				
2 事故種別	1. 爆発 2. 火災 ③. 流出 4. 破損 5. その他 ()				
3 発生	5月 22日 18時 30分	推定・ <input checked="" type="checkbox"/> 確定	4 発生見	5月 22日 18時 30分	
5 覚知	5月 22日 20時 10分		6 鎮圧 応急処置完了	5月 22日 20時 50分	
7 鎮火・処理完了	5月 22日 20時 50分				
8 覚知別	①. 119 2. 無線 3. ホットライン 4. 警察電話 5. 駆付 6. 事後聞知 7. 一般加入 8. その他 ()				
9 気象状況	天気：曇 風向：南西 風速：1.2m/s 気温：21℃ 湿度：68%				
10 発生事業所	種別：1 特別防災区域内 ②特別防災区域外 (レイアウト、第1種、第2種、その他) 業態：運輸業 倉庫業 倉庫業(冷蔵 番号(4711) 倉庫業を除く) 倉庫業(冷蔵 倉庫業を除く)		11 発生場所	区分：①. 事業所内(製、貯、荷、用、事、他) 2. 事業所外(陸上、海上、その他) 特別防災地区名： 16 発生施設規制区分等 施設区分：1 危険物 2 高圧ガス 3 高圧混在 ④ その他 貯蔵・取扱・運搬の別：運搬 施設別：運搬 類・品名・名称・数量・倍数： 第4類第1石油類(水溶性液体) ピリジン 200L 0.5倍	
12 施設装置			17 物質の区分		
名称：その他【分類なし】	番号(9999)	能力：	設置の完成： 年 月 日	直近の完成： 年 月 日	倍数の合計： 0.5倍
13 機器等	温度圧力：	名称：運搬車	番号(602)	18 取扱者の概要 経験年数20年	
規模：高さ3m、幅2.4m、長さ9m		14 発生箇所	名称：容器本体	番号(108)	材質：鋼鉄
15 発生時	運転状況：運搬中	番号(11)	作業状況：運転操作中	番号(1)	19 危険物保安統括管理者 1. 選任有 2. 選任無 3. 不要
					20 危険物保安監督者 1. 選任有 2. 選任無 3. 不要
					21 危険物取扱者の取扱・立会い 1. 有 2. 無
22 設備・機器等の概要： オンラインファイル無					
23 事故の概要： 従業員によりトラック間のドラム缶積み替え運搬中に、ドラム缶がトラック荷台突起物と接触し、破損したことによるピリジン1Lの流出					
24 緊急処置の状況 <input checked="" type="checkbox"/> 有 番号(10) 無 その他					

25	主 原 因 操作確認不十分	着火原因	番号 ()						
原 因	関 連 原 因 誤操作								
	発生原因の状況： ドラム缶の積み替え運搬中に、トラック荷台の突起物にドラム缶を接触させてしまいドラム缶を破損させたもの								
	主原因の詳細								
	第Ⅰ層	第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅳ層					
	人	本人の意識	思慮	不注意					
	関連原因の詳細								
	人	本人の知識・能力	技能・技術力	経験不足/習熟不足					
26 被害の状況 1. 設備機器内 2. 施設装置建屋内 ③. 隣接施設へ拡大 4. 事業所外へ 5. 他の施設から 6. 流出に起因、施設外から									
27 人的被害									
被害内容等 区分	死亡	重症	中等症	軽症	死傷原因	職業又は 職名	28 物的被害		
当 事 者	0	0	0	0			被災影響範囲及び拡大の状況： ドラム缶の積み替え運搬中、トラック荷台の突起物にドラム缶底部を接触させ破損。 敷地内地面にピリジンが1L程度漏えいしたものである。		
防災活動従事者	0	0	0	0			施設等の被害状況： ドラム缶破損		
第 三 者	0	0	0	0					
29 関係機関、自衛防災、消防組織等の出動状況									
消 防 機 関	5 台	0 隻	0 機	17 人	自 衛	0 台 0 隻 0 機 0 人	物質の被害状況： 第4類第1石油類（水溶性）ピリジン1L流出		
消 防 団	0 台	0 隻	0 機	0 人	共 同	0 台 0 隻 0 機 0 人			
海上保安部	0 台	0 隻	0 機	0 人	応 援	0 台 0 隻 0 機 0 人			
その他の機関	0 台	0 隻	0 機	0 人	その他	0 台 0 隻 0 機 0 人			
30 実施した防災活動の状況							損害額 1万円未満、 1万円以上 (10 万円)		
公設消防機関：番号 (5、8) パーライトにて吸着作業実施				自衛防災・消防組織等 番号 ()					
31 防災活動上の問題点									
32 政 措 置	施 設 名						33 定期点検等	消 防 法	そ の 他
	使用停止	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日		定期・自主点検	年 月 日	年 月 日
	改善命令等	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日		気密試験等	年 月 日	年 月 日
	停止解除	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日		保安検査	年 月 日	年 月 日
	関係条項						34 当該施設に係る 法令違反の有無	有・ 無 内容：	
その他	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日					
35 今後の対策	従業員への教育を定期的に行う等のソフト面の強化が必要。								
36 所 見	ヒューマンエラーによる事故のため、立入検査時等の機会を捉え、ソフト面に関する指導を継続的に実施する必要がある。								